桂川の野鳥 1997–2014

日本野鳥の会京都支部・桂川調査グループ

2016 年 9 月 1 日 発行

本書は京都の西を流れる桂川の野鳥を、1997 年から 2014 年までにセンサス調査したデータをまとめたものです。素朴な調査ではありますが、20 年近くにわたって継続して取得したデータからは、様々な変化が読みとれます。このデータを公開することによって、桂川、鳥類、そして地球環境について関心を持たれる皆様の活動に資することができれば幸いです。なお本書の出版は、(公財) 京都地域創造基金「母なる川・保津川基金」から、2015 年度実施事業の一つとして助成を受けています。

日本野鳥の会京都支部
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 50 アサダ観光ビル 2 階 CD 室
Tel & Fax 075-661-5608
http://wbsj-kyoto.net/

Copyright © 2016 by Wild Bird Society of Japan, Kyoto. All Rights Reserved.

目次

1 調査について 6
1.1 沿革等 6
1.2 調査方法 6
1.3 調査区間 (マップ p. 7) 6
1.4 調査者・協力者 6

2 全出現鳥について 8
2.1 経年変化と位置変化 8
2.2 出現鳥一覧 (157 種) 15

参考文献 15

3 個々の鳥種について 16
3.1 ウズラ Coturnix japonica (グラフ p. 88) 16
3.2 キジ Phasianus colchicus (グラフ p. 89) 16
3.3 コハクチョウ Cygnus columbianus (グラフ p. 90) 17
3.4 オシドリ Aix galericulata (グラフ p. 91) 17
3.5 オカヨシガモ Anas strepera (グラフ p. 92) 18
3.6 ヨシガモ Anas falcata (グラフ p. 93) 18
3.7 ヒドリガモ Anas penelope (グラフ p. 94) 19
3.8 アメリカヒドリ Anas americana (グラフ p. 95) 19
3.9 マガモ Anas platyrhynchos (グラフ p. 96) 20
3.10 カルガモ Anas zonorhyncha (グラフ p. 97) 20
3.11 ハシビロガモ Anas clypeata (グラフ p. 98) 21
3.12 オナガガモ Anas acuta (グラフ p. 99) 22
3.13 シマアジ Anas querquedula (グラフ p. 100) 22
3.14 トモエガモ Anas formosa (グラフ p. 101) 23
3.15 コガモ Anas crecca (グラフ p. 102) 23
3.16 ホシハジロ Aythya ferina (グラフ p. 103) 24
3.17 キンクロハジロ Aythya fuligula (グラフ p. 104) 24
3.18 スズガモ Aythya marila (グラフ p. 105) 25
3.19 ミコアイサ Mergellus albellus (グラフ p. 106) 25
3.20 カワアイサ Mergus merganser (グラフ p. 107) 25
3.21 カイツブリ Tachybaptus ruficollis (グラフ p. 108) 26
3.22 カンムリカイツブリ Podiceps cristatus (グラフ p. 109) 27
3.23 ハジロカイツブリ Podiceps nigricollis (グラフ p. 110) 28
3.24 キジバト Streptopelia orientalis (グラフ p. 111) 28
3.25 アオバト Treron sieboldii (グラフ p. 112) 29
3.26 カワウ Phalacrocorax carbo (グラフ p. 113) 29
3.27 ヨシゴイ Ixobrychus sinensis (グラフ p. 114) 30
3.28 ゴイサギ Nycticorax nycticorax (グラフ p. 115) 30
3.29 ササゴイ Butorides striata (グラフ p. 116) 31
3.30 アマサギ Bubulcus ibis (グラフ p. 117) 32
3.31 アオサギ Ardea cinerea (グラフ p. 118) 32
3.32 ダイサギ Ardea alba (グラフ p. 119) 34
3.33 チュウサギ Egretta intermedia (グラフ p. 120) 34
3.34 コサギ Egretta garzetta (グラフ p. 121) 35
3.35 クイナ Rallus aquaticus (グラフ p. 122) 36
3.36 バン Gallinula chloropus (グラフ p. 123) 36
3.37 オオバン Fulica atra (グラフ p. 124) 37
3.38 ホトトギス Cuculus poliocephalus (グラフ p. 125) 38
3.39 ツツドリ Cuculus optatus (グラフ p. 126) 38
3.40 カッコウ Cuculus canorus (グラフ p. 127) 38

3.41 ハリオアマツバメ Hirundapus caudacutus (グラフ p. 128) 39
3.42 アマツバメ Apus pacificus (グラフ p. 129) 39
3.43 ヒメアマツバメ Apus nipalensis (グラフ p. 130) 39
3.44 タゲリ Vanellus vanellus (グラフ p. 131) 39
3.45 ケリ Vanellus cinereus (グラフ p. 132) 40
3.46 ムナグロ Pluvialis fulva (グラフ p. 133) 40
3.47 イカルチドリ Charadrius placidus (グラフ p. 134) 41
3.48 コチドリ Charadrius dubius (グラフ p. 135) 41
3.49 シロチドリ Charadrius alexandrinus (グラフ p. 136) 42
3.50 タシギ Gallinago gallinago (グラフ p. 137) 42
3.51 チュウシャクシギ Numenius phaeopus (グラフ p. 138) 43
3.52 アオアシシギ Tringa nebularia (グラフ p. 139) 43
3.53 クサシギ Tringa ochropus (グラフ p. 140) 43
3.54 タカブシギ Tringa glareola (グラフ p. 141) 44
3.55 キアシシギ Heteroscelus brevipes (グラフ p. 142) 44
3.56 イソシギ Actitis hypoleucos (グラフ p. 143) 44
3.57 ハマシギ Calidris alpina (グラフ p. 144) 45
3.58 ユリカモメ Larus ridibundus (グラフ p. 145) 46
3.59 ウミネコ Larus crassirostris (グラフ p. 146) 46
3.60 カモメ Larus canus (グラフ p. 147) 46
3.61 セグロカモメ Larus argentatus (グラフ p. 148) 47
3.62 オオセグロカモメ Larus schistisagus (グラフ p. 149) 47
3.63 コアジサシ Sterna albifrons (グラフ p. 150) 47
3.64 ミサゴ Pandion haliaetus (グラフ p. 151) 48
3.65 ハチクマ Pernis ptilorhynchus (グラフ p. 152) 48
3.66 トビ Milvus migrans (グラフ p. 153) 49
3.67 チュウヒ Circus spilonotus (グラフ p. 154) 49
3.68 ハイイロチュウヒ Circus cyaneus (グラフ p. 155) 49
3.69 ツミ Accipiter gularis (グラフ p. 156) 50
3.70 ハイタカ Accipiter nisus (グラフ p. 157) 50
3.71 オオタカ Accipiter gentilis (グラフ p. 158) 51
3.72 サシバ Butastur indicus (グラフ p. 159) 51
3.73 ノスリ Buteo buteo (グラフ p. 160) 52
3.74 アオバズク Ninox scutulata (グラフ p. 161) 52
3.75 トラフズク Asio otus (グラフ p. 162) 52
3.76 カワセミ Alcedo atthis (グラフ p. 163) 52
3.77 アリスイ Jynx torquilla (グラフ p. 164) 54
3.78 コゲラ Dendrocopos kizuki (グラフ p. 165) 54
3.79 オオアカゲラ Dendrocopos leucotos (グラフ p. 166) 54
3.80 アカゲラ Dendrocopos major (グラフ p. 167) 55
3.81 アオゲラ Picus awokera (グラフ p. 168) 55

3.82 チョウゲンボウ Falco tinnunculus (グラフ p. 169) 55
3.83 ハヤブサ Falco peregrinus (グラフ p. 170) 56
3.84 サンコウチョウ Terpsiphone atrocaudata (グラフ p. 171) 56
3.85 モズ Lanius bucephalus (グラフ p. 172) 56
3.86 カケス Garrulus glandarius (グラフ p. 173) 57
3.87 ミヤマガラス Corvus frugilegus (グラフ p. 174) 58
3.88 ハシボソガラス Corvus corone (グラフ p. 175) 58
3.89 ハシブトガラス Corvus macrorhynchos (グラフ p. 176) 59
3.90 キクイタダキ Regulus regulus (グラフ p. 177) 59
3.91 ヤマガラ Poecile varius (グラフ p. 178) 60
3.92 ヒガラ Periparus ater (グラフ p. 179) 60
3.93 シジュウカラ Parus minor (グラフ p. 180) 60
3.94 ヒバリ Alauda arvensis (グラフ p. 181) 61
3.95 ショウドウツバメ Riparia riparia (グラフ p. 182) 61
3.96 ツバメ Hirundo rustica (グラフ p. 183) 62
3.97 コシアカツバメ Hirundo daurica (グラフ p. 184) 62
3.98 イワツバメ Delichon dasypus (グラフ p. 185) 63
3.99 ヒヨドリ Hypsipetes amaurotis (グラフ p. 186) 63
3.100 ウグイス Cettia diphone (グラフ p. 187) 64
3.101 エナガ Aegithalos caudatus (グラフ p. 188) 65
3.102 メボソムシクイ Phylloscopus xanthodryas (グラフ p. 189) 65
3.103 エゾムシクイ Phylloscopus borealoides (グラフ p. 190) 66
3.104 センダイムシクイ Phylloscopus coronatus (グラフ p. 191) 66
3.105 メジロ Zosterops japonicus (グラフ p. 192) 66
3.106 オオヨシキリ Acrocephalus orientalis (グラフ p. 193) 67
3.107 セッカ Cisticola juncidis (グラフ p. 194) 67
3.108 キレンジャク Bombycilla garrulus (グラフ p. 195) 68
3.109 ヒレンジャク Bombycilla japonica (グラフ p. 196) 68
3.110 ミソサザイ Troglodytes troglodytes (グラフ p. 197) 68
3.111 ムクドリ Spodiopsar cineraceus (グラフ p. 198) 69
3.112 コムクドリ Agropsar philippensis (グラフ p. 199) 69
3.113 トラツグミ Zoothera dauma (グラフ p. 200) 69
3.114 クロツグミ Turdus cardis (グラフ p. 201) 70
3.115 マミチャジナイ Turdus obscurus (グラフ p. 202) 70
3.116 シロハラ Turdus pallidus (グラフ p. 203) 70
3.117 アカハラ Turdus chrysolaus (グラフ p. 204) 71
3.118 ツグミ Turdus naumanni (グラフ p. 205) 71
3.119 コマドリ Luscinia akahige (グラフ p. 206) 71
3.120 コルリ Luscinia cyane (グラフ p. 207) 72
3.121 ルリビタキ Tarsiger cyanurus (グラフ p. 208) 72
3.122 ジョウビタキ Phoenicurus auroreus (グラフ p. 209) 72

3.123 ノビタキ Saxicola torquatus (グラフ p. 210) 73
3.124 イソヒヨドリ Monticola solitarius (グラフ p. 211) 73
3.125 エゾビタキ Muscicapa griseisticta (グラフ p. 212) 74
3.126 コサメビタキ Muscicapa dauurica (グラフ p. 213) 74
3.127 キビタキ Ficedula narcissina (グラフ p. 214) 74
3.128 オオルリ Cyanoptila cyanomelana (グラフ p. 215) 75
3.129 ニュウナイスズメ Passer rutilans (グラフ p. 216) 75
3.130 スズメ Passer montanus (グラフ p. 217) 75
3.131 キセキレイ Motacilla cinerea (グラフ p. 218) 76
3.132 ハクセキレイ Motacilla alba (グラフ p. 219) 77
3.133 セグロセキレイ Motacilla grandis (グラフ p. 220) 77
3.134 ビンズイ Anthus hodgsoni (グラフ p. 221) 78
3.135 タヒバリ Anthus rubescens (グラフ p. 222) 79
3.136 アトリ Fringilla montifringilla (グラフ p. 223) 79
3.137 カワラヒワ Chloris sinica (グラフ p. 224) 79
3.138 マヒワ Carduelis spinus (グラフ p. 225) 80
3.139 ベニマシコ Uragus sibiricus (グラフ p. 226) 80
3.140 ウソ Pyrrhula pyrrhula (グラフ p. 227) 81
3.141 シメ Coccothraustes coccothraustes (グラフ p. 228) 81
3.142 イカル Eophona personata (グラフ p. 229) 82
3.143 ホオジロ Emberiza cioides (グラフ p. 230) 82
3.144 ホオアカ Emberiza fucata (グラフ p. 231) 83
3.145 コホオアカ Emberiza pusilla (グラフ p. 232) 83
3.146 カシラダカ Emberiza rustica (グラフ p. 233) 84
3.147 ミヤマホオジロ Emberiza elegans (グラフ p. 234) 84
3.148 アオジ Emberiza spodocephala (グラフ p. 235) 84
3.149 クロジ Emberiza variabilis (グラフ p. 236) 85
3.150 オオジュリン Emberiza schoeniclus (グラフ p. 237) 85
3.151 コジュケイ Bambusicola thoracicus (グラフ p. 238) 85
3.152 カワラバト Columba livia (グラフ p. 239) 86
3.153 セキセイインコ Melopsittacus undulatus (グラフ p. 240) 86
3.154 ワカケホンセイインコ Psittacula krameri manillensis (グラフ p. 241) 86
3.155 ソウシチョウ Leiothrix lutea (グラフ p. 242) 87
3.156 ハッカチョウ Acridotheres cristatellus (グラフ p. 243) 87
3.157 ベニスズメ Amandava amandava (グラフ p. 244) 87

表紙写真 ゴイサギ (林信孝 撮影)

1　調査について

1.1　沿革等

1996 年 4 月　調査開始
1997 年 4 月　調査方法を現行のものに変更
2002 年 3 月　『桂川～自然への誘い～』発行
2004 年 10 月　台風 23 号による大増水
2007 年 4 月　必須調査回数を年 6 回から年 4 回に変更
2008 年 12 月　京都環境フェスティバルで調査データの一部を発表
2009 年度冬　淀川河川事務所による広範な伐木が開始
2012 年 4 月　第 11 次鳥獣保護管理事業計画で鳥獣保護区に予定 (現時点で未指定)
2013 年 9 月　台風 18 号により嵐山が浸水、鴨川合流点で越水

1.2　調査方法

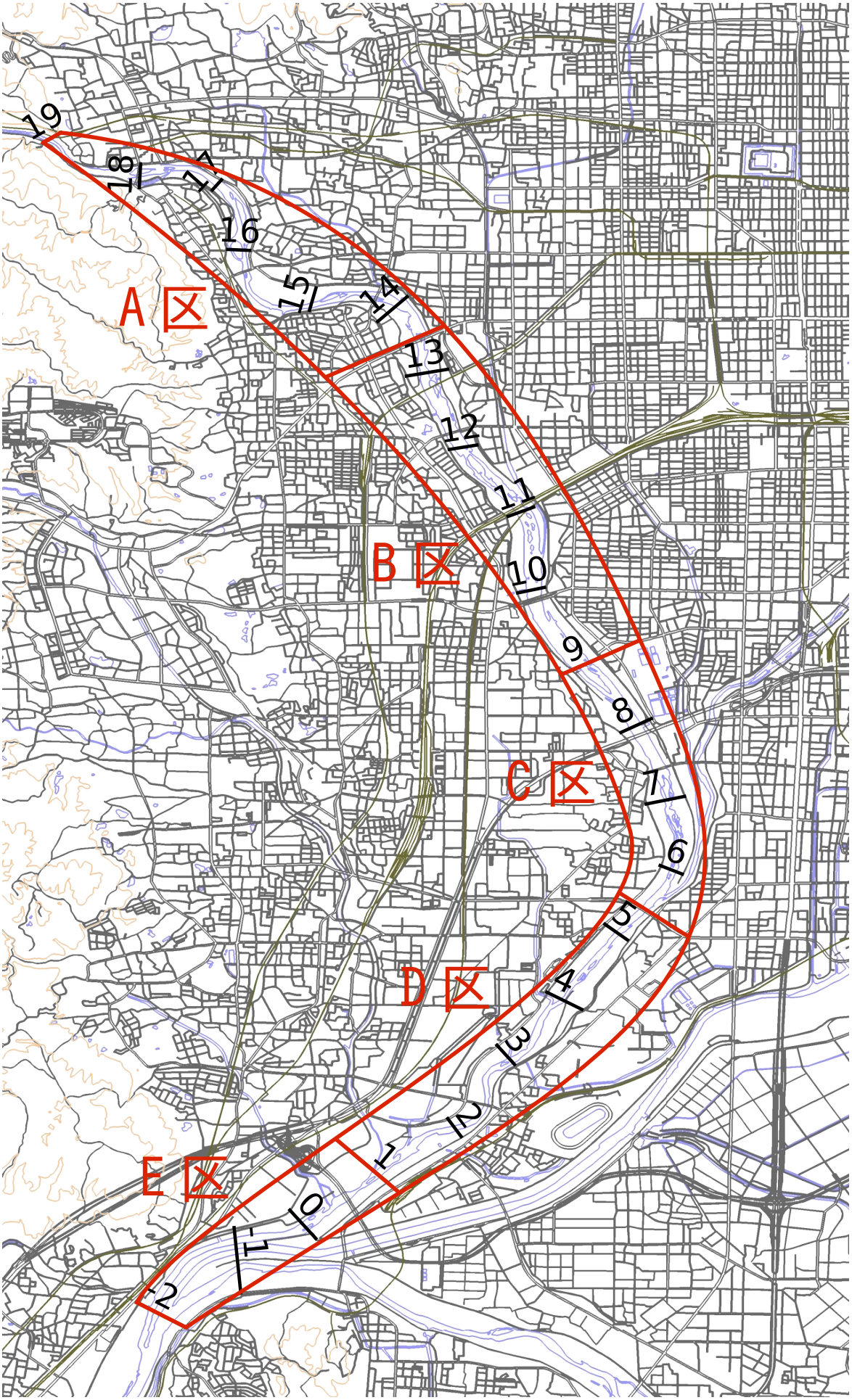
年 4 回 (4–5 月, 6–7 月, 10–11 月, 12–1 月) 以上の調査期 (2006 年度までは 8–9 月, 2–3 月も必須) に桂川の堤外をラインセンサス法で調査した。調査日は調査区間ごとに異なる。

1.3　調査区間 (マップ p. 7)

A 区　嵐山から西大橋まで (19km–13.5km)
B 区　西大橋から久我井堰まで (13.5km–9km)
C 区　久我井堰から羽束師橋まで (9km–5.4km)
D 区　羽束師橋から小畑川河口まで (5.4km–1km)
E 区　小畑川河口から三川合流点まで (1km– −2km)

1.4　調査者・協力者

キム・ファン, ヘルドレス・ランドール, 上田, 中村悦子, 中村桂子, 中野, 丸山, 井上善夫, 今西, 佐々木, 佐々木, 佐々木凡子, 依岡, 出春美也子, 前田, 副島猛, 加茂滋子, 北側加津子, 北村孝子, 原, 原田, 吉岡, 和田真一, 大中智津子, 大西正之, 大谷美紀子, 太田好子, 太田謙次, 奥田幸江, 奥田幸男, 宮川, 寺内裕美子, 寺前, 寺本, 小川明人, 小見山幸恵, 山口武, 山崎浩子, 山本泰敏, 山田留里子, 岡崎勝治, 岡野友二, 岩本富雄, 岩波正行, 岸田三千雄, 岸田千鶴子, 川端, 川見, 市橋康子, 平田和彦, 平田誠二, 後藤慎也, 戸村, 掛谷久美恵, 文屋誠, 新庄友子, 木村皇二, 木村節子, 本間友章, 杉浦美紀, 村田住子, 村田安正, 林信孝, 林英治, 林達男, 柴田清美, 梅田, 森宜人, 森嶋允子, 森田, 森道子, 植田光弘, 植田禮子, 橋本正弘, 正野務, 正野巻子, 毛呂佐一, 水上英也, 沢昌昭, 浅井啓一郎, 浅井啓司, 浅井智恵美, 浅井美由希, 渡辺靖夫, 滝沢敏子, 片岡靖, 牧千鶴, 猪口洋子, 田口冨男, 田子稔, 田淵章, 畠佐代子, 白井道也, 相馬祐子, 真野, 矢野, 石田國彦, 福井英樹, 福井重数, 福田朋子, 秋山幸男, 竹中聡, 笹田徹也, 笹田裕子, 糸井千晴, 糸井鉄哉, 細川巌, 細見量子, 美山千代子, 薬応, 藤井, 藤原, 藤村満希子, 西尾毅, 西沢, 豊沢, 豊福博之, 速水厚, 遠藤礼子, 野々下國男, 野杁, 野村綾子, 野間直彦, 長谷川, 馬場幸雄, 馬場晴美, 高島, 高橋悌史, 黒田容子, 梶田学 (143 名)


A 区
B 区
C 区
D 区
E 区
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

2　全出現鳥について

2.1　経年変化と位置変化

外来種と飼養種は含まれない。それぞれの全区のグラフは、5 区間とも調査をしたときのみプロットした。4 回の必須調査期以外 (8–9 月, 2–3 月) のデータは濃いグレーでプロットしてある。必須調査期のうち、D 区の 2008 年度 6–7 月、E 区の 2012 年度 12–1 月と 2013 年度 4–5 月に欠測がある。なお、グラフの作成には GNU R のパッケージ ggplot2 を使用し、シンプソン多様性指数 1/D の算出にはパッケージ vegan に含まれる diversity 関数を invsimpson オプションで使用した。

2.1.1　個体数の経年変化 (グラフ p. 9)

各調査期に記録された個体数の経年変化を全区と各区間で示したものである。カラーの折れ線グラフは同じ調査期の記録をつないで示したもので、グレーの面グラフは全調査期のデータを時系列でつないで示したものである。

2.1.2　個体数の位置変化 (グラフ p. 10)

調査区内を桂川終点 (E 区内の 0km 地点) からの距離で区分し、各々の位置で記録された個体数を示したものである。さらにそれぞれの表示は、確認された河川内での位置 (断面位置) も色分けして示している。なお、表示されている個体数は最上段の図では全年間の平均値、各年の図では年間に行なった調査 1 回あたりの個体数 (調査で記録された個体数の平均値) である。

2.1.3　種数の経年変化 (グラフ p. 11)

各調査期に記録された種数の経年変化を全区と各区間で示したものである。カラーの折れ線グラフは同じ調査期の記録をつないで示したもので、グレーの面グラフは全調査期のデータを時系列でつないで示したものである。

2.1.4　種数の位置変化 (グラフ p. 12)

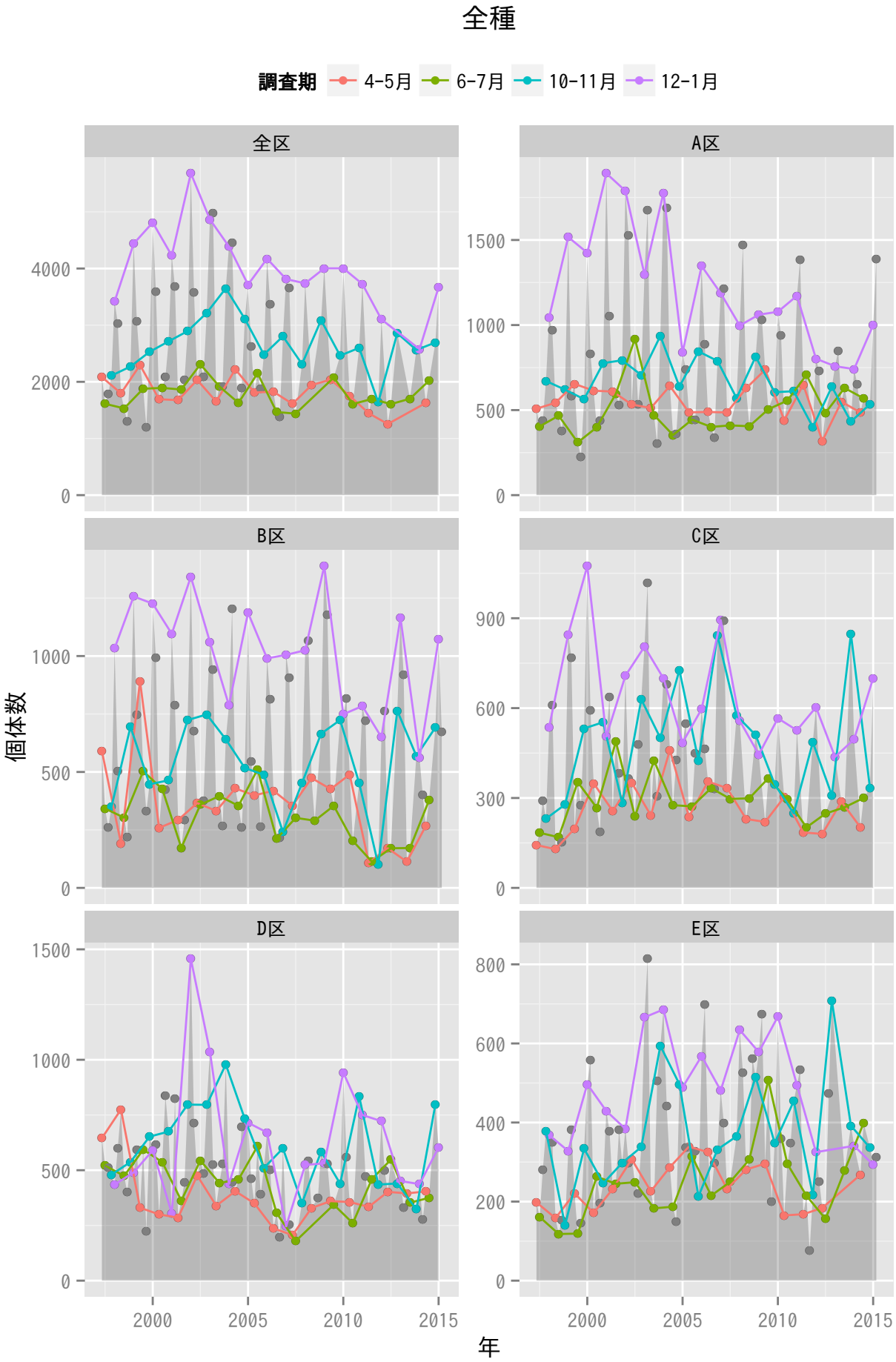
調査区内を桂川終点からの距離で区分し、各々の位置で記録された種数を示したものである。なお、表示されている種数は最上段の図では全年間の平均値、各年の図では年間に行なった調査のうち必須調査期を通して記録された種数である。

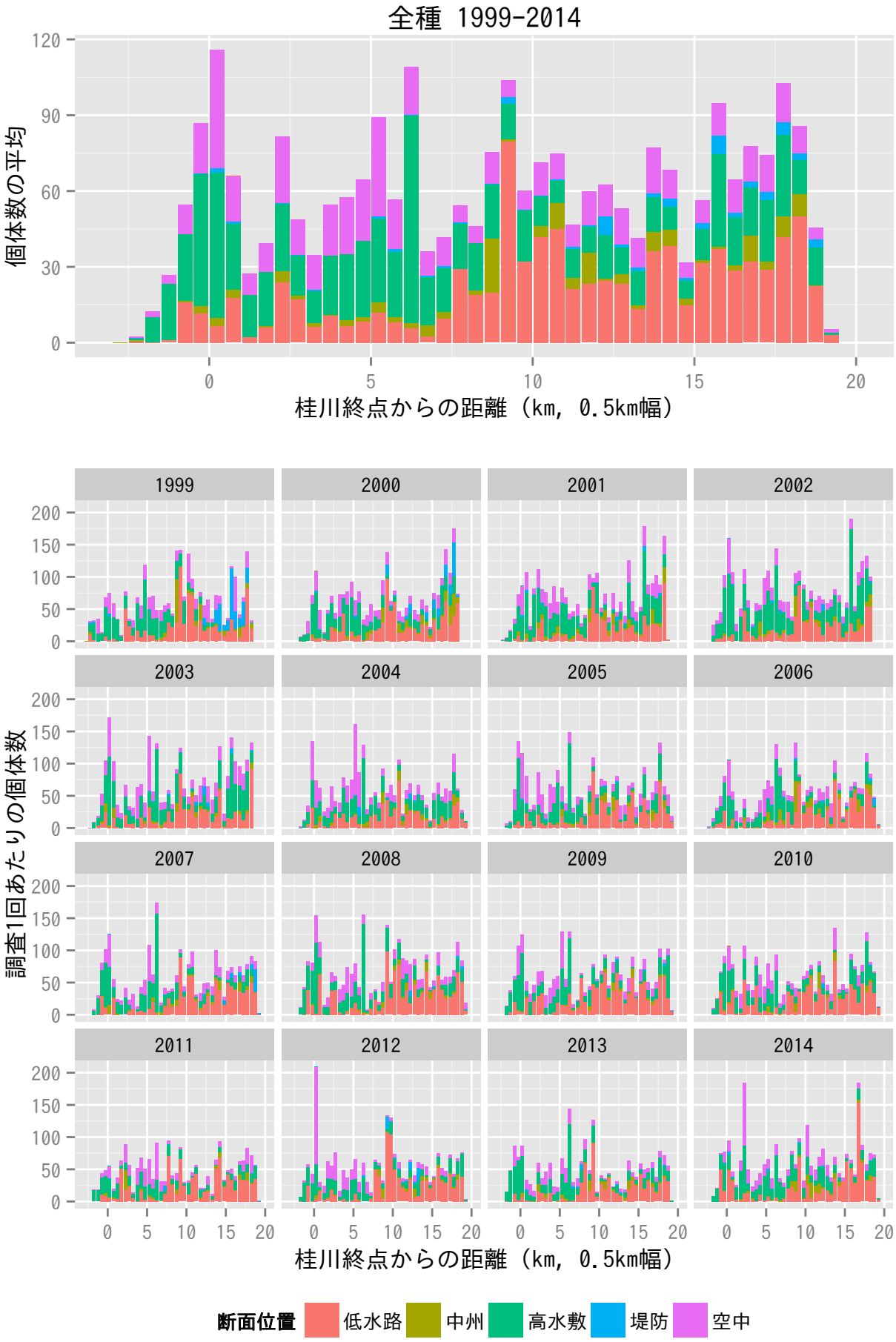
2.1.5　シンプソン多様性指数 1/D の経年変化 (グラフ p. 13)

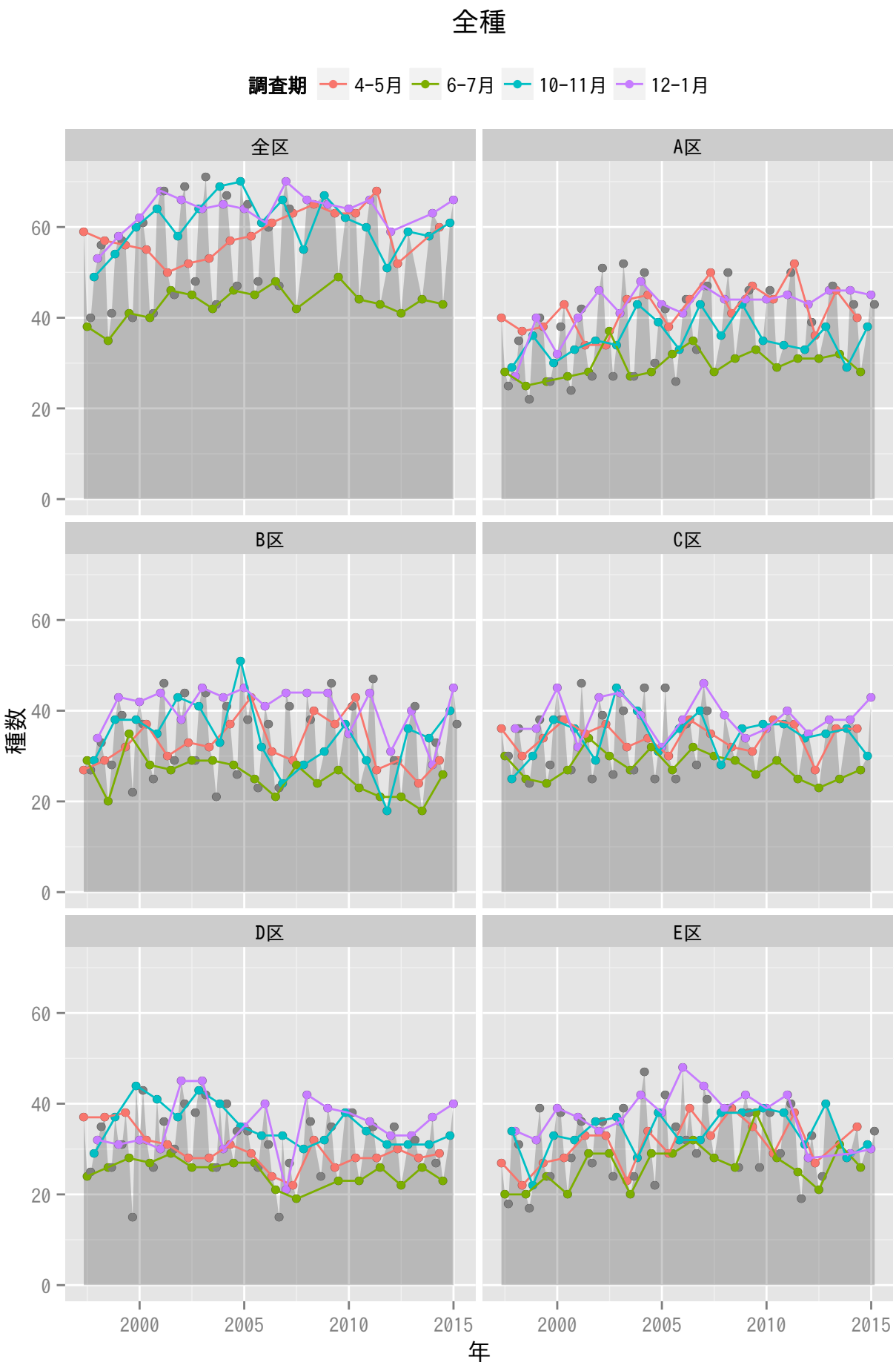
各調査期に記録された種数と個体数からシンプソン多様度指数を算出し、その経年変化を全区と各区間で示したものである。シンプソン多様度指数 1/D は、それぞれの種の個体数が互いに等しいとき最高値 (=種数) をとり、種による個体数の偏りが大きくなるほど最低値 (=1) に近づく。

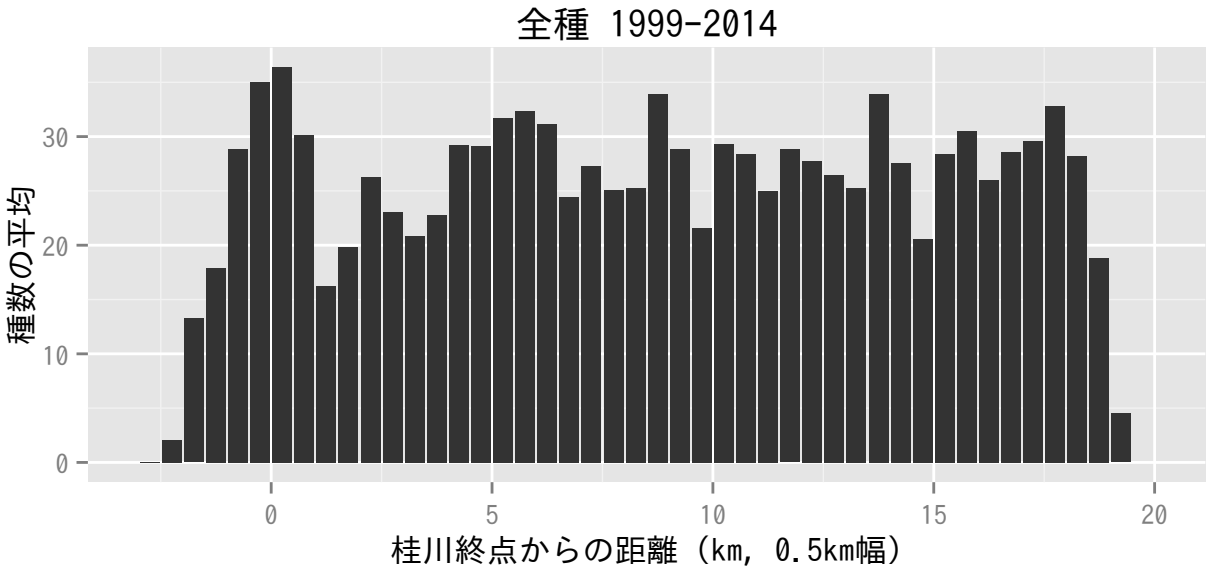
2.1.6　シンプソン多様性指数 1/D の位置変化 (グラフ p. 14)

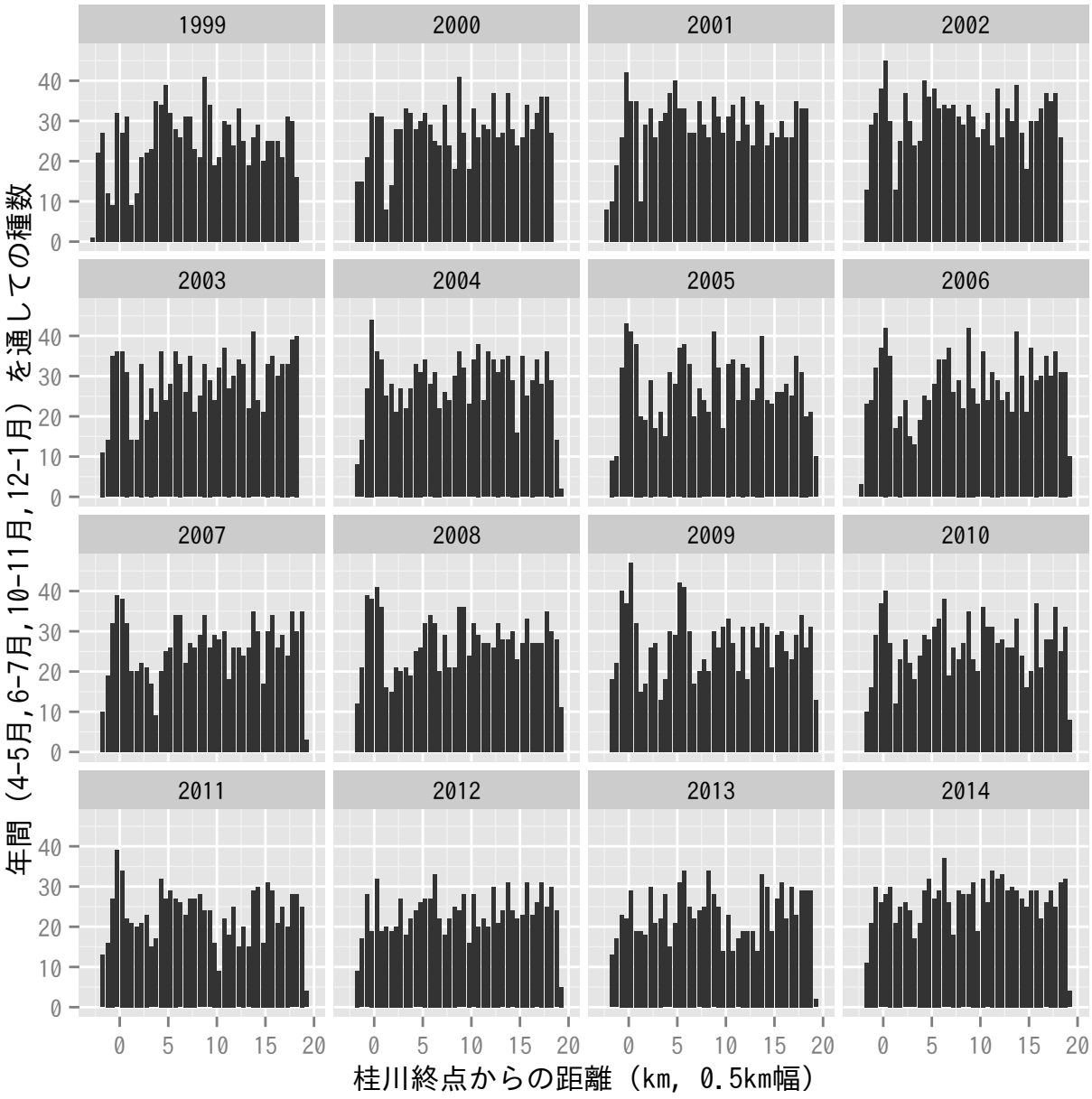
調査区内を桂川終点からの距離で区分し、各々の位置で算出されたシンプソンの多様度指数を示したものである。なお、表示されている指数は最上段の図では全年間の平均値、各年の図では年間に行なった調査のうち必須調査期を通しての指数である。

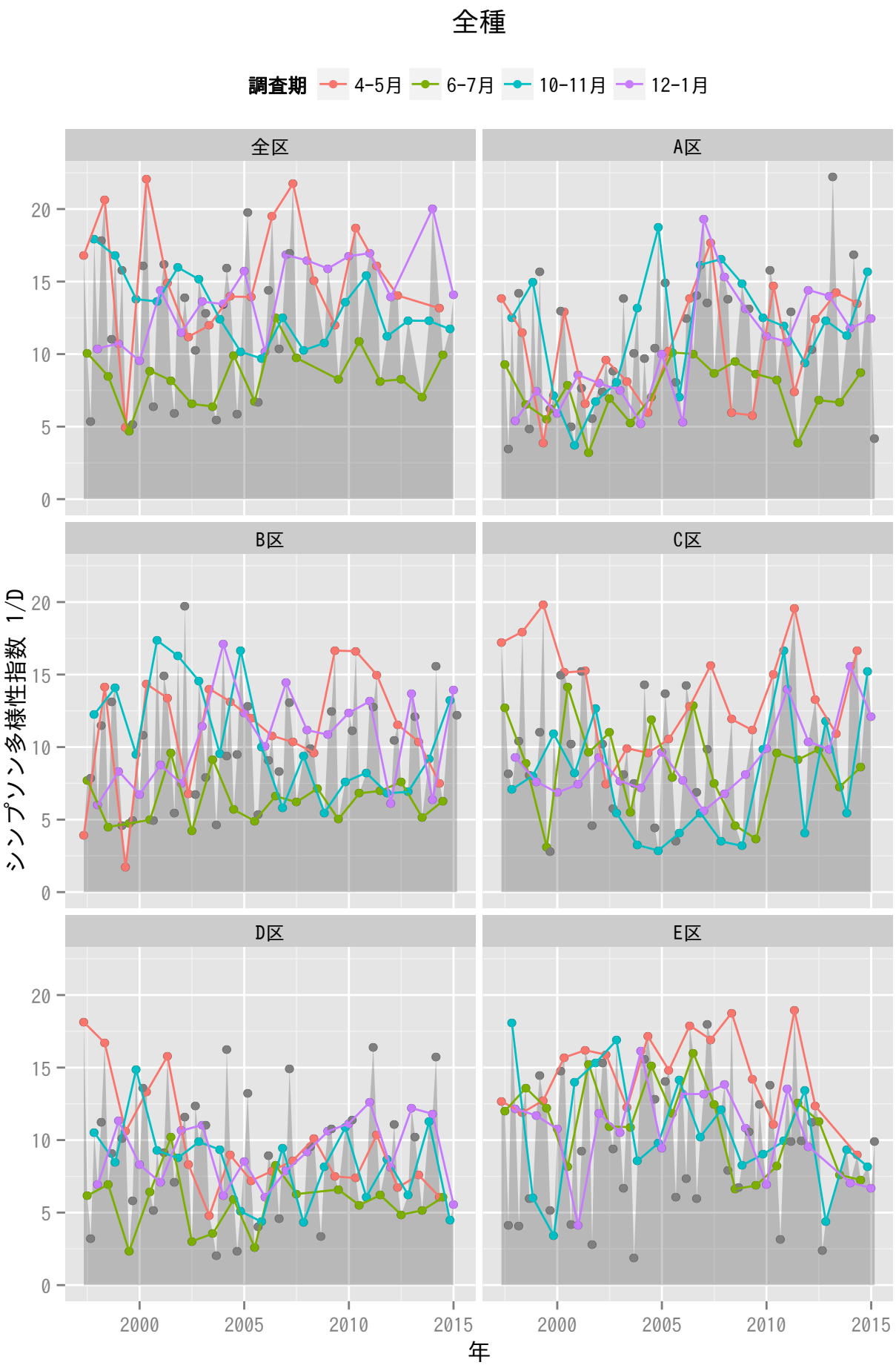

全種
調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
500
1000
1500
2000
4000
300
600
900
200
400
800
2000
2005
2010
2015

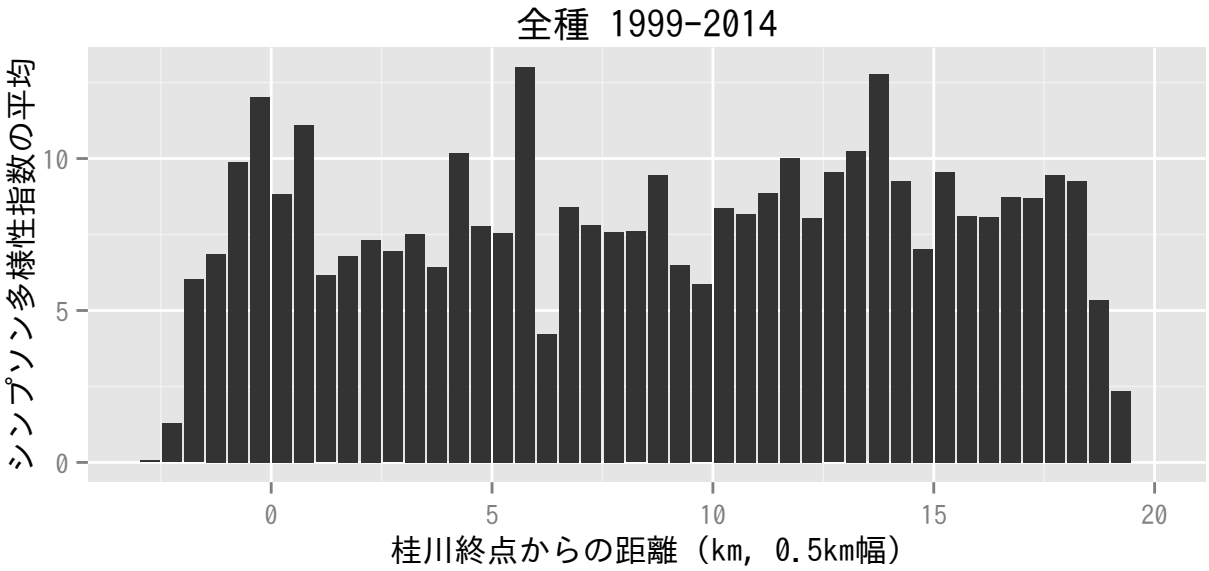

全種 1999-2014
個体数の平均
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
調査1回あたりの個体数
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

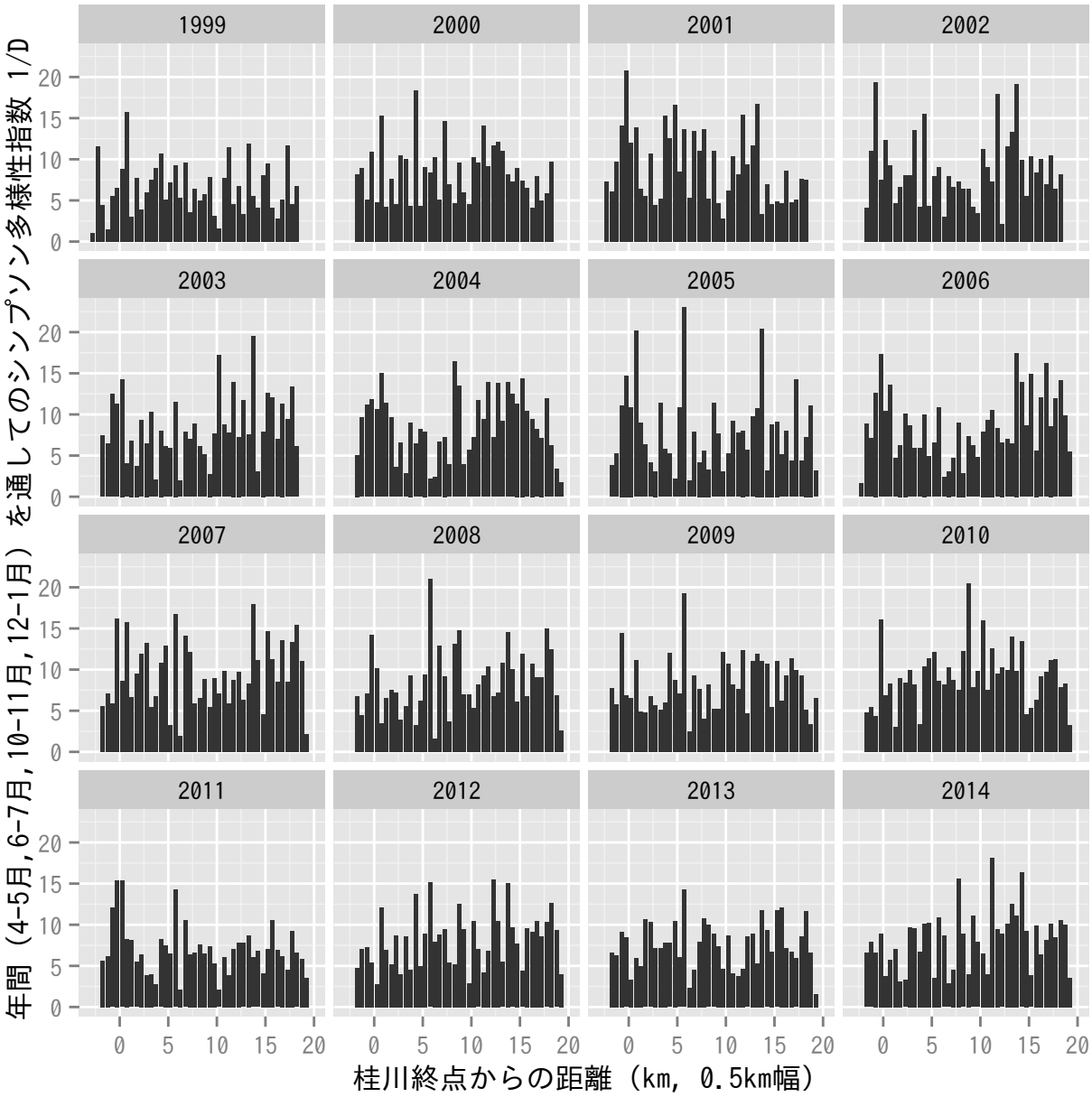

全種
調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
種数
年
0
20
40
60
2000
2005
2010
2015


全種 1999-2014
種数の平均
0
10
20
30
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）


1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
年間（4-5月,6-7月,10-11月,12-1月）を通しての種数
0
10
20
30
40
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）


全種
調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
シンプソン多様性指数 1/D
年
0
5
10
15
20
2000
2005
2010
2015


全種 1999-2014
シンプソン多様性指数の平均
0
5
10
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）


1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
年間（4-5月,6-7月,10-11月,12-1月）を通してのシンプソン多様性指数 1/D
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）

2.2　出現鳥一覧 (157 種)

† 印は外来種と飼養種 (7 種)

2.2.1　一年を通して出現した鳥「留鳥」

キジ, ヨシガモ, ヒドリガモ, マガモ, カルガモ, コガモ, ホシハジロ, カワアイサ, カイツブリ, カンムリカイツブリ, キジバト, カワウ, ゴイサギ, アオサギ, ダイサギ, チュウサギ, コサギ, バン, オオバン, ケリ, イカルチドリ, コチドリ, イソシギ, ユリカモメ, セグロカモメ, ミサゴ, トビ, オオタカ, カワセミ, コゲラ, アオゲラ, チョウゲンボウ, ハヤブサ, モズ, ハシボソガラス, ハシブトガラス, ヤマガラ, シジュウカラ, ヒバリ, ツバメ, イワツバメ, ヒヨドリ, ウグイス, エナガ, メジロ, セッカ, ムクドリ, スズメ, キセキレイ, ハクセキレイ, セグロセキレイ, カワラヒワ, イカル, ホオジロ, † コジュケイ (55 種)

2.2.2　夏期 (4–7 月) を通して出現した鳥「夏鳥」

ササゴイ, アマサギ, ホトトギス, カッコウ, アマツバメ, シロチドリ, コアジサシ, コシアカツバメ, センダイムシクイ, オオヨシキリ, キビタキ, オオルリ (12 種)

2.2.3　冬期 (10–1 月) を通して出現した鳥「冬鳥」

オシドリ, オカヨシガモ, アメリカヒドリ, ハシビロガモ, オナガガモ, キンクロハジロ, スズガモ, ミコアイサ, ハジロカイツブリ, クイナ, タゲリ, タシギ, クサシギ, ハマシギ, カモメ, ハイイロチュウヒ, ツミ, ハイタカ, ノスリ, アリスイ, アカゲラ, カケス, ミヤマガラス, シロハラ, ツグミ, ルリビタキ, ジョウビタキ, イソヒヨドリ, コサメビタキ, タヒバリ, アトリ, ベニマシコ, シメ, ホオアカ, カシラダカ, アオジ, クロジ, オオジュリン (38 種)

2.2.4　短期だが複数年度に出現した鳥「旅鳥」

ウズラ, シマアジ, トモエガモ, アオバト, ヨシゴイ, ツツドリ, ヒメアマツバメ, チュウシャクシギ, アオアシシギ, キアシシギ, ウミネコ, オオセグロカモメ, チュウヒ, サシバ, ショウドウツバメ, メボソムシクイ, エゾムシクイ, ヒレンジャク, コムクドリ, トラツグミ, クロツグミ, マミチャジナイ, アカハラ, ノビタキ, エゾビタキ, ニュウナイスズメ, ビンズイ, マヒワ, † ソウシチョウ (29 種)

2.2.5　単年度だけに出現した鳥「迷鳥」

コハクチョウ, ハリオアマツバメ, ムナグロ, タカブシギ, ハチクマ, アオバズク, トラフズク, オオアカゲラ, サンコウチョウ, キクイタダキ, ヒガラ, キレンジャク, ミソサザイ, コマドリ, コルリ, ウソ, コホオアカ, ミヤマホオジロ, † カワラバト, † セキセイインコ, † ワカケホンセイインコ, † ハッカチョウ, † ベニスズメ (23 種)

参考文献

[1] 国土交通省桂川出張所, 日本野鳥の会京都支部. 桂川～自然への誘い～. 2002 年 3 月.

[2] 平成 18 年度淀川鳥類調査業務 (河川水辺の国勢調査) 報告資料. 2007 年 9 月.

[3] 日本鳥学会. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 2012 年 9 月.

[4] 国土地理院. 基盤地図情報. 2015 年 9 月に農研機構の WMS 配信サービスから取得.

3　個々の鳥種について

個体数の変化 (記されたページを参照)　全出現鳥についてのものと同様の経年変化と位置変化のグラフ。

概観　出現時期と区間、繁殖状況。

月別出現表　2007 年度より必須調査回数を年 4 回に変更した結果、その後 8–9 月期と 2–3 月期は必ずしも調査されていないので、これらの月では終認年度以後も出現している可能性がある。また、初認年度から終認年度まで毎年出現していることを示すものでもない。備考欄は、各調査の各出現時に記録されたものを区切りを入れて (出現毎にセミコロン、年度毎に [年数] を付記してピリオド)、そのまま時間順に並べたものである。繁殖行動については、繁殖ランク、さらにヒナや営巣、巣材運び、囀りなどの具体的記述がなされているが、ランクが無いもの、具体的記述が無いもの、いずれも記録されていないものが多数ある。

繁殖ランク A　繁殖がヒナや営巣によって確認されている (短縮して「ランク A」と記載)。

繁殖ランク B　繁殖は確認されなかったが、繁殖の可能性がある (短縮して「ランク B」と記載)。

繁殖ランク C　繁殖の可能性については何とも言えない (短縮して「ランク C」と記載)。

所見　2015 年 6 月 27 日から 12 月 26 日までに行なった 6 回の検討会での発言をまとめたもの。

3.1　ウズラ Coturnix japonica (グラフ p. 88)

概観　短期だが複数年度に出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2000	初認 [2000].
11	2003	☆！ [2003].

所見　2003 年 11 月の記録は、A 区上野橋 (14km 地点) 下流での確認。京都府内の記録は極めて稀である。

3.2　キジ Phasianus colchicus (グラフ p. 89)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	♂; 声のみ [2000]. 鳴き声 [2001]. つがい ランク B [2002]. ♂ [2003]. ♂、♀各 1 羽。; ♀ [2004]. ♂♀ [2006]. ♂ [2007]. 囀り [2009]. 声; 囀り [2012]. 囀り ♂; 囀り [2013]. 囀り; ♂ 野球グラウンドでハシブトガラスと対峙 [2014].
5	1997–2014	♂; ♀ [2001]. 声 ランク B; 声 [2002]. 声のみ; 囀り ランク B [2003]. つがい [2004]. 囀り; ♂ [2008]. ♂ [2011]. 声 [2012].
6	1997–2014	C [2004]. ♂♀; ♀ [2010]. 囀り; 若? [2011]. つがい; 囀り [2012].
7	1998–2014	幼鳥 ランク B [1999]. 囀り ランク B [2003]. ♀ 汀線で水飲み中 [2004]. 声 [2006]. 対岸 [2007]. ♂ [2008]. ♂、♀ [2012].
8	1997–2002	

9	1999–2010	♂若 ランク B; 鳴き交わす ランク B [2001]. ♂ 1 ♀ 1 [2002]. ♀ [2003]. ♂ [2004]. (親 1 子 3) ♀ 4? 中洲へとぶ [2006].
10	1998–2013	♂ [2002]. ♂。鴨川方面へ飛翔 [2003]. ♀ [2007]. ♂ [2013].
11	1997–2014	♂ [2001]. ♂ [2002]. 2 羽以上 [2006]. ♂ [2008]. ♂ [2014].
12	1997–2013	♀ [2000]. ♂ [2001]. ♂ 1 、 ♀ 1 . [2002]. ♀ [2006]. ♀ [2010]. ♂ [2011].
1	1997–2014	♂ 1 ♀ 1 [2001].
2	1998–2012	♀ [2004]. 南５０ｍへ [2008]. ♀ [2010]. ♂ [2012].
3	1997–2014	♂; 囀り [2003]. 囀り [2004]. 声のみ [2005]. 終点地点より下流からの鳴き声 [2011].

所見　1997 年 D 区の出現数が他の年度や場所に比し非常に多かった (35 羽を確認)。このため、確認方法が特殊だったのではとの意見があったが、特に異なる方法を使ったとの記録はない。

3.3　コハクチョウ Cygnus columbianus (グラフ p. 90)

概観　単年度だけに出現。B 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2000	
2	2000	

所見　2000 年の記録は、B 区久世橋 (10km 地点) の北に 1 つがい (2 羽) が 1 ヶ月弱滞在した時のものである。このつがいは、ホウレンソウ畑で採餌していた。右京区大沢池に渡来したことがあったが、その際には桂川へは出現しなかった。桂川では 2005 年 12 月 (桂大橋 5 羽) にも渡来したが、調査時には記録されなかった。

3.4　オシドリ Aix galericulata (グラフ p. 91)

概観　冬期を通して出現。A, B, C, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2003–2007	♂ [2003]. ♂ [2007].
10	2004–2013	♂ 5 ♀ 2 [2013].
11	2003–2005	全て♂ [2003].
12	2000–2013	♂ 4 、 ♀ 3 [2001]. ♂ 4 ♀ 2 [2006]. ♂ 3 ♀ 3 [2013].
2	2000–2014	♂♀ [2006]. ♂ 5 ♀ 3 [2008]. ♂ 3 ♀ 3 [2014].
3	2003–2005	♂ 3、♀ 3。 [2003]. ☆計６６羽、渡りの小群と合流かも。 [2004]. ♂ 12、♀ 12 [2005].

所見　調査区域内では A 区のみで越冬し、18km 地点 (千鳥ヶ淵) で岩や枝にとまっているのを確認することが多い。舟による保津川下りが終わる (保津川下りは 12 月末から 3 月まで休止) と出現するが、2013 年の水害で樹木が倒れてから、個体数が減少している。A 区以外では秋に通過するのみであるが、B 区では 11 月に中州で観察されたことがある。桂川以外、京都市内の赤山禅院や金閣寺で餌付けされており、宇

治川にも出現することがあり、向日町では竹藪にもいる。

3.5 オカヨシガモ Anas strepera (グラフ p. 92)

概観 冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2014	内 ♂ 1 [2000]. 水面に落ちた柳の花粉を食べる [2009]. ♂ [2014].
5	2001–2011	
8	1997	
10	1997–2014	♂ [2004].
11	1998–2014	ヨシガモ 5（同じ場所） [2012].
12	1997–2013	♂♀; ♂ 2 ♀ 1 [2006].
1	1997–2014	
2	1997–2012	♀ 3 ♂ 2 [2004].
3	1997–2014	

所見 調査区全域での個体数は 2010 年まで増加し、その後減少している。また、2004 年台風 23 号の後と 2013 年の水害 (嵐山浸水) 後には河川工事があり、個体数が減少したが、工事は日曜日は実施されないので、日曜日に調査を実施した場合は個体数が比較的多く確認されている可能性がある。A 区では嵯峨芸術大学付近 (17km 地点) で比較的良く観察される。B 区、C 区 (7–14km) に個体数が多い。B 区では樹木の茂っている付近で観察されることが多く、この調査区に生息数が多いのは、川幅も水深もあるためと推測される。特に久我井堰 (9km 地点) 付近は水深が深い。また、B 区では JR 鉄橋 (11km 地点) の下や鉄橋南の寄洲とその周辺の水面でも比較的多く観察される。B 区で河川工事が行われた時には、B 区から C 区へ個体が移動した。C 区では名神高速道路 (8km 地点) よりも上流で確認されることが多く、堰の上の溜まりにおり、堰より下流にはいない。D 区は通過のみで、越冬個体は少ない。桂川以外では、右京区大覚寺で近年増加している。

3.6 ヨシガモ Anas falcata (グラフ p. 93)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999–2014	♂♀ [2006]. ♂ [2013].
5	2009–2011	♂ [2011].
6	1997–2013	♀ [1997].
10	2004–2013	エクリプス [2007].
11	1997–2014	
12	1997–2012	♂ [2002]. ♂ 8 ♀ 1 [2008].
1	1998–2014	
2	1997–2012	♂ 8、♀ 7 [2003]. ♂ 4 ♀ 1 [2004].
3	1999–2014	♂♀ [1999]. ♂ 2 ♀ 1 [2005].

所見　調査区内では 2003 年頃から急に増加し、この 1、2 年急に減少した。食性が植物質に偏っているため、2013 年の台風の後、川底が砂になってしまい、水底に水草がなくなり、中州にも草が減少したのが一因と推測される。分布は桂川の下流の方が多く、上流 (13km 地点より上) では、ほとんど記録されない。アシが生えているところに生息していることが多い。B 区の JR 鉄橋下 (11km 地点) 付近ではオオバンと同所的に生息していたのが確認されている。桂川に生息するカモ類の中では、北へ渡る時期が遅めで、4–5 月期にも比較的多くの記録がある。

3.7　ヒドリガモ Anas penelope (グラフ p. 94)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	♂ 2 ♀ 1 [1998]. ♀ [2001]. ♂♀ [2007]. 水面に落ちた柳の花粉を食べる [2009]. ♂ ♀ [2013].
5	1999–2013	♂ [2002].
6	1997–2010	
7	1998–2009	♂ 2 [1998]. ♂ [2009].
8	1997	
9	2001–2002	
10	1997–2014	♀ [2007].
11	1997–2014	アメリカヒドリに近い個体 1 [1997].
12	1997–2014	左岸高水敷で草を採食中 [2004]. 南へ [2008].
1	1997–2014	
2	1997–2014	ヌートリア 1 、 4 9 番付近で泳いでいた [2004]. 7 [2005].
3	1997–2014	南へ [2003].

所見　調査区内では比較的個体数が多いカモである。個体数に 2004 年の台風 23 号の影響は確認されなかったが、この 1、2 年急に減少した。この減少は、中州、河川敷の草の減少によるのではないかと推測されている。A 区に個体数が多いが、これは渡月橋 (18km 地点) 付近で餌をまいていることが一因である。D 区の 2010 年以降の増加は他地域からの避難によるものと考えられる。ガンカモ一斉調査により京都府全体でも近年半減したことが知られている。1997 年に C 区で 1 羽、1998 年に B 区久我井堰 (9km 付近) で♂ 2 羽など、稀に越夏個体が確認されている。

3.8　アメリカヒドリ Anas americana (グラフ p. 95)

概観　冬期を通して出現。A, B, C 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2003–2009	
12	2004–2008	
2	1998–2002	

所見　調査区内には稀に渡来するのみで、調査時に確認された個体数も最大で同時 2 羽のみ。2009 年度

以降は、記録が途切れている。京都府全体でも 2013 年 2014 年のガンカモ一斉調査による確認はゼロである。

3.9 マガモ Anas platyrhynchos (グラフ p. 96)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	♂ [2001]. ♂ [2006]. ♀ ねていた [2007]. ♂♀; ♂ [2009]. 北へ; ♂ [2010]. ♂ [2011]. ♂ [2012]. ♂; ♂ ♀ [2013].
5	1999–2014	元気がない; ♂ [2002]. ♀♂; ♂ [2003]. ♀; つがい; ヒナ 4 羽、親 2 羽♂♀ [2005]. ♂ [2008]. 親 2 子 6 [2012].
6	1997–2014	♂; ♂ 1 、♀ 1 . [2002]. アヒル ?; ♀ [2007]. ♂♀; ♂♀ [2009]. ♂; つがい; カルガモ? [2012]. ♂; 親子 [2013]. 中ヒナ 7 羽、成鳥♂♀; アイガモ [2014].
7	1999–2010	飛来 [2003]. 雑種か？、体調が悪そう; マガモ? [2006]. ハイブリッド [2008].
8	1997–2003	
9	1999–2006	水面の岩の上 [2001].
10	1997–2014	♂ 2 、♀ 2 . [2002]. ♂ばかり [2007]. ♂♀ [2010]. ♂; ♂ 2 、♀ 2 ; ♂ 1 、♀ 1 ; ♂♀ [2011]. ♀; ♂ [2013].
11	1997–2014	♂ 2 、♀ 1 . [2003]. ♂♀ [2006].
12	1997–2014	久我井堰堰上 [2000]. ♂ 4 ♀ 2 [2006]. ♂ [2007].
1	1997–2014	♂♀; SP アイガモ [2014].
2	1997–2014	南へ; ♀ 2 、♂ 1 南へ; 北へ [2004]. ♂♀; ♂、♀ [2013].
3	1997–2014	♂♀ [1999]. ♂ 2、♀ 1.; ♂ 1、♀ 1。 [2003]. ♀ [2014].

所見 調査区内では上流から下流まで広く分布しているが、 アヒルやアイガモ (合鴨) が近年増加し、野生のマガモは、だんだん減少している。調査で記録された個体にもアイガモが含まれている可能性があり、特に繁殖期 (夏期) の記録はその可能性が含まれる。B 区では減少傾向にある。これは過去に狩猟用の餌付けをしていたが、現在では餌付けを中止した可能性があり、それが一因である可能性がある。D 区は中州があり休息して個体が確認されている。E 区では 2015 年に増加したが、これは宇治川から移動してきた可能性がある。木津川はカモが少ない。なお、京都府内では、野生のマガモと考えられる個体の渡来記録は 9 月下旬からである。

3.10 カルガモ Anas zonorhyncha (グラフ p. 97)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; ヒナ 6 ランク A [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ヒナ 12 羽を従えたファミリー ランク A; ランク C [2002]. 北からUターン [2004].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ヒナ 8 ランク A; ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 南へ [2012].

6	1997–2014	ランク C [1997]. ファミリー ランク A; ランク C [1998]. ランク C [1999]. 子 17 ランク A; ランク C [2000]. ランク C [2001]. 親 1 、ヒナ 7 の家族。 ランク A; 親 1 、ヒナ 6 の家族。 ランク A; ヒナ 2 羽（5/18 に 7 羽、5/25 は 4 羽と減少） ランク A; 親 1 、ヒナ 4 の家族が 2 群。 ランク A; ランク C; 親 1、ヒナ 9 の家族。 ランク A; 親 1 、ヒナ 8 の家族が一群。 ランク A; 幼 10 ランク B; 幼 1 ランク B [2002]. 親 2 、子 7 [2003]. 親 1 子 6 ビワの樹; ヒナ 5 羽 [2007]. 南へ; 北へ [2010]. 成鳥 1 、幼鳥 9 [2012]. 成鳥 1 、幼鳥 6 [2013].
7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. 幼鳥 ランク B; ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 書き忘れ; 親子 4 羽 [2005].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥 4 羽 ランク B [2002].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. カジカガエルの声 [2009].
11	1997–2014	ランク C; 岩に止まって眠っていた ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 声 [2013].
12	1997–2014	石の上 ランク C; ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ♀ [2004].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 12：18 終了。 ランク C [2001]. 北へ [2005].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 北へ; 南へ [2003].

所見　調査区内では繁殖期の個体数は安定しており、周辺の池から川に来ている可能性がある。近年越冬期 (12–1 月期) は個体数が減少傾向にある。2004 年以降に一旦減少したが、これは台風 23 号による大増水の影響の可能性が考えられる。それ以前の 2000 年頃にも減少したが原因は不明。調査区内では E 区の 0km より下流の川幅が狭くなっている地域で個体数が多い。一方、上流側 (A 区) にも比較的多く生息し、これは餌付けの影響による可能性がある。B 区の 9–12km は比較的個体数が少なく、B 区では越冬期の個体数が近年減少傾向にある。逆に C 区ではやや増加傾向があり、B 区から C 区への個体の移動があった可能性も考えられる。なお、A 区では、2002 年の繁殖期 (6–7 月期) に 100 羽を越える個体数が確認されているが、これは親子連れの家族群が多く確認されたためである。今回の報告書のデータには含まれていないが、2015 年の繁殖期には 2 つがいの繁殖が確認されている。

3.11　ハシビロガモ Anas clypeata (グラフ p. 98)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2009	

10	1997–2011	♀ [2004].
11	1997–2012	♀及び♂エクリプス [1999]．９６年４月に観察して以来、久しぶり [2006].
12	1997–2009	♀ [2006].
1	1999–2013	
2	1997–2009	
3	1997–1999	

所見　水の汚れたところ (富栄養化したところ) に多く、基本的には池に生息しているため、調査区ではあまり多く確認されない。B 区と C 区の間にある久我井堰のところには比較的多く生息している。この区域で比較的個体数が多く記録されたのは通過個体が含まれているためである可能性が高い。B 区の 13km 地点より上流では記録されておらず、渡月橋 (18km 地点) 付近の餌付けの影響はごく少ないと思われる。桂川の付近では、国道 9 号沿いの新池に多く生息しているので、桂川との間で移動している可能性もある。冬の新池には、以前は何も植物がなかったが、最近ヒシやウキクサが出現している。ハシビロガモは、奈良県の池には多く生息している。

3.12　オナガガモ Anas acuta (グラフ p. 99)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997	
10	1997–2009	♂３、♀３． [2002]. ♂１ ♀７ [2004].
11	1997–2014	♂１、♀３．; ♂１、♀２． [2003].
12	1997–2014	
1	1998–2003	
2	1998–2014	
3	1997–2004	

所見　調査区内では A 区の渡月橋付近だけに毎年 8–10 羽くらいが渡来する。自然の餌を食べており、この場所への渡来に餌付けは関係ないと思われる。2000 年以前は個体数が多かったが、餌付けされやすい種であることから、狩猟用の撒き餌の影響であったとも考えられる。E 区で確認される個体は池へ移動している可能性がある。調査を始める以前、1985 年頃には桂川でもオナガガモが多かった。滋賀県草津でも餌をまくとオナガガモがたくさん寄ってくる。

3.13　シマアジ Anas querquedula (グラフ p. 100)

概観　短期だが複数年度に出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2011	5/24 に確認、まだ居た。♂♀ [2011].
12	2000	♀ [2000].

所見　調査区内では稀に渡来するのみ。調査外では 2011 年 A 区にて写真撮影された個体の記録がある。

3.14　トモエガモ Anas formosa (グラフ p. 101)

概観　短期だが複数年度に出現。B 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	1997–1998	♀ [1998].
1	2014	♀ [2014].

所見　調査区内では例年 12 月 20 日から月末に 1 回 1、2 羽が渡来し、1 日だけ滞在して通過してしまうことが多い。また、毎年 12 月末には 20 羽くらいが通過するが調査時にはこのような群は記録されたことがない (例えば、2013 年 12 月 20 日に B 区の JR 下流で 23 羽が確認された)。調査外だが 3 月に 1 羽の観察例がある。また、桂川付近では御髪神社前の小倉池 (嵯峨小倉山山元町) で 22–23 羽が記録されたことがある。府内では、喜撰山ダムに 300–400 羽生息していたが、近年は個体数が減少した。かつてはダムの水位が安定していたが、近年変動幅が大きくなったことが個体数減少の一因と考えられている。

3.15　コガモ Anas crecca (グラフ p. 102)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	♂ 3、♀ 3. [2004]. ♂; ♂♀ [2006]. ♂♀ [2007]. 飛来; ♂ 2 、♀ 3 ; ♂♀ [2009]. ヌートリアと昼寝 [2010]. ♀; ♂、木陰 [2013].
5	1999–2012	♂♀ [2002].
6	2004–2009	
9	2001–2006	白いツユクサ [2001].
10	1997–2014	
11	1997–2014	
12	1997–2014	北 [2003].
1	1997–2014	
2	1997–2014	北へ [2004]. ♂♀ [2013].
3	1997–2014	

所見　調査区内では局所的に多い地域があるが、比較的広く分布している。個体数も比較的多く、2004 年の台風で減少したが回復も早かった。個体数は特に B 区、C 区で多い。A 区では嵯峨芸術大学付近 (17km 地点) 前から松尾橋 (16km 地点) の間や渡月橋 (18km 地点) 付近にまんべんなく生息し、上野橋 (14km 地点) 付近の中州にも生息しているが、2013 年以降、河川工事の影響で減少した。特に 2013 年冬は減少が著しかった。C 区の 7km 地点あたりから下流では記録されないが、これは川幅が狭くなって急流となり観察者から個体が確認しづらいことも一因かもしれない。D 区では 2000 年–2003 年頃に個体数が多かった (現在もややその傾向が続いている)。特に小河川が流入している 2.5km–3km 地点で多く確認される。台風により個体数が影響を受けることがあり、これは餌の量などが関係している可能性が考えられる。基本的にデトリタス (微細な有機物粒子) 食のため、富栄養化して汚れた川にも生息している。巨椋の古川にも多く生息している。なお、京都府内で記録されるカモ類の中では渡来が早く、9 月 15 日頃には確認される。

3.16　ホシハジロ Aythya ferina (グラフ p. 103)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2009	♀ [2008].
7	1998	
8	1998	
10	1998–2009	
11	2000–2014	♂ [2009].
12	1997–2014	
1	1999–2014	
2	1997–2014	♂♀ [2014].
3	1997–2013	

所見　調査区内では少数のみ確認される。A 区の渡月橋 (18km 地点) より上流の千鳥ヶ淵に少数生息している。右京区大沢池にいない時には、A 区にいることが多いことから、大沢池と桂川の間を行き来している可能性がある。また、右京区の菖蒲谷池や西山ドライブウェイ付近と桂川の間でも移動があると推測されている。 この他、B 区では 10km 地点の井堰や 9km 地点の久我井堰の上流側にある水深の深いところに生息している。B 区で 10–11 月期に 70 羽以上が記録されたことがあるが、一時的な通過個体である可能性が高い。1998 年には越夏個体 (♂ 1 羽) が B 区久我井堰 (9km 地点) で確認された。なお、桂川周辺では国道 9 号沿いの新池にも渡来する。

3.17　キンクロハジロ Aythya fuligula (グラフ p. 104)

概観　冬期を通して出現。A, B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	内 ♂ 8 [2000]. ♂ 7 ♀ 7 [2003]. ♂ [2014].
5	1999–2013	♀ [1999]. ♀ 1 ♂ 3; ♀ 2 [2012].
10	1997–2013	
11	1999–2014	
12	1997–2014	♂ [2003]. ♀ [2010]. ♂♀ [2011]. ♂♀ [2013].
1	2003–2014	♂ 2 ♀ 2 [2014].
2	1998–2014	追加 [2004]. ♀ [2014].
3	1997–2014	♀ [2003].

所見　調査区内での分布はホシハジロと似て B 区に個体数が多いが、近年 A 区での確認数が微増しており分布が上流へ向かってやや北上している可能性もある。調査区全体としては個体数が増加傾向だが、2013 年には急激に減少している。秋期、B 区の久世橋 (10km 地点) 上流側にある天神川河口に約 40 羽が渡来して休息していたのが確認されている。D 区、E 区には冬季、生息の記録がない。なお、宇治川には生息している。

3.18　スズガモ Aythya marila (グラフ p. 105)

概観　冬期を通して出現。B, C 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2001–2009	識別困難、ホシハジロ♂と行動、スズガモ♂? [2009].
12	2010	

所見　調査区内で記録されることは稀。B 区のみで越冬期 (12–1 月期) の記録がある。調査外だが、桂川で♀ 1 羽の観察記録が 1 例ある。

3.19　ミコアイサ Mergellus albellus (グラフ p. 106)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2001–2004	
11	2001	
12	1997–2011	♂ ♀; ♀; ♀ [2000]. ♀; ♂ 3 、♀ 3 [2001]. ♂ 2 、♀ 4 [2003]. ♂; ♂ 2、♀ 4 [2005]. ♂; ♀ [2006]. ♂ 1 ♀ 3; ♂ 1 ♀ 2 [2009]. ♂× 1 ♀×; ♀ [2010].
1	1998–2014	
2	1998–2013	♂ 1、♀ 2; ♂ 1、♀ 1 [2001]. ♀; ♂ [2005]. ♂ 2、♀ 3 [2006]. ♀ [2008]. ♂ 3 ♀ 3 [2009]. ♀ [2013].
3	1997–2004	♂ 2 ♀ 2; ♂; ♀ [2003]. ♂、♀; ♂ [2004].

所見　調査区内では年により記録される個体数にバラつきがあるが、近年は個体数が減少傾向にある。A 区では 2007 年頃以降、越冬期 (12–1 月期) の確認記録が途絶えている。主に A 区の下流域である上野橋 (14km 地点) 付近から、B 区の上流域で記録され、特に B 区の中では水深の深い阪急電鉄の鉄橋付近 (13km 地点) に生息していた。この付近には釣り人が多く、ミコアイサは人に対して敏感に反応するので、減少の一因となった可能性もある。ただし、京都府全体でも個体数が減少傾向にあることから、減少の要因が桂川の環境や釣り人にあるとは限らないと思われる。なお、滋賀県の琵琶湖では確認個体数が例年 1000 羽を超えており、減少は認められない。

3.20　カワアイサ Mergus merganser (グラフ p. 107)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2013	♀ [2013].
7	2008	
10	2005–2007	オカヨシガモらと遊泳、採餌 [2005]. ♂ [2007].
11	2008–2012	越夏個体 [2008].

12	2004–2014	♀ [2004]. ♂ 2、♀ 9 [2007]. ♂ [2008]. ♂ [2011]. ♂④♀ 1 [2012]. ♀; ♂♀; ♂ 8♀ 1 [2013]. ♂ 3♀ 1; ♂ [2014].
1	2005–2014	♂ 8、♀ 6; ♂ 2、♀ 1 [2005]. ♂ 4、♀ 6 [2006]. ♀; ♂ [2014].
2	2006–2014	♀ [2006]. ♀; ♂ 2 、♀ 13 [2010]. ♂ 3♀ 2; ♂; ♂ 1♀ 3 [2012]. ♂ 1、♀ 2; ♂; ♂ 1、♀ 3 [2013]. ♂ 2♀ 1; ♂; ♂ 4♀ 4 [2014].
3	2004–2013	

所見　調査区内では 2005 年以降増加したが、それまで調査時には記録されていなかった。A 区の渡月橋上流で記録されることもあるが、主に松尾橋 (16km 地点) から嵯峨芸術大学 (17km 地点) 付近を往復しながら採餌する行動が観察されている。この際、顔だけを水中に突っ込んで移動しながら餌をとる行動がしばしば見られる。E 区の 0km 地点にも高い確率で生息が確認される。E 区の個体は、上流 A 区の個体とは別の群れの可能性もある。調査外だが B 区の JR 鉄橋 (11km 地点) 下流側でも観察されたことがある。桂川へ渡来するカモ類の中では渡ってくるのが遅い傾向がある。京都全体では増えている可能性があり、木津川にも生息している。なお、2008 年には越夏した個体が確認されている。

3.21　カイツブリ Tachybaptus ruficollis (グラフ p. 108)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C; 綺麗な夏羽 ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. ランク C [2003]. 鳴き交わし ランク B; キュルルコール ランク B [2004]. 鳴きかわし [2006]. 囀り [2014].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. ランク C; 声 ランク B; 巣確認。２羽巣上・抱卵中 ランク A [2002]. 鳴交わし ランク B; ♀♂。鳴交わし ランク B; 囀り ランク B [2003]. ヒナ 1 羽 [2005]. 北へ [2012].
6	1997–2014	ランク C; ランク A ヒナを連れていた [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; 巣確認。巣材運び・交尾 ランク A [2000]. ランク C [2001]. 親 1 、ヒナ 3 の家族。 ランク A; ランク C; 幼 1 ランク B; 親 1. 幼 2 ランク B [2002]. ランク C; ヒナ 2; 親 1 、子 3 [2003]. C; 鳴き交わし [2004]. うちヒナ 2 羽、背中に背負う [2005]. 浮草 造巣中 [2006]. 親子 [2009].
7	1998–2008	ヒナ 2 ランク A; ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 成鳥 1 幼鳥 1 ランク B; 囀り？ ランク B [2002]. 採餌 ランク C; 若鳥 ランク C; ランク C; 巣材掛け行動 ランク B; 鳴交わし。姿なし ランク B [2003]. 親子連れ [2004]. 声のみ [2005]. 親 1 子 1; 声 [2006]. 親 2 、子 2 [2008].
8	1997–2006	ランク C [1997]. ランク C; ヒナ 1 ランク A [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 成鳥と幼鳥 2 羽 ランク B [2001]. A1+J1、A1 ランク B; ランク C; 親子 ランク B; A2 草を浮遊物に置く行動あり ランク B; A1+J1 ランク B; A2 と別 A1 鳴交わし ランク B; 親子？ ランク B [2002]. ランク C; 若 ランク C [2003]. Ad：1 J：３首に白すじ残る個体; 若; Ad; 鳴き交わし [2004].

9	1998–2006	ヒナを背中に乗せて遊泳 (ヒナ 2 羽) ランク A; ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 浮き巣造営中 ランク A; 声 ランク B [2002]. ランク C [2003]. 幼 2 [2005].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 鳴交わし ランク B; 囀り ランク B [2003]. Ad 2 ランク J 2 中州の汀線で休息; 声のみ [2005].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. C ランク C; Ad ランク C; ランク C; Ad 2、J 2 ランク B [2002]. 成鳥 1、子 3 [2006]. 夏羽 [2012]. ミミカイツブリ？ [2014].
12	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 声のみ ランク C [2001]. ランク C [2002]. 0; 鳴き交わし [2004]. 求愛行動あり [2009].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; コサギはトコトコと歩き逃げ回る愉快な光景でした。ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. キュルルコール [2003].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 南へ [2004].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; キュルルコールあり ランク B [2002]. 鳴き交わし [2004]. 成鳥 2 若 1 [2005].

所見　調査区内では広く分布するが、B 区の 13km 地点前後が最も記録個体数が多い。夏には比較的個体数が少なく、冬に越冬のために渡来する個体が多い。調査区全体で見ると繁殖期 (4–5 月期、6–7 月期) の個体数は減少傾向にあり、その傾向は A 区、B 区、C 区で顕著である。一方、冬期の個体数の減少傾向は認められない。ただし、A 区では越冬期 (12–1 月期) の個体数はやや減少傾向にあった (2014 年度は再び増加)。越冬期の個体数は、B 区では大きな変化はなく、C 区ではやや増加している。D 区と E 区は記録される個体数が少なく、変化も顕著ではない。 なお、桂川 (調査区内) では流水域で浮巣が確認されている。

3.22　カンムリカイツブリ Podiceps cristatus (グラフ p. 109)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	夏羽 [2014].
5	1997–2011	夏羽 ランク C [2002]. 右翼が開かない様子。怪我か？ [2003].
6	1997–2014	
7	1998–2009	夏羽 [1998].
8	1997–2005	
9	1999–2006	夏羽 [1999].
10	1997–2011	
11	1997–2014	
12	1997–2013	南 [2003].
1	1998–2014	

2	1997–2014	ディスプレイ（向合って首振り、反らせる） [2003].
3	1997–2014	夏羽 [2005].

所見　2014 年度の越冬期 (2014 年 12 月–2015 年 1 月期) は個体数が多くなっているが、B 区、C 区のダブルカウントの影響がある。その影響を差し引いてもこの時は個体数が多かった。越夏している個体が 5 羽確認されていたが、徐々に減って現在 (2015 年 9 月) は 1 羽のみ確認されている。A 区で記録されることは少ないが、2015 年に松尾橋 (16km 地点) の上流で 1 羽が記録された。B 区では冬季平均すると約 7 羽程が例年生息しており、10km 地点前後やや下流よりで観察される。B 区内で近年減少した印象はない。E 区でも近年では 2015 年のみ確認された。桂川沿いに冬のなわばりはあるか否かについては確認されていない。

3.23　ハジロカイツブリ Podiceps nigricollis (グラフ p. 110)

概観　冬期を通して出現。B, C 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2005	単独で遊泳、採餌 [2005].
11	2009	
12	1999–2009	
1	2014	

所見　調査区内では稀であり、すべて単独の記録であった。滋賀県琵琶湖の近江今津沖では多く観察される。

3.24　キジバト Streptopelia orientalis (グラフ p. 111)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	巣材運び [2004]. 囀り; 囀り、不明鳥の「チッチツィツィチチジージー」 [2012]. 囀り; 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	1997–2014	巣あり ランク A [2002].
6	1997–2014	砂浴び [1998]. 囀り [2012].
7	1997–2014	囀り [2009].
8	1997–2009	A1 [2002]. アンテナ [2003].
9	1997–2012	テニスコートのフェンスで休息 [1998].
10	1997–2014	
11	1997–2014	
12	1997–2014	北へ [2006]. 北へ [2008].
1	1997–2014	
2	1997–2014	コロニー内 [1998]. ♀ [2014].
3	1997–2014	カラスの巣あり [2000]. 環境不確か [2010].

3.25　アオバト Treron sieboldii (グラフ p. 112)

概観　短期だが複数年度に出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2014	囀り [2014].
12	2006	
2	2000–2002	
3	2004	

3.26　カワウ Phalacrocorax carbo (グラフ p. 113)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	堰の上 [2001]. 南へ [2004]. 南へ [2005]. 南へ [2009]. 北へ; 阪急京都線すぐ南の中洲の木に営巣 [2010]. 中洲の木が伐採 [2014].
5	1998–2014	
6	1999–2014	アンテナ [2004]. ナマズを獲る [2005]. 営巣中 2 コ [2006]. 営巣中 [2007]. 小畑川河口の砂地を占拠？ [2008]. 北へ [2009]. 塒は 0 [2011]. 4 号井堰; 堰に止まる [2013]. 中洲の平坦化 [2014].
7	1997–2014	北へ [2008].
8	1997–2009	6k 点の竹林へ入る; 休息 [2004]. 南へ; 北へ [2005]. 今年繁殖した木 [2006].
9	1997–2012	上流→下流 [2001]. 下流に飛び去る [2003]. 上流へ飛ぶ [2004]. 竹林で休息 [2005]. フナをくわえる [2006].
10	1997–2014	竹林で休息 [2005].
11	1997–2014	採餌; コサギに攻撃されて飛び去る [2001]. 飛翔してきた個体は除く; 竹林へ消失 [2004]. ねぐらから飛び立つ [2006]. ムクノキ? [2012].
12	1997–2014	上流に向かう [1997]. 久我井堰堰上 [2000]. 南; ↑北; ↓ [2003]. 上流→下流→上流へ群れで移動; 休息 [2004]. 北へ; 南へ [2006]. 南へ [2008]. 南へ [2009].
1	1997–2014	休息; 流木に止まる [2003].
2	1997–2014	北へ [2004]. 南へ [2005]. 南へ [2008]. 北へ [2009].
3	1997–2014	繁殖羽 [2002]. 南へ [2003]. 竹林へ; 休息。カウント済飛来個体除く [2004].

所見　調査区内では調査が開始される前 (1987–1992 年頃) は、カワウは珍しかった。その後、調査区全域で見ると一旦個体数が増加し、その後減少傾向にある。上流部には個体数が少なく、8km 地点あたりまでが主な行動圏となっている。A 区には個体数少ない。B 区ではここ 1、2 年 JR 鉄橋の下流側 (10km–11km) で増えている。ここでは中州の木にとまっていることが多い。B 区では営巣 (ヒナ) も確認されたことがある。B 区と C 区の境にある久我井堰 (9km 地点) にて、堰の上で休息し、付近の深みで採餌を行うのが観察されている。C 区の 6km 地点にある竹林に大規模ねぐらがある。ねぐらにサギは全くおらず、カワウが独占し最大 200 羽以上 (京都府水産課のねぐら調査では夜間約 400 羽) が確認されており、ここから鴨川

まで採餌に出かけている可能性がある。5km 地点より下流 (D 区、E 区) で多数確認されているのは主に移動中の個体が確認されたものであるが、E 区の三川合流の洲で多数休息していることもある。山科区での観察では、琵琶湖から京都へのカワウの行き来が少なくなったように思われる。なお、2015 年 10 月に 6km 地点にあるねぐら (竹林) の伐採が始まり、一時中断されたが、春にはほぼ皆伐される予定である。

3.27 ヨシゴイ Ixobrychus sinensis (グラフ p. 114)

概観 短期だが複数年度に出現。B 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
6	2000	
11	1999	

所見 調査区内では稀。出現は常に単独で、1999 年 11 月調査時には、桂離宮 (12km 地点) 上流右岸側の寄州で確認された。京都府内では、過去に宇治川源内で繁殖していた。

3.28 ゴイサギ Nycticorax nycticorax (グラフ p. 115)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	幼鳥タイプ ランク B [1997]. コロニー内 ランク A; ランク C; 若 ランク B [1998]. ランク C [1999]. 1 羽幼鳥 ランク B [2000]. 北へ; 成鳥 [2004]. コロニー; 抱卵中 [2005]. 成鳥 [2011]. 枝をくわえて出入り頻繁 [2012]. 巣材運び [2013]. 営巣活動 [2014].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. 若 ランク B; ランク C; コロニー ランク A [1999]. 成鳥 21 羽 ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 成 1 、幼 2 ランク B [2002]. コロニー。巣材運び ランク A [2003]. 竹林 [2005]. 若 [2008]. 巣材運び [2011].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 成鳥 1 、幼鳥 2 . ランク B; 成鳥 1 、幼鳥 1 . ランク B; ランク C [2002]. 成鳥 [2003]. 北へ; 巣材を持つ; A [2004]. 成鳥; 南へ [2005]. 南へ; 若 [2010]. 成鳥; 若 [2011]. 幼鳥; 巣材運び、出入り活発 [2012]. 1 羽は若 [2013].
7	1997–2012	ランク C [1997]. コロニー内 (ヒナ 8 ＋羽確認) ランク A; ランク C [1998]. ランク C; 成鳥 : 5 羽、ヒナ 1 羽。 ランク A; 幼鳥 ランク B [1999]. ランク C; 成鳥 13 羽、ヒナ 44 羽 ランク A [2000]. ランク C [2001]. 成鳥 2 幼鳥 4 ランク B; ランク C; juv. ランク B [2002]. コロニー出入り ランク A; 幼鳥 [2003]. 若鳥; 若鳥 ホシゴイ [2004]. ホシゴイ; コロニー [2005]. 成鳥 [2006]. 枝 [2007]. 若; 巣材運び; 北へ [2008]. 北へ; 巣材運び [2009].
8	1997–2006	ランク C [1997]. ランク C; 幼鳥 ランク B [1998]. ランク C [1999]. ランク C; 幼? 若の個体 ランク B [2001]. A2、J3 ランク B [2002]. コロニー内 ランク B [2003].

9	1998–2005	ランク C; テトラポット ランク C [1998]. ランク C; 幼鳥 ランク B [1999]. ランク C; 下流より飛翔 ランク C [2000]. ホシゴイ ランク B; juvenile (若) ランク B [2001]. 幼鳥 [2004]. 幼鳥 1 、若 1 [2005].
10	1998–2005	ランク C [1998]. ランク C [2000].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; 幼 1 ランク B [1999]. 若 [2006]. アルビノ [2013].
12	2000–2012	ランク C [2000]. 若 [2012].
1	1998	ランク C [1998].
2	1998–2007	ランク C [1998].
3	2000–2004	ランク C [2000]. ホシゴイ [2003].

所見　調査区内では越冬期には個体数が少なく、繁殖期の個体数が多かったが減少傾向にある。これまで 3 ヶ所での繁殖が確認されている。堰で餌を採っている姿が見られるが、桂川では餌が採りにくいのではないかという指摘もある。B 区では 2005 年と 2006 年に繁殖確認されており、巣の写真も撮影された。2005 年 4 月 9 日に 90 羽が飛来し B 区の JR 鉄橋 (11km 地点) 下に降りるのが確認され、その後、B 区 10km 地点の久世橋北 (上流) の州で、アオサギと共同コロニーを作り営巣した。2006 年には糞により落葉樹の葉が枯れ落ち、2007 年の繁殖を開始後に営巣木が枯死して倒れ、繁殖は中断しコロニーは消滅した。同じく B 区の JR 鉄橋 (11km 地点) 下流側の中州の立木は以前ゴイサギのねぐらだった。C 区では現在 (2015 年の繁殖期) も名神高速道路の南側の竹林 (7.5km 地点) で繁殖が継続している。D 区の小畑川と桂川の合流点 (1km 地点) にもサギ類の繁殖コロニーがあり (環境は竹林と樹木)、過去にはゴイサギも含まれていたが、現在はコサギ、アオサギのみで、ゴイサギは含まれない。このコロニーの周りは近年伐採され、中心部は民地であるため樹林は残っているが規模は縮小している。全国的に個体数が減っている可能性が指摘されている。

3.29　ササゴイ Butorides striata (グラフ p. 116)

概観　夏期を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C; 初認 ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; 今年、初認 ランク C [2000]. ランク C [2002]. 初認 [2011]. 2 羽とも堰に止まる [2012].
5	2001–2014	ランク C [2001]. ランク C; 成 ランク C [2002]. 飛翔のみ ランク C [2003].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 成鳥 ランク C; アラカシの巣にヒナ 2 羽を飼育中。 ランク A; ランク C [2002]. 営巣中 [2003]. 餌取 [2005]. 北へ [2009]. 巣材運び [2011]. 6 号井堰 [2013].
7	1998–2013	文屋 ランク C; ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 幼鳥 [2005]. 成鳥、下流へ飛翔; 成鳥; 成鳥、上流へ飛翔 [2006]. 幼鳥; 幼鳥 1; 南へ [2008]. 成鳥 [2009].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 幼鳥 [2004]. 北へ [2005].

9	1997–2006	ランク C [1997]. ランク C [1998]. 幼鳥 ランク B; ランク C [1999]. ランク C; 幼鳥 ランク B [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
10	1998	ランク C [1998].

所見　調査区内では主に春から夏に確認されるが、個体数は減少傾向にある。B 区に近い西京極 (葛野大路通) で営巣していた個体が採餌のために飛来していたが、水道工事のため営巣地となっていた中央分離帯の街路樹を抜いたため、この繁殖地が消滅したことが個体数減少の一因である。A 区では上野橋 (14km 地点) 周辺で確認されることが多い。最近、A 区の松尾橋 (16km 地点) の東側に近い梅津にて、テレビのアンテナで営巣した事例がある。B 区では、桂大橋 (12km 地点) の 3 号井堰や桂大橋のあたりのテトラポット上で採餌しているのを確認している。以前は B 区と C 区の境、9km 地点の久我井堰で採餌しているのをよく見かけた。C 区では、2005 年に高水敷で 10 羽以上が記録されたことがあるが、例年それほど多く記録はされない。5km より下流 (D 区、E 区) には稀だが、単独個体が流水域に木のせり出したところで確認されることがある。なお、約 30 年前には西京極運動公園に数百単位の営巣があったが、その後、葛野大路へ営巣地が移動して消滅した。1995 年頃には、B 区に近い祥豊小学校の校庭の木に営巣したこともあるが継続していない。

3.30　アマサギ Bubulcus ibis (グラフ p. 117)

概観　夏期を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–1999	
5	2000–2014	
6	2001–2014	巣材運び [2012].
7	2000–2009	枝 [2007]. 東南へ巣材 [2009].
8	2003	コロニー内 [2003].
9	1998	
12	1999	

所見　調査区内では個体数が減少傾向にある。C 区の 7.5km 地点 (名神高速南側) でゴイサギと同じところにコロニーを作っている。巣そのものやヒナは確認できていないが、巣材 (枝) 運びまでは確認されており、2015 年の繁殖期にもコロニー内で確認されている。京都市内では巨椋干拓地に飛来するがどこで繁殖しているか不明である。宇治川のコロニーも最近営巣確認例がなく、個体は減少中である。

3.31　アオサギ Ardea cinerea (グラフ p. 118)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. コロニー内 ランク A; ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 南へ [2004]. 抱卵中; 南へ [2005]. 北へ [2009].

5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; コロニー 成鳥：36 羽、ヒナ：26 羽 ランク A [1999]. 成鳥：23 羽、ヒナ：6 羽 ランク B; ランク C [2000]. ランク C [2001]. 巣材を運ぶ ランク B; ランク C [2002]. コロニー。林内消失 ランク A; ランク C [2003]. 巣材運び [2004]. 竹林 [2005]. 巣材運び [2009]. 巣材運び [2011]. 北へ [2012].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥。 ランク B; 幼鳥 4 ランク B; ランク C; 幼鳥 2 ランク B; 成鳥 ランク C [2002]. 南へ [2005]. 巣材運び [2010]. 一羽は明らかに小さい [2012]. 4 号井堰; 堰に止まる; どちらも冠羽なし若; 若; ここから雨 [2013].
7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; コロニー内 (ヒナ 11 ＋羽，巣立ちヒナ 4 羽確認) ランク A [1998]. ランク C; 幼鳥 ランク B; 成鳥：1 羽、ヒナ：4 羽。 ランク A [1999]. ランク C; 成鳥：2 羽、ヒナ 14 羽 ランク A [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 幼鳥 [2004]. 親とヒナ; 南へ [2008].
8	1997–2009	ランク C; ねぐら？ ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 桂離宮 [2002]. 休息 [2004].
9	1998–2012	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 水面の岩の上 ランク C [2001].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
12	1997–2014	岩 ランク C; ランク C; ラジコンを気にする ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 対岸へ [2006]. 南へ [2008]. 北へ [2009].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; コロニー内 ランク A [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; サギコロニー：アオサギ巣数 100 ランク A [1999]. ランク C; 巣材を運ぶ ランク B [2000]. ランク C [2001]. 巣の中にすわる [2003]. コロニー 巣材運び [2005].

所見　調査区内では確認される個体数が多いが、やや減少傾向にある。B 区では、2005 年、2006 年に 10km 地点の久世橋 (10km 地点) 上流の州で、ゴイサギと共にコロニーを作って営巣したが、それ以降この場所での繁殖記録はない。B 区と C 区の境にある久我井堰 (9km 地点) の中州の樹木にとまって日中、休息しているのが確認されていたが (繁殖はせず)、現在は伐採されて消失してしまった (2013 年以降)。C 区の 7.5km 地点、名神高速南側にも繁殖コロニーがあり、現在も継続して繁殖している。D 区は繁殖期 (4–5 月期) の減少傾向が明らかであるが、これは 1km 地点、小畑川と桂川の合流点 (右岸) にあった繁殖コロニーが近年周辺を伐採され、営巣数が減少したことが一因と考えられる。かつては非常に多くの個体が繁殖していた (佐々木凡子 2001 Strix 19 巻: 146–169 によれば 250–300 羽)。営巣数は減少したが、コロニーは残っており、2015 年も少数が繁殖している。調査区内では 1 月頃から巣作りを始めるのが確認されている。

3.32　ダイサギ Ardea alba (グラフ p. 119)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; コロニー内 ランク A [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 南へ [2009]. 枝くわえ [2014].
5	1999–2014	ランク C; コロニー ランク A [1999]. 成鳥 : 8 羽 ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. ランク C [2003]. 竹林 [2005]. 巣材運び上流へ [2011]. 北へ [2012]. 数は 1? [2014].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 若鳥 ランク B; 幼鳥 ランク B [2002]. 北へ [2009]. 巣材運び; 出入り活発 [2012]. 4 号井堰; 堰に止まる; コロニーは活発 [2013].
7	1997–2014	ランク C [1997]. コロニー内 (ヒナ 5 ＋羽確認) ランク A; ランク C [1998]. ランク C; 成鳥 : 2 羽、ヒナ : 3 羽。 ランク A [1999]. ランク C; 成鳥 : 4 羽、ヒナ 7 羽 ランク A [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. コロニー出入り ランク A [2003]. 浅瀬 [2006]. 枝 巣材; 枝 [2007]. 北へ [2008].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 6k 点の竹林へ入る [2004].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. 南へ [2009].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. チュウダイサギ ランク C; ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
12	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; コンクリートブロック ランク C [2000]. ランク C; 夜間はコサギと 8 0 羽以上の塒地点 ランク C [2001]. 北へ; 後で南へ [2009].
1	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 通過 [2005].
2	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].

所見　調査区内では個体数が増加傾向にあったが、近年急に減少した。この傾向は特に冬期に顕著である。A 区、B 区、C 区では、いずれも 2009 年前後から越冬期 (12–1 月期) に個体数が急増したが、近年減少した。2009 年、2010 年に大規模な樹木の伐採があり (主に D 区下流域)、樹木にとまって休息していた個体が水面など開けた場所に出ざるを得ず、確認される機会が増えたのが一因とも考えられている。また、同年は宇治川でも大規模な樹木の伐採があり、このため宇治川からの移動個体が多く確認された可能性もある。C 区の名神高速道路南側 (7.5km 地点) の繁殖コロニーで現在も繁殖が確認されている。D 区の小畑川合流点 (1km 地点) のコロニーでも繁殖していたが、現在は減少している。

3.33　チュウサギ Egretta intermedia (グラフ p. 120)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–1998	ランク C [1997]. コロニー内 ランク A [1998].
5	1999	ランク C [1999].
6	1999–2014	ランク C [1999]. ランク C [2000].
7	2003–2005	
8	1997–2003	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999].
9	1999–2000	ランク C [1999]. ランク C [2000].
10	2000	ランク C [2000].
11	2003	
12	2003	

所見　調査区内では記録される個体数が少ない。これは桂川には草地など、この種が好む環境がないのが一因と考えられる。水に入るのをあまり好まない習性があると思われる。2000 年頃には高水敷で確認されているが、付近で繁殖していた否かは不明である。8–9 月期には移動中の個体と思われる確認例があったが、現在は 8–9 月期には調査が行われないことが多いので確認されなくなっている。

3.34　コサギ Egretta garzetta (グラフ p. 121)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; コロニー内 ランク A; 1 羽繁殖羽足赤色 ランク B [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 南へ [2005]. 足がオレンジ [2012]. 営巣活動 [2014].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; コロニー ランク A [1999]. 成鳥：4 羽 ランク C; ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. コロニー。 ランク A; ランク C [2003]. 竹林 巣材運び [2005].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 若鳥 ランク B; 幼鳥 ランク B; ランク C; 幼鳥 1 ランク B [2002]. 北へ; 南へ [2005]. 巣材運び [2010]. 巣材運び [2011]. 出入り活発 [2012].
7	1997–2014	ランク C [1997]. コロニー内 (ヒナ 5 ＋羽，巣立ちヒナ 2 ＋羽確認) ランク A; ランク C [1998]. ランク C; 水たまりに取り残された魚を狙う ランク C; 幼鳥 ランク B; 成鳥 8 羽。 ランク C [1999]. ランク C; 成鳥：4 羽、ヒナ 12 羽 ランク A [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. コロニー出入り ランク A [2003]. コロニー [2005]. 浅瀬 [2006]. 巣材運び [2008].
8	1997–2006	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. コロニー内 ランク B [2003]. 休息 [2004]. 北へ [2005].
9	1997–2010	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 浅瀬 [2003]. 人工物は和船 [2004].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. 北へ [2009].

11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 餌取りするカワウに執拗な攻撃をする ランク C [2001]. オオタカに捕獲される [2004].
12	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. 久我井堰堰上 ランク C; ランク C [2000]. ランク C [2001]. 1 羽は採餌 [2002]. ↓; 南 [2003]. 後で南へ; 北へ [2009].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; カイツブリ 16 羽がこのコサギを追いかけ続けていた。ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2001].
2	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 北へ進記 [2004].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. 距離記録なし [2011].

所見　調査区内では上流部で多く記録される傾向がある。個体数は減少傾向にあったが、最近 (ここ 1、2 年) は再び観察されるようになった。川の水深が 2013 年の台風で浅くなったことにより、採餌場所として適するようになった可能性が指摘されている。1999 年より前は、西大橋 (13.5km 地点) の下流が河原になっていて水深が浅く、水深が深いところを好むダイサギ、アオサギは少なくコサギが多く確認された。同じ場所ではシギ・チドリ類も観察された。その後、ワンド状で水深が深くなり、川岸からすぐ流水となったため、コサギの採餌には適さなくなった。A 区の渡月橋付近 (18km 地点) は、以前は橋から飛び込んで泳げるほど水深が深かったが、現在は浅く、コサギの採餌に適している。1999 年頃は下流部にコサギのコロニーがあったが調査データには表れていない。C 区の名神高速道路南側久我橋付近 (7.5km 地点) の繁殖コロニーで現在も繁殖が継続確認されている。

3.35　クイナ Rallus aquaticus (グラフ p. 122)

概観　冬期を通して出現。A, B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
5	2009	
11	2003–2006	
12	1998–2003	
1	1998	
2	2000	
3	1999	

所見　調査区内では稀にしか記録されず、2010 年以降は記録されていない。出現する場所の傾向も特にない。A 区の苔寺川の河口 (15km 地点) や B 区の桂大橋左岸 (12km 地点) などで確認されたことがある。E 区では記録されたことがない。

3.36　バン Gallinula chloropus (グラフ p. 123)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2010	
5	1997–2005	
6	1997–2002	
7	2002	幼鳥 ランク B [2002].
8	1997–2005	幼鳥 [2005].
9	2001–2006	
10	1997–2010	juv; 内 1 j u v [2007]. 幼鳥 [2009].
11	1997–2014	幼鳥 ランク B [1997]. 若 1 ランク B [1999]. 若 [2006].
12	1997–2012	Ad3 羽、J2 羽 ランク B [2001]. 幼鳥 [2002]. 幼 [2007].
1	1998–2014	
2	1997–2012	成鳥 1 若 1 ; 成鳥 1 若 1 不明 1 [2003].
3	1997–2005	

所見　調査区内では個体数が減少傾向にあり、特に冬期の個体数は大きく減少している。繁殖期に記録される冬期に比べると少ない。A 区では 2010 年以降記録がなくなり、D 区、E 区では調査開始以来一貫して記録は稀である。B 区、C 区では不連続ではあるが記録が続いており、特に B 区の 10km–11km 地点で確認されることが多い。

3.37　オオバン Fulica atra (グラフ p. 124)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2010	
5	2012	ヌートリア [2012].
6	2009	
10	2000–2013	
11	1997–2014	
12	1998–2014	
1	2003–2014	
2	2003–2012	
3	2001–2014	

所見　調査区内では急に個体数が増加したが、2014 年度には減少に転じている。観察の印象としては 2013 年の台風の後は個体数が減少したが、調査データには反映されていない。急増の後、近年減少したパターンはヨシガモと似たところがある。A 区、E 区は個体数が少ない。A 区では嵯峨芸術大学前 (17km 地点) で 2 羽確認されたことがあるが、例年ここで観察されることはない。B 区、C 区の 7km–13km 地点では比較的多く確認され、特に B 区の JR 鉄橋の南 (下流) 側 (10km 地点付近) で多く確認された。繁殖の確認はされていない。右京区大沢池でも近年個体数が増加した。

3.38　ホトトギス Cuculus poliocephalus (グラフ p. 125)

概観　夏期を通して出現。A, D, E 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
5	2004–2005	
6	1999–2013	囀り [2009]. 声 [2013].
7	2006–2014	

所見　調査区内では個体数が一旦増加したが、その後減少している。下流部で比較的多く記録されている。樹林に近いところで確認されることが多い。A 区では、樹林のある亀山公園 (19km 地点左岸) から飛来した個体が確認されていると思われる。B、C 区では確認例がなく、D 区でも確認例はわずかである (D 区は調査が各期の後半に実施されることが多いのが確認例の少ない一因と考えられている)。E 区では記録される個体数が比較的多かったが、近年減少している。

3.39　ツツドリ Cuculus optatus (グラフ p. 126)

概観　短期だが複数年度に出現。A, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2007–2013	囀り [2013].
5	2008	囀り [2008].
9	1998	

所見　調査区内で記録されることは稀である。A 区で春期 (4–5 月期) に記録されることがある。E 区では、秋に合流地点の背割堤のサクラで毛虫を食べているのがしばしば観察されているが、調査時に確認されることは稀で、記録はごく少数となっている。

3.40　カッコウ Cuculus canorus (グラフ p. 127)

概観　夏期を通して出現。D, E 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
5	1999–2007	
6	2002–2003	
7	2001–2006	
9	2004	

所見　調査区内で記録されることは少なく近年は記録されていない。D 区と E 区の樹林帯 (0–5km 地点) に毎年来ていたが、2008 年に樹林が伐採されて林の面積が小さくなって以降、確認されなくなった。現在全く声を聞くことはない。

3.41　ハリオアマツバメ Hirundapus caudacutus (グラフ p. 128)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2009	

所見　調査区内では春期に 1 例のみ確認されている。これは、A 区に隣接する松尾大社 (16km 地点) 付近から北へ飛翔したのを確認したものである。タカが渡りをする時期に、高空を多数通過するので、記録された個体は、そのうち 1 羽が低く飛んだのものだろうと推測されている。

3.42　アマツバメ Apus pacificus (グラフ p. 129)

概観　夏期を通して出現。C, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2010	
6	2002	
9	2004	
10	2000	

所見　調査区内では稀に記録されるが、主に渡り途中の通過個体と思われる。C 区で春期 (4–5 月期) に 6 羽を確認した時は、比較的低空を飛翔した。E 区で 6 月に 1 羽確認されたのは珍しい記録である。

3.43　ヒメアマツバメ Apus nipalensis (グラフ p. 130)

概観　短期だが複数年度に出現。C, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
1	2003	
3	2004	

所見　調査区内では稀に記録されるのみで迷鳥に近い。

3.44　タゲリ Vanellus vanellus (グラフ p. 131)

概観　冬期を通して出現。B, C, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2013	
11	1997–2001	
12	1998–2001	
1	1999–2005	
2	1999–2006	

所見　調査区内ではかつて個体数が比較的多かったが激減し、現在では確認されることは稀である。過去には、畑地で採餌しており、B 区の 10km 地点前後にある井堰左岸の畑で確認されることが多く、C 区でも堤外地の畑で確認された。A 区と B 区の境、西大橋 (13.5km 地点) の右岸の畑でも観察されていたが調査時には確認されていない。2002 年までは連続して確認されており、5–6 羽の群れが観察されることが多かったが、畑地が減少するのよりも早くに確認されなくなってしまった。10–2 月の越冬期にはヒドリガモと一緒にいるのが確認されていた。

3.45　ケリ Vanellus cinereus (グラフ p. 132)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	親 2、ヒナ 4. [2004]. 内ヒナ 3 羽 [2006]. カラスにモビング [2007]. 北へ; トビにモビング [2009]. ヒナ 2 羽 [2010]. 砂礫地に座っている、抱卵中？ [2013]. 威嚇の声を上げて何度も飛び上がる [2014].
5	1997–2014	
6	1999–2014	幼 3 ランク B [2002]. 幼鳥？ [2005]. カラスに代わってトビにモビング; 成長 1：ヒナ：2 [2011]. 動き回って餌取り中の様子 [2012].
7	1998–2008	
8	1997–2003	
9	1999–2010	
10	1997–2014	
11	1997–2008	
12	1998–2014	
1	1998–2014	
2	1997–2013	北へ [2008]. 北へ [2009].
3	1997–2013	

所見　調査区内では A 区と B 区の境、西大橋 (13.5km 地点) の畑で確認されることが多い。B 区には現在も生息しているが、C 区は近年減少している。畑地の消失が一因の可能性がある。1986–1992 年頃には、A 区の西大橋 (13.5km 地点) と上野橋 (14km 地点付近) の間で繁殖の可能性があった。近年、北嵯峨付近ではケリの個体数が減少していることが指摘されているが、広沢池では正月後の水抜きの後に約 30 羽の群れが見られることがある。

3.46　ムナグロ Pluvialis fulva (グラフ p. 133)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998	

所見　調査区内では A 区で 1 例のみの記録がある。位置データは欠測となっている。

3.47　イカルチドリ Charadrius placidus (グラフ p. 134)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. 1 羽抱卵 ランク A; ランク C; 1 羽巣立ちヒナ ランク A [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. ヒナ 1 [2010]. 成鳥 2、ヒナ 1（砂利山の後ろにもヒナが居るかも）; 昨年同様ホテル嵐山跡砂礫地に飛び込む [2011]. 孵ったばかりのヒナ; 周りを警戒する成鳥 [2013].
5	1999–2014	ディスプレイ？ ランク B [1999]. ランク C [2001]. ヒナ 2 羽は給餌後親の翼下に隠れた; 威嚇行動を受ける、繁殖あり？ [2005]. 場所付け落ち [2012]. 抱卵 [2014].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 4 羽でディスプレイ飛翔 [2007]. 囀り飛翔 [2009]. 繁殖失敗で放心状態か、直立不動静止; 鳴き声盛ん、ヒナ探すが確認出来ず。 [2012]. 成鳥 1、幼鳥 2（4 月に確認のヒナかも‥）; 成鳥 2、孵化後 4 ～ 5 日目ぐらいのヒナ 2 [2013].
7	1997–2013	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1999].
9	1997–2008	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2002].
10	2003–2014	採餌 [2005]. ハクセキレイにモビング [2014].
11	1997–2014	ランク C; 上流から 6 ケ目のワンド ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 羽束師橋歩道橋工事中 ランク C [2001]. ランク C [2002].
12	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
1	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
2	1998–2013	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 2 羽で鳴き交わす [2012]. 囀り; ソングとディスプレイフライト [2013].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000].

所見　調査区内では A 区の西大橋 (13.5km 地点) と上野橋 (14km 地点) の間で繁殖しており、個体数も比較的多かったが、最近減少傾向にある。15km 地点前後でも良く確認される。B 区では個体数が増加しており、ここ 3、4 年よく見る。C 区では鴨川と合流点 (16km 地点) に中州があり、そこで確認される。近年 B 区や C 区で個体数が増加したのは、河川工事により砂礫地が増えたことによると推測されている。なお、B 区では過去にはコチドリの方が多く、イカルチドリが増えたのは近年のことである。B 区では、桂大橋 (12km 地点) より下流や JR 鉄橋 (11km 地点) より下流に 2013 年の台風後、大きな砂礫地ができた。水量が減ったことによって砂礫地が露出しやすくなった可能性もある。また、A 区の上野橋 (14km 地点) 上流にも土砂が流入している。

3.48　コチドリ Charadrius dubius (グラフ p. 135)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; 1 羽全体に色薄く、ツグミを追い払う ランク C [2000]. ランク C [2001]. 抱卵 [2013].
5	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 採石場で営巣? ランク A; ランク C [2002]. 繁殖・コンクリート広場に 2 羽、繁殖行動 [2004]. 抱卵 [2007]. 記録には 1 だが 2 と言ってたようなキロクイ [2010]. 南へ [2012].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 1 羽が抱卵中 [2005]. 子育て中 [2007]. ヒナ 1 羽 [2008]. イカルチドリ? [2013].
7	1998–2012	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. 親 2、幼鳥 4 繁殖か [2005]. 帰りにヒナを発見、親子と判断; 前出のヒナ・親が警戒、後を追う [2006]. 抱卵 [2008]. 親子 [2009].
8	1997–2000	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000].
9	2000–2005	ランク C [2000].
10	2010–2014	
11	1997–2006	ランク C [1997].
1	1998–2004	ランク C [1998].
3	1997–2003	ランク C [1997]. ランク C [2001].

所見　調査区内では下流側に比較的個体数が多いが、最近はコチドリよりイカルチドリが観察されやすくなってきている。D 区で個体数が減って現在では記録されなくなっている。D 区には現在も畑があるので、生息している可能性は残っているかもしれない。

3.49　シロチドリ Charadrius alexandrinus (グラフ p. 136)

概観　夏期を通して出現。B, C, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2014	不確実な同定 [2014].
7	1999	
8	1997	
9	1999	
1	1997–1999	

所見　調査区内では下流側に比較的個体数が多かったが、現在では減少して全く確認されなくなっている。木津川では繁殖記録があり、そのために隣接する E 区に生息していたのかもしれない。E 区では背割堤先の大きな州で 13 羽が越冬していたことがある。淀川牧野あたりにはかつて比較的多く生息しており、大阪湾や三重 (津–四日市の砂丘) には現在も生息している。

3.50　タシギ Gallinago gallinago (グラフ p. 137)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2013	野焼き跡 ? [2002]. 他のジシギ? [2007].
5	2002–2014	
9	2005–2006	
10	2003–2005	
11	2000–2007	
12	1999–2003	
1	1999–2002	
2	2000–2010	
3	2002–2007	

所見　調査区内では春と秋の渡りの時期に通過個体が少数が記録される。越冬期の記録は少ない。A 区の渡月橋下 (18km 地点) の草が生えた中州でしばしば確認されたが、この中州は現在樹木も草もなくなっている。B 区では桂大橋 (12km 地点) 下流の大型中州で記録されたが、樹木が伐採されて以降確認されなくなった。

3.51　チュウシャクシギ Numenius phaeopus (グラフ p. 138)

概観　短期だが複数年度に出現。B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2012	「ホロホロホロ」左岸から右岸、また左岸 [2012].
5	2000–2011	川を横断して東へ飛翔 [2002].

所見　調査区内では春の渡りの時期、稀に少数 (1–3 羽) が記録される。迷行に近い生息状況である。

3.52　アオアシシギ Tringa nebularia (グラフ p. 139)

概観　短期だが複数年度に出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2006	
8	1997	
9	2010	
10	2005–2014	採餌 [2005]. 冬羽 [2014].
11	2005–2008	

所見　調査区内では秋の渡りの時期、稀に少数 (1–3 羽) が記録される。春の記録は 2006 年 4 月に 1 例のみ。1997 年、調査を始めるより前には比較的多く見られた。

3.53　クサシギ Tringa ochropus (グラフ p. 140)

概観　冬期を通して出現。C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–1998	
5	2002	
9	1998	
10	2003	
11	1999	
1	2007	
3	2001	

所見　調査区内では 9 月に渡来するが、過去の記録はごく少なく、近年は記録されていない。D 区では比較的多く確認されていたが、現在は確認されなくなっている。

3.54　タカブシギ Tringa glareola (グラフ p. 141)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997	

所見　調査区内では春期に A 区で 1 例が記録されたのみ。

3.55　キアシシギ Heteroscelus brevipes (グラフ p. 142)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2000	
5	1997–2013	
9	1999–2001	

所見　調査区内では主に春期に時々記録されるのみ。A 区の渡月橋下 (18km 地点) や、B 区との境の西大橋付近 (13.5km 地点) で確認されたことがある。

3.56　イソシギ Actitis hypoleucos (グラフ p. 143)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]．ランク C [1998]．ランク C [1999]．ランク C [2000]．ランク C [2001]．ランク C; 3 羽が争いながら飛ぶ ランク B [2002]．東へ [2007]．囀り [2014]．
5	1997–2014	ランク C [1997]．ランク C [1998]．ランク C [1999]．ランク C [2000]．ランク C [2001]．ランク C [2002]．石の上を歩きながら採餌 ランク C [2003]．

6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
7	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; 幼鳥 ランク B [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; A1+J1 ランク B [2002]. 汀線を歩行 [2003].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 若鳥 ランク B [2001]. 幼鳥 1 羽 ランク B; ランク C [2002]. 若鳥 3 [2003]. テトラブロック; テトラポット [2004].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 石の上 [2003]. 渡り個体とテリトリー争い？激しく舞う [2011].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 岩 [2003]. ホテイアオイ [2008].
12	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 北 [2003]. グランドへ [2006]. 囀り? [2008].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 汀線 [2003].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 橋桁; 南へ [2008].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].

所見　調査区内では全域で記録されるが、やや上流部に多い傾向がある。調査区全体としては個体数がやや減少傾向にある。A 区渡月橋の堰では頻繁に確認される。B 区では調査時に全く確認されない時もあるが、通常は比較的多く記録され、特に冬期は多く確認される。

3.57　ハマシギ Calidris alpina (グラフ p. 144)

概観　冬期を通して出現。A, C, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–1998	
11	1997–2008	今期初認 [2003].
12	1999–2011	
1	1998	
2	1997–2006	
3	1997–2004	

所見　調査区内では主に上流部に生息していたが、激減して現在は記録されなくなっている。A 区の渡月橋の真下の大きな砂礫地 (18km 地点) やそれより上流の右岸、松尾橋 (16km 地点の下流) あたりで確認されていたが、現在は生息していない。15km 地点より少し下流にも少数だが記録があるが、定着してないかった。A 区と右京区広沢池を行き来しており、正月過ぎに広沢池の水が抜かれると広沢池へ移動していた。西大橋 (13.5km 地点) 上流が砂礫地になっていた時代があり、そこにハマシギやミコアイサが生息し

ていたが、その後、樹木が生えて陸化した。2013 年に西大橋上流堰のところで観察されたが、調査時には確認されなかった。なお、2000 年頃にはすでに鴨川にも生息しなくなっていた。

3.58 ユリカモメ Larus ridibundus (グラフ p. 145)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2010	北へ [2003].
5	1997–2004	
7	2005	
10	1998–2011	南下 [2007]. 北上 [2010]. 高空を旋回しながら川沿に北上 [2011].
11	1997–2012	A区間では今期初認。 [2003].
12	1997–2014	中州がとられ、石が山に積まれている上; 杭; 上流に向かう [1997]. 下流から上流に向かって飛ぶ [2001]. 南; ↑北 [2003]. 北へ [2006]. 南へ [2008]. 鉄塔; 北へ [2009].
1	1997–2014	通過 [2005].
2	1997–2010	南へ [2004]. 22 と同じ [2006].
3	1997–2002	

所見 調査区内では個体数が減少し、ここ数年は確認されていない。多いときは B 区と C 区の境にある久我井堰 (9km 地点) で最大 800 羽を確認し、B 区の久世橋 (10km 地点) 付近にも多く生息していた。ねぐらである大阪湾から日の出直後に上流へ北上する習性があった。鴨川などで餌を与えなくなったのが、減少の一因と推測されている。

3.59 ウミネコ Larus crassirostris (グラフ p. 146)

概観 短期だが複数年度に出現。B, C, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
6	2001	
10	2009–2013	
11	2005	

所見 調査区内では稀にしか記録されない。空中を通過することが多いが、桂川へ降りることもある。

3.60 カモメ Larus canus (グラフ p. 147)

概観 一年を通して出現。A, C, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
6	2001	
11	2002–2012	
12	2001	
1	2001–2014	

2	2007	
3	2000–2009	

所見　調査区内では稀にしか記録されないが、ウミネコより多く確認されている。記録は、すべて空中を通過したもの。

3.61　セグロカモメ Larus argentatus (グラフ p. 148)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–1999	
7	2005	
8	2003	
10	2004–2013	
11	2003–2014	
12	1999–2009	
1	1997–2014	
2	2002–2008	
3	1999–2001	

所見　調査区内では少数が記録されるのみ。ユリカモメの群れに入っている時がある。B 区と C 区の境目の久我井堰 (9km 地点) にとまっていたことがあった。

3.62　オオセグロカモメ Larus schistisagus (グラフ p. 149)

概観　短期だが複数年度に出現。C 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
7	2002	
3	2001	

所見　調査区内では 2 例のみが記録されている。いずれも空中を通過したもの。

3.63　コアジサシ Sterna albifrons (グラフ p. 150)

概観　夏期を通して出現。A, B, C, D 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2003	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2002].
5	1999–2003	ランク C [1999]. ランク C [2001]. 堤のコンクリート部で休む ランク C; ランク C [2002]. 堰の上で休息 ランク C [2003].
6	1997–2003	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2001]. ランク C; 求愛給餌 ランク B [2002].

7	2002	ランク C [2002].

所見　調査区内では個体数が激減し、2005 年以降記録されなくなっている。調査区内に繁殖コロニーは確認されていない。A 区から C 区の間の 8–15km 地点に記録がある。B 区と C 区の境、久我井堰 (9km 地点) に 2 羽でとまっているのがしばしば確認された。10 年ほど前まで、右京区広沢池では親鳥が幼鳥にエサの捕り方を教える様子が良く見られた。

3.64　ミサゴ Pandion haliaetus (グラフ p. 151)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999–2014	
5	1999–2014	
6	2004–2009	
7	2003–2006	
8	2004	Ad ♂ 下流へ飛翔 [2004].
9	2001–2010	流木 (堆積) の上に [2002]. ♂; 別個体 [2003].
10	2000–2014	成鳥、♀。下流へ飛翔 [2003]. ♂; 低水路に沿って北へ飛翔 [2005].
11	1997–2014	魚 [2006]. 魚を捕食、きょきょきょ [2014].
12	1998–2013	魚を捕食 [1998]. Ad・♂ 探鳥会でも同一個体確認の可能性有 [2001]. 10:44 ウグイ捕獲 [2007]. 魚 [2009]. ♂; ♀ [2013].
1	1999–2014	♂ [2002]. ♀ Ad と思われる。上流へ飛翔。; 上流へ飛翔 [2005].
2	2000–2013	中州近くで魚を獲って下流へ [2010]. つがい [2013].
3	1999–2013	♂成鳥 [2001]. ♂ [2002]. ♂、二回出現、二度目は餌を持つ。 [2003]. 川下より飛来し広範囲移動後川下へ飛翔 [2004]. 上流へ飛翔 [2005].

所見　調査区内では全域に記録があり、個体数は増加傾向にあるが、2011 年度には一時減少した。最下流部の工事が一因である可能性が指摘されている。下流部の方が個体数が多い。同時に確認されたのは 3 羽が最大である。河川沿いに広範囲を飛翔移動して探餌行動をするため、隣接区間で重複してカウントする場合がある。隣接 2 区間合計で 10 羽の記録があっても、実数は半分程度と推測されている。上流部の A 区では記録が少ないが、2015 年には嵯峨芸術大学 (17km 地点) 付近で確認されている。

3.65　ハチクマ Pernis ptilorhynchus (グラフ p. 152)

概観　単年度だけに出現。D 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
9	2004	タカ柱 [2004].

所見　調査区内では D 区で秋季 (9 月) に 1 例のみが記録されている。A 区では 5 月に松尾大社裏山から東へ飛んで行く渡り個体が観察されるが、調査時には確認されていない。また、E 区でも北側にある天王山へ向かって渡るのを観察できることがあるが、やはり調査時に確認されたことはない。

3.66 トビ Milvus migrans (グラフ p. 153)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	カラスに追われる ランク C [1997]. 北へ [2004]. 繁殖中♀1羽、ＪＵＶ2羽 [2009]. 阪急京都線すぐ南の中洲の木に昨年と同じところで営巣; 抱卵中 [2010].
5	1997–2014	モビングされる [1999]. 営巣中、親2羽近くで警戒、ヒナの頭が見える ランク A [2003].
6	1997–2014	ハシボソガラスがトビにモビッグ [2010]. チョウゲンボウのモビングを受ける [2013].
7	1998–2014	カラスとモビング [1999]. 魚を食べながら [2009].
8	1997–2006	
9	1998–2011	
10	1997–2014	ハシブトガラスにモビングされる [2010]. 浅瀬でジッと立つ [2014].
11	1997–2014	鴨川側にモズ [2014].
12	1997–2014	左岸中洲伐木 [2007]. 北へ [2008].
1	1997–2014	
2	1997–2014	コロニー内 [1998]. 木に止まるカラス3羽にアタック [2009].
3	1997–2014	パーチ [2005].

所見 調査区内では全域で記録されるが、春期 (4–5 月) や夏期 (6–7 月) に記録される個体数は減少傾向にある。夏期より冬期に多く記録される。中州に降りている姿を確認することもある。A 区では中州で繁殖しており、B 区でも繁殖を確認している。C 区では一時期より減少傾向にあるが、これは伐採により、とまり木がなくなったのが一因かもしれない。桂川でもトビがパンを取りにくるという行動が観察されている。

3.67 チュウヒ Circus spilonotus (グラフ p. 154)

概観 冬期を通して出現。D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2000	
1	2001	Ad? [2001].

所見 調査区内では D 区、E 区でそれぞれ 1 例 (いずれも 1 羽) のみが記録されている。京都府内で本種の記録は少ない。

3.68 ハイイロチュウヒ Circus cyaneus (グラフ p. 155)

概観 冬期を通して出現。D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2001	
1	1997–2013	
3	1997–2007	♀タイプ [1999]. ♀若 [2001].

所見　調査区内では稀に記録されるのみであるが、チュウヒより確認例は多い。下流域で確認されることが多く、D 区と E 区で記録されている。E 区では小畑川河口 (1km 地点) のサギコロニー付近で比較的良く記録される。調査区より下流の淀川に多いが、近年は観察例が少なくなっている。

3.69　ツミ Accipiter gularis (グラフ p. 156)

概観　冬期を通して出現。A, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2006	ノスリにモビング [2006].
12	2000	

所見　調査区内では A 区 (11 月) と E 区 (12 月) での 2 例のみが記録されている。

3.70　ハイタカ Accipiter nisus (グラフ p. 157)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2010	
5	2011	
9	2006	
10	2003–2013	成鳥、♀ [2003]. ハシブトガラスのモビングを受ける [2013].
11	1998–2012	♂ Ad？：調査終了後サギコロニー付近上空; ♀年齢不明 [1999]. U ランク U; U ランク U [2000]. おそらく 141 と同一 [2006]. オオタカ? 水浴び [2012].
12	1997–2011	スズメを捕食; カラスに追われる; 竹林消失 [1997]. 衣手神社付近に急降下; J・♂ 止りから鴨川方面へ [2001]. A ♀ ハンティングに失敗して柳に止まった。 [2002]. 高水敷の柳から飛び出して低空で山手へ [2004].
1	1997–2014	♀？J [2000]. ♀若?Ad？。; ♂。カラスに追われる。; ♀幼鳥?若。両翼欠なし; ♀若?Ad？。両次列にスリットあり; ♀年齢不明 [2005].
2	1997–2010	騒ぎ立てるカラスを嫌ったか遠巻きして去る [2010].
3	1999–2014	コガモハンティング、失敗。 [1999]. ♀ [2004].

所見　調査区内では全域に記録がある。2005 年度には記録された個体数が多かったが、最近はやや減少している。中州の樹木にとまっていることが多い。低木にとまっていたこともある。

3.71　オオタカ Accipiter gentilis (グラフ p. 158)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999	
5	1999–2011	ハシブトガラスにモビングされる [1999].
6	2000–2012	成鳥♂、カラスのモビングを受けて東へ; ドバトの群を追う。 [2002]. 上空 10m を下流 SSE 方向に全速で飛去 [2012].
7	2006–2010	
8	1999–2002	幼鳥。ハシボソガラス 2 羽に追われる。 ランク B [2001].
9	2002–2006	成鳥♀ [2002].
10	2001–2011	♀。カラスに追われる; ？ [2003]. Ad 旋回後東へ流れる [2005]. 北へ [2009].
11	1998–2012	♀，Ad; ♀？J ランク B [2000]. I ♀ カラスに追われる; A ♀; カラスに追われる [2002]. A ♀ コサギをハンティング [2004]. 瀬 [2012].
12	1997–2013	幼鳥 ランク B [1997]. 上流方向へ向かう [2000]. Ad・♀ 左口元に血痕らしきものあり。狩の後か？; Ad・♀; 食事を終えたのか羽ばたきながら山へ [2001]. 成鳥♀ [2002]. ♂、小鳥ハンティングに失敗 [2003]. ♂、カラスを蹴散らして市街地に向かった; 幼鳥ｏｒ若 ハシブトガラスに追われる [2004]. ♂、ハンティング行動を繰り返す [2005]. 幼; 成; 後でドバトをハンティング; 水面ぎりぎりを上流へ [2006]. 縦班; ドバト３０羽ほどの群に突っ込むが失敗。; 縦班 12:35 85 でコガモを失敗 [2007]. 若; 成 [2009]. 縦斑若?11:10 に 7.4k で木上 [2011]. ♂ [2013].
1	1999–2014	A/♂ 鴨川方向へ [1999]. 河畔林にとまっており飛び出す [2001]. ♀成鳥。低空をカラス 2 羽に追われる [2003]. 高空を北へ飛翔; Ad。低空を中州裏へ回り込み消失 [2005]. 幼鳥（第 1 回冬羽）カワセミを追う [2014].
2	1999–2010	カラスに追われ北へ [2009]. 上流方向から出現、やがて反転上流へ [2010].
3	1997–2014	Ad・♂ [2001]. 若 パーチ; 成鳥♂ [2005].

所見　調査区内では全域に記録があり、個体数に明確な増減は認められないが、A 区では確認される機会が減少している。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) では、近年食痕が確認されなくなった。調査時外だが A 区の嵐山東公園 (17km 地点) で元旦に水面でコサギを狩り、寄州へ運ぶのが観察されたことがある。C 区では幼鳥が頻繁に観察されるが、しばしばカラスに追われる。C 区、羽束師橋 (5.4km 地点) 上流右岸のカワウのねぐらにとまっていたこともあった。B 区では阪急鉄橋付近 (13km 地点) の中州の樹木にとまっているの確認されたことがある。調査区内でオオタカの幼鳥がカワセミを追う行動が観察、撮影されたことがある。右京区の遍照寺山ではかつて頻繁に確認されたが、観察機会は減少しており、隣接する広沢池周辺では近年食痕が確認されなくなった。

3.72　サシバ Butastur indicus (グラフ p. 159)

概観　短期だが複数年度に出現。D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
9	2004–2005	タカ柱 [2004].

所見　調査区内では 2 例のみ記録され、いずれも 9 月で渡り途中の通過個体と思われる。

3.73　ノスリ Buteo buteo (グラフ p. 160)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997	
10	2001–2014	成鳥 1 、幼?若 2 、不明 1 [2003]. 高空を西へ流れる。渡りだろう [2005]. 旋回しながら西へ; 西へ [2011]. 区域外で 6 羽; 南西へ [2013].
11	2000–2013	西へ旋回; ペア? [2012].
12	2000–2013	Ad・♀ カラス 3 羽にモビングされる [2001]. 河畔林に P [2002].
1	1997–2014	ハシブトガラスに追われる [2003].
2	2001–2010	
3	1997–2013	止ったまま動かず [2000]. 北へ飛翔。渡りと思われる [2004].

所見　調査区内では越冬個体と渡り途中の個体が記録される。下流部での記録が多く、樹木にとまっている個体が確認されることが多かったが、伐採などにより樹木が減少し、近年そのような姿が見られる機会は減少している。河川沿いに樹木のない地域ではほとんど確認されない。C 区では秋 (10–11 月期) に渡り途中の個体が 13 羽確認されたことがある。E 区では冬期の記録がやや減少しているが、とまりやすい樹木がなくなったのが一因と推測されている。調査区域より下流の淀川 (川幅がある) でよく見る。

3.74　アオバズク Ninox scutulata (グラフ p. 161)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
6	2013	カラスのモビングを無視して西の山稜に飛去 [2013].

3.75　トラフズク Asio otus (グラフ p. 162)

概観　単年度だけに出現。D 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
1	1997	

3.76　カワセミ Alcedo atthis (グラフ p. 163)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. 声のみ ランク C; ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; ホバリングで採餌 ランク C; 1 羽は♂ ランク B [2002]. 番; 南へ [2010]. 幼鳥に給餌する成鳥; a d [2013]. 声のみ; ♂♀ [2014].
5	1999–2014	ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 声 ランク C; ♂♀、♂が巣に入った ランク A [2002]. ランク C [2003].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002].
7	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C; 巣内に入る。 ランク A [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 地鳴？ ランク C; ランク C [2002]. キョウチクトウ、チリチリ声、ヒナと親? [2006].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 鳴声 [2002]. 声 [2004].
9	1998–2010	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; ♂ ランク C [2001]. (声) [2006].
10	1998–2014	ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ♀; ♂ [2002]. 中州へ [2009]. ♂若 [2010]. ♂、モズの攻撃をかわして飛び去る。 [2013]. 環境:堤? [2014].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. 声のみ ランク C; ランク C [2001]. C; 採食 [2002]. 声のみ [2004]. おそらく 144 と同一; 餌取 [2006]. Km 欠損ミサゴと同じに [2011]. 桂川から宇治川へ [2013].
12	1997–2013	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; ♀ ランク C [2001]. 地鳴き [2002]. ♂ [2003]. ♂ [2006]. ♂ [2007]. ♂ [2008]. ♂ [2010]. ♂; ♀; ラジコン飛行機大小、除草 [2012].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; ♂ 1，♀ 1 ランク C [2000]. ランク C; ♂♀ ランク C [2001].
2	1998–2013	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ♂ [2003]. ♀♂ [2004]. ♂ [2013].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C; ディスプレイ ランク B [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 屋形船の屋根 [2003]. 声のみ [2005].

所見　調査区内では全域で記録されているが、繁殖期よりも秋から冬 (10–4 月) に記録される個体が多い。A 区ではかつて上野橋 (14km 地点) の上流右岸側がワンドになっており、橋のすぐ下で頻繁に確認されたが、現在は河川工事によりワンドは消失して草も生えていない。繁殖例として A 区の 18km より上流 (大堰川と呼ばれる地域) にある滝付近 (近くには店がある) や上野橋 (14km 付近) 下流の中州での営巣が確認されている。ただし、上野橋付近の営巣例では、巣を人が埋めてしまい、その後近くで再営巣したが、再度人が埋めてしまって繁殖には失敗している。また、A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) 近くの笹藪と石垣でも営巣が確認された。C 区と D 区の境にある羽束師橋付近 (5.4km 地点) での左岸寄りの畑地の下でも営巣が確認されている。D 区の 1–4km 地点は、確認が少ないが、これは河川の形状と環境からカワセミを視認しづらい状況となっているのが一因と考えられる。1980 年代には桂川でカワセミの個体数が少ない時期があったが、その後増加して通年見られるようになっている。ただし、2004 年 6–7 月期には調査区内での確認個体数がゼロであった (原因は不明)。近縁種のヤマセミが A 区の渡月橋から観察されたことが

あるが、調査時には確認されていない。

3.77 アリスイ Jynx torquilla (グラフ p. 164)

概観 冬期を通して出現。A, B, C, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	2013	モズのアタックに反撃する。 [2013].
11	1999	
12	2001–2010	
2	1999–2010	声のみ [2003].

3.78 コゲラ Dendrocopos kizuki (グラフ p. 165)

概観 一年を通して出現。A, B, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2011	
5	1997–2014	C [2008].
6	2002–2014	
7	2000–2012	
8	2009	
9	1999–2012	声 [2002].
10	2002–2014	
11	1999–2013	
12	2000–2014	
1	2002–2014	
2	2000–2014	
3	1999–2014	

所見 調査区内では最も上流部である A 区と最も下流部である E 区で比較的多く確認され、その間にある B–D 区では記録は稀で、特に C 区では一度も記録されたことがない。これは、調査区内に含まれる樹林の多少や近接する樹林の有無に一因があると思われるが、詳細は明らかになっていない。

3.79 オオアカゲラ Dendrocopos leucotos (グラフ p. 166)

概観 単年度だけに出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
1	2003	

3.80　アカゲラ Dendrocopos major (グラフ p. 167)

概観　冬期を通して出現。B, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	1998–2014	桂離宮 [2014].
12	2001–2010	♂ [2001].
1	2006	
2	2010–2012	

所見　調査区内では B 区と E 区のみで秋から冬に稀に確認される。E 区で樹木に巣のような穴を掘っているのが観察されているが、繁殖は確認されていない。

3.81　アオゲラ Picus awokera (グラフ p. 168)

概観　一年を通して出現。A, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2003–2014	囀り [2009]. 囀り [2014].
6	2009	囀り [2009].
7	2006	
9	2002	声 [2002].
10	2007–2009	
12	2000–2014	
2	2001–2008	
3	2004	

3.82　チョウゲンボウ Falco tinnunculus (グラフ p. 169)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2006–2014	
5	2008–2014	♂; ♀ [2008].
6	2004–2014	A ♀? ハンティング [2004]. 識別困難 [2010]. トビにアタック [2013].
7	2005–2011	♂・♀ [2005]. 全部で 2 [2006]. 鉄塔に 3 羽一緒、1 羽は若鳥 [2011].
8	2003	餌持ち、♂幼?若？; ♀？ [2003].
10	2005–2010	左岸で暫くウロウロしてたが畑地でネズミ？をハンティング [2005].
11	1999–2014	[2000]. 狩 2 回成功 2 度目の小鳥に食べ始めで逃げられる [2014].
12	2003–2013	カラスに追われ [2003]. ♂ [2013].
1	1999–2014	♂ Ad。餌探し。 [2005].

2	1998–2014	♀ [2003]. 西へ [2008]. ホバリングを数回繰り返したのち西へ飛去 [2010]. ハシボソガラスのモビンングを受ける [2014].
3	1999–2007	ランク; [2000]. ♂ [2005].

所見　調査区内では年間を通じて少数が記録されているが、営巣繁殖は確認されていない。

3.83　ハヤブサ Falco peregrinus (グラフ p. 170)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2001	
5	2004–2007	♂ [2007].
6	2013	♂♀で旋回、ハンティング行動の様子。 [2013].
7	2005	
9	2011	
10	2001–2003	成鳥♀？ [2003].
11	2000–2011	U， J ; U ランク U [2000].
12	2002–2014	成鳥 [2002]. 成鳥♂、上空 15 mから草地に急降下 [2004].
1	1998–2014	水浴び [2006].
2	2000–2014	ドバトの群を襲う [2014].
3	2000–2011	♀成鳥、ドバト群にハンテング、 [2000].

所見　調査区内では年間を通じて少数が記録されているが、営巣繁殖は確認されていない。A 区では調査区内の草原を低空で舐めるように飛ぶ行動が観察されており、おそらく探餌行動と思われる。

3.84　サンコウチョウ Terpsiphone atrocaudata (グラフ p. 171)

概観　単年度だけに出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
9	2005	98/6、00/5 鵜の目に報告あり [2005].

所見　調査区内では 2005 年 9 月に E 区で 2 羽が記録されたのみであるが、調査外の記録として 1998 年 6 月と 2000 年 5 月に観察記録があり、これらは日本野鳥の会京都支部への会報「そんぐぽすと」に掲載されている。

3.85　モズ Lanius bucephalus (グラフ p. 172)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	♂ ランク C; 餌をフライングキャッチ ランク C [2000]. ♀ ランク C; 2 羽とも♂ ランク C; ♂ ランク C; ヒナが 2 羽（4/12 には巣の入口にいた） ランク A [2002]. ツガイ 巣はあるのか; ♂; 餌運び、♂; 餌運び; 警戒音、ノイバラの巣の中へ [2004]. ♀; ♂♀; ♂; ♂、♀ [2006]. 枯れ木; ♂♀; ♂ [2007]. ♀; ♂ [2008]. ♀; ♂♀; ♂ [2009]. 巣剤をくわえる; ♂ [2010]. ♂; ♀（盛んに餌取り、ヒナ誕生かな） [2011]. ノイバラの茂みに飛び込む。営巣中？ [2012].
5	1997–2013	声 ランク C; 幼鳥 ランク B; 成鳥 ランク C; 成鳥♂ ランク C [2002]. 幼鳥 1 ランク B [2003]. ♂; 2 羽とも巣立ちヒナ [2005]. ♀ [2008]. 餌運び [2011].
6	1997–2014	♂ ランク C [2002]. ♂ 1 ランク ♀ 1 [2003]. 幼鳥 + 親 2 羽; ヒナ; 堤外工事中 (0km ポイント?150m 北) [2007]. 幼鳥 [2010]. ヒナ 4、成鳥 2 [2011]. 幼鳥 [2013].
7	1998–2014	juv. ランク B; 1 ♂ 1juv. ランク B [2002]. 幼鳥 [2006]. ♂ [2008]. 幼鳥 [2012].
8	1997–2009	囀り ランク B [2003].
9	1997–2012	♀; 縄張り争い ランク B [2003]. ♂ [2004].
10	1997–2014	♀; ♂。; ♂ [2002]. 地鳴き; ♂ [2003]. ♀ [2004]. ♂; ♀ [2005]. ♀; 電線上 [2010]. 渡り個体とテリトリー争いの模様; こちらもバトル展開中 [2011]. ♂; アリスイと争う; カワセミと争う [2013]. ♂; ♀ [2014].
11	1997–2014	♂ ランク C [1999]. ♂、♀。; ♀ [2003]. ♀ [2006]. ♂; ♀ [2008]. ♂; 消防の鉄塔にカラス 50; ♂、もう 1 羽は不明（遠い）; ♀; ♂ [2012]. ♂ [2014].
12	1997–2014	地鳴き; ♀; ♂ 1 、♀ 2 . ; ♂; ♂ 2 、♀ 1 . [2002]. ♀ [2003]. ♂ [2004]. ♂ [2005]. ♀; ♂; ♂ 4 ♀ 2 [2006]. ♂; ♀ [2007]. ♀; ♂ [2008]. ♂ [2010]. ♀; ♂ [2011]. ♀; ♂ [2012]. ♂; ♀ [2013]. ♂; ♀ [2014].
1	1997–2014	♀; ♂ [2014].
2	1997–2014	オオヨシキリの物まね ランク C [2001]. ♀♂ [2003]. 求愛行動; ♀; ♂ [2006]. ♂ ♀; ♀; 北へ; ♂ [2008]. ♀ [2010]. ♂♀; ♂; ♀ [2012]. ♂; ♀ [2013]. ♀; ♂ [2014].
3	1997–2014	♂ ランク C [2001]. ♂ 1 ♀ 1 [2002]. ♂ 1、♀ 1.; ♀; ♂; 求愛 [2003]. ♀; ♂; ♂、♀ [2004]. ♂; ♂; ♂♀ [2005]. ♂・♀ [2009].

所見　調査区内では全域にまんべんなく生息しているが、秋冬期に個体数が多く、繁殖期には少なくなっている。B 区では 2006–2007 年ごろ繁殖期 (6–7 月期) には確認されず、その後一旦個体数が増加して、最近再び減少している。C 区でも繁殖期に個体数が少ない。繁殖期の始まりは他の鳥に比べて早く、例えば B 区では 2015 年 4 月 13 日に桂大橋 (12km 地点) 上流右岸側で並んでとまっている成鳥が巣立ち後の幼鳥に給餌を行っているのが観察されている。

3.86　カケス Garrulus glandarius (グラフ p. 173)

概観　冬期を通して出現。A, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2007–2011	
5	2005	
9	2004	

10	2010	
11	2001–2004	
12	2000–2014	
2	2001–2014	

所見　調査区内では A 区だけで継続的に記録があり、他の調査区では稀である。A 区では 2010 年頃から個体数が増加、隣接する亀山公園 (19km 地点下流) の付近で 3–7 羽が観察されており、調査時にもこれらが記録される (調査時には 5 羽が最大)。この増加は、A 区で近年オオタカ、ハイタカがあまり見られなくなっていることが一因と推測されている。

3.87　ミヤマガラス Corvus frugilegus (グラフ p. 174)

概観　冬期を通して出現。D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2000–2004	
1	2010	
3	2010	

所見　調査区内では主に D 区で記録され、E 区でも 1 度記録がある。D 区の記録は巨椋干拓地へ渡来している個体が調査区へ移動してくるものと推測されており、2004 年度と 2010 年度には 3–4km 地点の畑で確認された。

3.88　ハシボソガラス Corvus corone (グラフ p. 175)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	トビを追う [1997]. 2 羽とも樹上の巣に止まっていた。 ランク A [2002]. トビにアタック; 巣あり、ヒナ 2 羽 [2003]. 巣; 水を飲む; ヒナ 2 羽 巣あり [2006]. 巣あり [2009]. 巣内ヒナ [2010].
5	1997–2014	攻撃 [1999]. 営巣:幼鳥 2+ 成鳥 1 ランク A [2002]. 採餌 [2003]. 繁殖・栄巣 ヒナ 3 羽、親 1 羽; 幼鳥 [2004]. 杭の上 [2005]. 巣 [2009].
6	1997–2014	子 1 [2010]. 親子 [2013]. 首筋が白っぽい個体：1 [2014].
7	1997–2014	1 羽幼鳥 ランク B; 2 羽幼鳥 ランク B [1999]. all juv. ランク B [2002]. 幼鳥 [2003]. 若鳥 2 羽 [2004]. ドバトの死骸を食べている; 新橋; 2 羽幼鳥 [2006]. 親子? [2007].
8	1997–2009	電線に幼鳥 [2002]. 書き忘れ [2005].
9	1997–2012	水を飲む [1998]. 給餌 [2006].
10	1997–2014	
11	1997–2014	ハイタカに対してモビング [1999]. 水浴び [2008].
12	1997–2014	石畳; ハイタカを追う [1997]. 北へ [2008]. 南へ; 北へ [2009].
1	1997–2014	オオタカを追う [2003].

2	1997–2014	コロニー内 [1998]. 造巣中 [2003]. 営巣 [2006]. トビにモビングを受ける [2009]. チョウゲンボウを追う [2014].
3	1997–2014	後頭部白い; 営巣 ランク A [2000]. 営巣中 ランク A [2001]. 巣、餌運び ランク A; 営巣 ランク A [2002]. 桜樹上にて抱卵中。; 営巣; セキセイインコをくわえて飛ぶ (*); 繁殖 在巣 [2003]. 巣材くわえ飛行 [2004]. 巣あり; 水を飲む [2005]. 巣の中に居た; 巣材運び [2010].

所見　調査区内では個体数が少しずつ減少傾向にある。A 区では 1999–2000 年度に松尾橋上流付近 (16km 地点) で個体数が多く確認され、冬期には生息数が 150 羽を越えていたこともあった。

3.89　ハシブトガラス Corvus macrorhynchos (グラフ p. 176)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ヤナギに抱卵中。; 巣材くわえる [2004]. 巣; 樹上の巣 [2006]. 営巣中 [2009]. 巣材運び; 抱卵中 [2010].
5	1998–2014	
6	1997–2014	親子 [2006]. トビにモビング [2011]. 水浴び; オオタカにモビング後、左岸遊歩道に降下。 [2012]. アオバズクにモビング 2 回 [2013].
7	1997–2014	幼鳥 [2003]. 2 羽とも幼鳥 [2004]. 親 1 、ヒナ 1 給餌 [2005]. ハシボソガラス?; 幼鳥 1 羽 [2006].
8	1997–2009	
9	1998–2011	トビにモビング [2006].
10	1997–2014	集団でトビにモビング [2010]. ハイタカにアタック [2013].
11	1997–2014	カラス多い [2004].
12	1998–2014	オオタカをモビング [2004].
1	1997–2014	ノスリを追う [2003].
2	1997–2014	営巣中 [2008]. 魚を持ちさるミサゴを追う [2010].
3	1997–2014	アカメガシワ樹上で抱卵中。; バスの死体を喰する [2003]. 抱卵中 [2007]. 巣材 [2009].

所見　調査区内では近年増加傾向にある。A 区の松尾橋上流 (16km 地点) で多数の個体がバーベキューが終わるのを待つのが観察されており、放置された食べ物やゴミを採餌するためと推測される。調査区内では砂礫地に降りているのが観察されることがあるが、水浴びや休息のためと思われる。

3.90　キクイタダキ Regulus regulus (グラフ p. 177)

概観　単年度だけに出現。A, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2012	
12	2012	

所見　調査区内では 2012 年度冬 (11 月と 12 月) のみに記録された。この年は京都市内で越冬個体が多数確認された。

3.91　ヤマガラ Poecile varius (グラフ p. 178)

概観　一年を通して出現。A, B, E 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	2000–2012	囀り [2009]. 囀り [2012].
5	2005	
6	2005–2011	囀り [2011].
9	2000–2012	2000.9.2 以来 E 区では 2 回目の観察 [2008].
10	2004–2014	
12	2001–2012	
2	2001–2013	

所見　調査区内では A 区以外で記録されることは稀である。A 区の上流部で比較的多く確認されるが、これは隣接する亀山公園 (19km 地点) に生息する個体が河川敷まで移動してくるためと推測されている。小鳥類の記録が少ない B 区でもわずかに記録があるが、記録されたのは B 区に隣接していて樹林のある桂離宮 (12km 地点) 付近である。

3.92　ヒガラ Periparus ater (グラフ p. 179)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2006	

3.93　シジュウカラ Parus minor (グラフ p. 180)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	囀り; 囀り [2012]. 囀り; 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	1999–2014	囀り [2008].
6	2002–2014	幼鳥 [2005]. 若 [2010]. 囀り [2011]. ぐぜり; 囀り [2012]. 囀り; ヒナ [2014].
7	1999–2012	水面にヌートリア遊泳、中洲に上陸して消えた; 幼鳥 [2004].
8	2002–2009	同じ木; 囀り [2002].
9	1999–2012	
10	2000–2014	ニホンザルの群あり [2009].
11	1998–2013	
12	2000–2014	地鳴き [2002].
1	1997–2014	

2	1998–2012	
3	1999–2014	囀り [2003].

所見　調査区内では繁殖期 (4–5 月期、6–7 月期) の個体数が徐々に増加してきている。これは主に E 区での増加によるもので、E 区の一部で手入れをされていない樹林が徐々に大きくなってきていることが一因であると推測されている。なお、E 区でも背割堤の付近は伐採が行なわれている。

3.94　ヒバリ Alauda arvensis (グラフ p. 181)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	２羽のヒナに飛翔練習中 ランク A [1998]. 餌運び [2008]. ラジコン 3 人 [2014].
5	1997–2014	囀り ランク B [2003]. 杭の上で囀る [2005]. 囀り [2008]. 餌運び; 巣材運び [2009]. 声 [2012].
6	1997–2014	幼鳥 2（少ししか飛び上がれない） ランク B [2002]. C [2004]. 揚げヒバリ [2006]. 囀り [2009]. 餌運び 1 おそらく営巣 [2010]. 囀り [2014].
7	1998–2014	餌運び [2005]. 幼 1 [2006]. 親子 [2008].
8	1997–2006	囀り ランク B [2003]. 幼鳥 [2004].
9	1998–2008	
10	1997–2013	囀り ランク C [2003].
11	1997–2014	グラウンド [2004].
12	1997–2012	80 の 9 も含む [2003]. グラウンド [2004].
1	1997–2014	グラウンド [2006].
2	1997–2012	囀り ランク B [2001]. 囀り [2003]. 囀り飛翔 [2006].
3	1997–2014	囀り ランク B [2000]. 囀り ランク B [2002]. 囀り [2003]. 囀り; 囀り [2005].

所見　調査区内ではすべての季節で減少傾向にある。減少の一因は耕作地整備と推測されている。A 区上流部には元々生息適地がなく確認されなかったが、記録のあった 15km 地点より下流でも現在では確認されなくなっている。B 区の JR 鉄橋 (11km 地点) と 10km 地点の間の右岸には畑地があり、そこでは高い頻度で確認される。4、5 月に確認される個体が多いのは、さえずり飛翔が目立つことによるものと推測されている。

3.95　ショウドウツバメ Riparia riparia (グラフ p. 182)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
5	1999	
9	1998–2004	
10	1998–2014	
11	2002	

所見　調査区内では秋の渡り時 (10–11 月期) に通過途中に確認された個体がほとんどだが、春の渡り時 (4–5 月期) にも記録が少数ある。

3.96　ツバメ Hirundo rustica (グラフ p. 183)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. 巣材集め ランク B; 1 羽負傷? ランク C; ランク C [2001]. ランク C [2002]. 船上土産物店の軒下に巣作り中 [2004]. 泥採取 [2006]. 東へ [2009]. 電線に止まる [2012].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 地点Ｎｏ．41?50 は欠番; 高空; 水面ぎりぎり [2008].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 電線のヒナ 5 羽に給餌。 ランク B; ランク C [2002]. 土をとっている [2006]. 幼 2 羽が電線で給餌を受ける; 3 羽の巣立ちヒナが給餌を受けている [2009]. 竹 [2011]. ヤマグワの実に虫が集まり、ツバメも集まる [2012]. 若 [2013].
7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 巣の中のヒナ [2008]. 若 [2009].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 南へ [2003].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥 1 ランク B [2002]. 水面上 20?30 m [2004].
10	1998–2013	ランク C [1998]. ランク C [2000]. 識別困難 [2010].
11	1998–2004	ランク C [1998]. ランク C [2001].
12	2009	
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [2000]. ランク C [2001].

所見　調査区内では全域で確認される。春期に多数の個体が確認されることがあり、A 区では春 (4–5 月期) に 300 羽を越える個体、B 区でも春 (3 月) に 125 羽越える個体が確認されたことがある。A 区の渡月橋付近 (18km 地点) の店で営巣が確認されている。右京区の長辻から落柿舎へ行く道路の途中にある電線に 16:30–17:00 頃集まり、その後桂川方向へ飛去するのが観察されている。

3.97　コシアカツバメ Hirundo daurica (グラフ p. 184)

概観　夏期を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2011	
5	2000–2014	水面ぎりぎり [2008].
6	1997–2014	グランドの水たまりで泥を取る [2011].
7	1999–2013	
8	1997–2009	

9	1997–2012	進んで気が付く [2001]. 幼鳥 1 ランク B [2002]. 50?100 m上空; 20?30 m; 水面ぎりぎり [2004].
10	1998–2014	
11	2000–2002	
3	2005	

所見　調査区内では全域で記録があるが、上流部 (A 区) と下流部 (E 区) で比較的記録が多い。A 区の嵐山東公園 (17km 地点) 近くの学校や 18km 地点から 700m ほど北にあるガソリンスタンド (丸太町通と釈迦堂清滝道の交差点) に営巣していたが、その後ガソリンスタンドはなくなった。D 区の小畑川河口の天王山大橋 (0.5km 地点) に 2008–2010 年まで継続して営巣していたが、2010 年に橋の近辺が工事されて消失した。9 月には移動個体も多数観察される。A 区と B 区の境、西大橋 (13.5km 地点) の近くにある団地付近に秋遅い時期まで観察される。夏鳥だが桂川でも越冬個体が観察されることがあるが、調査時には 12–1 月期の記録は確認されていない。8 月末に右京区北嵯峨で夕方多数飛翔した後、急に姿が見えなくなるので、水田のイネをねぐらにしている可能性もあるが詳細は不明である。

3.98　イワツバメ Delichon dasypus (グラフ p. 185)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2001–2013	高空 50 m± [2009].
5	2008–2014	水面ぎりぎり; 高空 [2008].
7	2001	
8	2000–2002	
9	2004–2006	
10	1997–2013	
11	2002–2004	
12	2000–2013	
1	1998	
2	2001–2011	
3	2000–2014	

所見　調査区内では断続的に生息が確認されており、上流部に比較的個体数が多い。個体数は変動が大きく、極端に個体数の少ない年もある。越冬個体も確認されている。A 区の渡月橋 (18km 地点) 上流に大群が出現することがある。

3.99　ヒヨドリ Hypsipetes amaurotis (グラフ p. 186)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	西へ; 東へ; ＮＥへ、100 m上空。 [2004]. 渡りの群れ [2011]. 囀り [2012]. 囀り [2013]. 東へ渡る [2014].

5	1997–2014	渡り ランク C [2001]. 声 ランク C [2002]. C [2008].
6	1997–2014	幼鳥 6 ランク B [2002]. 桂離宮 [2003]. 北へ [2009]. 東へ [2010]. 囀り [2011].
7	1997–2014	
8	1997–2009	桂橋右岸岸辺にメダカ？ [2002]. 声 [2004].
9	1997–2012	渡り [2004].
10	1997–2014	東へ; 南へ [2003]. 柿の木 [2010].
11	1997–2014	桂離宮 [2014].
12	1997–2014	↓ [2003]. 南へ; 西へ [2008]. 東へ [2009].
1	1997–2014	地鳴き [2003].
2	1997–2014	北へ [2004]. ブロッコリー畑 [2012].
3	1997–2014	

所見　調査区内では全域で記録されるが、環境が単調でグラウンドがある C 区では記録されることが少ない。春と秋の渡りの時期に通過個体が多数記録される。2、3 月にも渡りの群れが記録されることがある。繁殖期の個体数は特に増加傾向は認められない。畑地でキャベツの新芽を食べるのが観察されている。D 区の 5km 地点には畑が多く、そこで確認されることが多い。

3.100　ウグイス Cettia diphone (グラフ p. 187)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	声のみ ランク B [2000]. 鳴き声 ランク B [2001]. 囀り [2006]. 囀り [2008]. 囀り; 囀り [2009]. 囀り [2010]. 囀り; 囀り [2012]. 囀り; 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	1998–2014	声 ランク B [2002]. 囀り [2003]. 繁殖・ヒナ、巣立ち直後か、十分に飛べず [2004]. 囀り [2008]. 囀り [2009]. 囀り [2010]. 声; 声 環境 3，6; ウグイスとメジロが一緒にいた [2012].
6	1997–2014	囀り ランク B [2000]. C [2004]. 囀り [2009]. 囀り [2011]. 囀り [2012]. 囀り; ハグロトンボ [2013]. 囀り [2014].
7	1997–2014	囀り ランク B [2002]. 囀り; 囀り ランク B [2003]. 声のみ [2005]. 囀り [2007]. 囀り [2008].
8	1998–2009	地鳴き [2002].
9	1999–2012	
10	2000–2014	
11	1997–2014	囀り [2011]. 囀り; 囀り [2012]. 声 [2014].
12	1997–2014	声のみ ランク B [2001]. 地鳴き [2002]. 鳴 サエズリ [2006].
1	1997–2014	地鳴き [2003].
2	1997–2014	囀り ランク B [2001]. 初鳴き [2002]. ぐぜり [2003]. 地鳴き; 囀り [2006]. 囀り [2008]. 囀り; 囀り [2009].
3	1997–2014	囀り; 囀り、谷渡り [2002]. 囀り [2003]. 囀り; 囀り [2004].

所見　調査区内では全域で記録されるが、個体数の増減が激しい。近年は 2010 年頃をピークに、個体数は

減少傾向にあり、2014 年度には全域で減少した。例年下流部の方が個体が多いが、上流部の A 区でも繁殖期の個体数が増加傾向にある。B 区では一旦増加した後減少、現在は個体数が少なくなっている。D 区の 5km 地点前後の右岸には手つかずの林があり個体数が多い。12 月、2 月にも囀りが確認されている。

3.101　エナガ Aegithalos caudatus (グラフ p. 188)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	
5	2002–2014	繁殖・幼鳥が混じる [2004]. 巣立ちヒナ [2007]. 囀り [2008].
6	2005–2014	ヒナ [2008]. ヒナ [2014].
7	2001–2011	幼鳥 [2004]. ヒナ [2006].
8	2009	
9	1998–2012	
10	2001–2014	
11	1999–2013	
12	2000–2014	
1	1998–2014	
2	1999–2013	
3	2000–2014	巣材を持っていた [2010].

所見　調査区内では全域で記録されるが、上流部 (A 区) と下流部 (E 区) での記録が多い。特に放置された樹木が大きくなってきて樹林化が進んでいる E 区で増加しており、この傾向はシジュウカラと同様である。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) でマツに営巣しているのが確認されており、E 区でも巣立ち雛が確認されている。

3.102　メボソムシクイ Phylloscopus xanthodryas (グラフ p. 189)

概観　短期だが複数年度に出現。A, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
5	2012	
9	2002	
10	2014	
11	2006–2008	E 区初認 [2008].

所見　調査区内では樹木のあるところで、稀に通過個体が記録されるのみである。A 区の上野橋 (14km 地点) 上流の樹木が茂っていた場所で記録されたことがあるが、現在は伐採されて消失している。なお、近年メボソムシクイは 3 種に分割分類されたが、本調査では過去のデータを新たな分類での種別に区分せず、ひとまとめで扱っている。

3.103　エゾムシクイ Phylloscopus borealoides (グラフ p. 190)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1998–2007	
5	2011	
8	2004	

所見　調査区内では渡りの時期に稀に通過個体が記録されるのみである。秋の渡りの開始は他種に比べて早く 8 月には移動している。

3.104　センダイムシクイ Phylloscopus coronatus (グラフ p. 191)

概観　夏期を通して出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
5	2002–2014	
6	2009	
9	2006	

所見　調査区内では春の渡りの時期 (4–5 月期) に通過個体が E 区で記録されるのみである。6 月にも E 区で 1 例の確認があるが、繁殖は確認されていない。A 区でも隣接する亀山公園付近 (19km 地点) で観察されることがあるが調査時には確認されていない。

3.105　メジロ Zosterops japonicus (グラフ p. 192)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	マジロ? [2008]. 囀り; 囀り [2009]. 囀り; 囀り [2012]. 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	2001–2014	青虫を食べていた。給餌？; 囀り; C [2008].
6	1997–2014	囀り; 嘴に青虫が２つ、まだ探してる; 餌取に夢中 [2009]. 囀り [2011]. 囀り [2012]. 宇治川側よりホトトギスの声 [2013]. 囀り; ヒナ [2014].
7	2000–2012	赤い実 いちご? [2007]. 囀り [2008].
8	2002–2009	同じ木; 桂離宮 [2002].
9	2000–2012	
10	2000–2014	
11	1998–2014	
12	1998–2014	
1	1998–2014	
2	1998–2014	
3	1997–2014	梅木に群がる [2000].

所見　調査区内では全域で記録されるが、上流部 (A 区) と下流部 (E 区) での記録が多い。

3.106　オオヨシキリ Acrocephalus orientalis (グラフ p. 193)

概観　夏期を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2013	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 鳴き声 ランク B [2001]. ランク C [2002]. 巣 [2006]. 姿; 囀り [2009]. 囀り [2010]. 初認 [2011]. 囀り; ラジコン飛行機のため草刈り; 囀り [2012].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 声 ランク B [2002]. 囀り ランク B; ランク C [2003]. 囀り [2008]. 囀り [2009]. 囀り [2011].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; 囀り ランク B [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 餌取り ランク C; 虫取り ランク C [2002]. C [2004]. 囀り [2009]. 囀り [2012]. 柳の頂点で囀る [2013]. カヤネズミの巣 [2014].
7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 囀り ランク B; ランク C [2002]. 囀り ランク B [2003]. 囀り [2008].
8	1997–2004	ランク C [1997]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 中州の木 [2002].
9	2001–2010	ランク C [2001].

所見　調査区内では下流部に比較的多く生息している。区間によって増減の傾向は異なるが、全体としては一旦減少した個体数がやや増加傾向にある。特に右岸にセイタカヨシが繁茂している D 区では近年の増加が顕著である。一方で A 区には以前個体数が多く、上野橋 (14km 地点) 付近の低いヤナギのトップでさえずるのが観察されていたが、近年は減少している。ただし、2014 年に樹木伐採後、跡地は草地となり、繁殖期にはオオヨシキリやセッカが観察された。B 区では天神川河口付近 (10.5km 地点) や久世橋 (10km 地点) 付近の公園に長期生息していたことがあるが、近年は減少傾向にある。なお、調査区内では 2006 年 4 月に巣が確認されているが、これはかなり早い時期の確認である。

3.107　セッカ Cisticola juncidis (グラフ p. 194)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2010	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 鳴き声 ランク B [2001]. ランク C [2002]. 囀り [2008]. 囀り [2010].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 声 ランク B [2002]. 囀り ランク B [2003]. 囀り [2008]. 囀り [2009].
6	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. C [2004].

7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 囀り ランク B [2002]. 囀り ランク B [2003]. ２ペア？ [2005]. 囀り [2007].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1999].
9	1998–2010	ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
10	2000	ランク C [2000].
11	1998–2008	ランク C [1998].
12	2002–2007	
1	1999	ランク C [1999].
2	2000–2006	ランク C [2000].
3	2000–2002	ランク C [2000].

所見　調査区内では下流に多く生息しているが、個体数は増加減少である。A 区ではオオヨシキリと同様に減少傾向にあり、下流に多い。また、A 区では 2013 年の台風による増水の後、嵯峨芸術大学前、嵐山東公園付近 (いずれも 17km 地点) や西大橋付近 (13.5km 地点) が草地になり、また、2014 年に樹木伐採後、跡地が草原となり、いずれも繁殖期にはセッカが観察された。ただし、調査時には記録されていない。確認された繁殖はさえずりのみで、巣や幼鳥、餌運びなどは確認されていない。

3.108　キレンジャク Bombycilla garrulus (グラフ p. 195)

概観　単年度だけに出現。A, B 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2004	

3.109　ヒレンジャク Bombycilla japonica (グラフ p. 196)

概観　短期だが複数年度に出現。A, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2009	
5	2007	３０羽±、キレンジャクの混入確認できず [2007].
12	2010	
3	1999	

所見　調査区内では主に春期、稀ではあるが渡り途中の群れに遭遇した場合に記録されたが、12 月の記録もある。

3.110　ミソサザイ Troglodytes troglodytes (グラフ p. 197)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
2	2009	

所見　調査区内では A 区で 1 例の記録があるのみ。

3.111　ムクドリ Spodiopsar cineraceus (グラフ p. 198)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	1 羽は餌運びしていた。 ランク A; 巣らしきものが認められる ランク A [2002]. 西へ; 餌運び [2004]. 巣材運び [2013].
5	1997–2014	巣材 [2009]. エサくわえている [2011]. 水浴び [2014].
6	1997–2014	ビワのみを啄ばむ; 北へ [2005]. 南へ; 西へ; ビワの木 [2007]. 東へ; 西へ [2010]. ヤマグワに群れる [2011]. 餌運び [2012]. ヤマグワの実に群れる [2013].
7	1998–2014	コロニー出入り ランク A [2003]. 18 羽幼鳥 [2006]. 若 [2008]. 幼鳥 [2011].
8	1997–2006	南へ [2005].
9	1997–2012	水浴び [2005]. 若 1 [2006].
10	1998–2014	北へ [2003]. 追加 [2004].
11	1997–2014	No.63 ハイタカにモビングする。 ランク C [2000].
12	1997–2014	東へ [2009].
1	1997–2014	通過 [2005].
2	1997–2014	北へ [2008].
3	1997–2014	内 1 羽が、目前で、カナヘビを捕食した。 [2003].

所見　調査区内では上流部に個体数が多く、最下流部の E 区には少ない。繁殖の確認は主に餌運びによる。ヤマグワで多数の個体が採餌していたのが観察されている。

3.112　コムクドリ Agropsar philippensis (グラフ p. 199)

概観　短期だが複数年度に出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2012	♂ 1 ♀ 1 [2003]. ♂ 2 、 ♀ 3 ; ♂♀; ♀; ♂ [2011].
5	1999–2011	

所見　調査区内では春期、渡り途中の通過個体が記録される。A 区ではほぼ毎年、松尾橋下流にある嵐山ロイヤルハイツ (15km 地点) の対岸 (右岸) のヤナギが 5、6 本伐採されずに残っている場所へ渡来するが、調査時には記録されないこともある。

3.113　トラツグミ Zoothera dauma (グラフ p. 200)

概観　短期だが複数年度に出現。A, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2009	
1	2002	
3	2002	

所見　調査区内では冬期に稀に記録される。A 区では隣接する亀山公園 (19km 地点) に例年生息しており、そこから調査区内へ移動してくることがある。下流部にも 2002 年度のみ記録がある。

3.114　クロツグミ Turdus cardis (グラフ p. 201)

概観　短期だが複数年度に出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2006–2014	囀り [2013]. 囀り [2014].

所見　調査区内では春期、A 区において渡り途中の通過個体が稀に記録される。

3.115　マミチャジナイ Turdus obscurus (グラフ p. 202)

概観　短期だが複数年度に出現。A, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2006–2013	樹上で虫取り; 囀り [2012].

所見　調査区内では春期、渡り途中の通過個体が稀に記録される。A 区では 2012 年に多数が確認され、A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) でも多数観察された。またこの年には右京区落柿舎のカキノキにとまっている個体も観察されている。

3.116　シロハラ Turdus pallidus (グラフ p. 203)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2001–2014	囀り [2009].
9	2008	
10	2001	
11	1998–2012	
12	1998–2013	地鳴き [2002].
1	1998–2014	
2	2001–2014	
3	1999–2014	

所見　調査区内では全域で記録されているが、上流部 (A 区) と下流部 (E 区) に比較的個体数が多い。ま

た、年により記録される個体数の変動が大きい。A 区では隣接する亀山公園 (19Km 地点) 付近とそれよりやや下流で確認されている。

3.117　アカハラ Turdus chrysolaus (グラフ p. 204)

概観　短期だが複数年度に出現。A, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2004–2014	路上で採餌 [2004]. 囀り; 囀り [2012].
5	2008	
2	2007–2013	

所見　調査区内では春期、渡り途中の通過個体が主に A 区で少数記録される。A 区では右岸で地面に降りているのも確認されている。

3.118　ツグミ Turdus naumanni (グラフ p. 205)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	北へ [2004]. 水浴び [2006].
5	1999–2014	C [2008].
10	2001–2014	
11	1998–2014	今期初認 [2003]. グラウンド [2004]. グラウンド [2007]. 桂離宮 初認 [2014].
12	1998–2014	
1	1997–2014	
2	1997–2014	北へ [2009]. ツグミのいくつかの小群をカウント、終了後、帰りには もういなかった。 [2011]. ブロッコリー畑 [2012]. テニスコート北側樹林帯に集結 [2013].
3	1997–2014	道上を跳び、草面を低く飛ぶ。左羽に負傷か? [2002]. グラウンド [2007].

所見　調査区内では全域で確認されるが、下流部 (E 区) の方が記録される個体がやや多い。記録される個体数は 12–1 月が他の時期より多いが、秋期 (10–11 月期) に D 区で多数 (200 羽以上) 記録されたことがある。調査区内には 12 月ようやく飛来する (初認される) 年もある。春に近くなるとグラウンドでの採餌行動が観察される。

3.119　コマドリ Luscinia akahige (グラフ p. 206)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2011	♂ [2011].

所見　調査区内では 2011 年 A 区で春期に渡り途中と思われる 1 例の記録があるのみだが、渡りの時期には通過個体が A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) で観察されることがある。

3.120　コルリ Luscinia cyane (グラフ p. 207)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2011	♂ [2011].

所見　調査区内では 2011 年 A 区で春期に渡り途中と思われる 1 例の記録があるのみ。桂川ではないが、他の地域では渡りの時、竹藪で観察されることがある。

3.121　ルリビタキ Tarsiger cyanurus (グラフ p. 208)

概観　冬期を通して出現。A, B 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2010	
10	2004	
11	2012	
12	2000–2010	♂ [2000]. ♂ [2010].
2	2001–2012	
3	2003–2004	♂ 1、♀ 1 [2003].

所見　調査区内では主に A 区で少数が確認される。同時に確認された個体数は 2 羽が最大である。A 区以外では B 区の 11km 地点で 1 例のみ秋期に記録がある。

3.122　ジョウビタキ Phoenicurus auroreus (グラフ p. 209)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	1998–2014	♀; ♂; ♂ 1 、♀ 1 .　[2002]. ♂ [2003]. ♂; ♀ [2004]. ♀; ♂; ♂♀ [2007]. ♀; ♂ [2009]. ♀ [2010]. ♀ [2011]. ♀ [2014].
11	1997–2014	C; ♀ [2002]. ♂ 1 、♀ 1 . ; ♀。; ♀; ♂; ♂ 2 .　[2003]. ♂♀ [2004]. ♂♀; ♀ [2006]. ♂; ♂ 2 ; ♀ 2 ; ♀; ♂、♀ [2008]. ♀; ♂; ♀ [2012]. 細い鉄パイプ上; ♀; ♀ [2014].
12	1997–2014	♀; ♂ [2000]. ♀ [2001]. ♂ 2 、♀ 3 。; 2 羽とも♀; ♀; ♂ [2002]. ♂; ♂ 2 、♀ 1 ; ♀ [2003]. ♀; ♂ 1、♀ 1; ♂ [2004]. ♀ [2005]. ♂ 4 ♀ 2; ♂; ♀ [2006]. ♂、♀; ♀; ♂ [2007]. ♀ [2008]. ♂; ♀ [2009]. ♂; ♀ [2010]. ♂; ♀ [2011]. ♂; ♀ [2012]. ♀ [2013]. ♀; 共に♂; ♂ [2014].
1	1997–2014	♀ [2005]. ♀; ♂ [2014].
2	1997–2014	♂ [2000]. ♀; ♂ [2001]. 追記; ♂♀; ♀ [2004]. ♀; ♂ [2006]. ♂; ♀; ♂♀ [2007]. ♂♀; ♂; ♀ [2008]. ♂; ♂、♀; ♀ [2009]. ♂; ♀ [2010]. ♂; ♀ [2011]. ♀; ♂ [2012]. ♀; ♂ [2013]. ♂; ♂; ♀ [2014].

3	1997–2014	♀ [2001]. ♀; ♂; ♂ばかり 3 羽。 [2003]. ♀; ♂ [2004]. ♀; ♂ [2005]. ♂ [2013]. ♀; ♂ [2014].

所見　調査区内では全域で普通に記録されるが、全体として秋期 (10–11 月期) に記録される個体が多い。冬期より秋期に記録される個体が多いのは、渡り途中の通過個体が含まれることや、秋期は越冬期 (12–1 月期) と異なり頻繁に鳴くので確認しやすいことが原因と推測されている。調査区の中では A 区に比較的個体数が多く、特に秋の渡り時期に多数が確認されたことがあり、低水路や川縁で記録された個体が多い。個体数の経年変化に明確な傾向は認められないが、E 区は越冬期 (12–1 月期) の個体数に減少傾向が認められる。

3.123　ノビタキ Saxicola torquatus (グラフ p. 210)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999–2013	夏羽 [2008]. ♂♀ [2010]. ♀型 [2013].
9	2001–2003	
10	1998–2014	♀♂ [2005].
11	2002–2014	オギ [2014].

所見　調査区内では 4 月と 9–11 月の渡り時期に通過個体が記録される。上流部で記録されることが多く、A 区の渡月橋 (18km 地点) の下流右岸の草地で秋期に多く確認されることがあり、2014 年度は特に多数確認された。一方、下流部の D 区では記録がほとんどなく、E 区では全く記録されていない。

3.124　イソヒヨドリ Monticola solitarius (グラフ p. 211)

概観　冬期を通して出現。A, B, C, E 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	2013	
5	2008–2011	♂、餌運び [2008].
9	2010	
11	2013	♂、橋に隠れる [2013].
12	2013	♂ [2013].
2	2005–2013	♂ 料理屋「川よし」の屋根で囀り [2013].
3	2002	

所見　調査区内では少数記録されるが、近年記録される機会がやや増加している。橋の近くで観察されることがある。A 区の料理屋「川よし」(15km 地点) の屋根で 2008 年 5 月に調査区内で初めてエサ運び (♂が青虫をくわえる) が確認された。同じく A 区では上野橋 (14km 地点) 上流のマンション前にある河川敷の不法耕作地にて、フェンスにとまっているのが観察されている。

3.125　エゾビタキ Muscicapa griseisticta (グラフ p. 212)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
9	2004–2012	98/10 鵜の目 三川合流で確認 [2005].
10	2004–2010	追加 [2004].

所見　調査区内では秋期 (9 月、10 月) に渡り途中の通過個体が稀に記録される。調査外であるが 1998 年 10 月にも三川合流で確認記録があり、日本野鳥の会京都支部会報「そんぐぽすと」に掲載されている。

3.126　コサメビタキ Muscicapa dauurica (グラフ p. 213)

概観　冬期を通して出現。B, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
5	2008	
9	2001–2012	01、02、03/9 D 区で確認 [2005].
10	2004	
12	2006	

所見　調査区内では春秋に渡り途中の通過個体が少数記録される。B 区では久世橋 (10km 地点) 上流右岸の水路より北にある樹木で確認されたことがある。D 区では 2001–2003 年に毎年 9 月に記録されている。なお、B 区で 2006 年 12 月に 1 例記録されているが、稀な越冬記録である。

3.127　キビタキ Ficedula narcissina (グラフ p. 214)

概観　夏期を通して出現。A, E 区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	2007–2014	囀り [2009]. 囀り [2010]. ♂ [2011]. 囀り; 囀り; 水飲み [2012]. 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	2008–2014	
6	2007–2014	囀り [2009]. 囀り [2011]. 囀り [2012]. 囀り [2014].
7	2008–2010	
9	2005	記録なし 初認？ [2005].

所見　調査区内では A 区と E 区でのみ記録されており、記録される個体数は増加傾向にある。主に渡り途中の通過個体が春期に記録されるが、A 区では 2007 年以降、繁殖期にも確認されている。B–D 区でも声を聞くことはあるが、調査時には確認されていない。

3.128 オオルリ Cyanoptila cyanomelana (グラフ p. 215)

概観 夏期を通して出現。A, C, E 区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	2003–2014	川を横切る電線の中央に止まり囀る [2006]. 囀り [2009]. 囀り [2010]. ♂ [2011]. 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	2008	
6	2009	囀り [2009].
7	2006	囀り（トケン類♀の声も加える名調子） [2006].
9	2005	03/4、04/4 A 区で確認 [2005].

所見 調査区内では春 (4–5 月期) と秋 (9 月) に渡り途中の通過個体が少数記録されるが、A 区以外では稀。A 区でのみ繁殖期にも記録があり (6、7 月に各々 1 例、確認個体数は 1 羽)、19km 地点付近 (亀山公園と星野屋の間の電線) から A 区の南西側に隣接する鳥ヶ岳 (19km 地点) 方向へ飛去する個体を確認している。

3.129 ニュウナイスズメ Passer rutilans (グラフ p. 216)

概観 短期だが複数年度に出現。B, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2005	
5	2008	E 区では初認 [2008].

所見 調査区内では春期 (4–5 月期) に B 区と E 区で各々 1 例ずつ記録されているのみである。B 区では隣接する桂離宮 (12km 地点) 付近で記録された。

3.130 スズメ Passer montanus (グラフ p. 217)

概観 一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 東へ [2009].
5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C; 幼鳥 + 成鳥 ランク B [2002]. ヒナ 3 羽に給餌 [2005].
6	1997–2014	ランク C [1997]. 4 羽は幼鳥 ランク B; ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 水浴び [2004]. 電線 [2005]. 幼鳥; 南へ; ヒメジョオン 群生; ヒナを含む [2007]. ヒナ [2008]. すべて幼鳥 [2009]. 幼鳥 [2014].

7	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. ランク C [2002]. 幼鳥 [2004]. 幼鳥 1 [2005]. 幼鳥 2 ; 幼鳥 3; 幼鳥 4 [2008]. 橋; ロープの上 [2012].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 橋桁 [2004].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
11	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
12	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 追加 [2004].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 東へ; 北へ [2008].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].

所見　調査区内では全域で普通に記録されるが、個体数は一旦減少ののち近年再びわずかに増加傾向にある。稀に極端に多数の個体が記録されることがあり、例えば A 区では 2014 年 2、3 月に松尾橋の少し上流 (16km 地点) で 600 羽を超える個体が確認されたが、春にはいなくなった。この場所はヤナギが伐採後に再び少し伸びてきており、スズメは付近のブタクサなどに群がっていた。D 区では 2005 年頃まで繁殖期 (6–7 月期) に個体数が多かったが、現在は以前ほど多くは記録されない。D 区にはかつては畑地が多かったが、やや減少傾向にあるので、それに伴ってスズメの記録も減少している可能性がある。

3.131　キセキレイ Motacilla cinerea (グラフ p. 218)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2013	♂♀ [2007]. 東へ [2009].
5	2001–2005	
6	1997–2013	幼鳥というよりも巣立ちヒナ、綿毛だらけ [2009]. 親 1 、幼鳥 4 [2013].
7	1998–2010	2 羽幼鳥 [2006]. 幼鳥 3 [2008].
8	1997–2004	
9	1998–2008	
10	1998–2014	
11	1997–2014	岩 [2003]. グラウンド [2004].
12	1997–2014	
1	1998–2010	
2	1998–2014	
3	1997–2014	

所見　調査区内では全域に記録があるが、個体数は上流部 (A 区) に多い。繁殖期の記録や繁殖行動は主に A 区で確認されているが、過去には B 区でも繁殖していたことがあり、6 月に繁殖記録がある。C–E 区には繁殖の確認例はないが、夏期に観察されることもあり、付近で繁殖している可能性も捨てきれない。

3.132　ハクセキレイ Motacilla alba (グラフ p. 219)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	巣材（犬の毛）運び [2006]. 幼鳥 [2007]. 西へ [2009].
5	1997–2014	
6	1999–2014	幼鳥 [2011]. ネジバナ [2014].
7	2004–2012	ヒナ 2 羽、成鳥 1 羽 [2004]. 成鳥 1、幼鳥 1 ; 幼 [2010].
8	1997–2009	幼鳥 [2006].
9	1998–2012	
10	1997–2014	石の上 [2003]. 幼鳥; 南へ [2009]. 幼鳥と成鳥、各 1 [2013].
11	1997–2014	貸しボートに止まっていた [1997]. 親子 ランク B [1999]. 休憩 [2001]. 岩 [2003]. 幼 1; 幼 [2006]. グラウンド [2007].
12	1997–2014	岩 [1997]. コンクリートブロック [2000]. 幼鳥 [2006]. 北へ [2009].
1	1997–2014	地点不明 [2011].
2	1997–2014	橋桁 [2008].
3	1997–2014	

所見　調査区内では全域に記録があるが、近年は下流部 (C、D 区) での確認がやや多く、D 区の 5km 地点付近では個体数が多い。年間を通じて記録され、繁殖も確認されているが、秋期から冬期に記録される個体数が多い。植生が何もないグラウンドで観察されることもある。なお、1997 年の調査開始以前、B 区の桂大橋 (12km 地点) の下面に最大約 1200 羽のねぐらが冬期のみ形成されていたが現在は消失している。京都府内では調査地外でも繁殖期の確認例が増えており、嵐電の嵐山駅付近や京阪宇治駅でも観察されている。宇治駅ではヒナへの給餌も確認されている。また、巨椋干拓地でも夏、巣立ちした幼鳥が観察されている。

3.133　セグロセキレイ Motacilla grandis (グラフ p. 220)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	ランク C; 幼鳥 ランク B [1997]. ランク C; 1 羽巣立ちヒナ ランク B; 巣立ちヒナ ランク B [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 若 ランク B [2001]. ランク C [2002]. 内、巣立ちヒナ 1 羽。; 内、巣立ちヒナ 1 羽に給餌。 [2004]. 橋げた 若 [2006]. 対岸寄り巣; 幼 1; ♂幼鳥; 幼鳥 1 羽; 若鳥 1 羽 [2007]. 囀り [2010]. 囀り; 幼鳥 1 と、幼鳥に給餌する成鳥 1 [2013]. 成鳥 1 、幼鳥 1 ; 囀り [2014].

5	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C; 幼鳥 ランク B [2001]. ランク C; 幼 ランク B [2002]. 堰の上; 幼鳥 [2005]. 巣立ちヒナ 2 羽; 幼鳥; 餌運び [2008]. 数は 1? [2014].
6	1997–2014	ランク C; ランク B 幼鳥 [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥 2 ランク B; 成鳥 1 、ヒナ 1 . ランク A; 幼鳥 1 ランク B; 幼鳥 2 、成鳥 1 . ランク B; ランク C; 成鳥。 ランク C [2002]. 幼鳥 [2003]. 幼鳥; 北へ; 幼鳥多数 [2005]. 親 2 幼 1 [2007]. 幼; 幼 2 ; 囀り; すべて幼鳥; 幼 6 羽が 1 羽の成鳥と行動を共にする [2009]. 囀り; 幼鳥 [2011]. 幼鳥; 堰に止まる; 成鳥 1 、幼鳥 4; 幼鳥、水浴び [2013]. 幼鳥 [2014].
7	1997–2013	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; 幼鳥 ランク B [1999]. 若鳥 ランク B; ランク C [2000]. ランク C [2001]. 若鳥 ランク B [2002]. 幼鳥 [2004]. 親 1 、幼鳥 1 ; 幼鳥 [2005]. 成鳥、イソシギにモビング; 1 羽幼鳥; 幼鳥; 成鳥 [2006]. 親子 [2007]. 若; 北へ; 幼鳥 1 [2008]. 若 [2009]. 幼 [2010].
8	1997–2009	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥; 若鳥 [2002].
9	1997–2012	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥 1 羽 ランク B [2002]. 囀り ランク B [2003].
10	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 幼鳥 1 羽 [2009].
11	1997–2014	ランク C; 石の上 ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C; 幼鳥 ランク B [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 岩 [2003]. グラウンド [2004]. グラウンド [2007]. 囀り [2008].
12	1997–2014	ランク C; 石畳 ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C; コンクリートブロック ランク C [2000]. ランク C [2001]. 北 [2003].
1	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. グラウンド [2006].
2	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1998]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001].
3	1997–2014	ランク C [1997]. ランク C [1999]. ランク C [2000]. ランク C [2001]. 囀り [2003].

所見　調査区内では全域に記録があるが、上流部 (A 区) で記録される個体数が多い。河川敷の樹木が伐採された 2009、2010 年には繁殖期に個体数の減少が認められたが、伐採と減少の因果関係は不明である。それ以外に顕著な増減は確認されていない。繁殖記録については、調査区内で幼鳥が観察されているが巣は確認できていない。

3.134　ビンズイ Anthus hodgsoni (グラフ p. 221)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2009	
10	2003–2004	

11	1999–2002	
3	2002–2010	

所見　調査区内では記録が少なく、主に春秋の渡りの時期に記録されている。D 区では冬期に観察されることがあるが稀である。

3.135　タヒバリ Anthus rubescens (グラフ p. 222)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
10	1998–2004	
11	1999–2007	グラウンド [2004]. グラウンド [2007].
12	1997–2000	
1	1997–2014	グラウンド [2006].
2	2003–2009	
3	1997–2010	

所見　調査区内では主に下流部 (E 区) で記録されていたが、近年の記録は稀である。E 区では三川合流付近のグラウンドで観察されていた。調査区に近い巨椋干拓地や右京区北嵯峨では現在も越冬期に普通に生息しており、大阪府の淀川下流ではゴルフ場などにも生息していることが知られている。

3.136　アトリ Fringilla montifringilla (グラフ p. 223)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2007–2009	
11	2000–2008	
12	2006–2013	
1	2008–2014	
2	2006–2014	カワラヒワと [2006].
3	1997–2008	

所見　調査区内では記録は少ないが、全域で確認されている。A 区では嵐山の山地から時々群れで河川へ下りてくることがあり、2010–2011 年の冬期には嵐山東公園 (17km 地点) のグラウンドでアキニレの実を採餌するのが観察された。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) には毎年冬渡来し、モミジの種子を採餌する。C 区でも一度に 30 羽以上が確認されたことがあり、D 区でも秋期に 30 羽以上が空中通過した記録がある。

3.137　カワラヒワ Chloris sinica (グラフ p. 224)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	淡色 くちばし灰 腹橙 [2007]. 南へ; 東へ [2009]. 囀り [2012]. 囀り [2013]. 囀り [2014].
5	1997–2014	声のみ [2003]. ヒナ２羽; 巣立ちヒナ２羽に給餌 [2005]. 囀り; C [2008].
6	1997–2014	コンクリート面の水溜りで水浴び [2008]. 虫をくわえて人家の方へ飛び去る [2009]. 囀り [2011]. 囀り [2012]. 幼鳥 [2013]. 親子 [2014].
7	1997–2014	地鳴; 幼鳥; juv. ランク B [2002]. 幼鳥 [2006]. 幼鳥 [2008].
8	1997–2009	声 [2004].
9	1997–2010	
10	1997–2014	
11	1997–2014	上流から１４ケ目のワンド [1997]. カナムグラの実を採餌 [2001]. グラウンド [2004].
12	1997–2014	オオカワラヒワ [2000]. 北へ; 西へ [2008].
1	1997–2014	オオカワラヒワ？ [2014].
2	1997–2014	数羽が囀り [2006]. 北へ [2008].
3	1997–2014	数:∞; 囀り [2003].

所見　調査区内では全域で普通に確認されているが、越冬期に記録される個体が多い。A 区ではオオブタクサの群落に群れているのが確認されている。

3.138　マヒワ Carduelis spinus (グラフ p. 225)

概観　短期だが複数年度に出現。A, B 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
2	2010–2012	♂２♀２ [2012].

所見　調査区内では稀に記録されるのみであるが、2010 年度 (2010–2011 年冬) には多数の渡来が確認された。A 区では 2010–2011 年冬に嵐山東公園 (17km 地点) の南側 (芝生やジャングルジムがあるところ) にたくさん降りていた。同公園のアキニレの実を採餌するのが観察され、付近ではアトリ、アリスイ、カワラヒワも観察された。その後、最近になって嵐山東公園の北側のへり (松尾橋より 100m ほど上流) の、アキニレ (直径 50cm ほど) は伐採され、ウバメガシの垣根は高さ 2m から 50cm ほどに刈り込まれた。

3.139　ベニマシコ Uragus sibiricus (グラフ p. 226)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2003	
10	2001–2004	
11	1997–2014	♂２、♀３．今期初認 [2003]. 声 [2012].
12	1998–2012	声のみ; ♂♀ [2001]. 地鳴き [2002]. ♂１、♀４; ♂２ [2003]. ♂♀; ♂; ♀ [2005]. ♂２羽 [2006]. ♂１♀４ [2008]. ♂ [2010]. ♂; ♂ [2012].

1	1997–2014	♀ 5 [2001]. 声のみ [2005]. ♂♀; ♀ [2014].
2	1998–2012	♂♀ [2006].
3	1997–2014	♂ 1、♀ 2 [2000]. 地鳴き; ♀ 4 、♂ 1 [2002]. ♂ 5 ♀ 3 [2003]. ♀; ♂ 1. ♀ 2 [2004]. ♂ 2; ♂ 2 ♀ 2 [2005]. ♀; ♀ 2 [2014].

所見　調査区内では全域に記録があるが、2013、2014 年は全体的に個体数が減少した。A 区では松尾橋前後 (16km 地点付近) で記録されており、ヨモギ、セイタカアワダチソウの実を食べるのが観察されていた。この場所は最近、草を刈り、表土を削って整地が行われたため生息に適さなくなった。B 区の JR 鉄橋 (11km 地点) の下流ではヤナギにとまっているのが確認された。C 区ではセイタカアワダチソウ群落で観察されており、観察される機会がやや増えている。過去には A 区の北側の小倉山にトロッコのトンネルを掘って石を積み、樹木 (ヤマモモやマツ) を植えた。そこにマヒワ、クロジ、ベニマシコが来ていた。それらの個体が桂川まで降りてきていた可能性があると指摘されている。

3.140　ウソ Pyrrhula pyrrhula (グラフ p. 227)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
2	2006	

所見　調査区内では A 区で 1 例のみ記録されているが、A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) には例年 2、3 羽渡来している。

3.141　シメ Coccothraustes coccothraustes (グラフ p. 228)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2013	
5	2009–2011	
10	2001–2014	
11	1997–2013	エノキの実を採食 [1999]. ムクノキ [2013].
12	1998–2014	
1	1997–2014	
2	2000–2014	
3	2001–2014	

所見　調査区内では全域に記録があるが、下流部 (E 区) での記録が多い。越冬期と春秋の渡りの時期に記録されており、全体では 12–1 月期の記録が多い。個体数は年により大きく変動する。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) では春期に多数観察されることがあるが、河川には移動してこないので、A 区の春期の記録はわずかである。D 区の 4km 地点にも樹木があり、そこで記録されていたが近年は記録が減っている。E 区の 0km 地点のエノキやムクノキでは多くの個体が確認され、100 羽の群れが記録されたこともある。

3.142　イカル Eophona personata (グラフ p. 229)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖の可能性がある。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	囀り; 囀り [2009]. 囀り [2012]. 囀り [2014].
5	2008–2009	
6	2004–2010	
7	2004–2008	
9	2006	
10	2005–2014	
11	1999–2014	シメの群に混じる; サギコロニーの河畔林 [1999]. 桂離宮 [2014].
12	1998–2014	
1	1998–2014	
2	1998–2014	
3	1997–2011	

所見　調査区内では全域に記録がある。記録された例数は比較的少ないが、群れで記録された場合、数百羽の個体が一度に確認される場合もある。特に 2009 年度には記録数が多く、A 区では 18km 地点より上流土手上のエノキ、ムクノキで 200 羽が記録され、E 区でも 200 羽が確認されている。

3.143　ホオジロ Emberiza cioides (グラフ p. 230)

概観　一年を通して出現。全区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2014	鳴き声 ランク B [2001]. 囀り ランク B; ♂ [2002]. 囀り [2006]. 餌運び [2008]. ♂ [2009]. 囀り; ♂囀り; ♂ [2010]. ♂ [2011]. 囀り [2012]. 囀り [2013]. 囀り; 囀り [2014].
5	1998–2014	声 ランク B [2002]. ♀♂。♀は声のみ ランク B; ♀♂。餌を口一杯に頬張る（餌運び？） ランク A [2003]. 2 羽幼鳥 [2005]. 囀り; C [2008]. 囀り [2009]. 囀り [2010]. 囀り [2011].
6	1997–2014	囀り ランク B [2000]. 虫をくわえて止まる。 [2002]. 営巣可能性あり ランク B [2003]. C [2004]. 幼鳥 [2005]. コンクリート面 [2008]. ♂ 囀り [2009]. 囀り [2011]. 囀り; 囀り [2012]. 囀り; 囀り; 若; 囀り、上空をパラグライダー [2013]. 囀り; ヒナ [2014].
7	1997–2014	囀り ランク B [2002]. 囀り ランク B [2003]. 幼鳥 2 羽; 幼鳥 [2004]. 幼鳥 [2005]. 囀り; 幼鳥 [2007]. 囀り; 囀り 斑 [2008]. 囀り [2009]. ♂ [2010]. 子供 5、成長 1 [2012].
8	1997–2009	♀成鳥と幼鳥 ランク B [2001].
9	1997–2012	♂ [2003].

10	1998–2014	♂1、♀1． [2002]. 囀り ランク C [2003]. 声のみ [2005]. 囀り; ♂2、♀3; ♀ [2007]. 囀り 1 [2011]. 囀り [2014].
11	1997–2014	♂1、♀1、若1． [2003]. 囀り; ♂2 [2006]. 囀り [2008]. 声 [2012]. 囀り [2013]. 囀り; キタテハ 8+ [2014].
12	1997–2014	C [2004]. セイバンモロコシ [2012].
1	1997–2014	アルビノ個体 [2011].
2	1997–2014	数羽が囀り [2006]. ♂; 囀り [2008]. 囀り [2009].
3	1997–2014	囀り [2003]. 採食 [2004]. ♂♀ [2005].

所見　調査区内では全域で記録があるが、下流部、特に D 区で記録される個体数が比較的多い。繁殖期の個体数は安定してるが、冬期に記録される個体数は増減を激しく繰り返し、近年は再び増加傾向にある。山地に雪が降った時には、調査区内へ移動してくる。A 区では繁殖期には個体数が少ないが、越冬期には上野橋 (14km 地点) の寄州で多く記録されていた。しかし、台風で増水流出が起こった 2004 年に減少し、その後増加したが、2009 年に工事で再び減少した。E 区では最も多く確認された場所の環境が消失したため、個体数が減少した。繁殖については巣が観察されたことがある。真冬でもさえずっているのが確認されている。

3.144　ホオアカ Emberiza fucata (グラフ p. 231)

概観　冬期を通して出現。A, C, D 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999–2006	
5	2002–2011	
11	2010	
1	2001	
3	2001	

所見　調査区内では主に 4–5 月期の渡りの時期に少数が記録されるが稀である。E 区では 0km 地点とバイパスの天王山大橋 (0.5km 地点) の間の草地で確認されていたが、現在は刈られて消失している。D 区では渡りの時期以外に 2001 年冬期に 1 例 3 羽の記録がある。C 区では公園で記録された。

3.145　コホオアカ Emberiza pusilla (グラフ p. 232)

概観　単年度だけに出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2006	桂川調査で初認か [2006].

所見　調査区内では 2006 年 11 月に E 区の背割堤にて 1 例 (1 羽) が記録された。写真は撮影されていない。

3.146　カシラダカ Emberiza rustica (グラフ p. 233)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2000	巣材持ち? [1997].
5	2008	
10	2001–2003	♂1、♀1． [2002]. 地鳴き [2003].
11	1997–2014	モズがカシラダカを追いまわす [2002]. グラウンド [2004].
12	1997–2014	♀ [2002]. C [2004].
1	1997–2014	
2	1997–2014	
3	1997–2010	

所見　調査区内では全域で記録があるが、記録数は比較的少ない。個体数の経年変化が激しく、時々大きな群れが記録される。例えば、A 区では上野橋 (14km 地点) 付近に 100 羽の群れで来ていた。C 区では低い藪に群れでいた。

3.147　ミヤマホオジロ Emberiza elegans (グラフ p. 234)

概観　単年度だけに出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
3	2002	

所見　調査区内では 2002 年 3 月に E 区で 1 例 (1 羽) のみが記録されている。調査外では上流部で観察されたことがあるが、河川沿いではない。

3.148　アオジ Emberiza spodocephala (グラフ p. 235)

概観　冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2013	声のみ [2000]. 囀り ボート煩い [2008]. 囀り [2013].
5	2001–2014	
10	2001–2014	地鳴き [2003].
11	1997–2014	声 [1999]. C [2002].
12	1997–2014	声のみ [2001]. 地鳴 [2002]. カシラダカかも? [2006]. ♂ [2011].
1	1997–2014	地鳴き [2003].
2	1997–2014	追記 [2004].
3	1997–2014	

所見　調査区内では全域で記録がある。河川工事のため 2010 年からの数年は個体数が減少した。特に D

区の宮前橋付近 (2.3km 地点) で引き堤工事が行われていたが、現在は休止中である。同じ D 区では越冬期に多数 (80 羽以上) が記録されたことあるが理由は不明である。E 区では近年、個体数が減少している。

3.149 クロジ Emberiza variabilis (グラフ p. 236)

概観 冬期を通して出現。A, C, D, E 区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2006	
11	2002–2008	
12	2009	♂ [2009].

所見 調査区内では少数記録があるが、近年は記録がない。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) には毎年渡来する。同じく A 区の南西側に隣接する鳥ヶ岳 (19km 地点) の斜面右岸に水を飲みに来る。A 区の下流部 (15km 地点) から B 区の 10km 地点にかけては水田と人家が多く、クロジが記録されるような環境がない。

3.150 オオジュリン Emberiza schoeniclus (グラフ p. 237)

概観 冬期を通して出現。全区で見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	1999–2010	
10	2001	
11	1999–2003	
12	2003–2007	
1	2003–2013	
2	1999–2010	数羽が囀り [2006].
3	1997–2014	

所見 調査区内では上流部で比較的多く記録される。2、3 月に記録されることが多く、越冬個体か渡り途中の個体と推測されている。A 区上流部 (18km 地点) の中之島と小橋に数年前までアシ原があり、3–4 月に渡り途中と思われる個体が記録された。渡来した場合には多数の個体が確認されたが、現在ではこのアシ原は消失している。同じく A 区の上野橋付近 (14km 地点) の寄州にもアシ原が茂っておりオオジュリンを含むホオジロ類が多く生息していたが台風により消失した。E 区の 0km 地点、三川合流にもアシ原がありオオジュリンが記録されたが消失した。

3.151 コジュケイ Bambusicola thoracicus (グラフ p. 238)

概観 一年を通して出現。A, C, D, E 区で見聞された。繁殖が確認されている。

月	初–終認年度	備考
4	1997–2009	
5	1998–2012	声 [2002]. 囀り [2008].

6	2002–2009	成鳥 2、 幼鳥 3 [2002].
7	1998–2011	林の中 [2006].
9	1998–2010	
10	2001	
11	1998–2009	
12	2001–2009	
1	2003–2005	
2	2006	
3	1997–2011	

所見　調査区内では下流部で比較的多くの個体が記録されている。特に E 区の 0km 地点から下流、背割堤のところでは定期的に記録される。個体数が減少している印象はないが、実際に記録された個体数はやや減少傾向を示している。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) では繁殖しているが桂川には移動してこない。

3.152　カワラバト Columba livia (グラフ p. 239)

概観　単年度だけに出現。E 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2009	

所見　調査区内では E 区で 2009 年に 1 例のみ記録されている。A 区の中之島 (18km 地点) でも多く観察されるが、調査時には記録されていない。本調査では通常、観察されても記録されていない。一年を通じて生息しており、繁殖も確認されているが、本調査による具体的なデータはない。

3.153　セキセイインコ Melopsittacus undulatus (グラフ p. 240)

概観　単年度だけに出現。B 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
12	2000	

所見　調査区内では B 区で 2000 年に 1 例 (2 羽) のみが記録されており、飼育個体が逃げ出した「かご抜け」の個体と推測されている。

3.154　ワカケホンセイインコ Psittacula krameri manillensis (グラフ p. 241)

概観　単年度だけに出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2004	

所見　調査区内では A 区で 2004 年 4 月に空中飛翔する第 1 回冬羽の個体が記録されいている。

3.155　ソウシチョウ Leiothrix lutea (グラフ p. 242)

概観　短期だが複数年度に出現。A 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
4	2007	
12	2006	

所見　調査区内では A 区で 2 例の記録がある。A 区に隣接する亀山公園 (19km 地点) には冬期のみだが例年生息しており、写真家がエサを与えているが、調査地河川敷には降りてこない。

3.156　ハッカチョウ Acridotheres cristatellus (グラフ p. 243)

概観　単年度だけに出現。B 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
2	2005	

所見　調査区内では B 区で 2005 年度 (2006 年 2 月) に 1 例のみ記録された。B 区の桂大橋付近 (12km 地点) には数十羽が生息し、カキやミカンの果樹にとまっていた。桂大橋で 7 羽が観察されたこともある。同じく B 区に隣接する桂離宮 (12km 地点) にも生息し、樹林になっていた付近の中州で水を飲むのが観察されたことがある。「キィウ、キィウ」と鳴くのが観察されている。

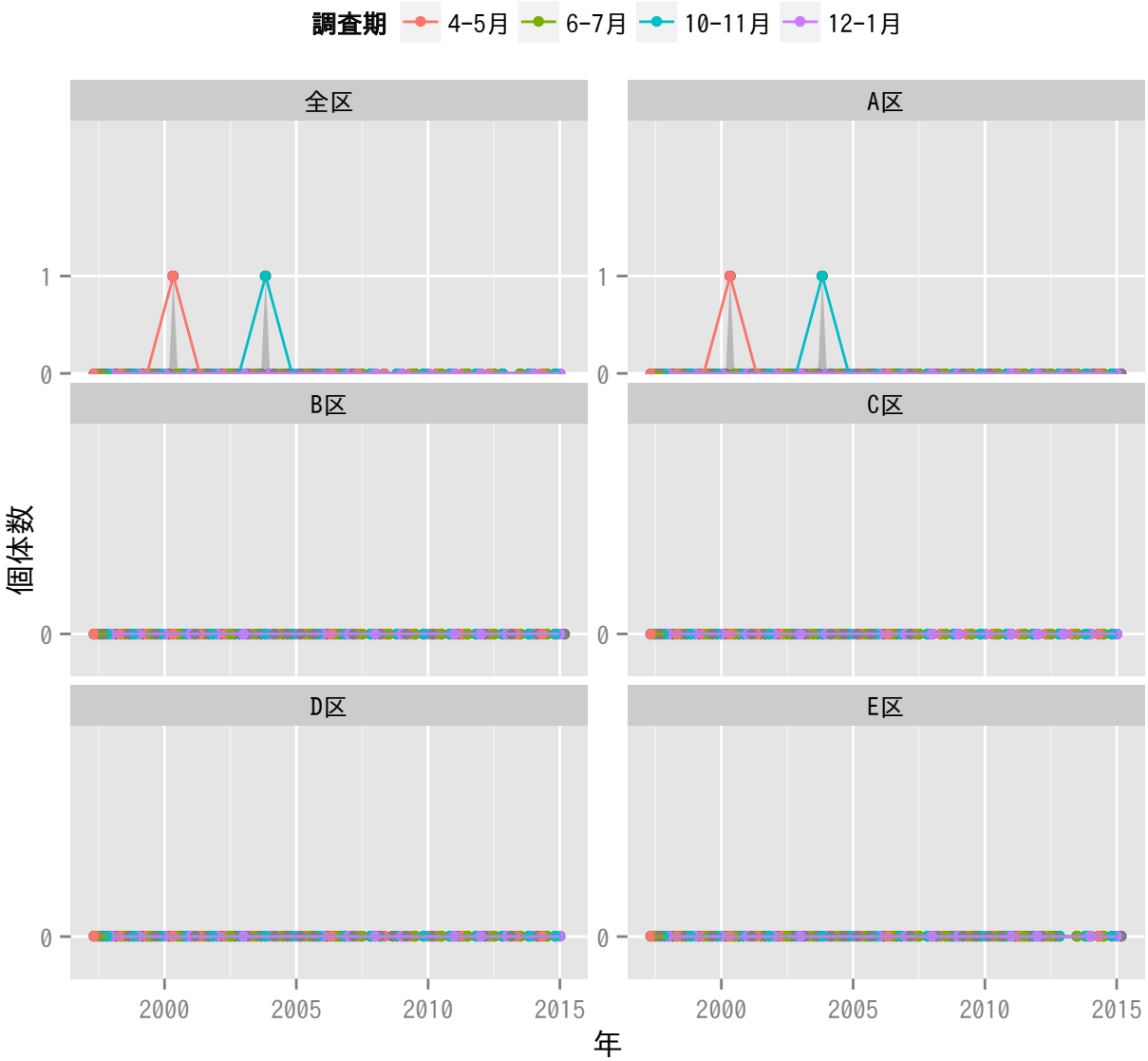
3.157　ベニスズメ Amandava amandava (グラフ p. 244)

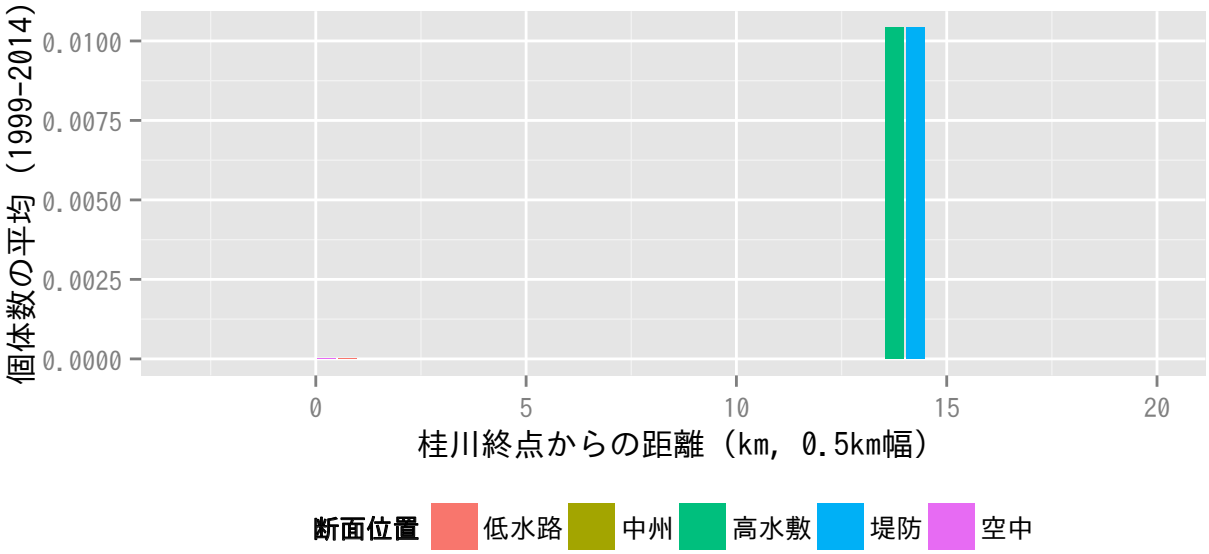
概観　単年度だけに出現。D 区だけで見聞された。

月	初–終認年度	備考
11	2001	
1	2001	野鳥ではないが… [2001].

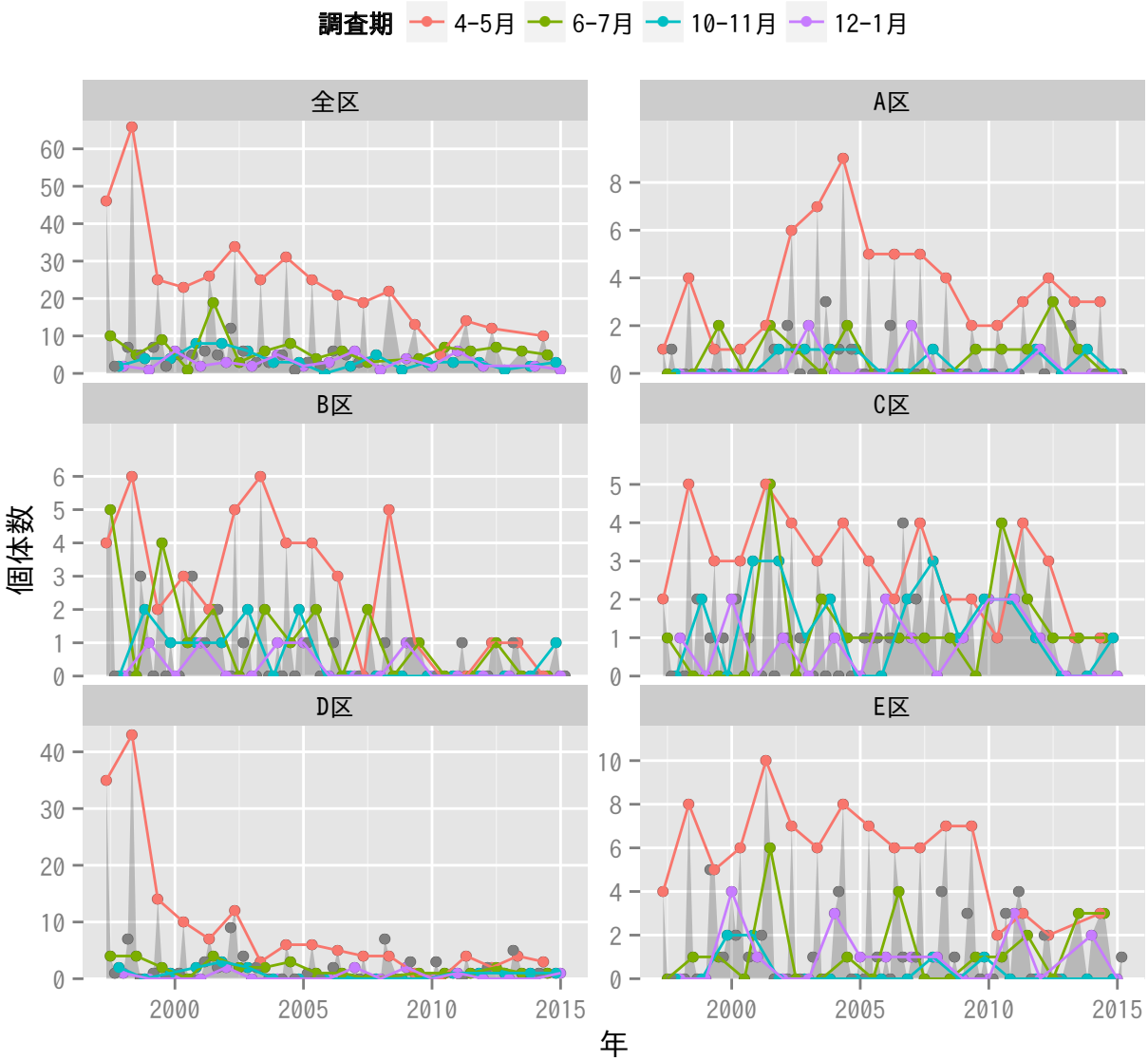
所見　調査区内では D 区で 2001 年度の秋期の 11 月と冬期の 1 月に各々 1 例ずつ記録された。調査時でないが、E 区の三川合流の南でも観察されたことがある。ただし近年は観察されない。上流部では観察されたことがない。

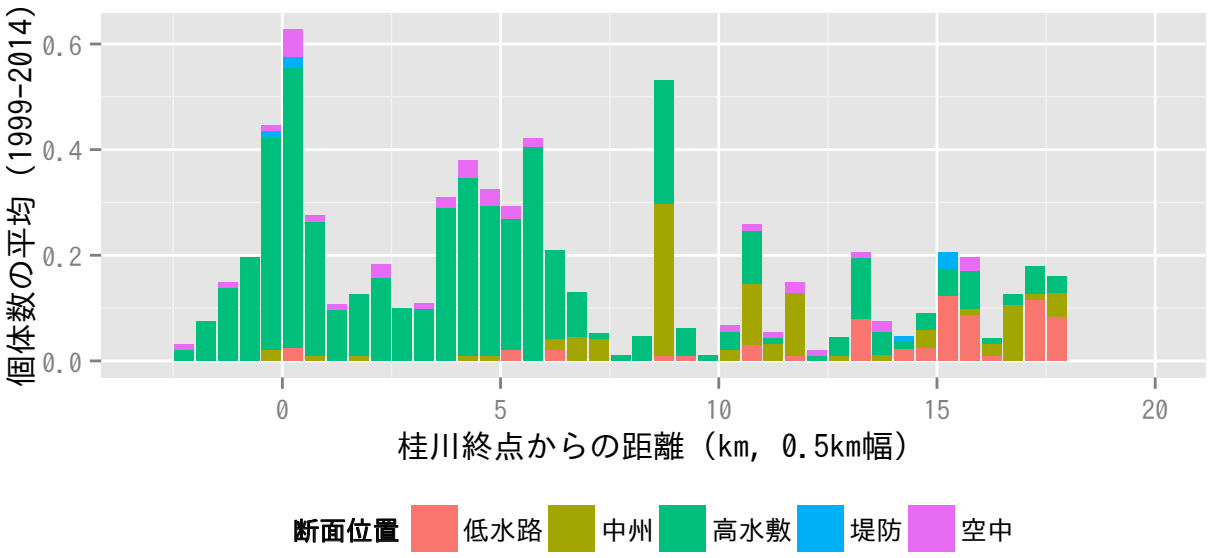
ウズラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

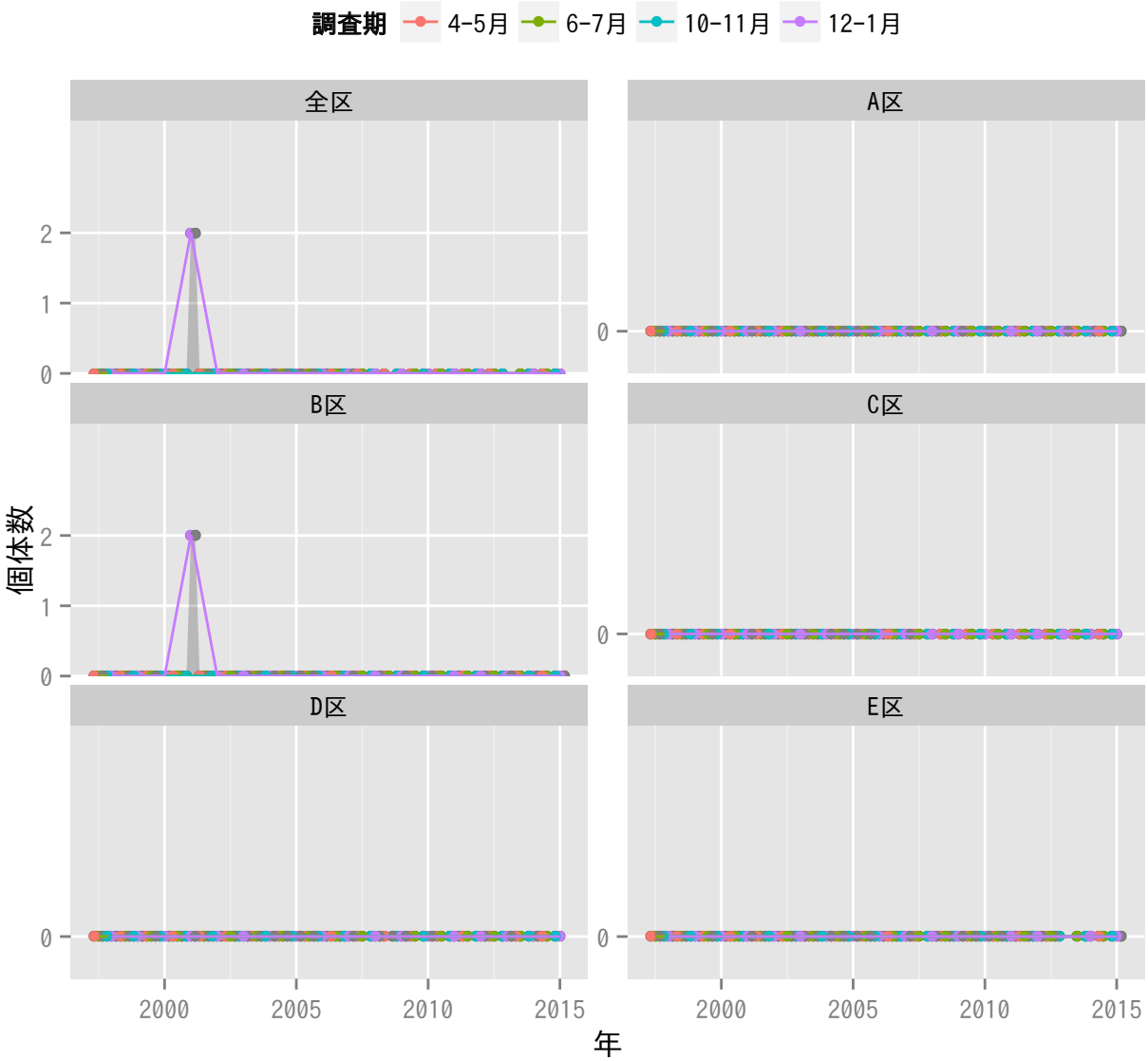

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

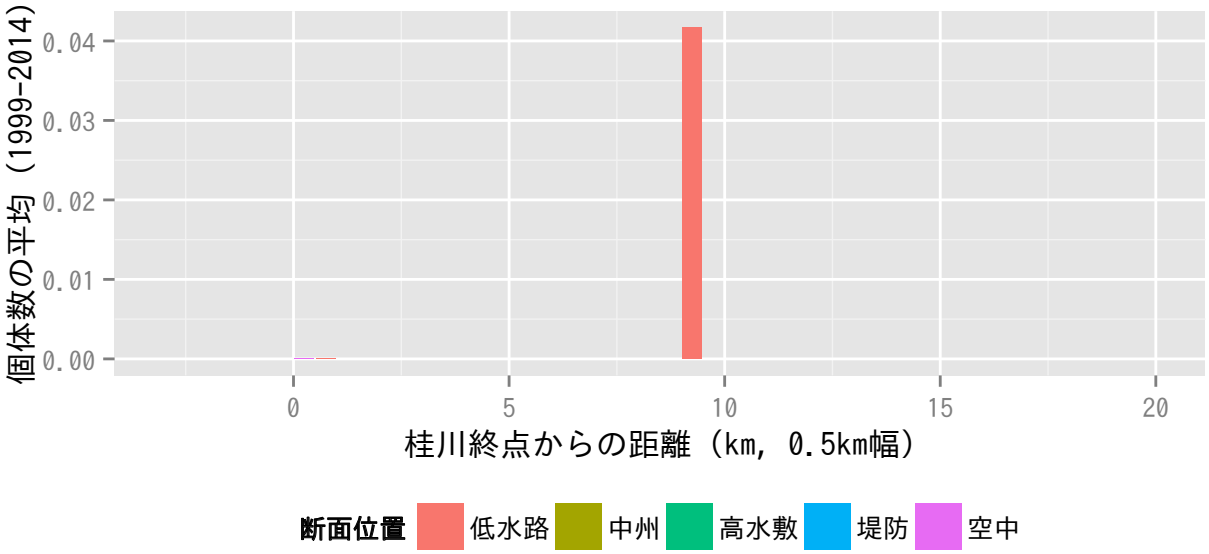
キジ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

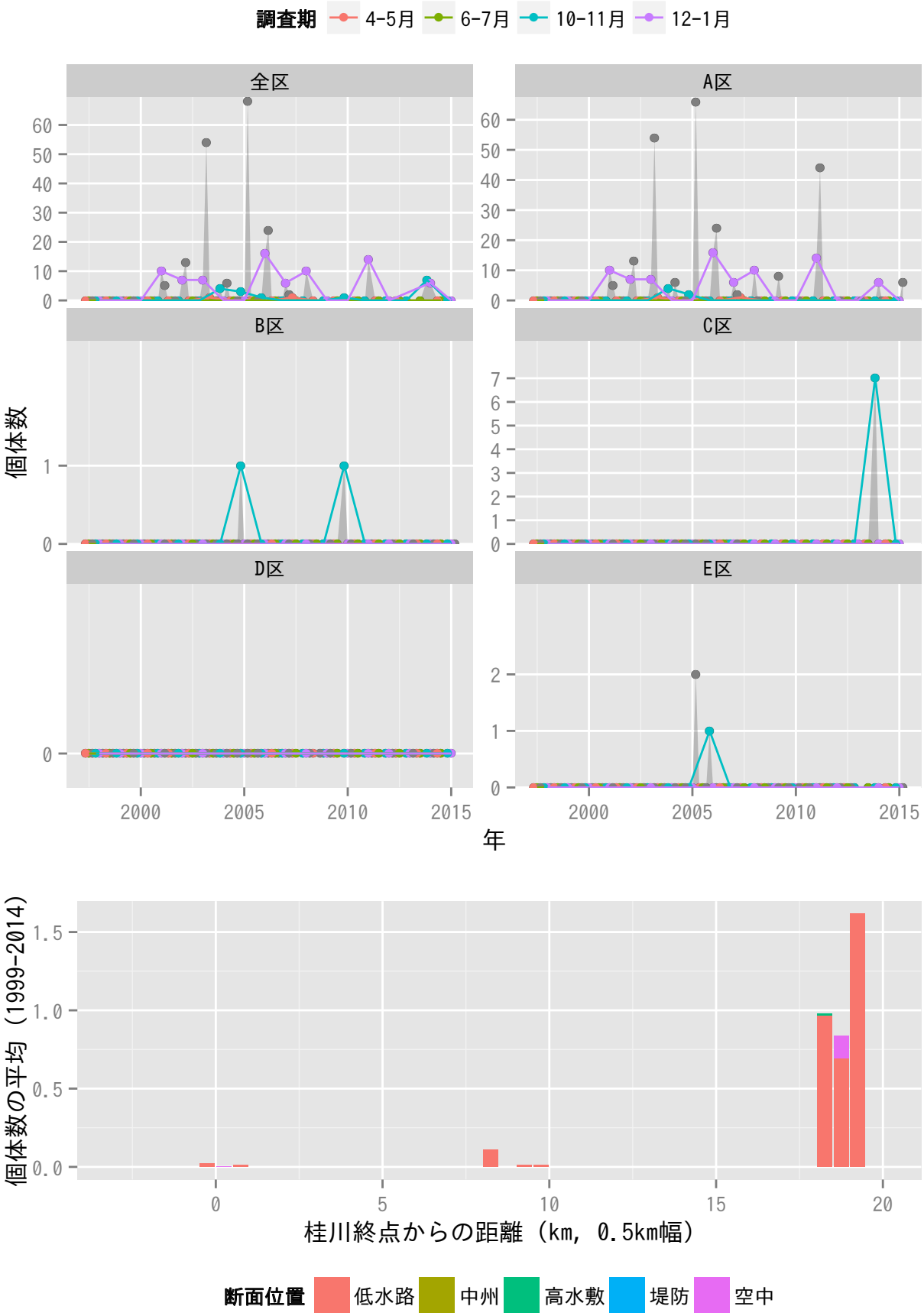

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

コハクチョウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

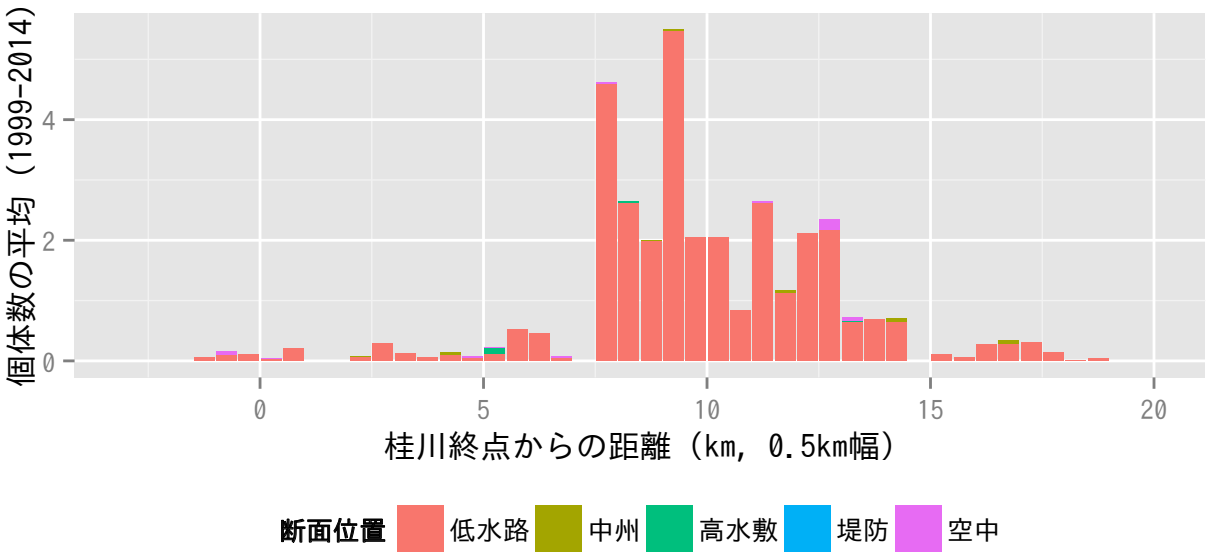

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

オシドリ

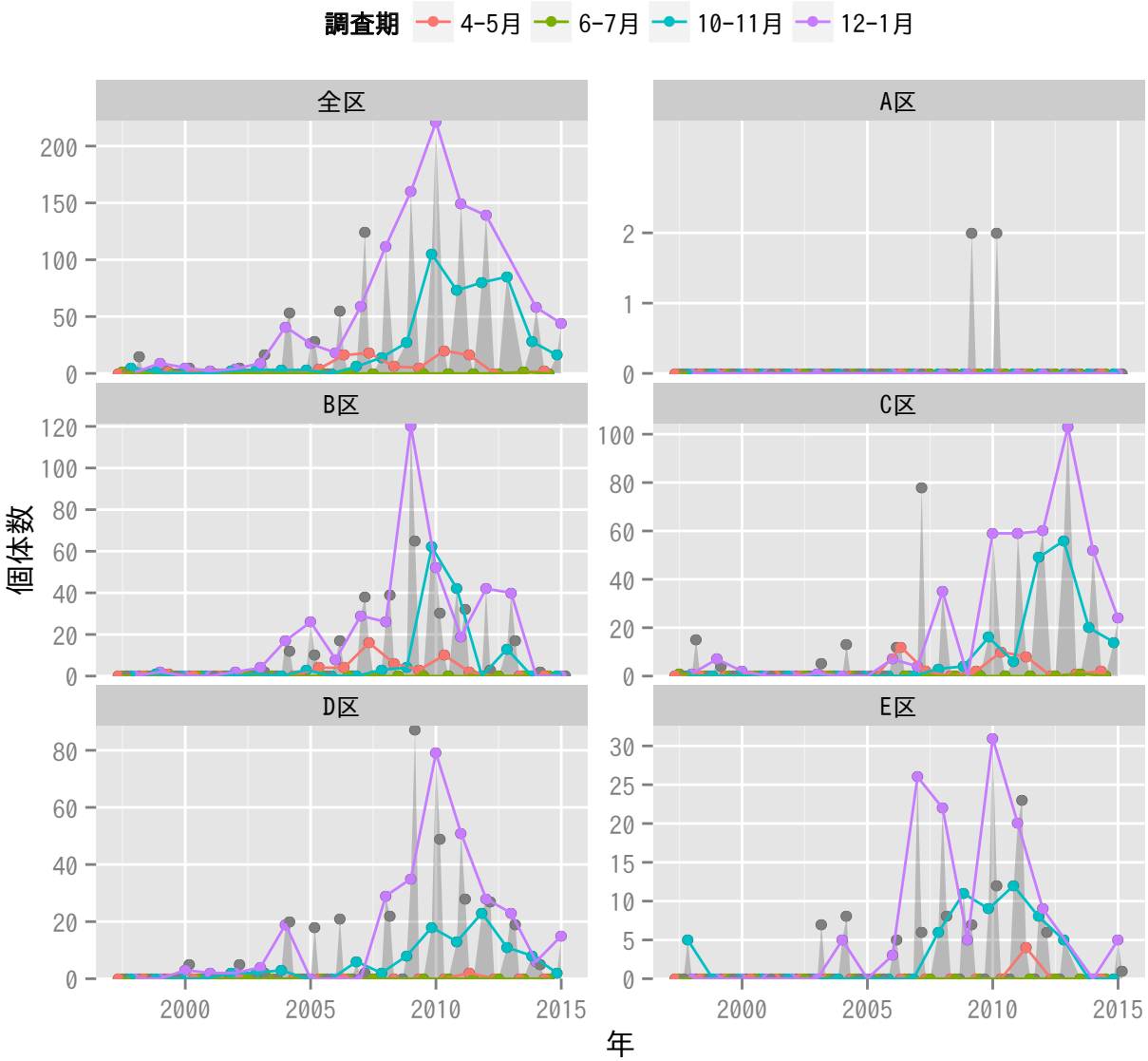

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

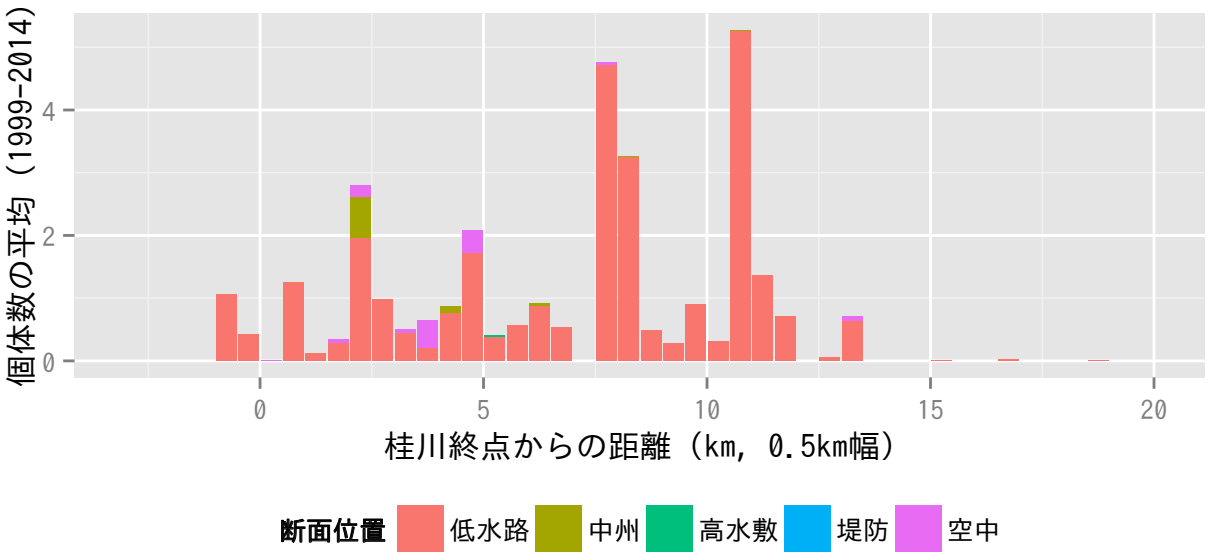
オカヨシガモ

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

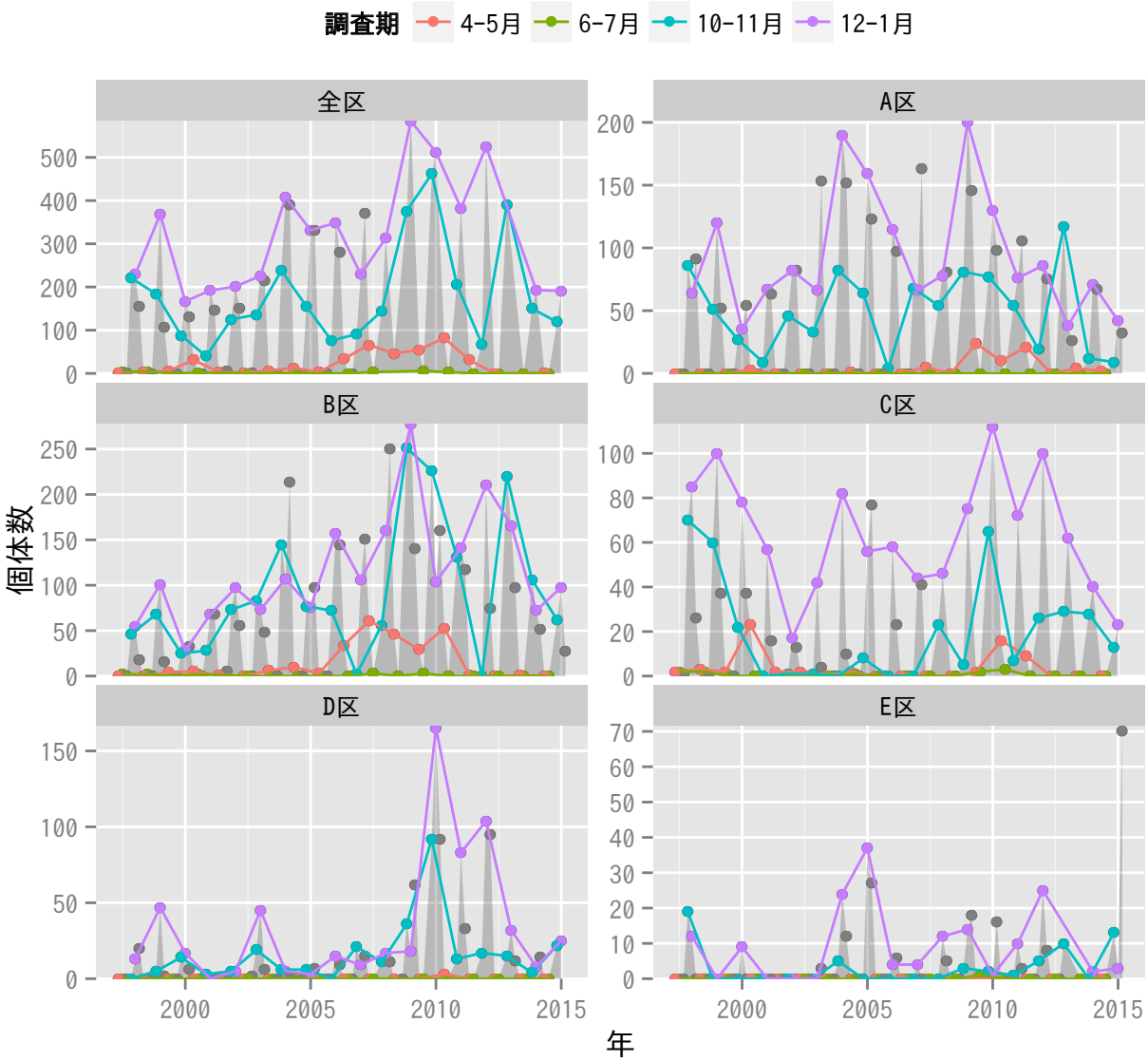

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

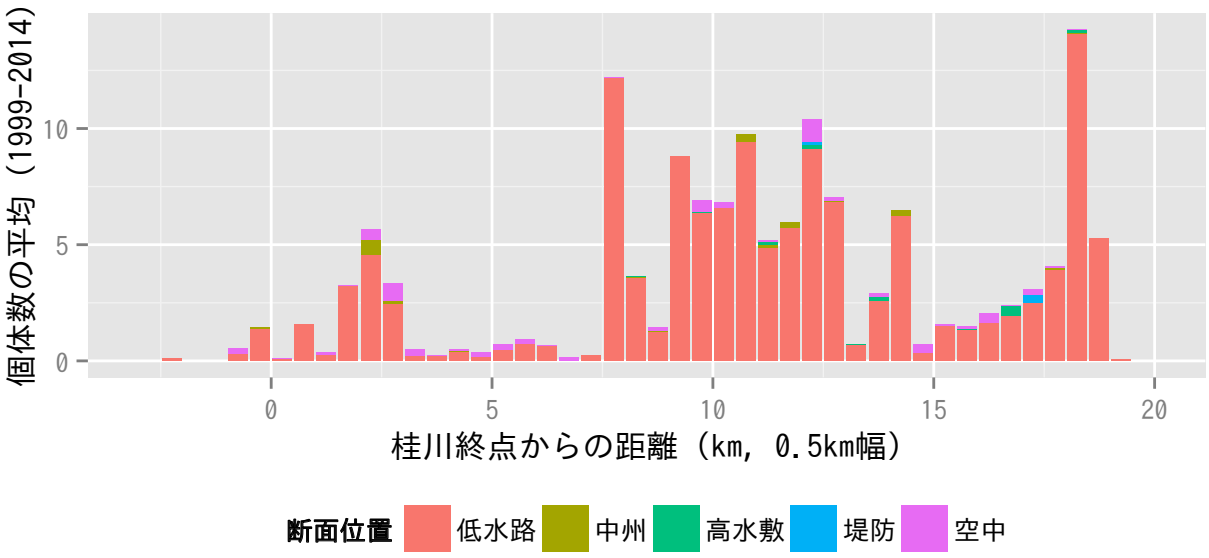
ヨシガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

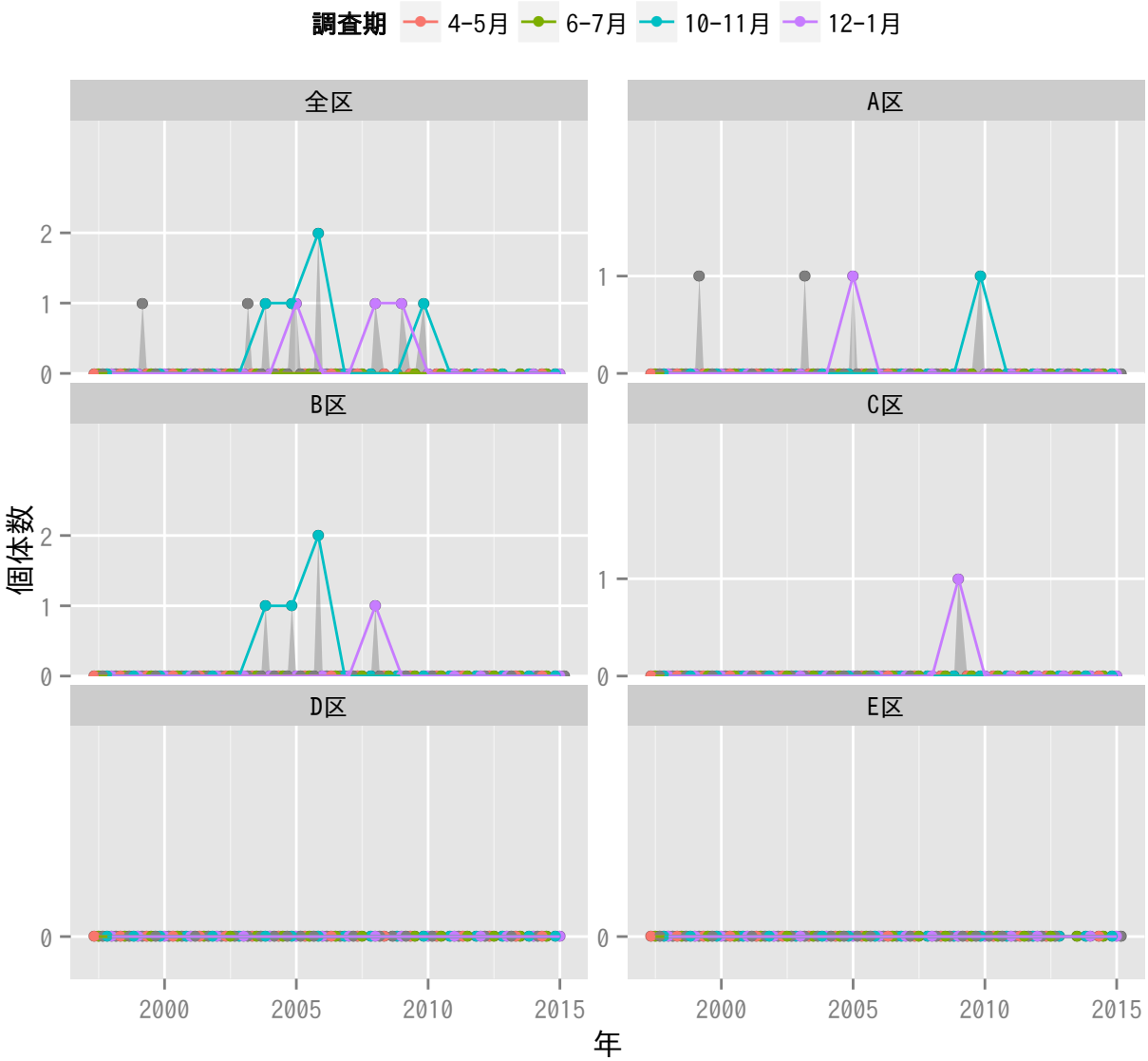

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

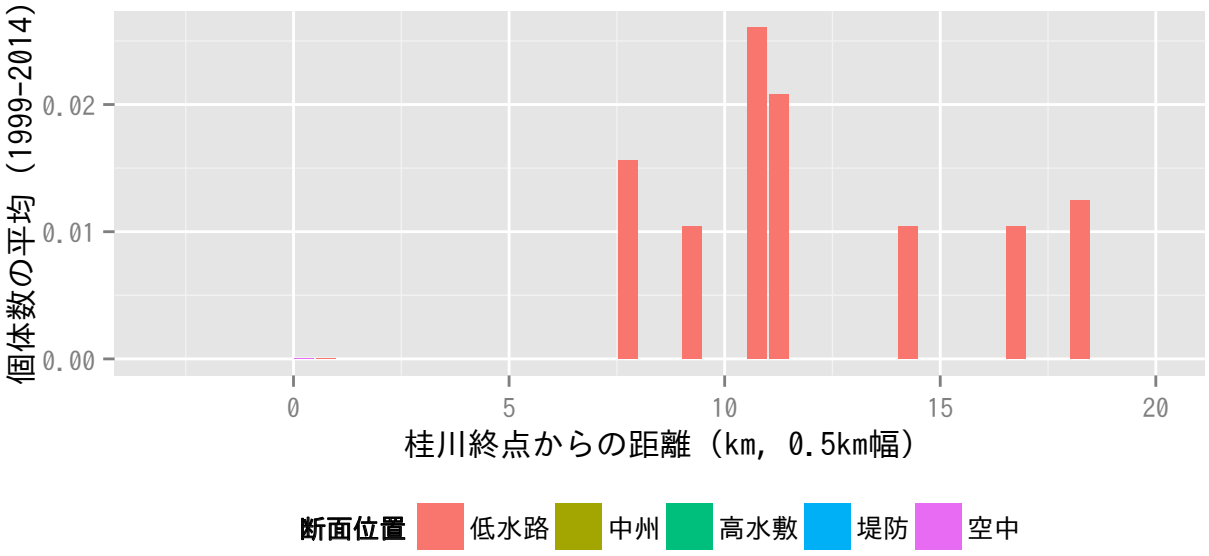
ヒドリガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

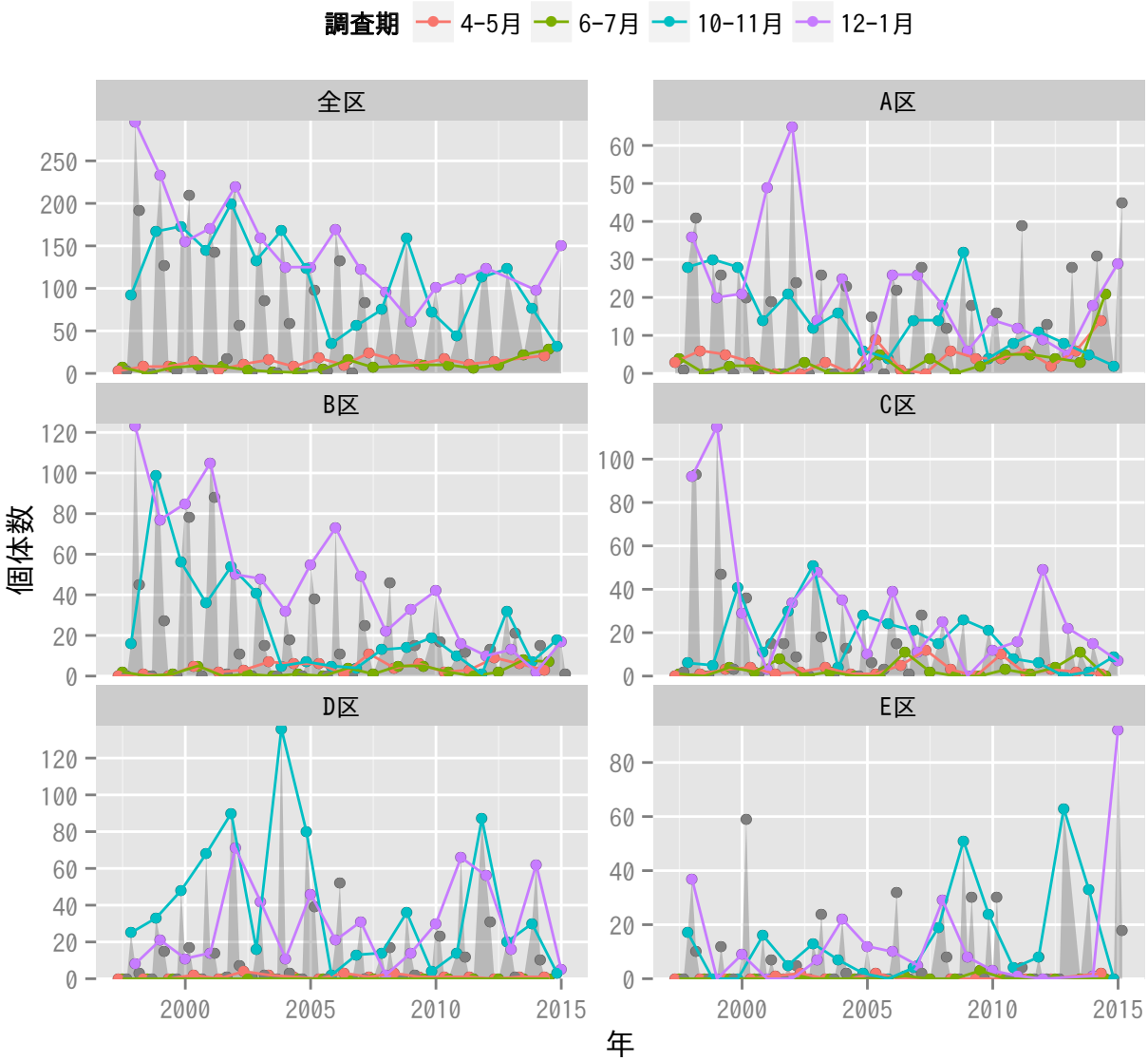

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

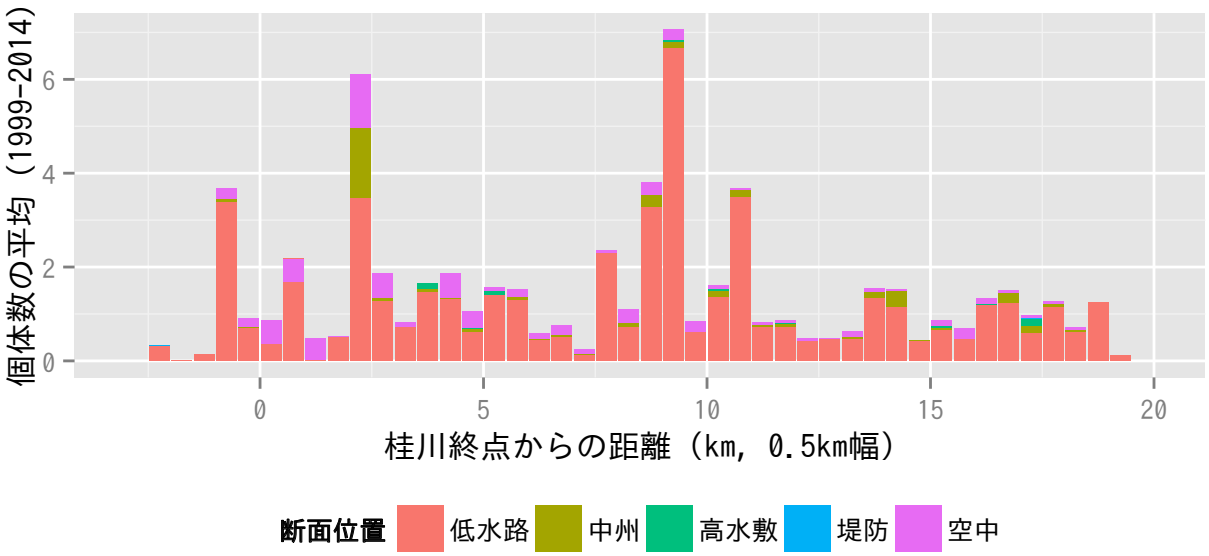
アメリカヒドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

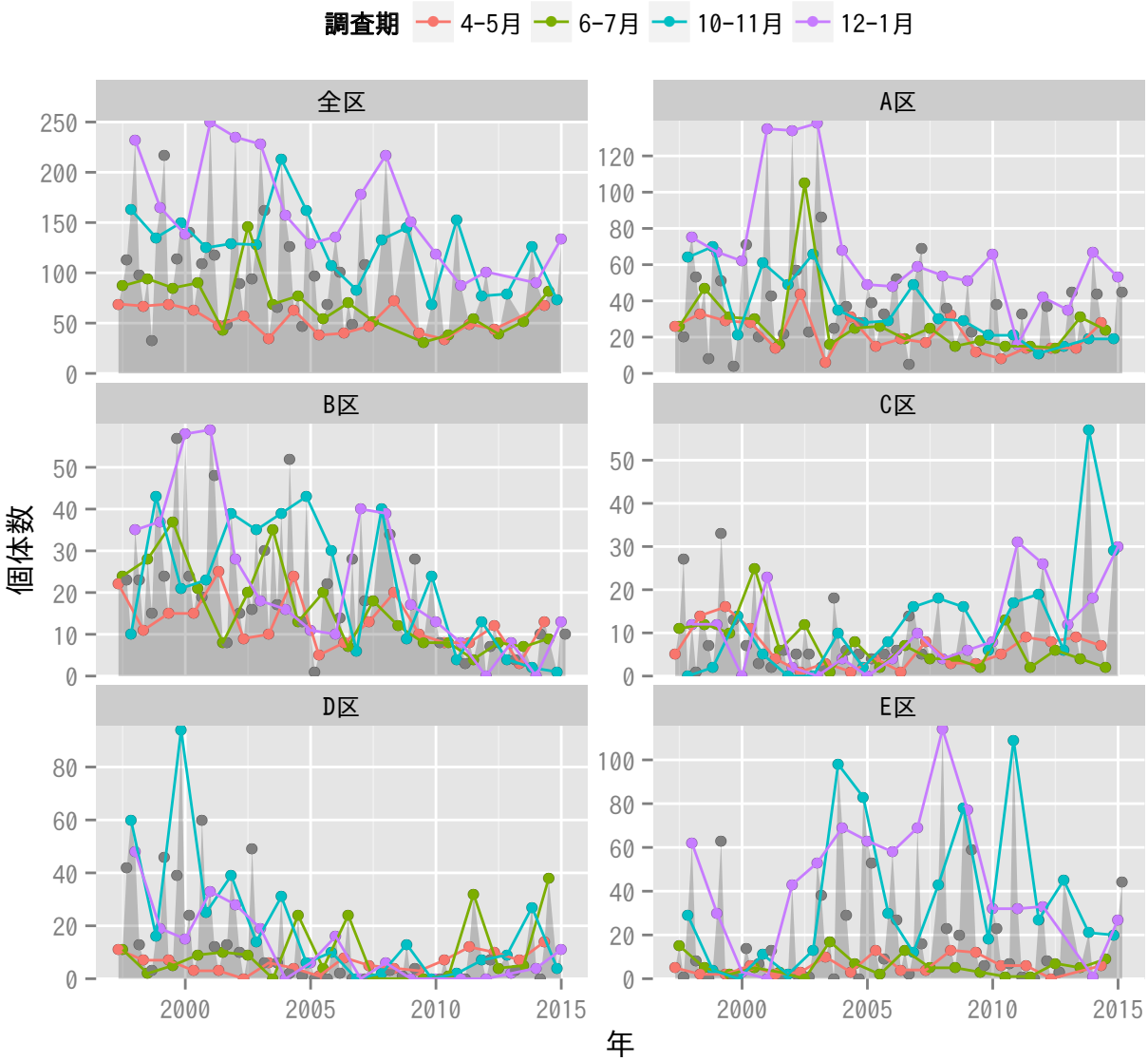

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

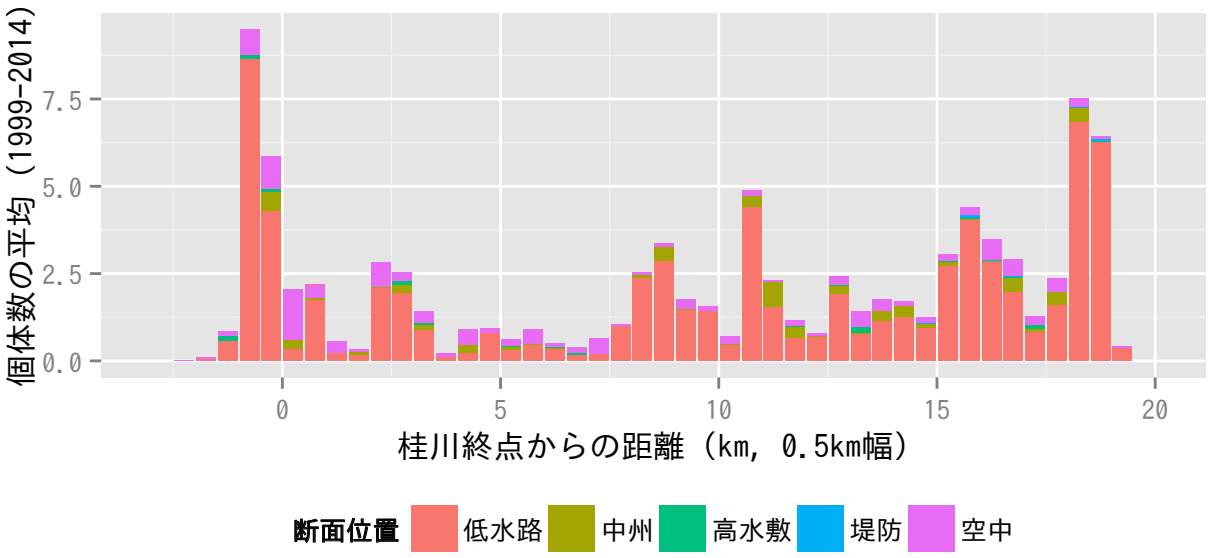
マガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

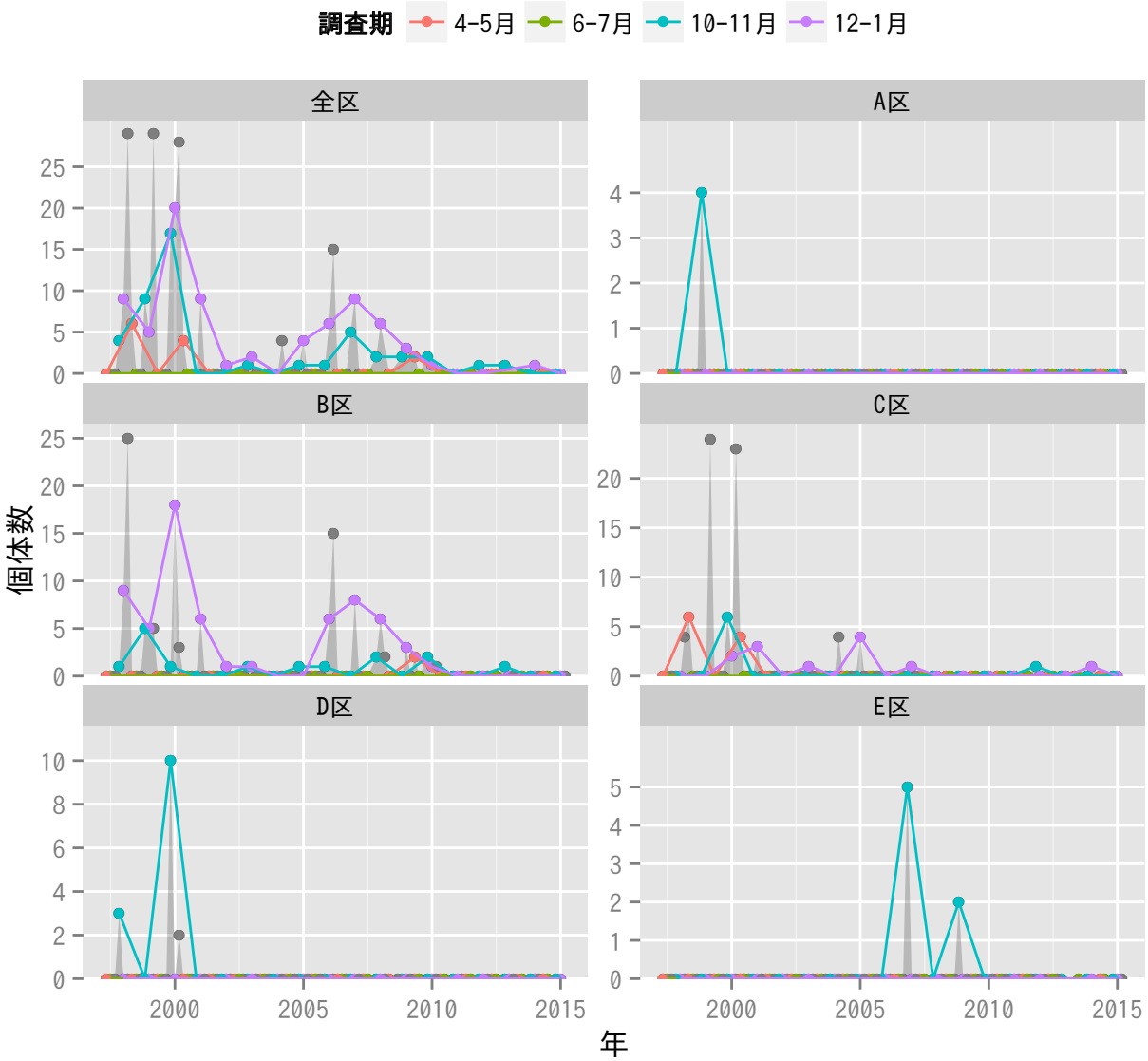

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

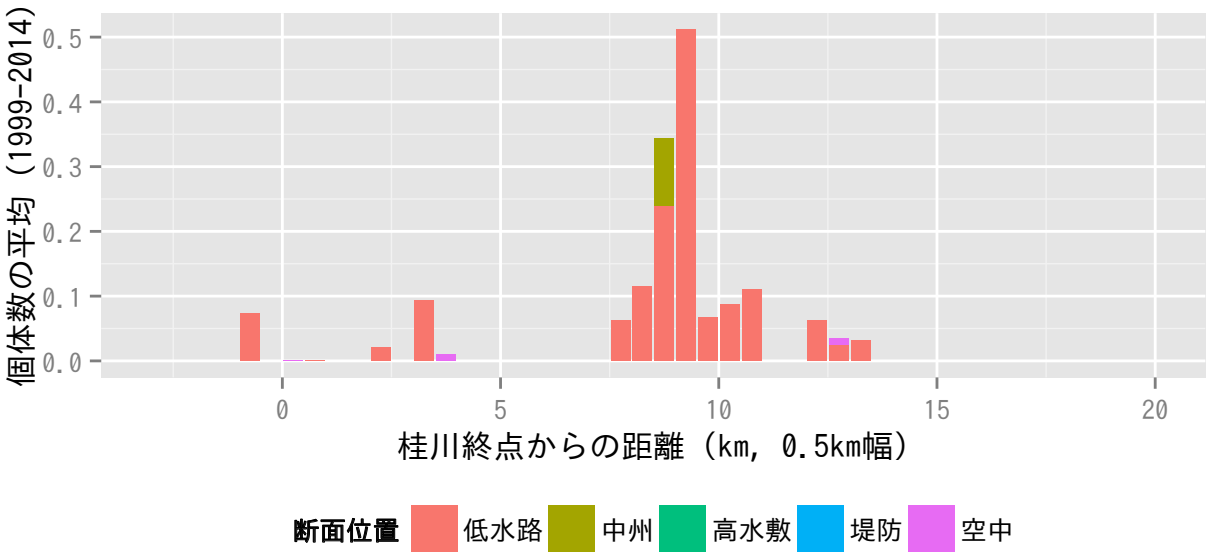
カルガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

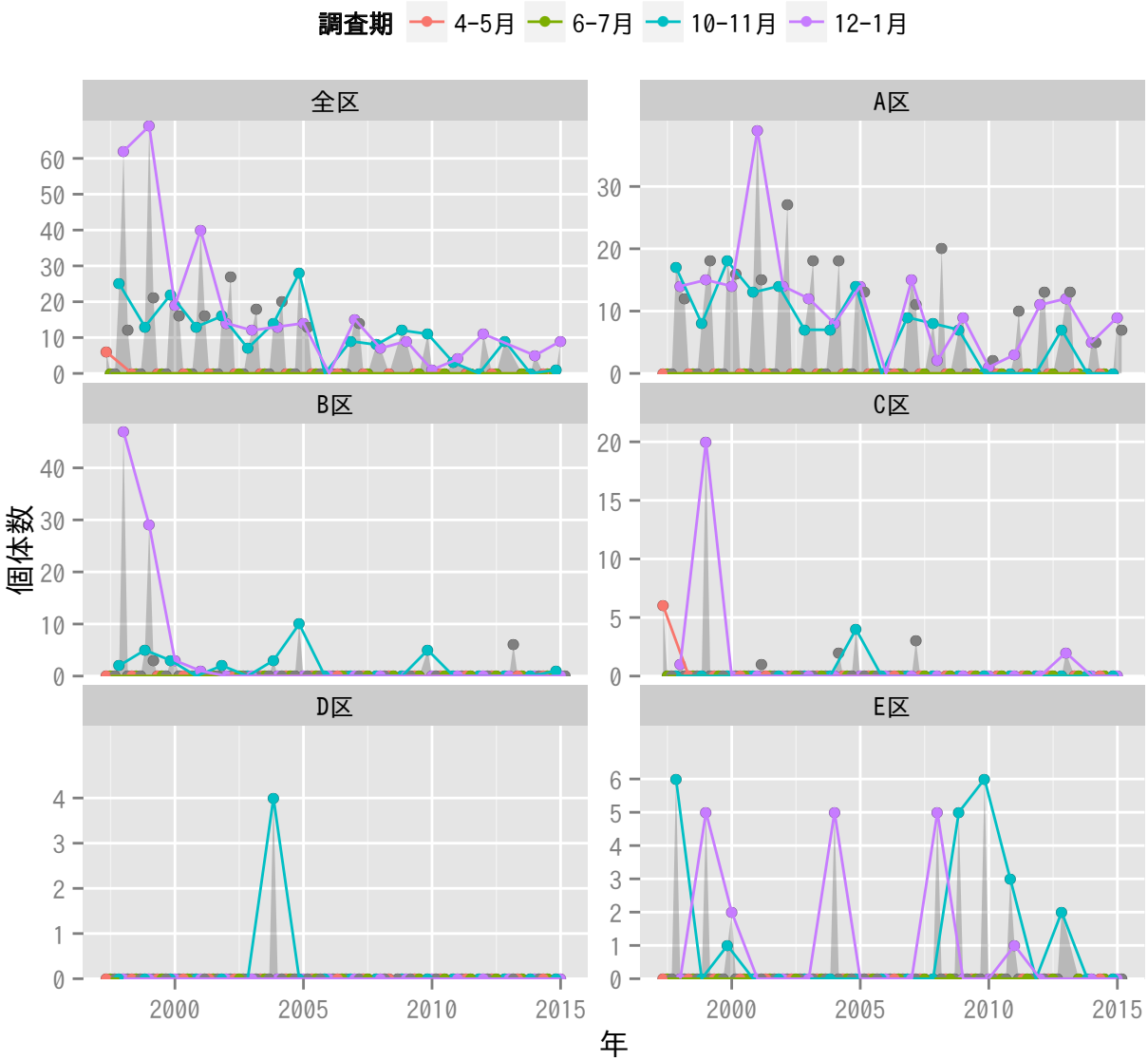

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

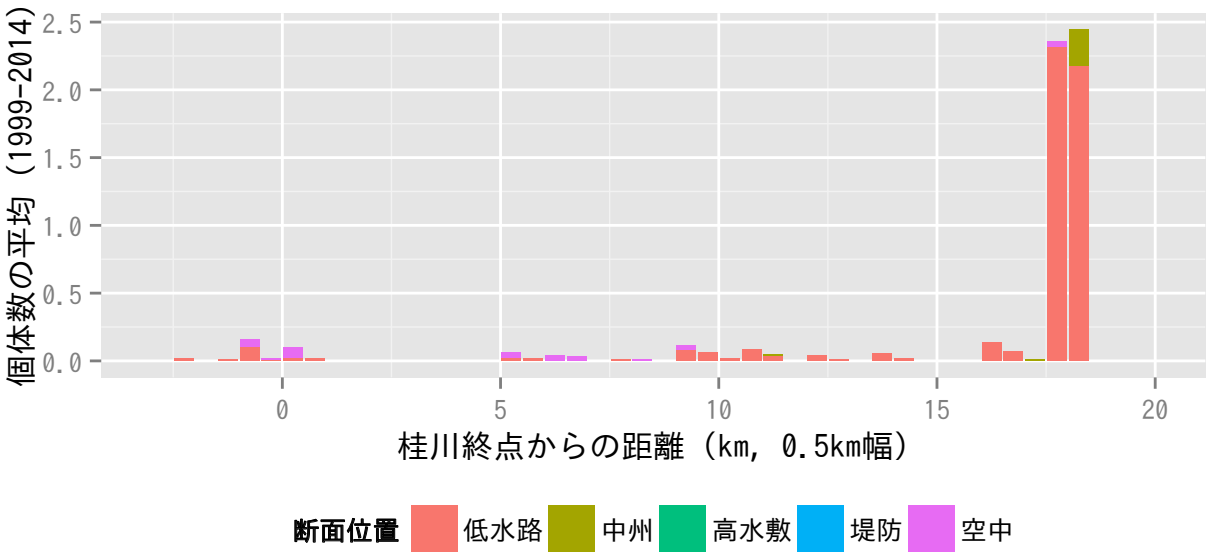
ハシビロガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

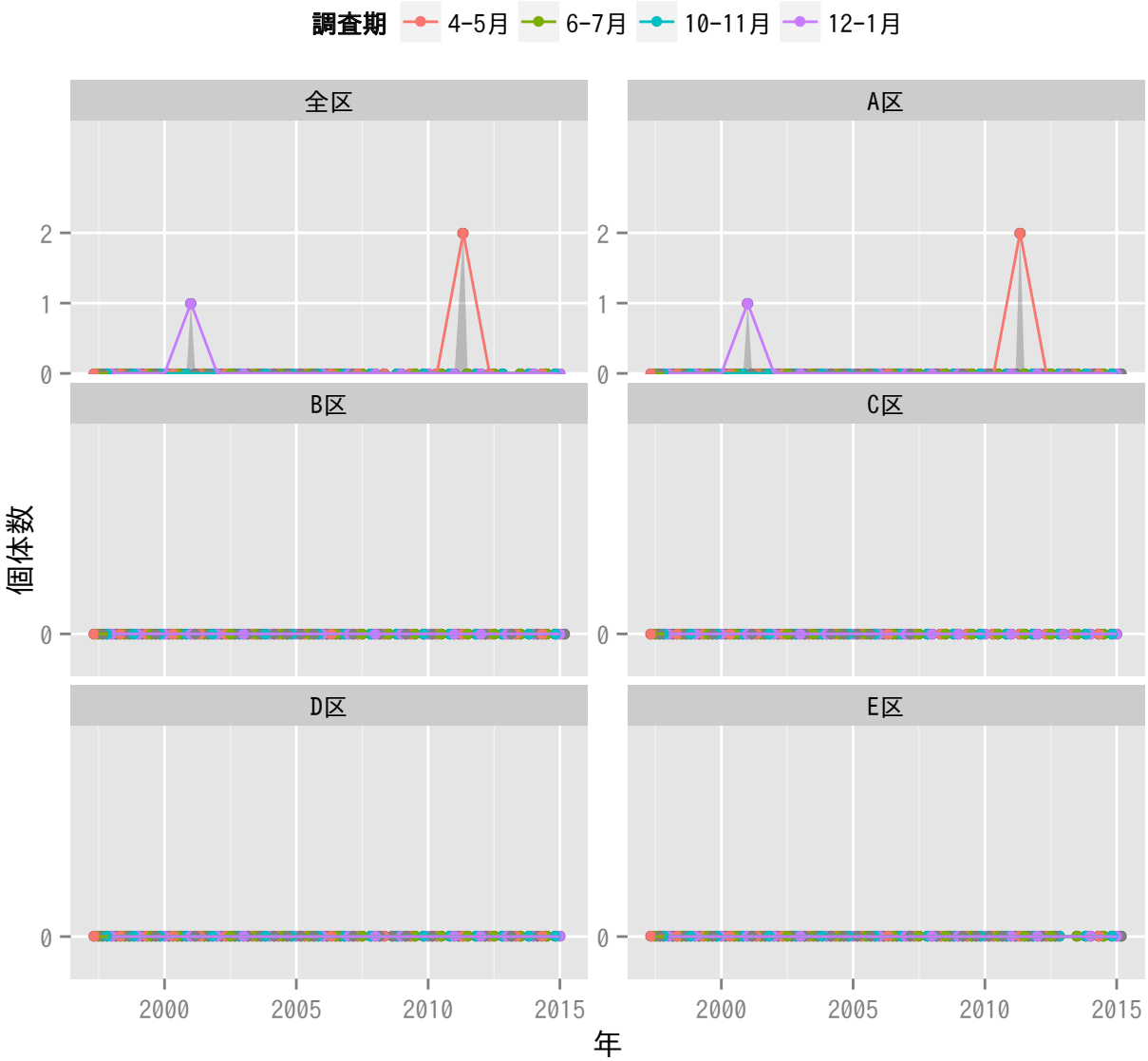

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

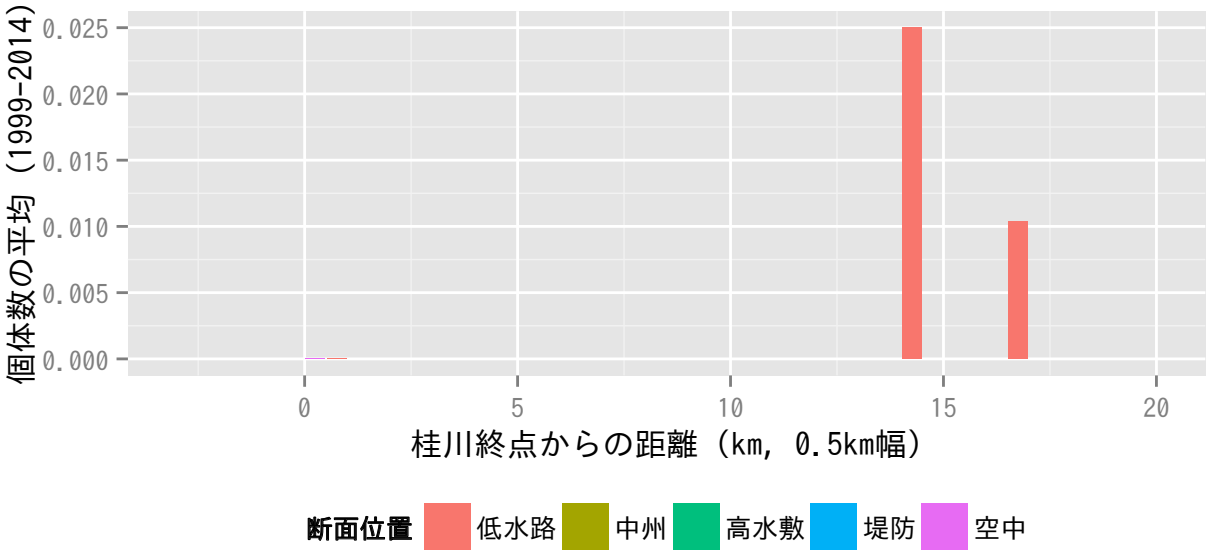
オナガガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

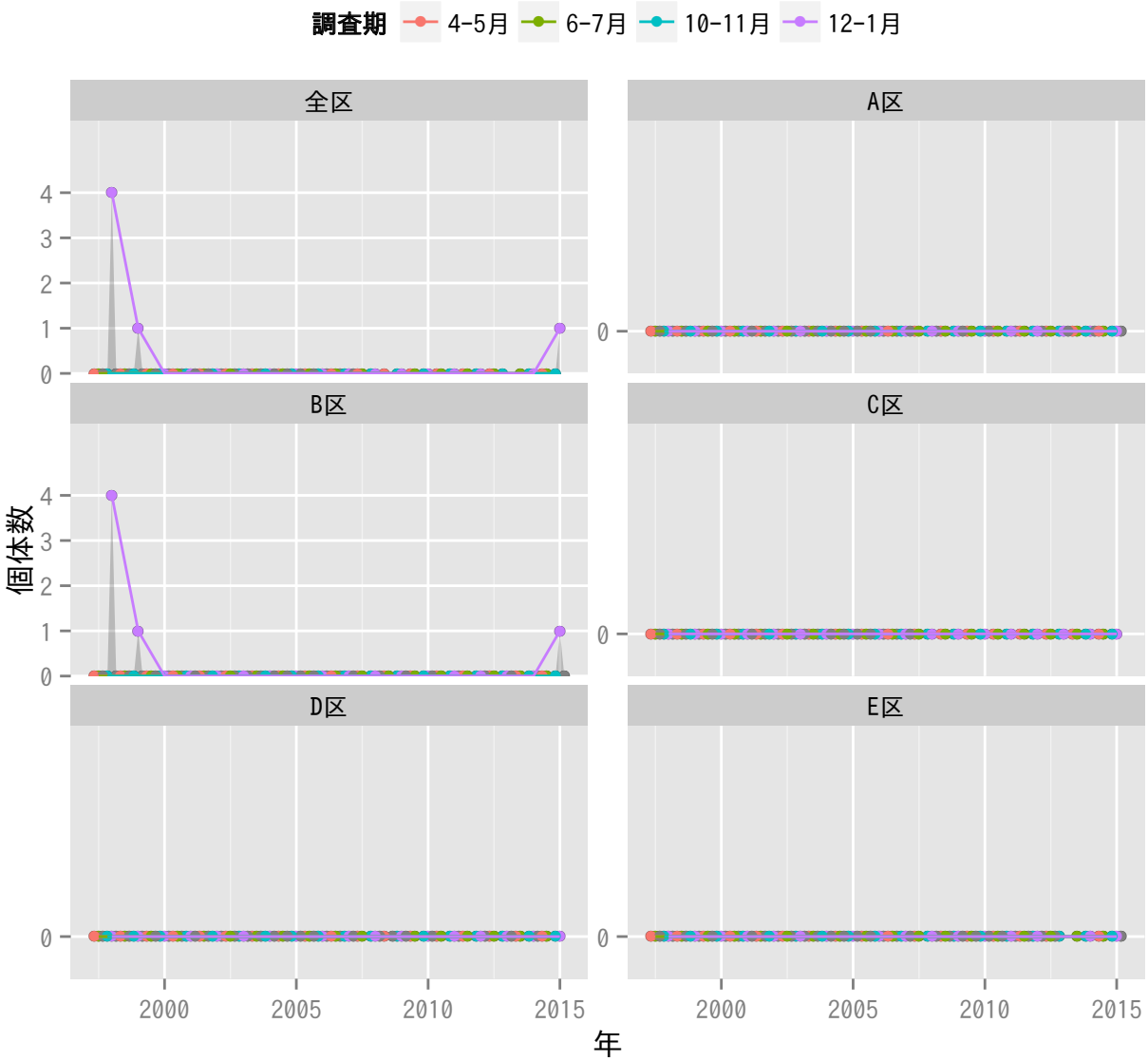

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

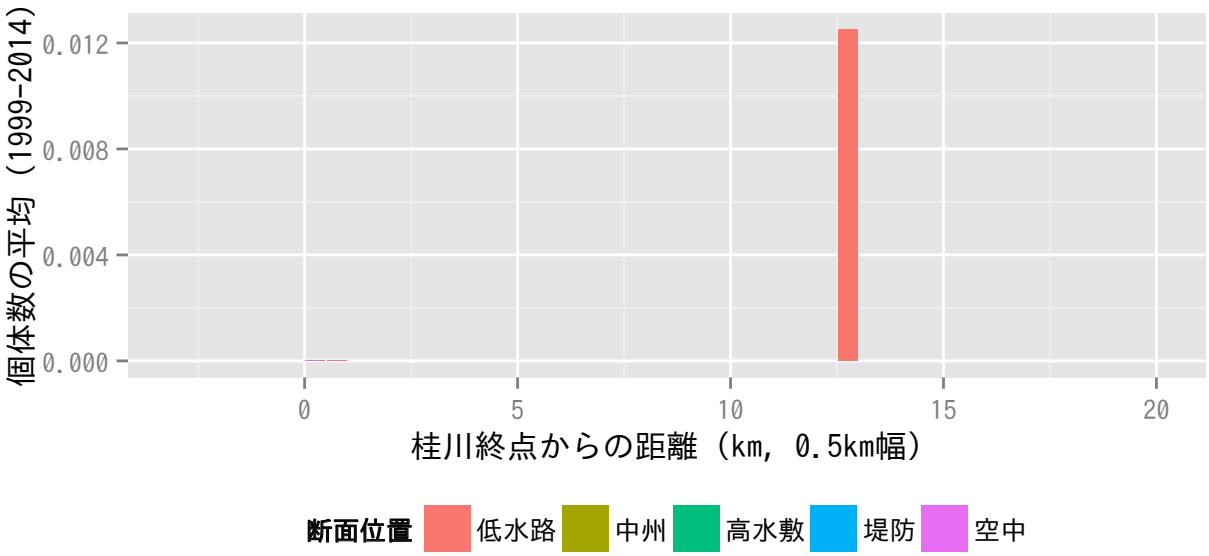
シマアジ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

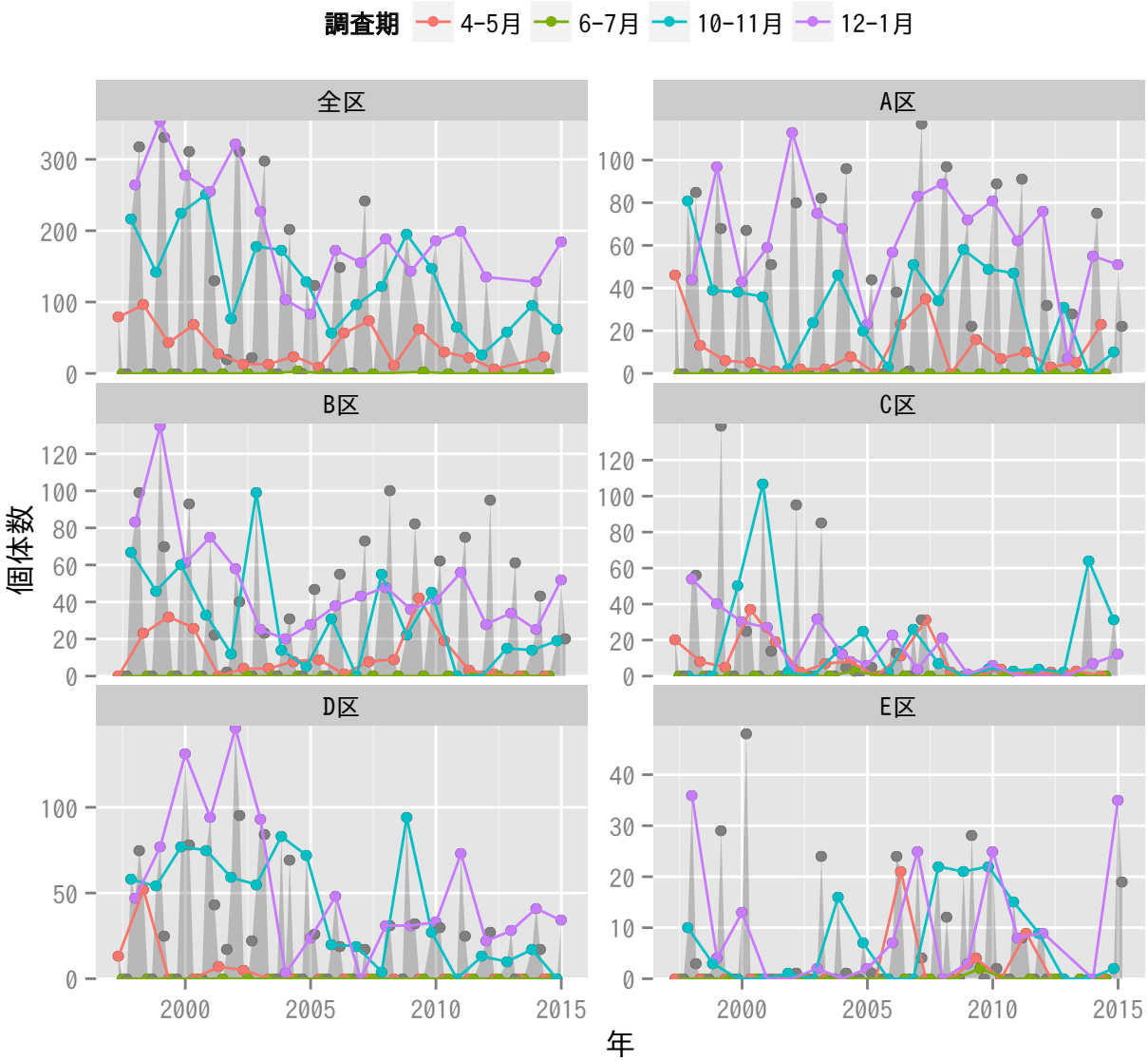

個体数の平均（1999-2014）
0.025
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

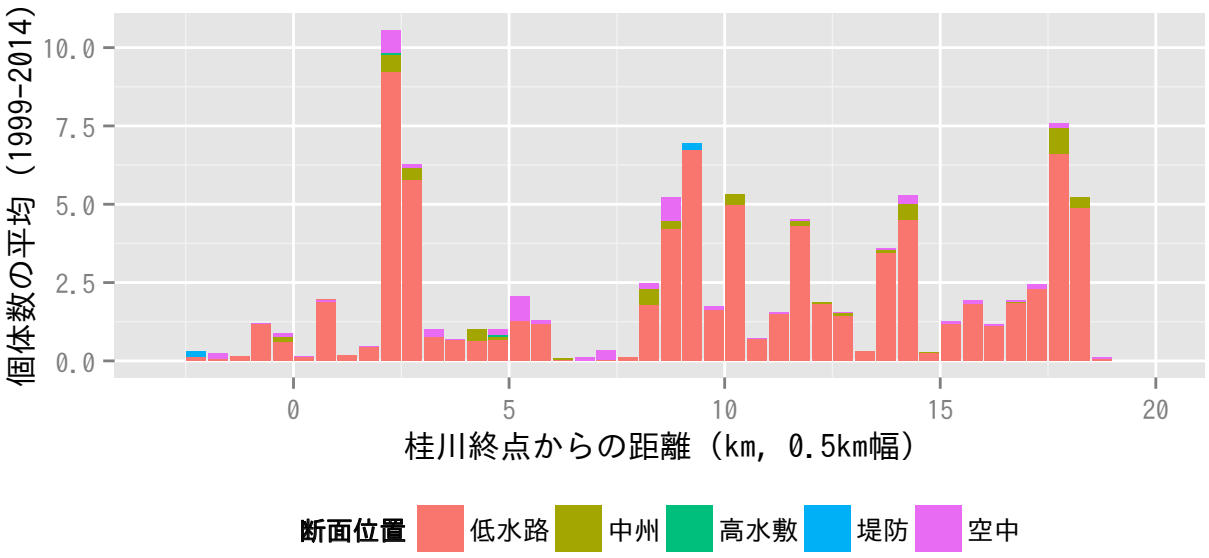
トモエガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

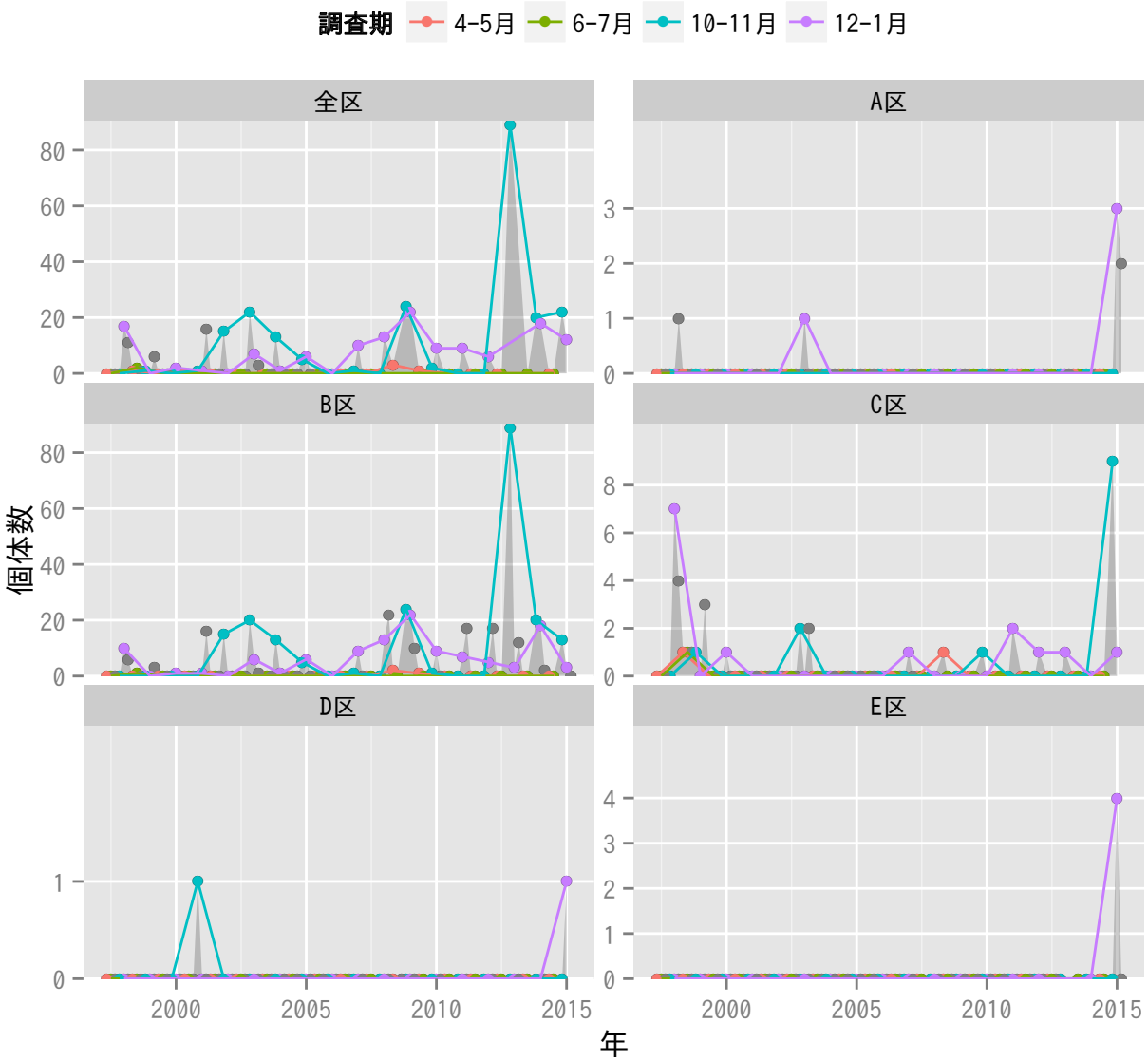

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

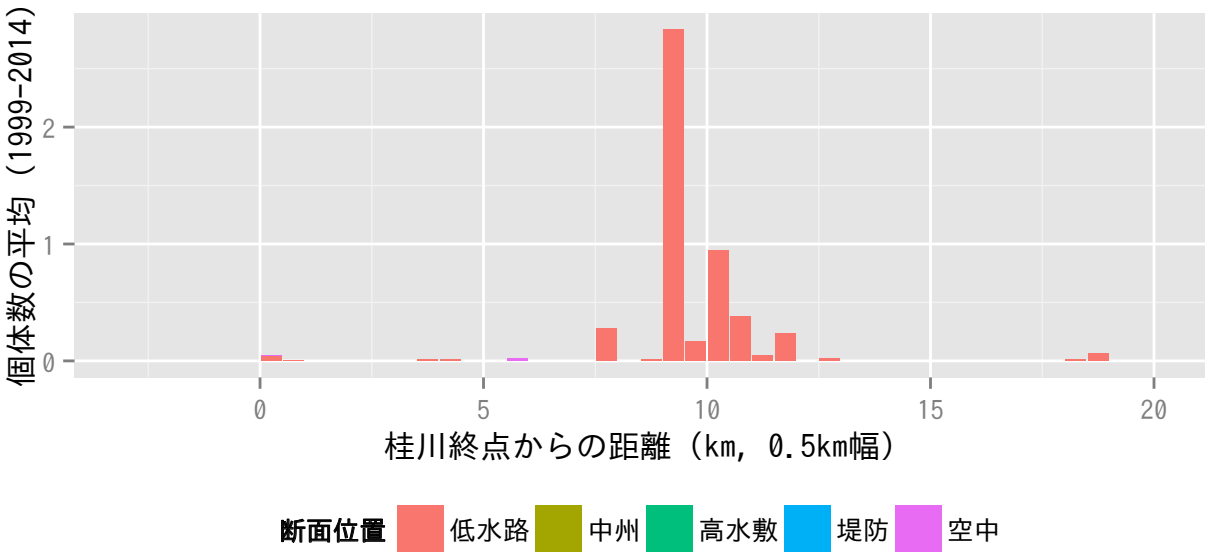
コガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

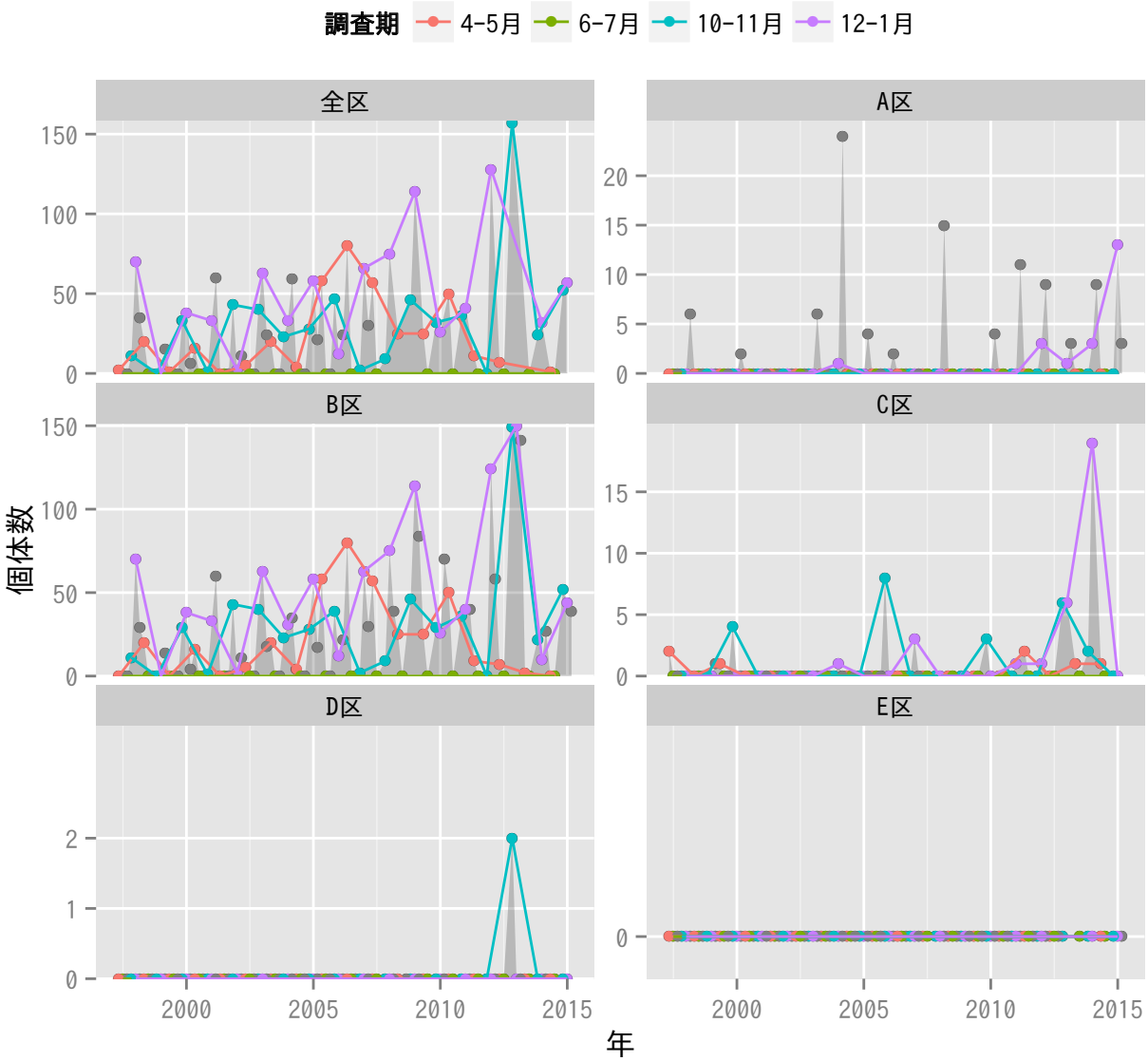

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

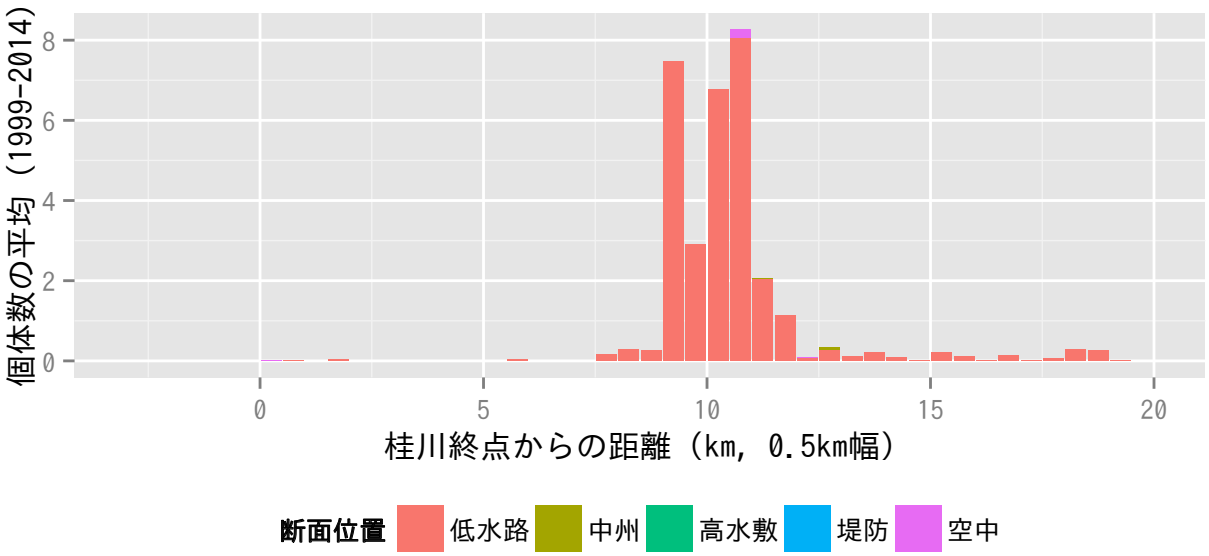
ホシハジロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

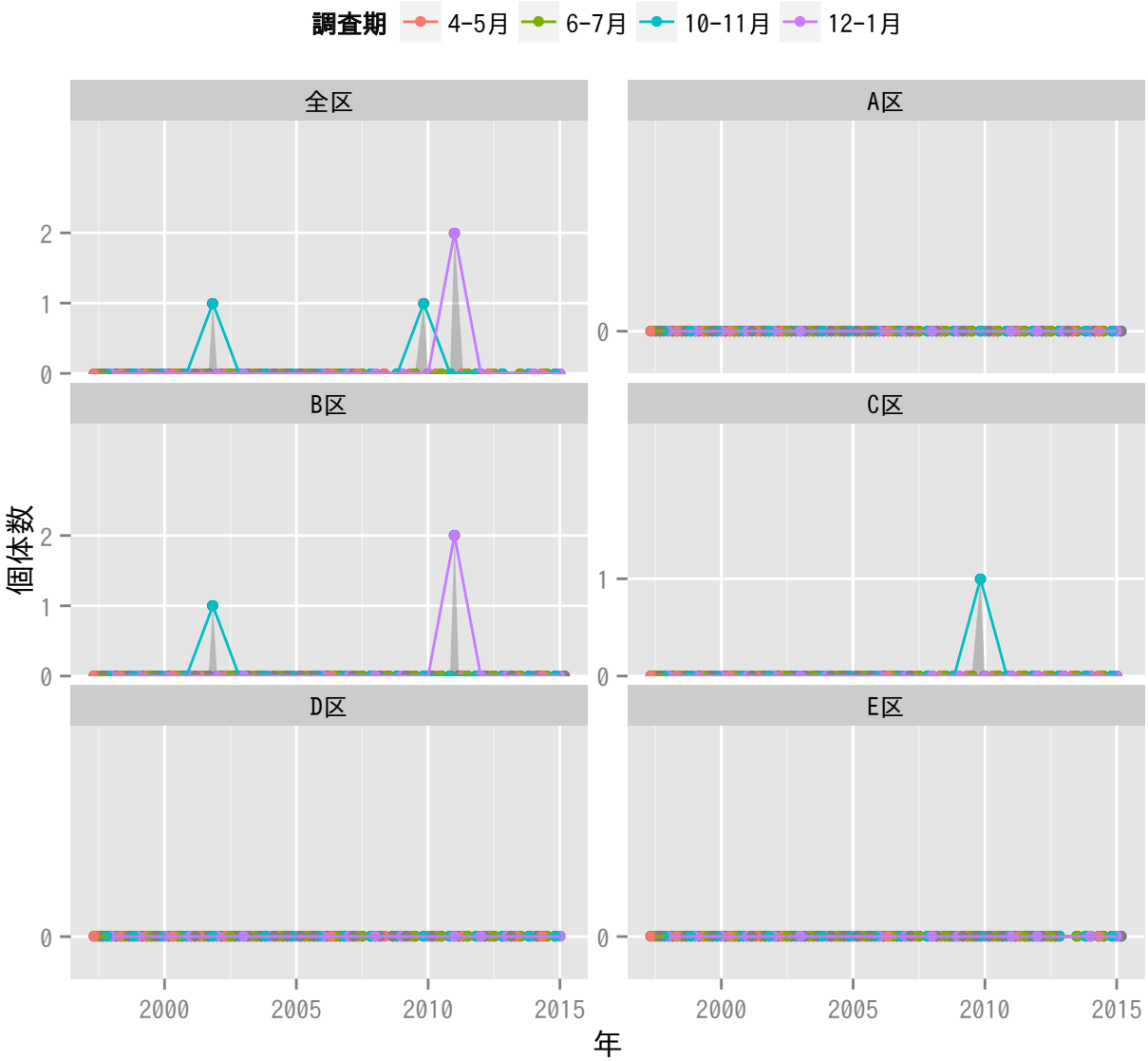

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

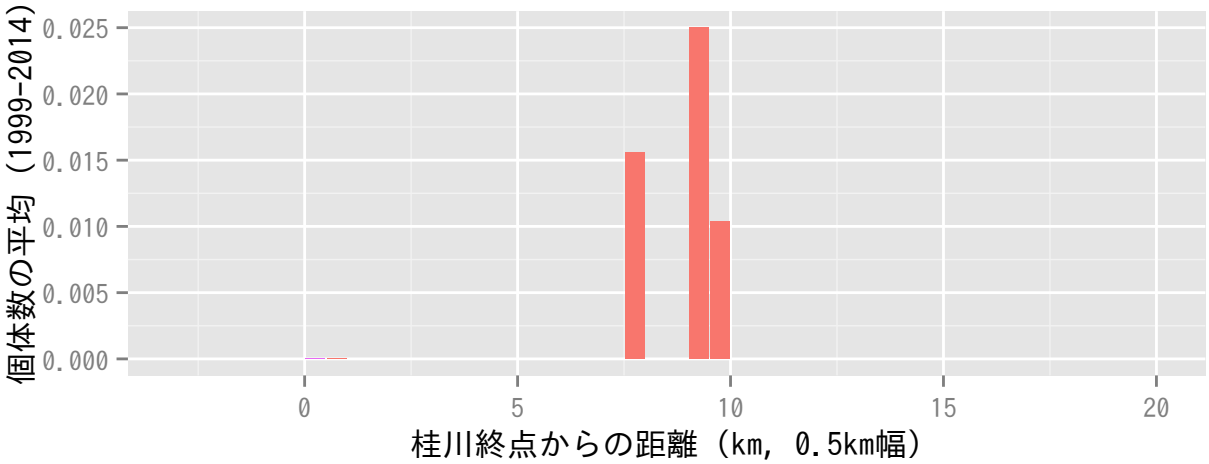
キンクロハジロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

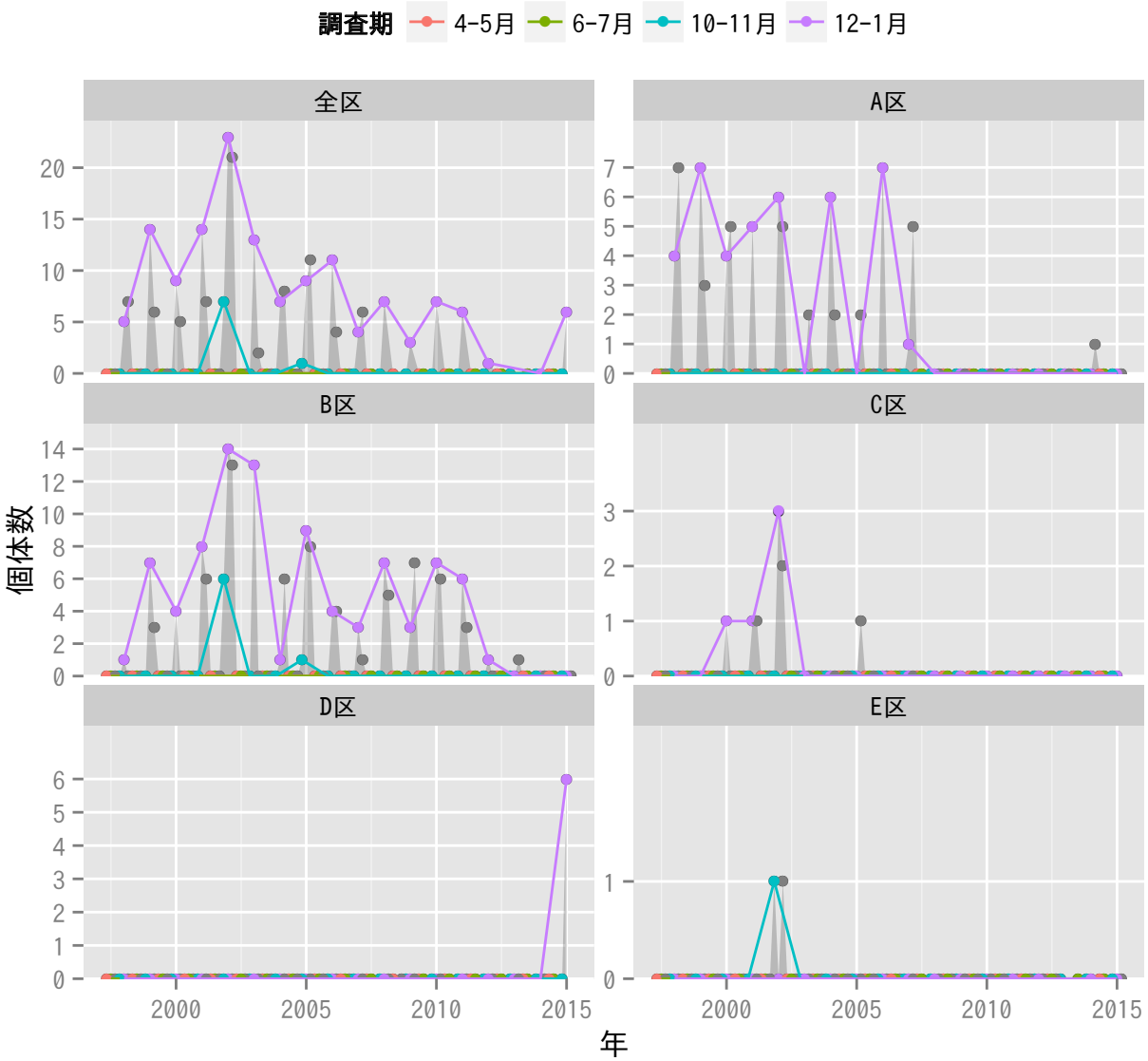

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

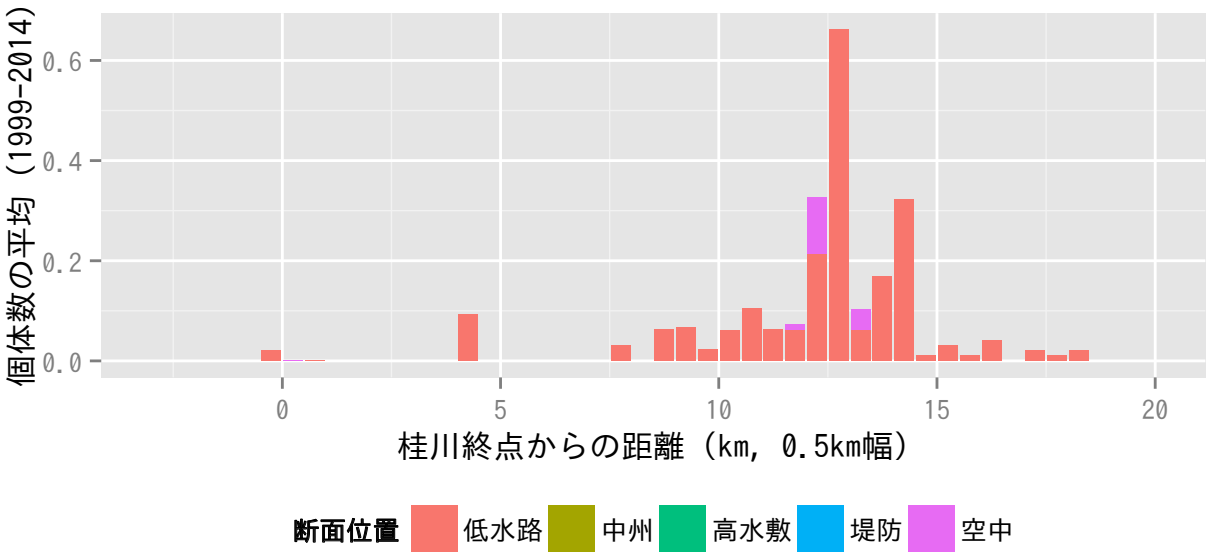
スズガモ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

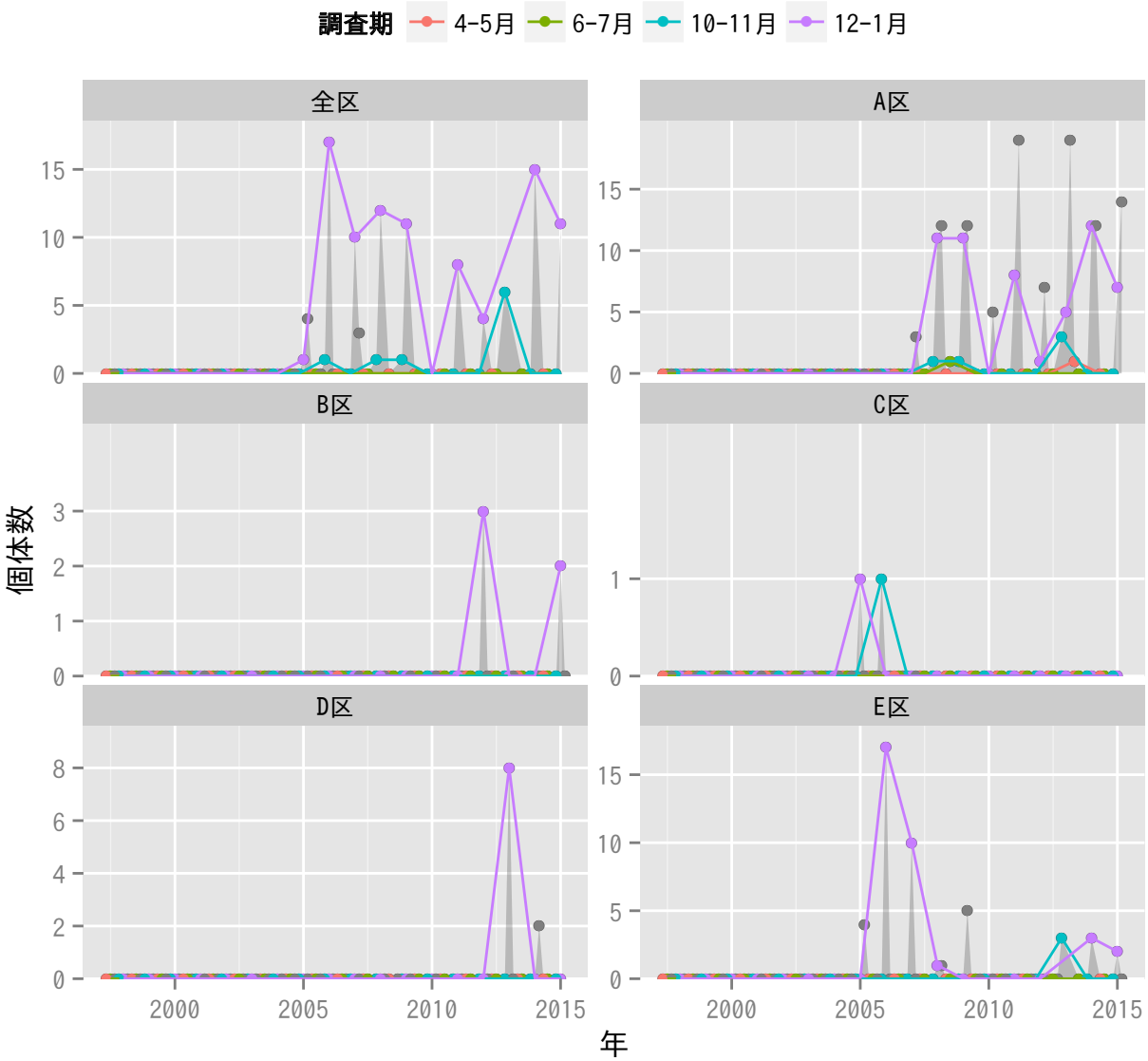

個体数の平均（1999-2014）
0.025
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

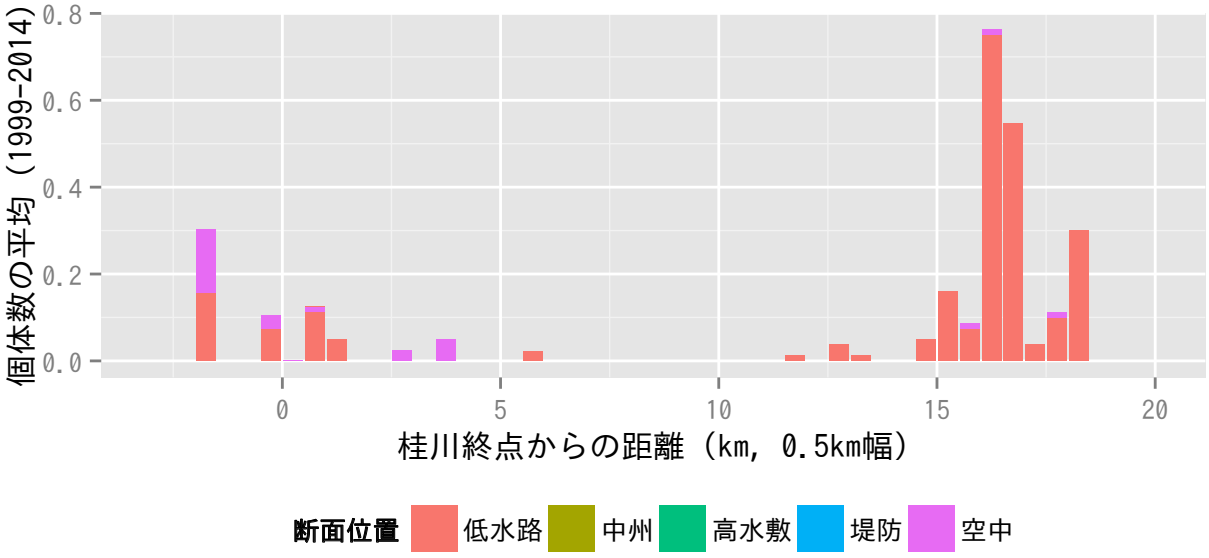
ミコアイサ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

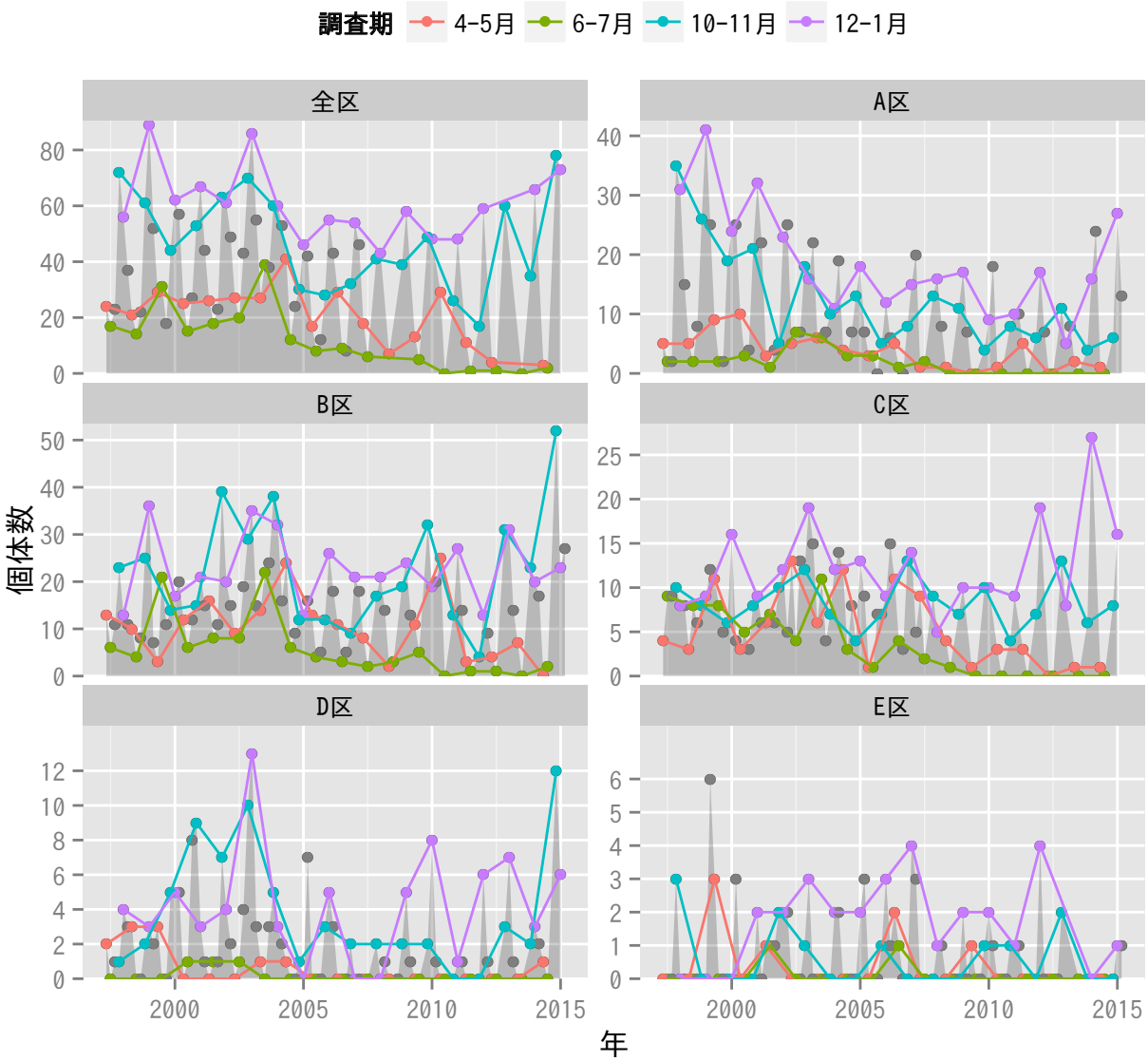

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

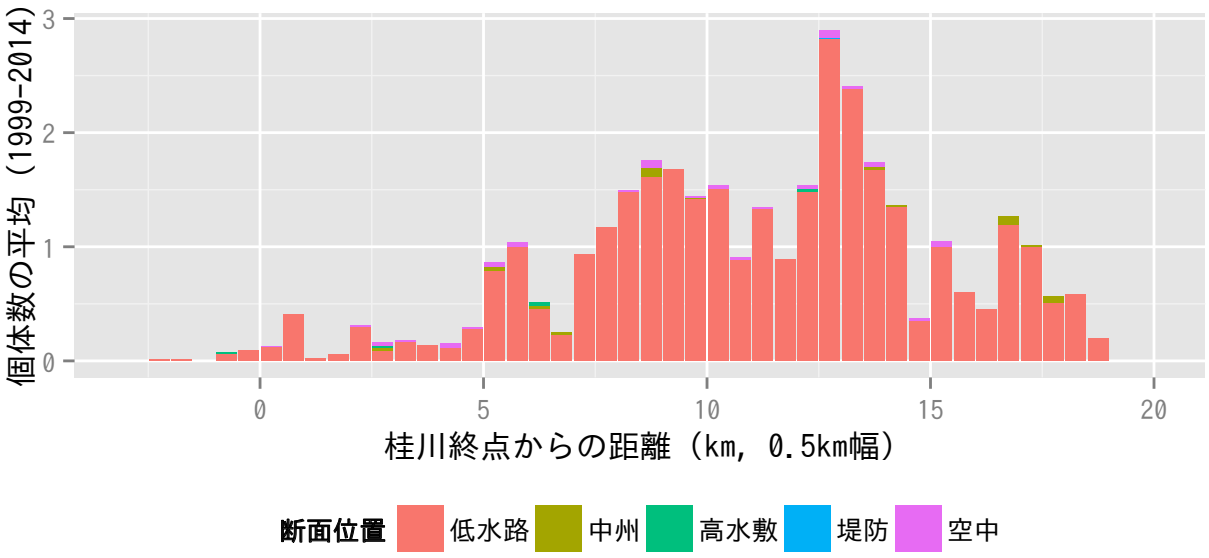
カワアイサ

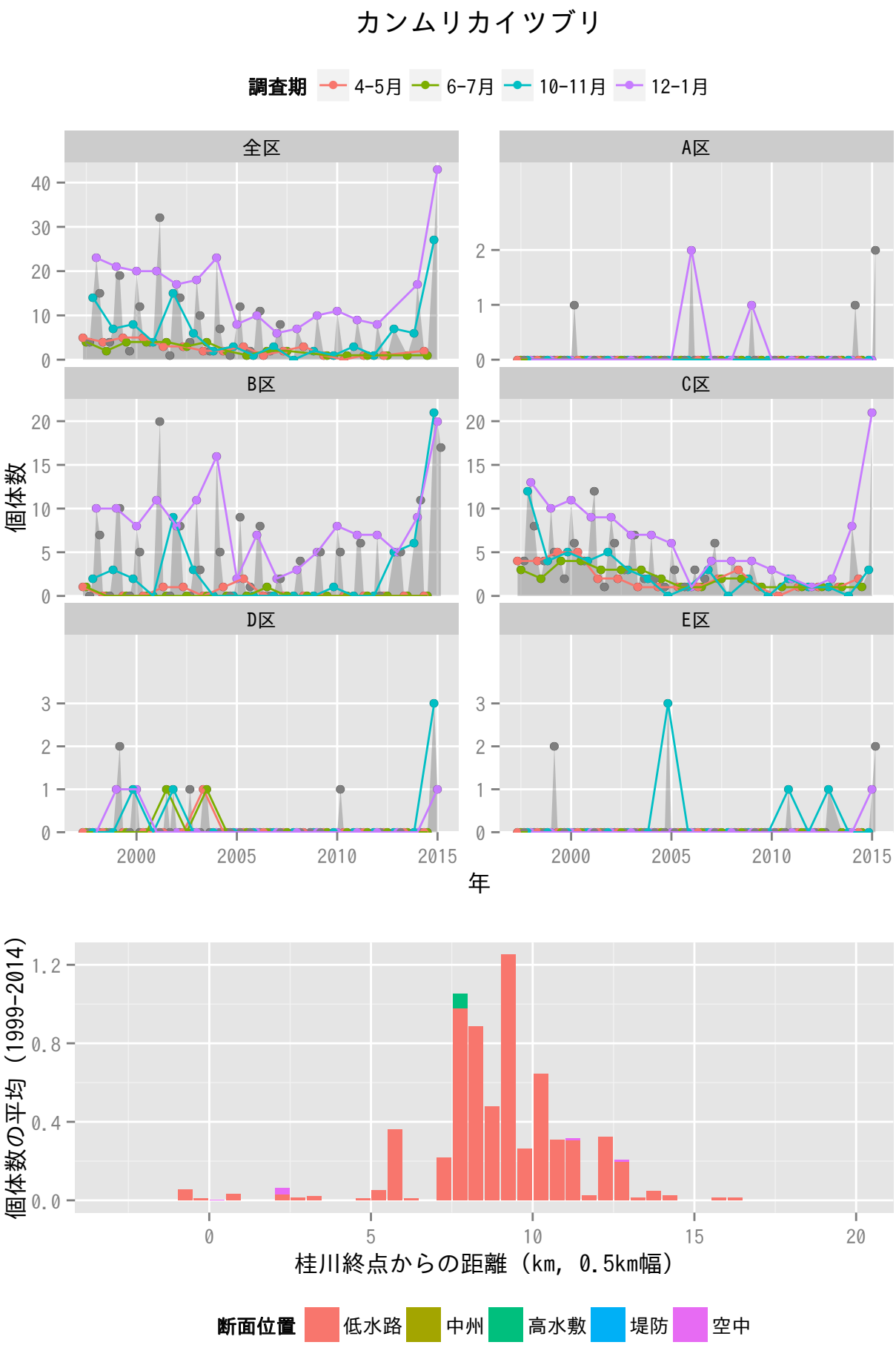

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年


個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

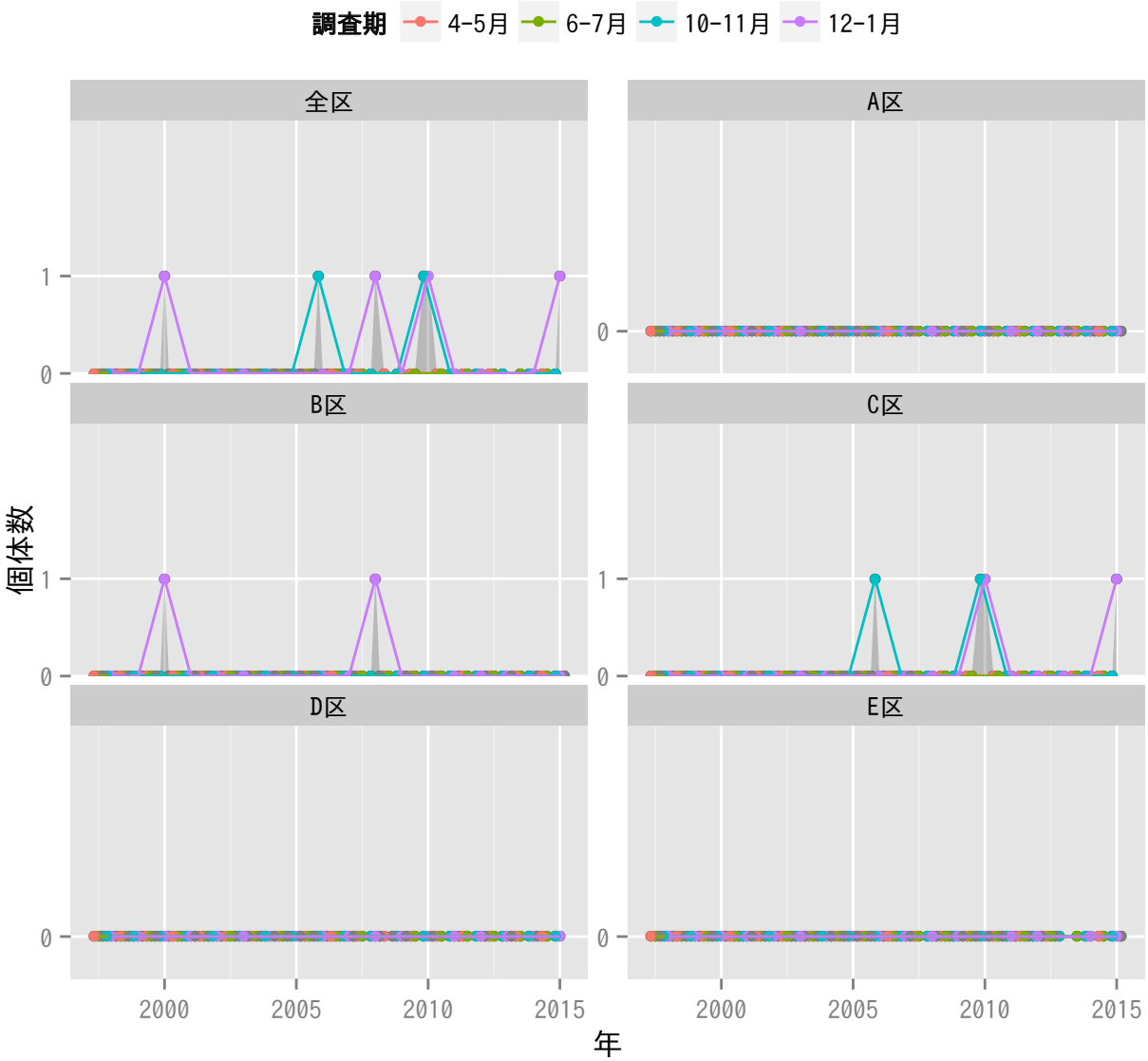
カイツブリ

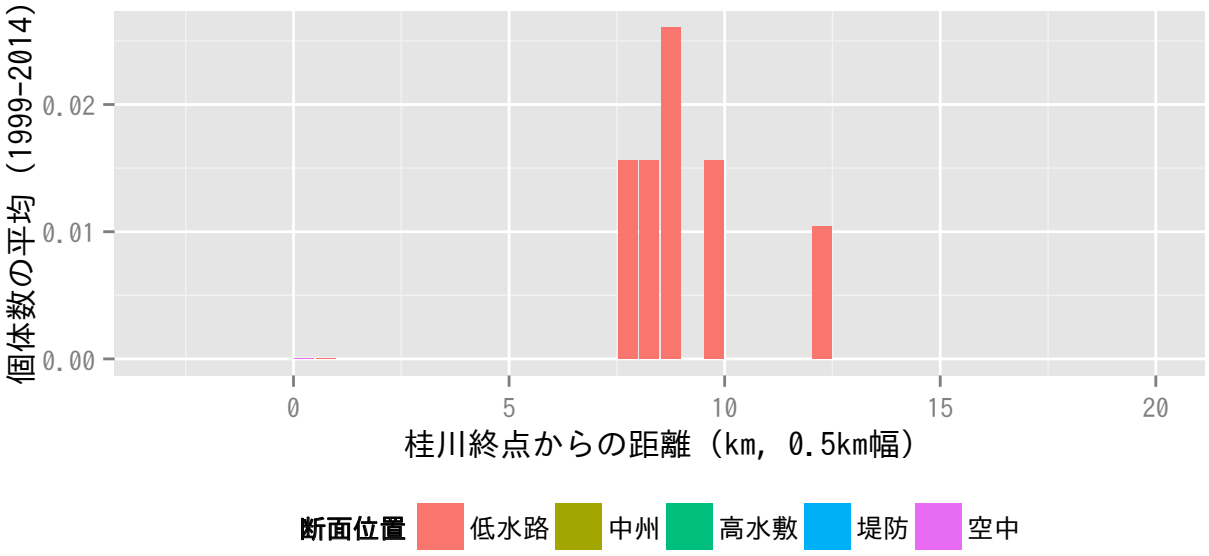

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年


個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

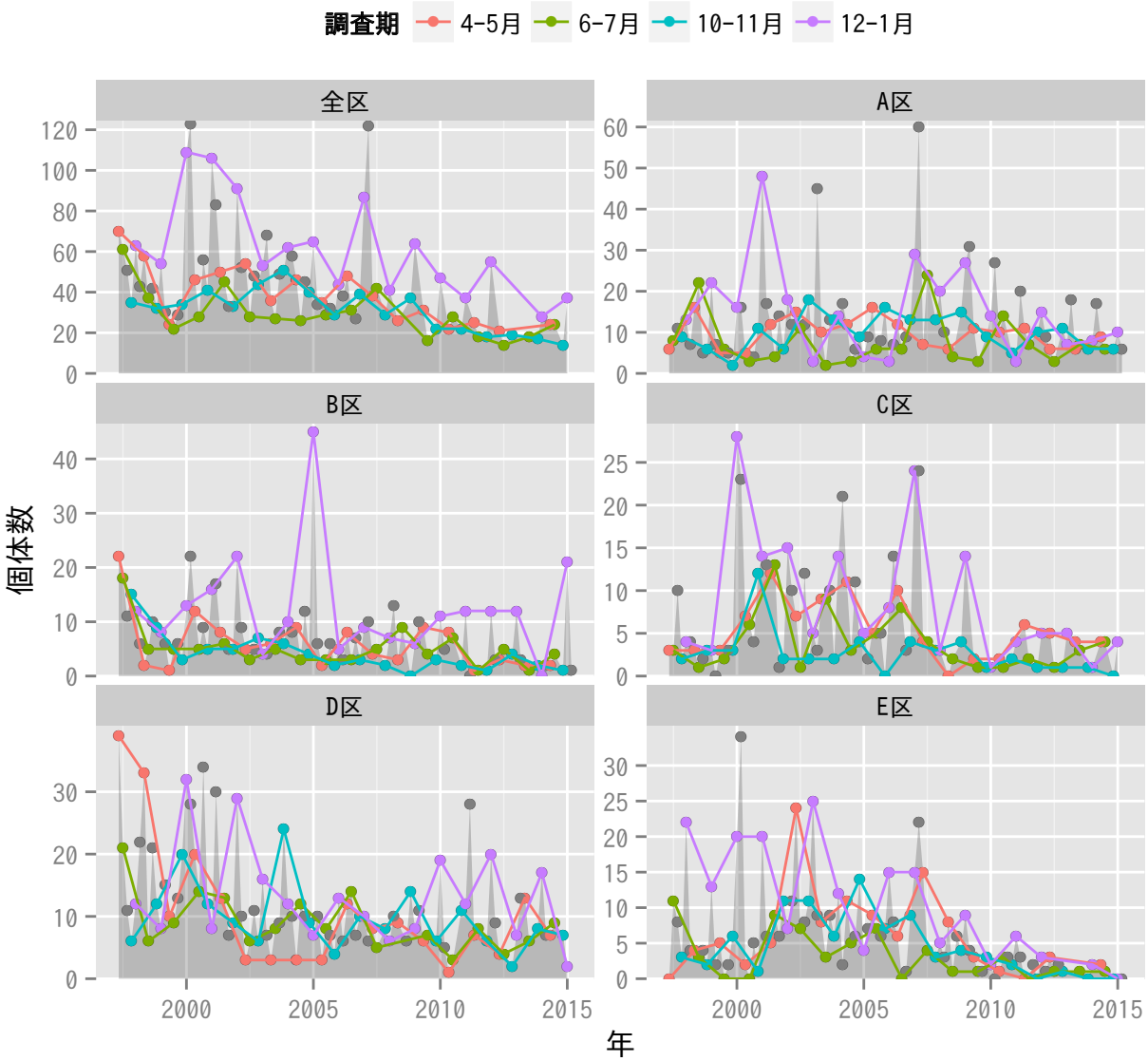

カンムリカイツブリ
調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

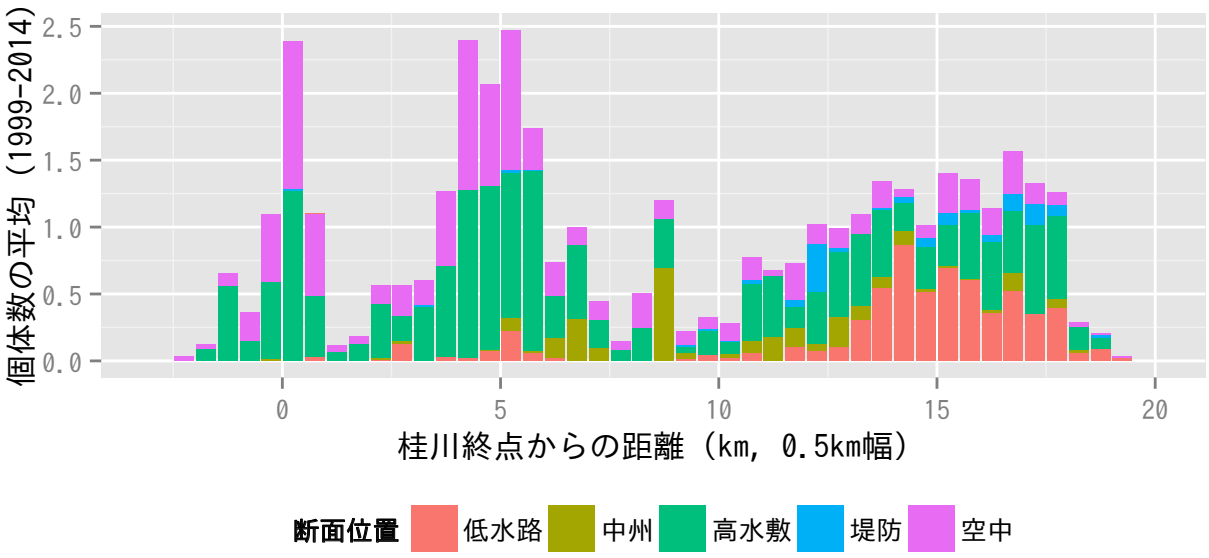
ハジロカイツブリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2000
2005
2010
2015

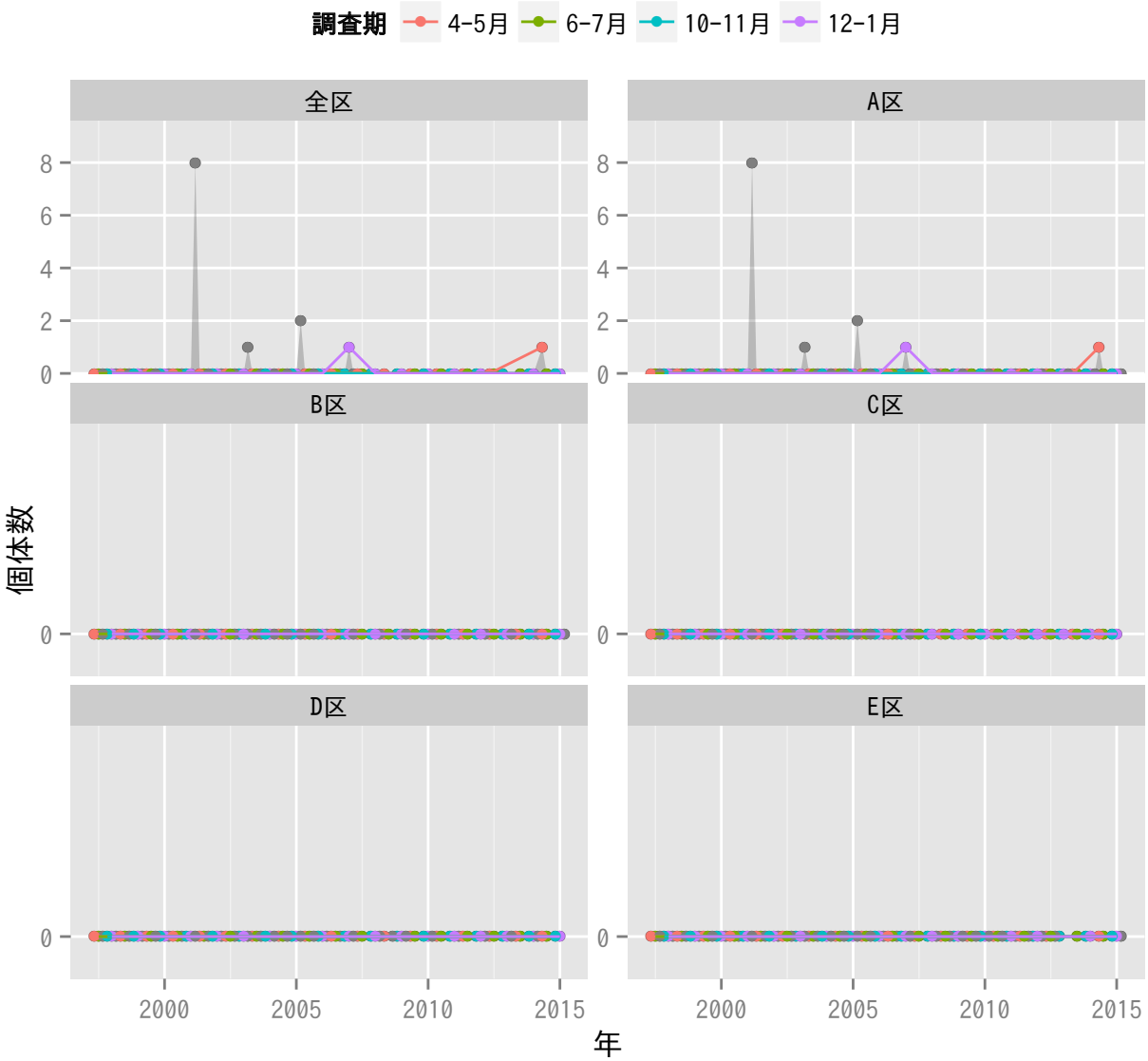

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

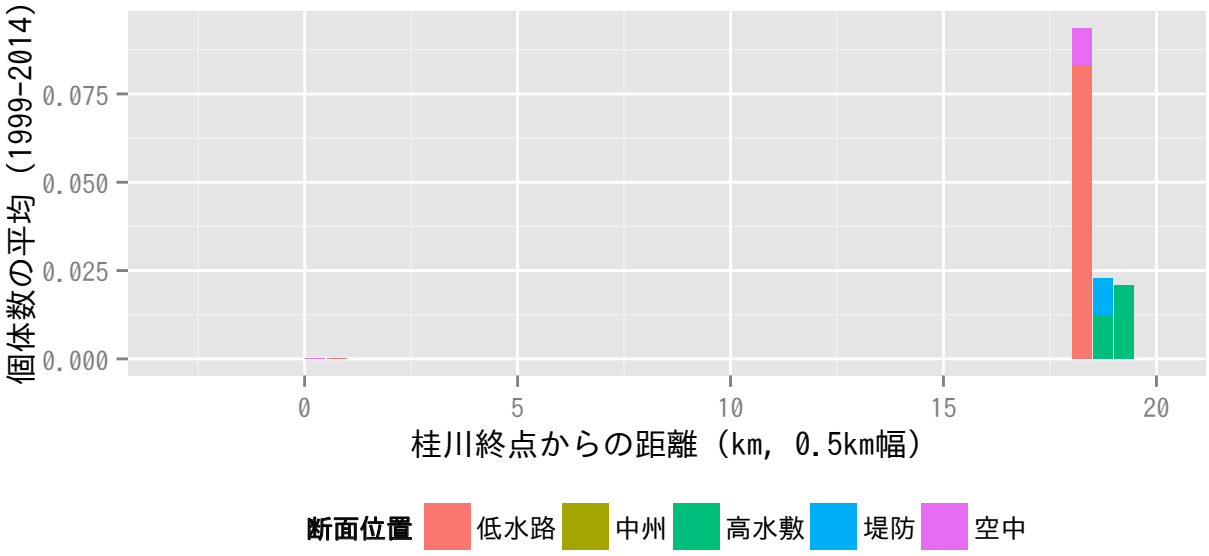
キジバト


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

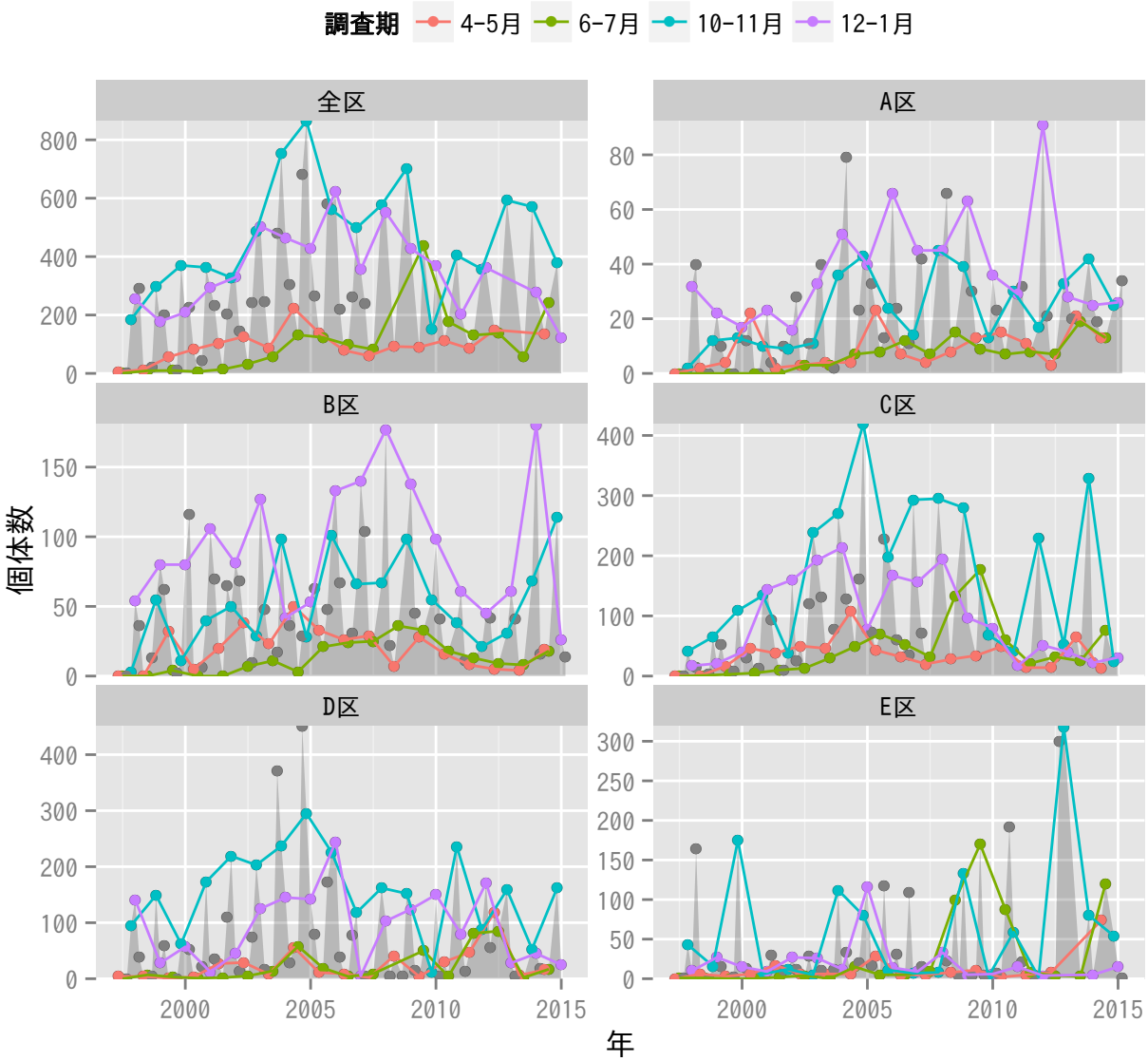

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

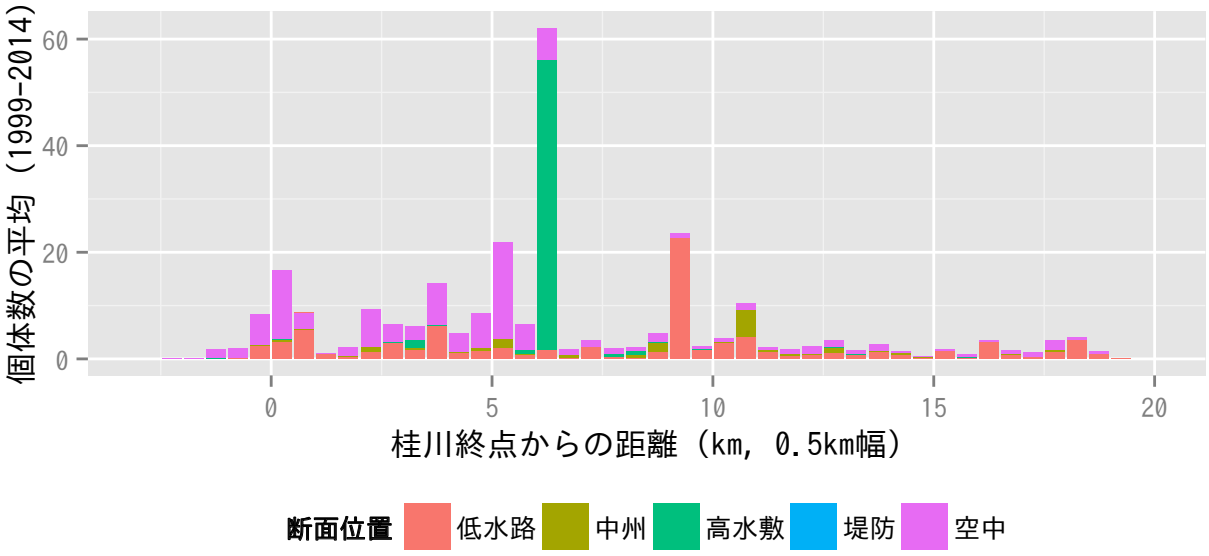
アオバト


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
2
4
6
8
2000
2005
2010
2015
年

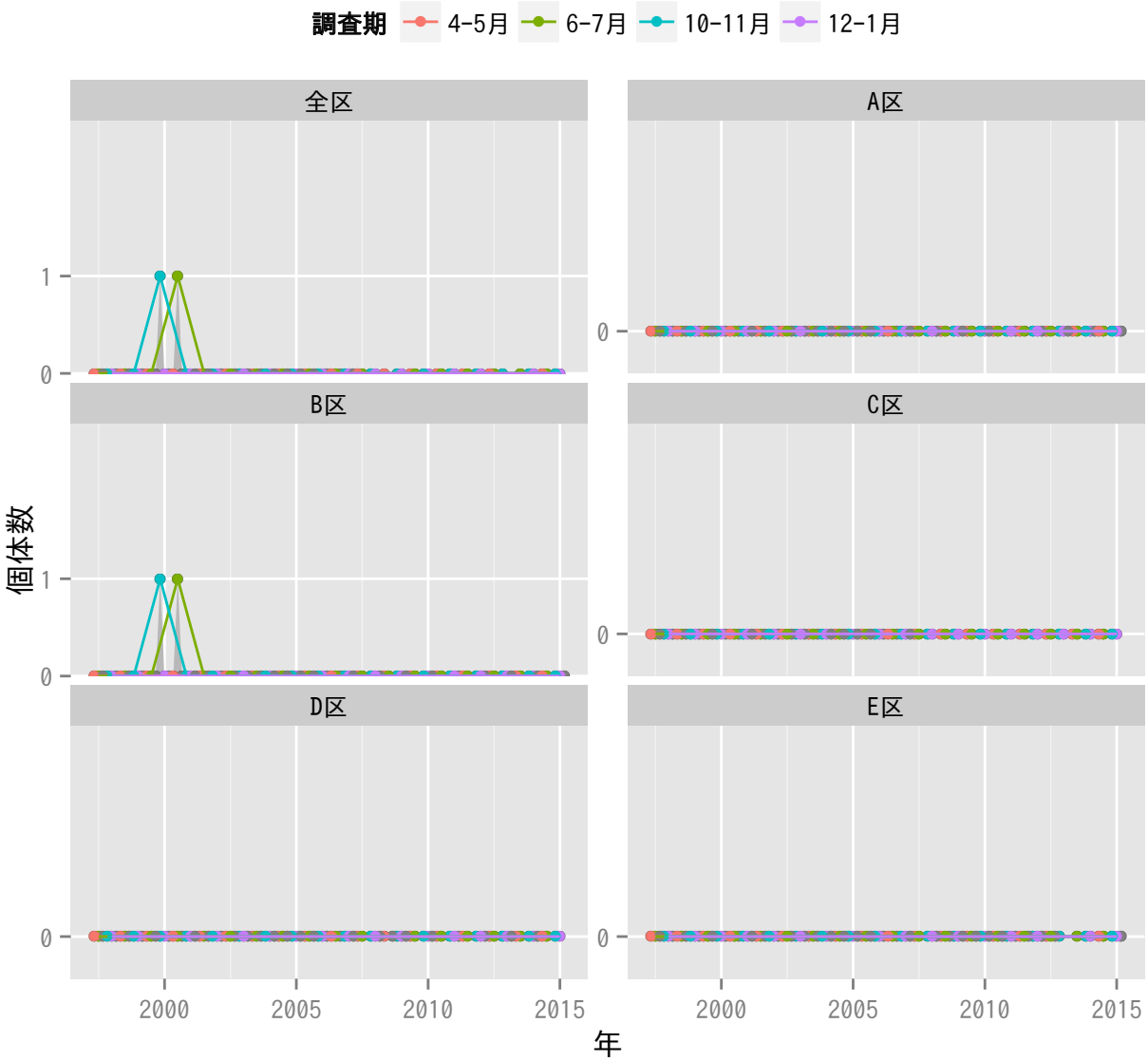

個体数の平均（1999-2014）
0.000
0.025
0.050
0.075
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

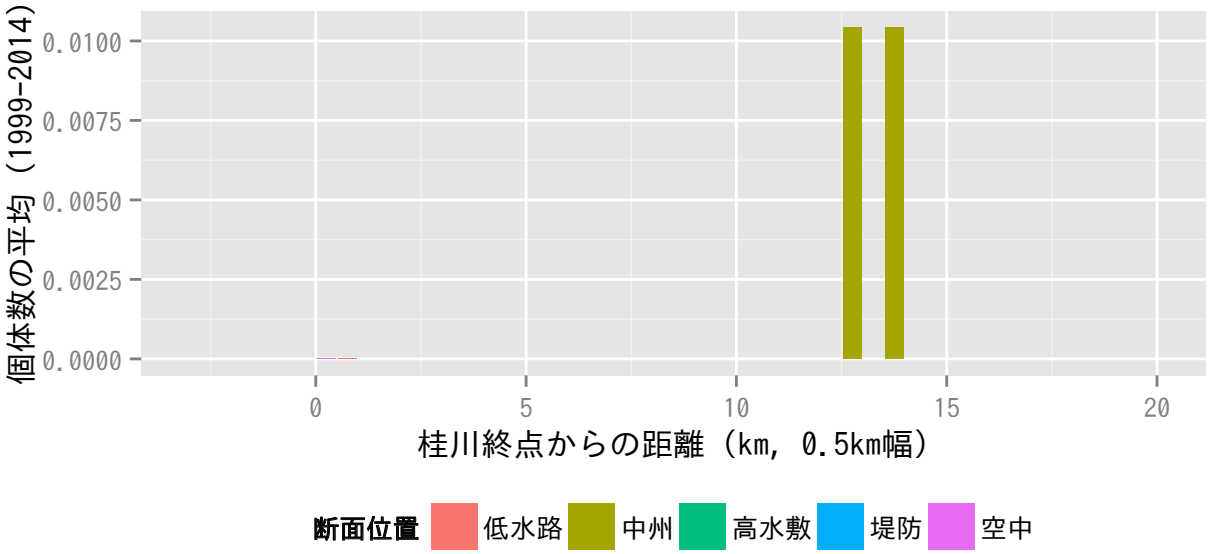
カワウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年


個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

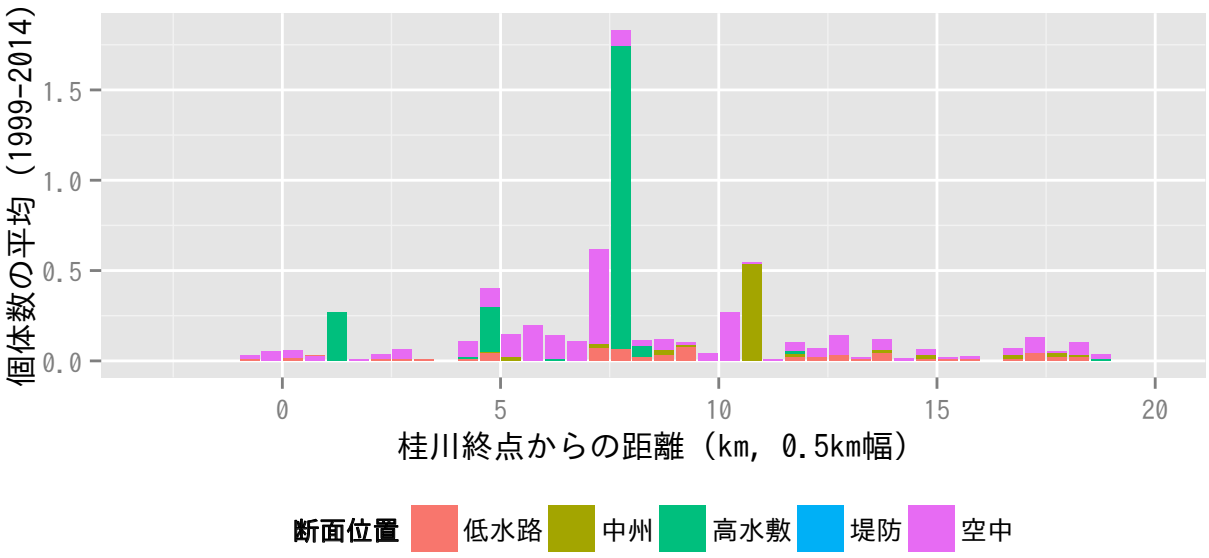
ヨシゴイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

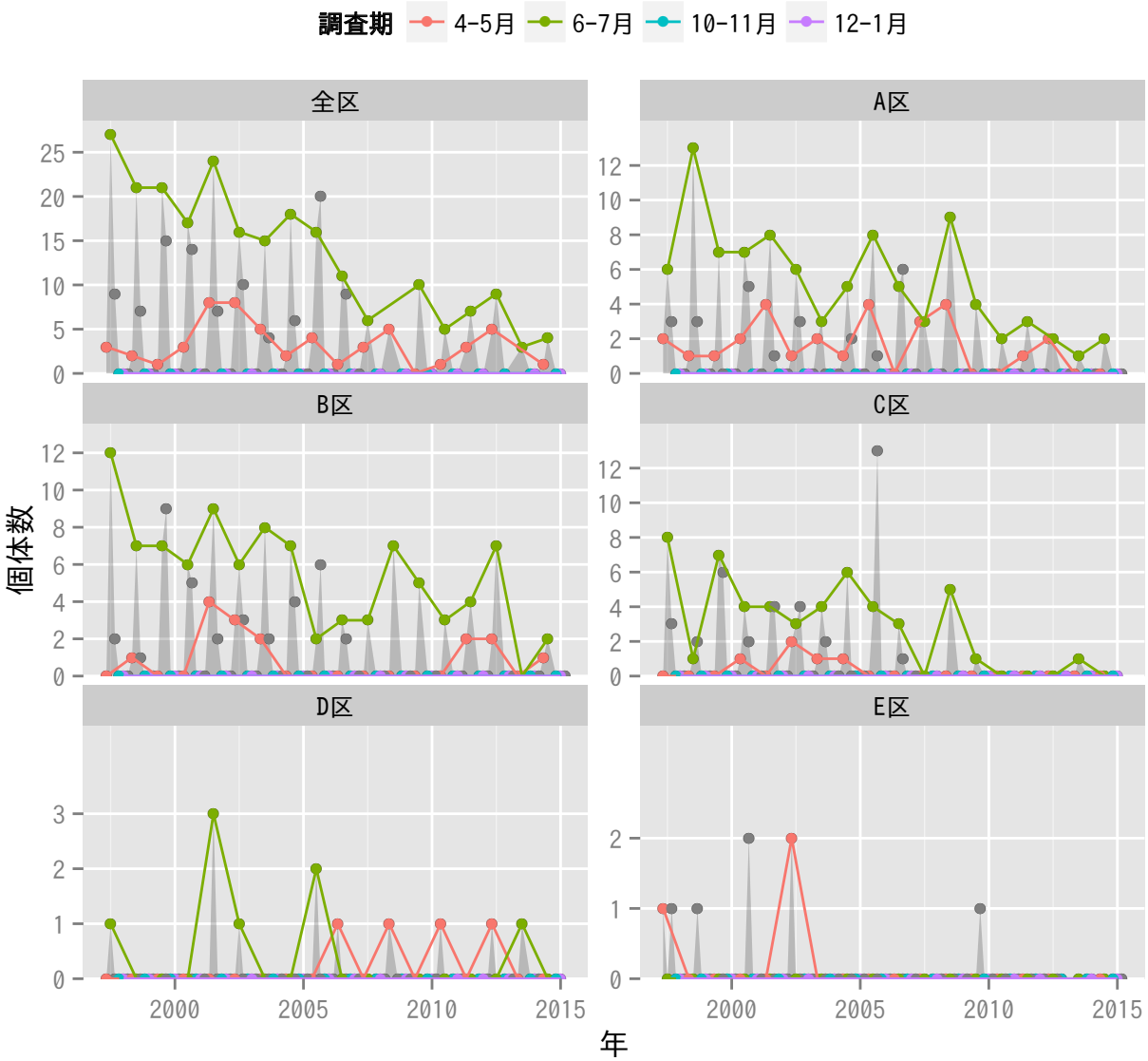

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

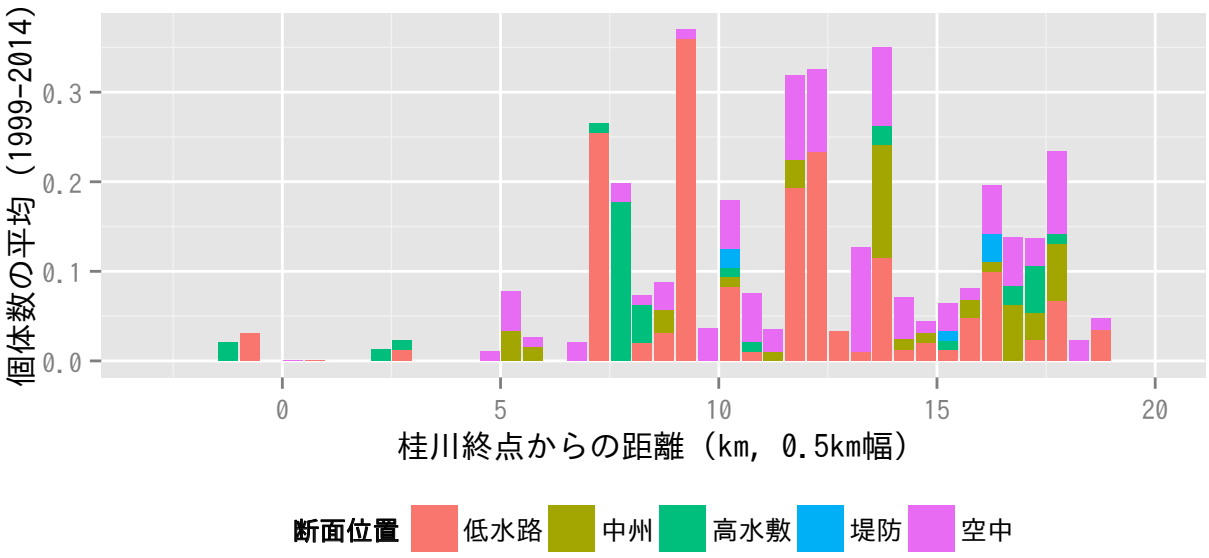
ゴイサギ

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

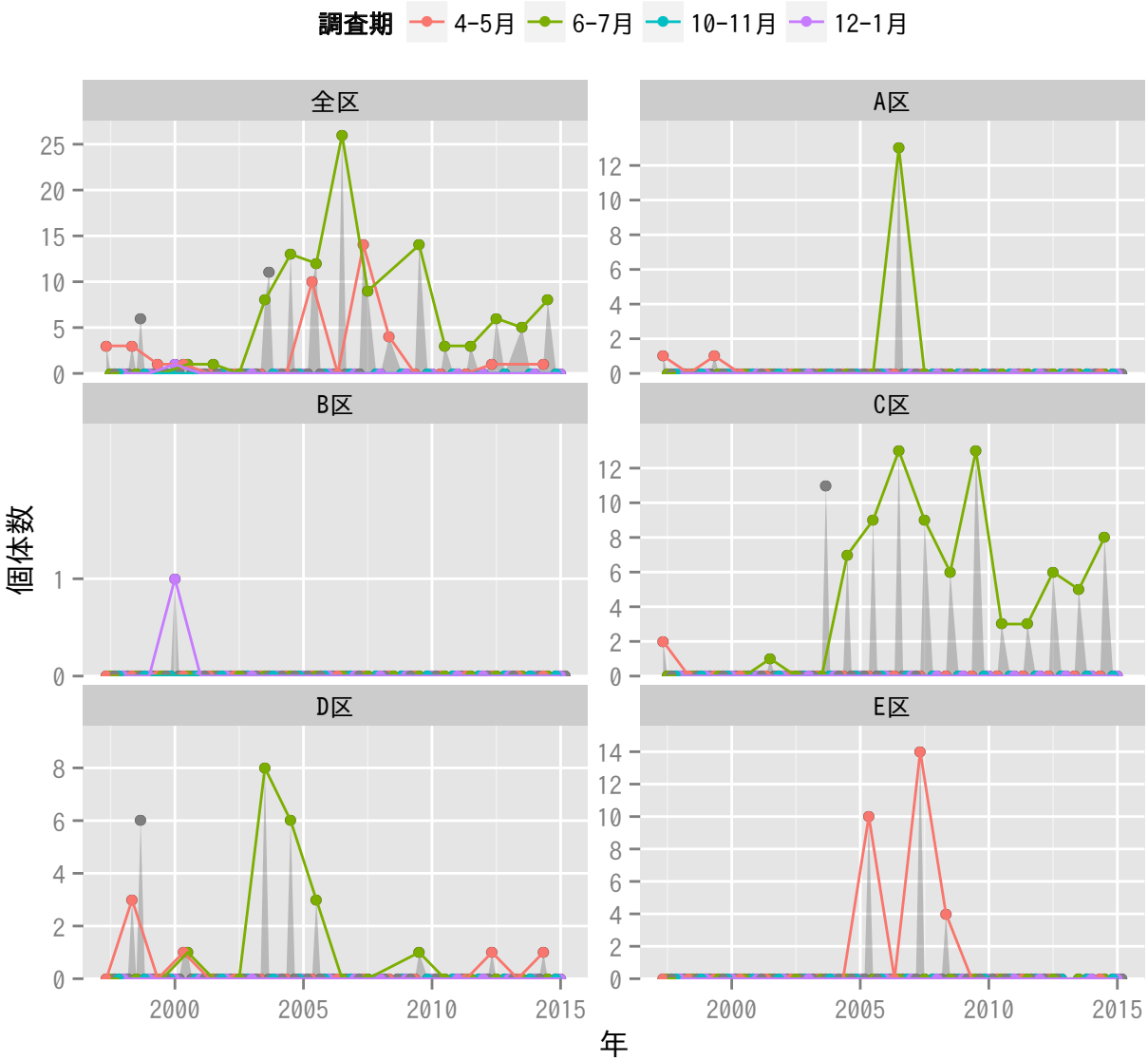

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

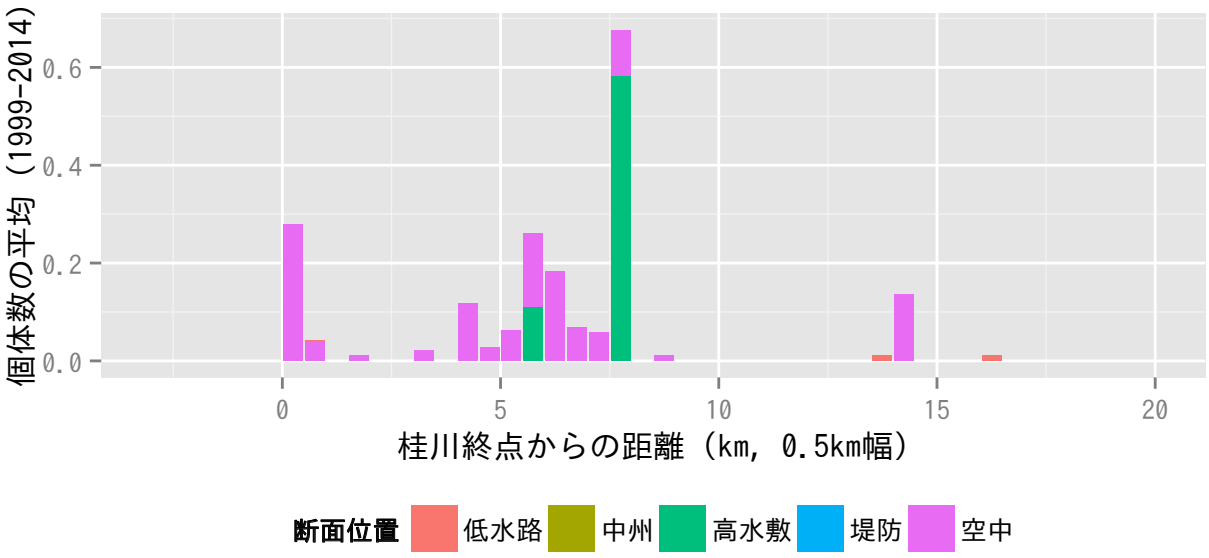
ササゴイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年


個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

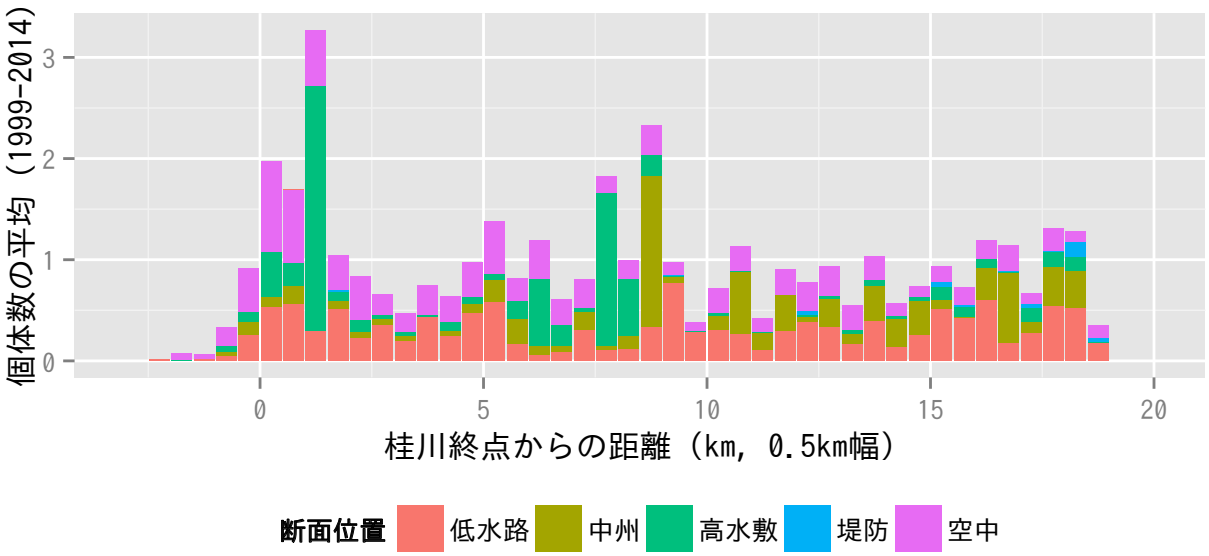
アマサギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

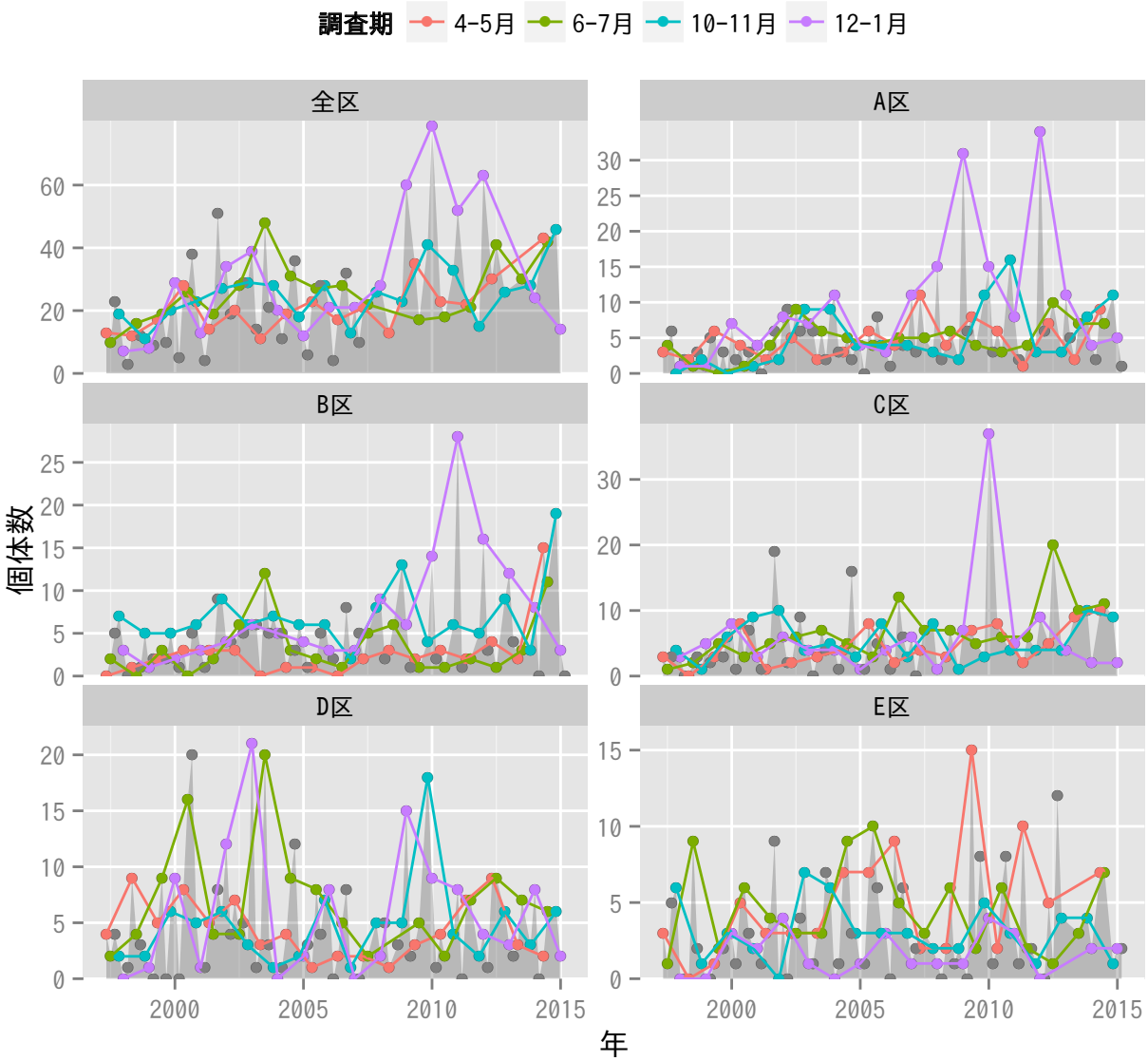

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

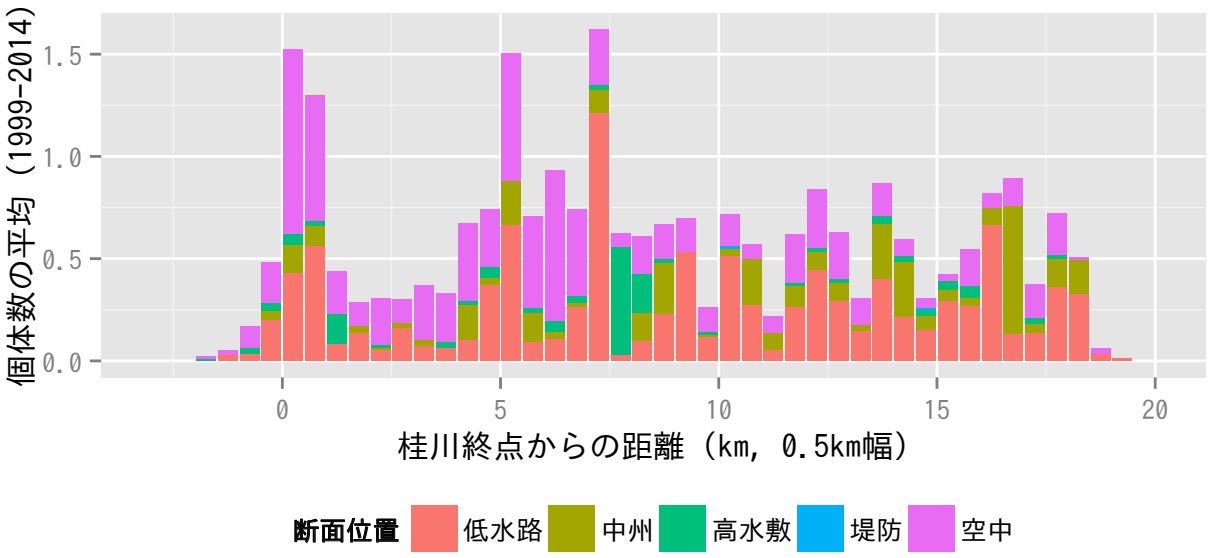
アオサギ

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

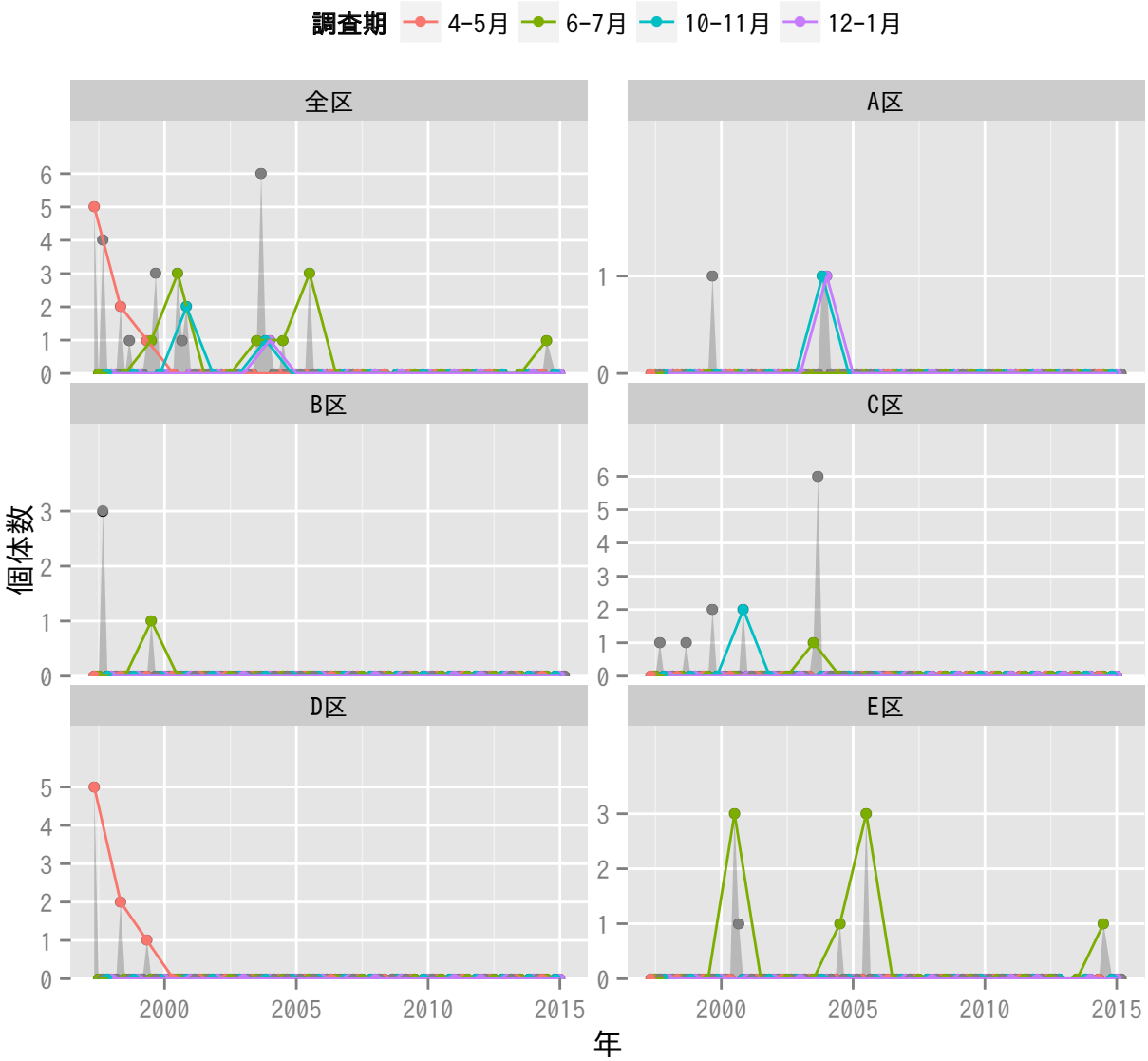

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

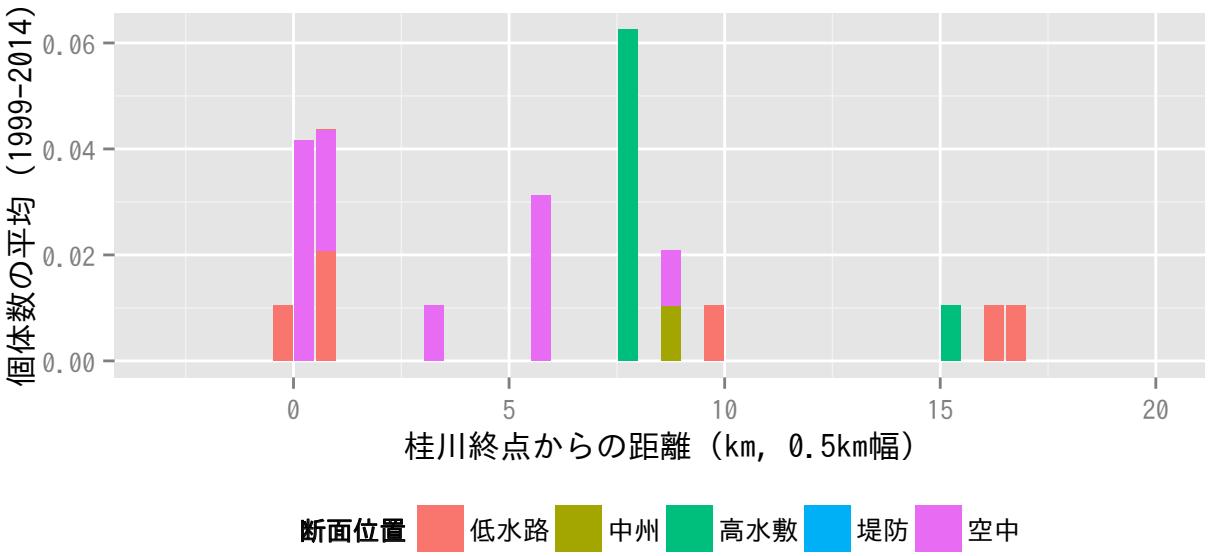
ダイサギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

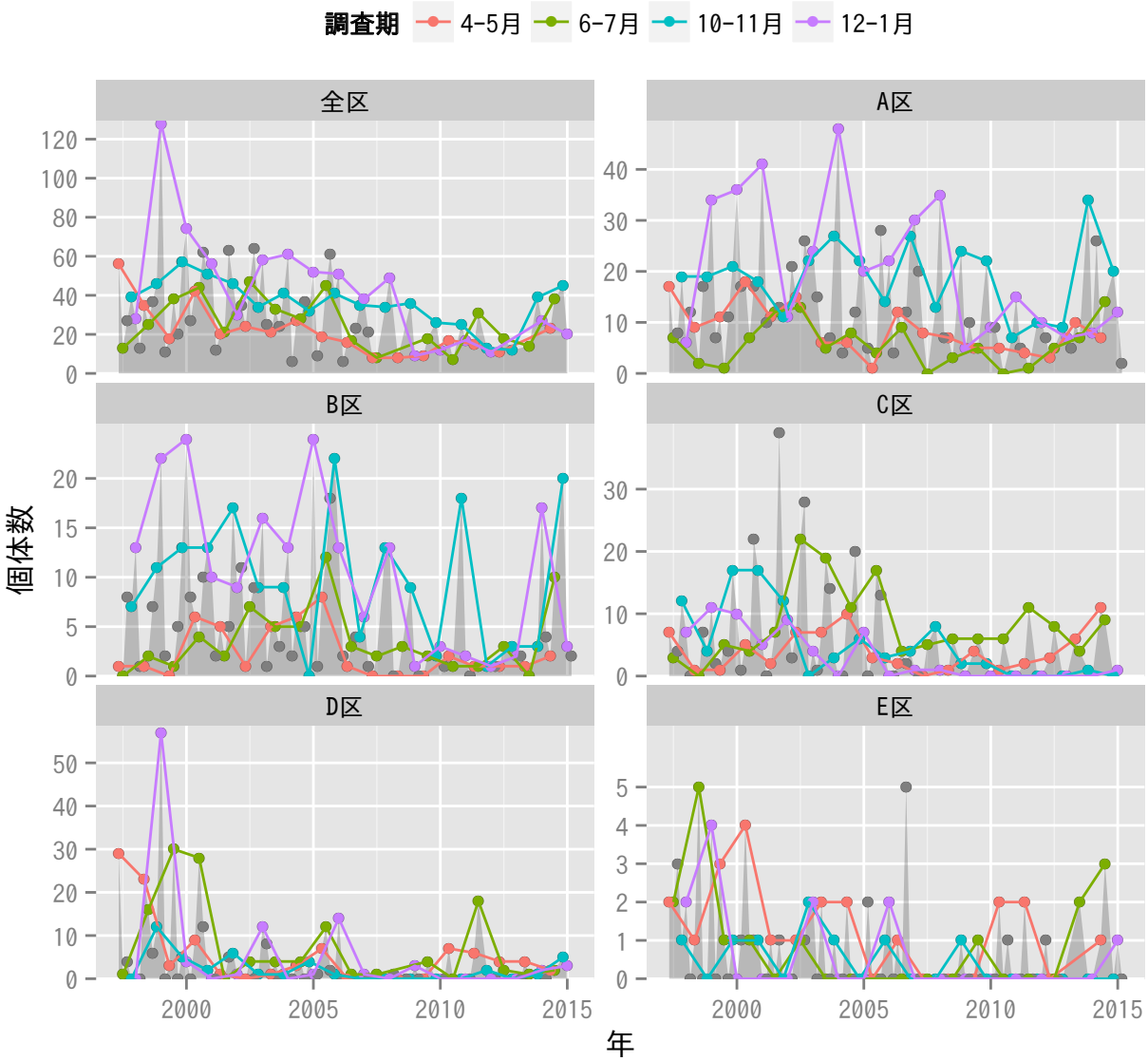

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

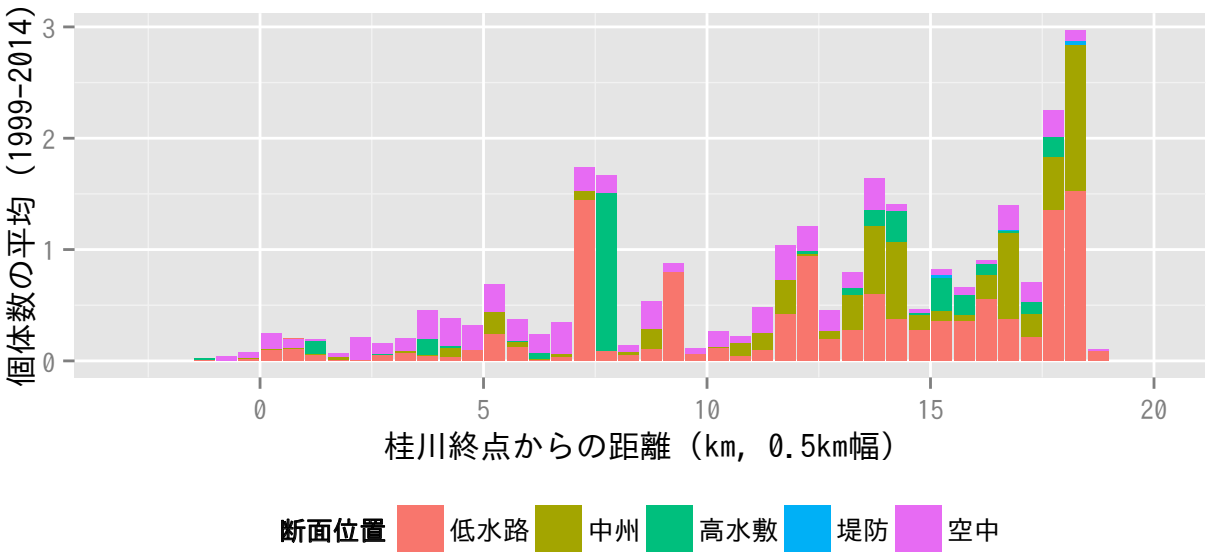
チュウサギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

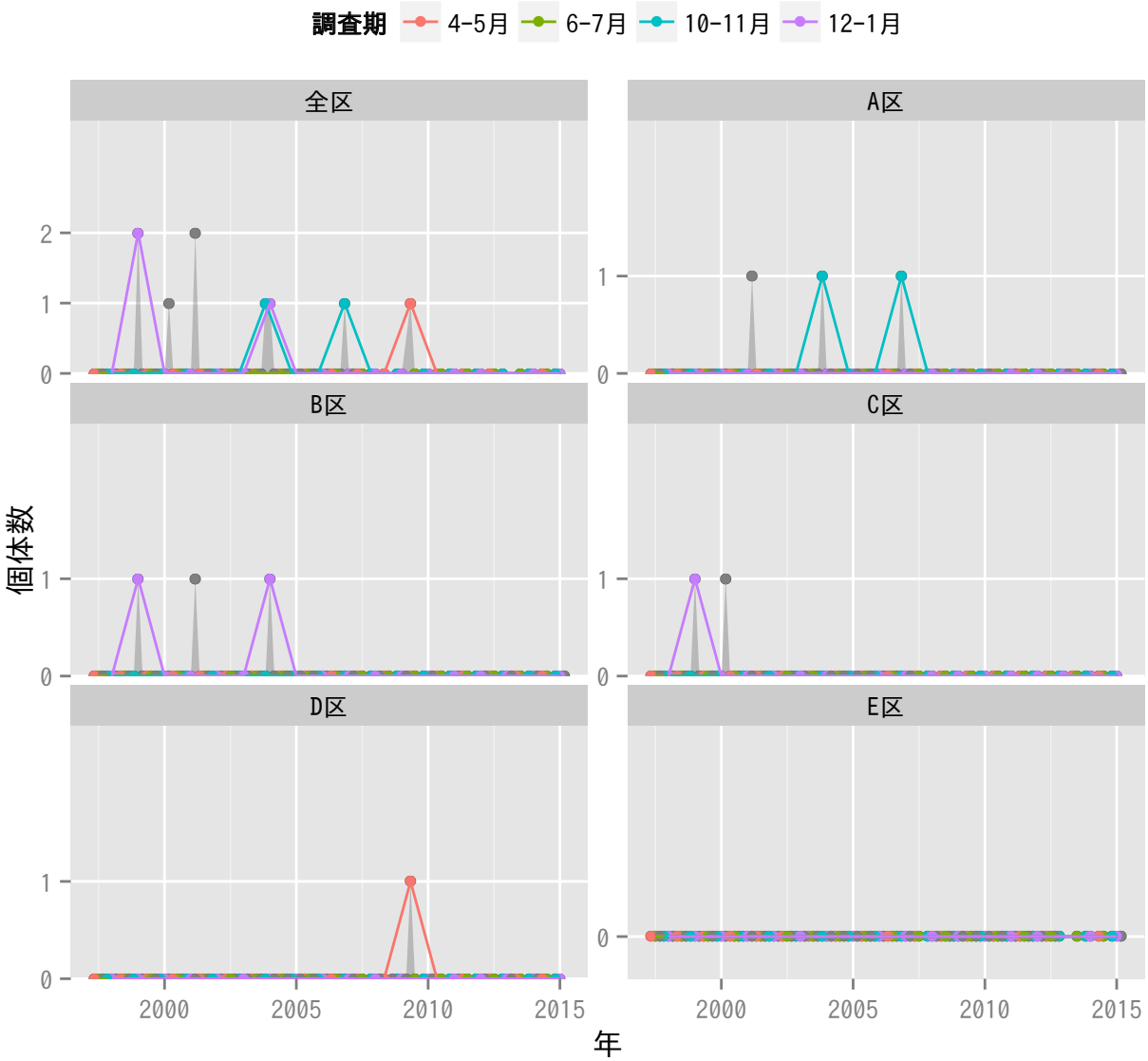

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

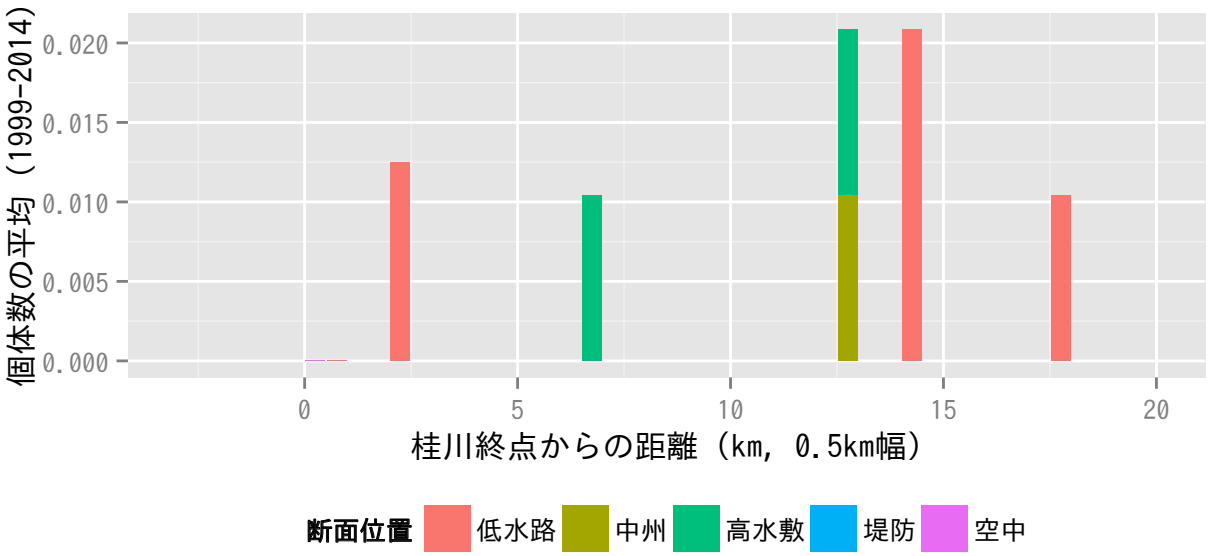
コサギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

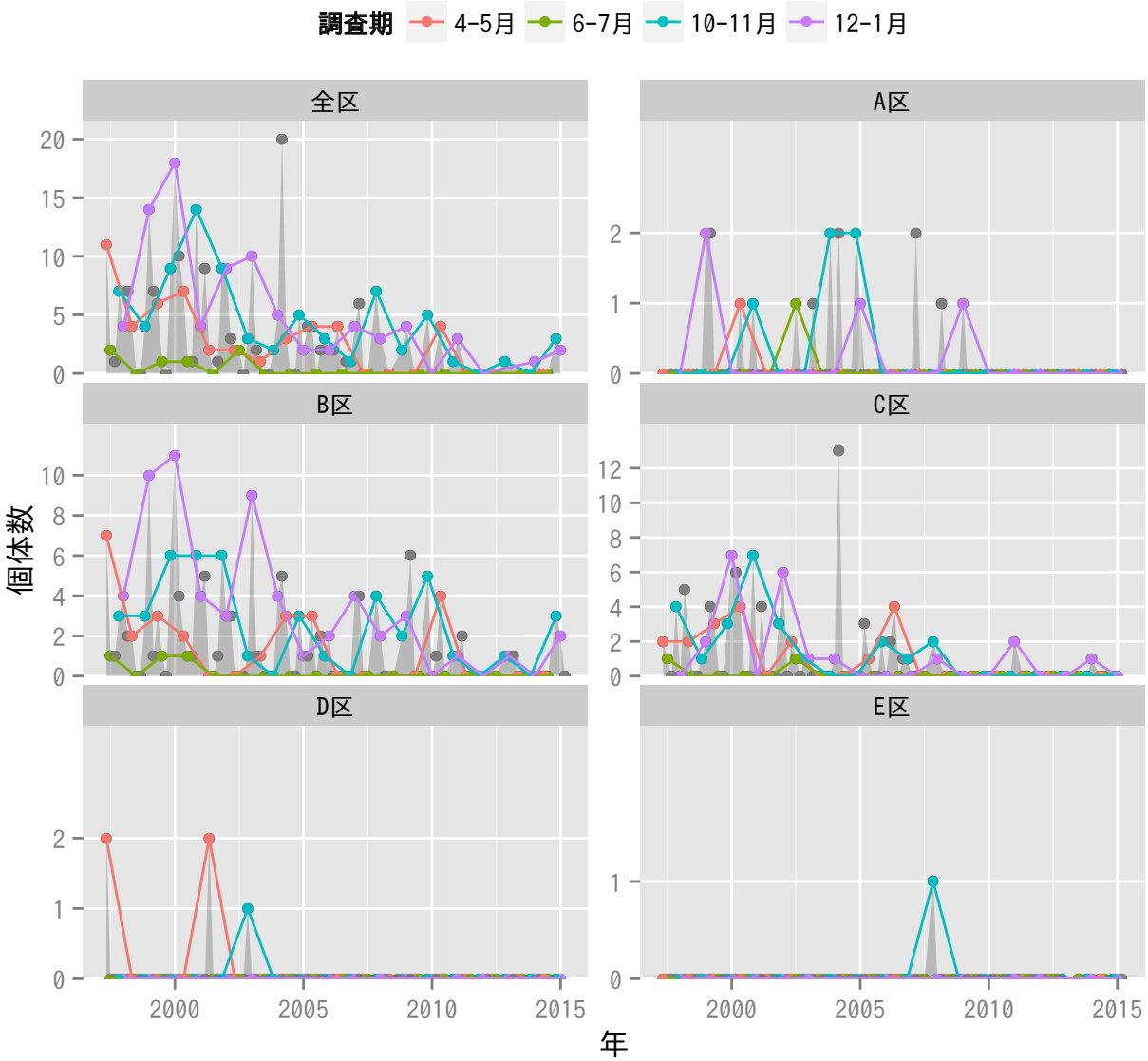

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

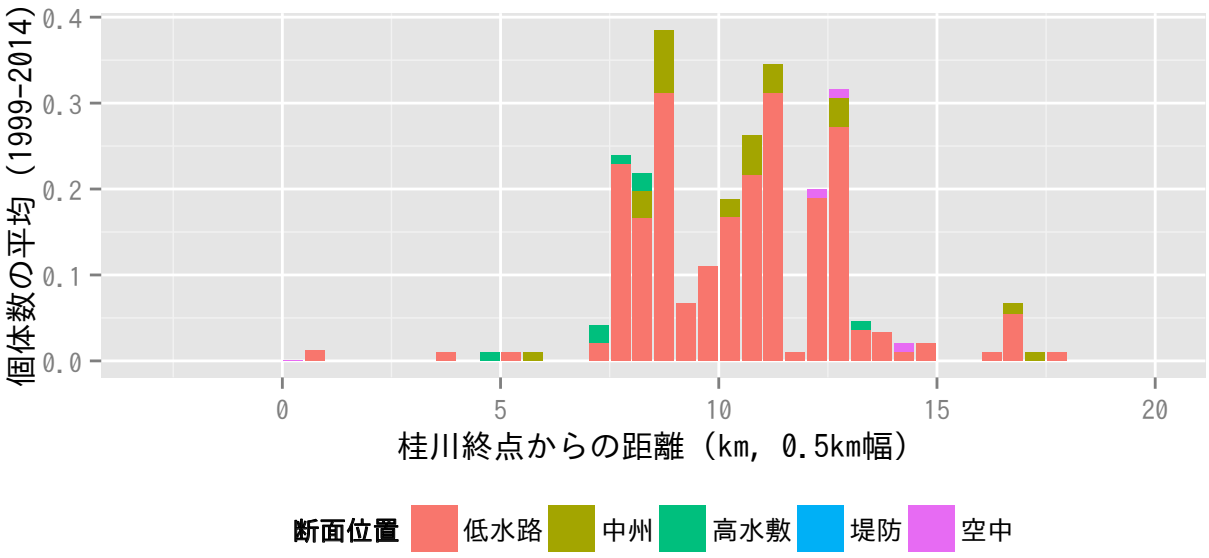
クイナ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

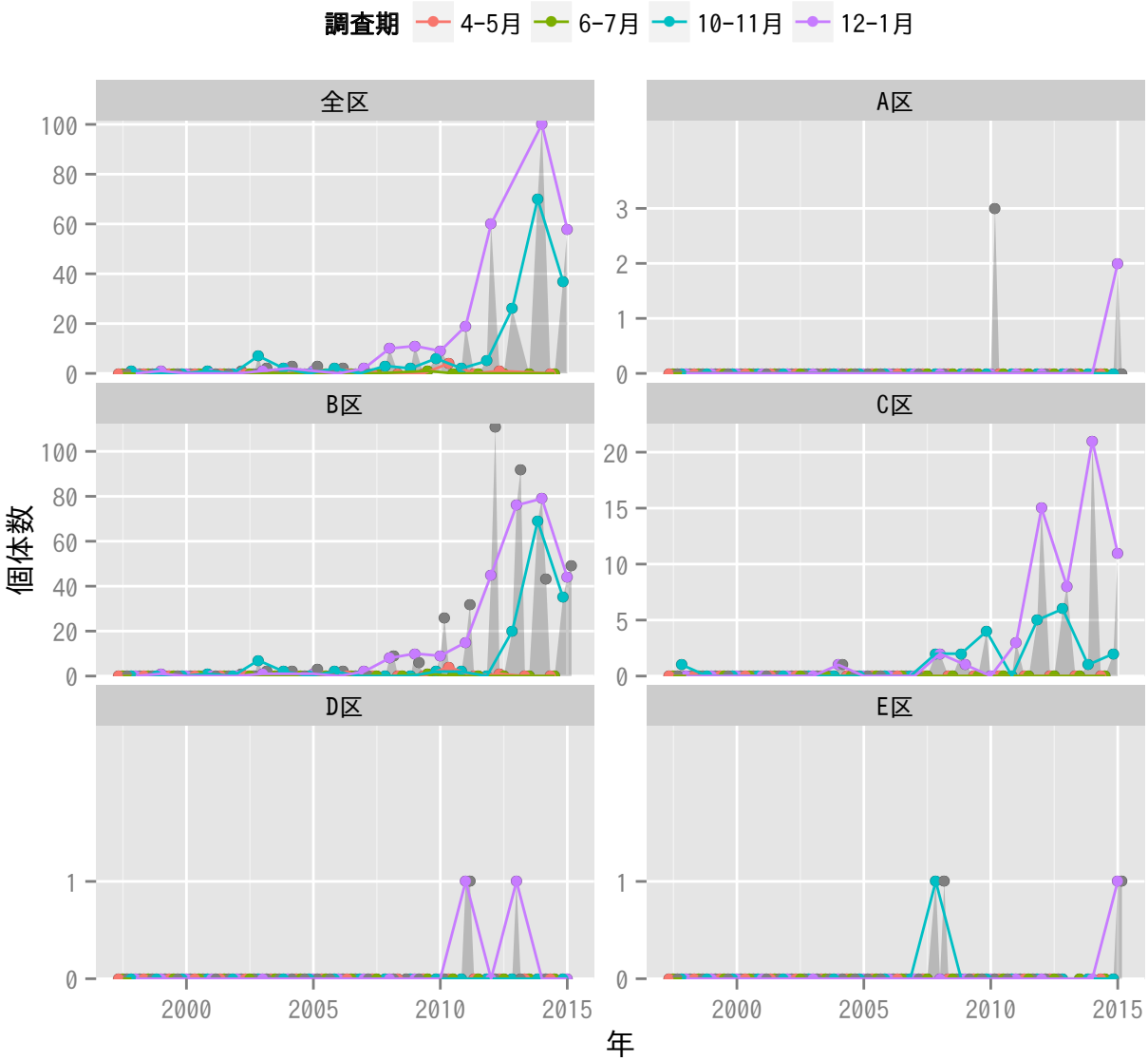

個体数の平均（1999-2014）
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

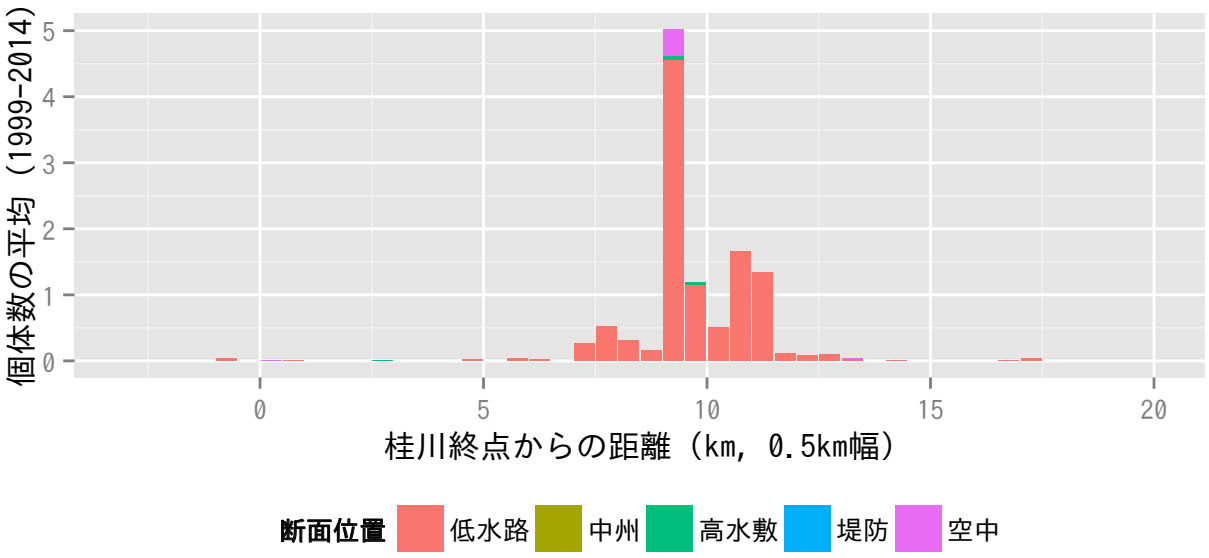
バン


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

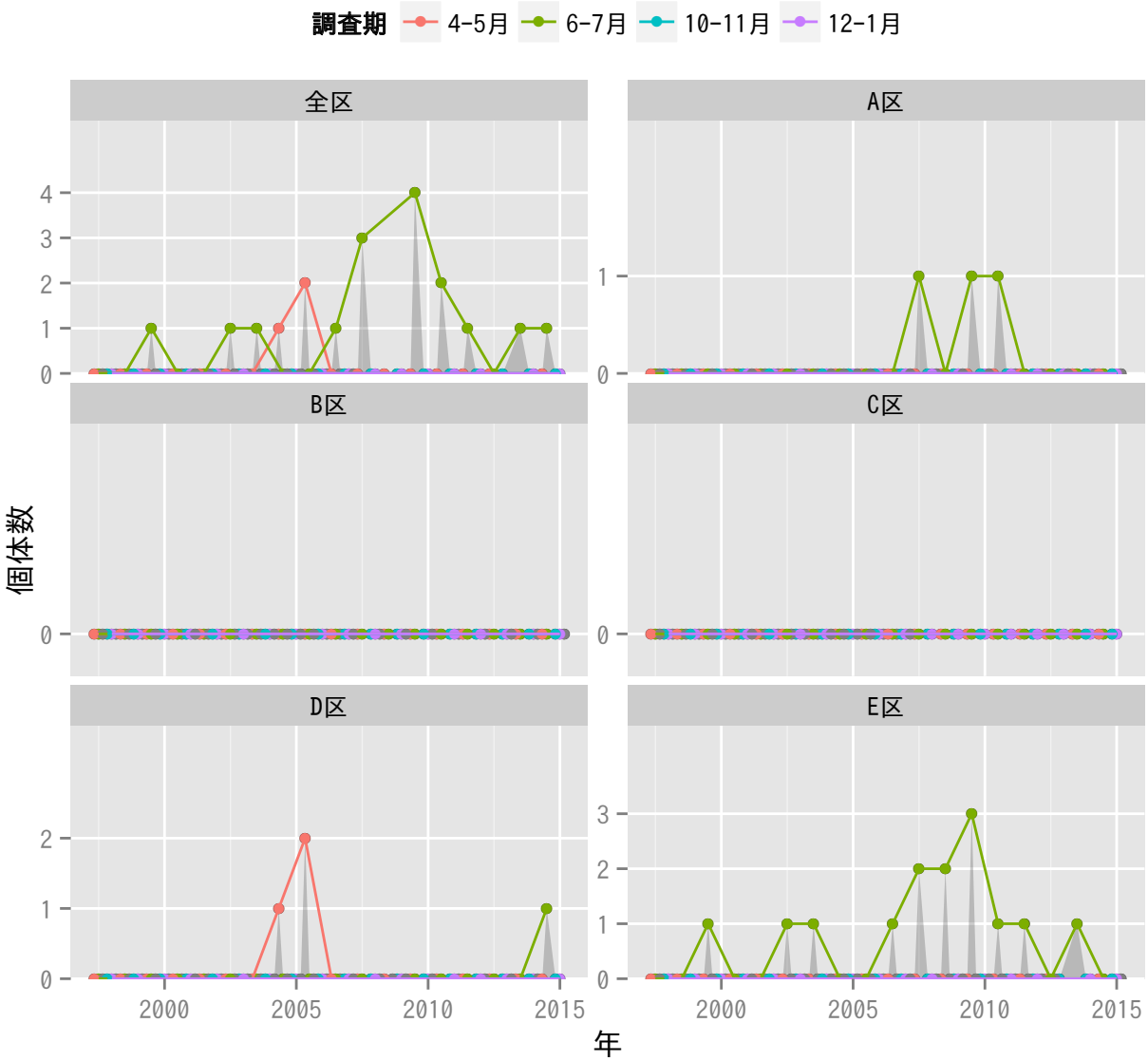

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

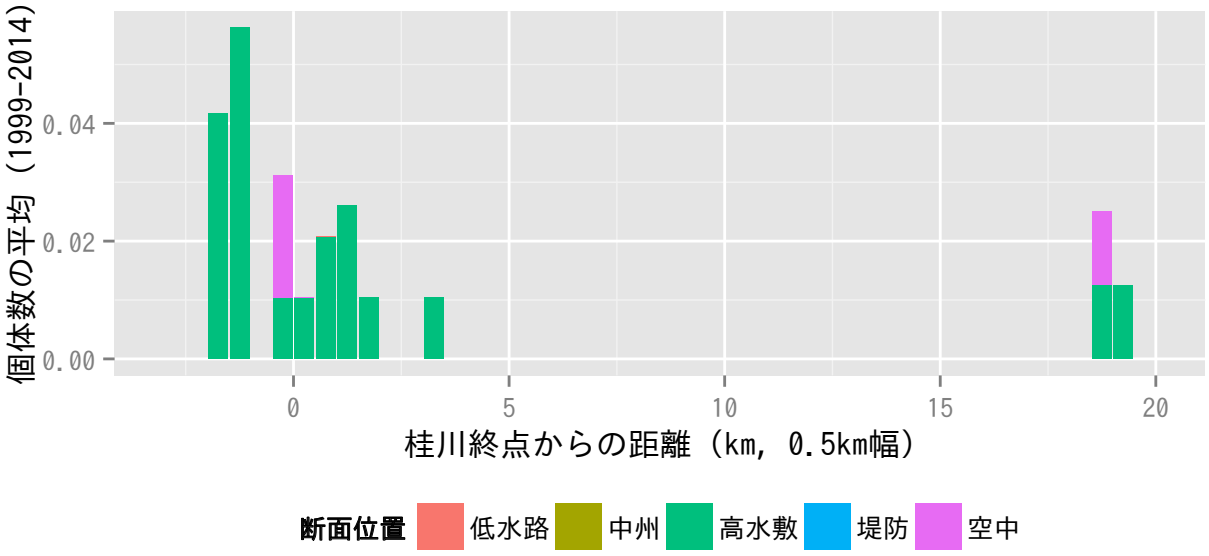
オオバン


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

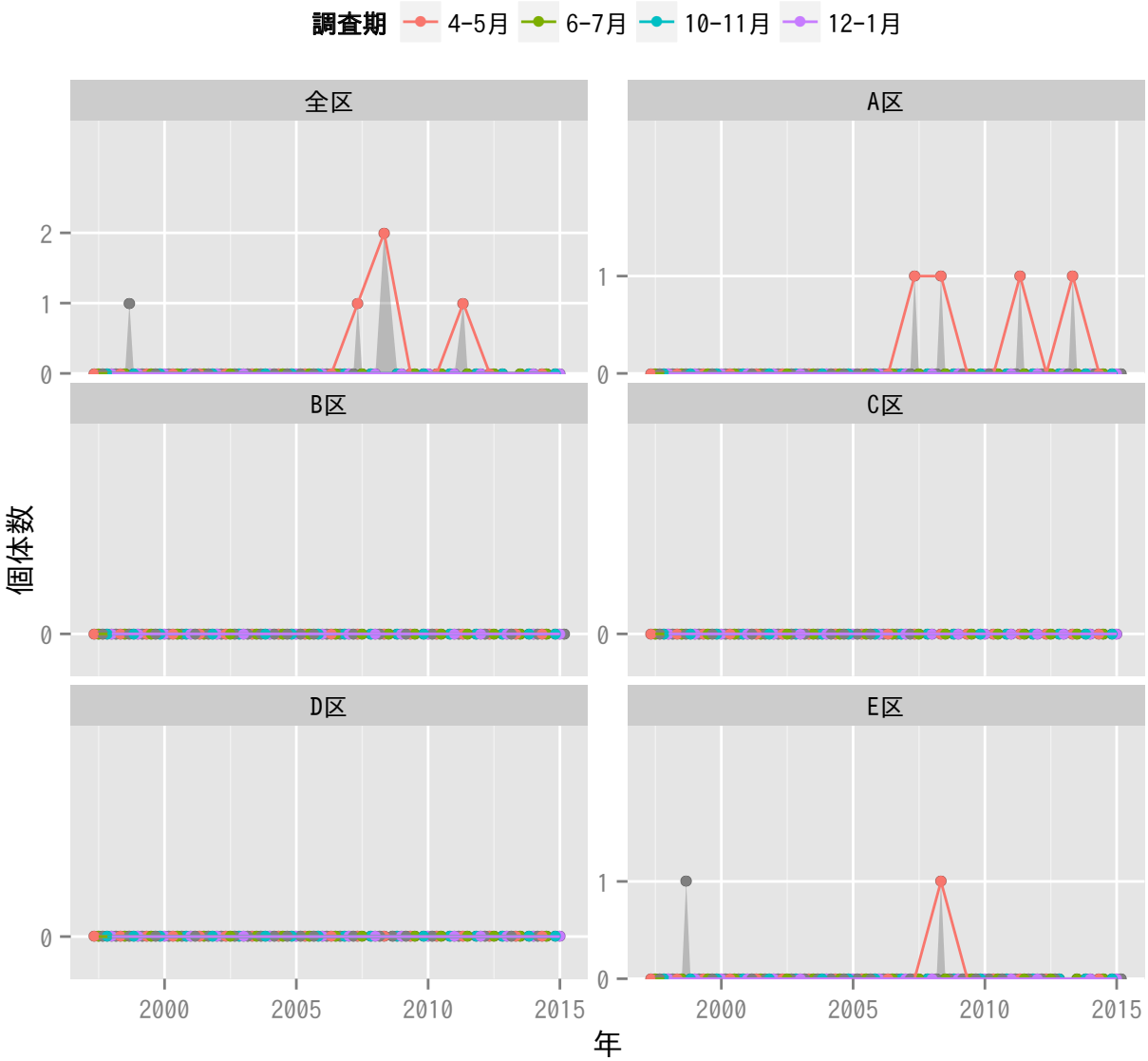

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

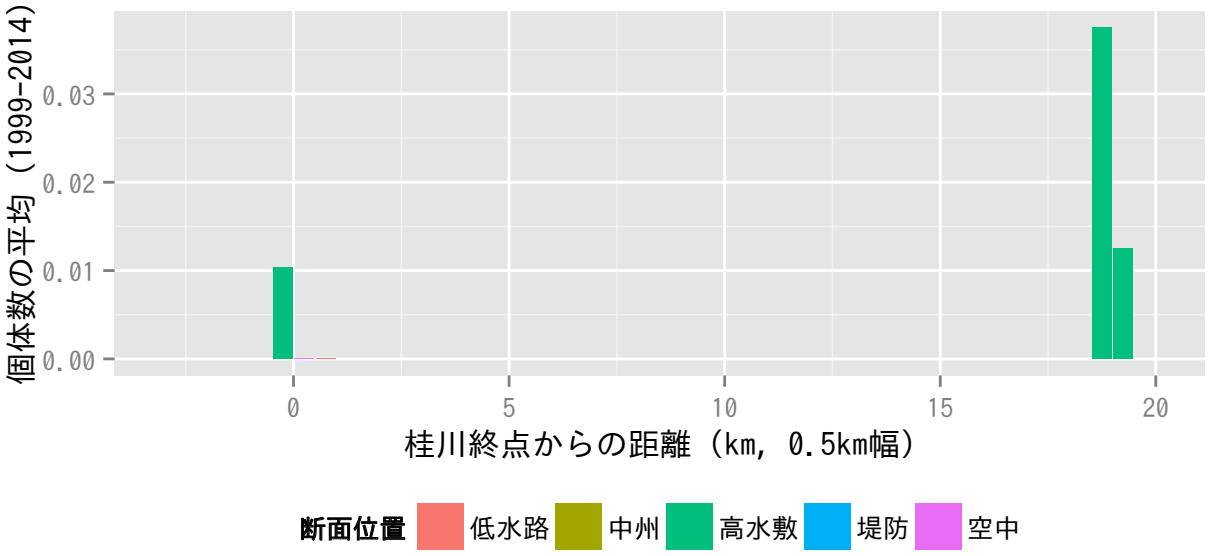
ホトトギス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

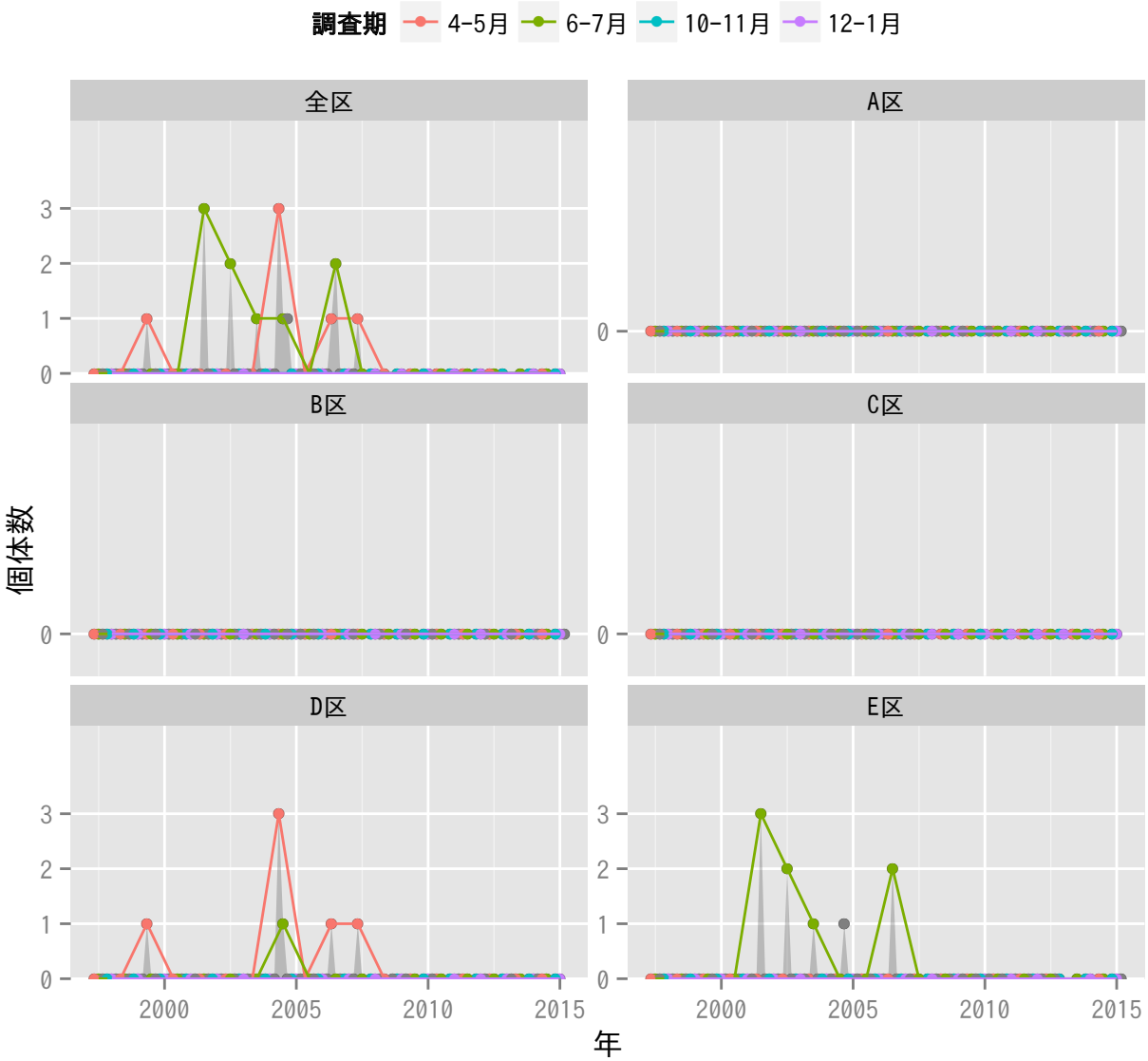

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

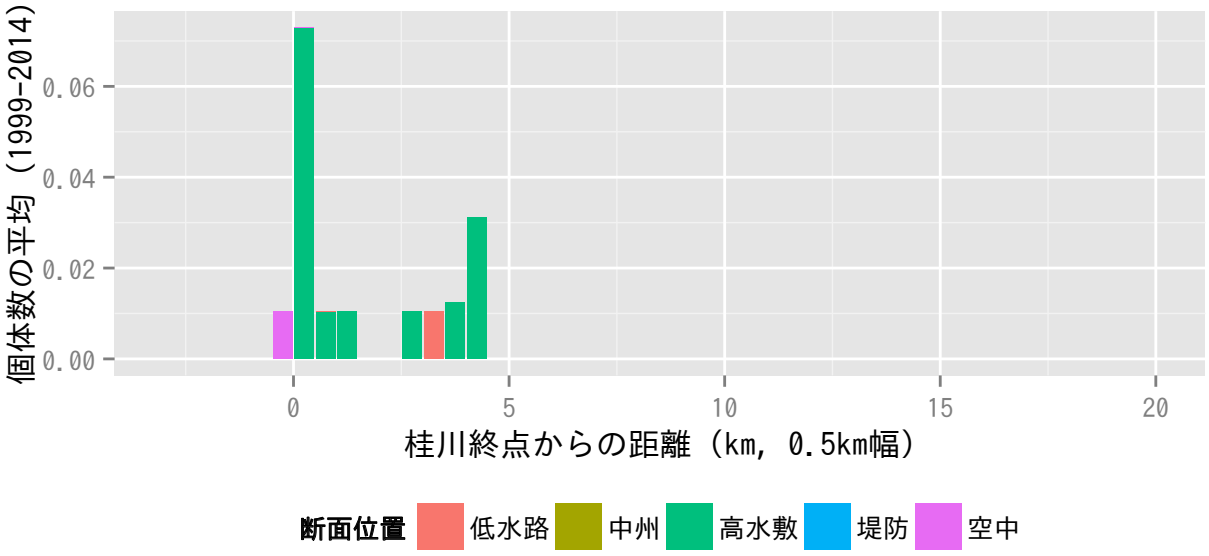
ツツドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

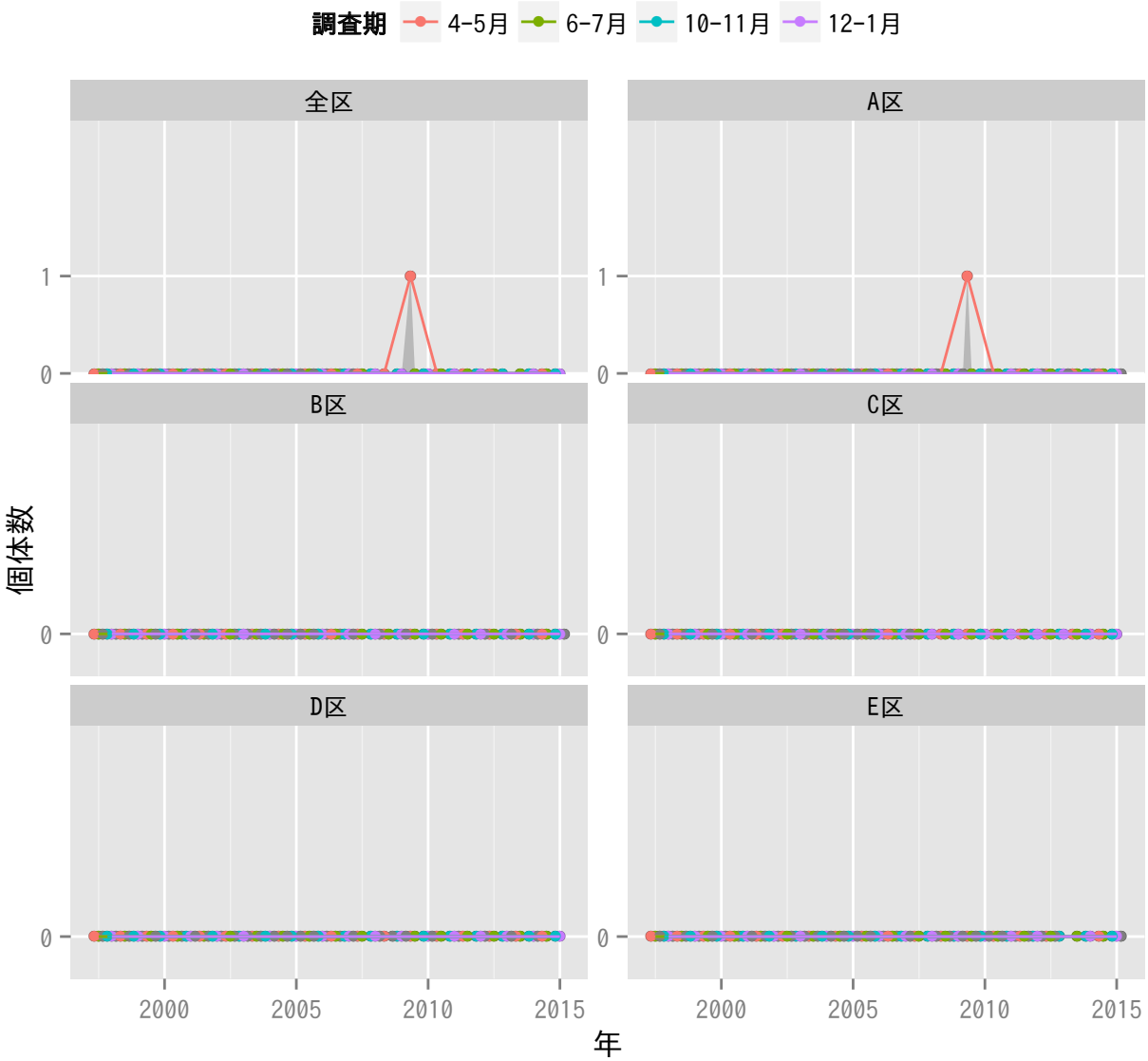

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

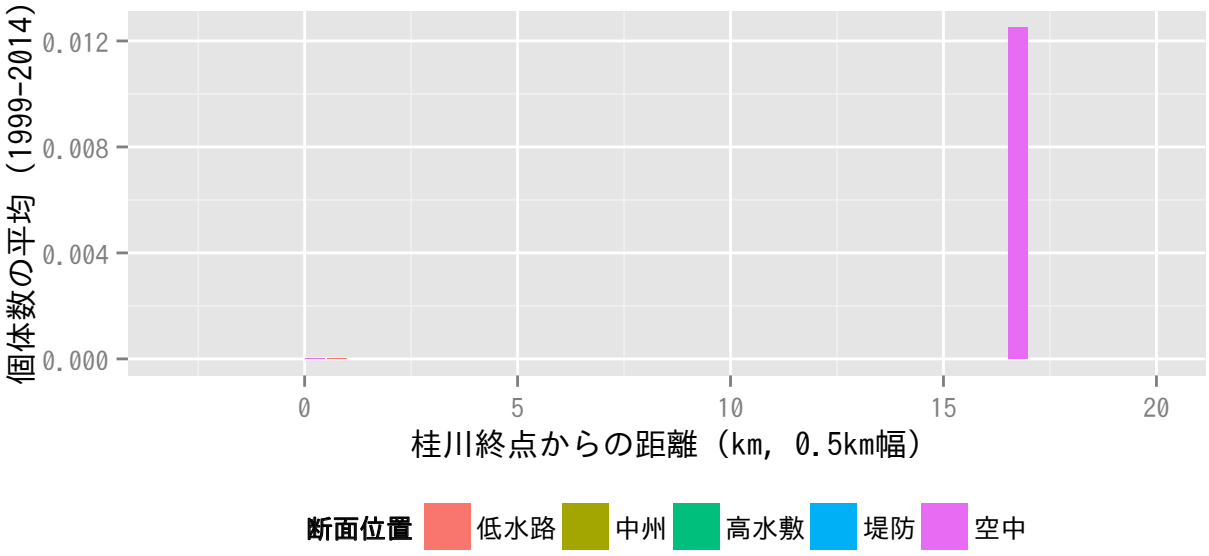
カッコウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2
3
2000
2005
2010
2015

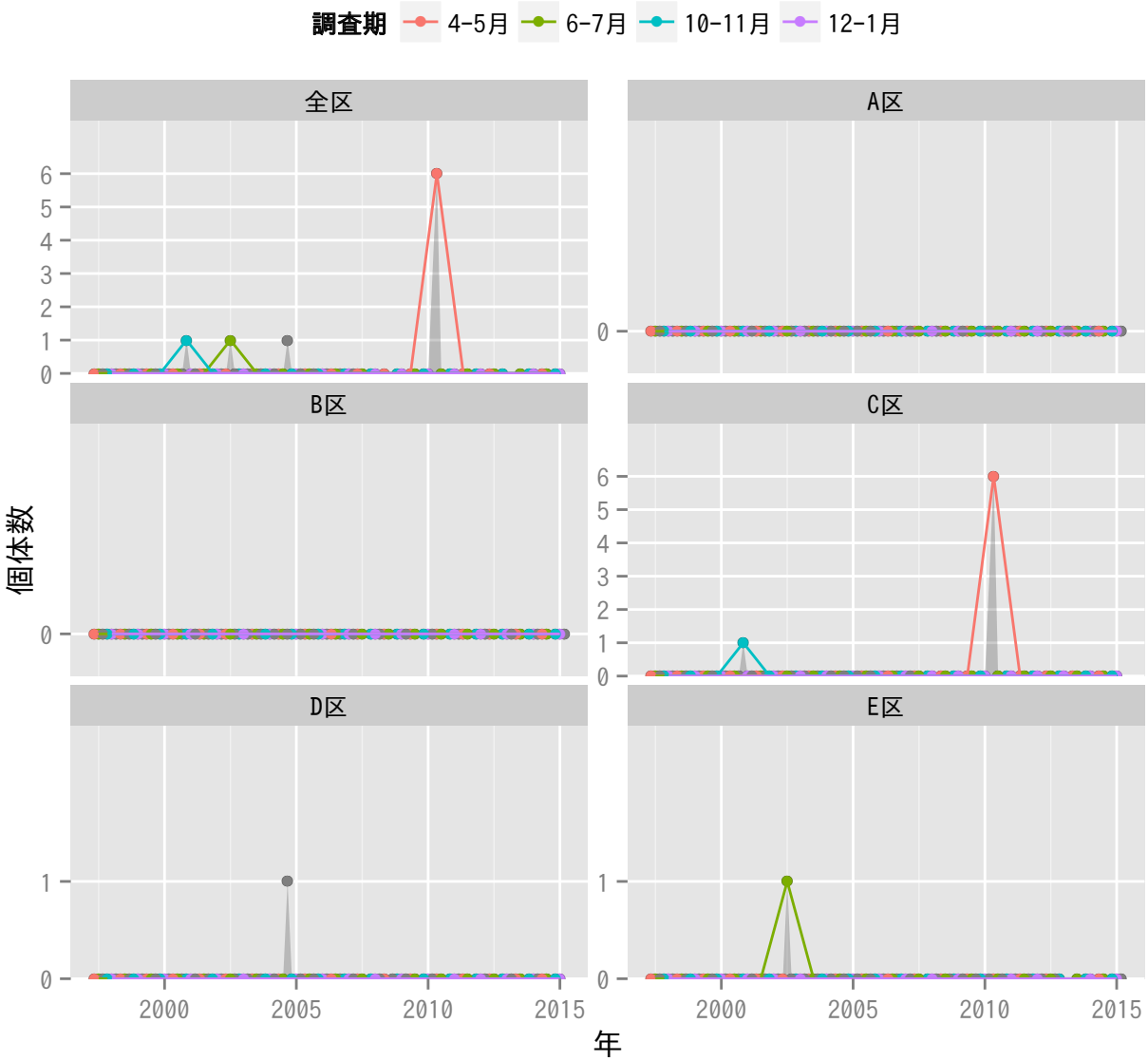

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.02
0.04
0.06
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

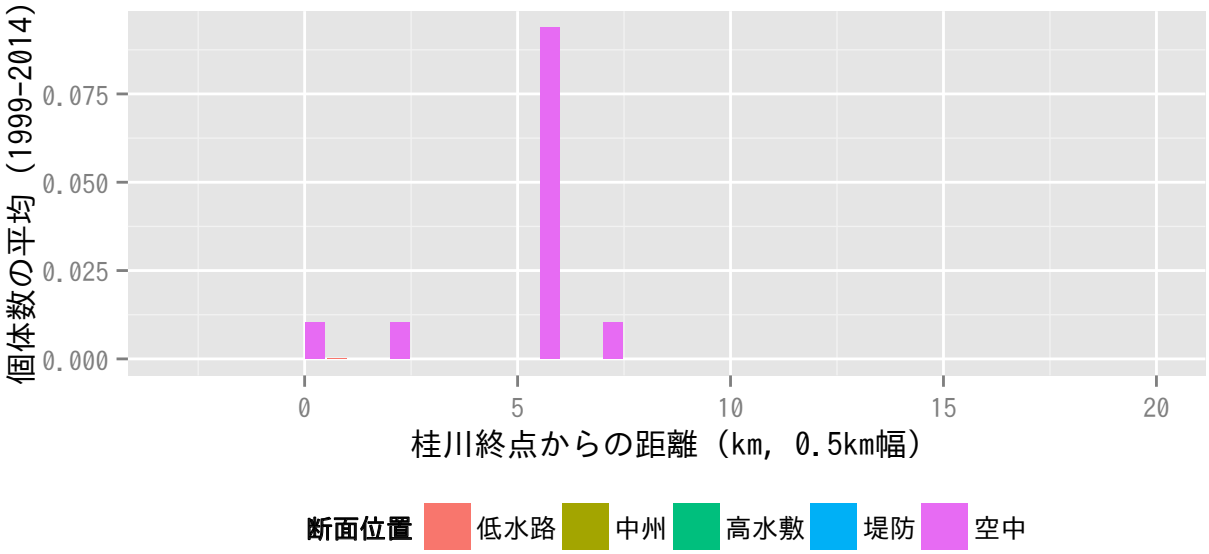
ハリオアマツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

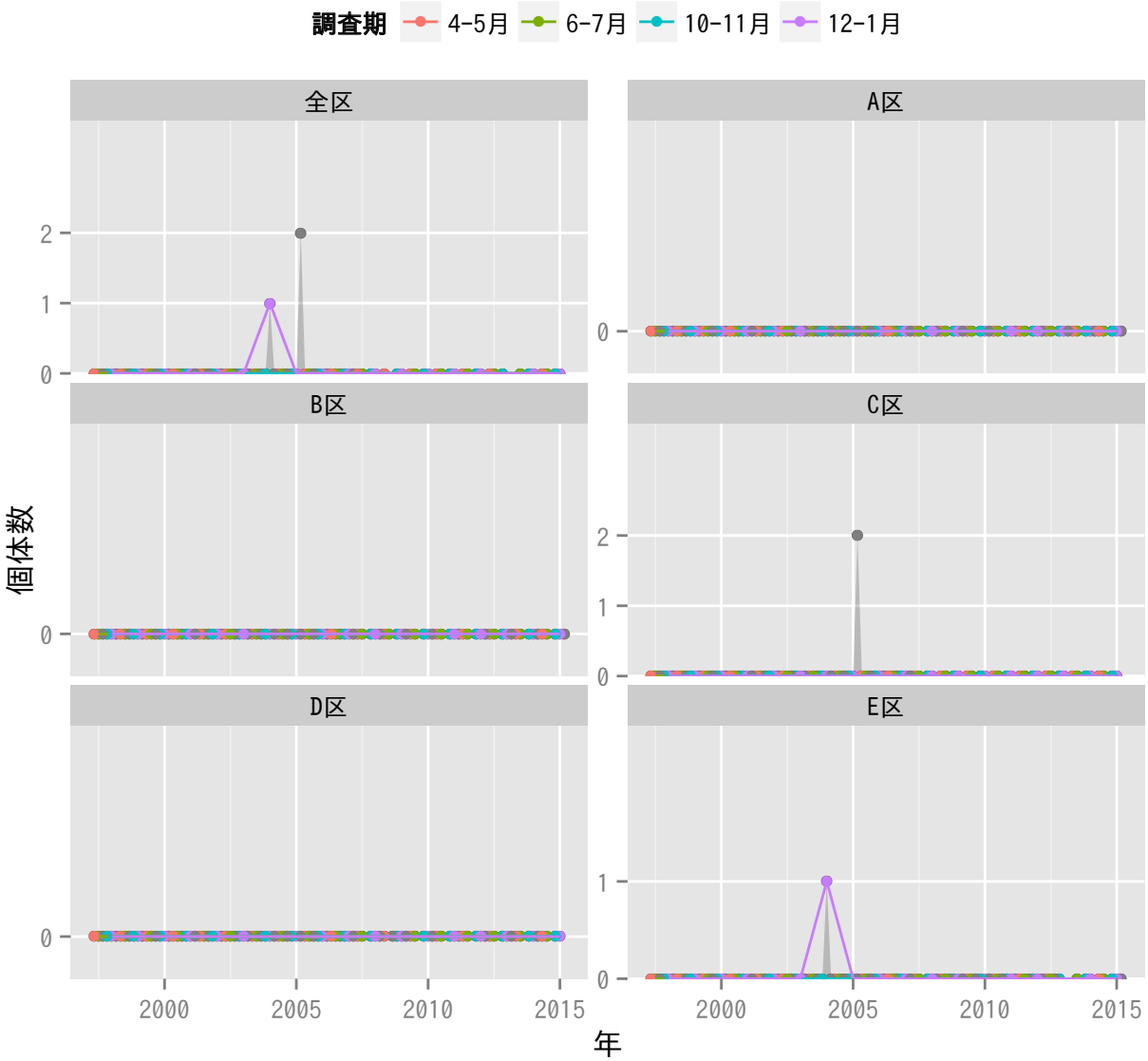

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

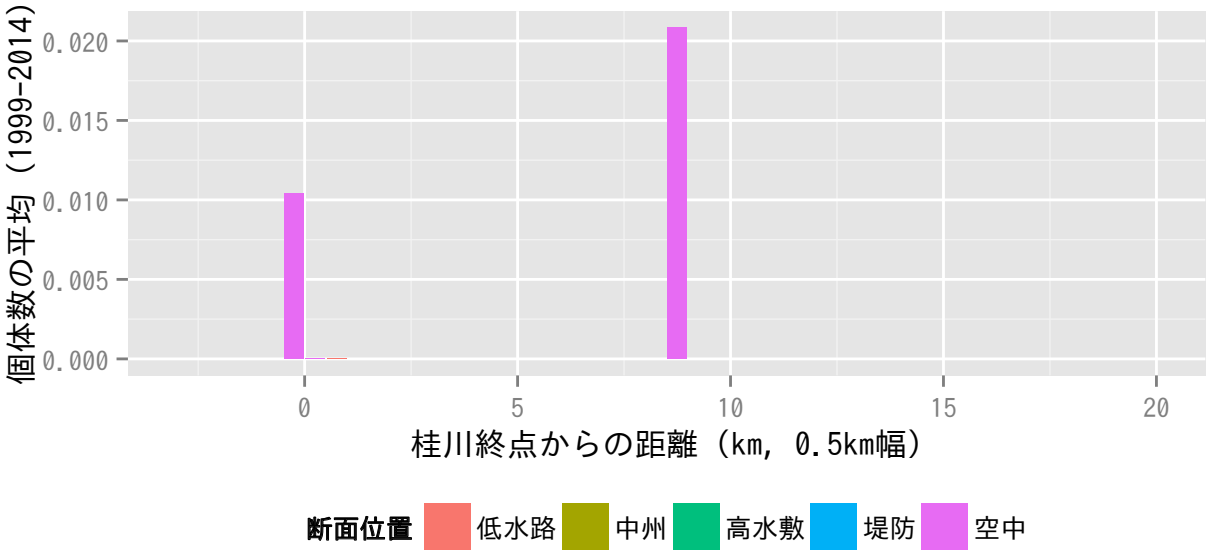
アマツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

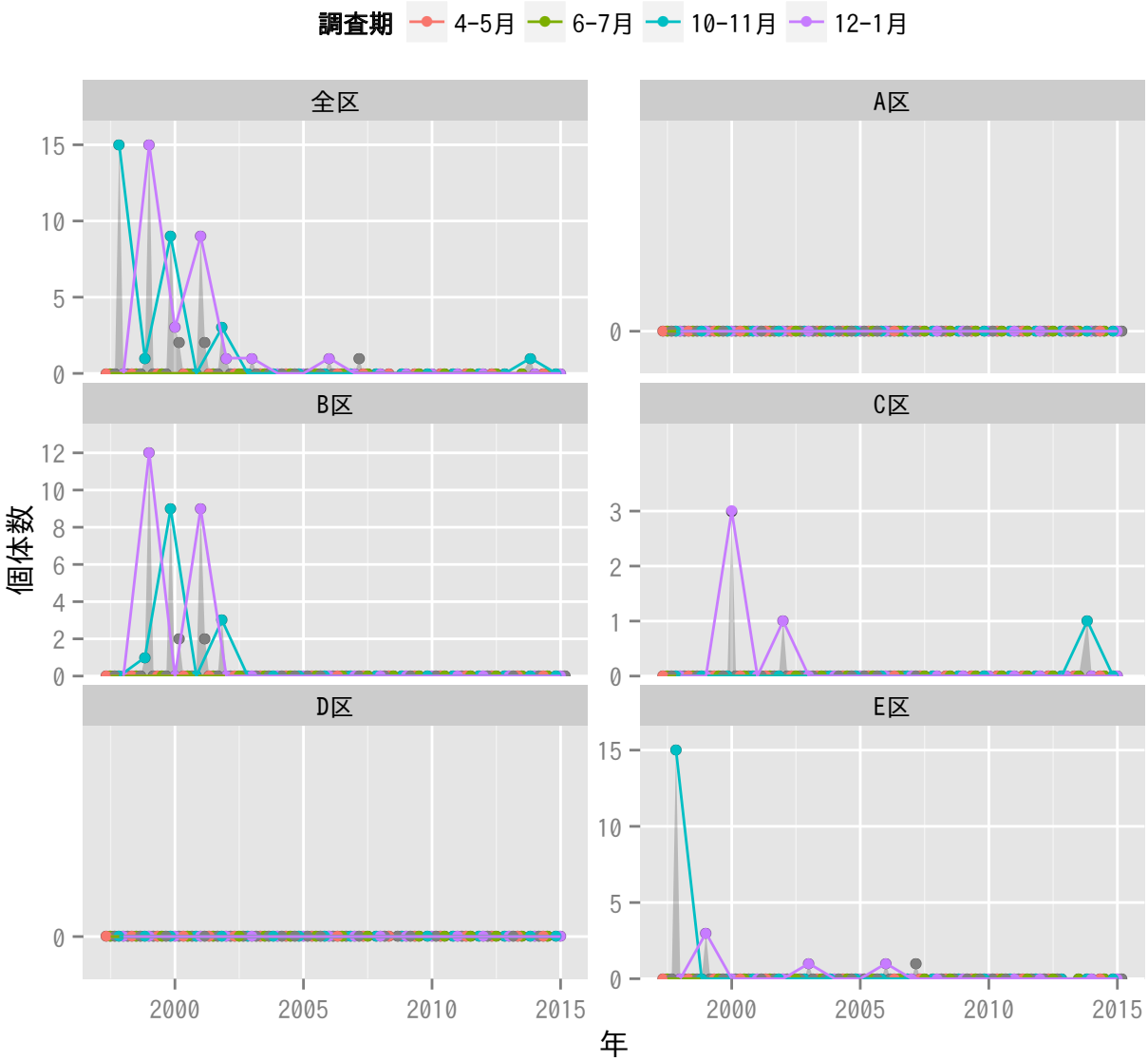

個体数の平均（1999-2014）
0.075
0.050
0.025
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

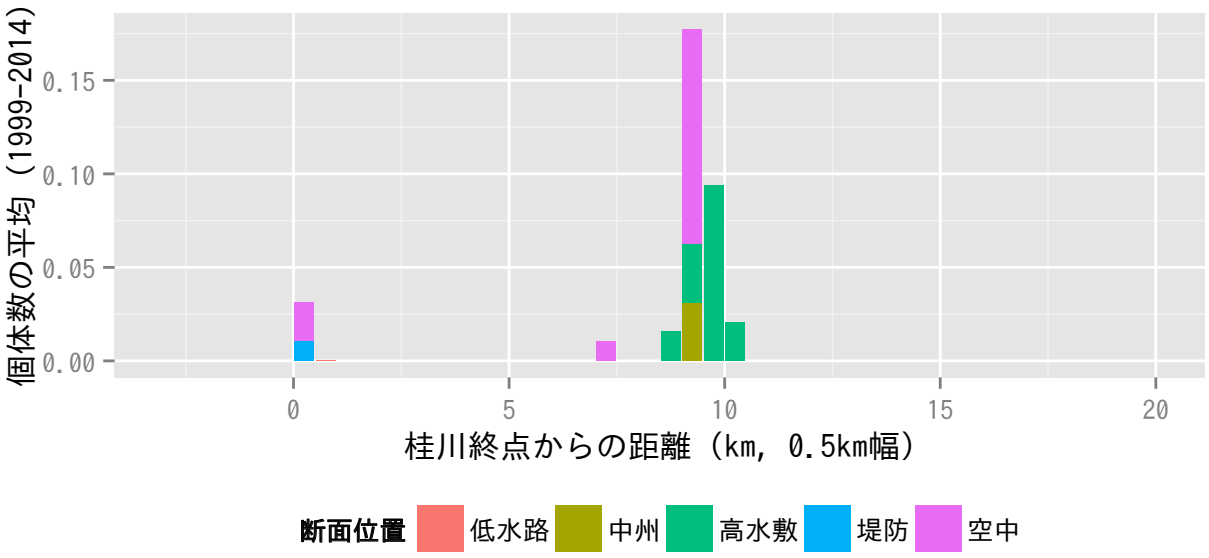
ヒメアマツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

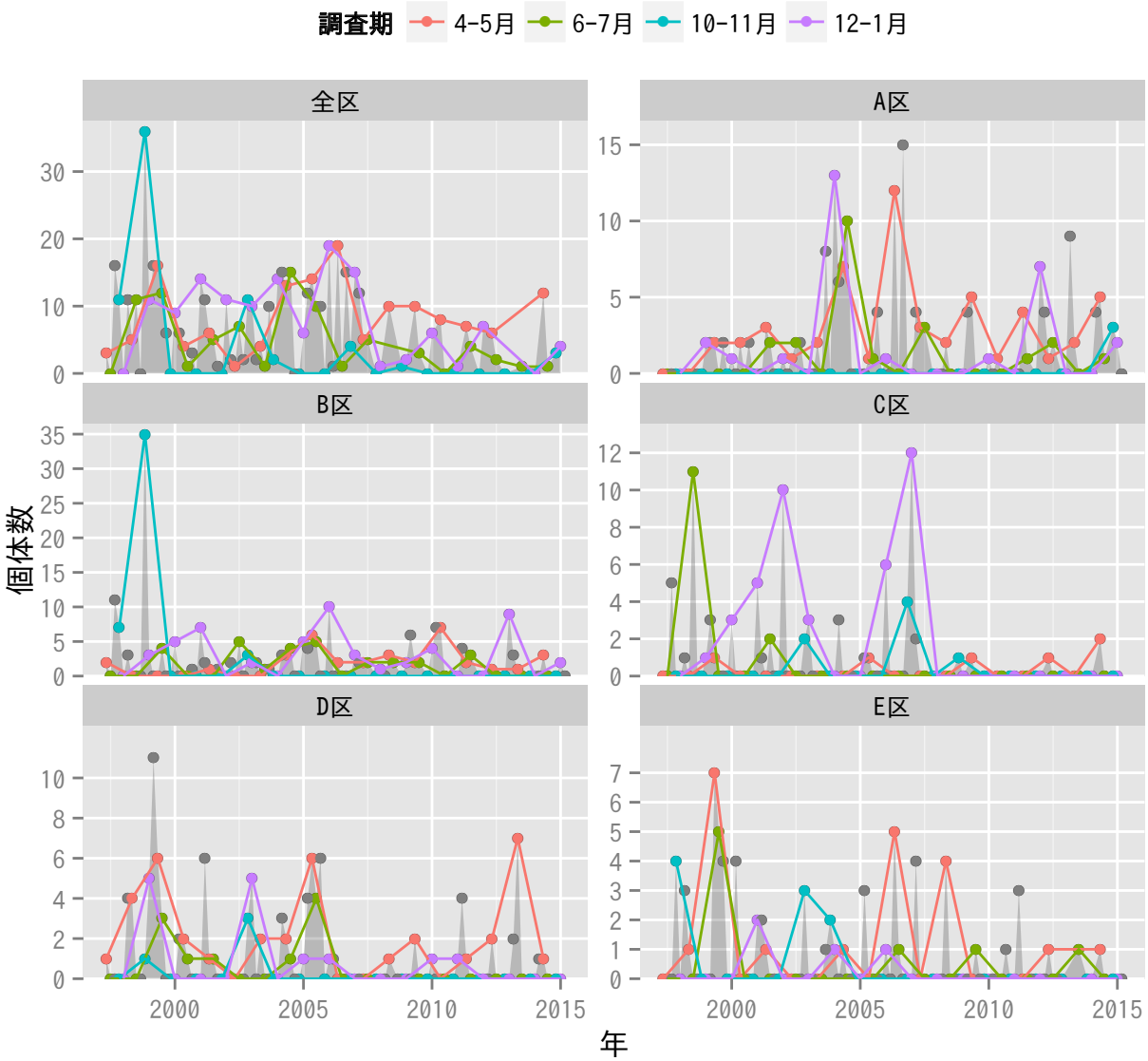

個体数の平均（1999-2014）
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

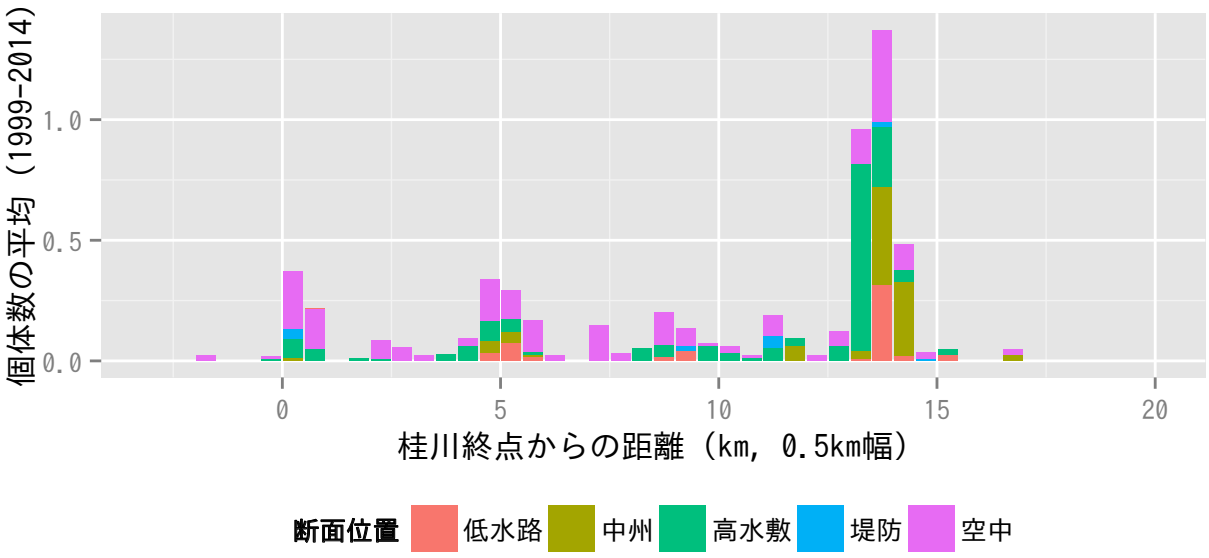
タゲリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

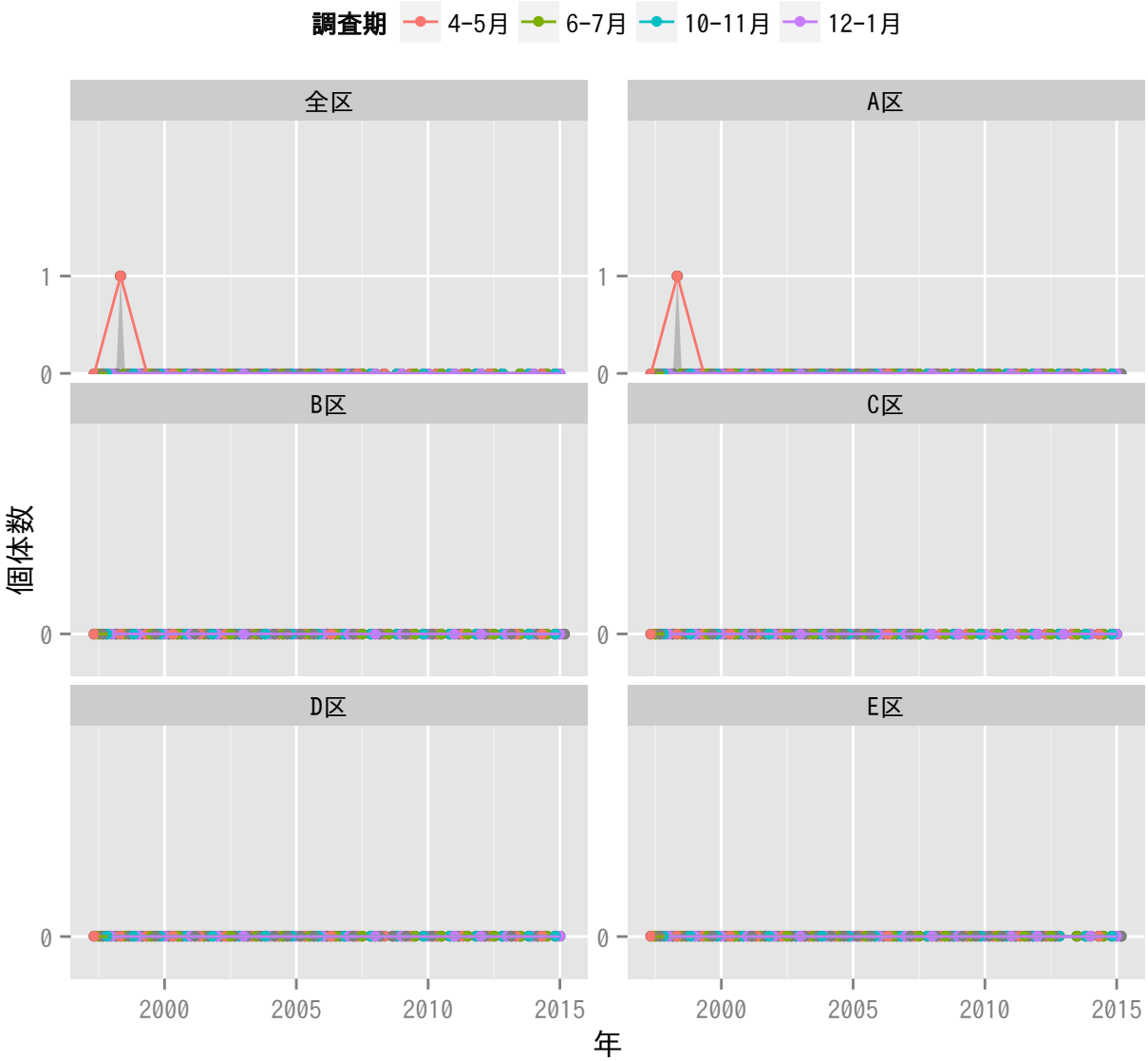

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

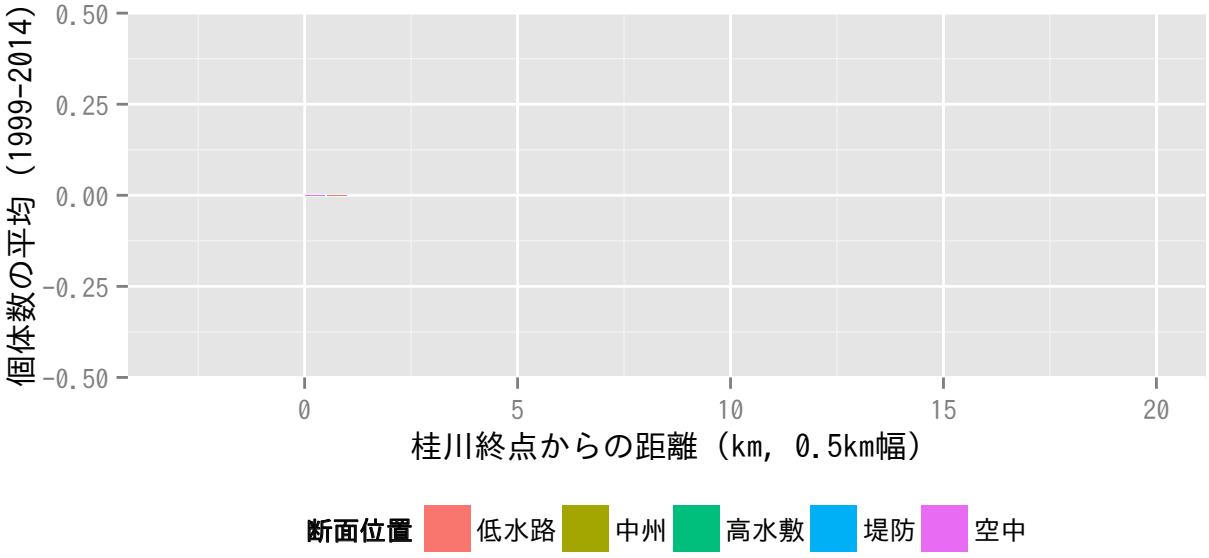
ケリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

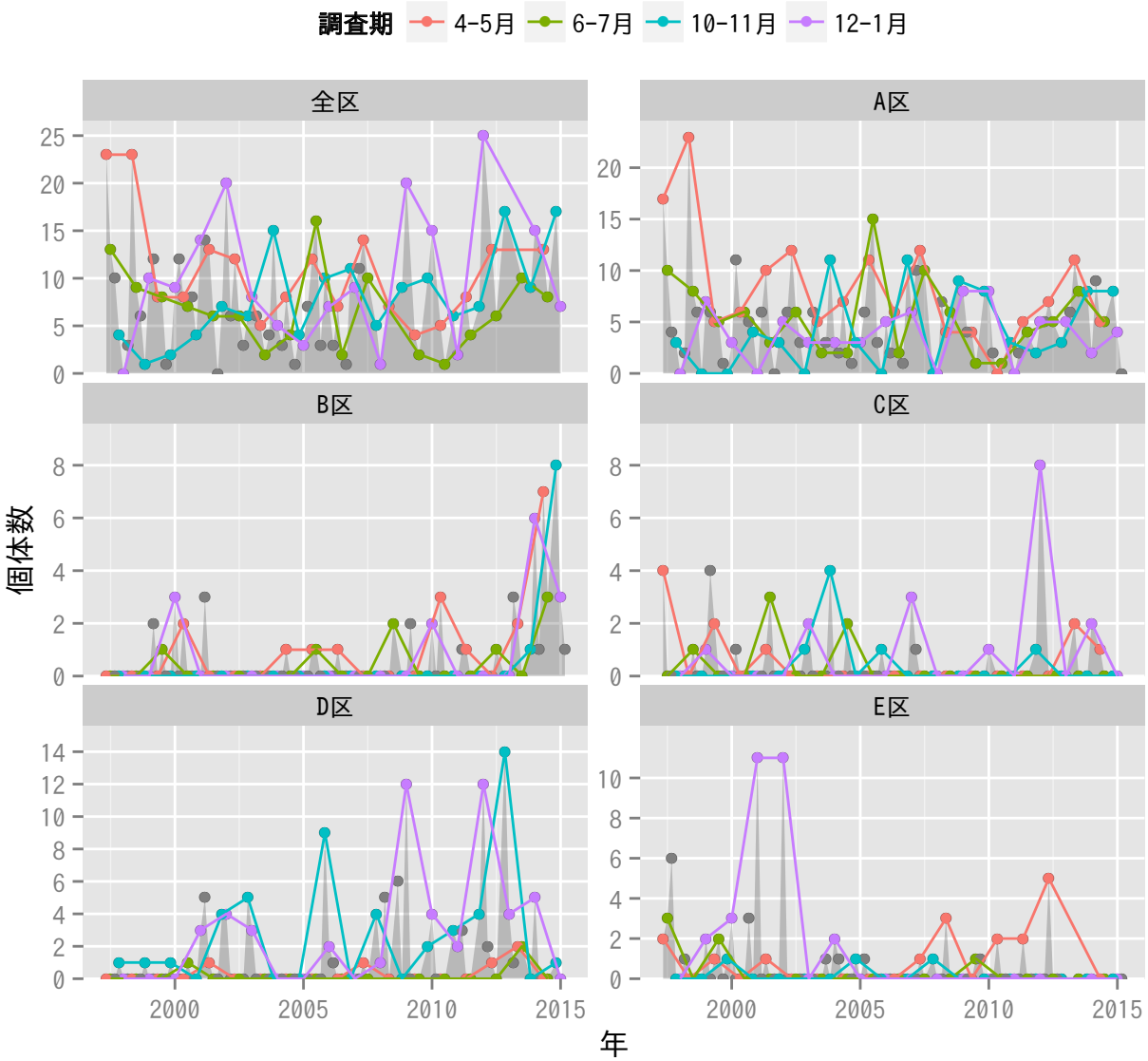

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

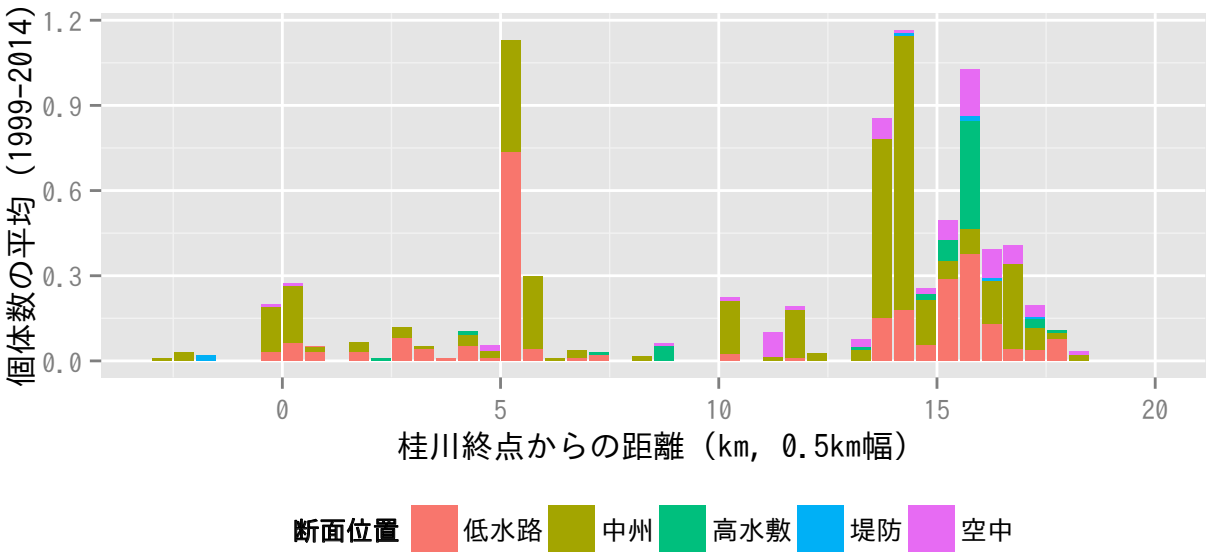
ムナグロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

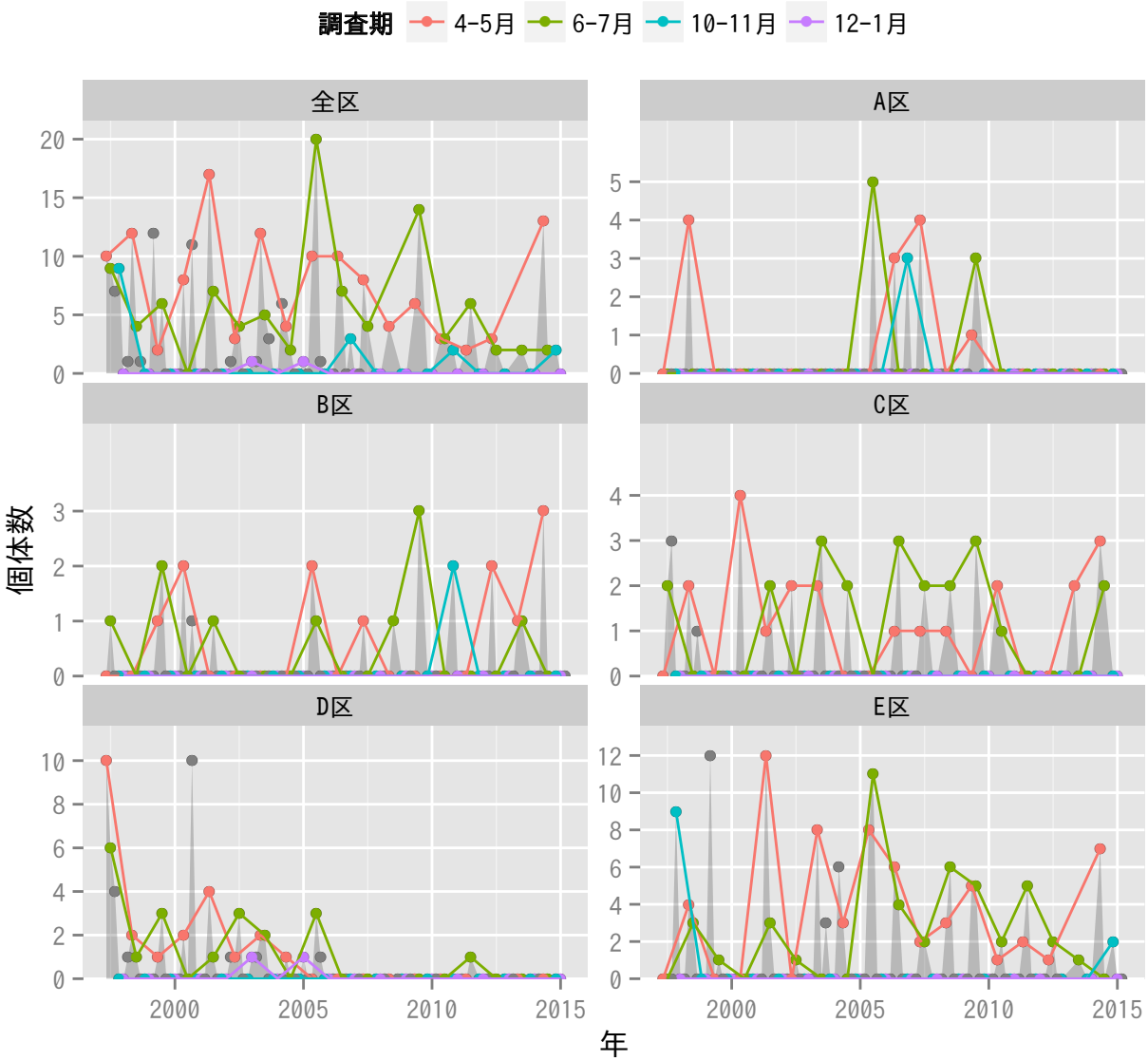

個体数の平均（1999-2014）
0.50
0.25
0.00
-0.25
-0.50
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

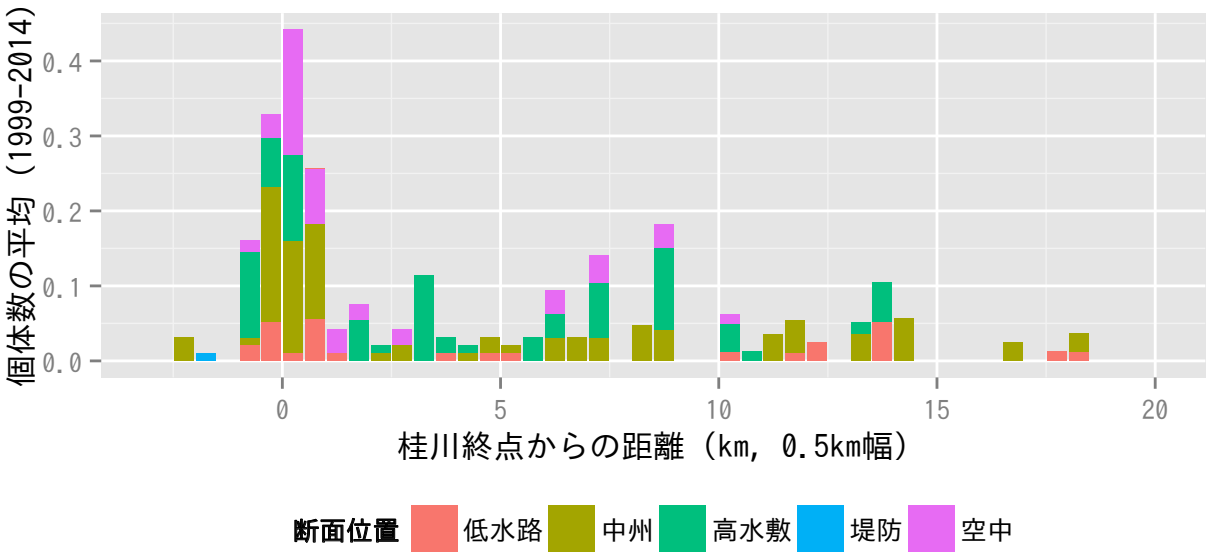
イカルチドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

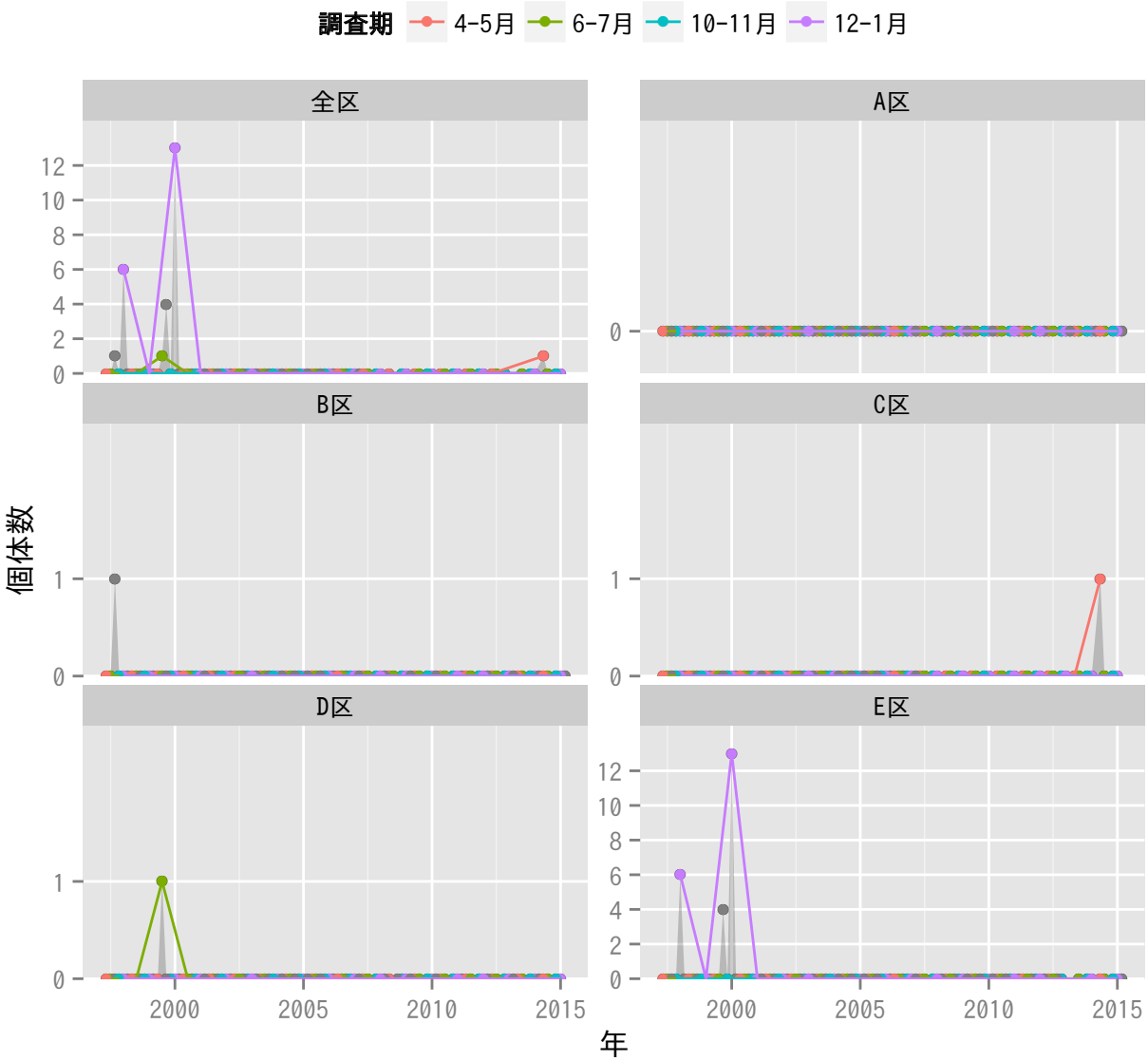

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

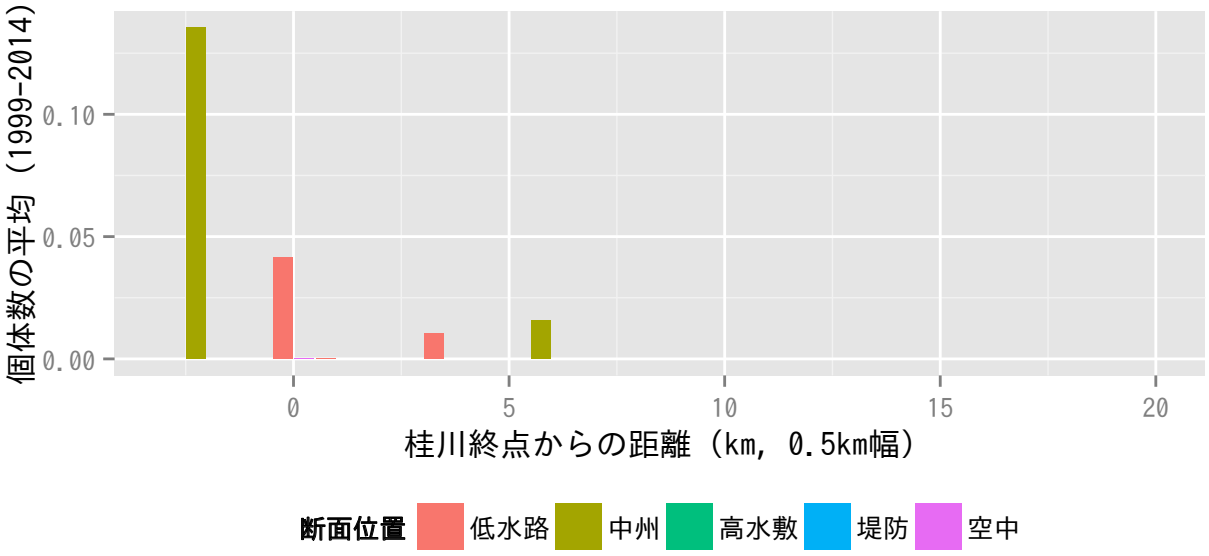
コチドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

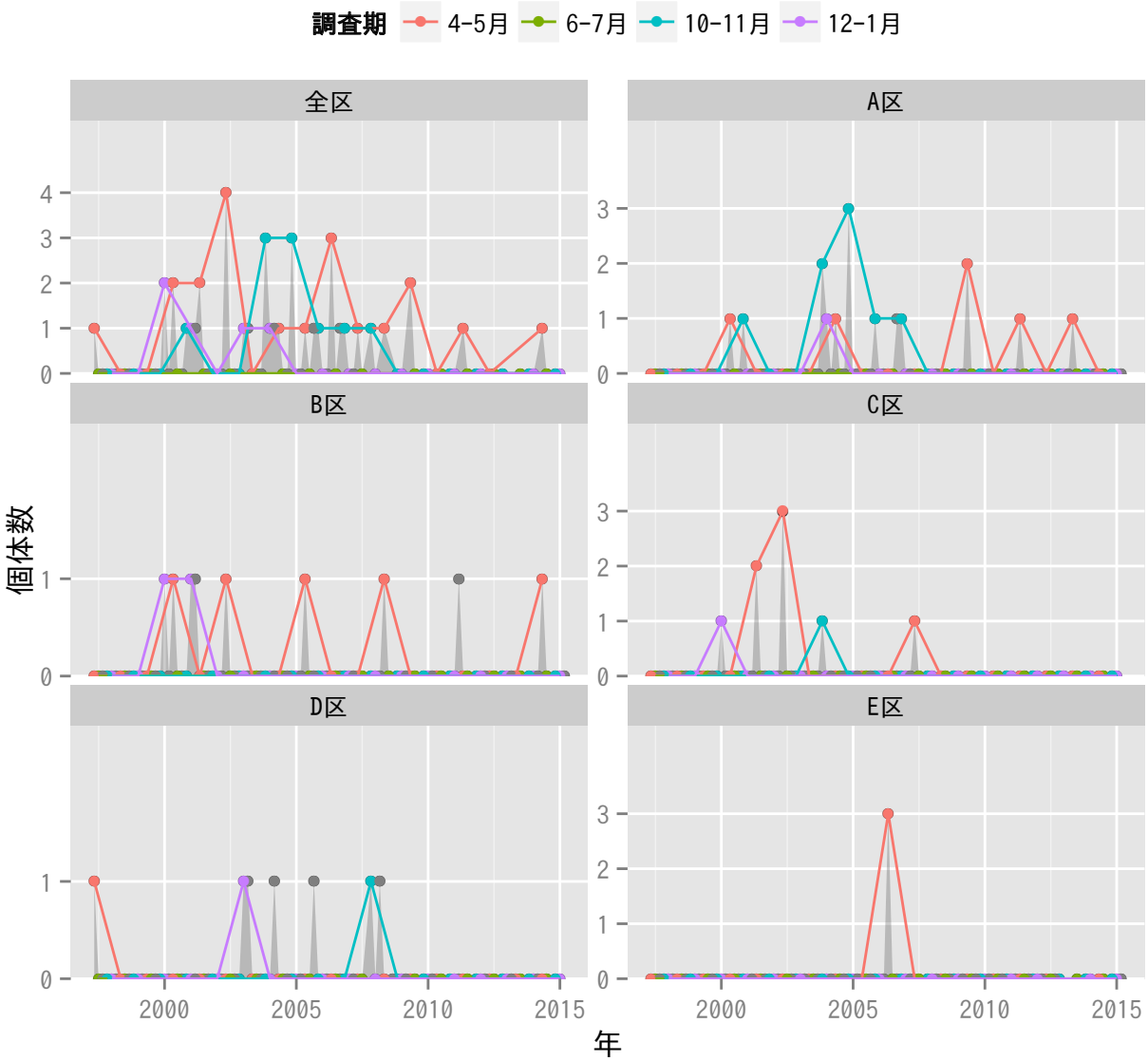

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

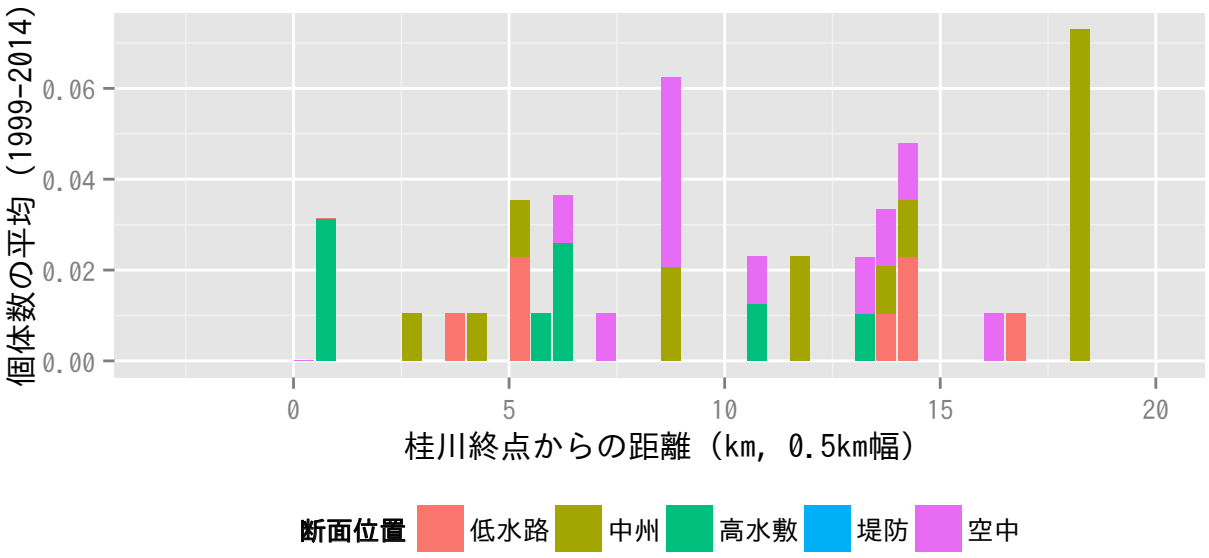
シロチドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

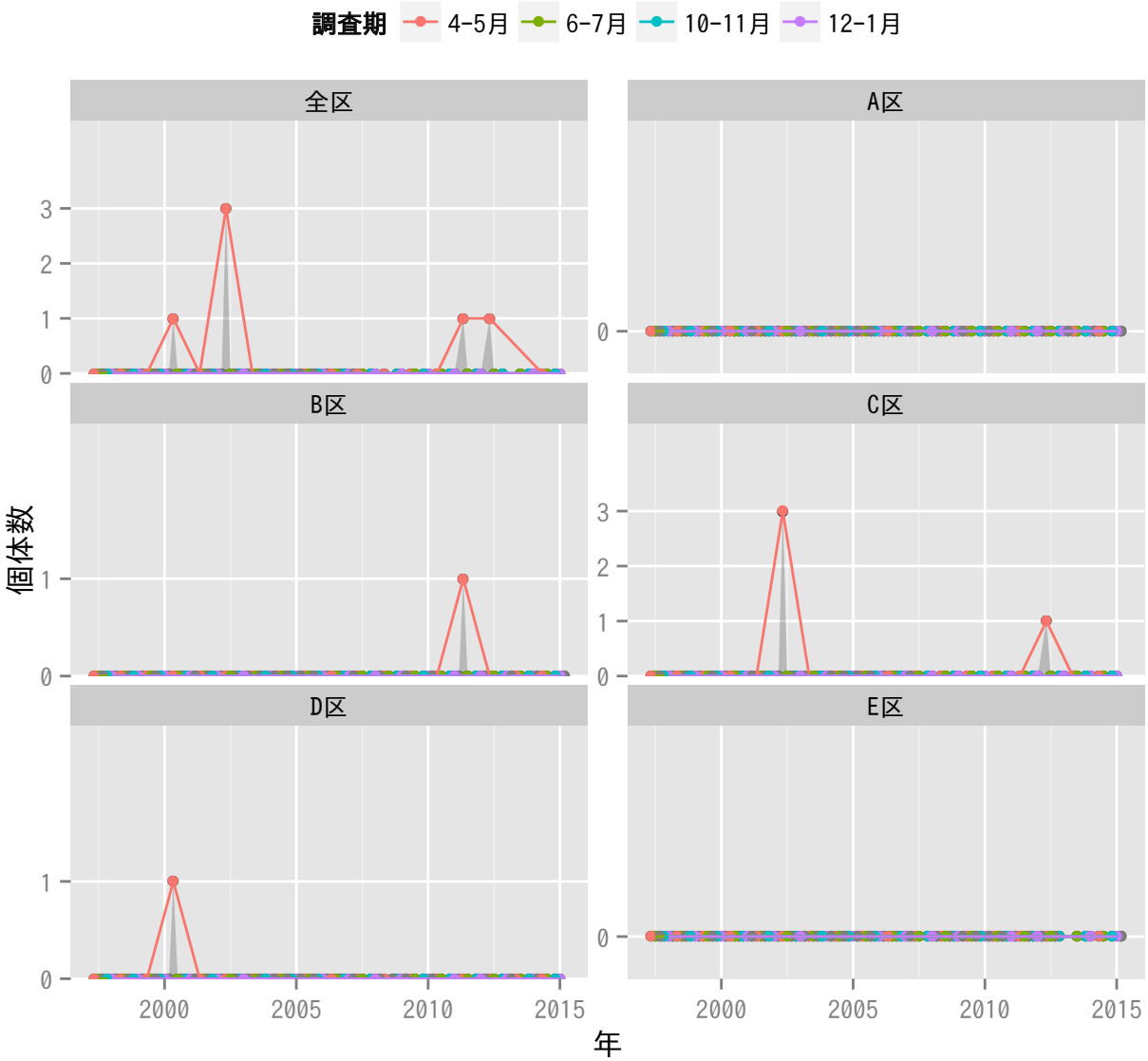

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

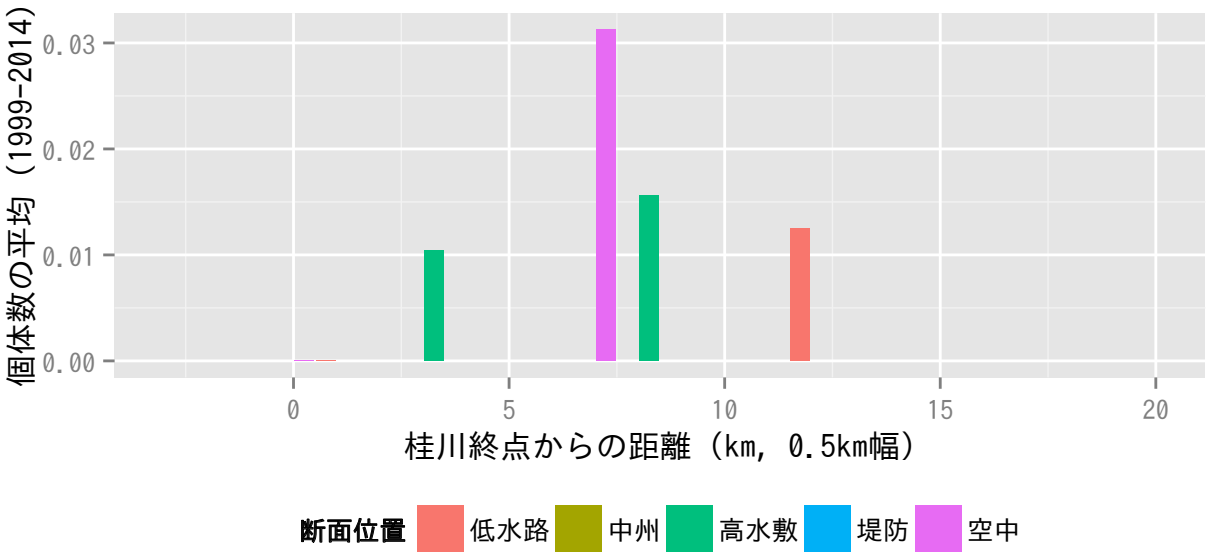
タシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

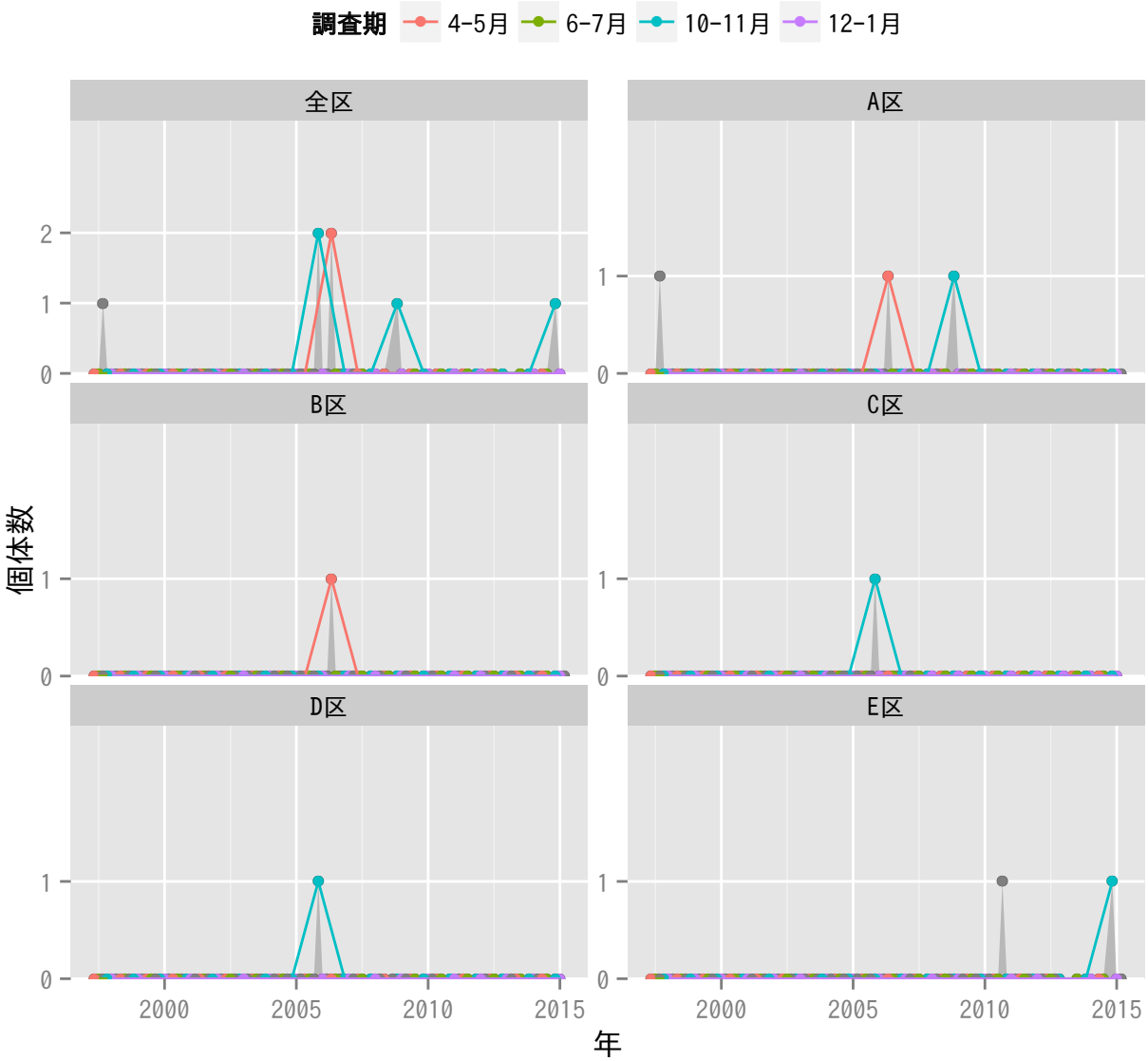

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

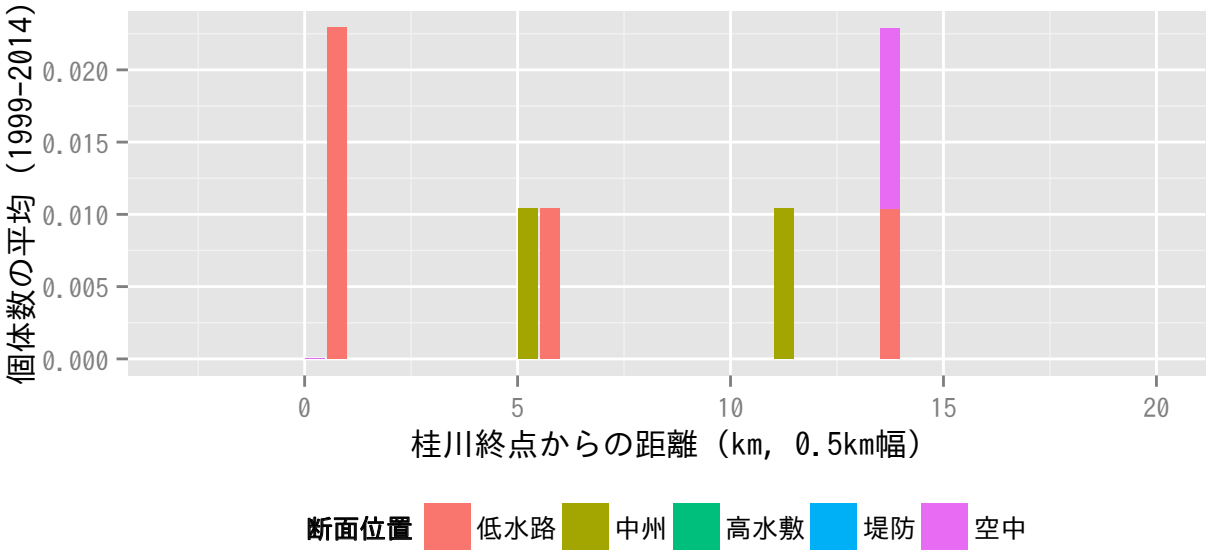
チュウシャクシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2
3
2000
2005
2010
2015

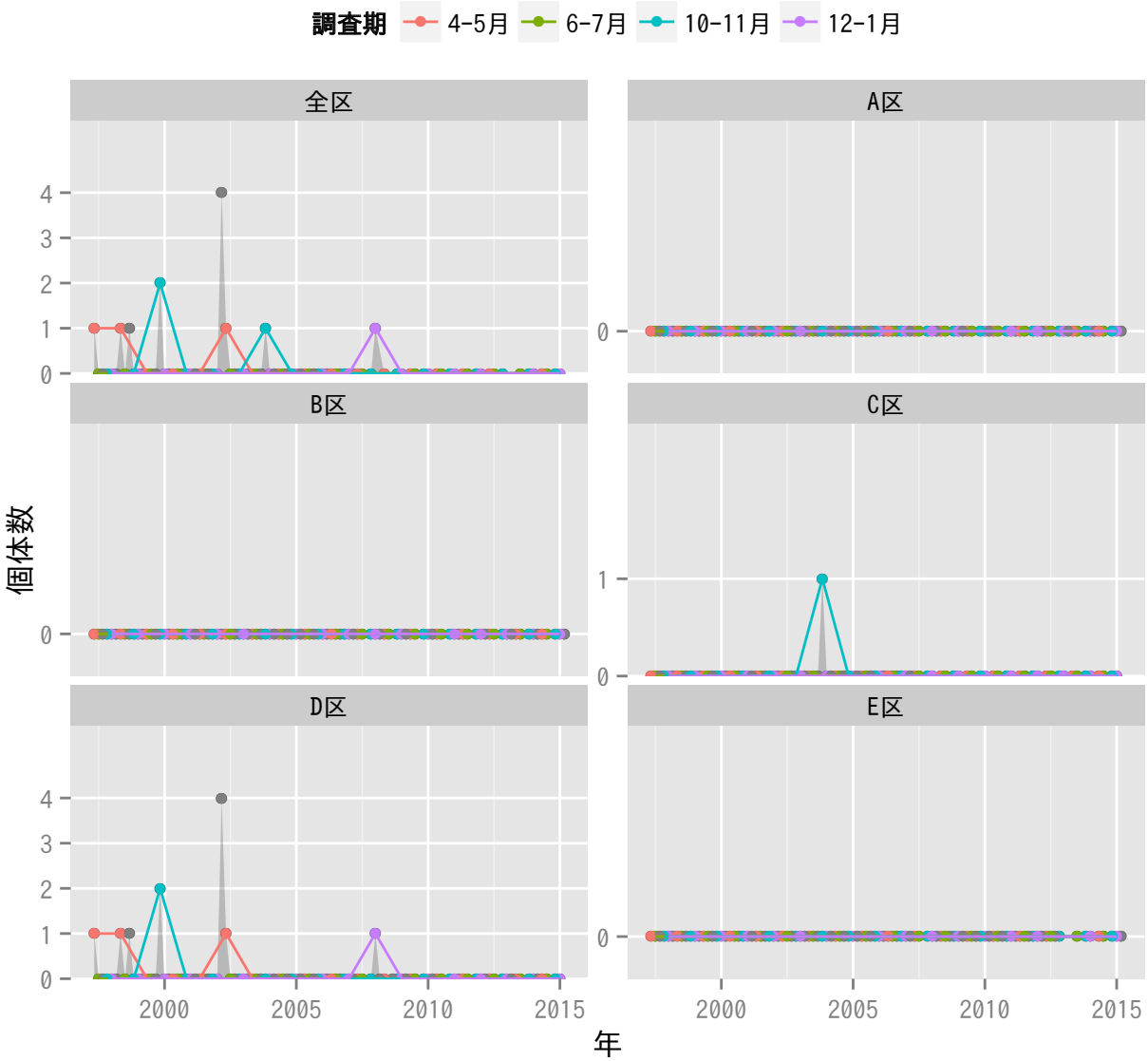

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0.03
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

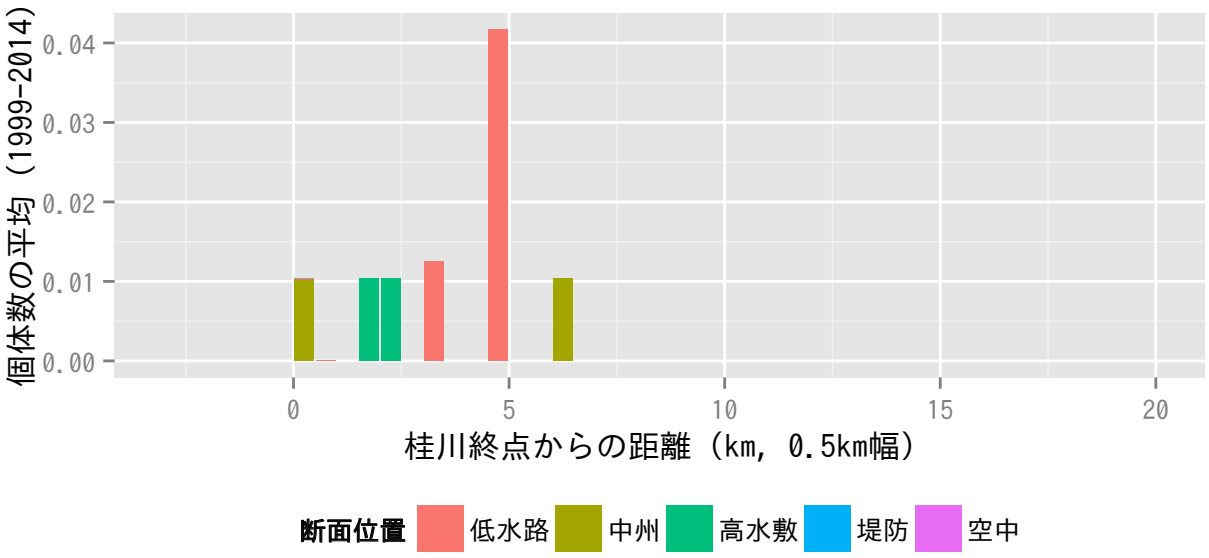
アオアシシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

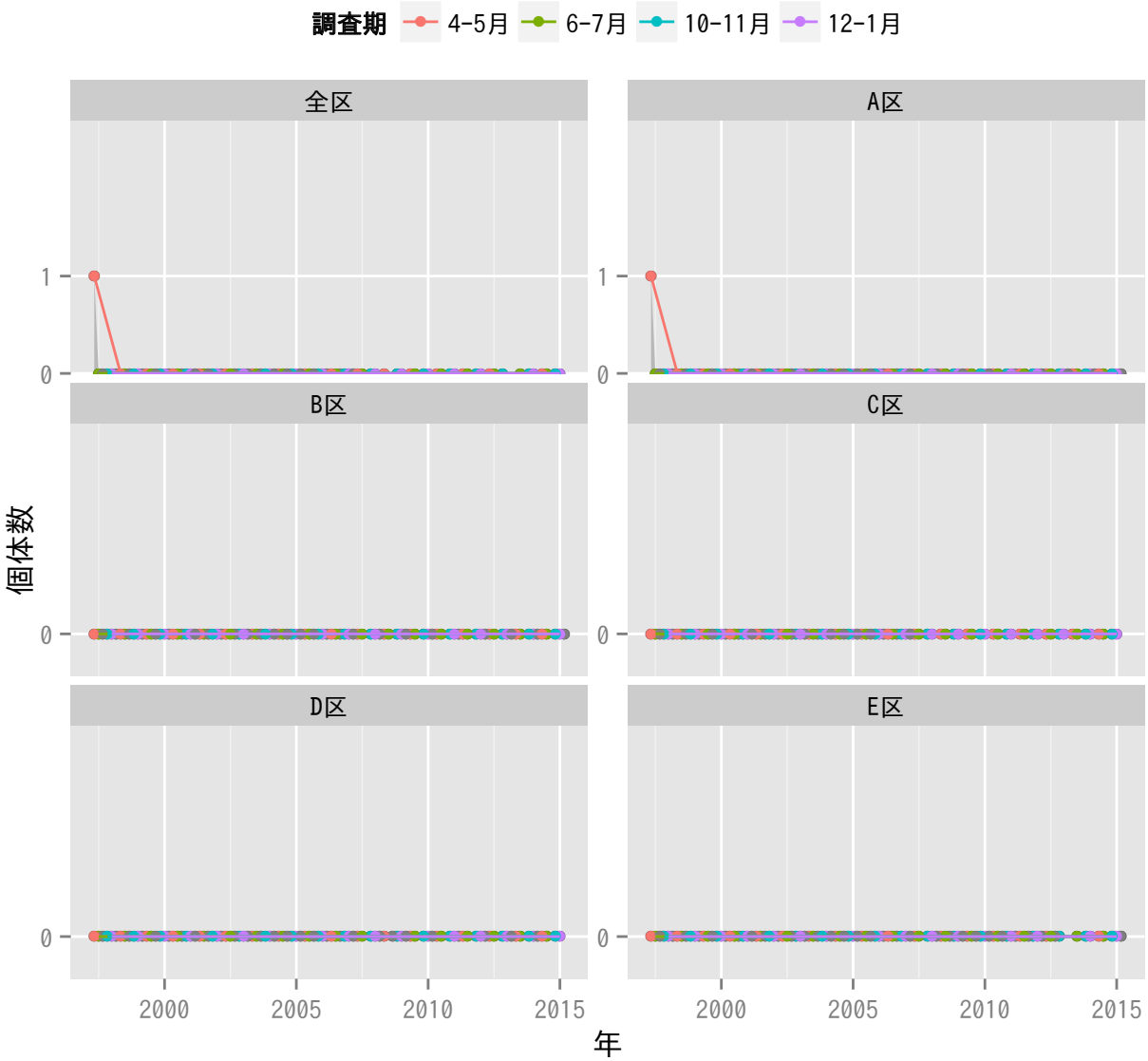

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

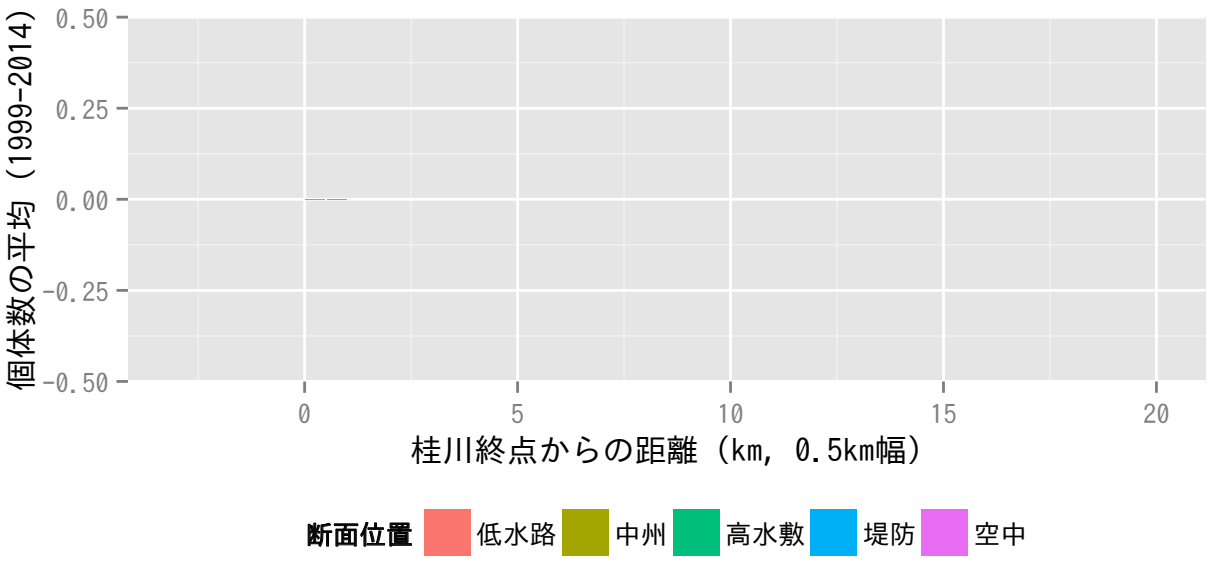
クサシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2
3
4
2000
2005
2010
2015

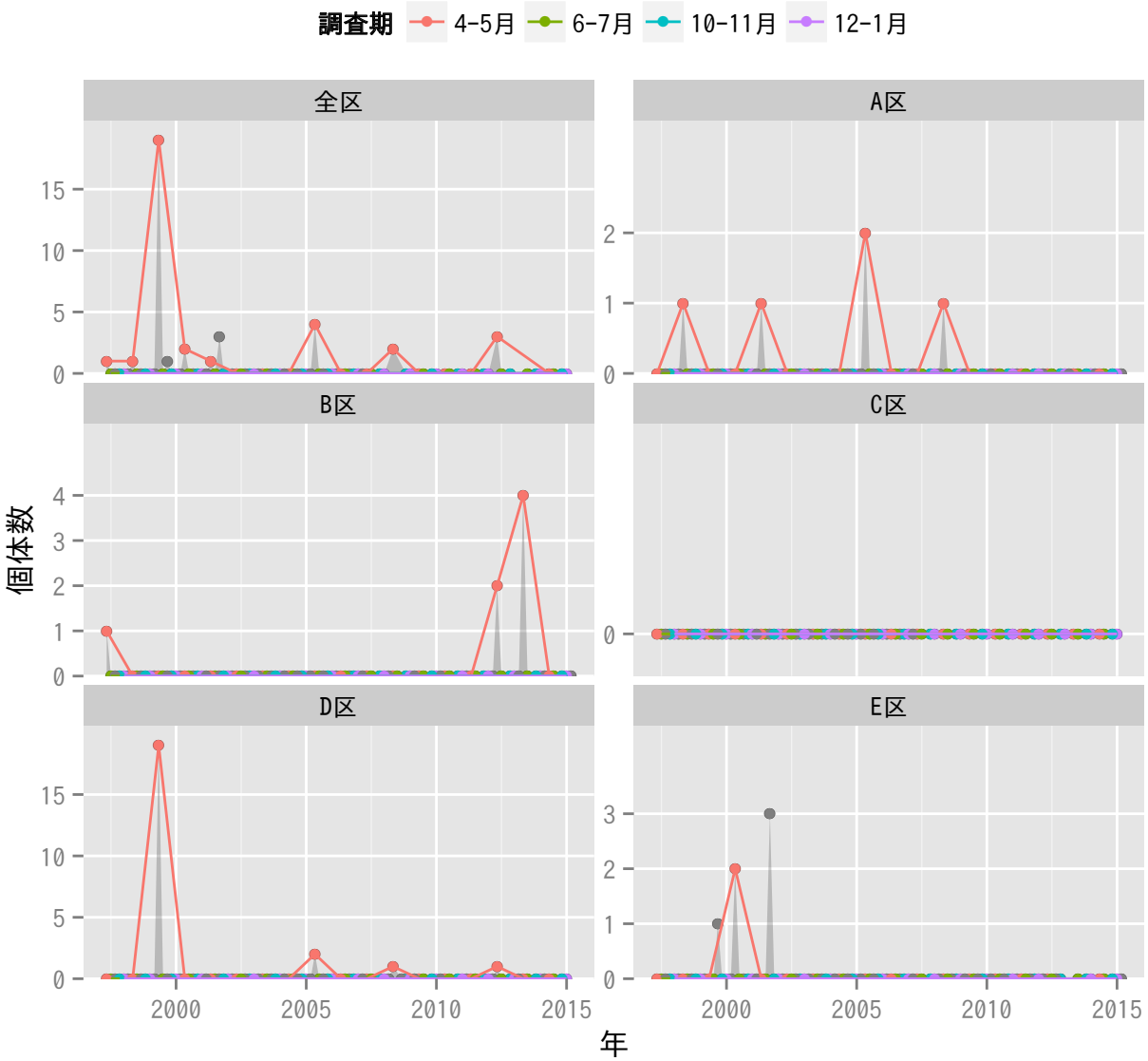

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0.03
0.04
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

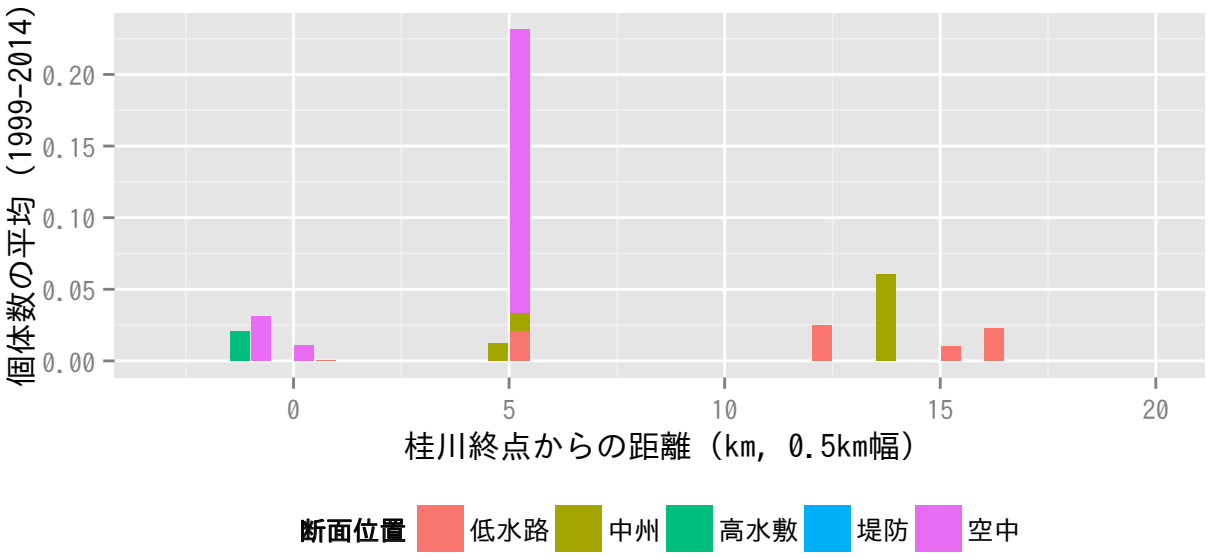
タカブシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

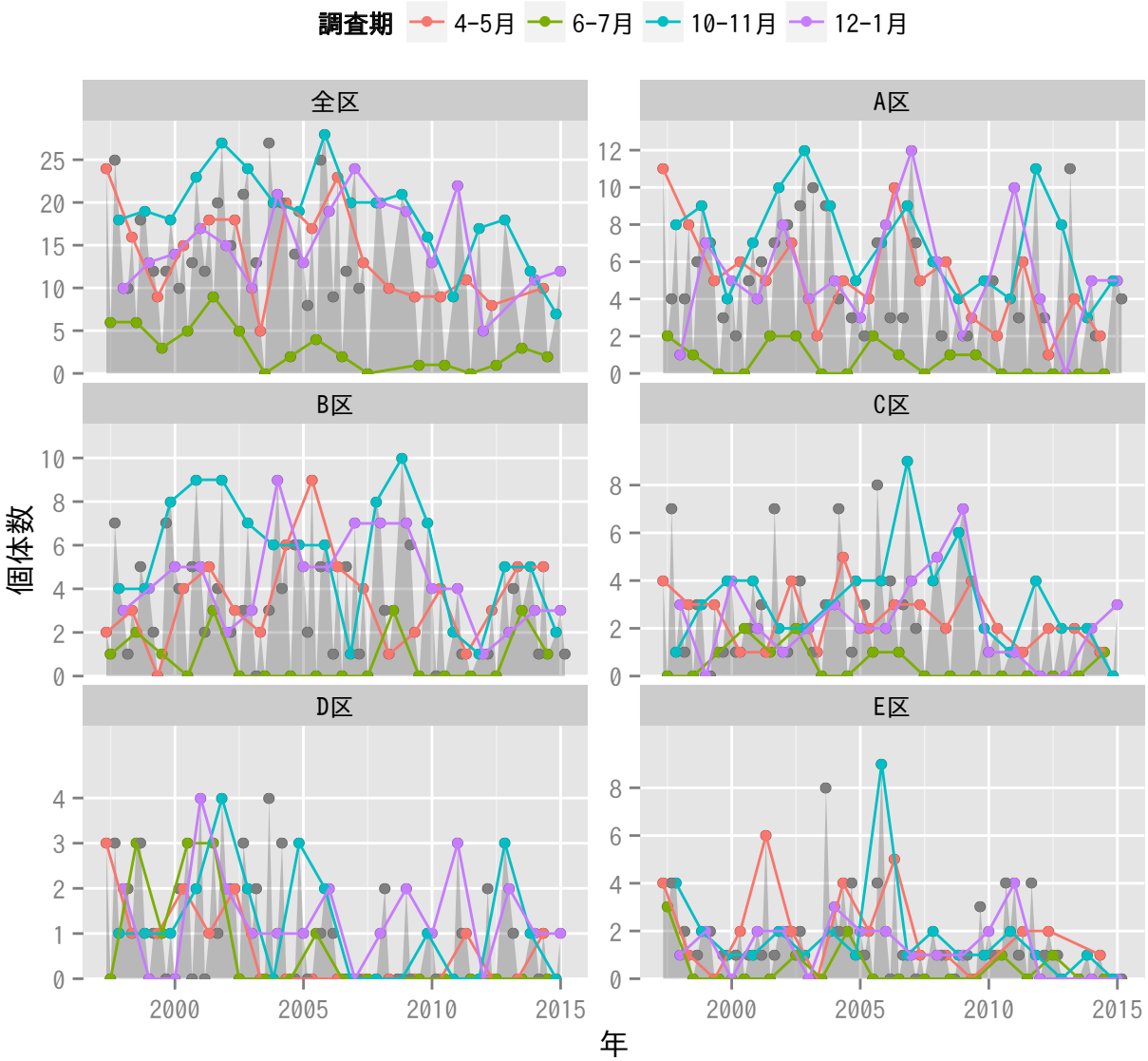

個体数の平均（1999-2014）
0.50
0.25
0.00
-0.25
-0.50
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

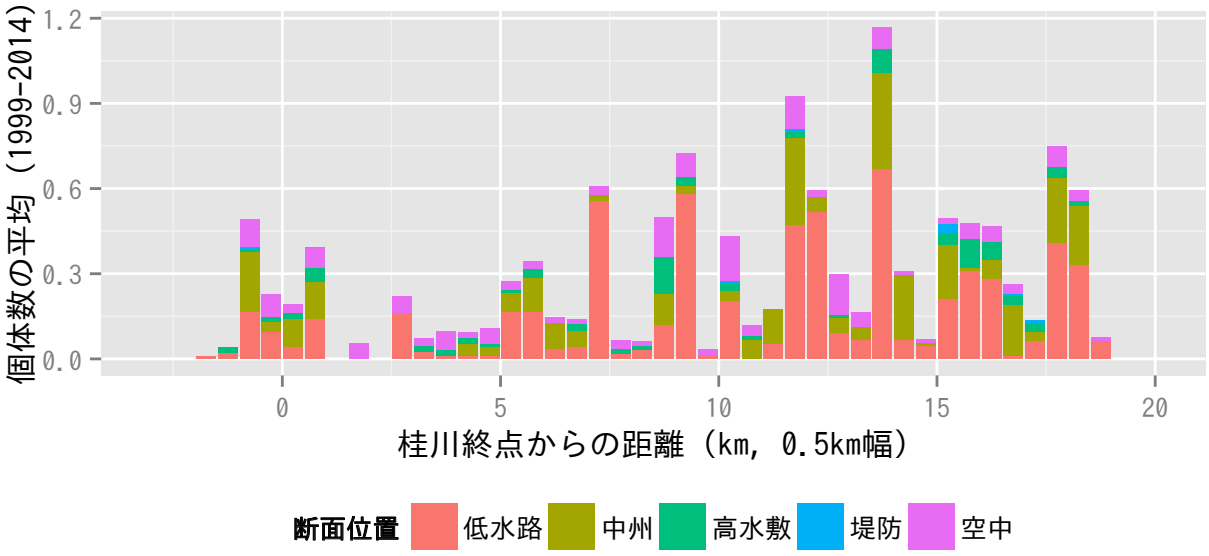
キアシシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

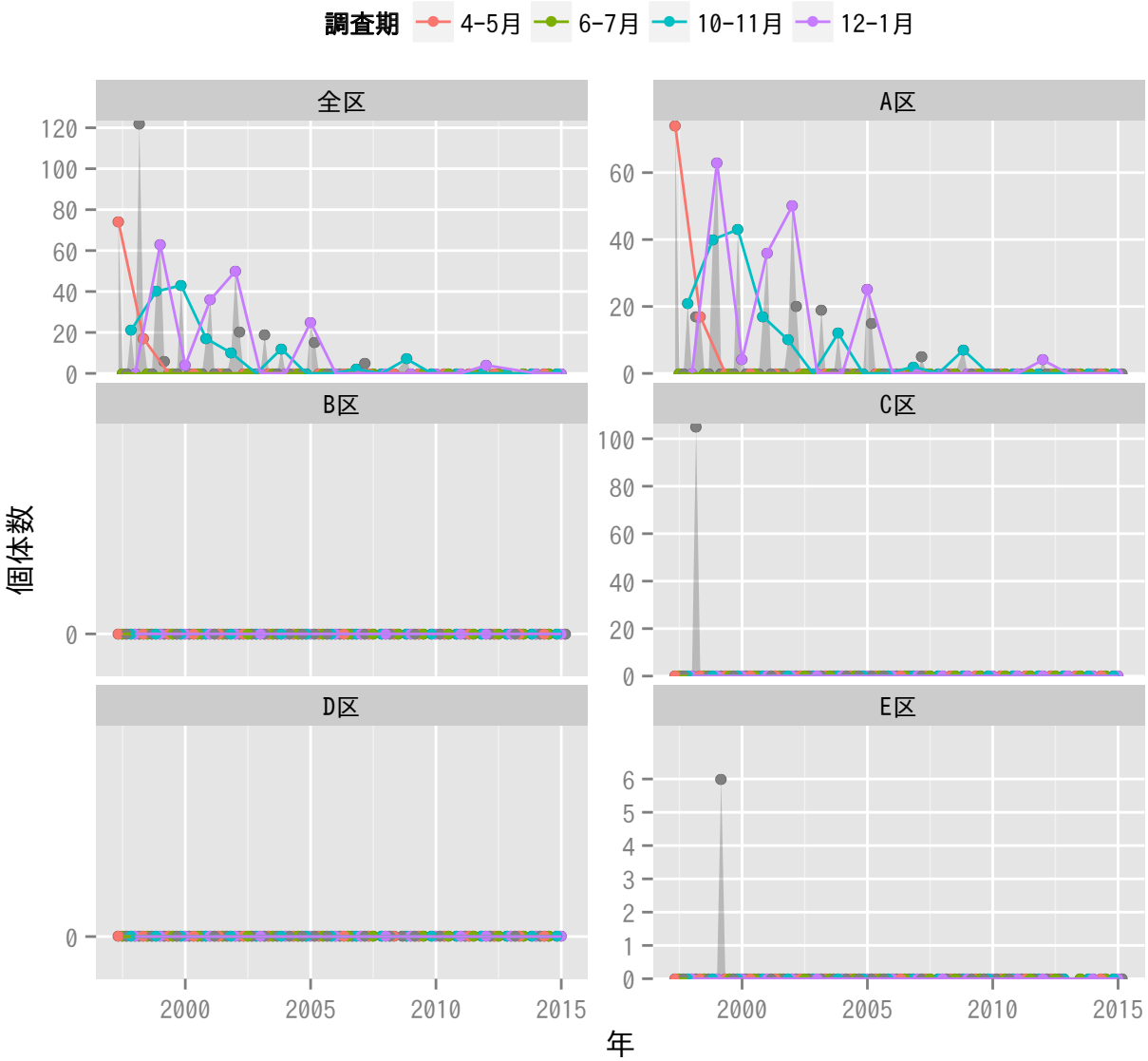

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

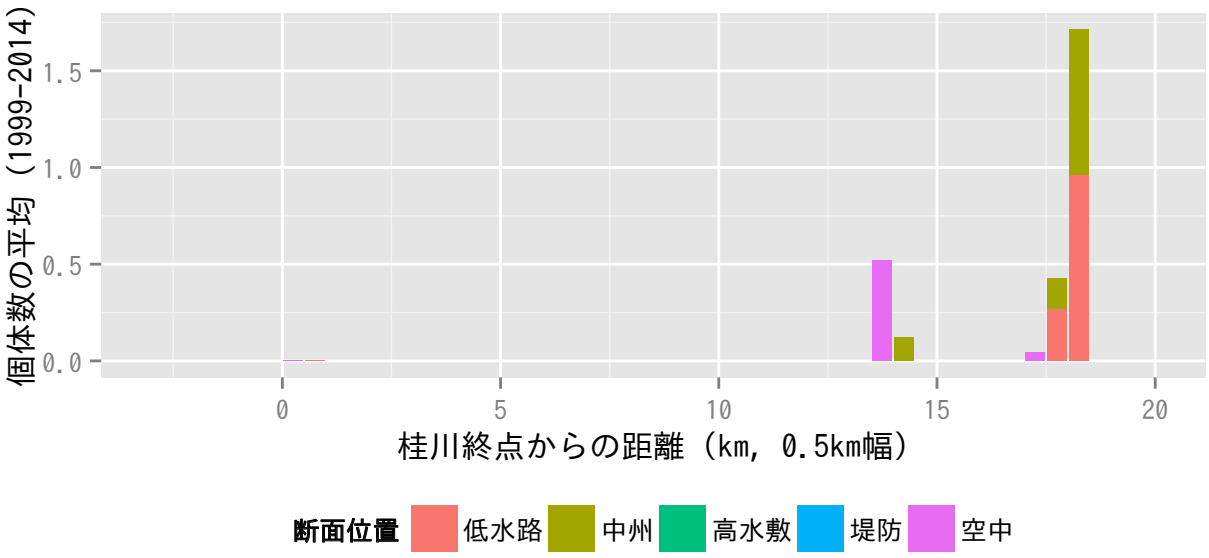
イソシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

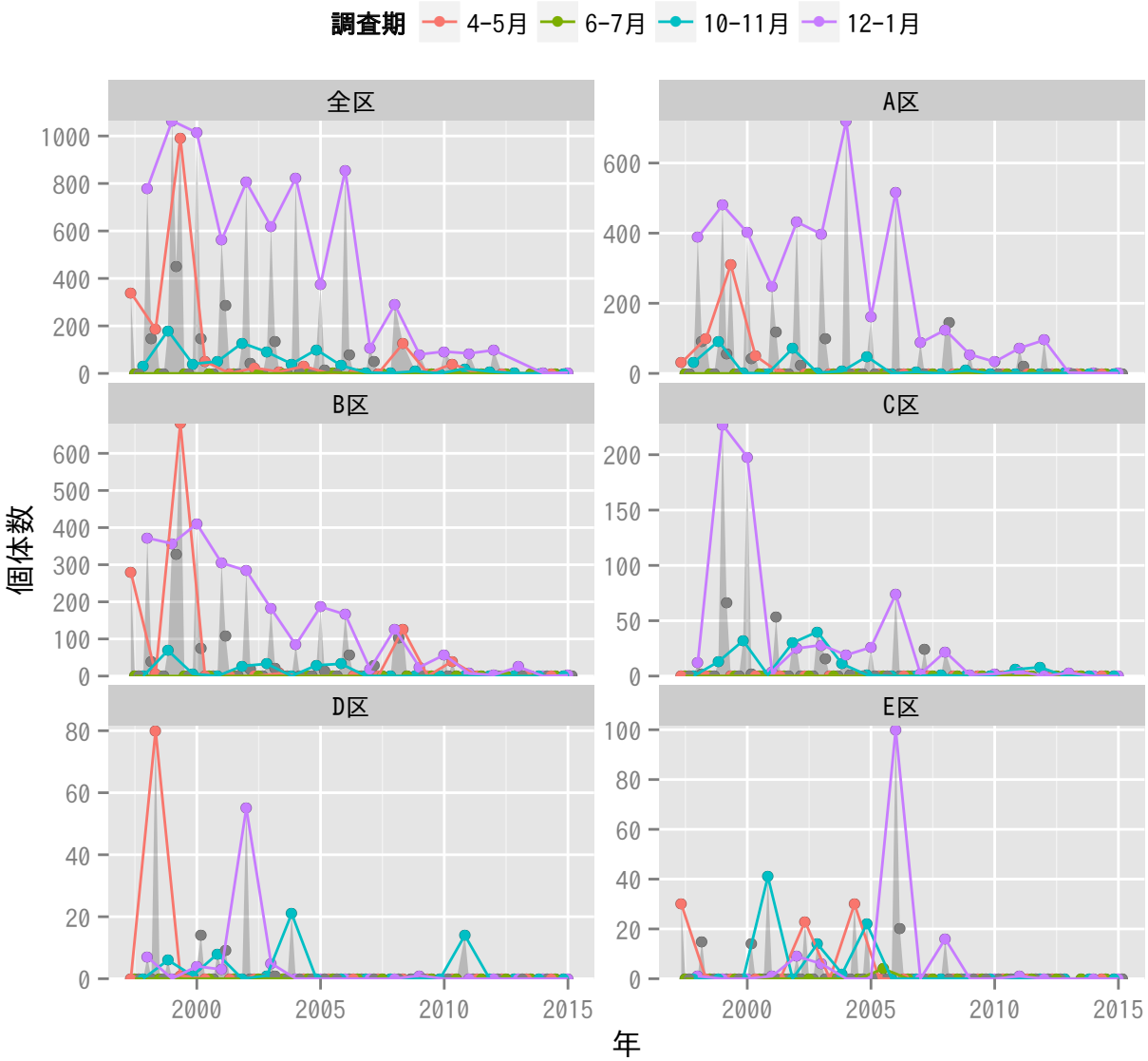

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

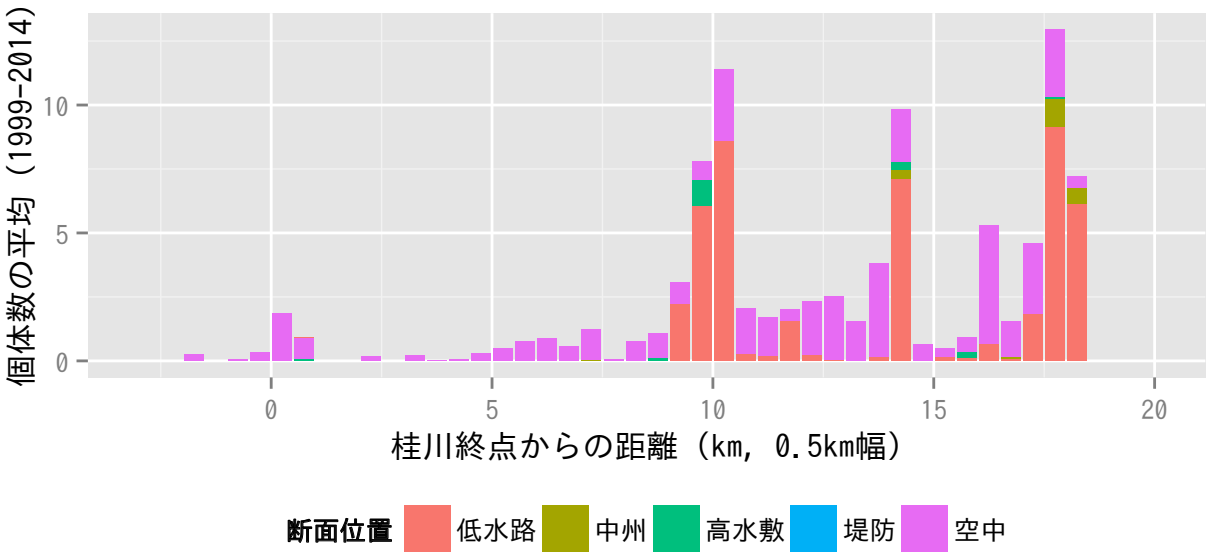
ハマシギ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

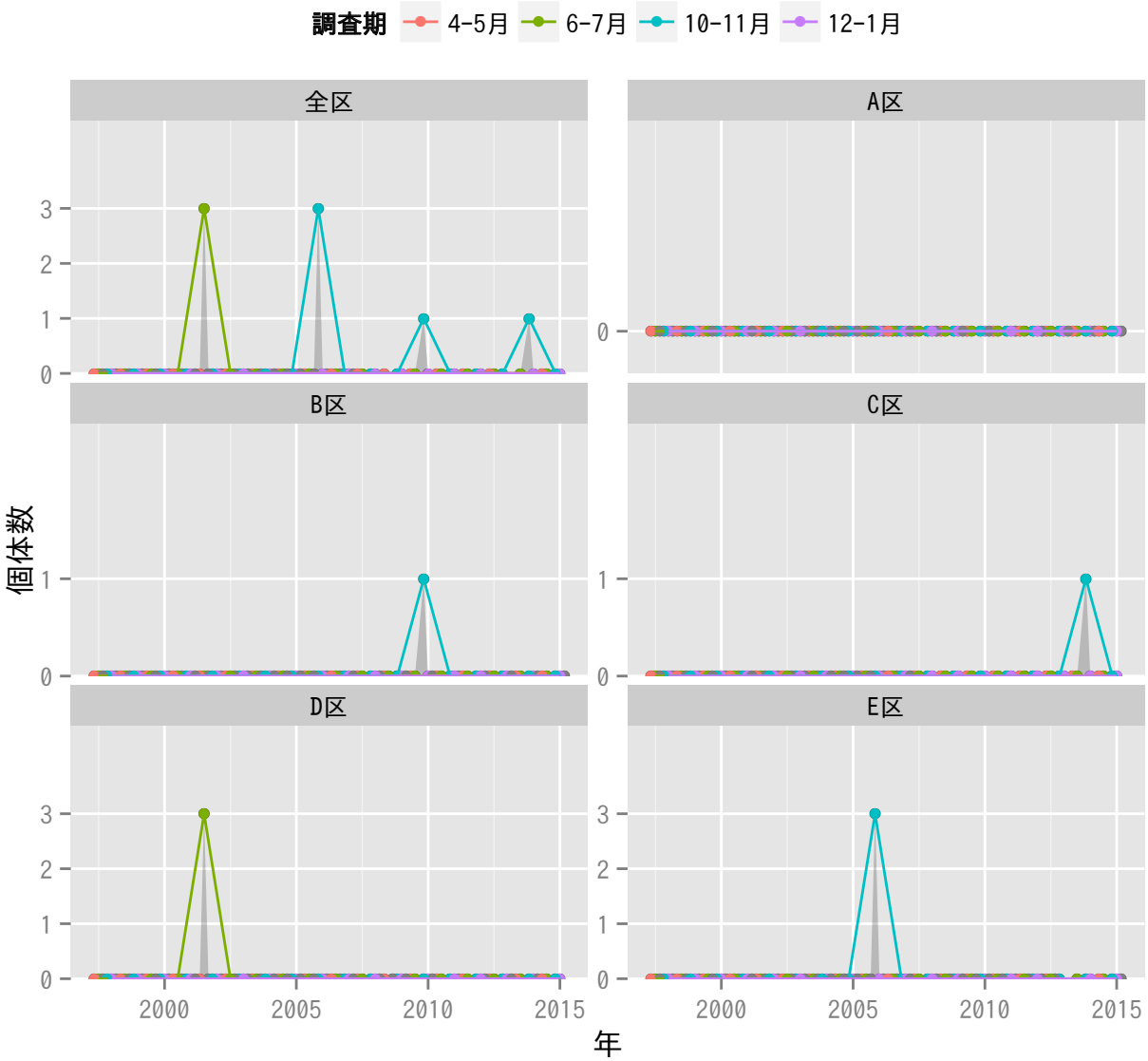

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

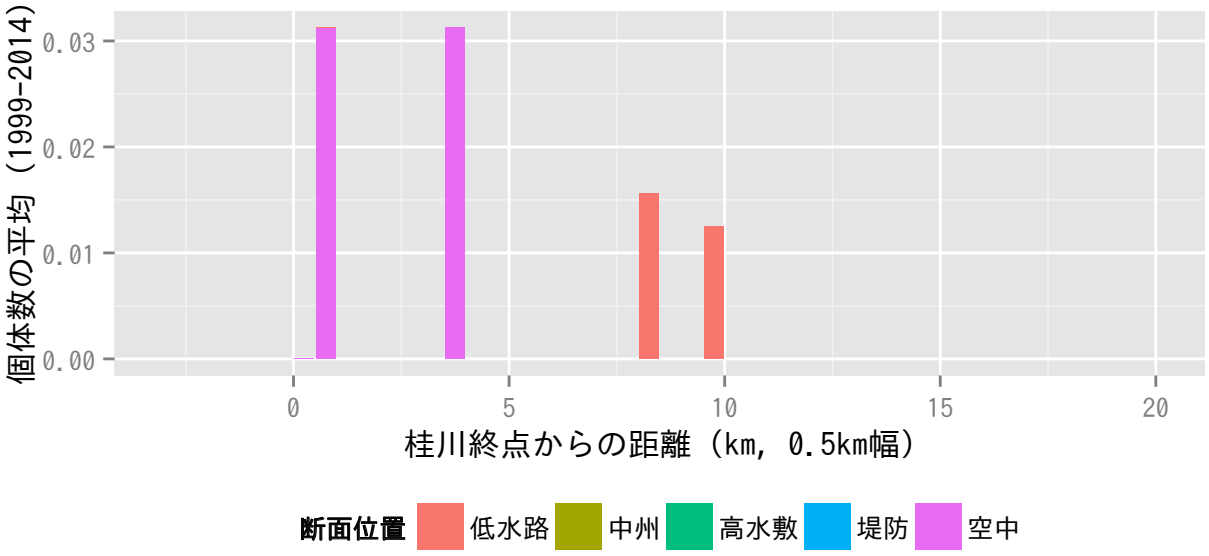
ユリカモメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

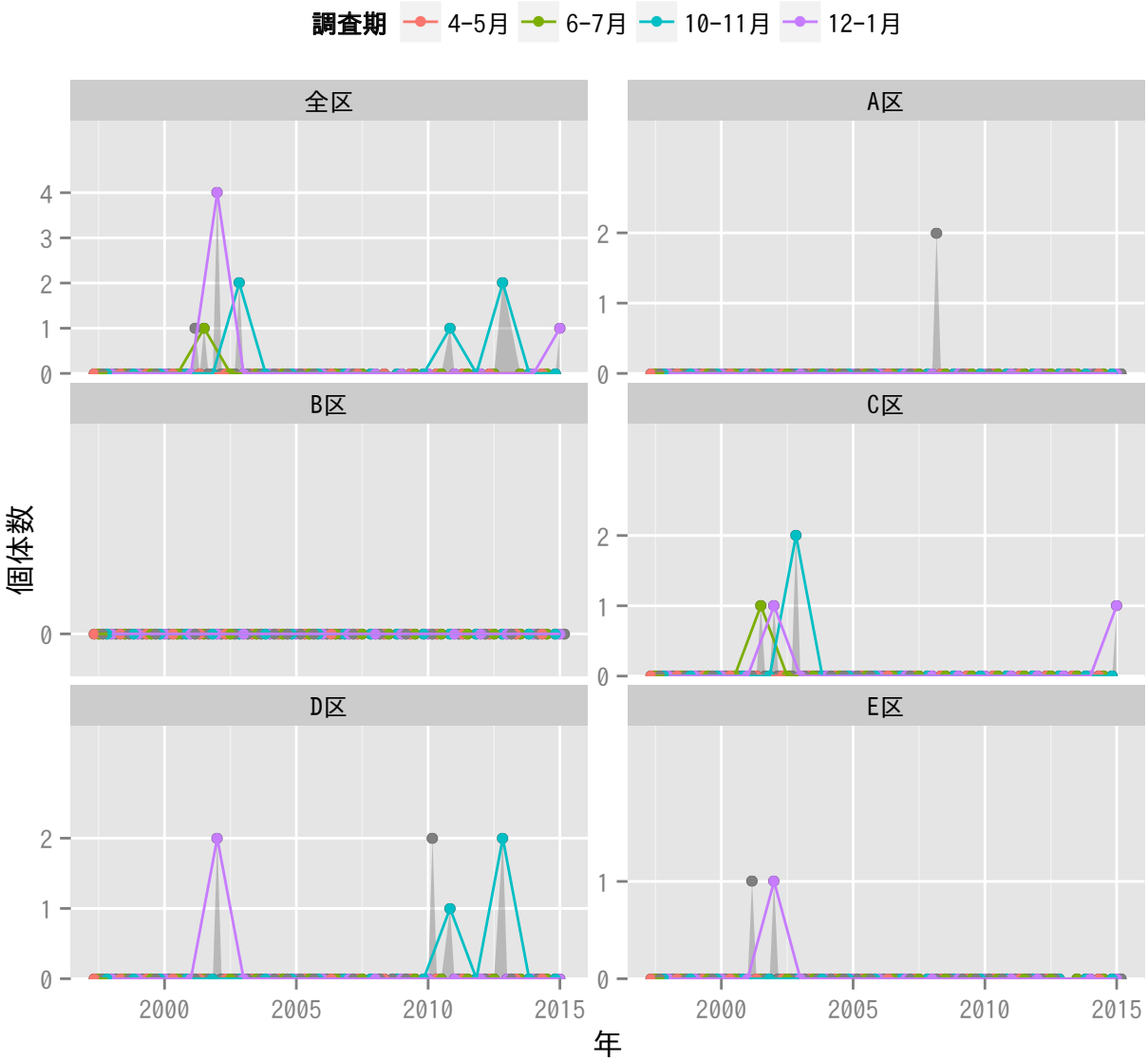

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

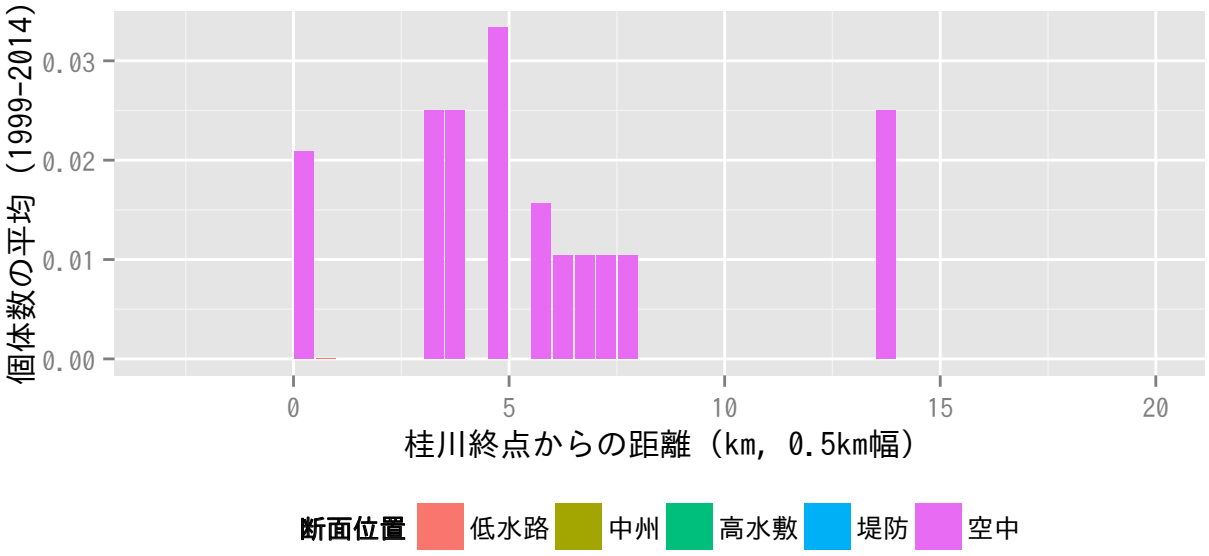
ウミネコ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

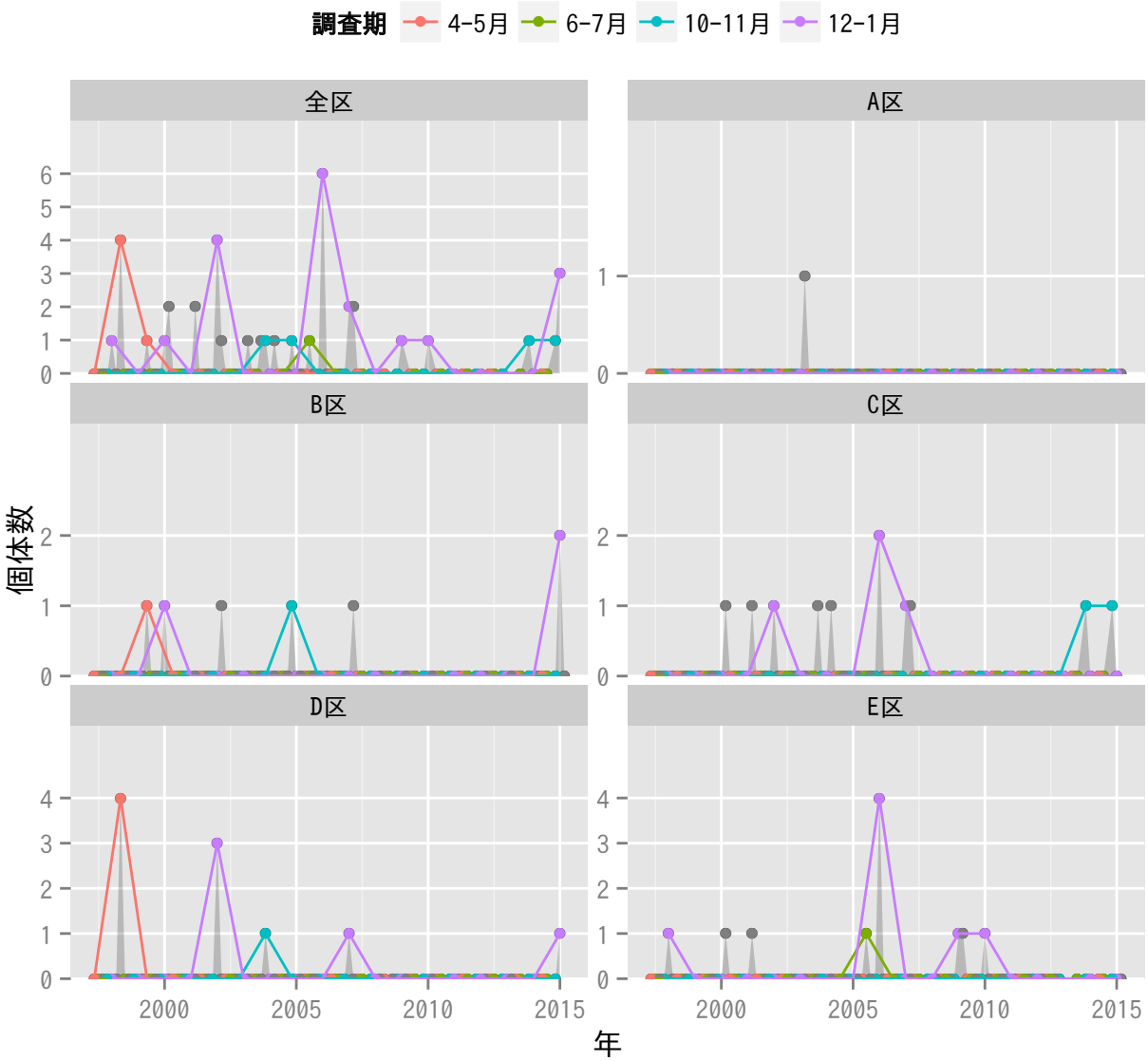

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

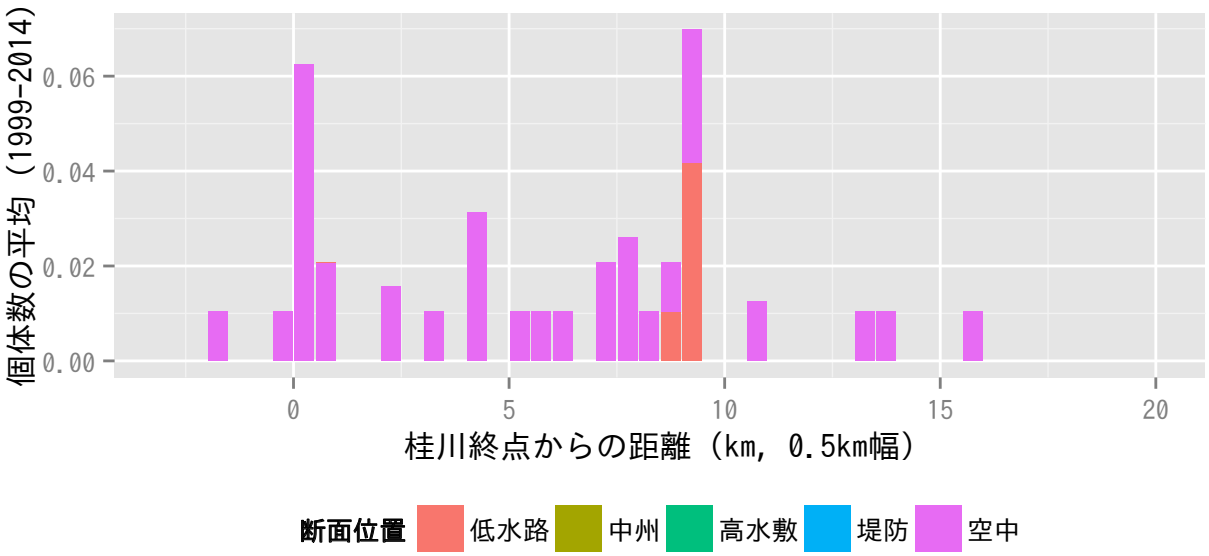
カモメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

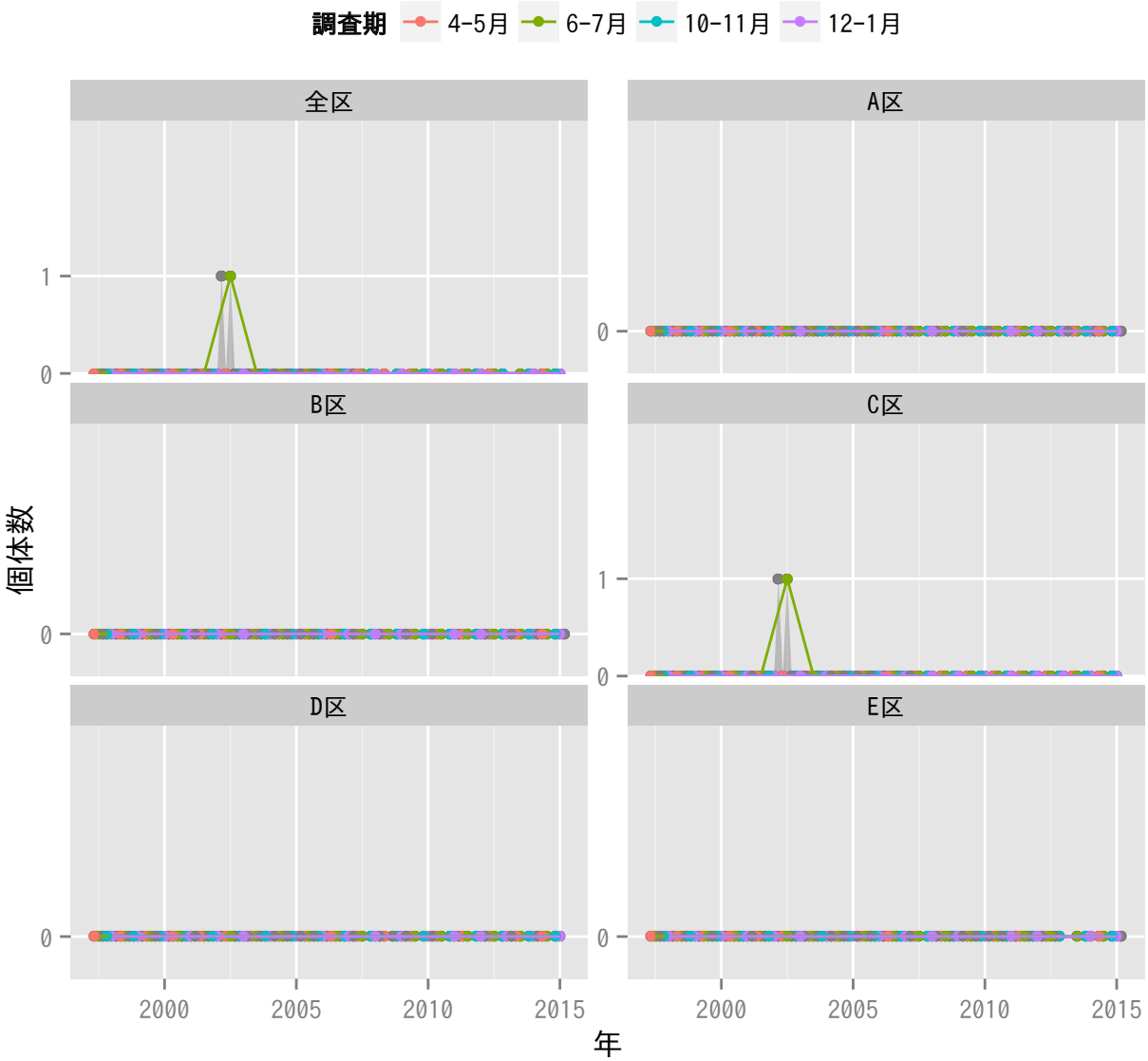

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

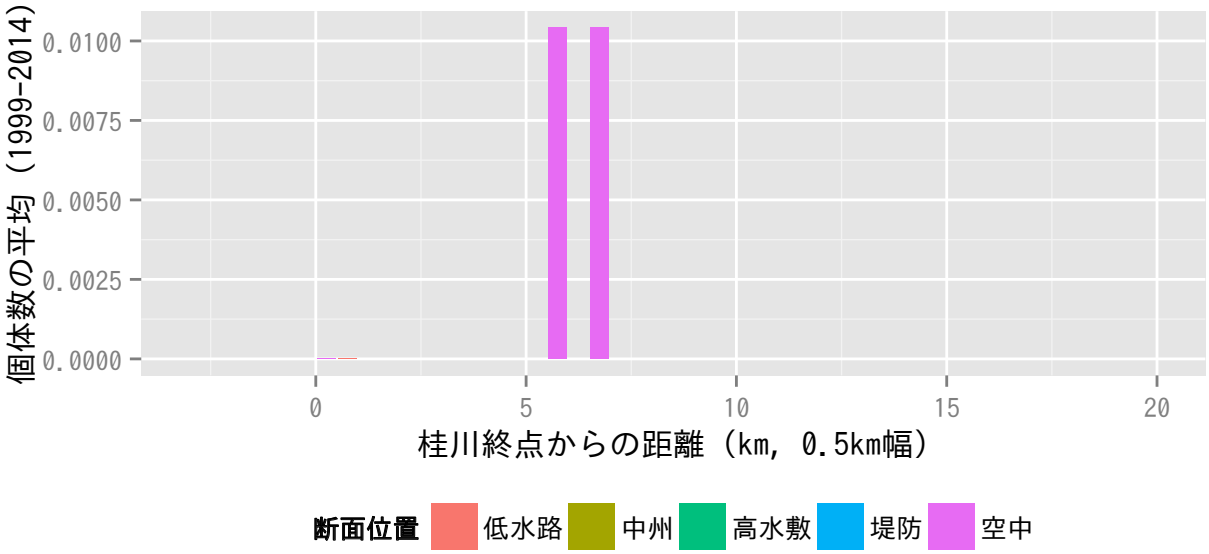
セグロカモメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

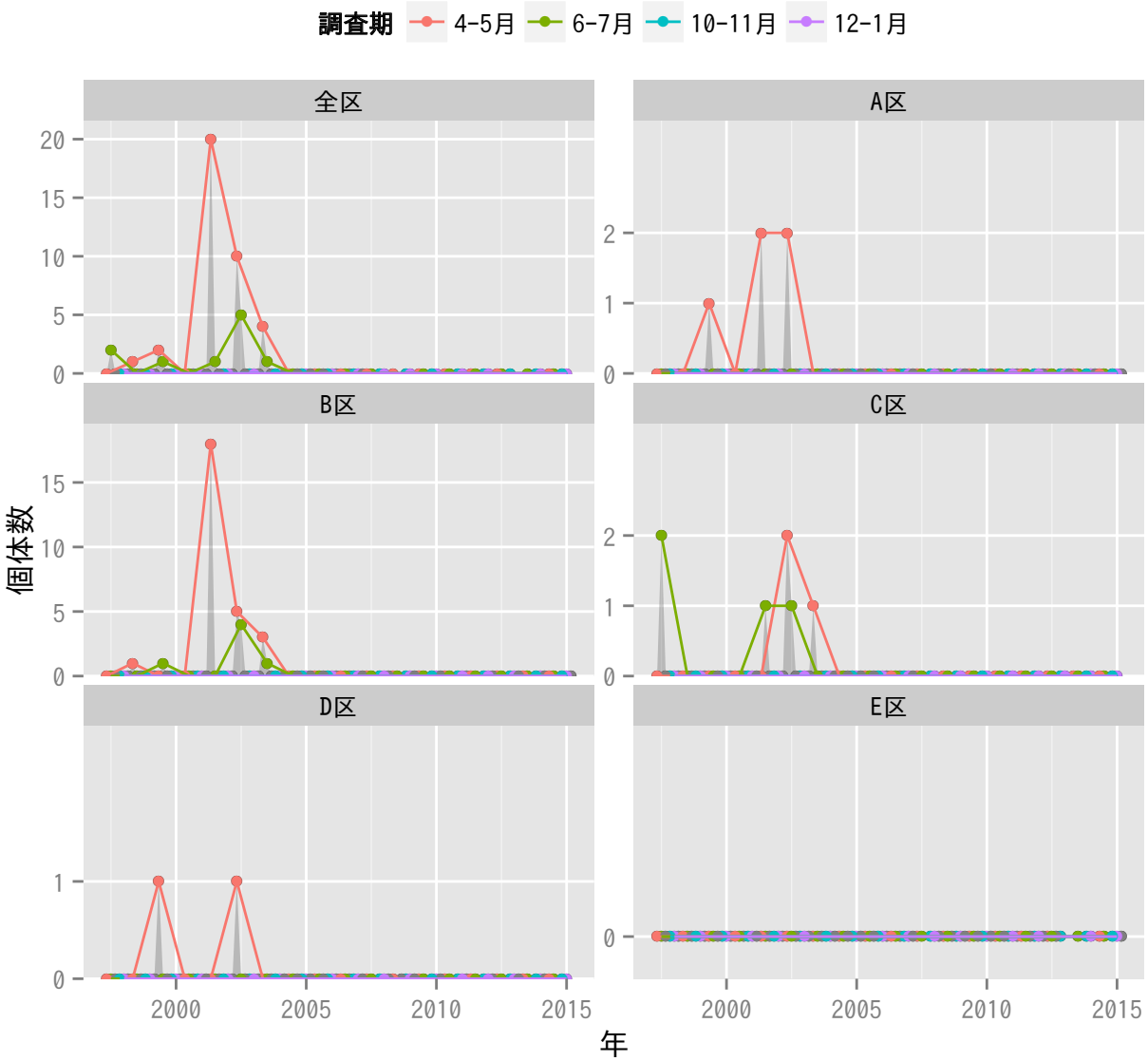

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

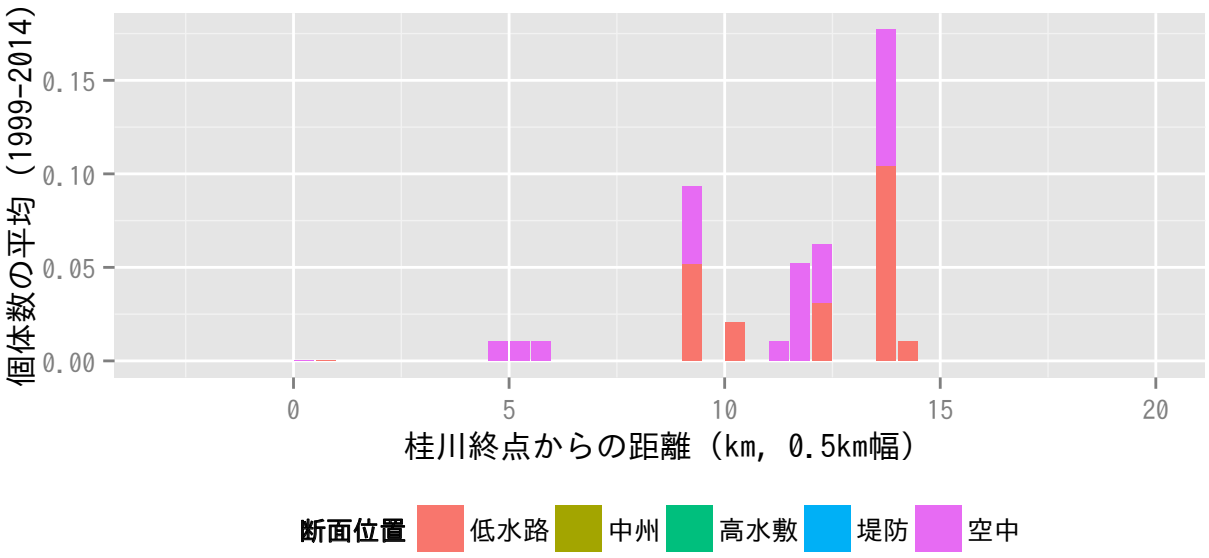
オオセグロカモメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

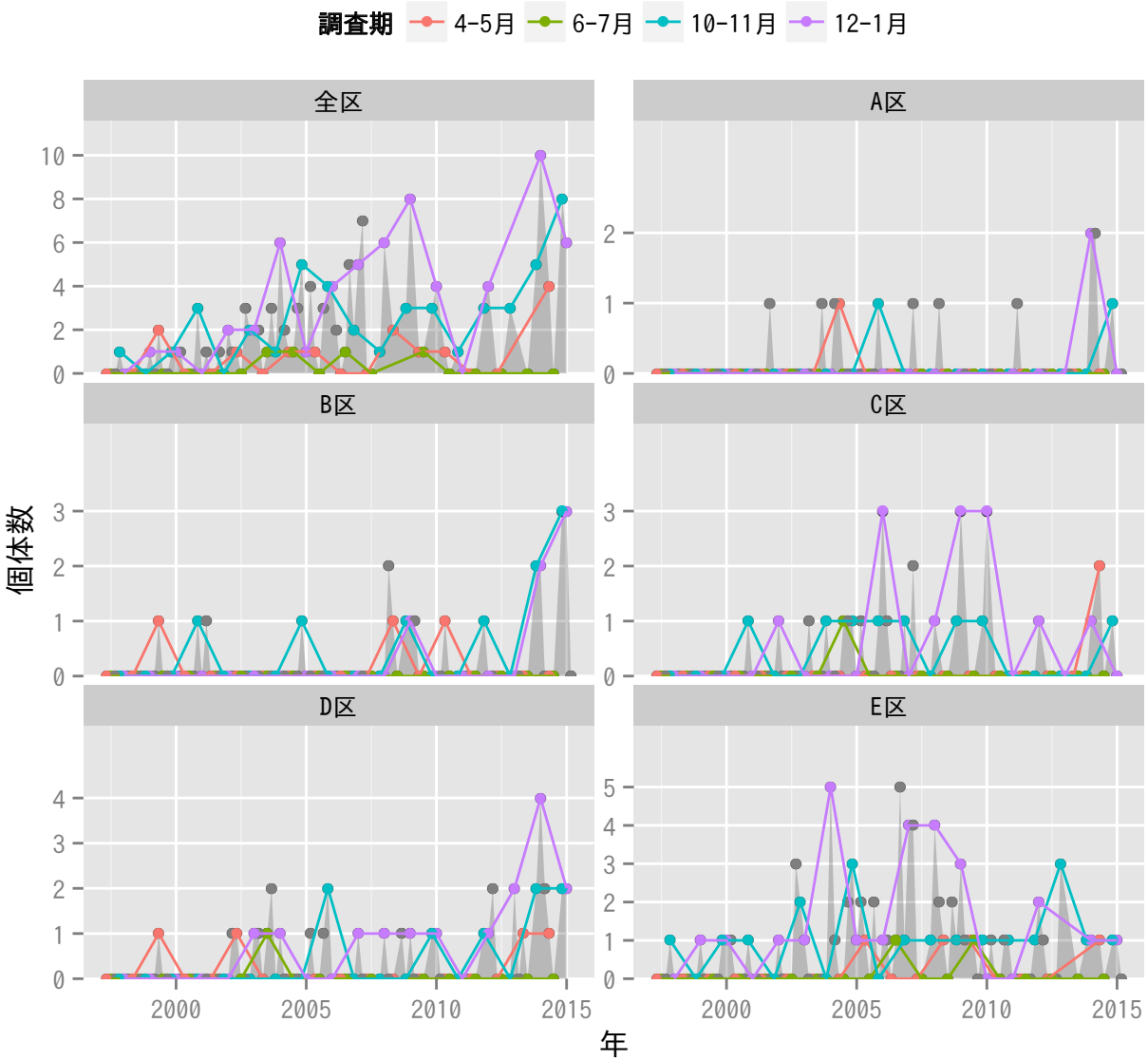

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

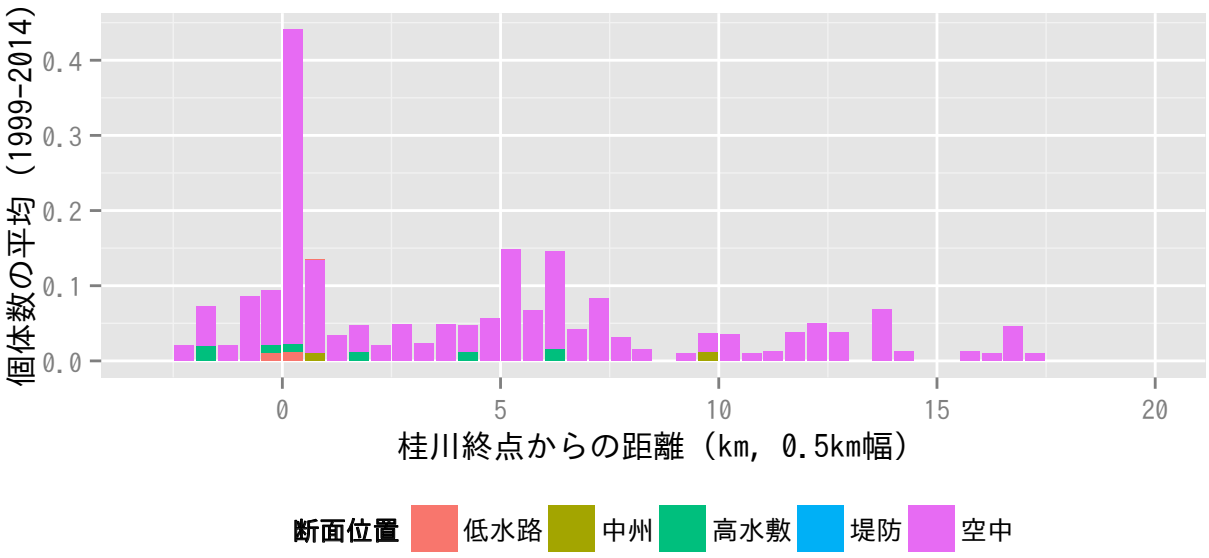
コアジサシ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

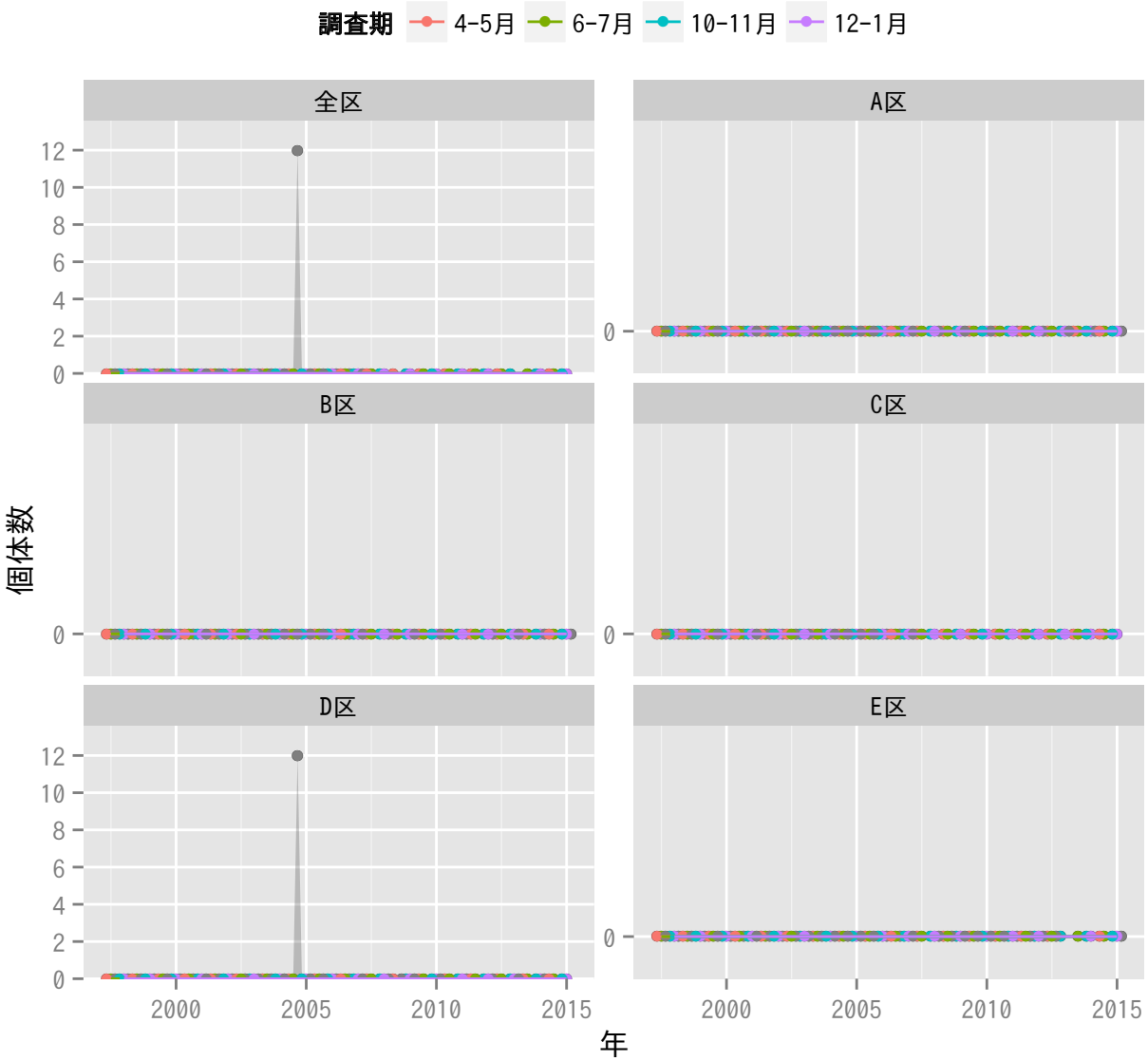

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

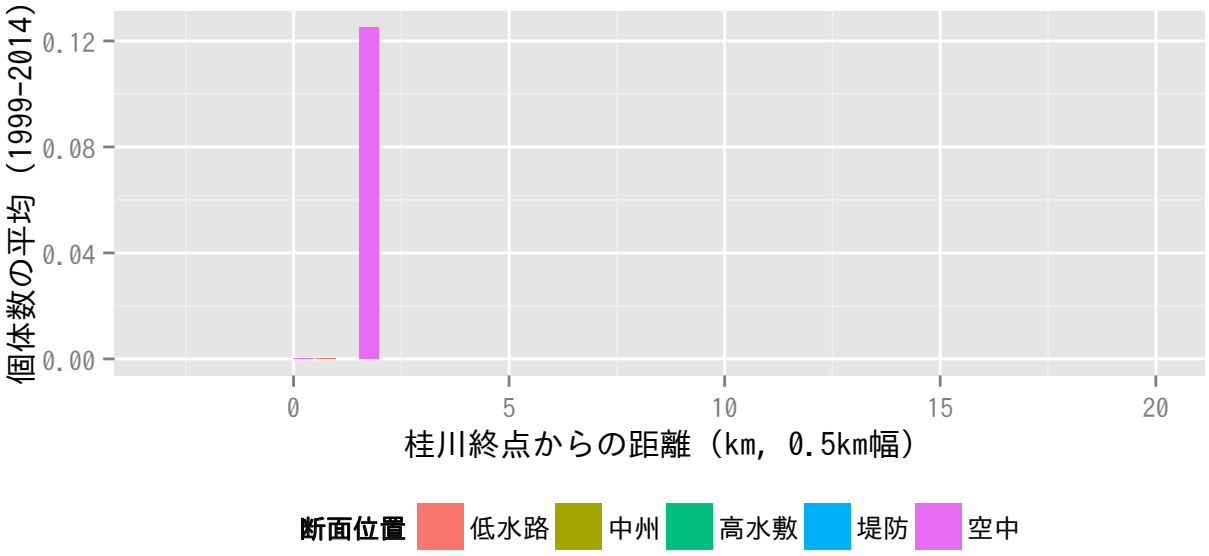
ミサゴ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

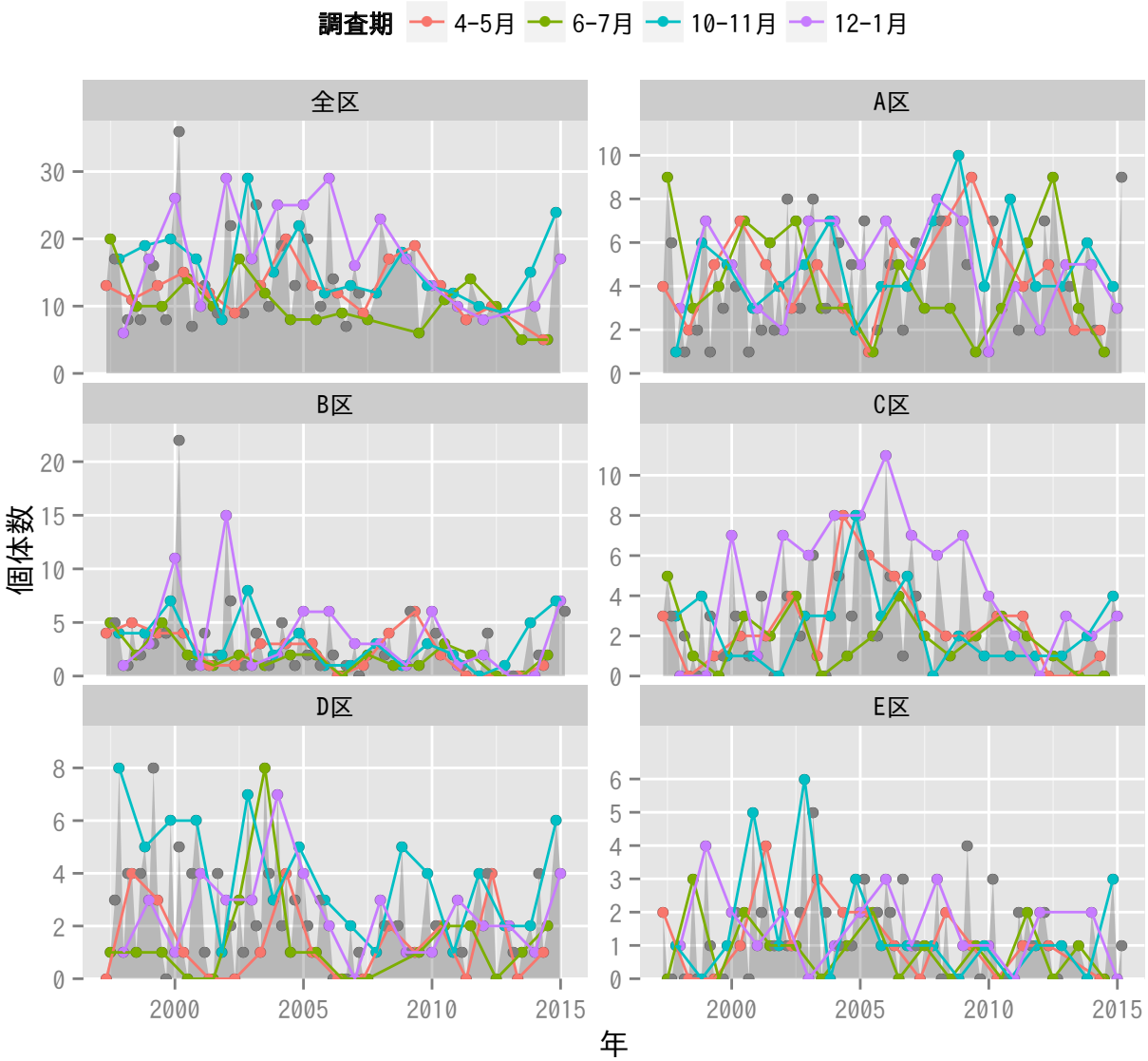

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

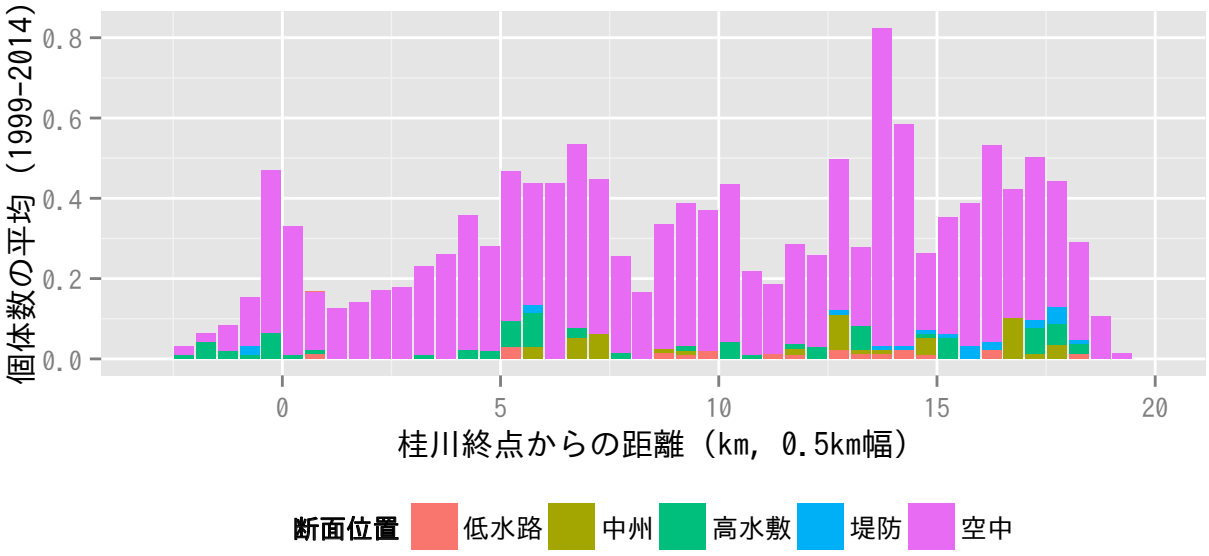
ハチクマ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
2
4
6
8
10
12
2000
2005
2010
2015

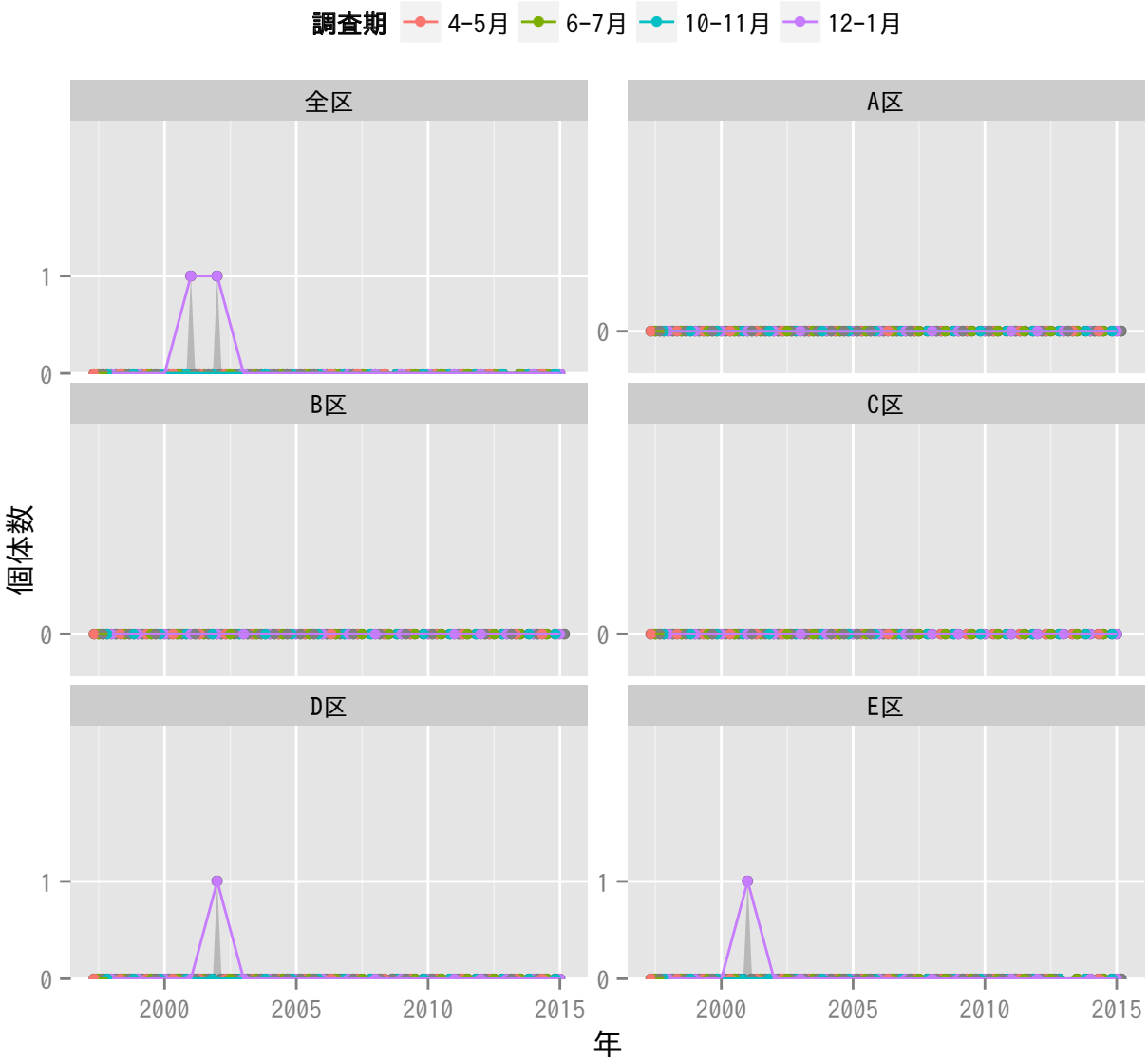

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.04
0.08
0.12
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

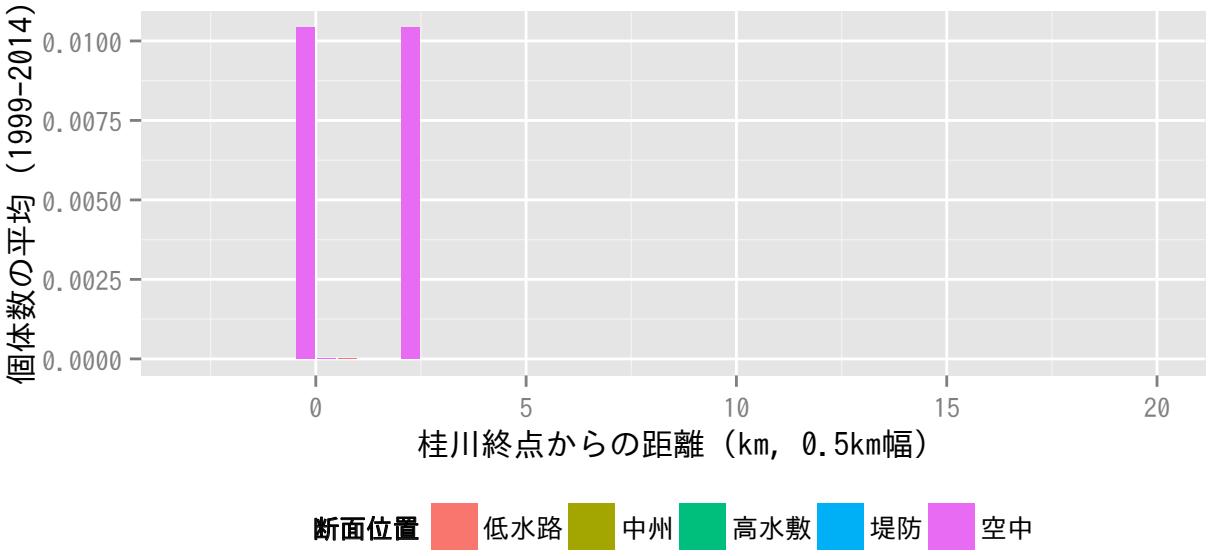
トビ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

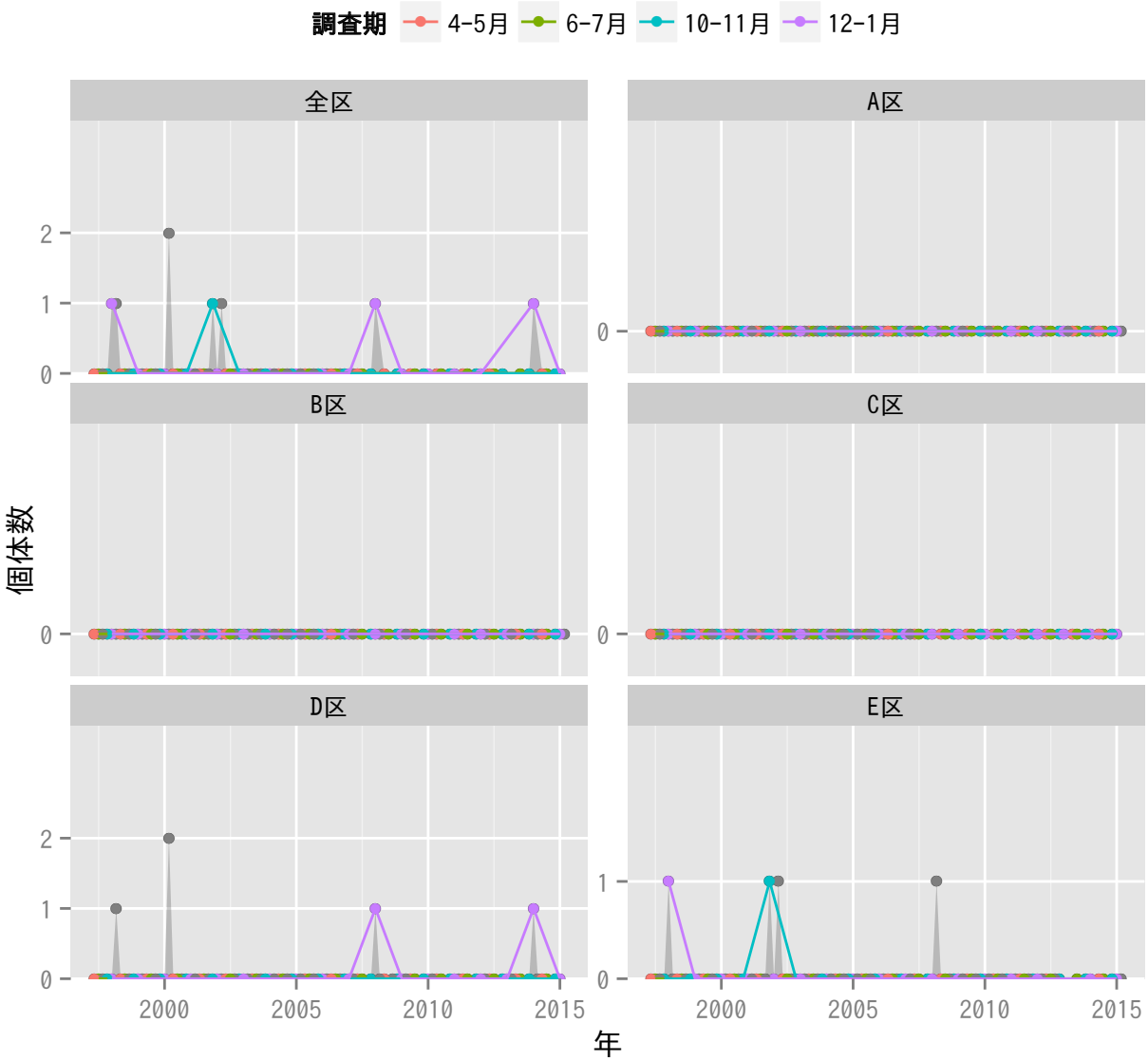

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

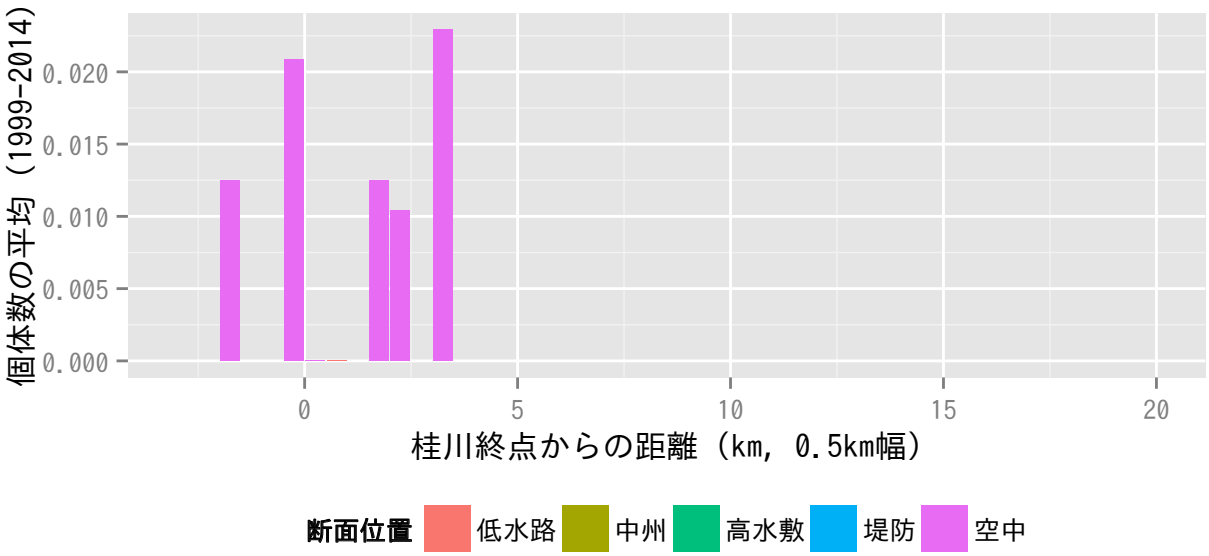
チュウヒ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2000
2005
2010
2015
年

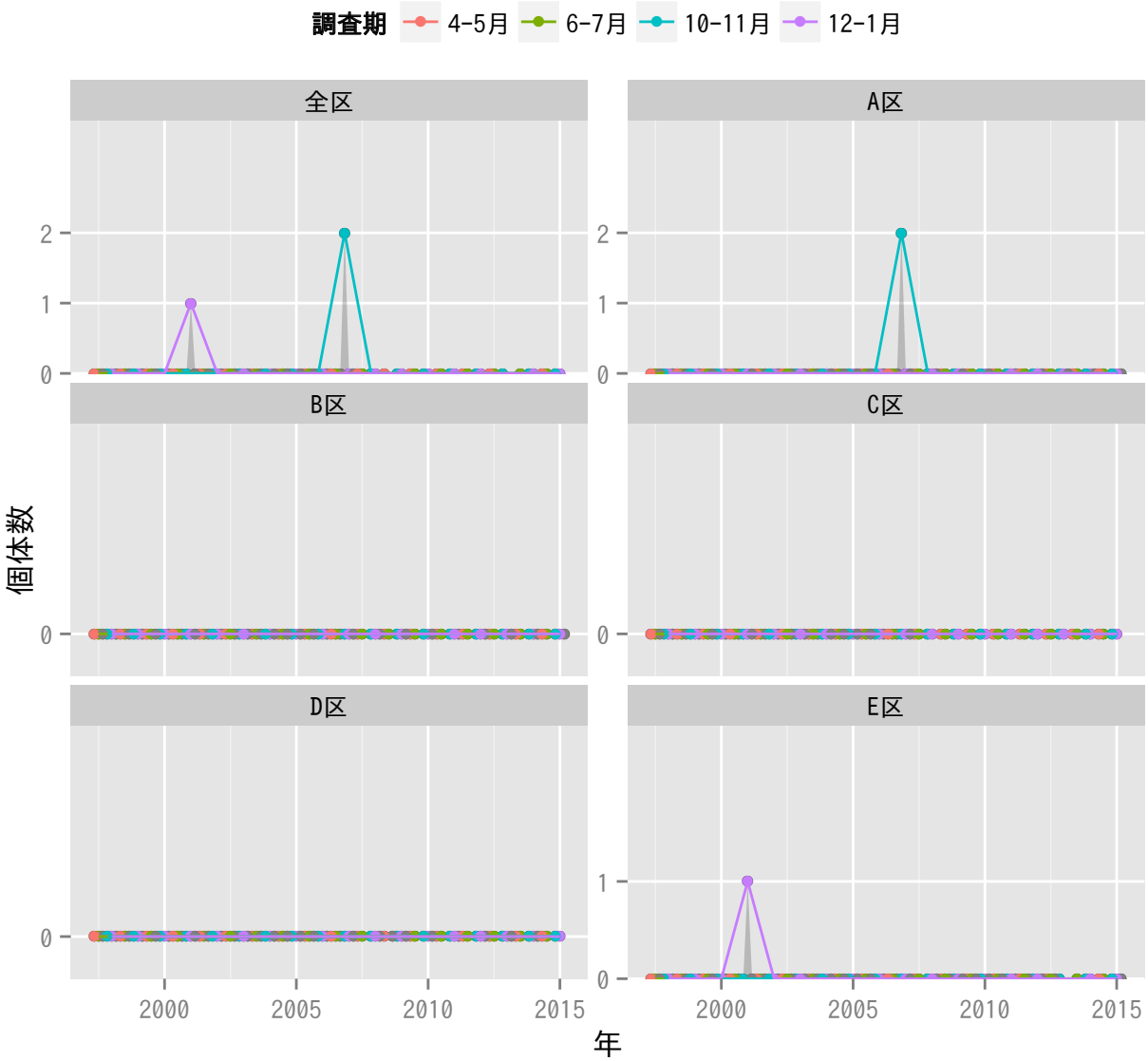

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

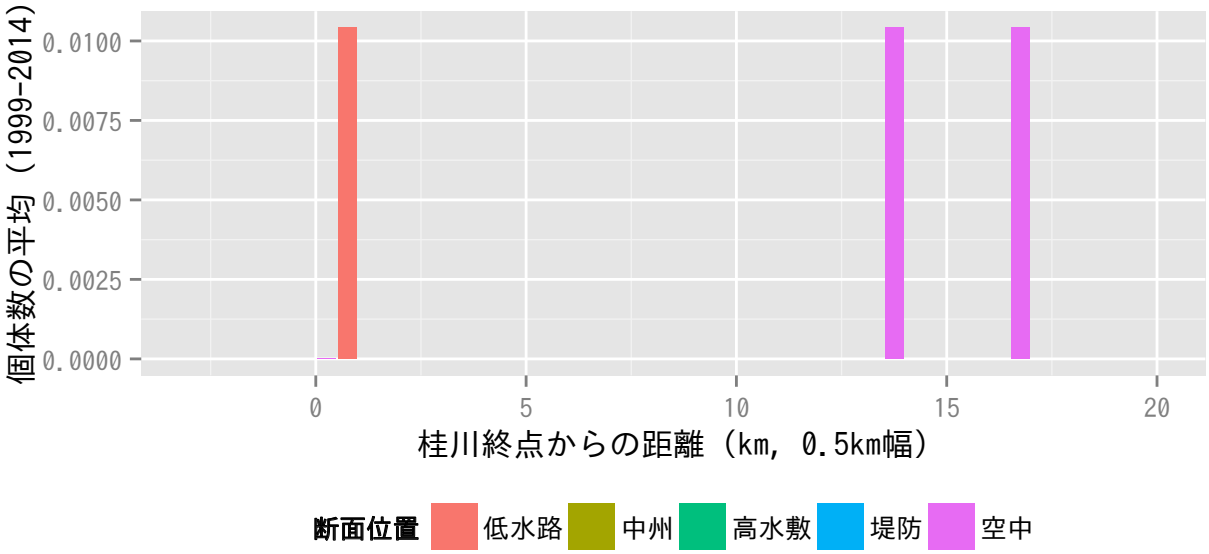
ハイイロチュウヒ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

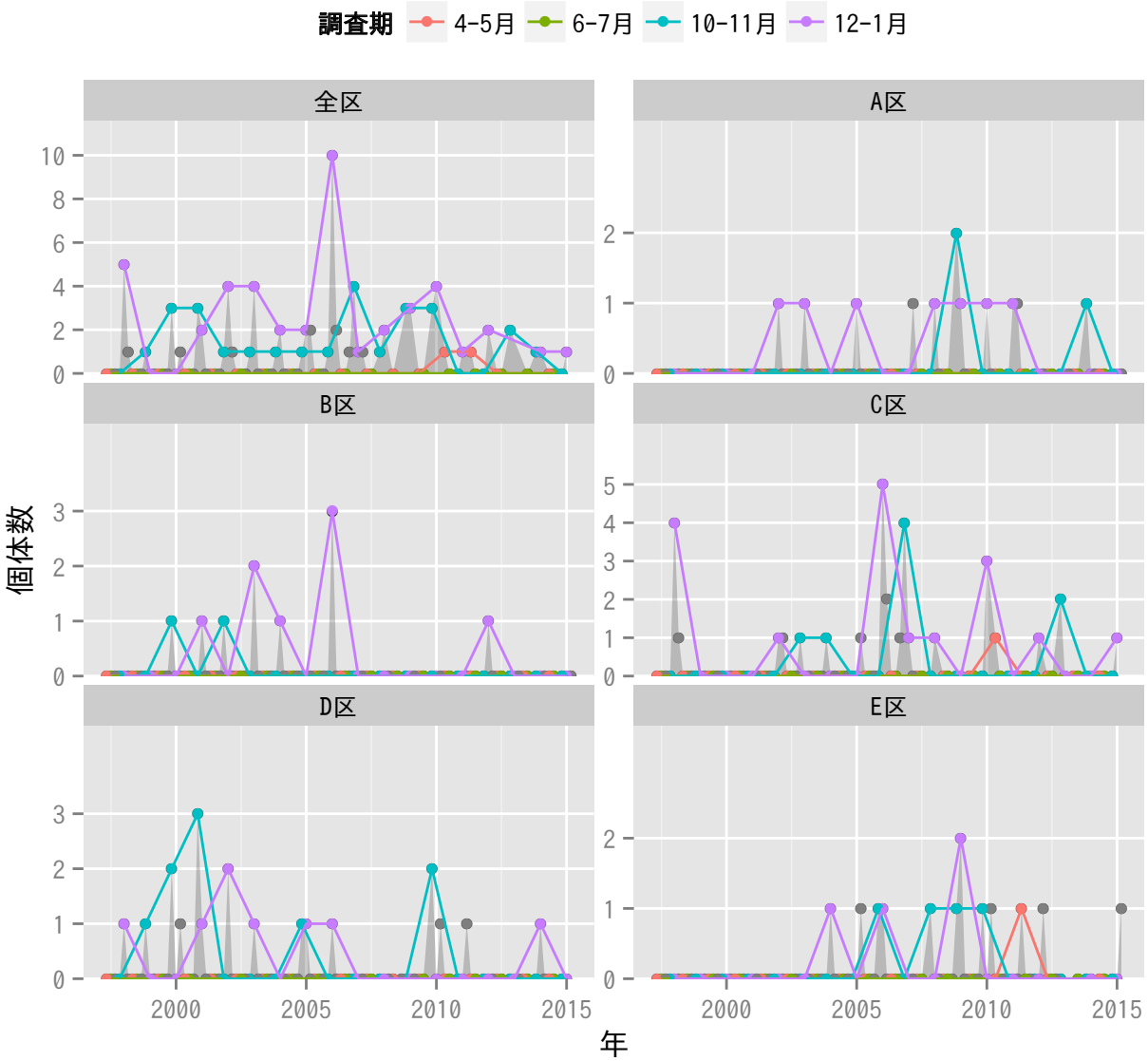

個体数の平均（1999-2014）
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

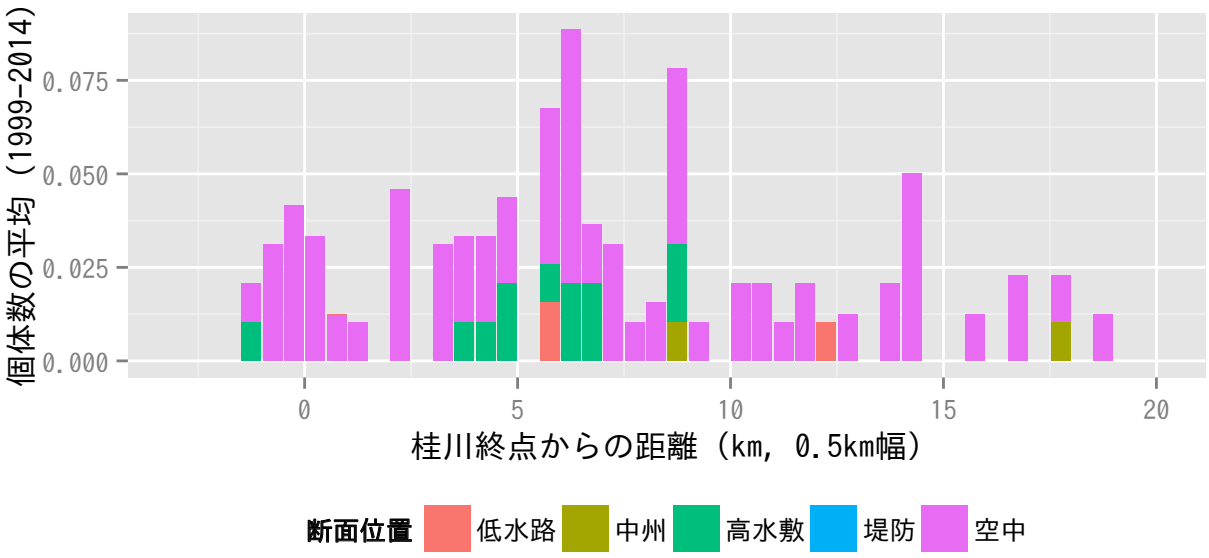
ツミ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

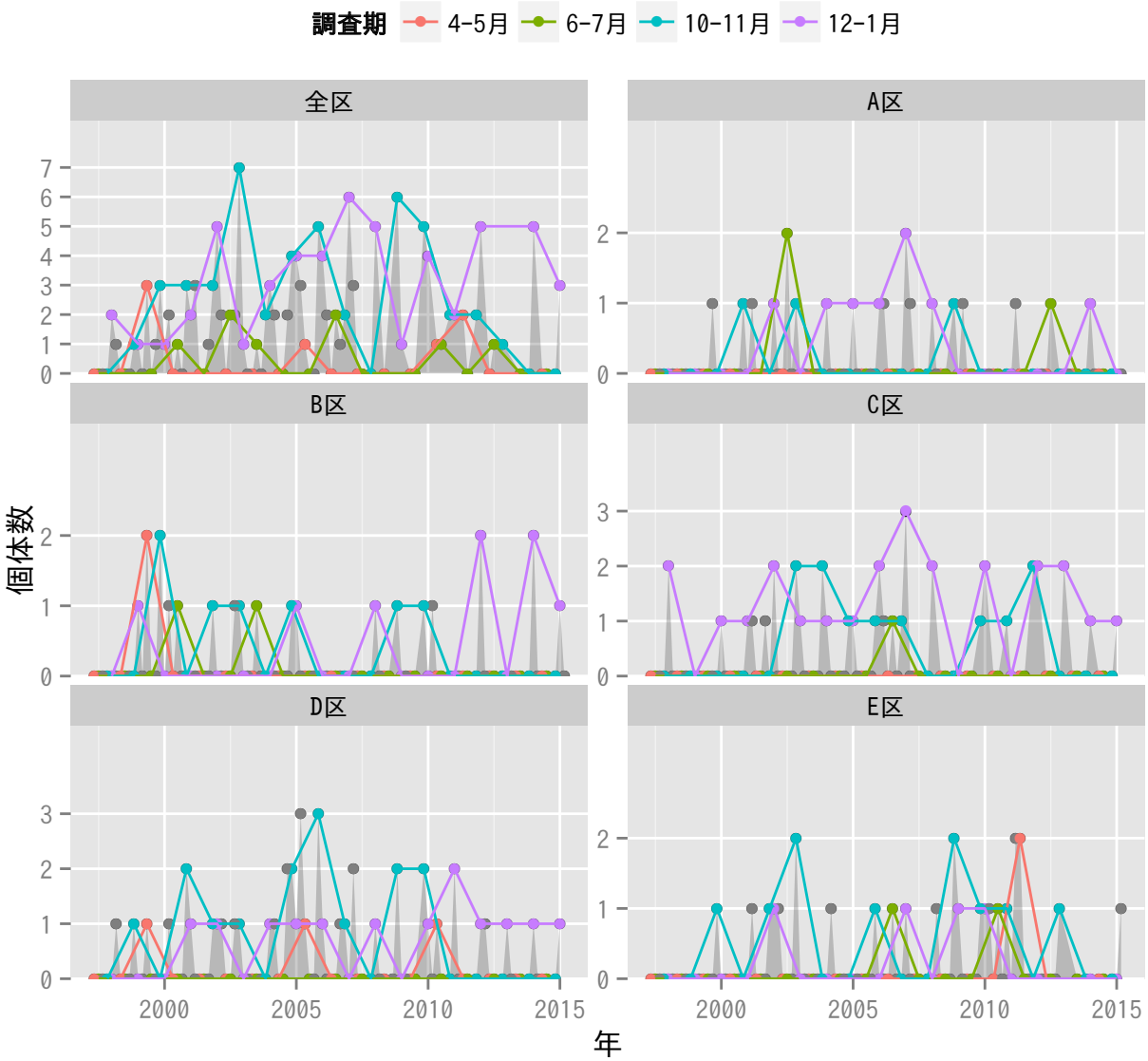

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

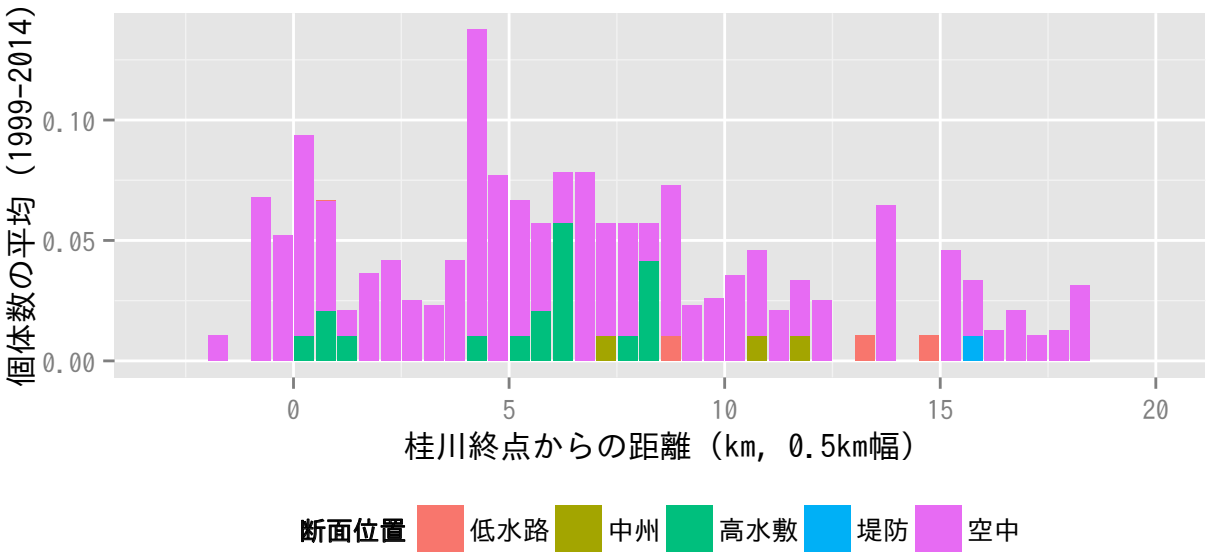
ハイタカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

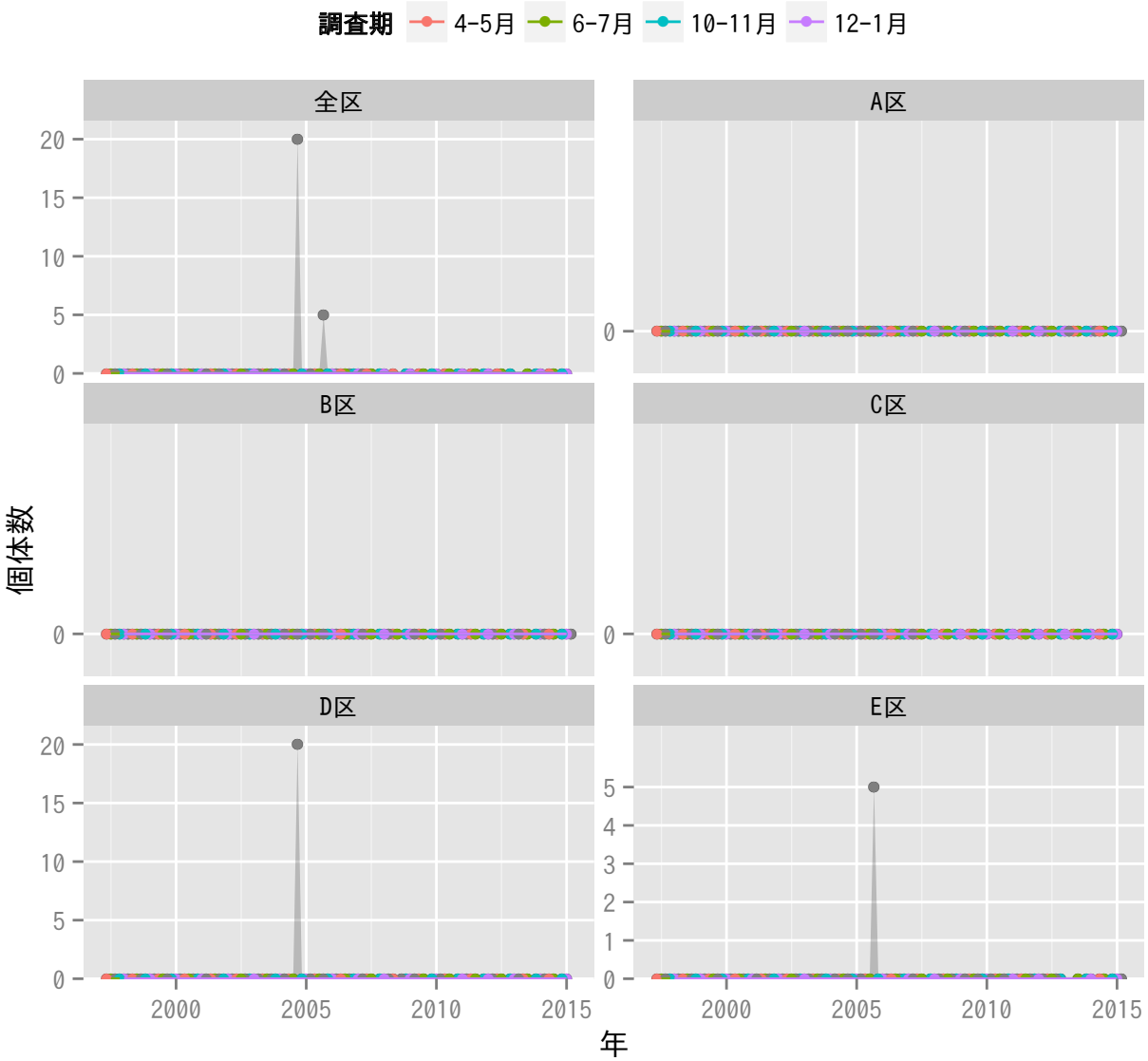

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

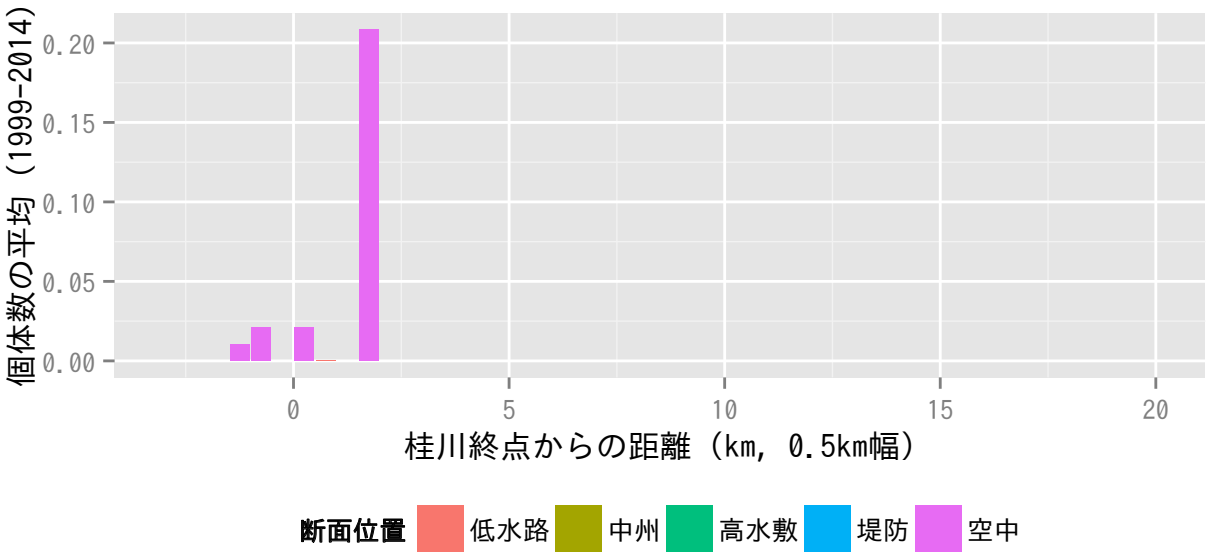
オオタカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

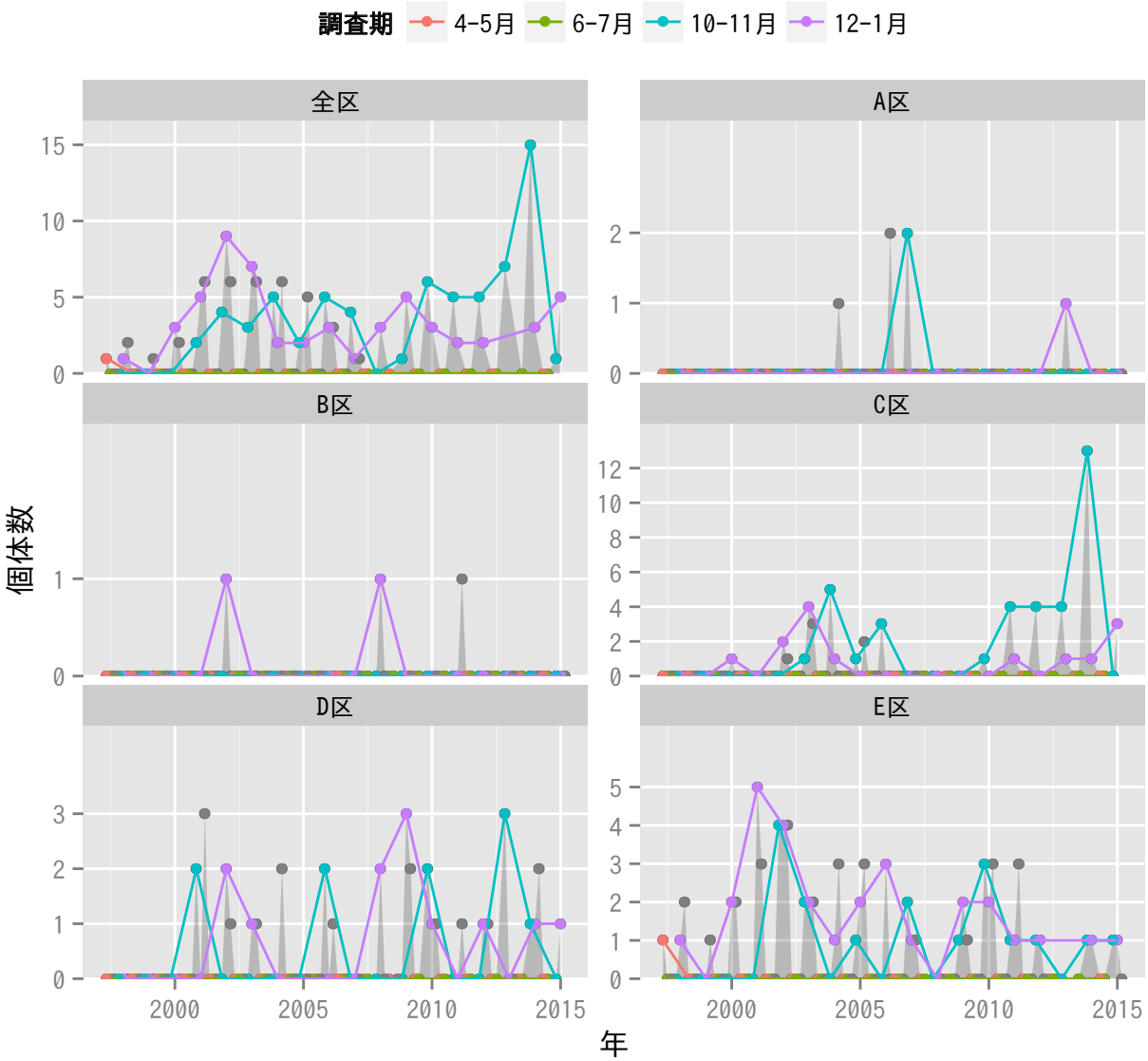

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

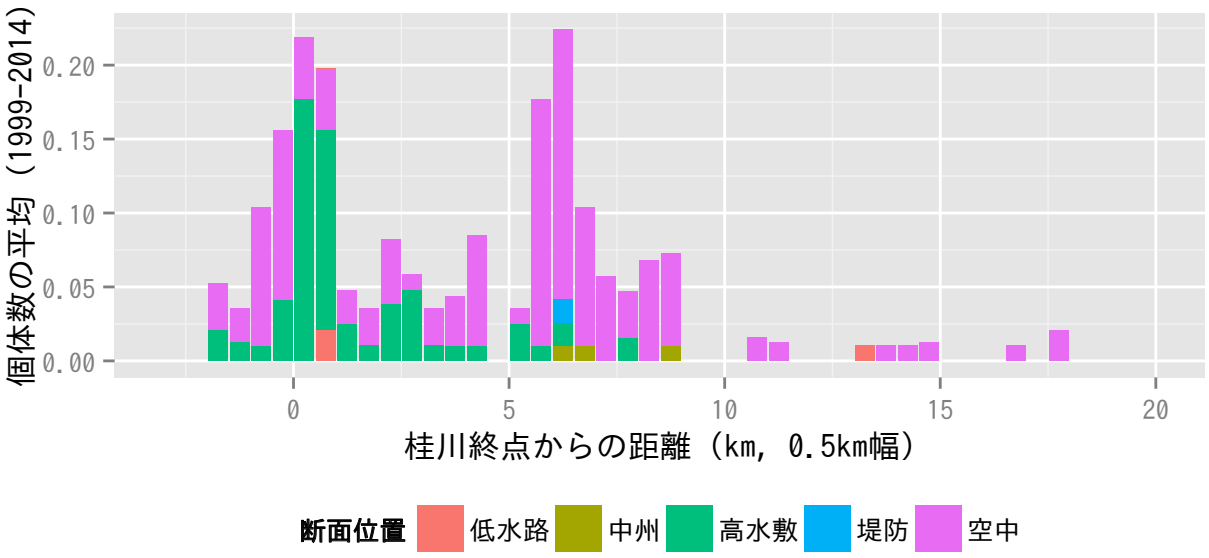
サシバ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

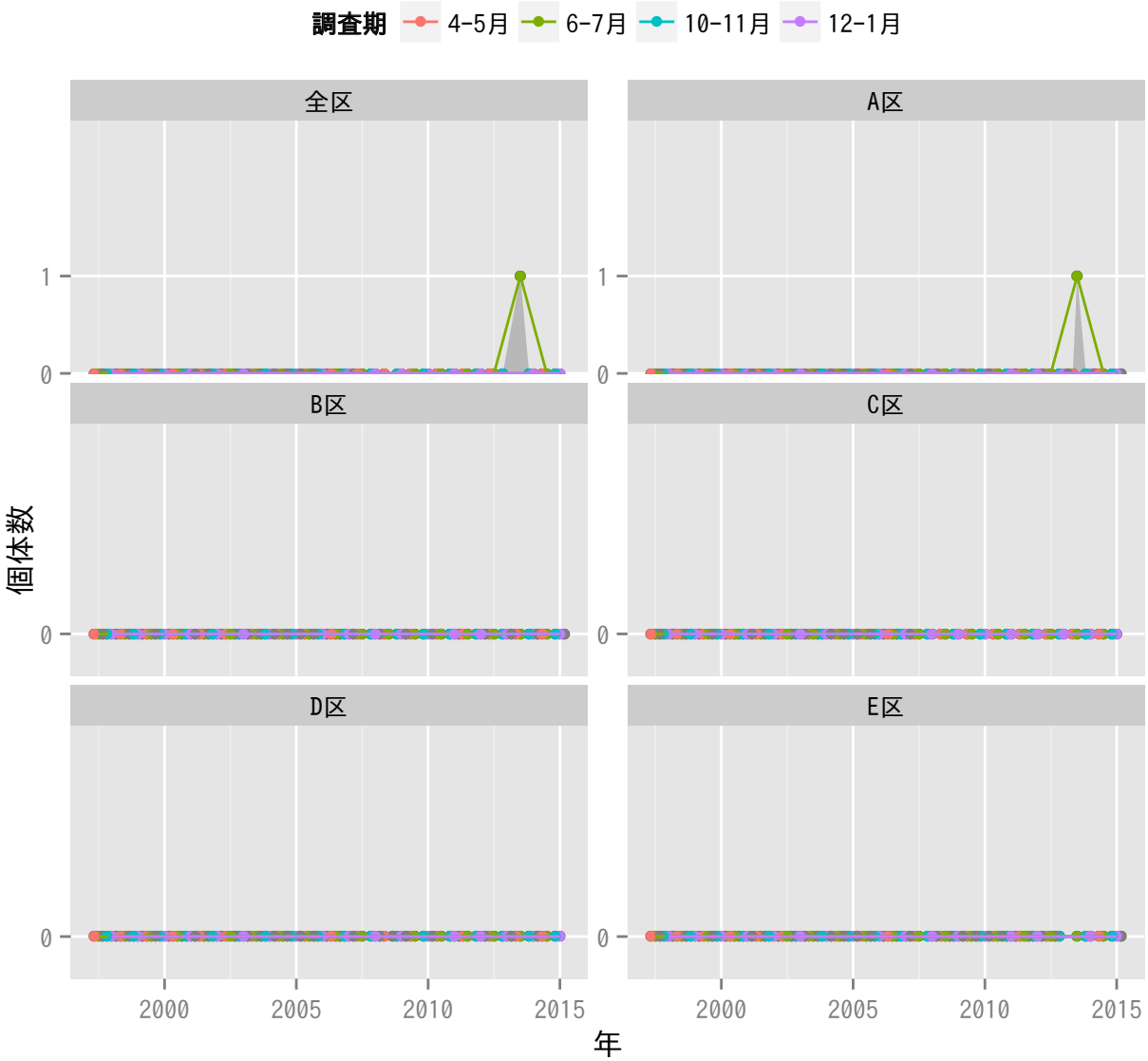

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

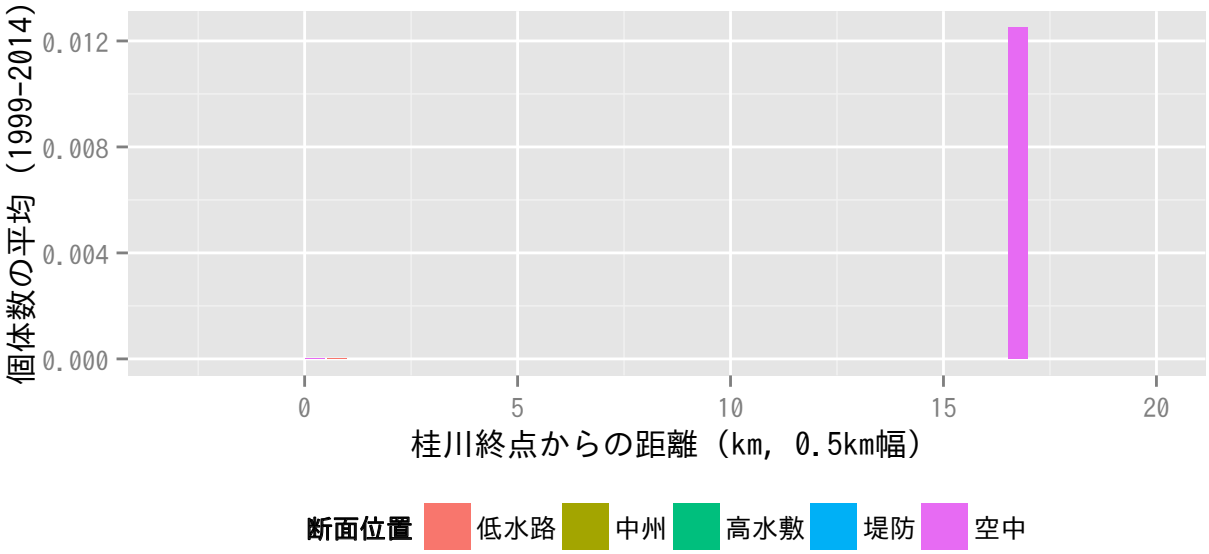
ノスリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

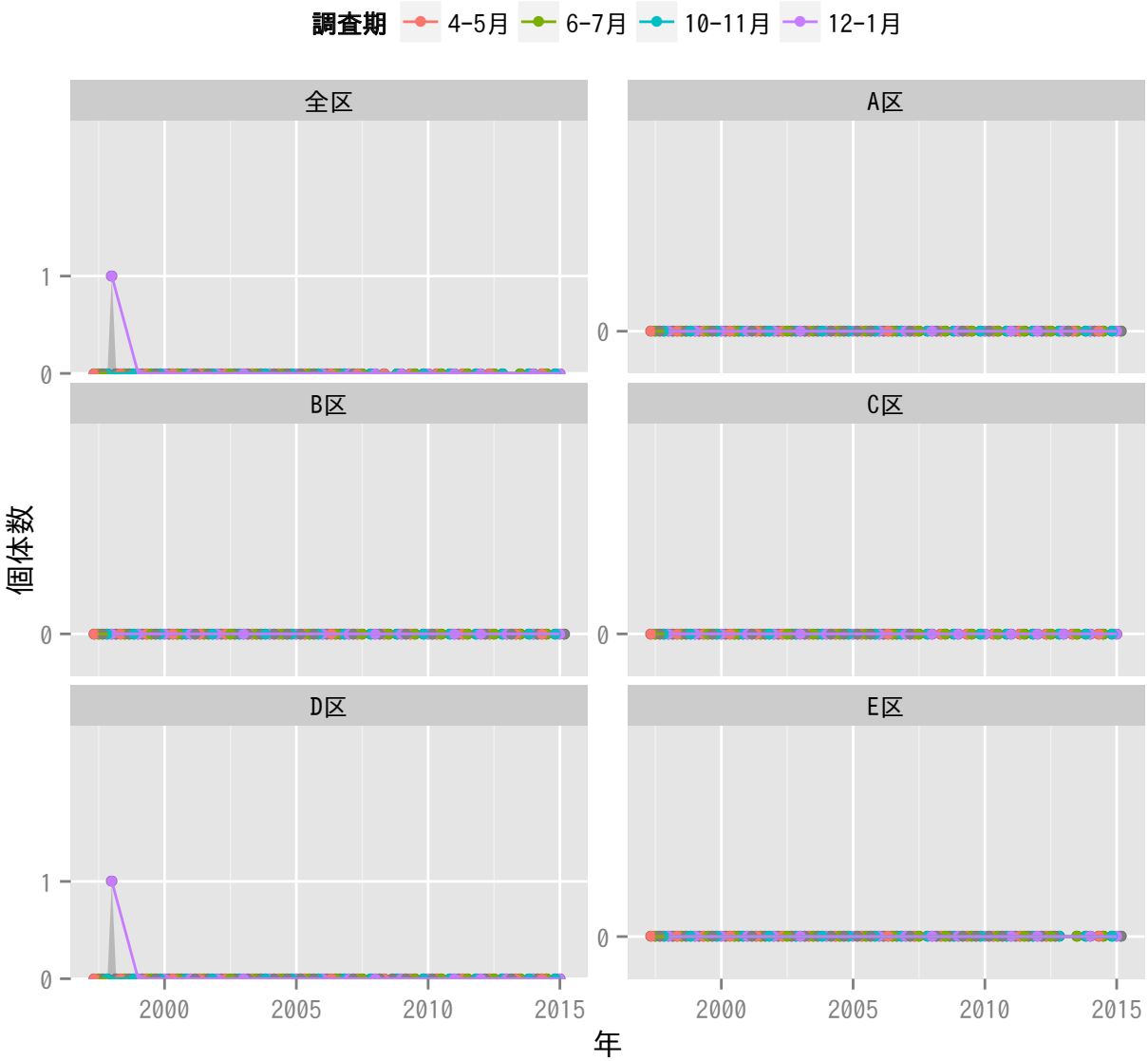

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

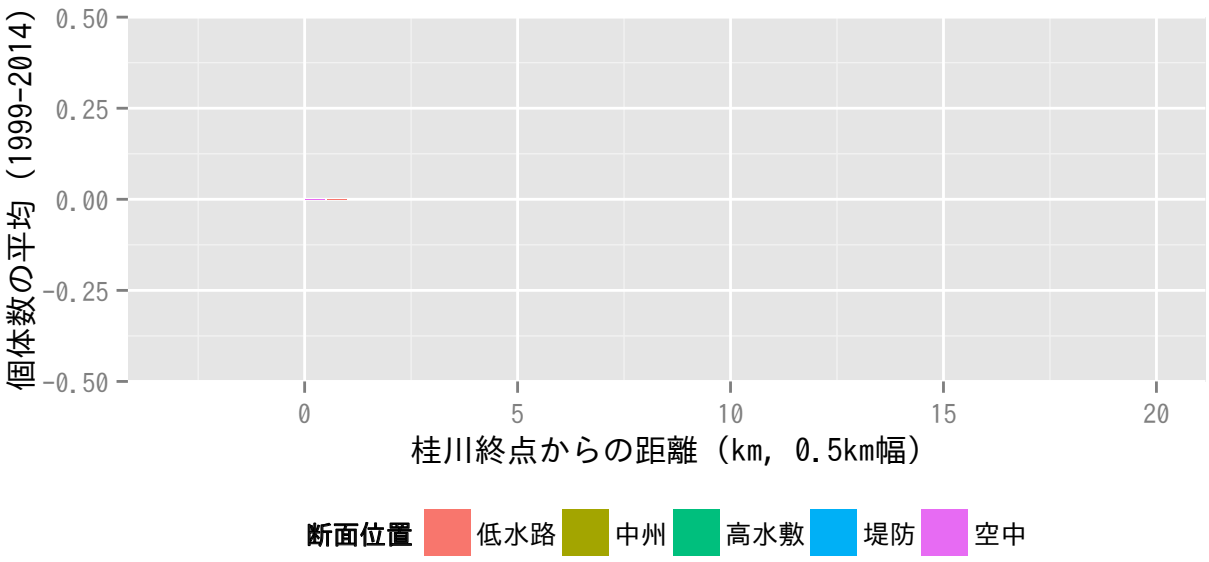
アオバズク


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

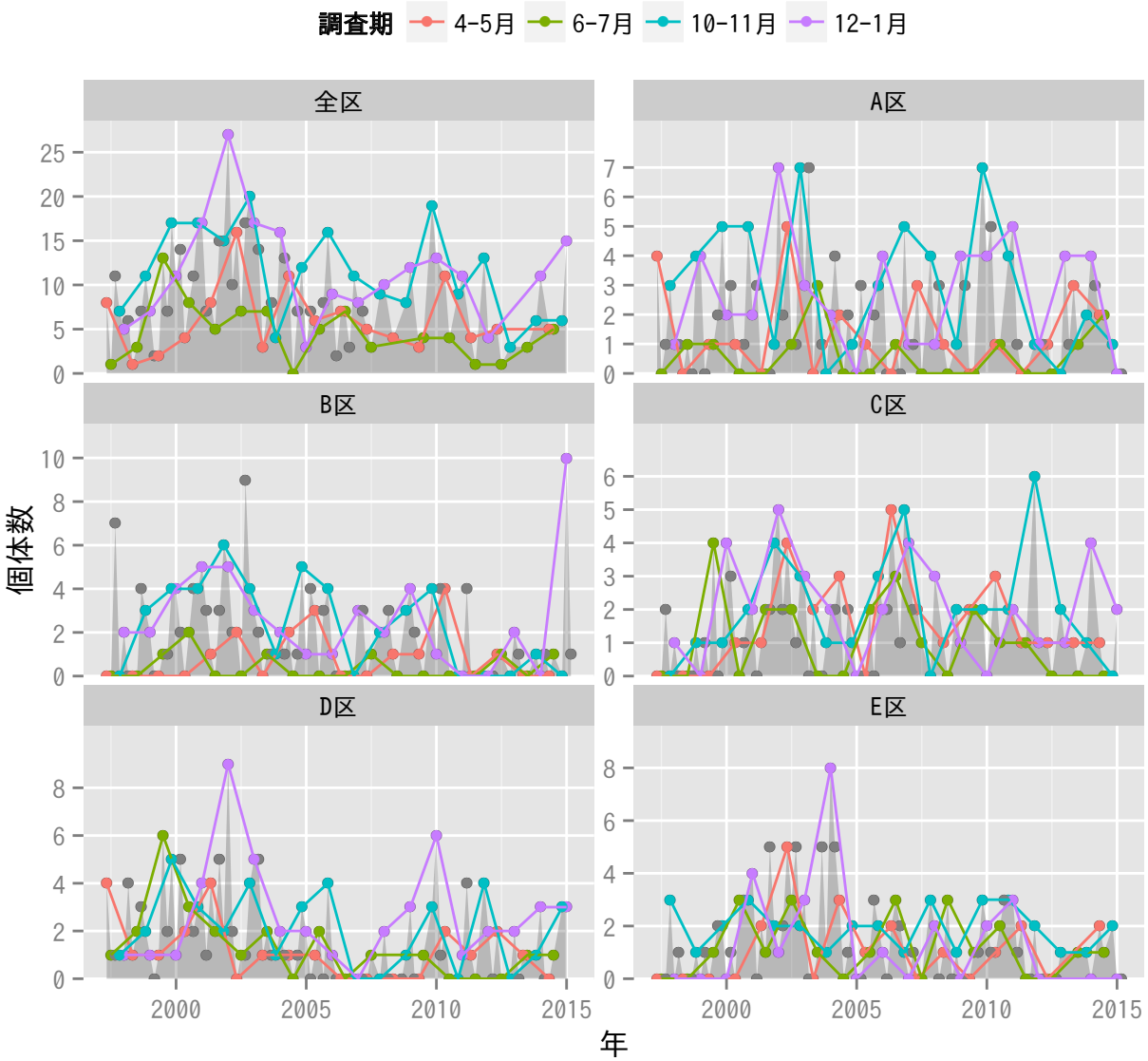

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

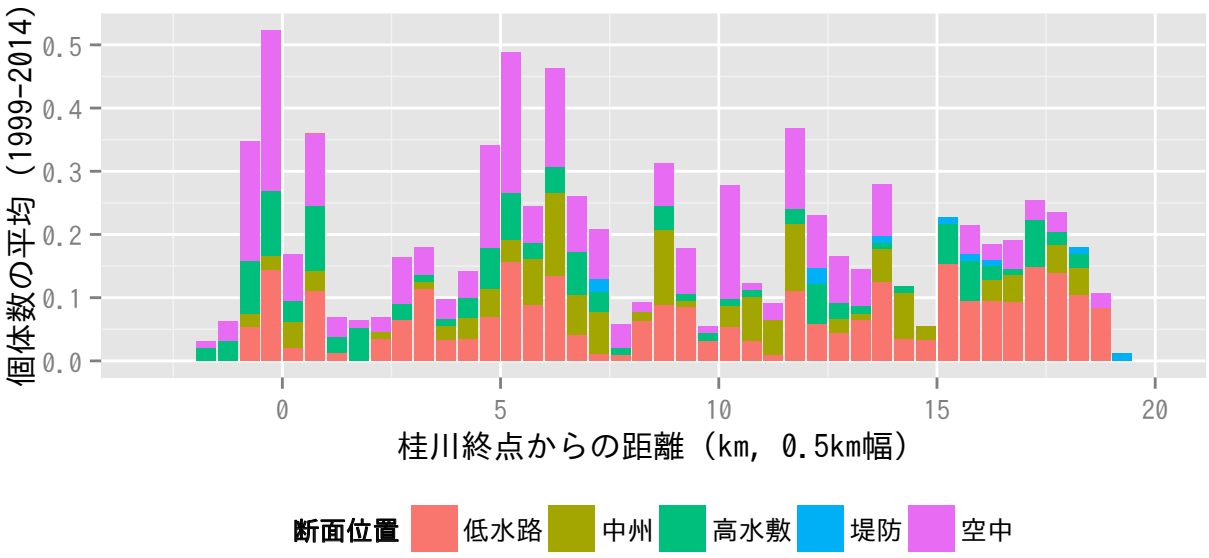
トラフズク


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

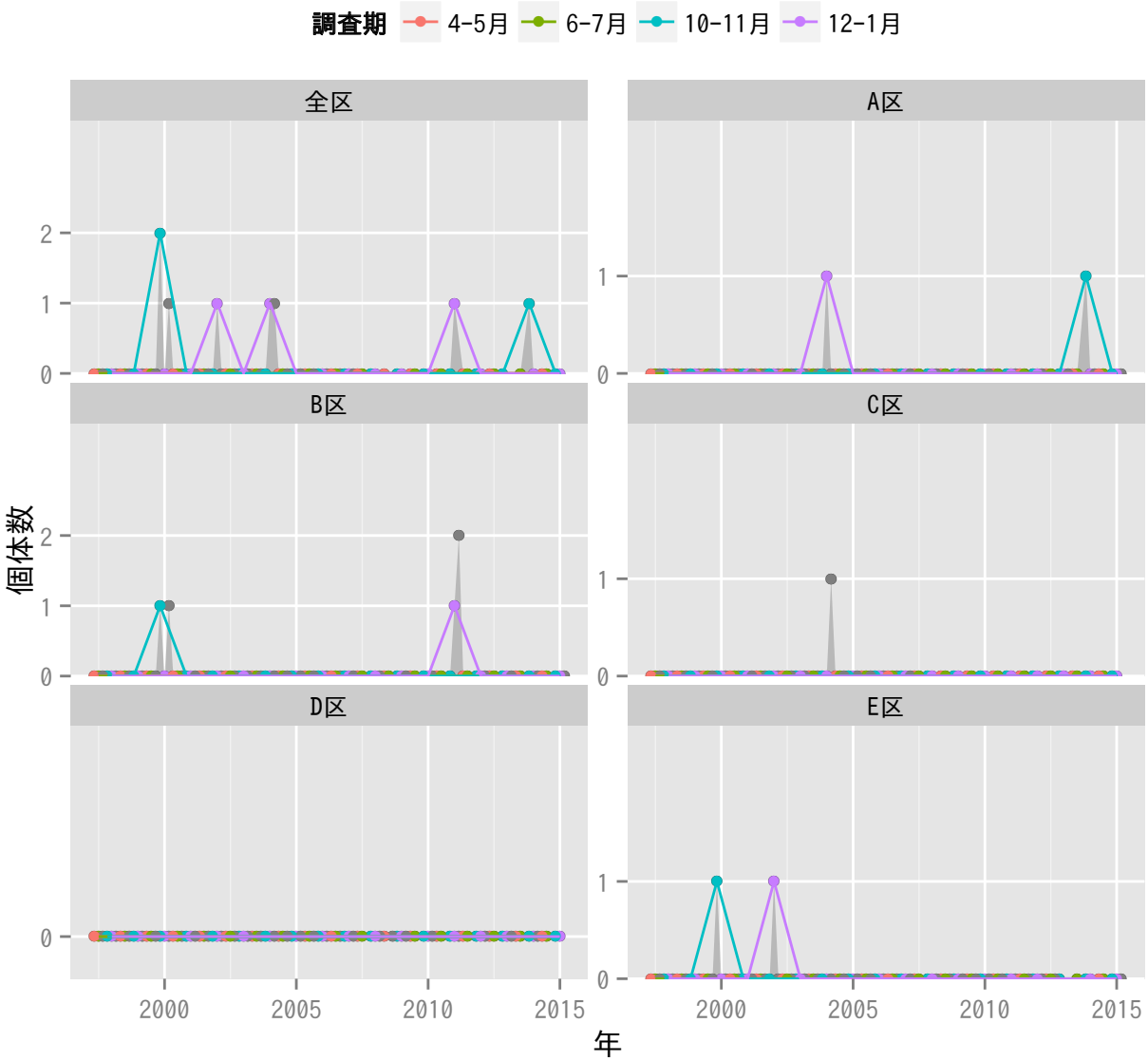

個体数の平均（1999-2014）
0.50
0.25
0.00
-0.25
-0.50
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

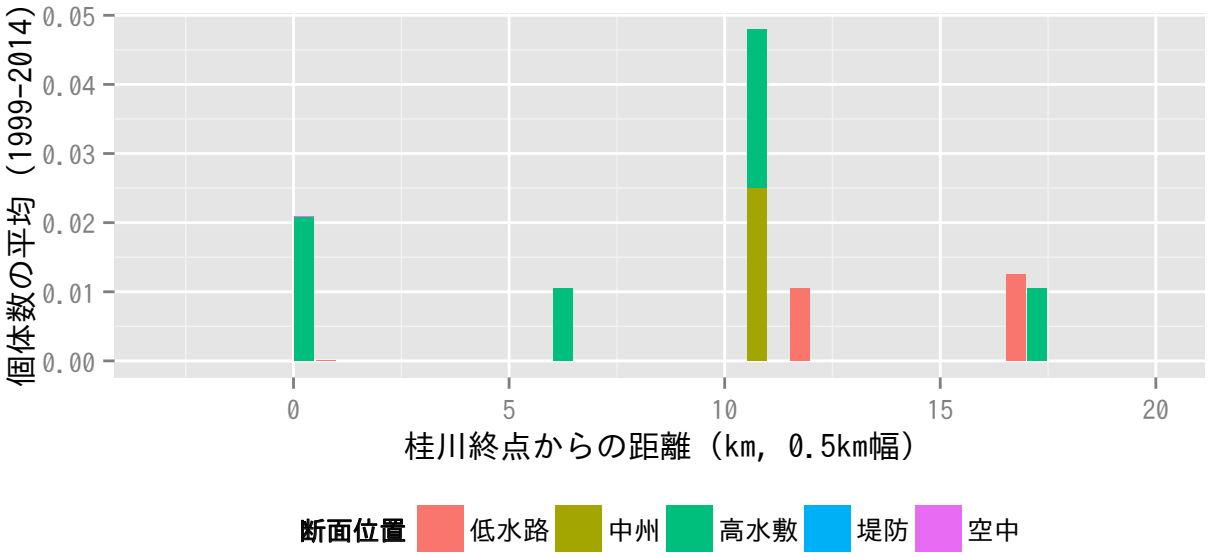
カワセミ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

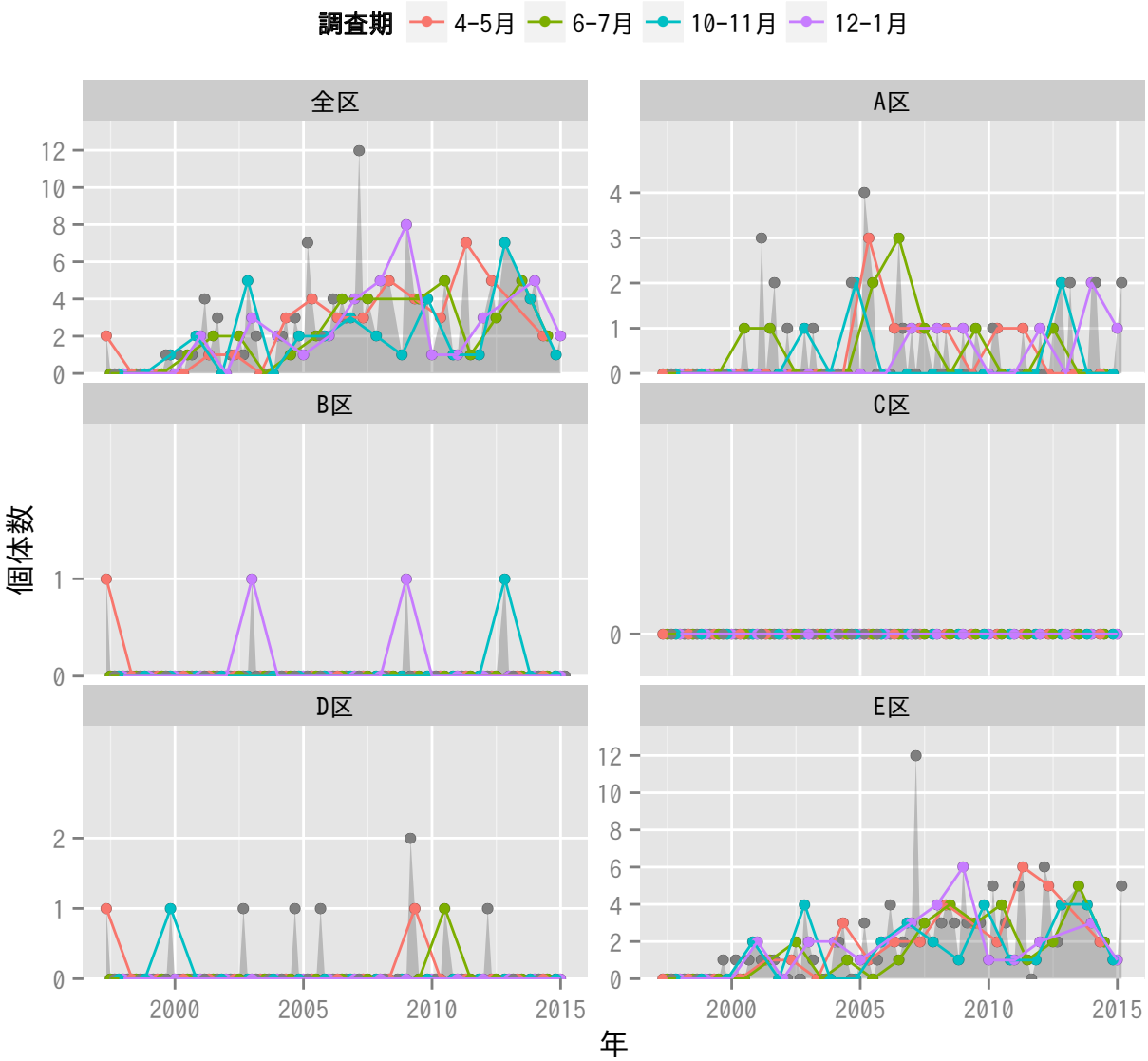

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

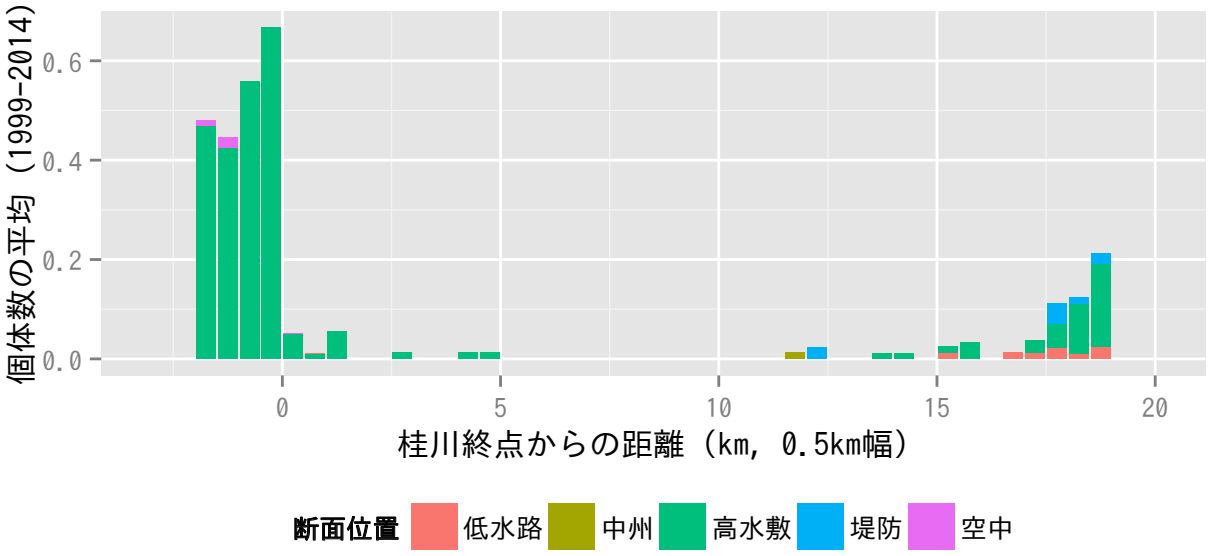
アリスイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

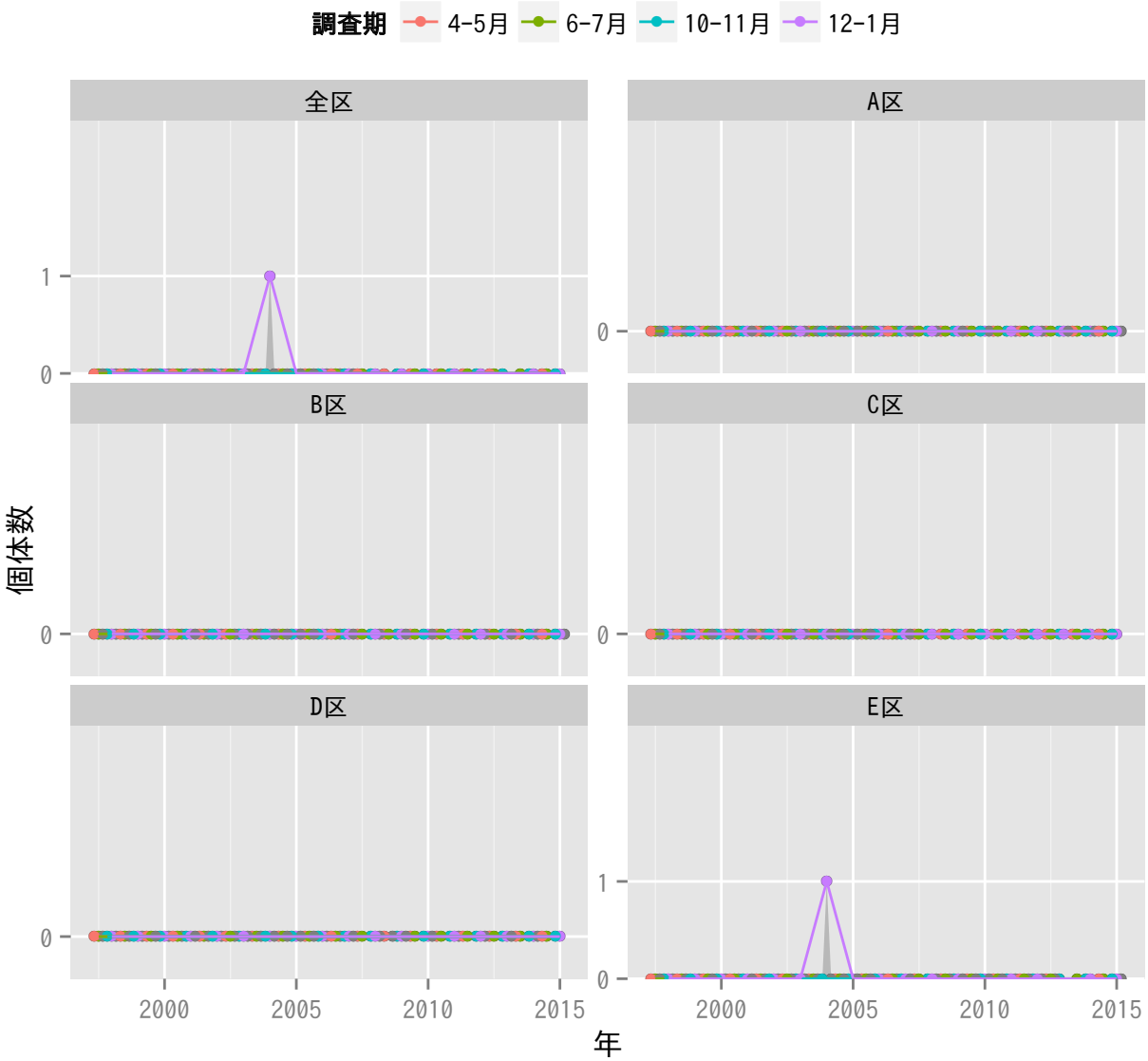

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

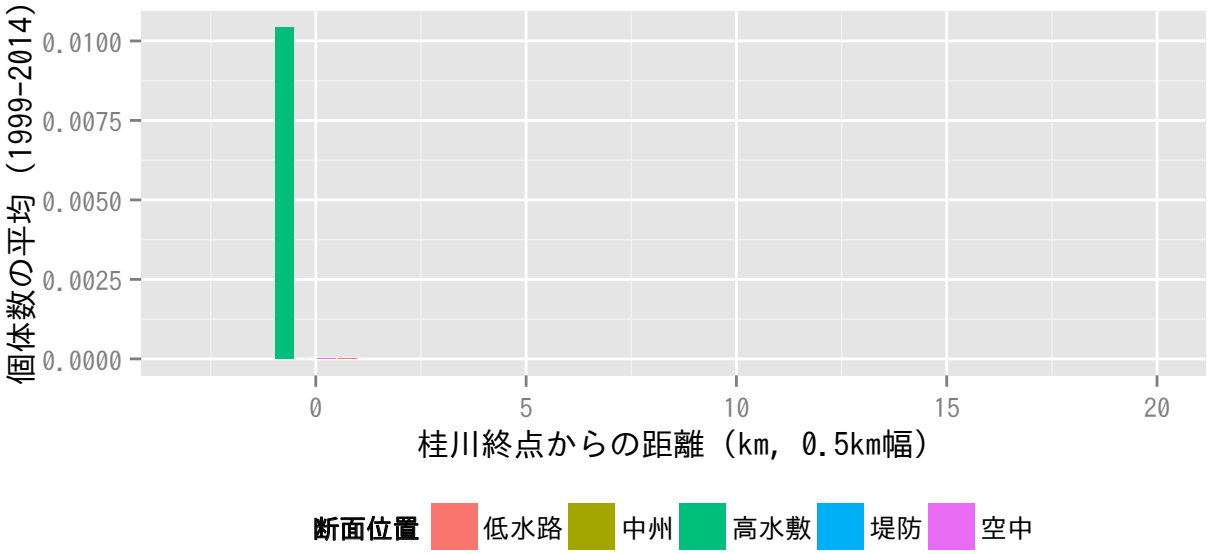
コゲラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

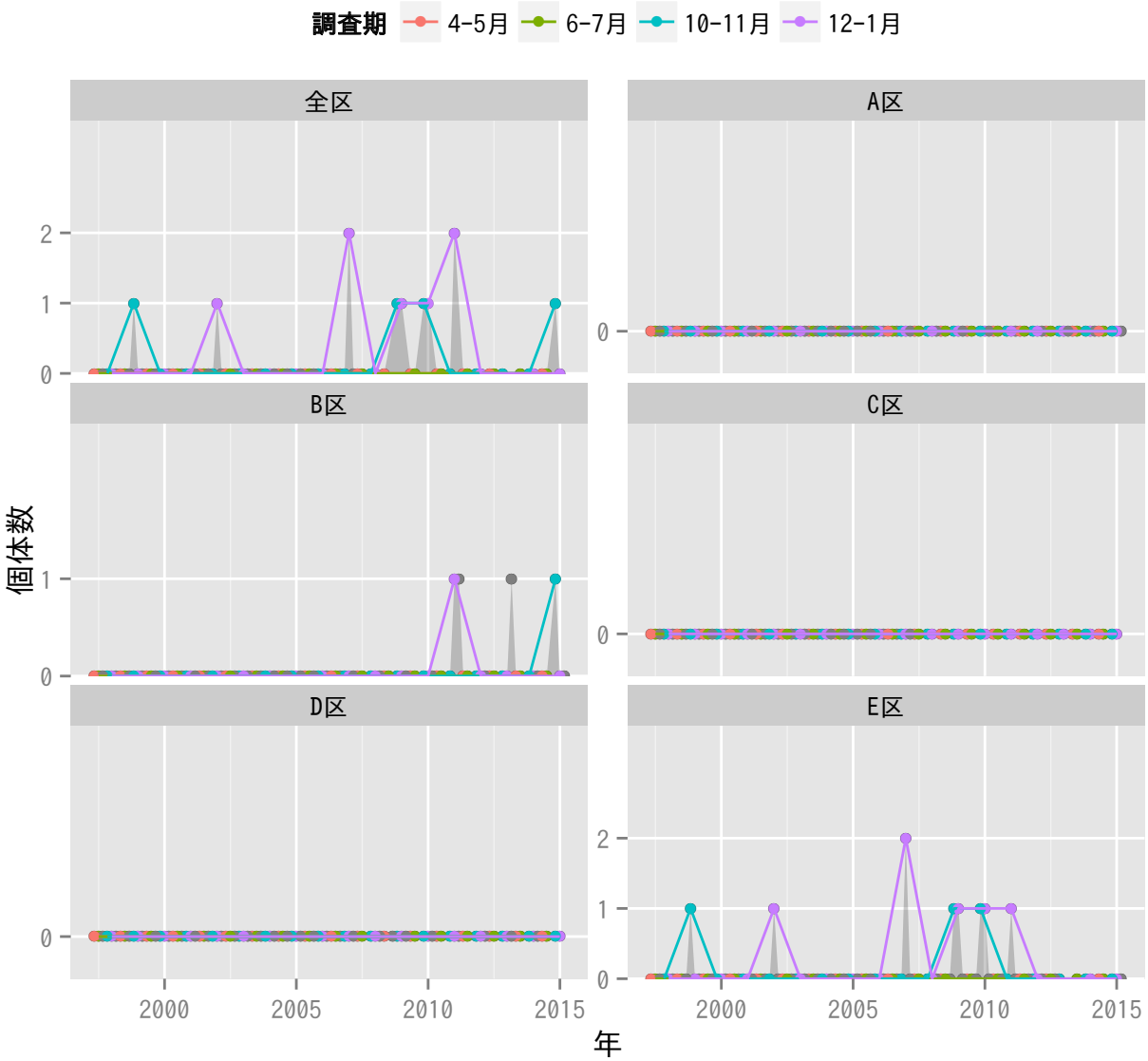

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

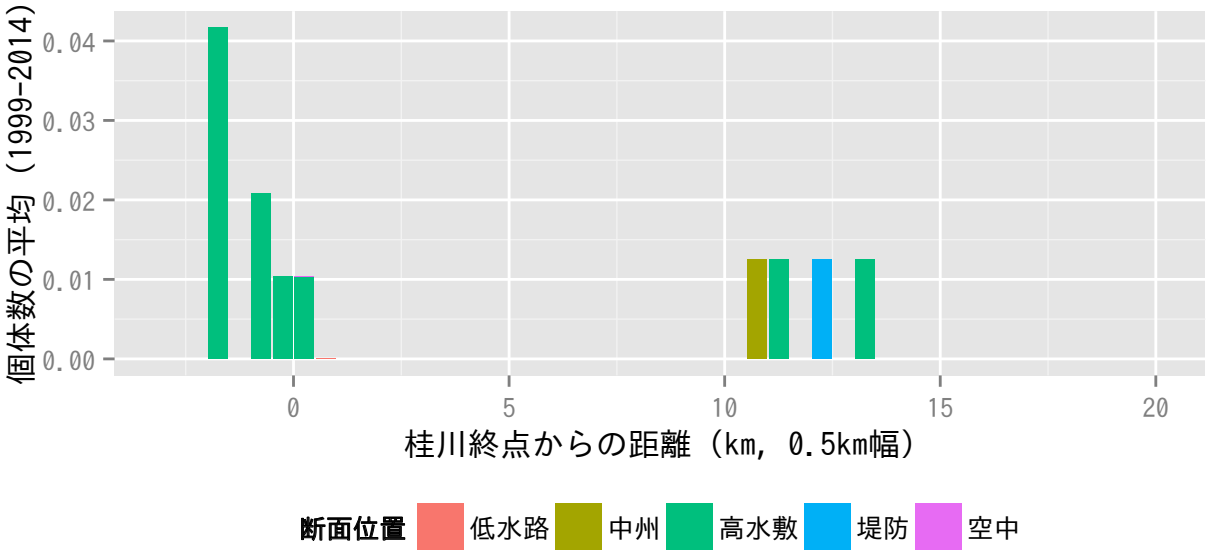
オオアカゲラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

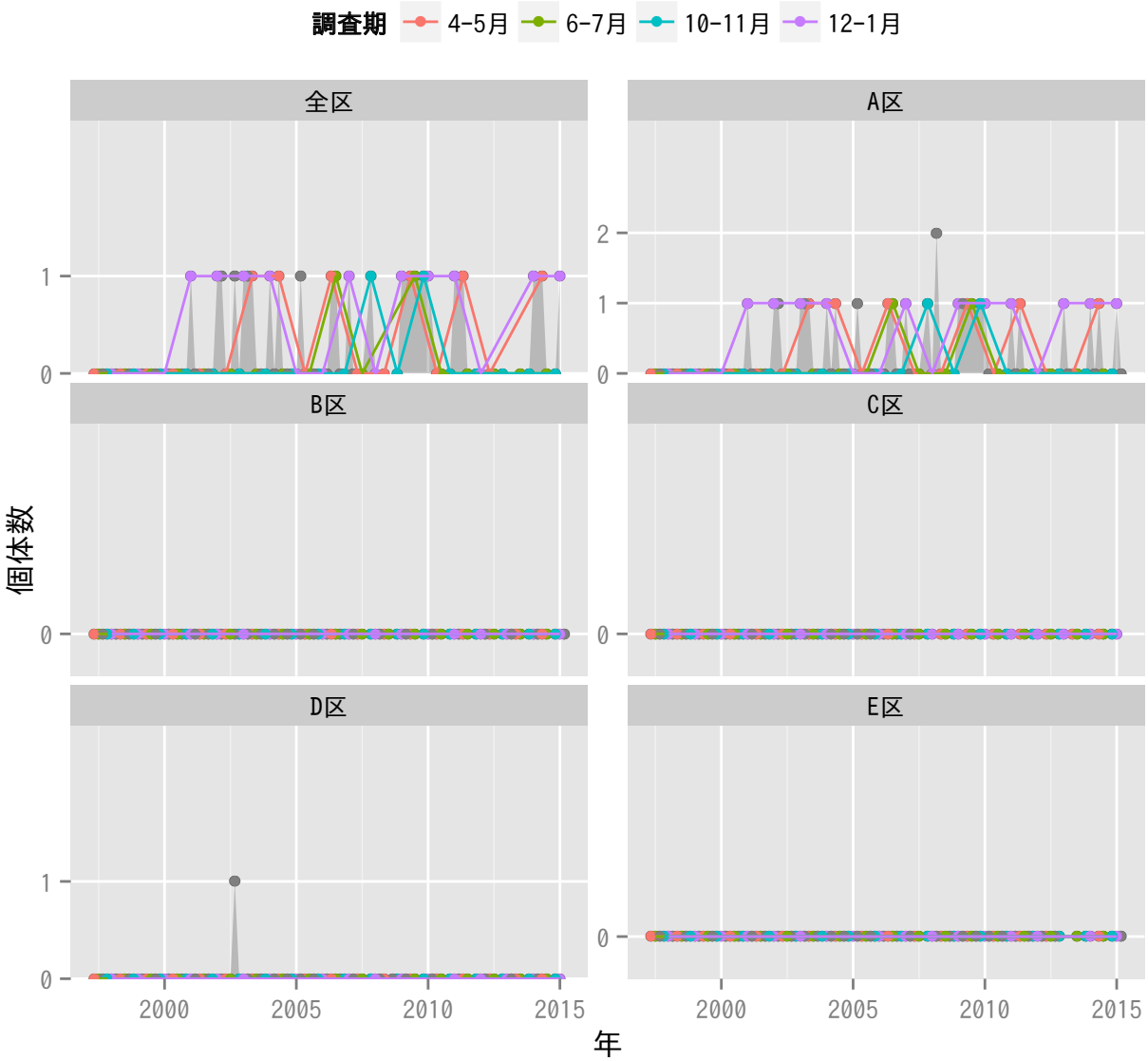

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

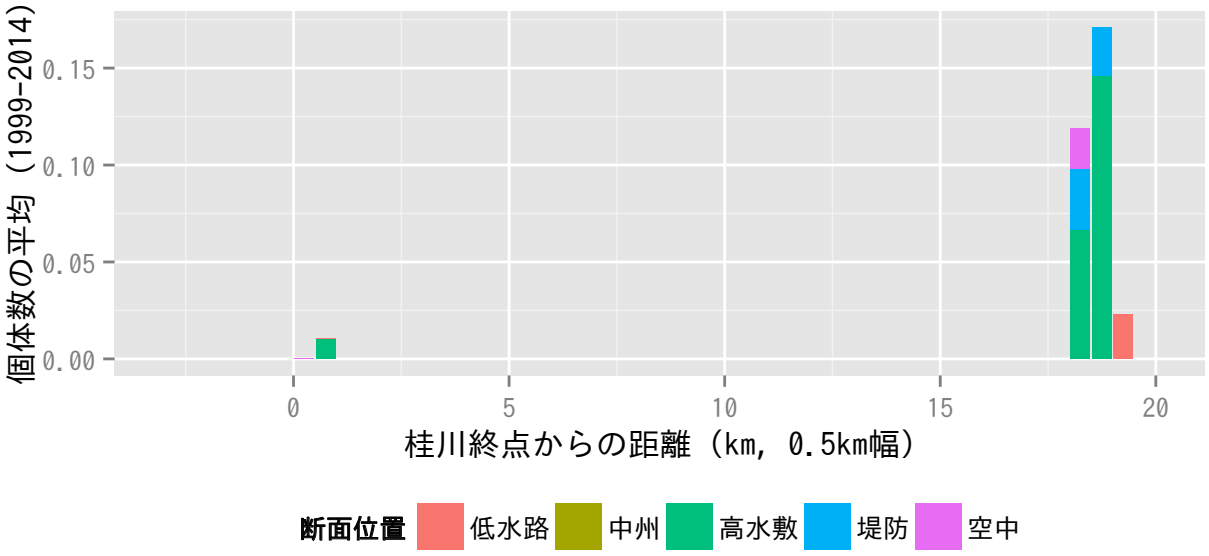
アカゲラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

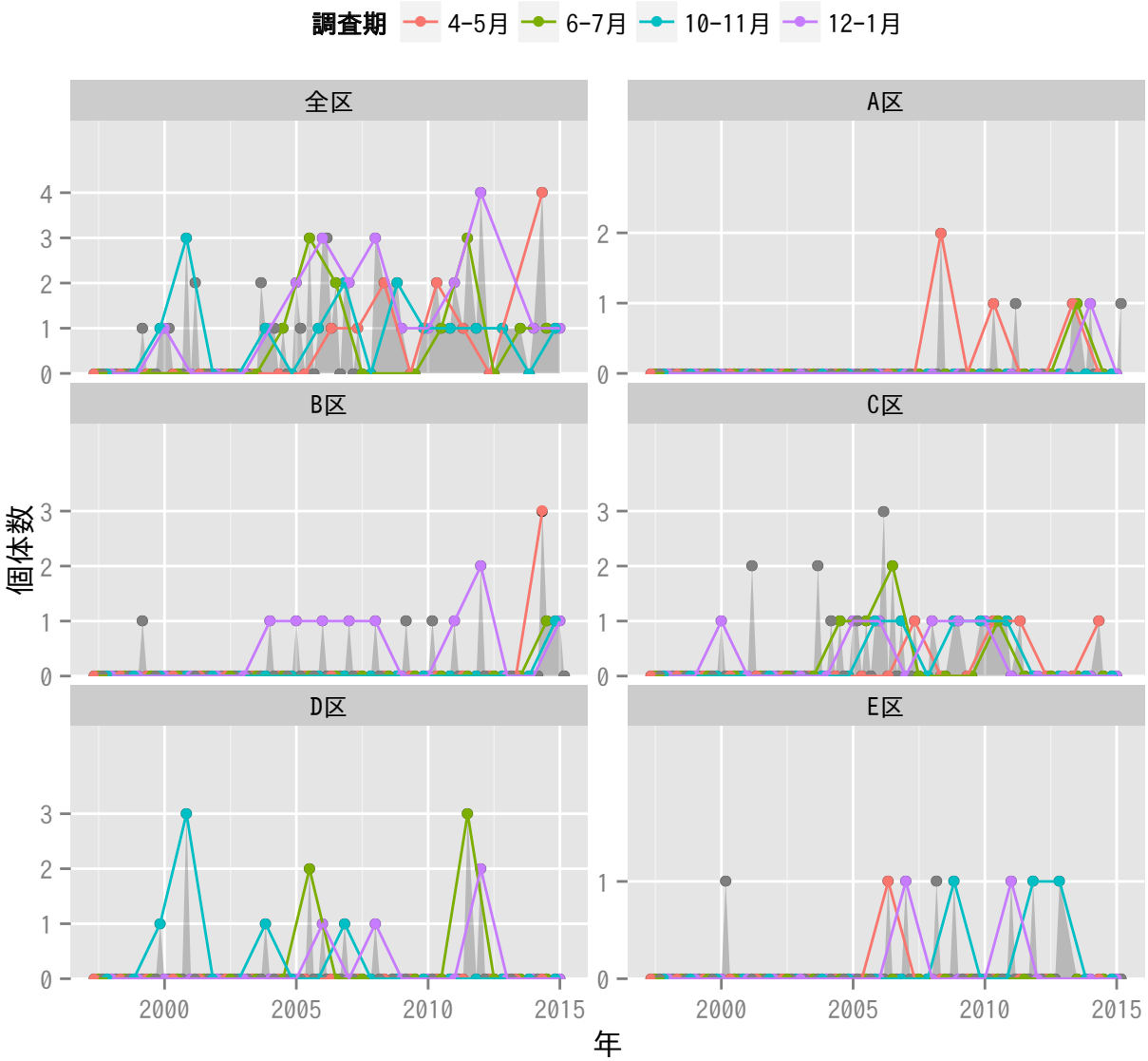

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

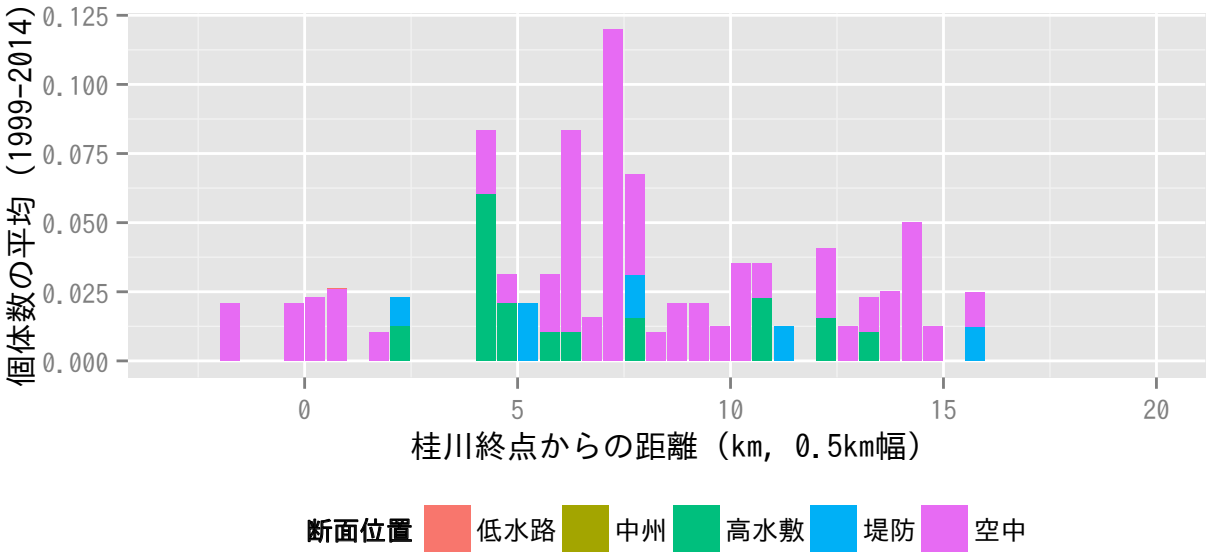
アオゲラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

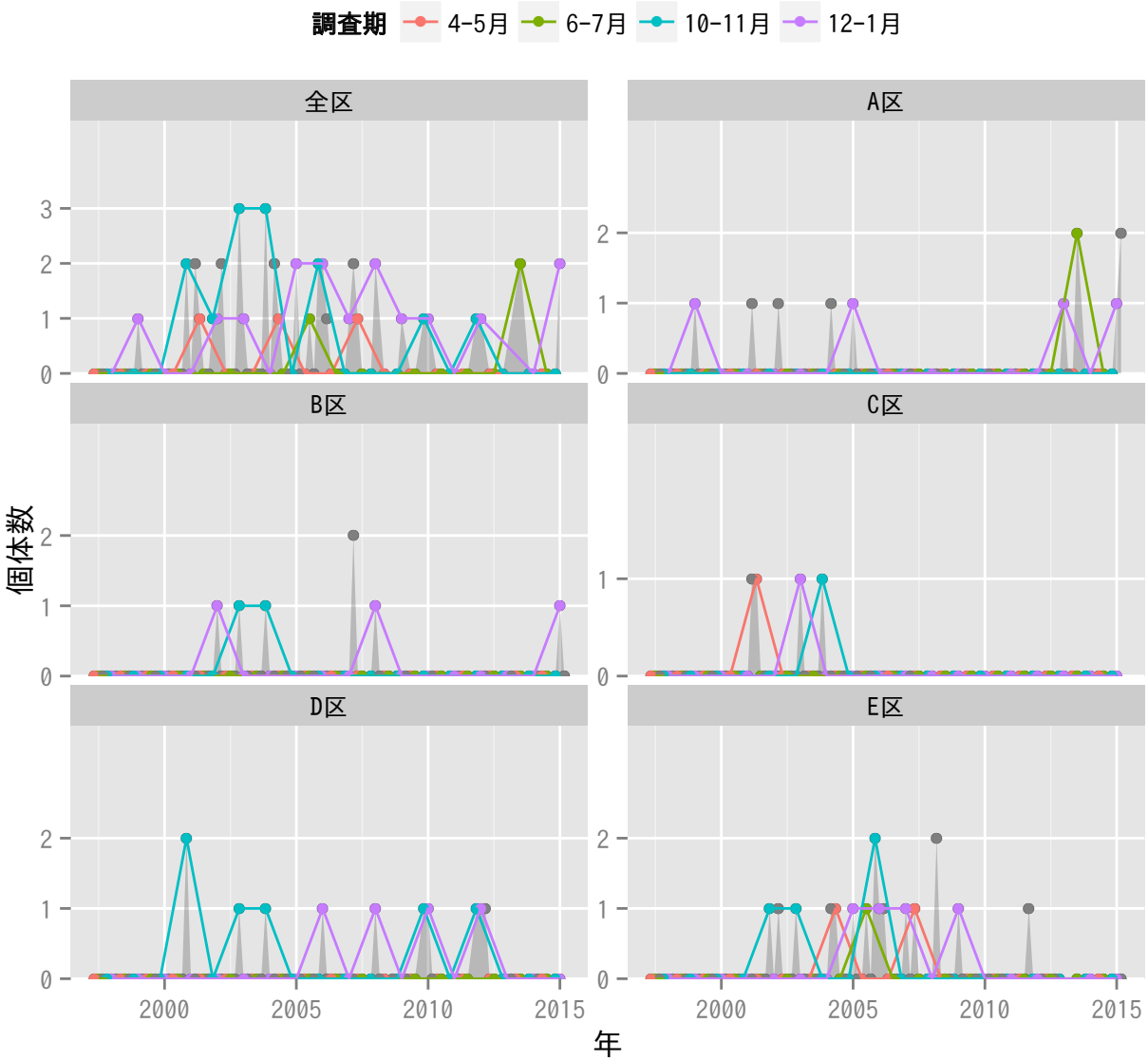

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

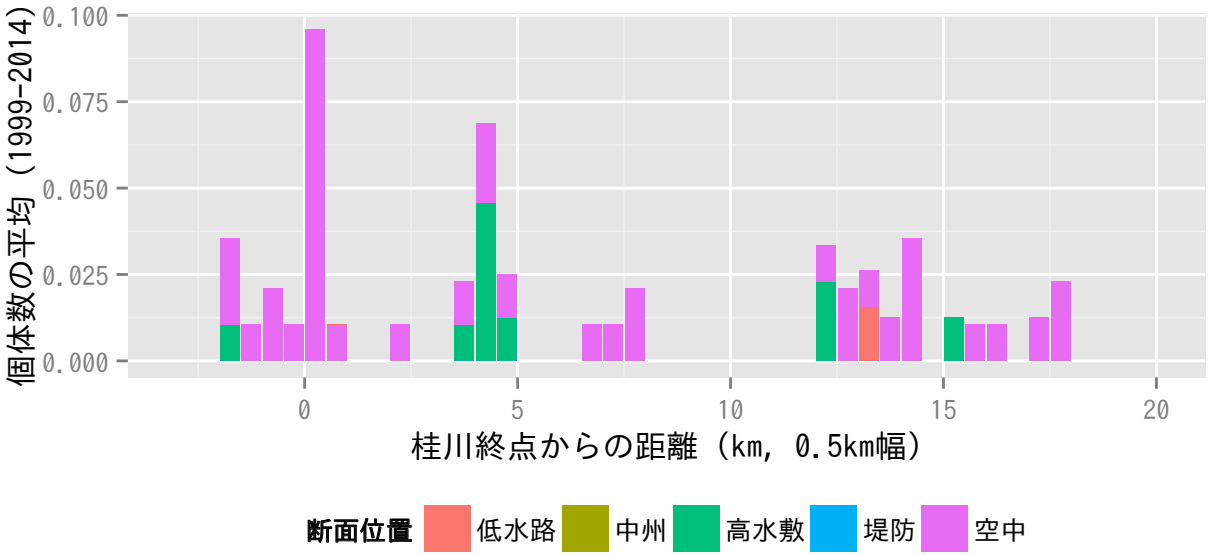
チョウゲンボウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

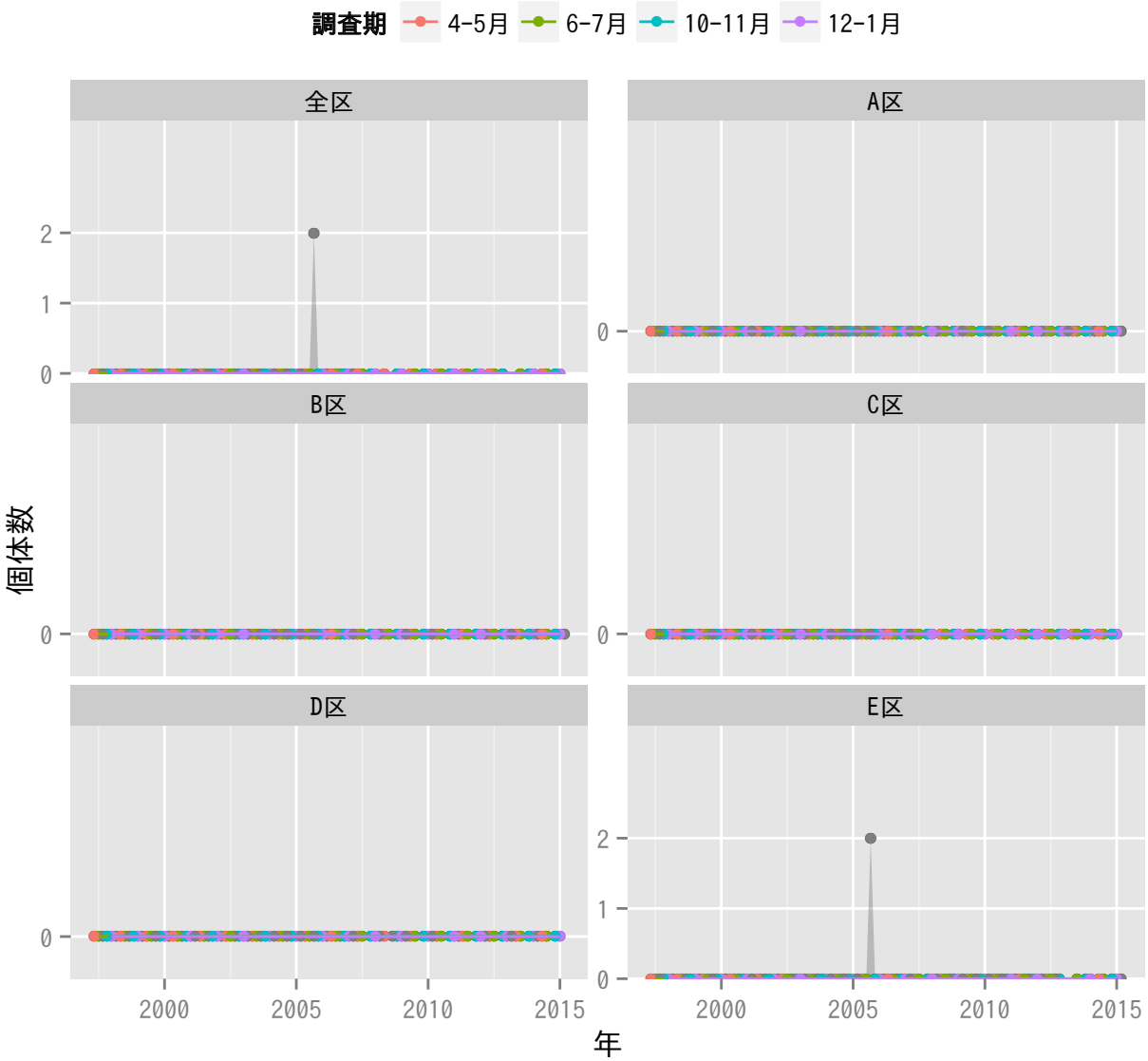

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

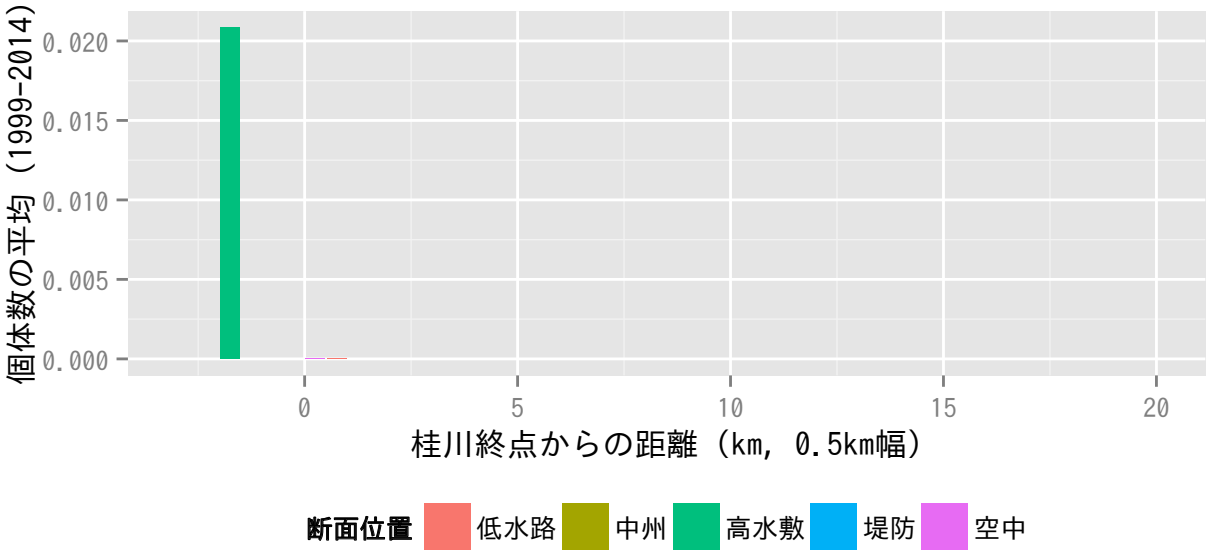
ハヤブサ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

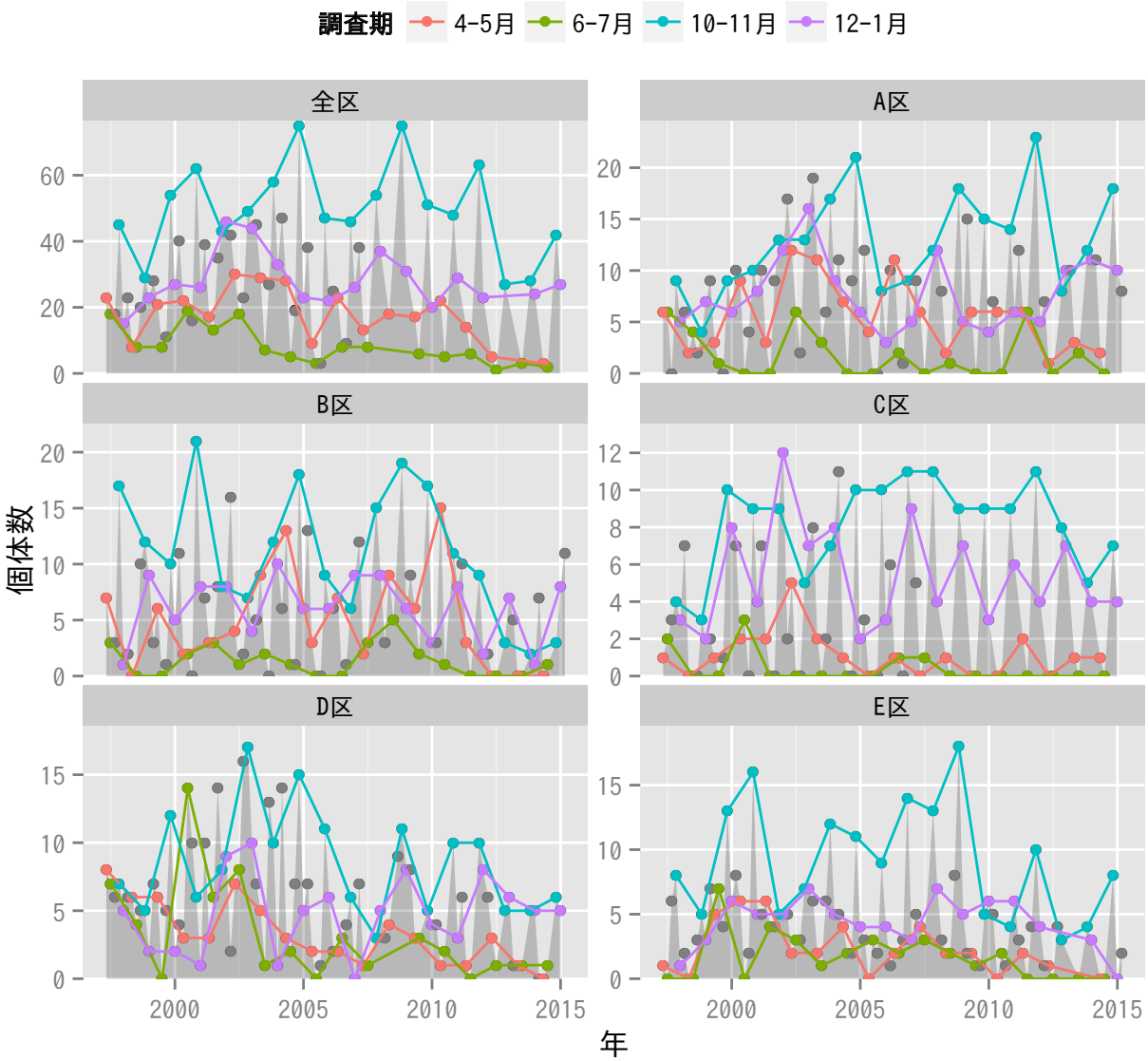

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

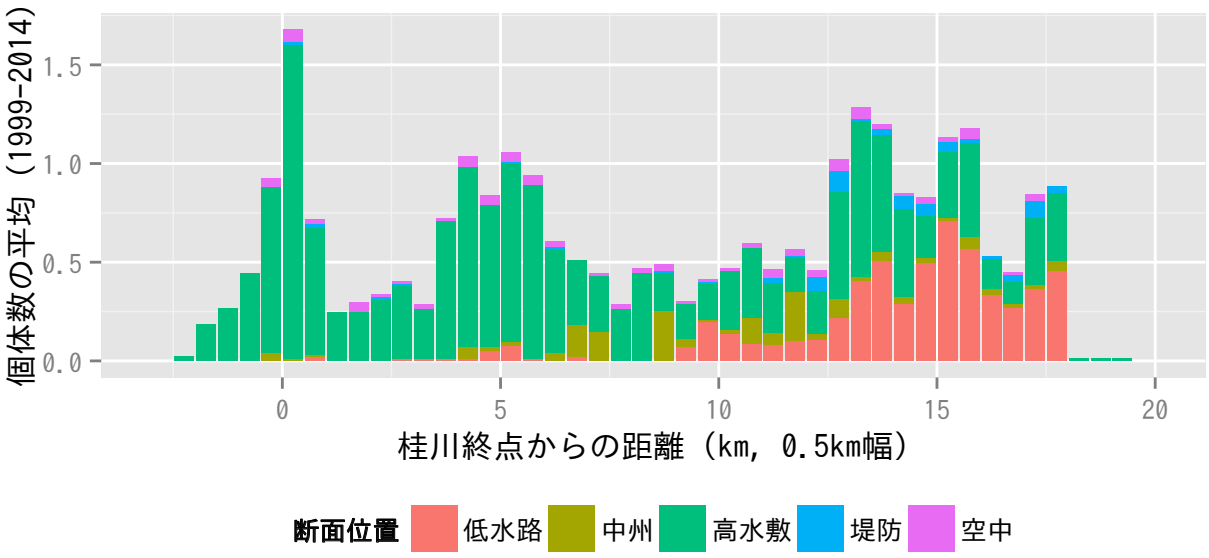
サンコウチョウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

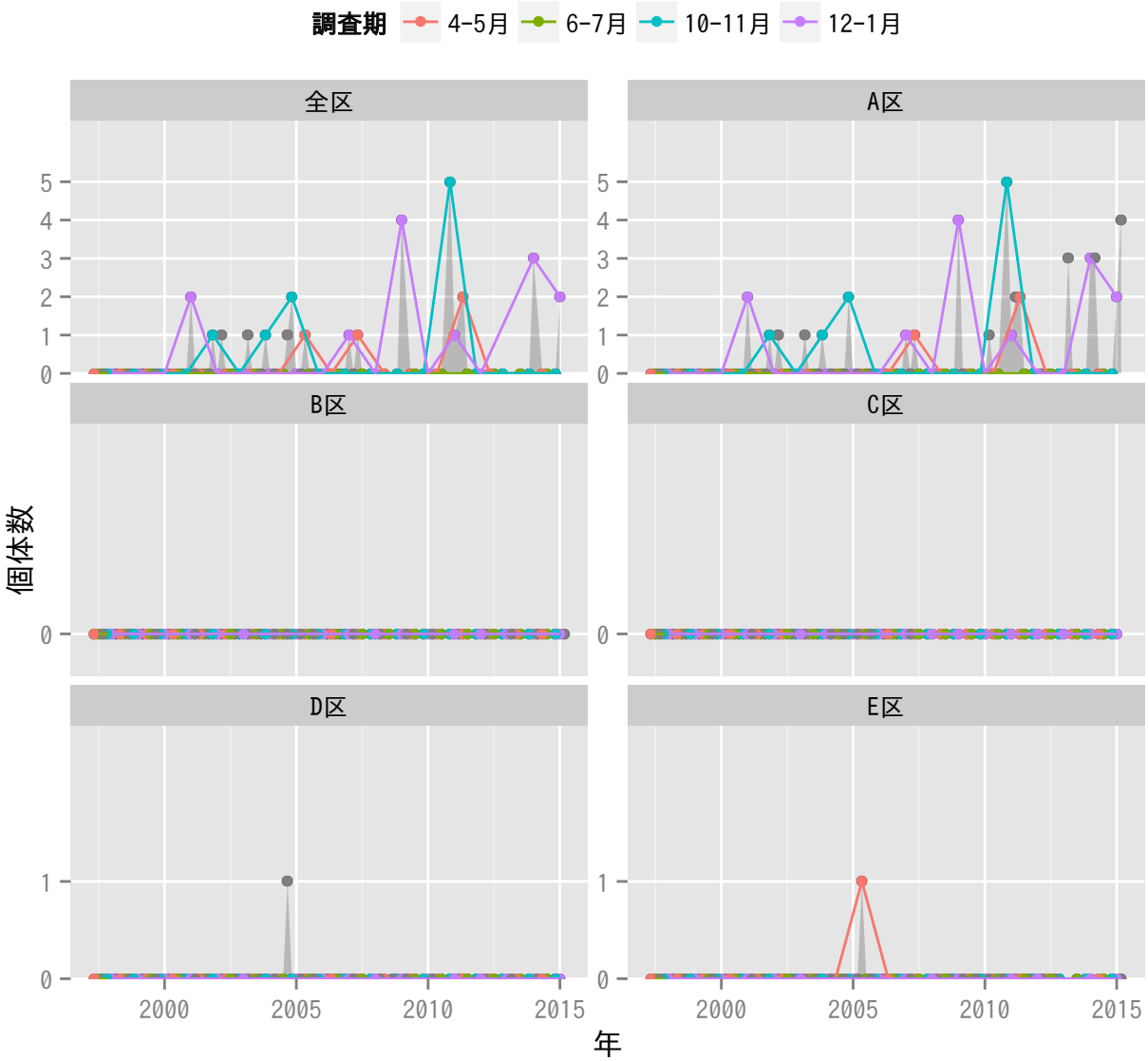

個体数の平均（1999-2014）
0.000
0.005
0.010
0.015
0.020
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

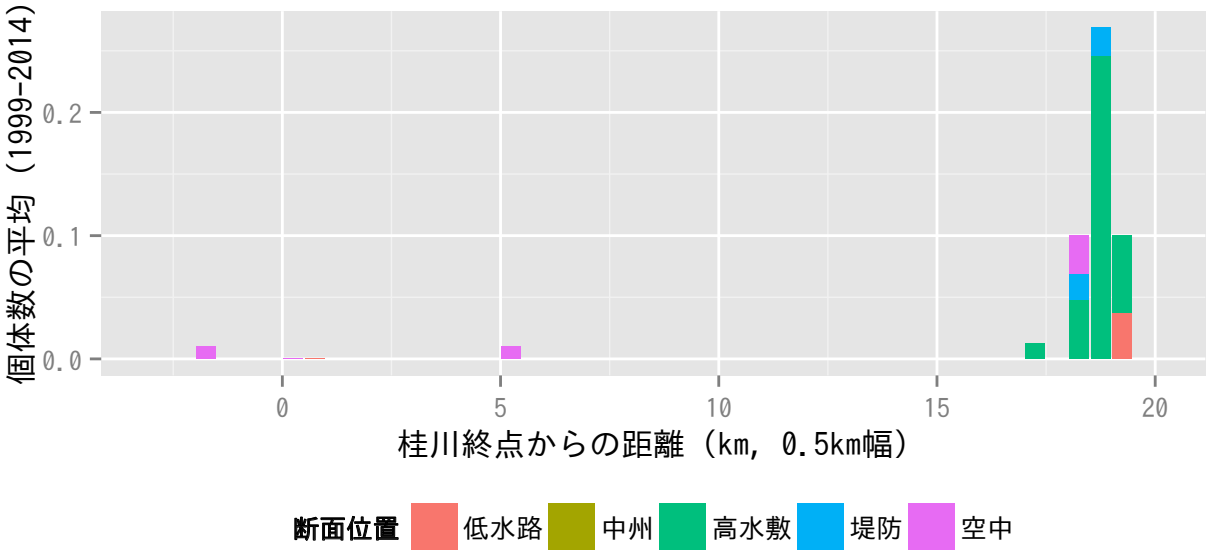
モズ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

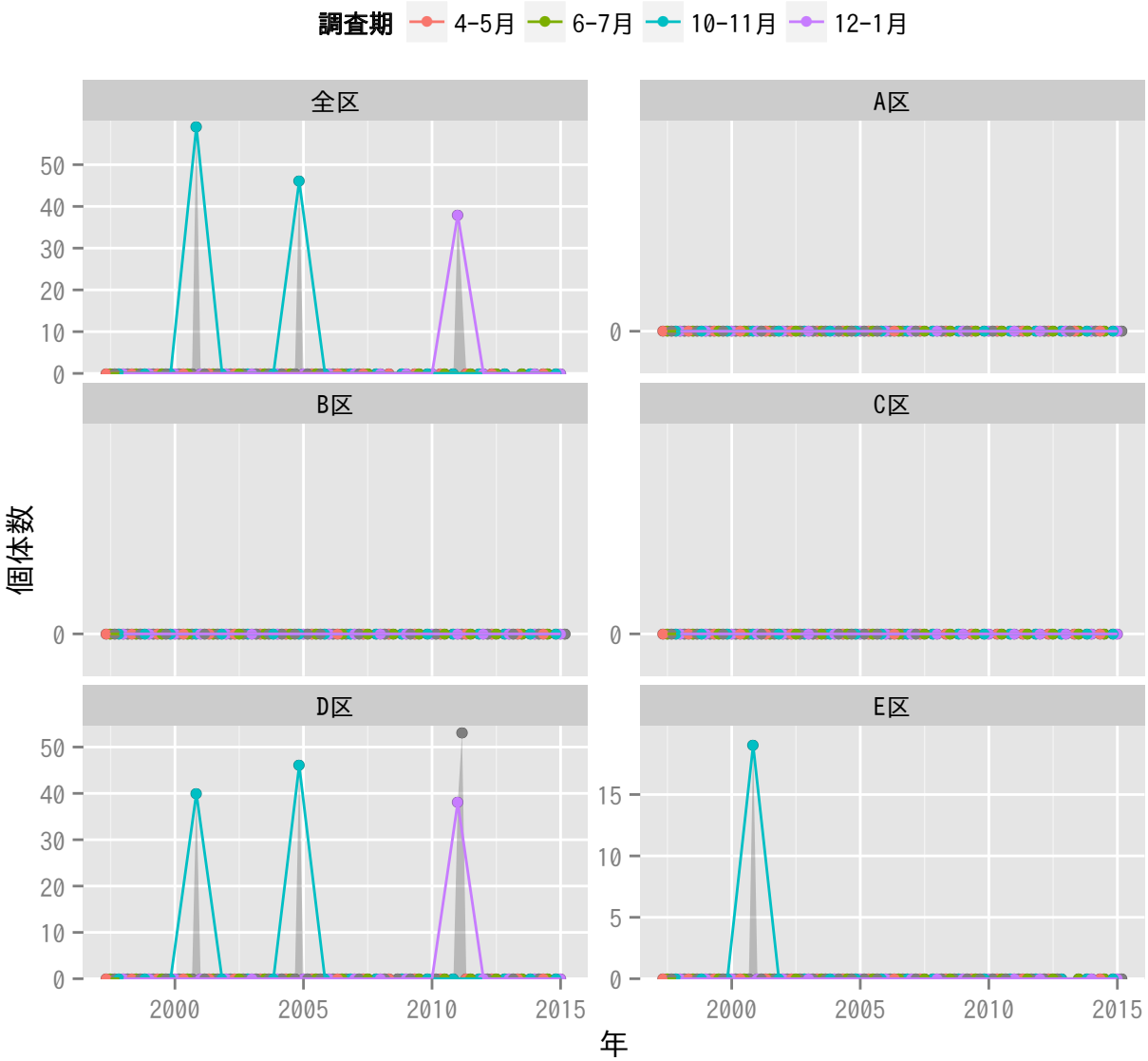

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

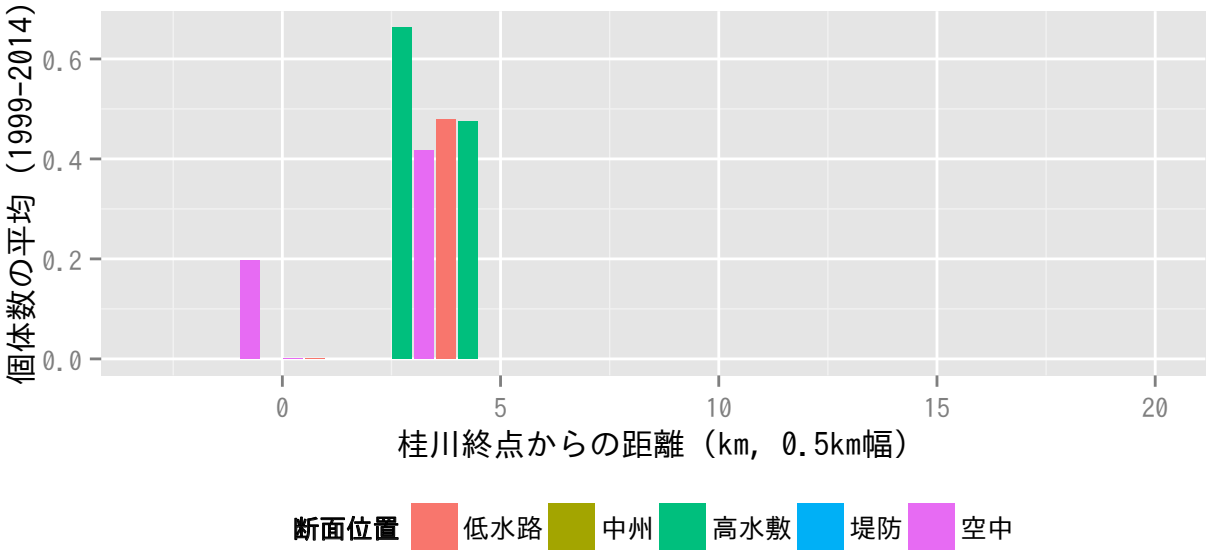
カケス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

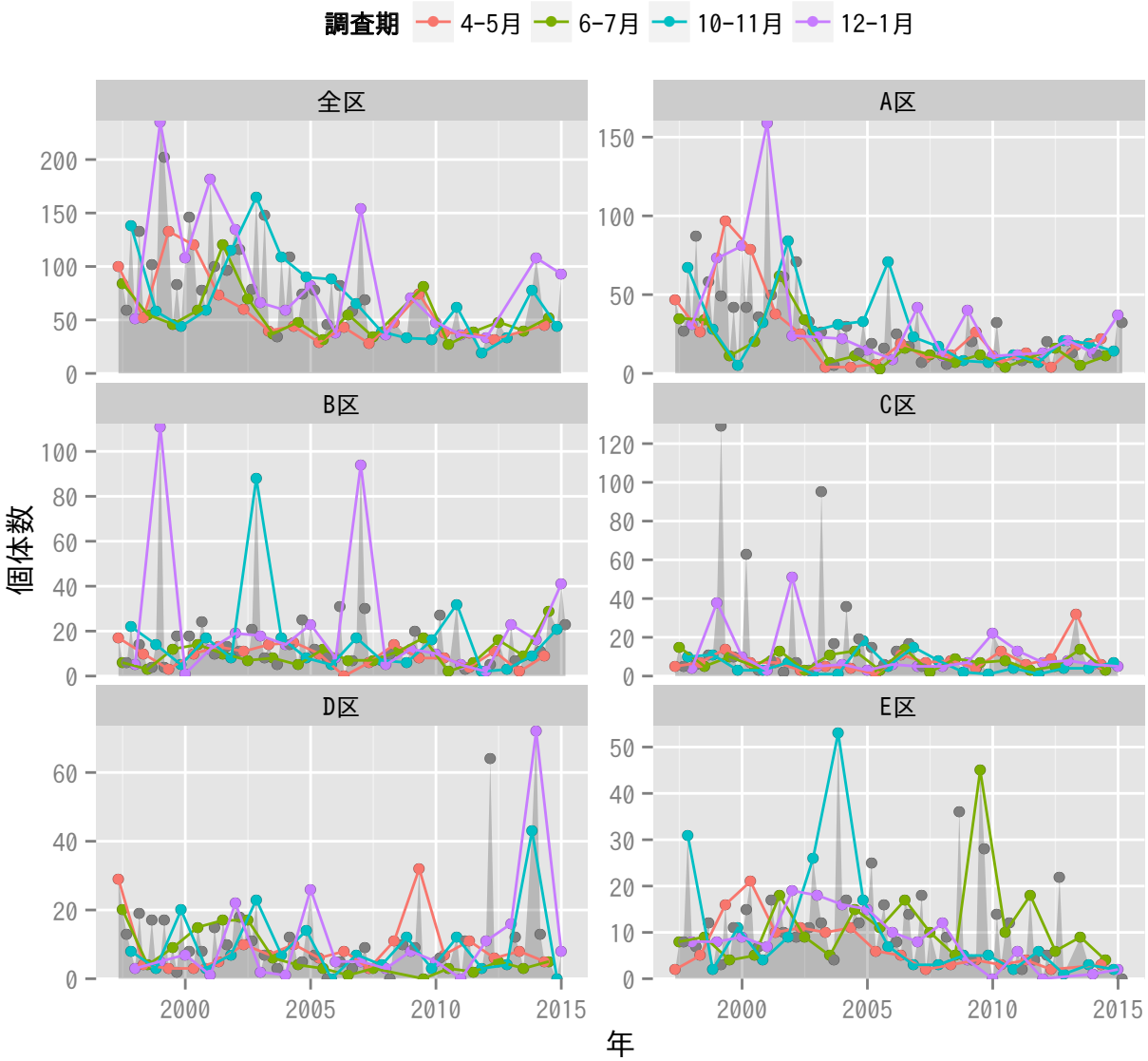

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

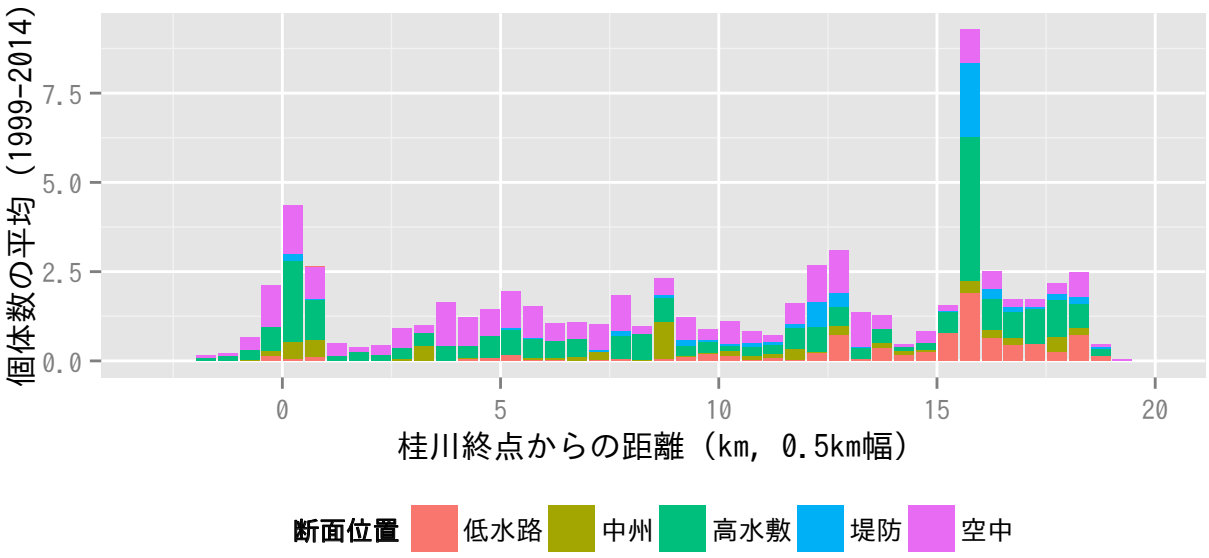
ミヤマガラス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
10
20
30
40
50
5
15
2000
2005
2010
2015

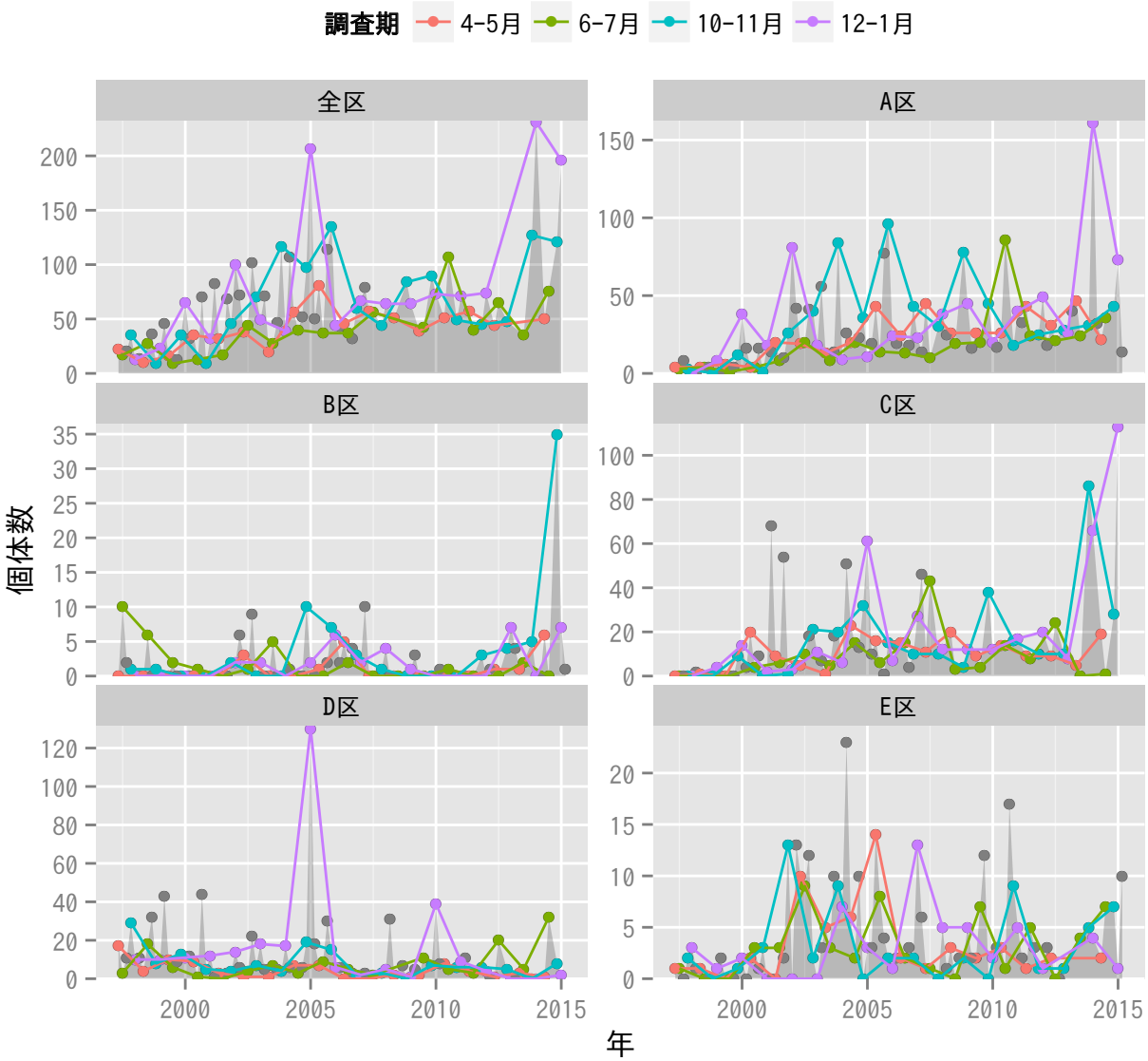

個体数の平均（1999-2014）
0.0
0.2
0.4
0.6
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

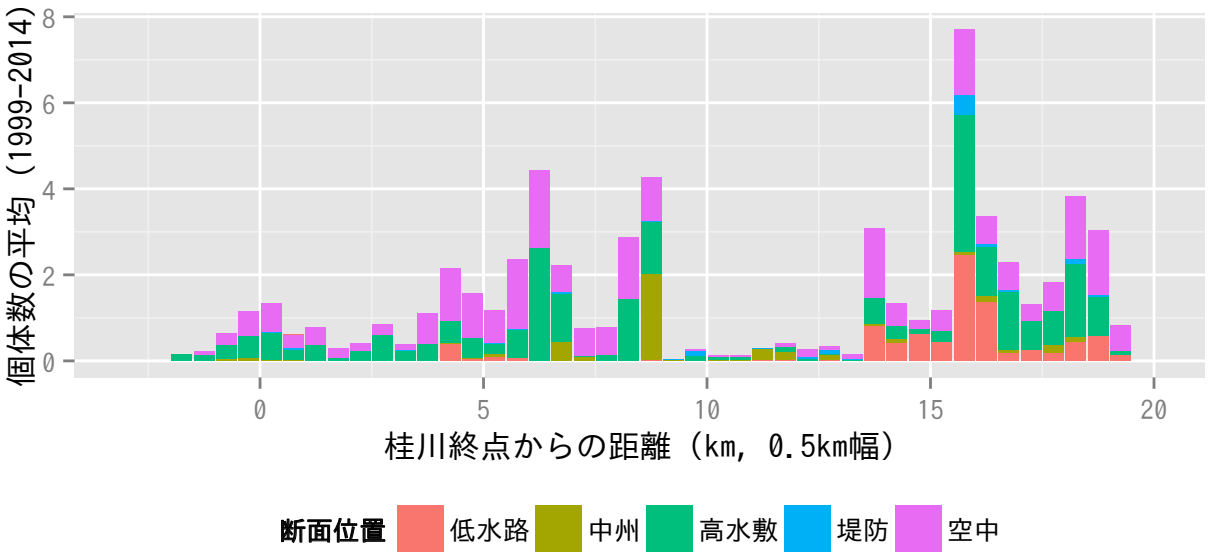
ハシボソガラス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

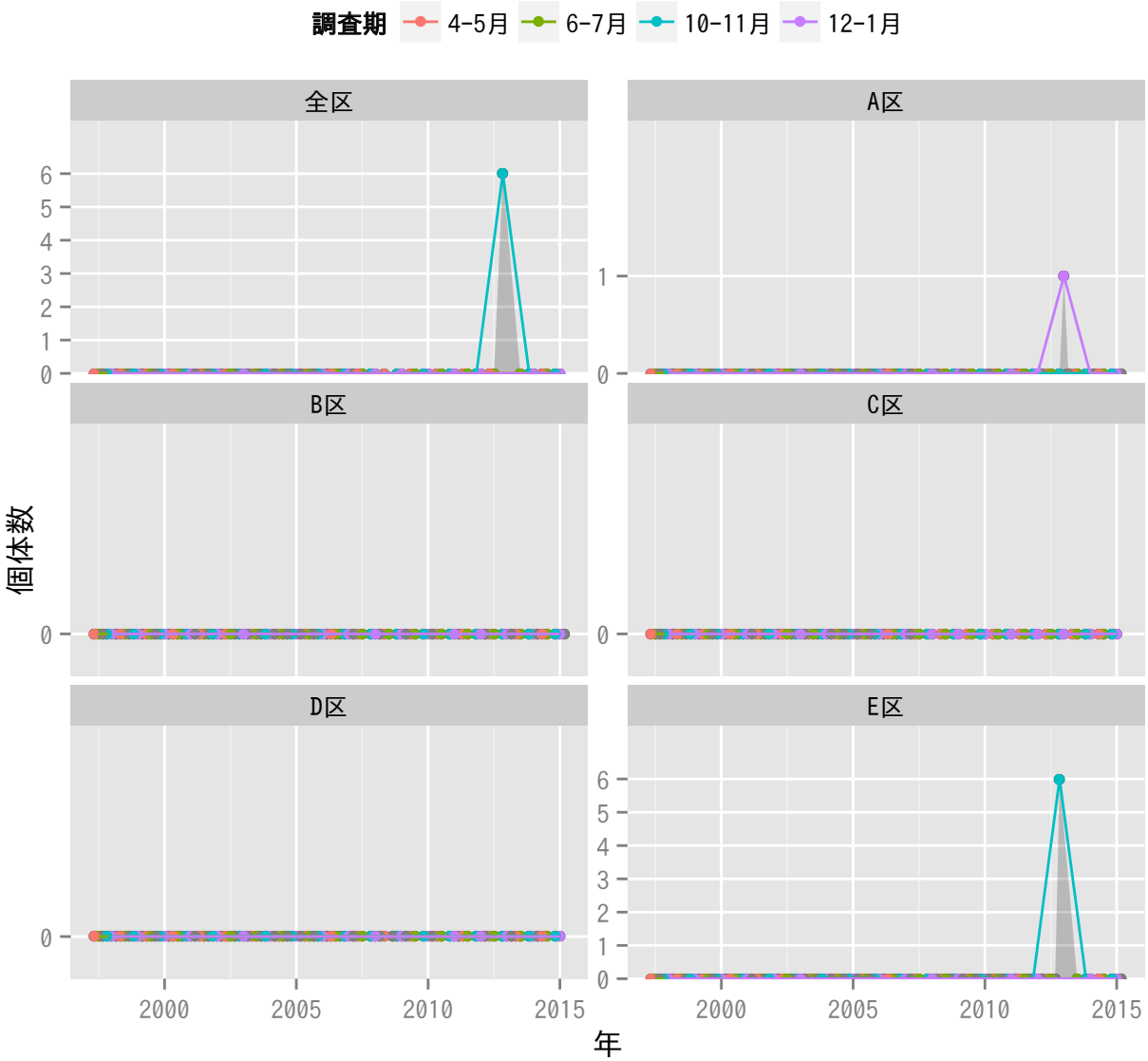

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

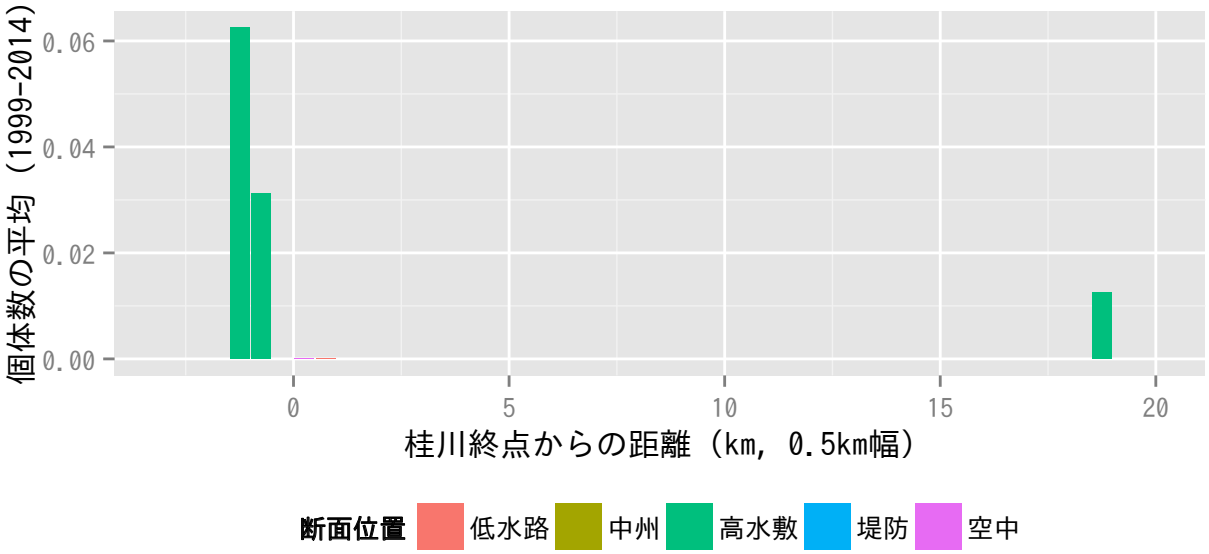
ハシブトガラス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

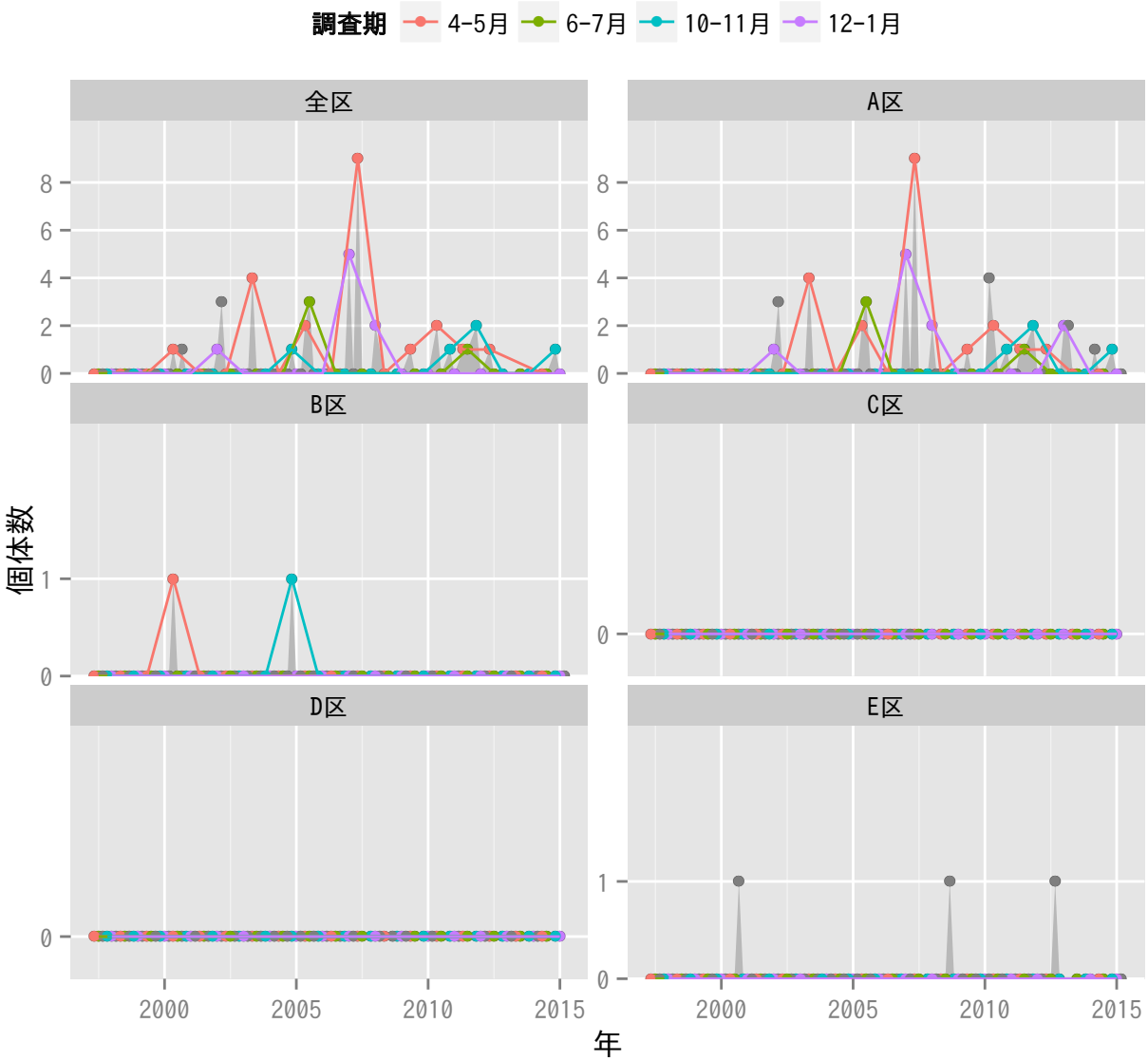

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

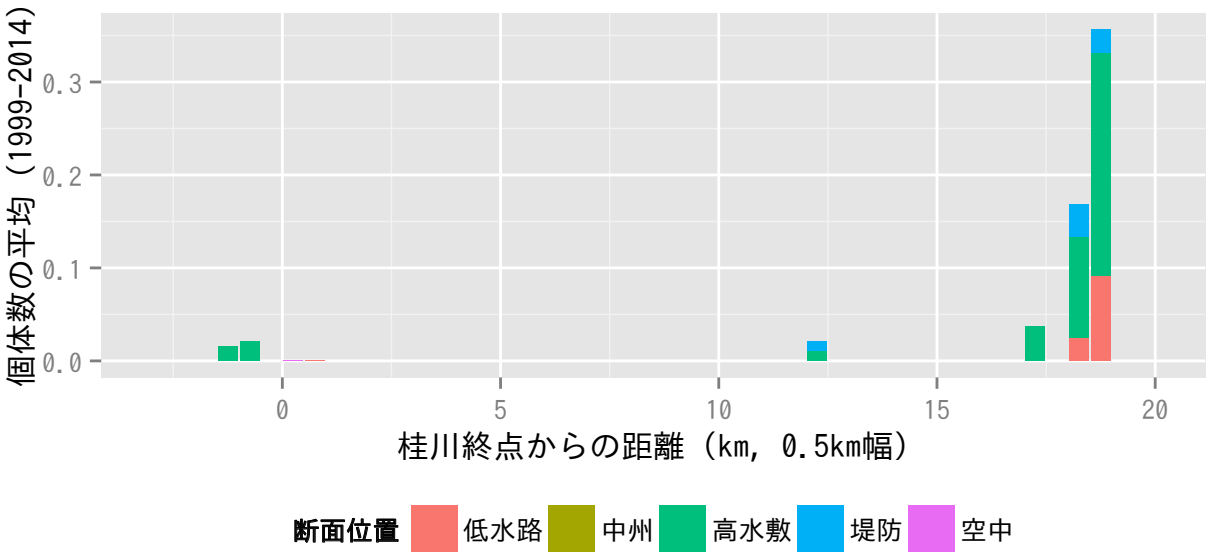
キクイタダキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

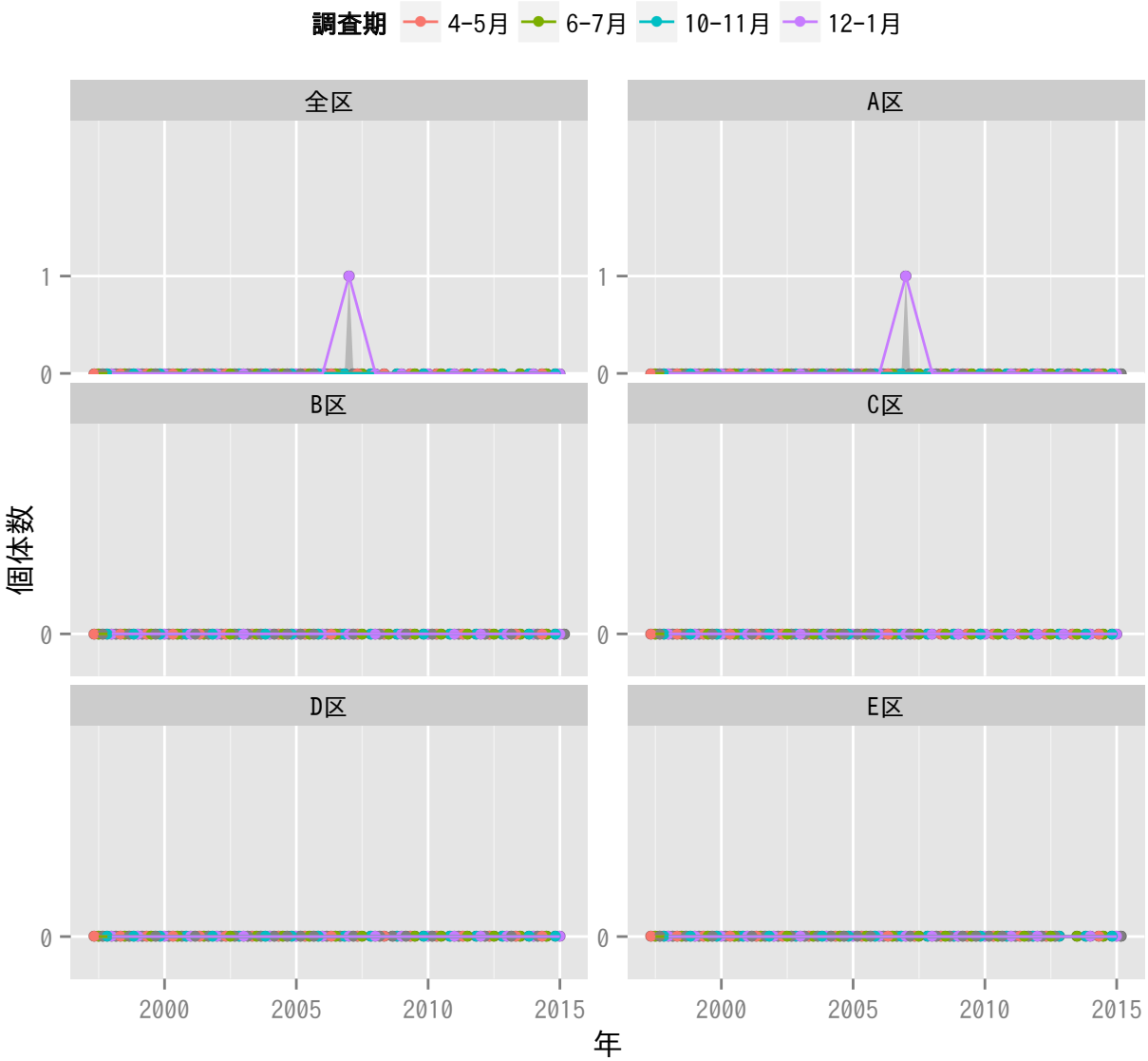

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

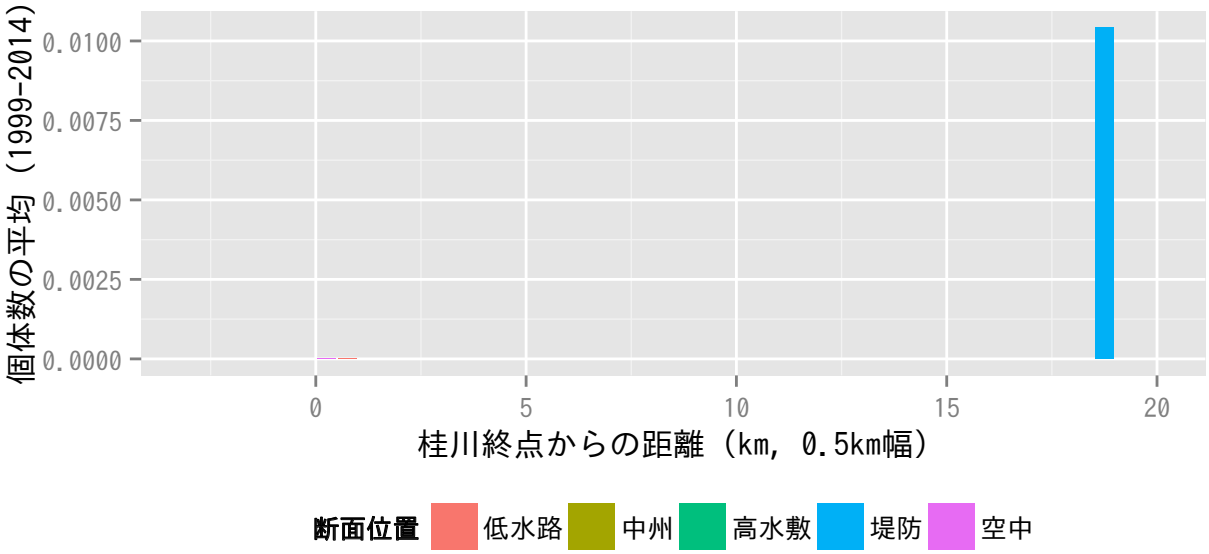
ヤマガラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

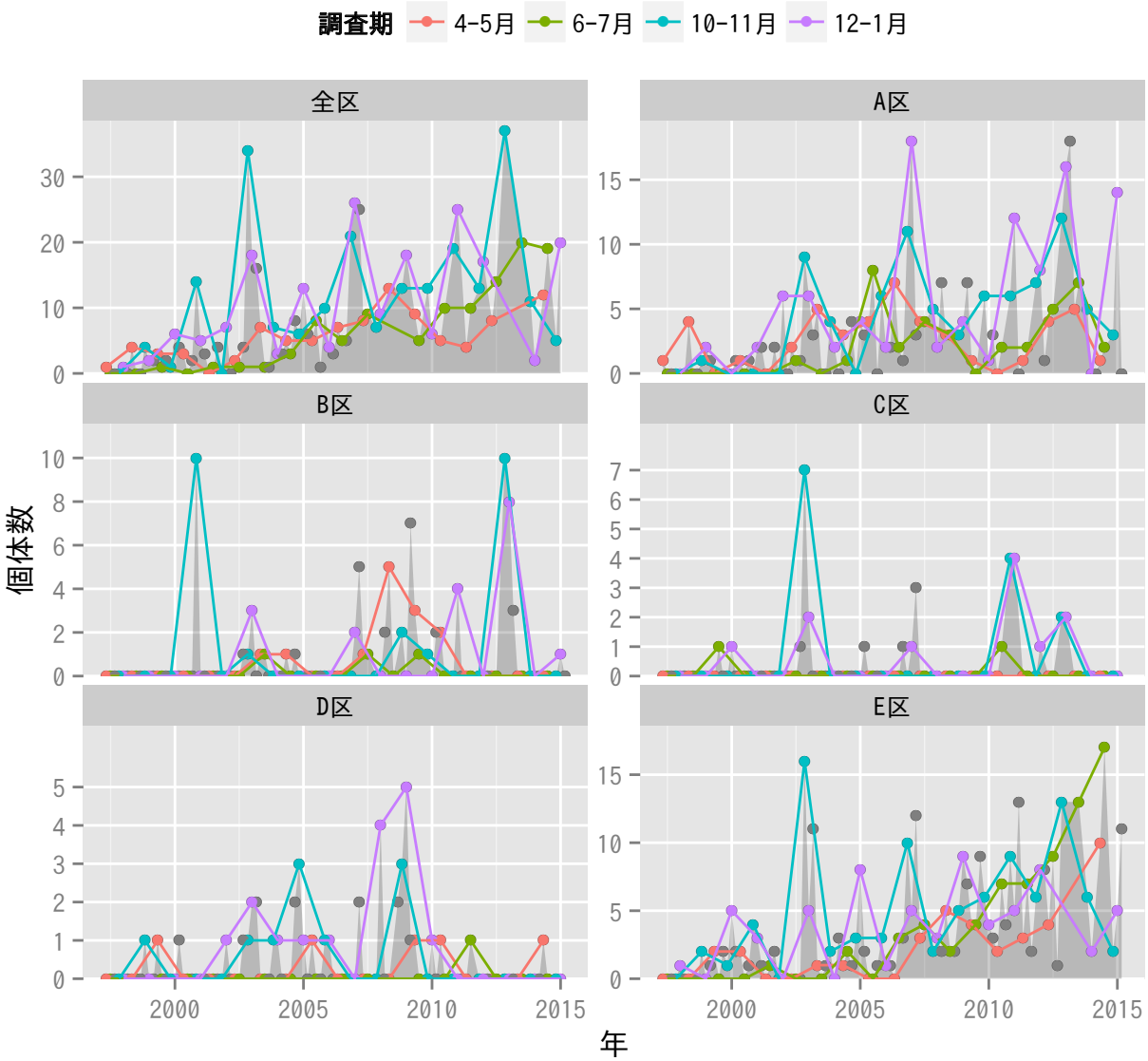

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

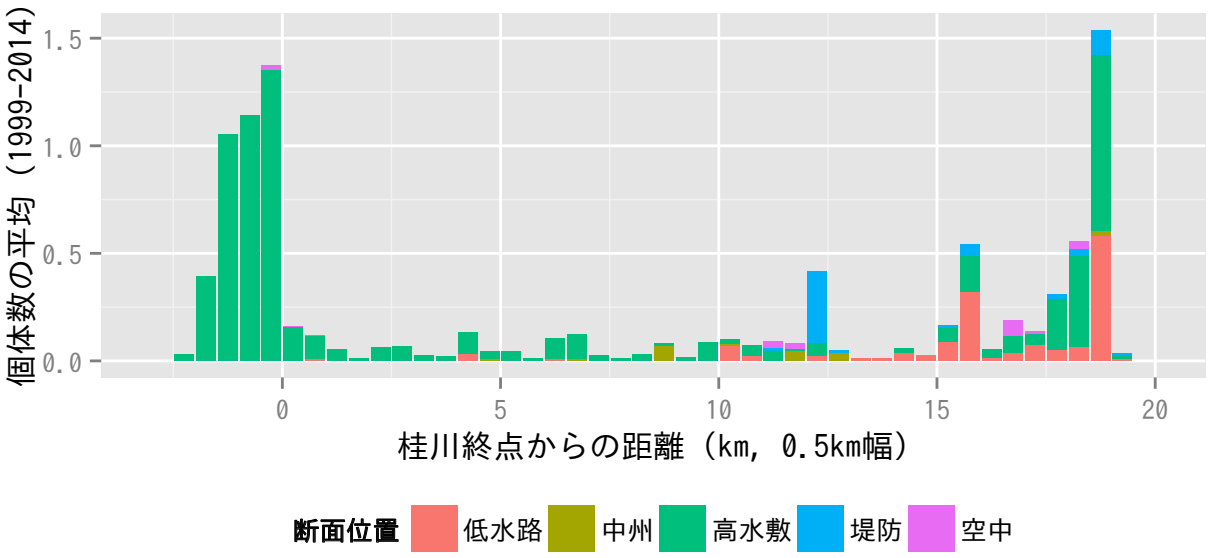
ヒガラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

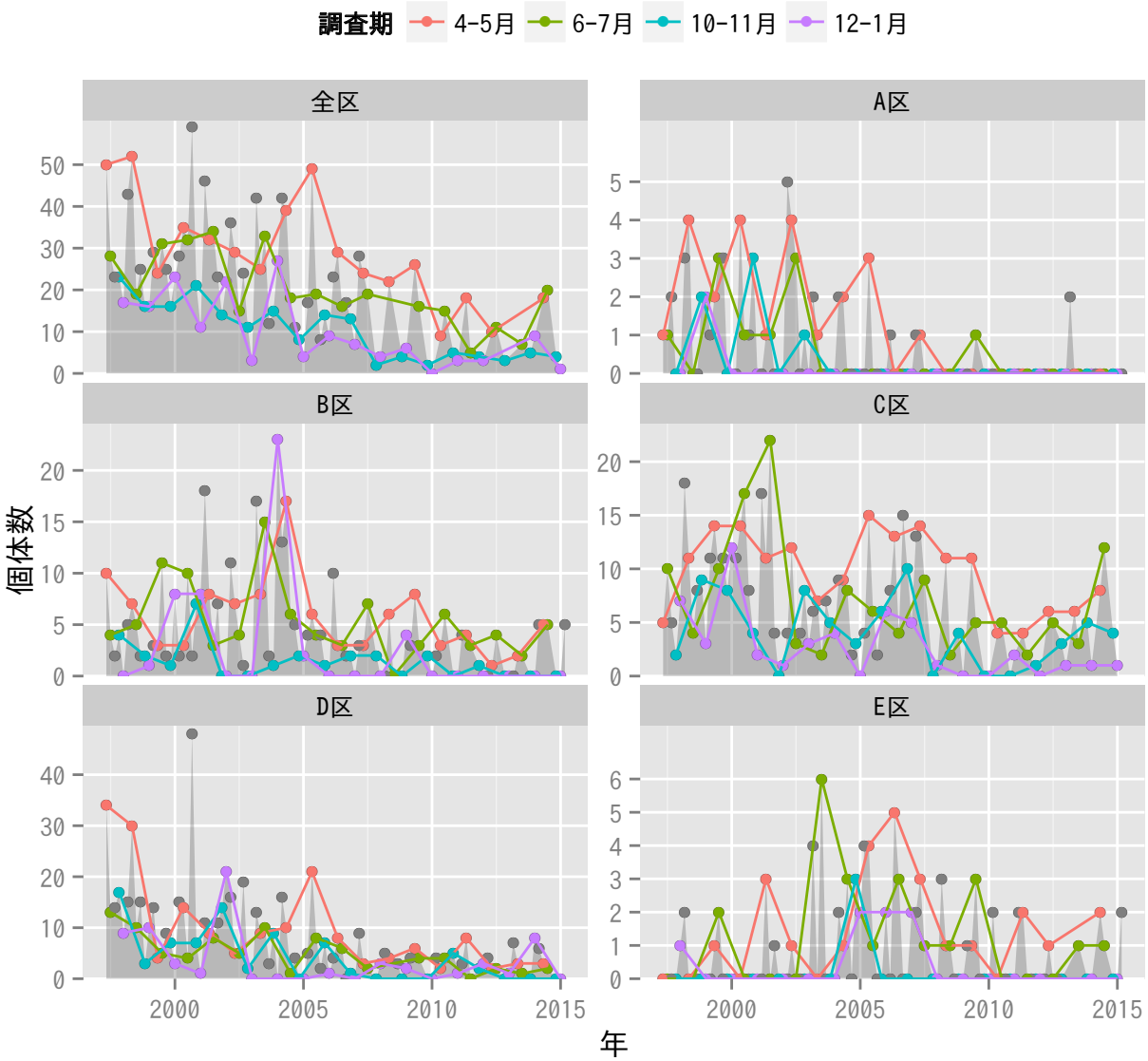

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

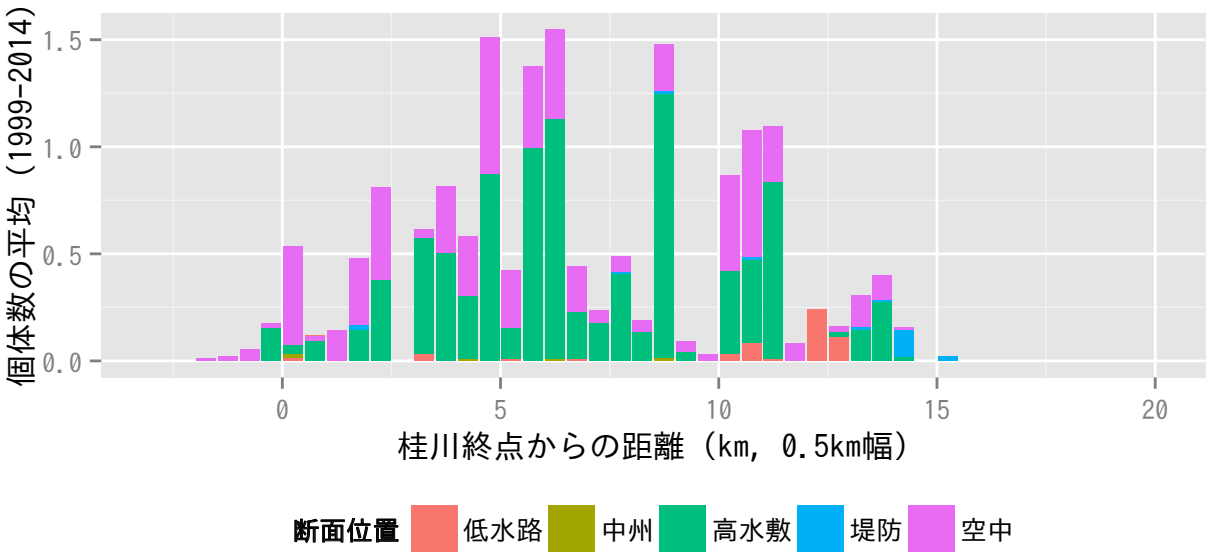
シジュウカラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

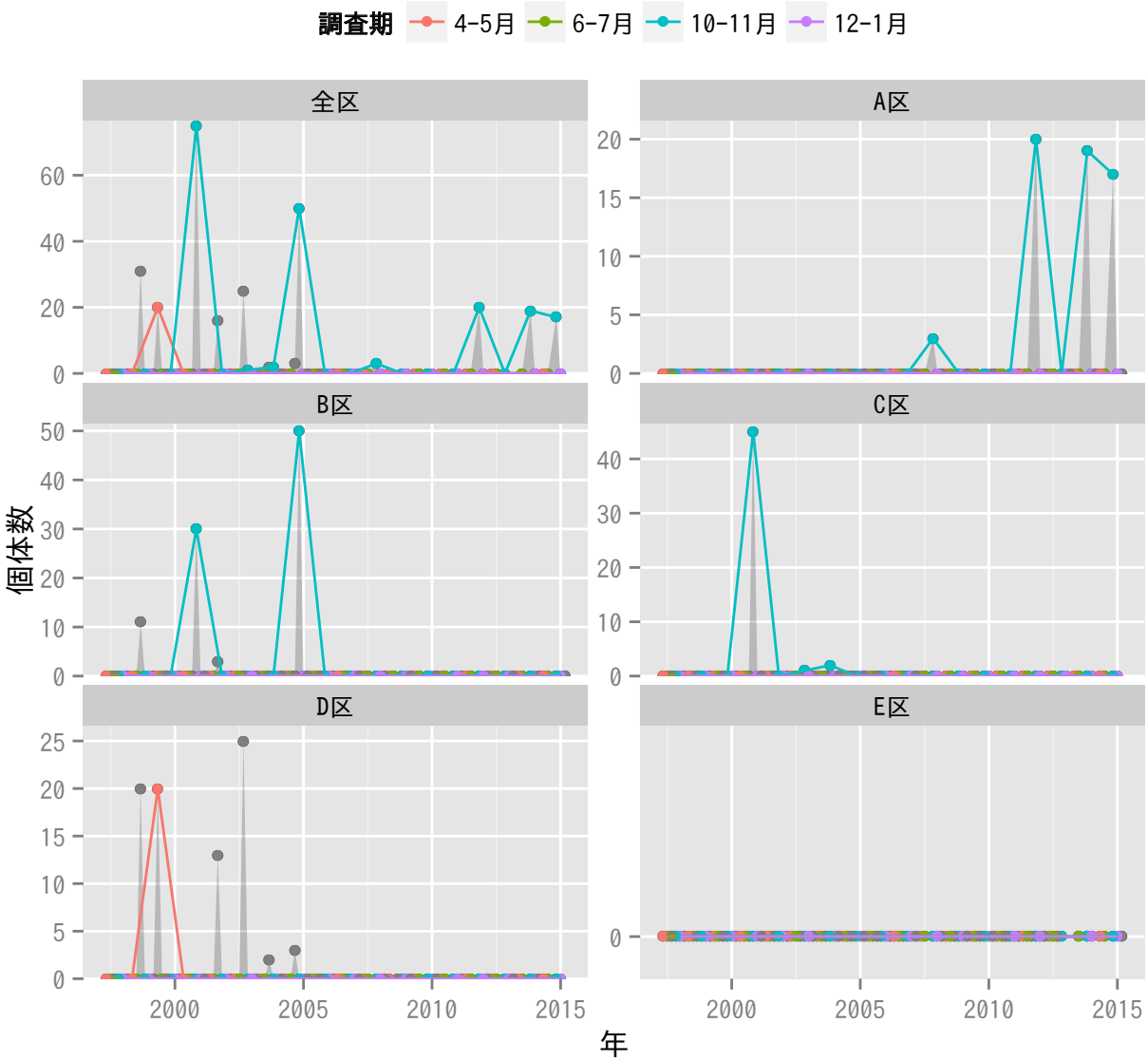

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

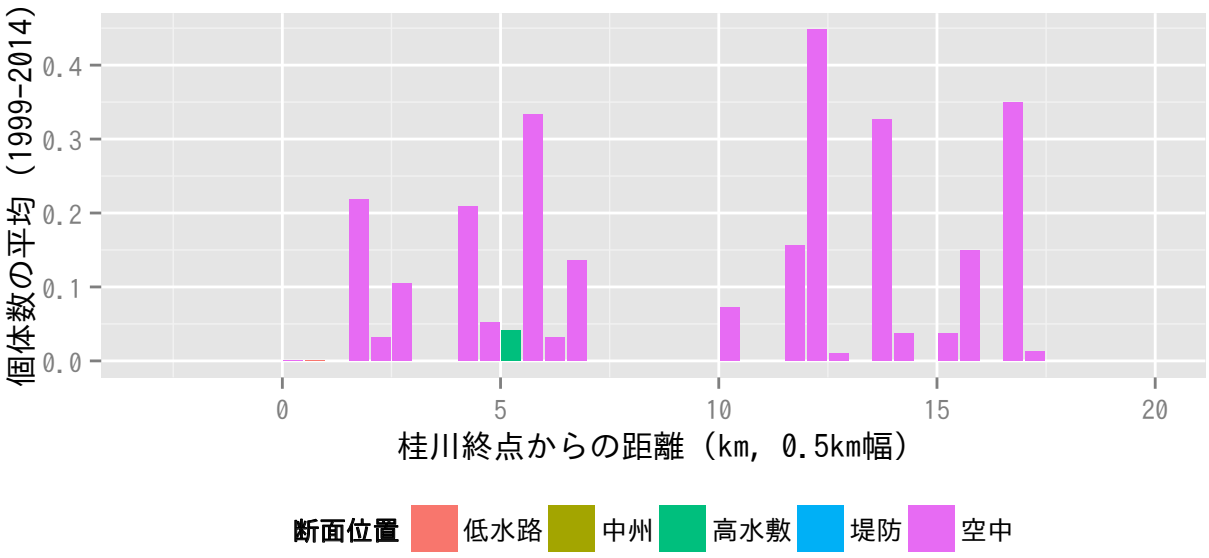
ヒバリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

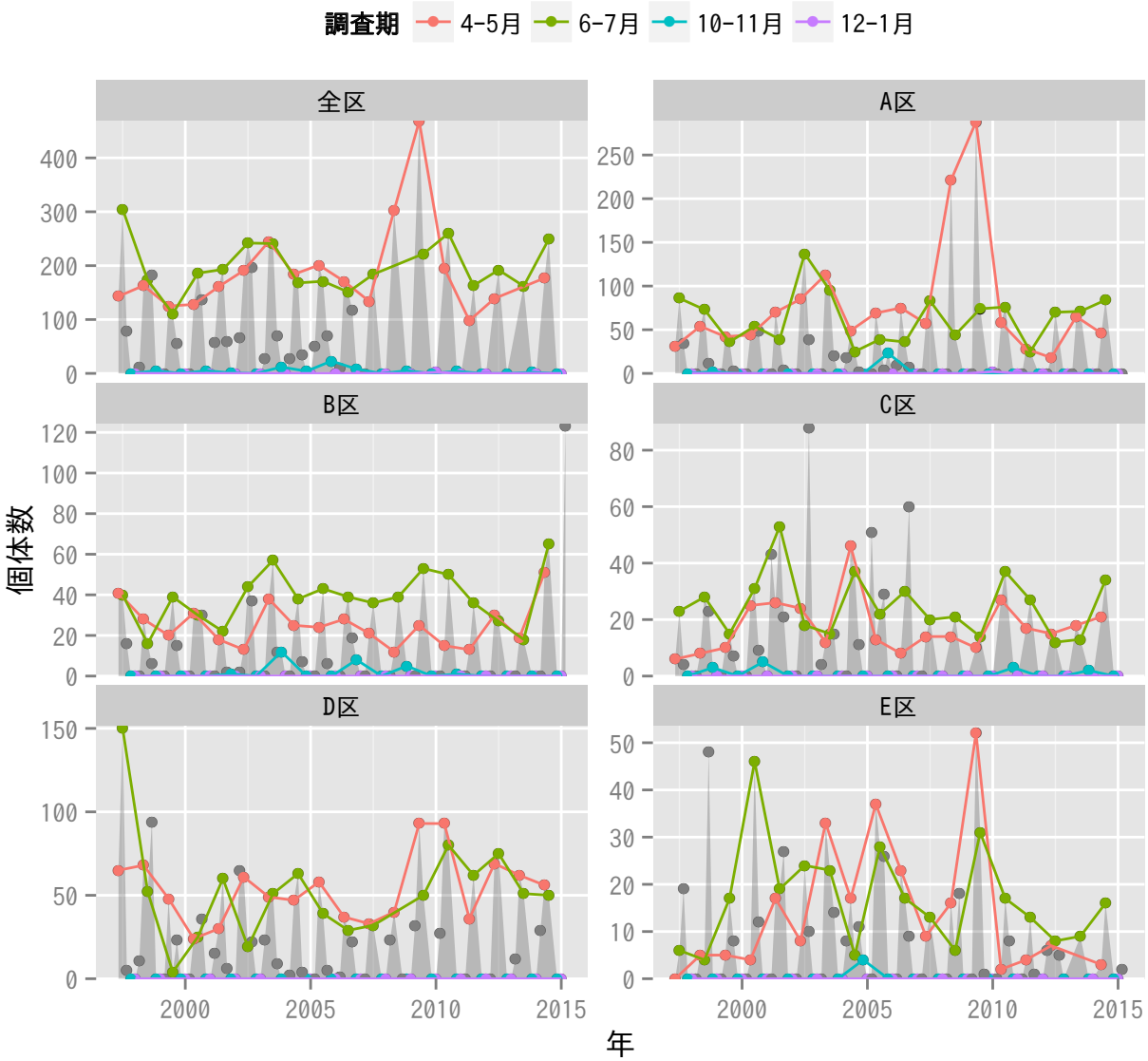

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

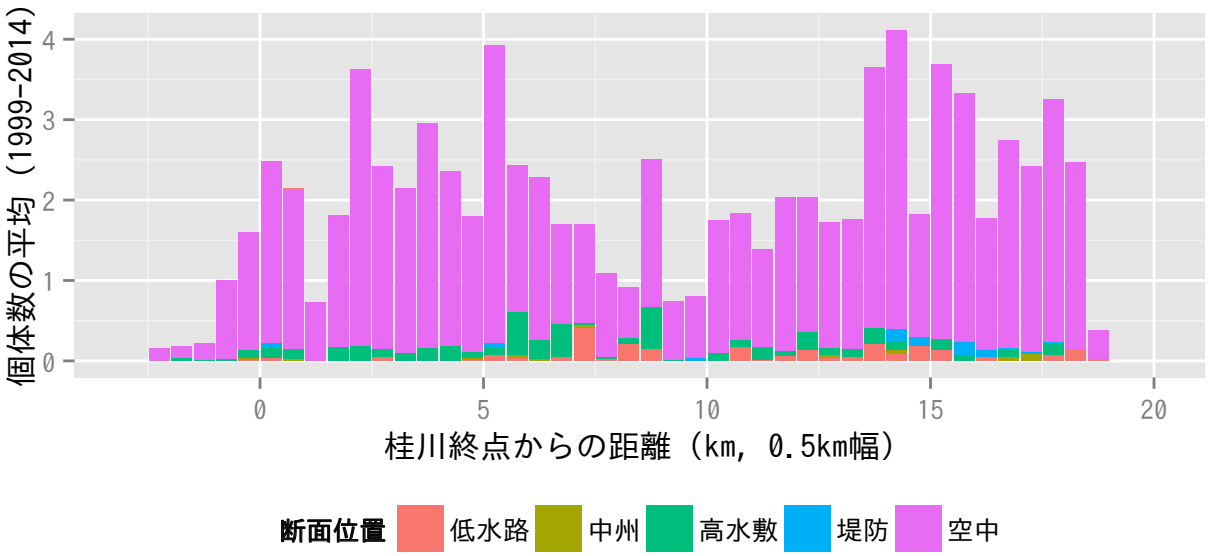
ショウドウツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

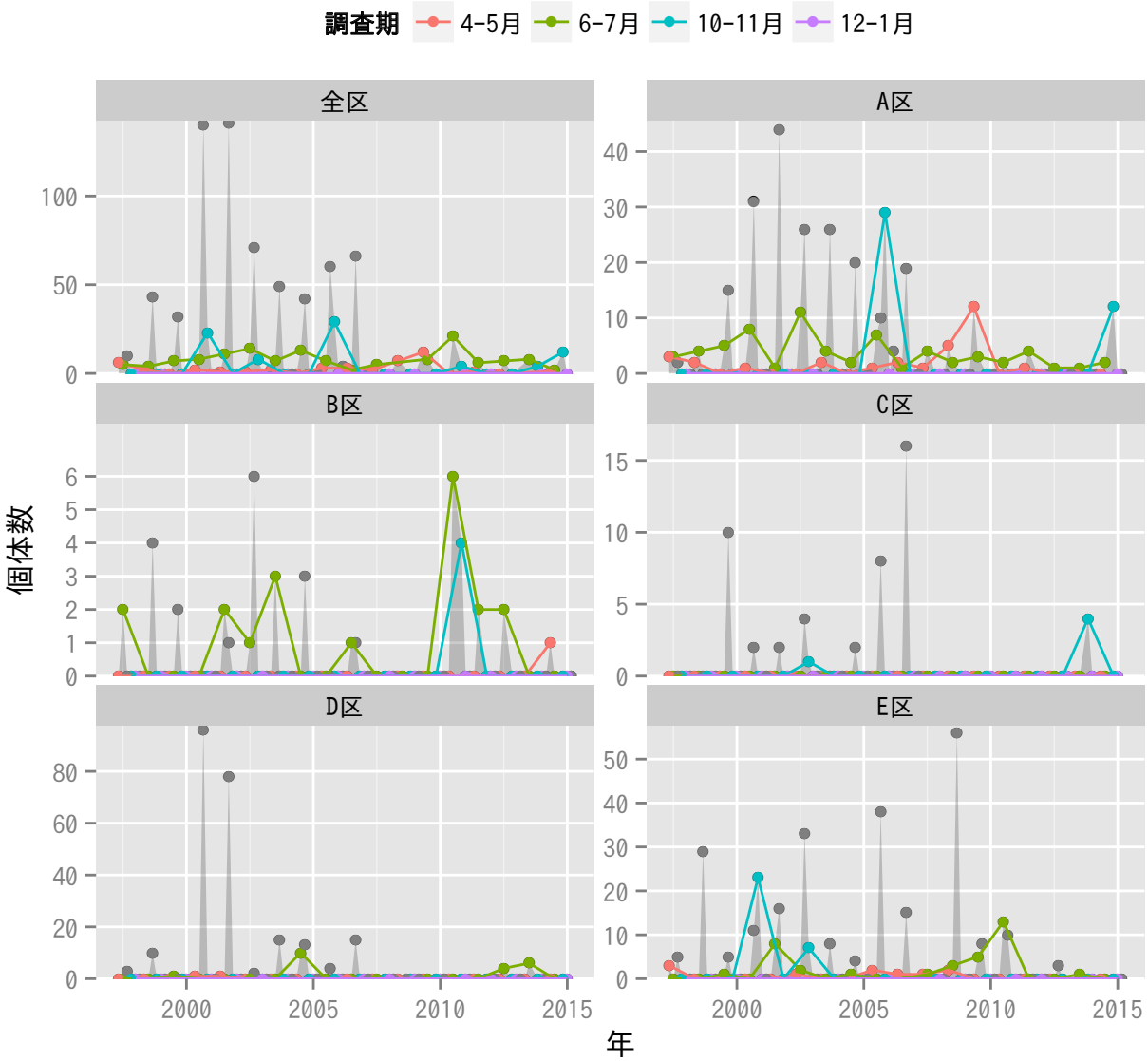

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

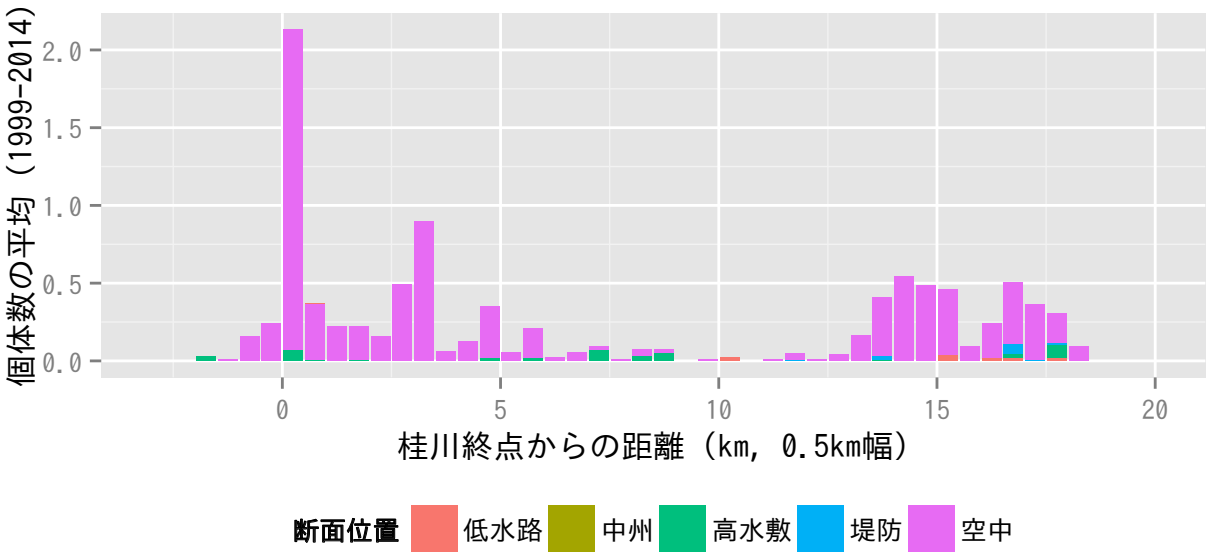
ツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

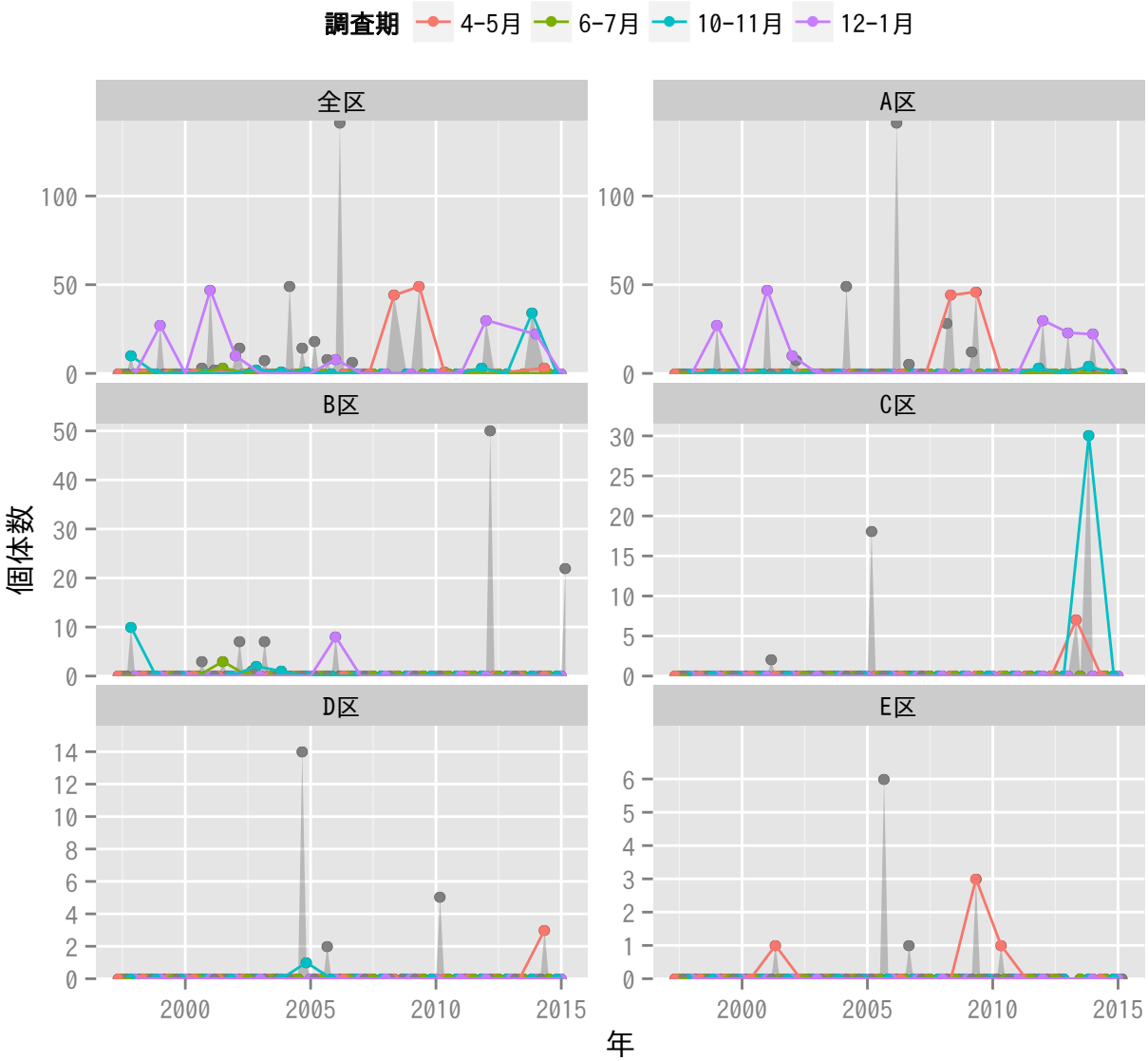

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

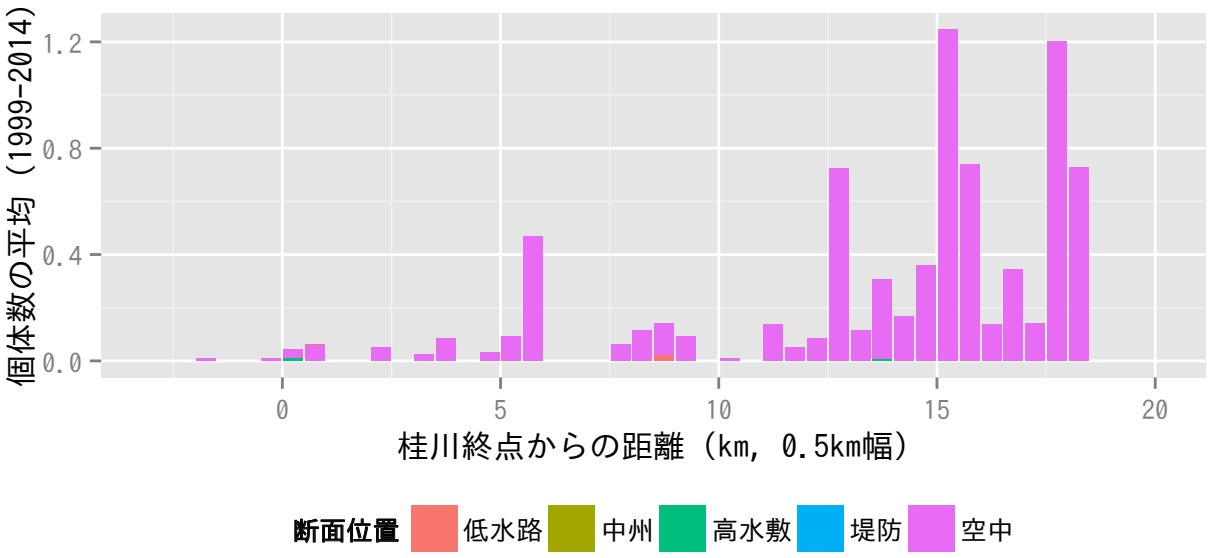
コシアカツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

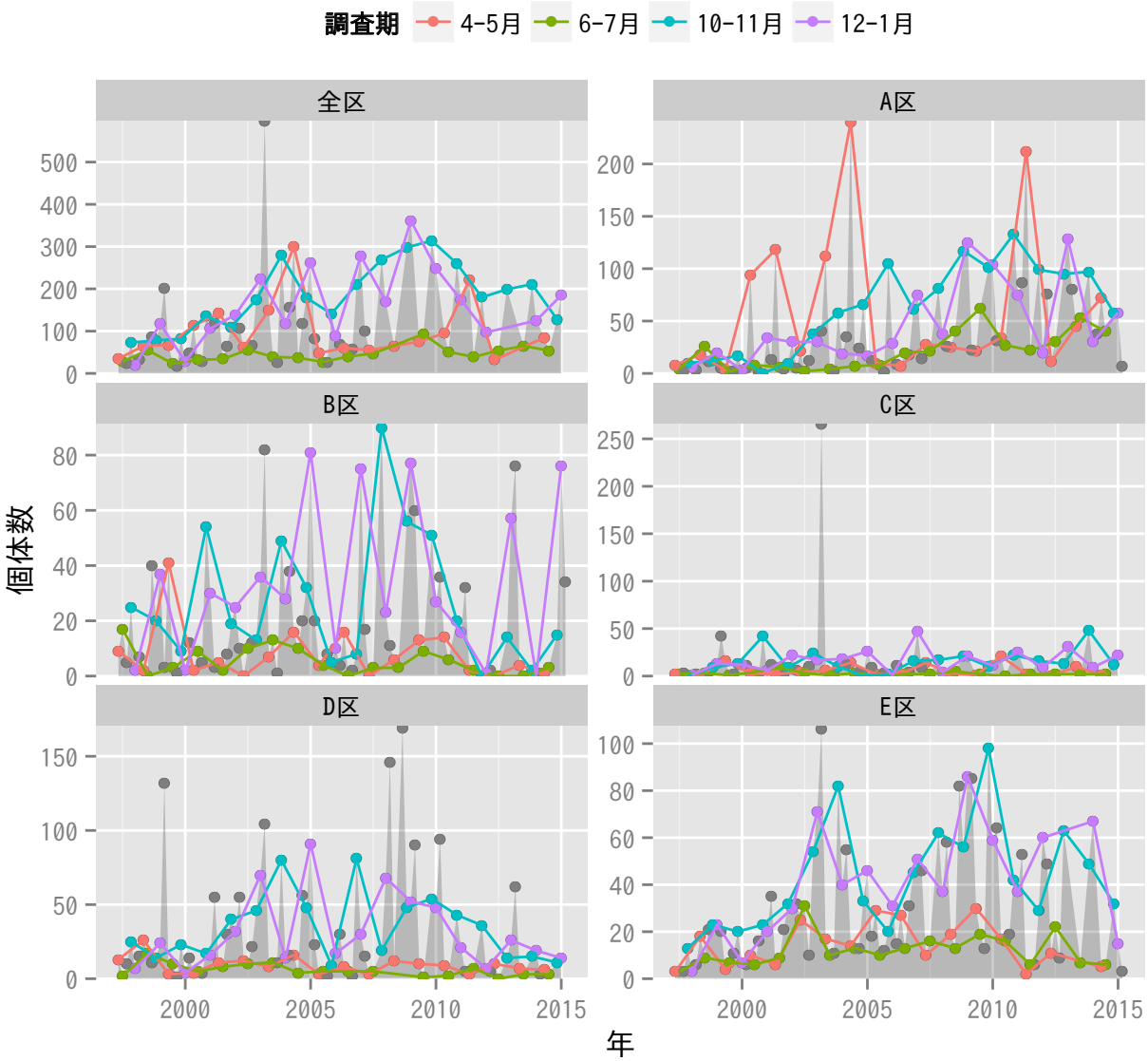

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

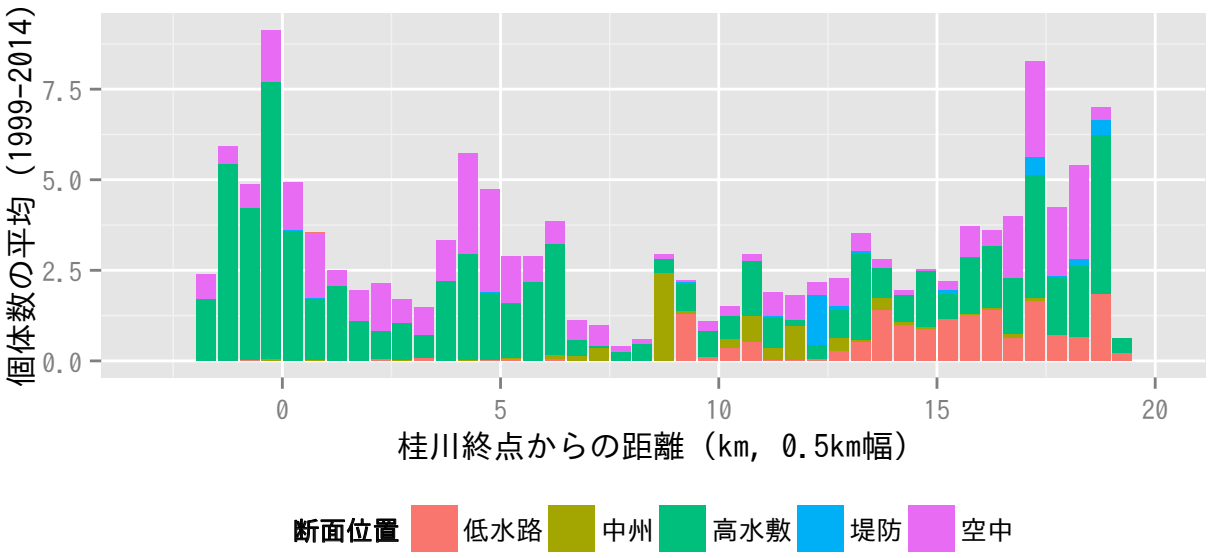
イワツバメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

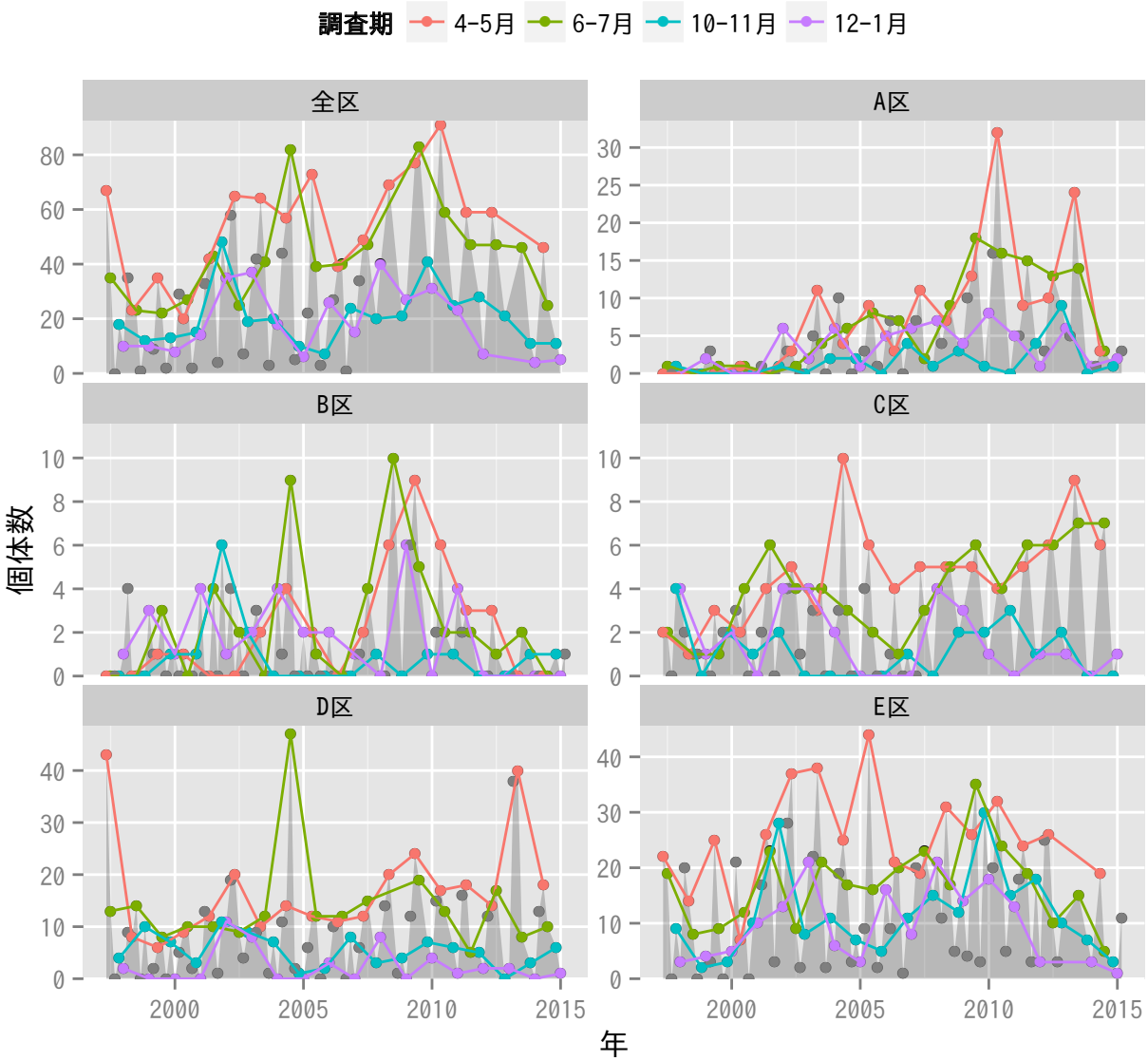

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

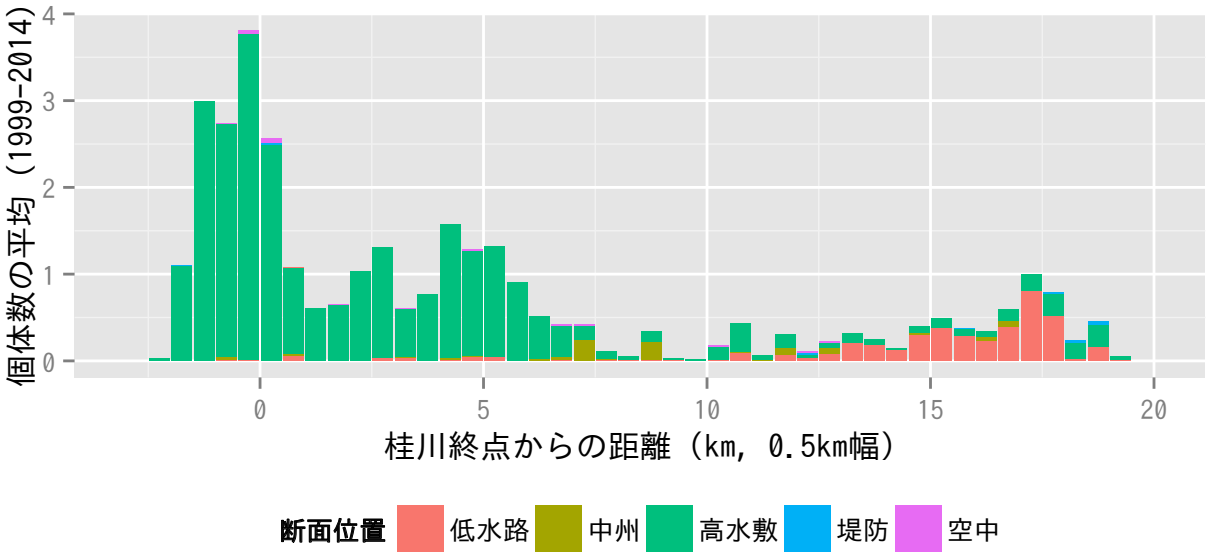
ヒヨドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

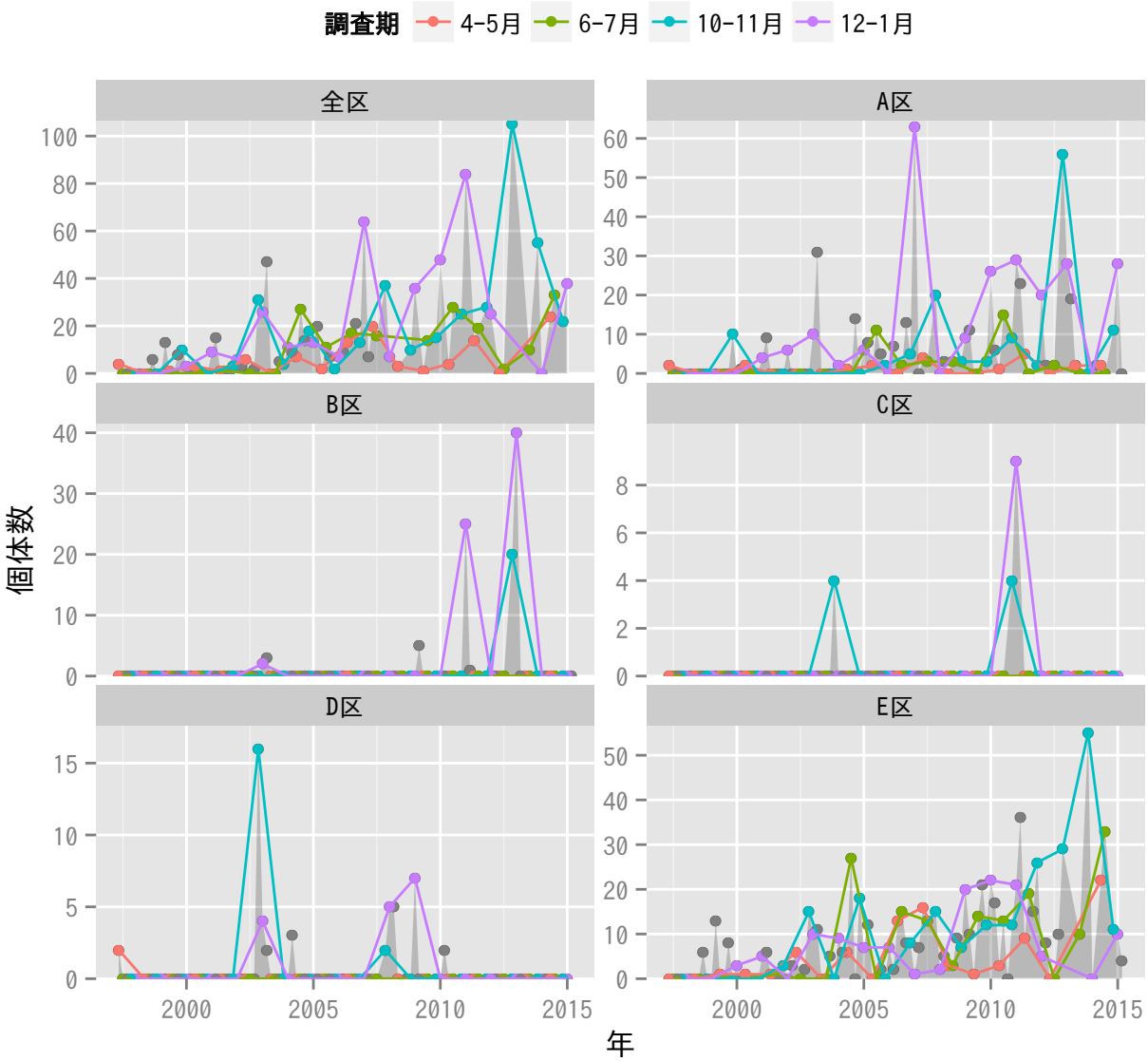

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

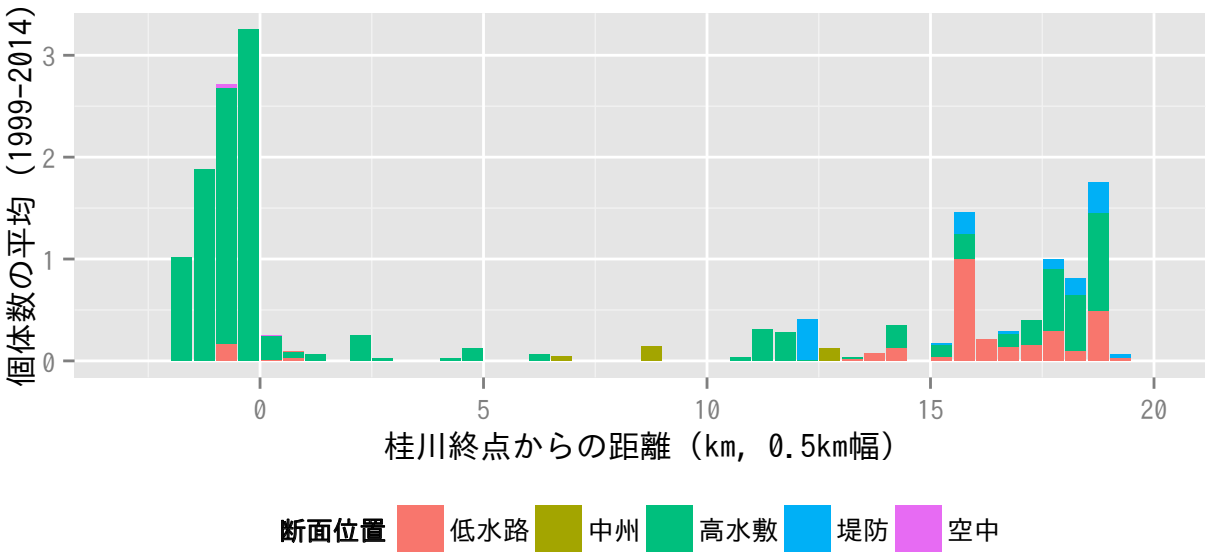
ウグイス


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

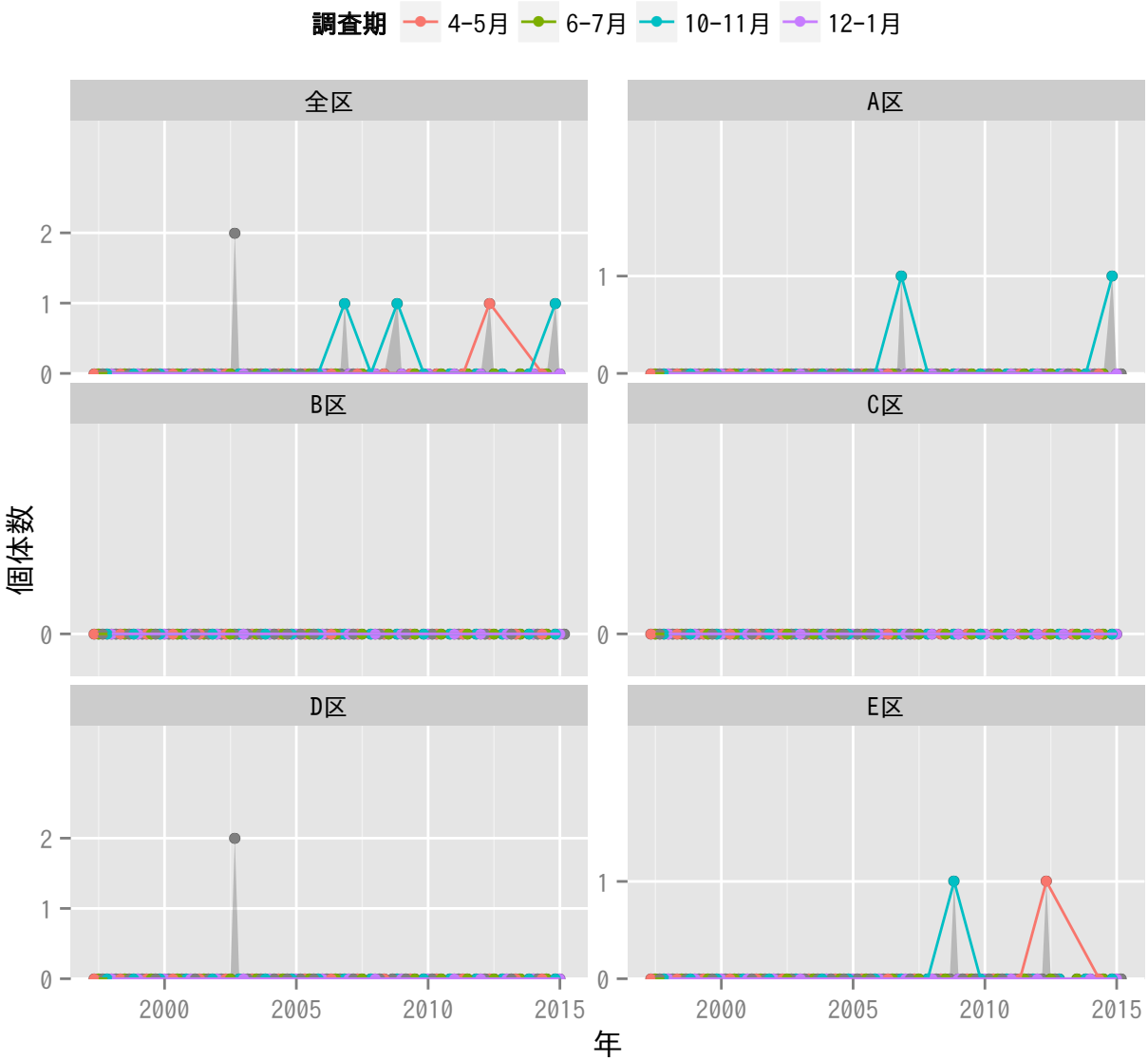

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

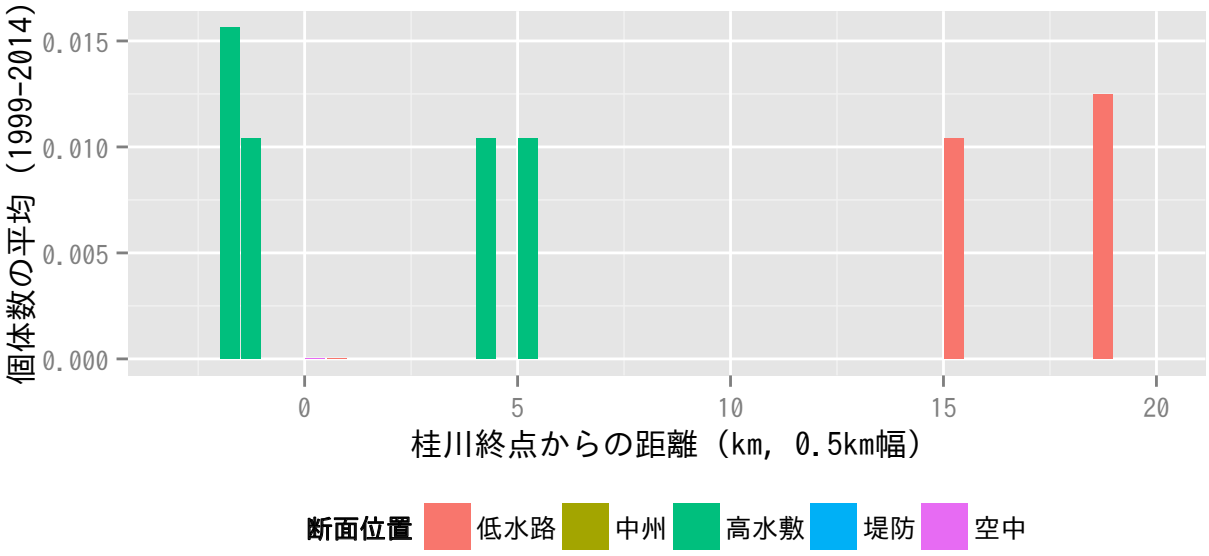
エナガ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

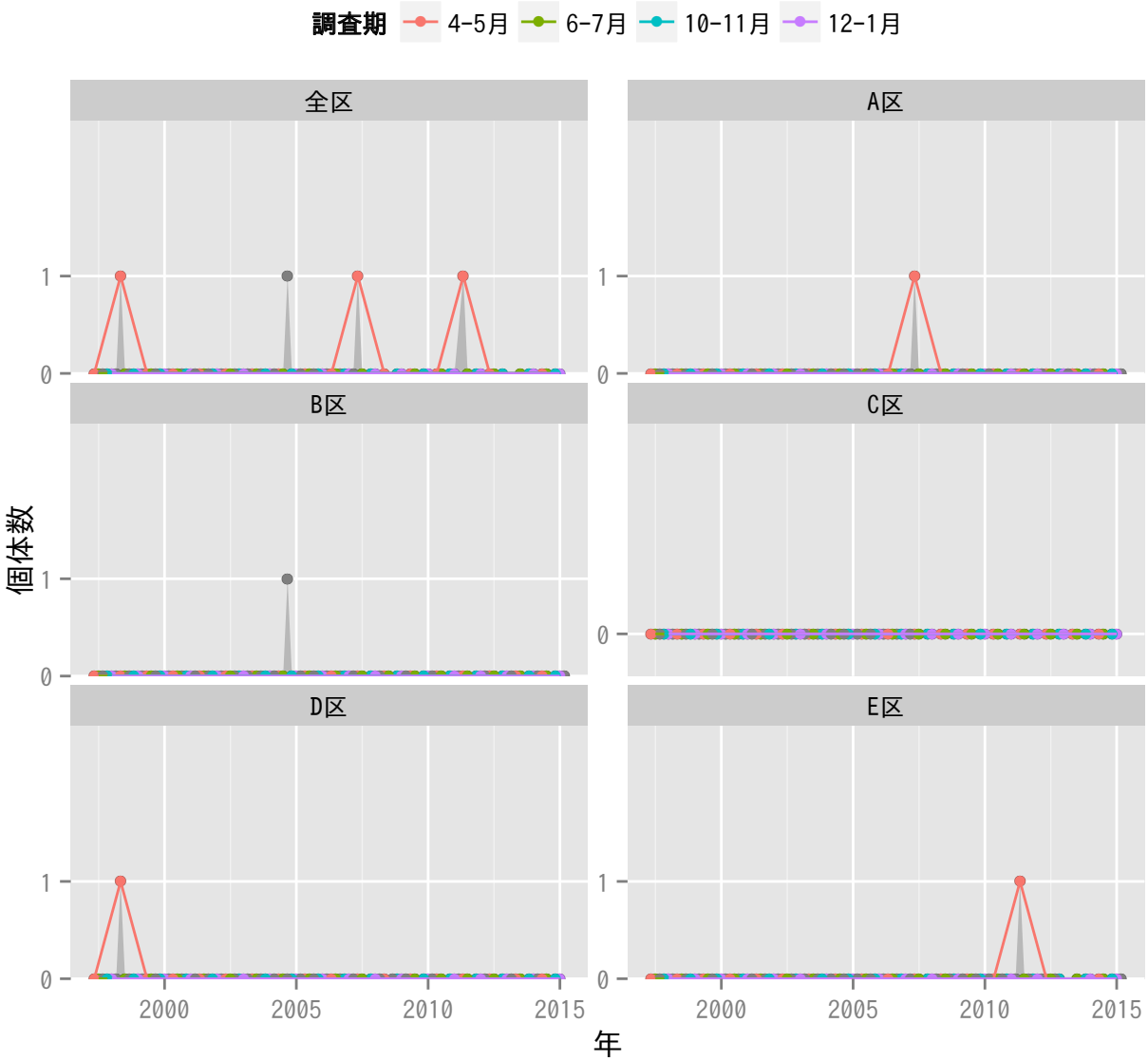

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

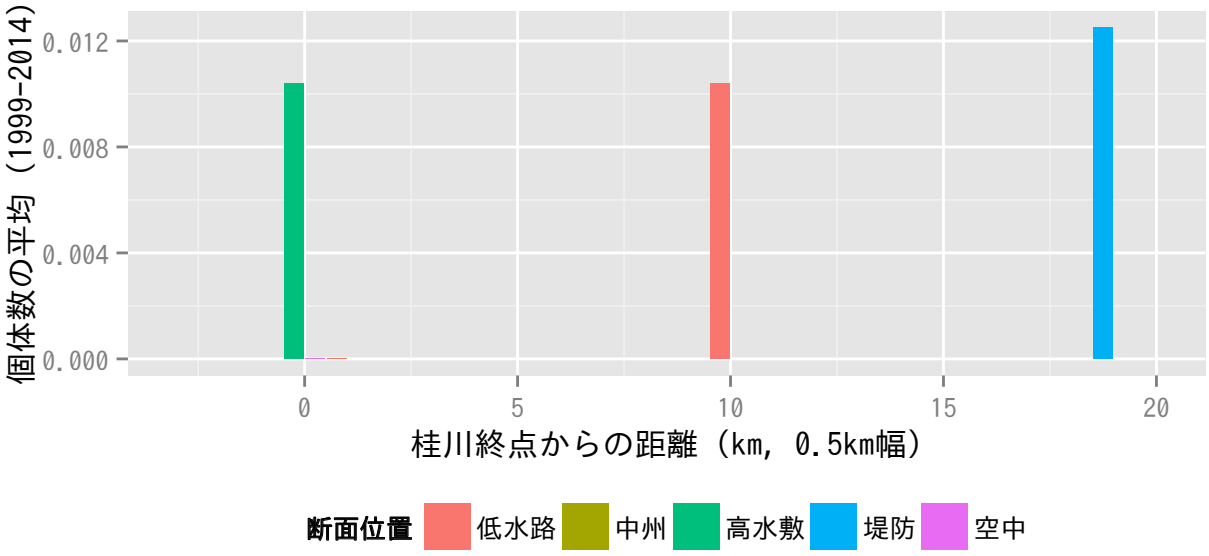
メボソムシクイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

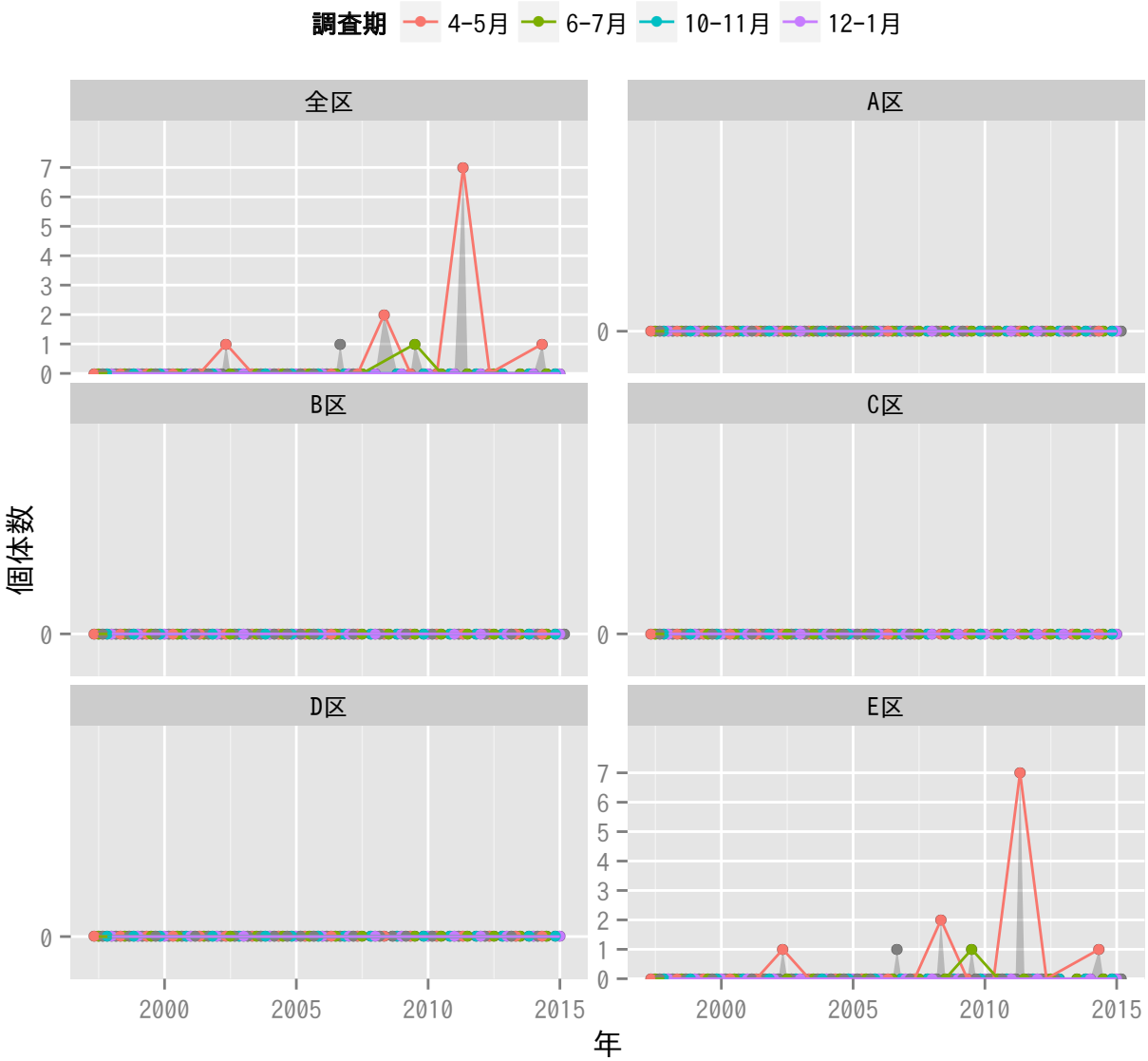

個体数の平均（1999-2014）
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

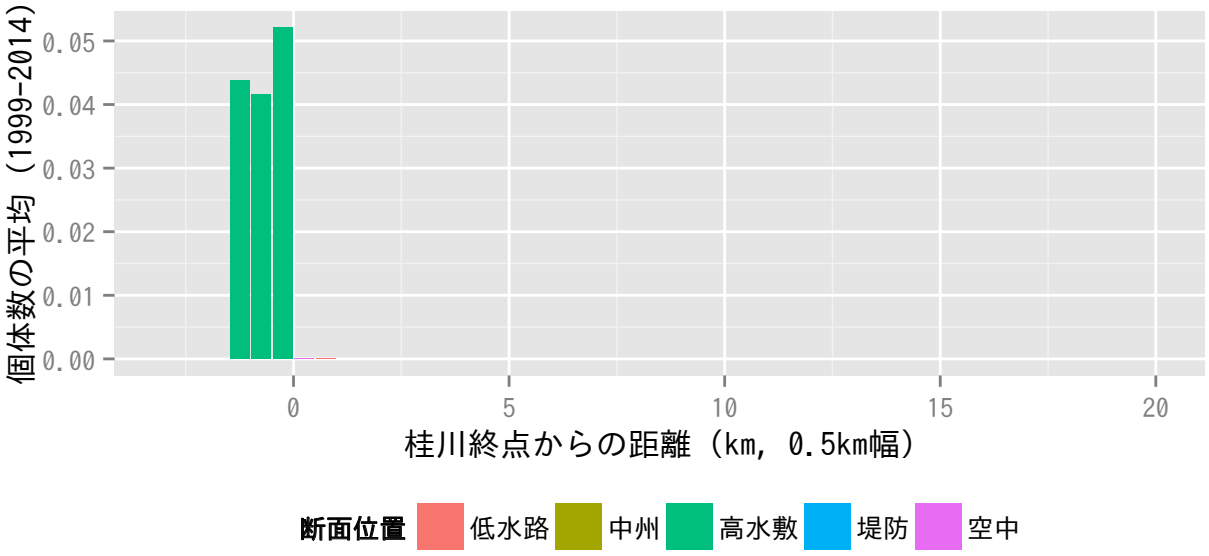
エゾムシクイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

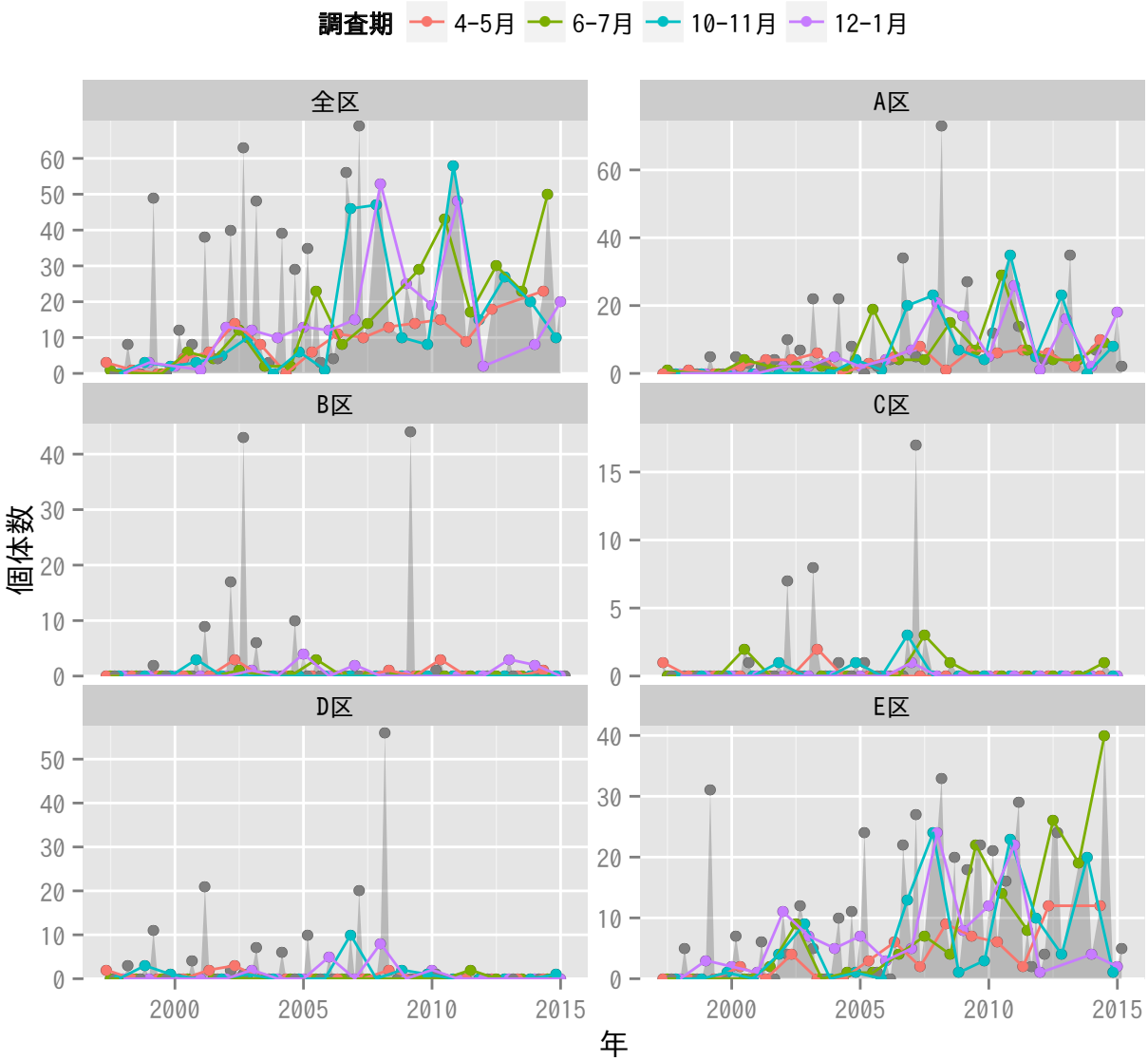

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

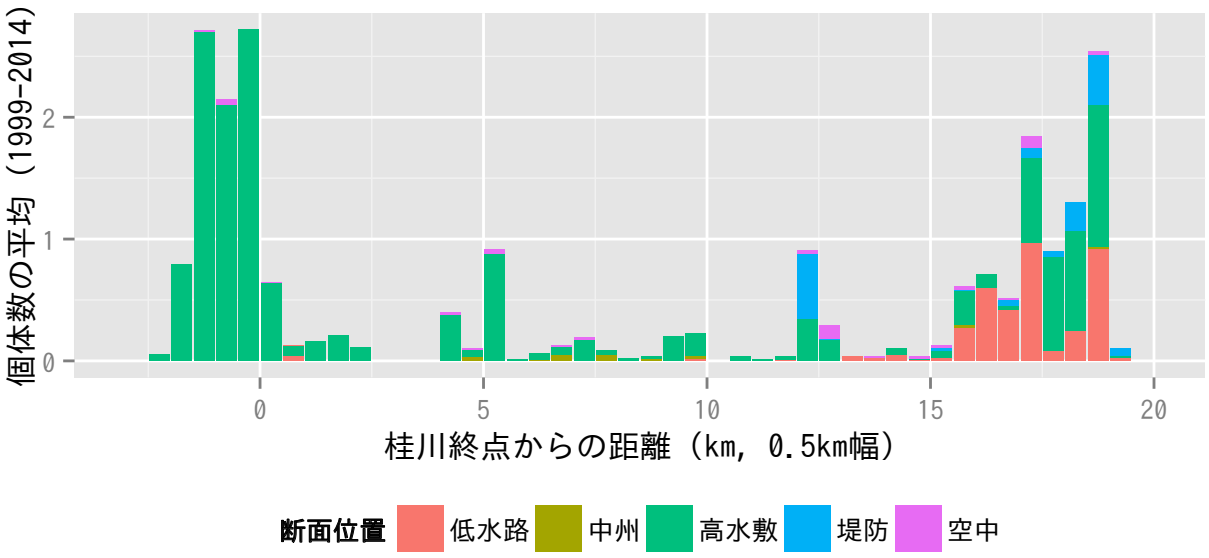
センダイムシクイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2
3
4
5
6
7
2000
2005
2010
2015


個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0.03
0.04
0.05
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km，0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

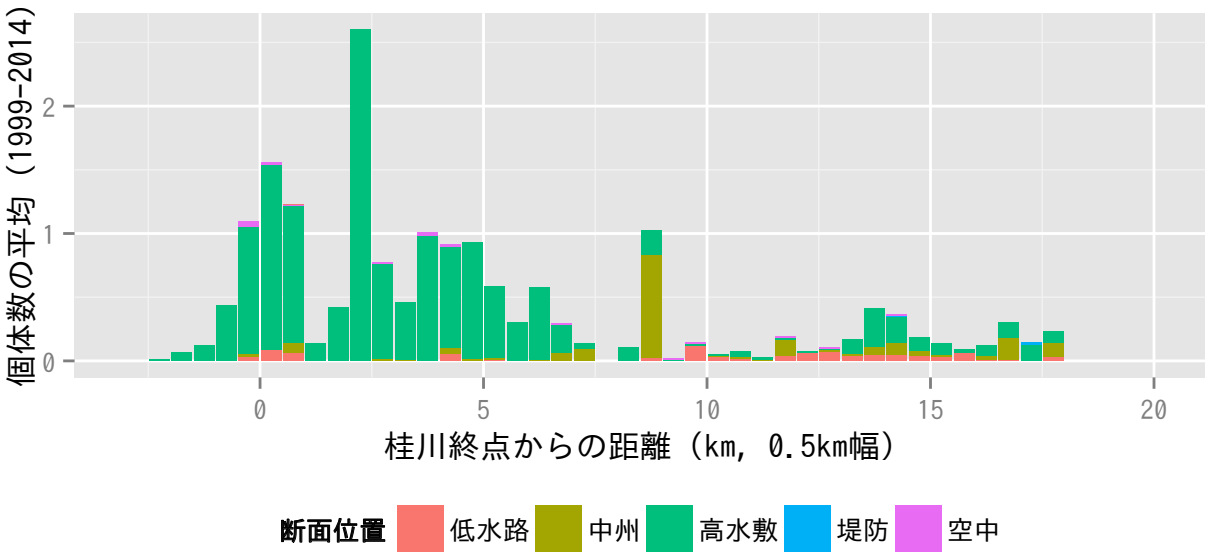
メジロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

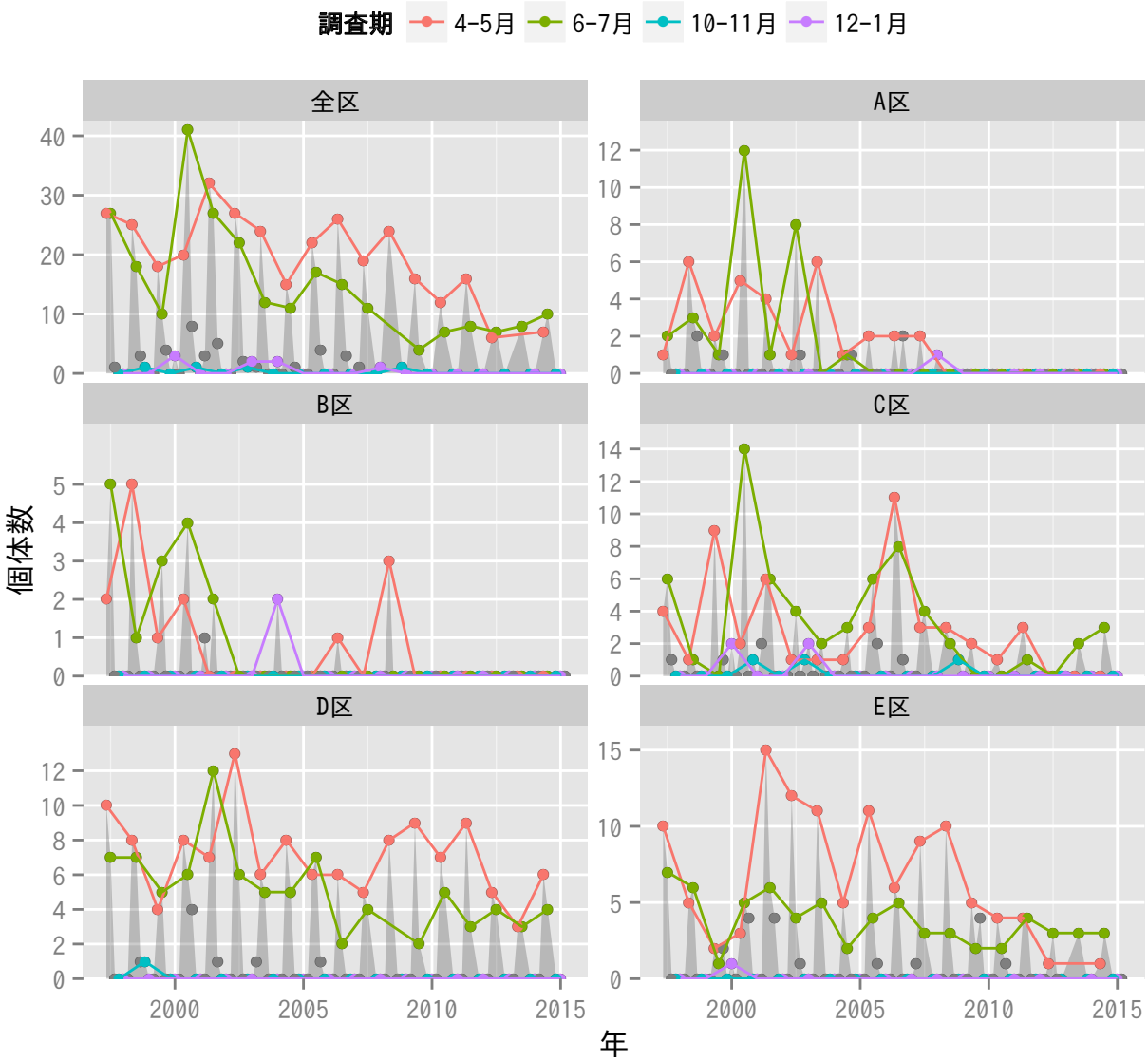

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

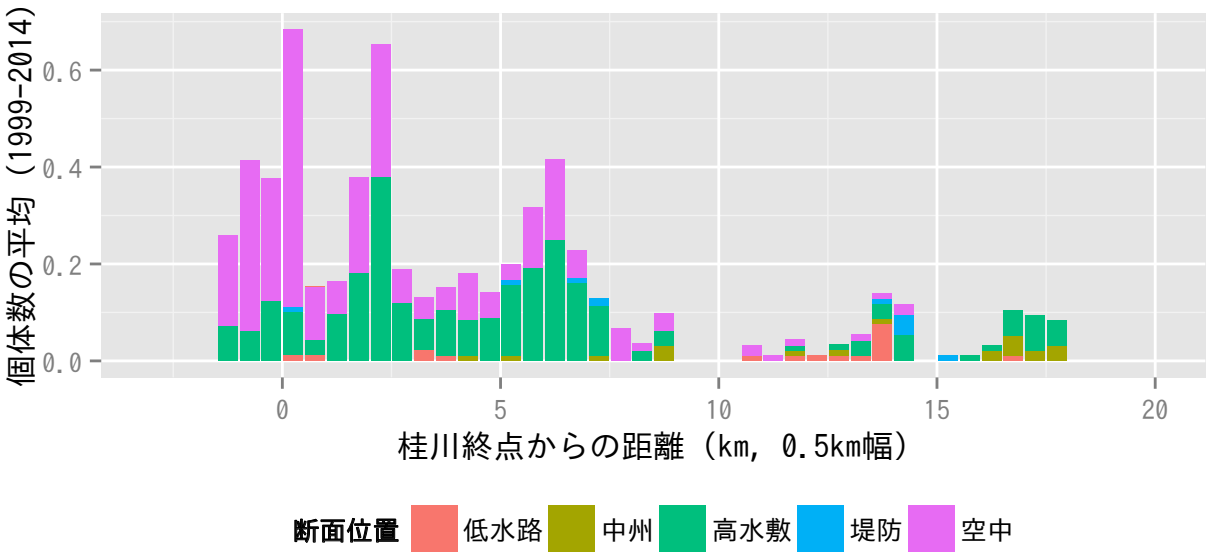
オオヨシキリ

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

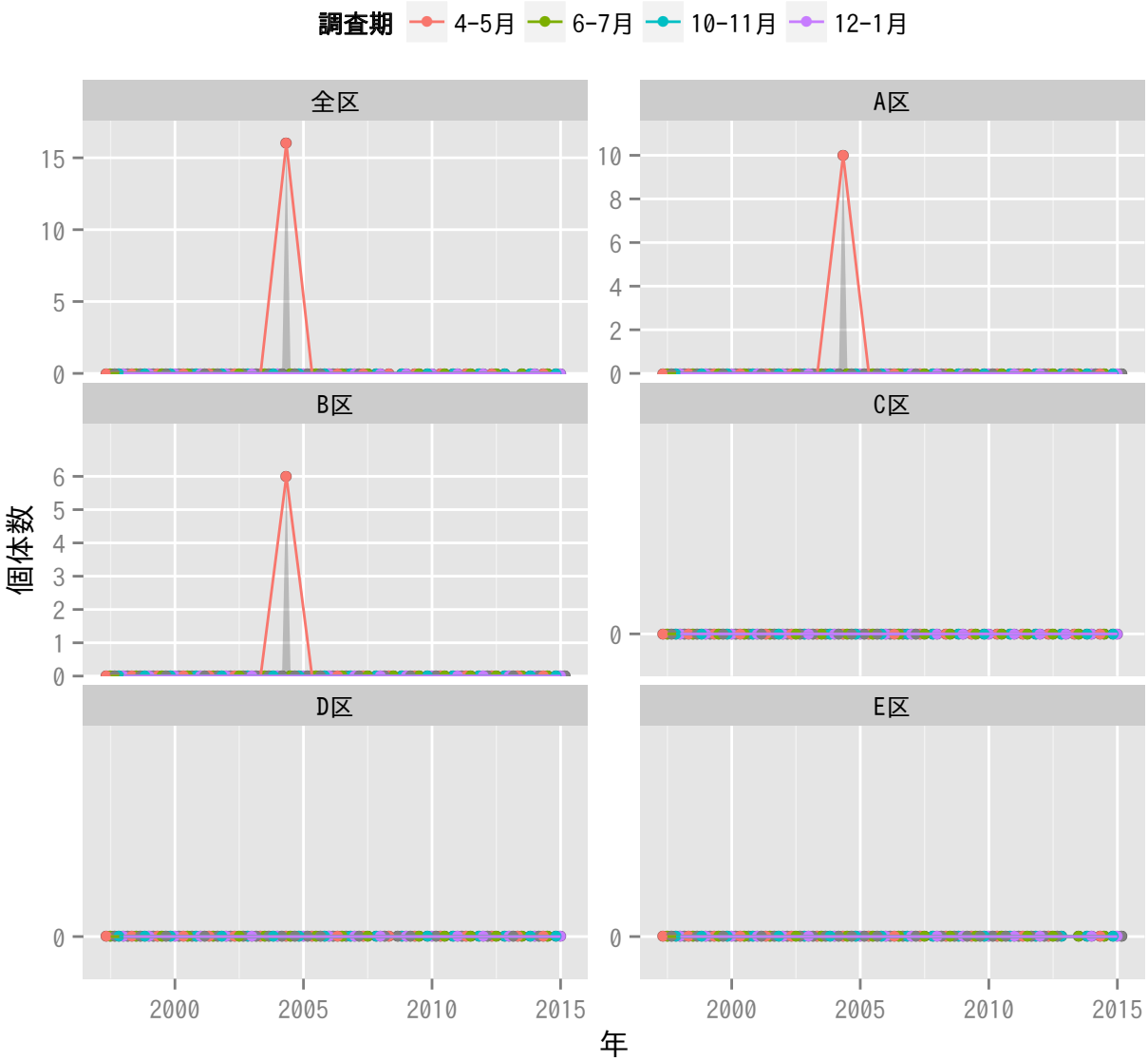

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

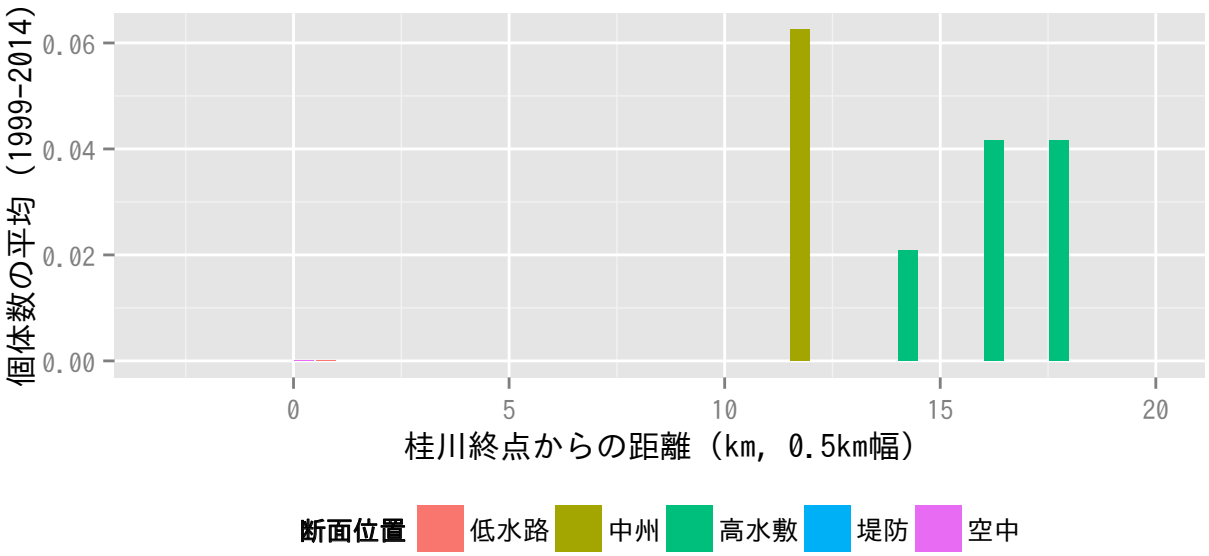
セッカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

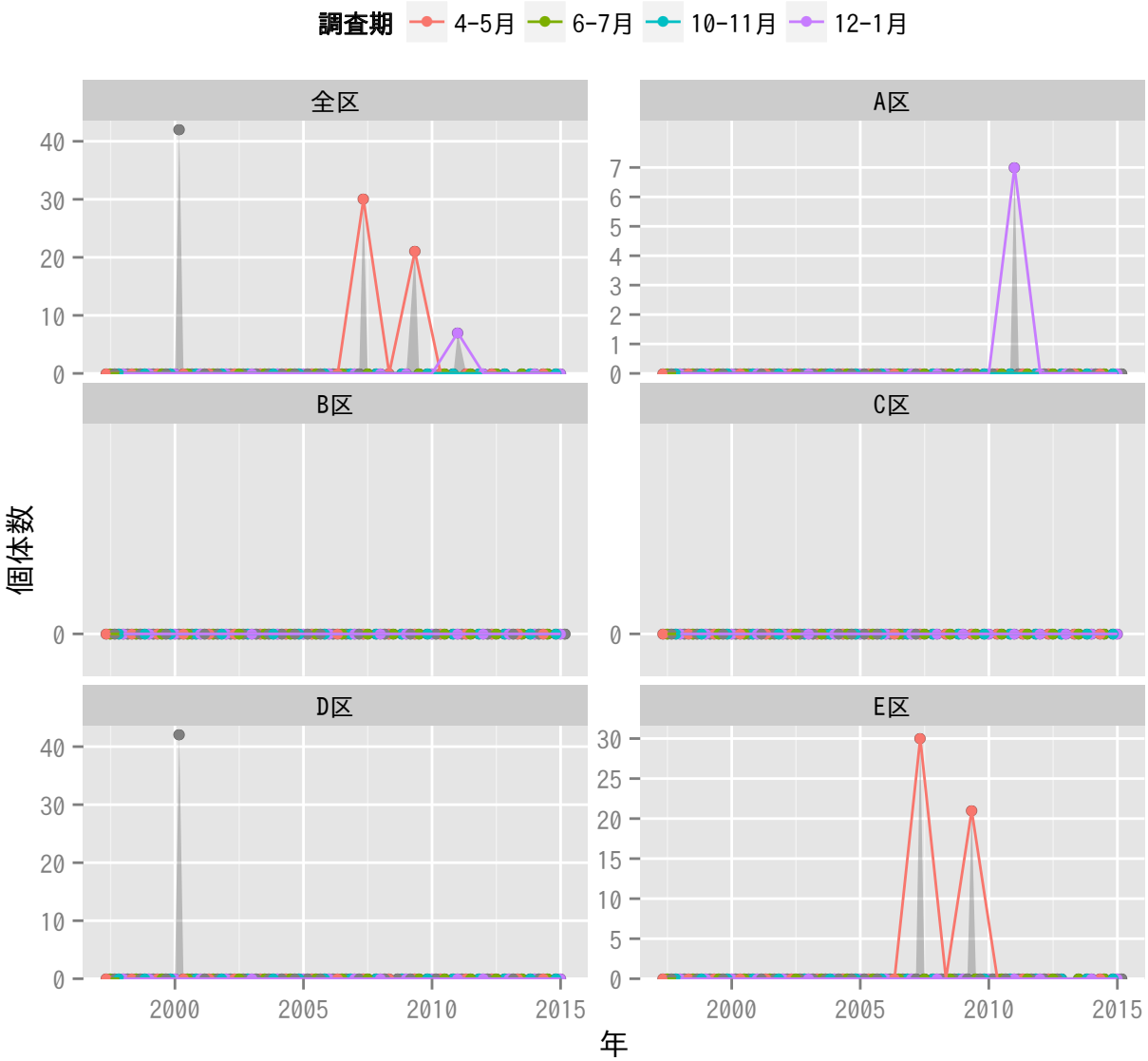

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

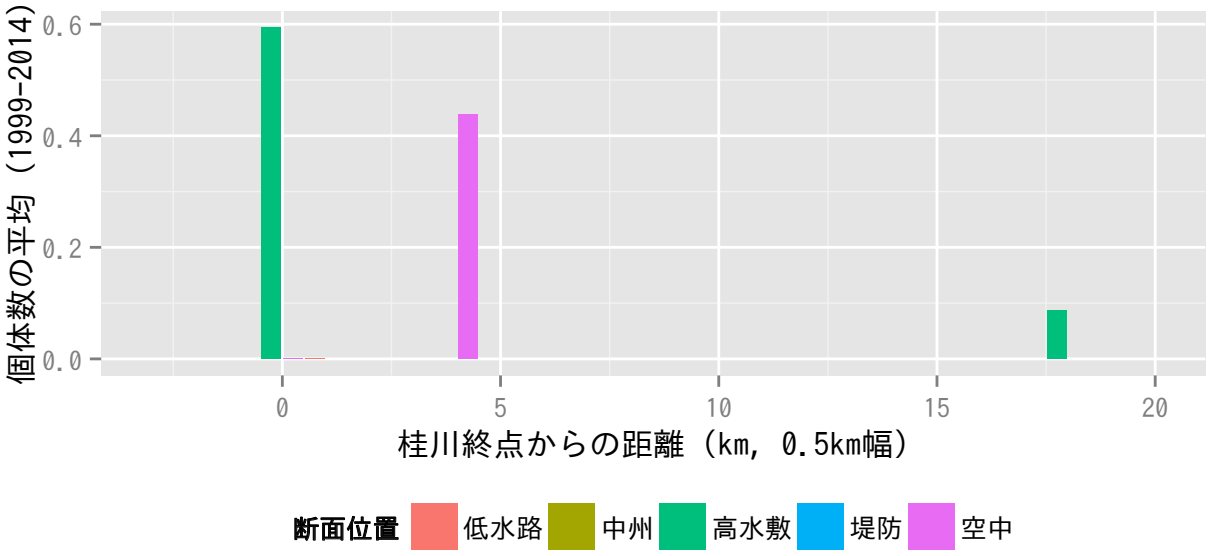
キレンジャク


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

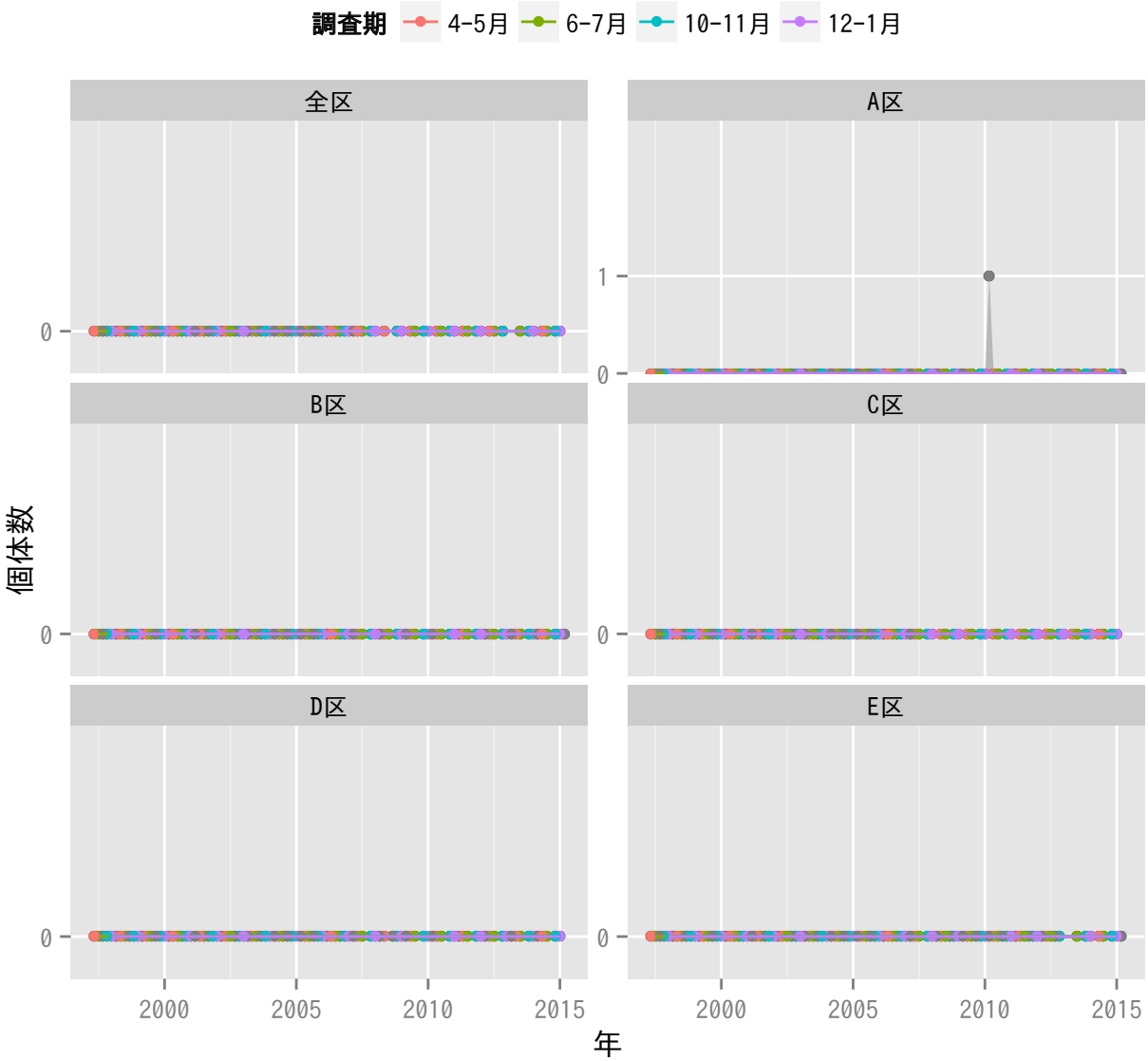

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

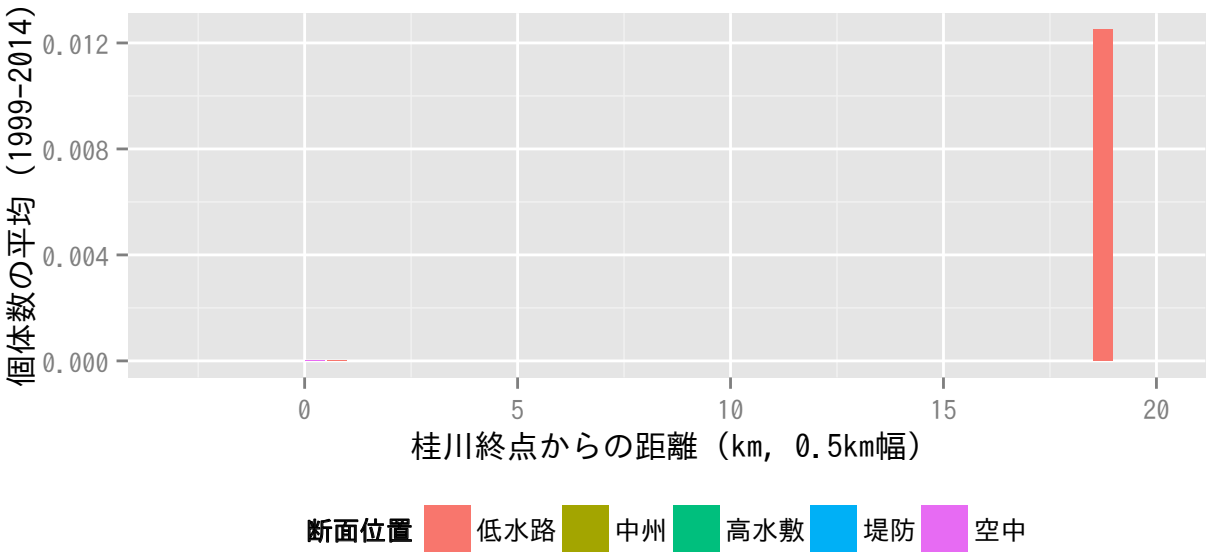
ヒレンジャク


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

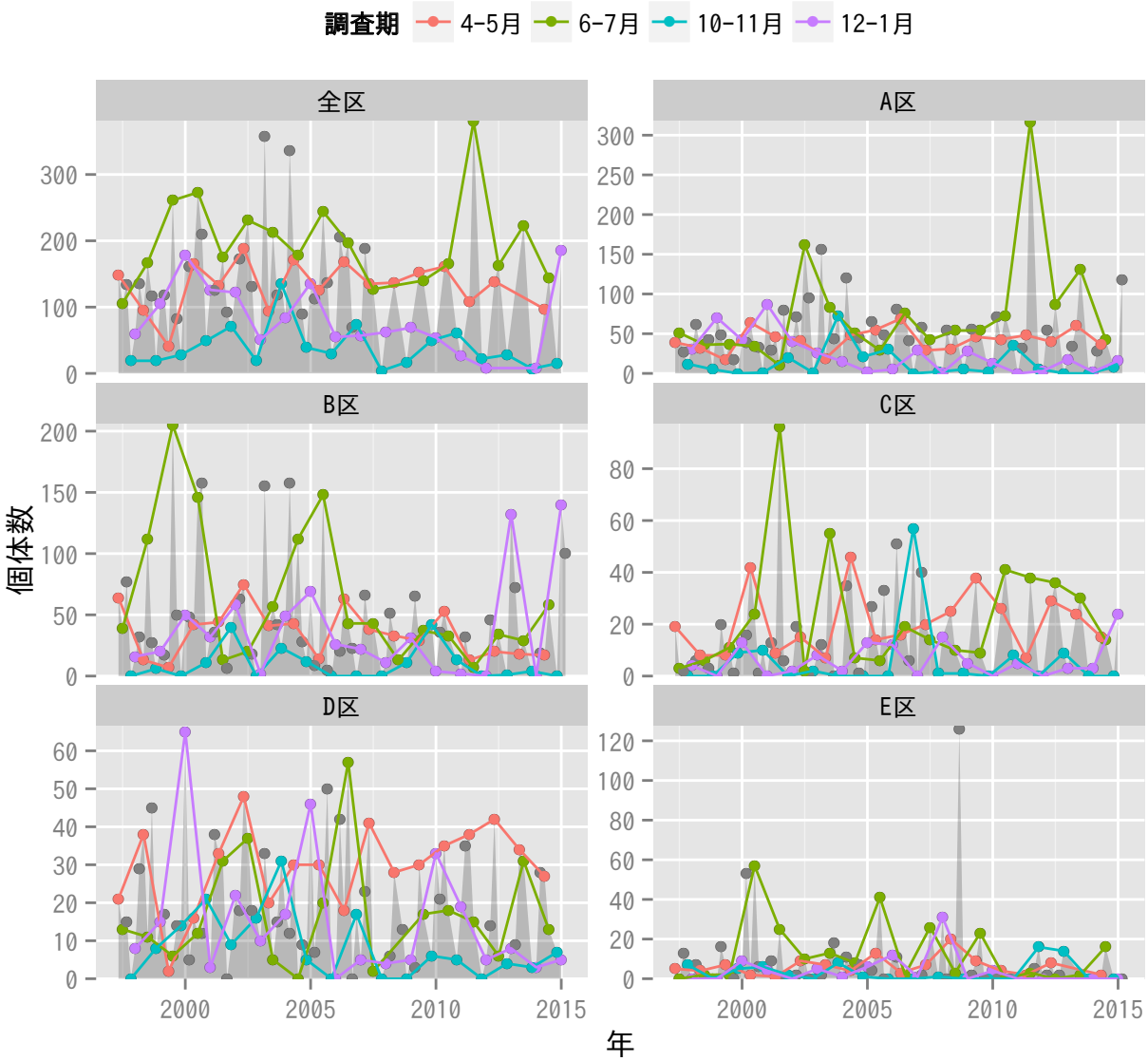

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

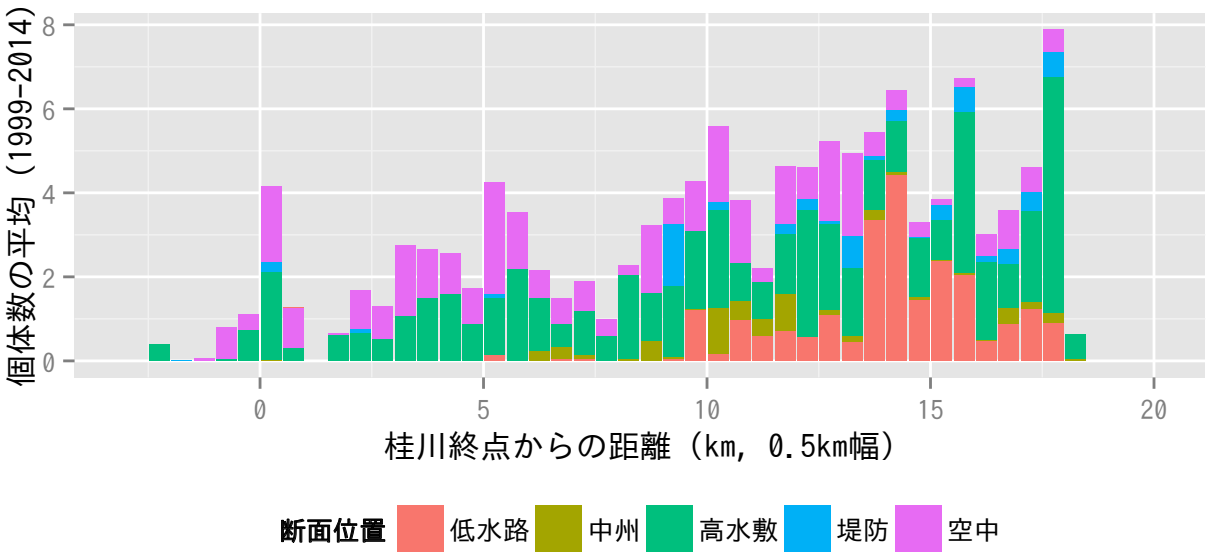
ミソサザイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2000
2005
2010
2015
年

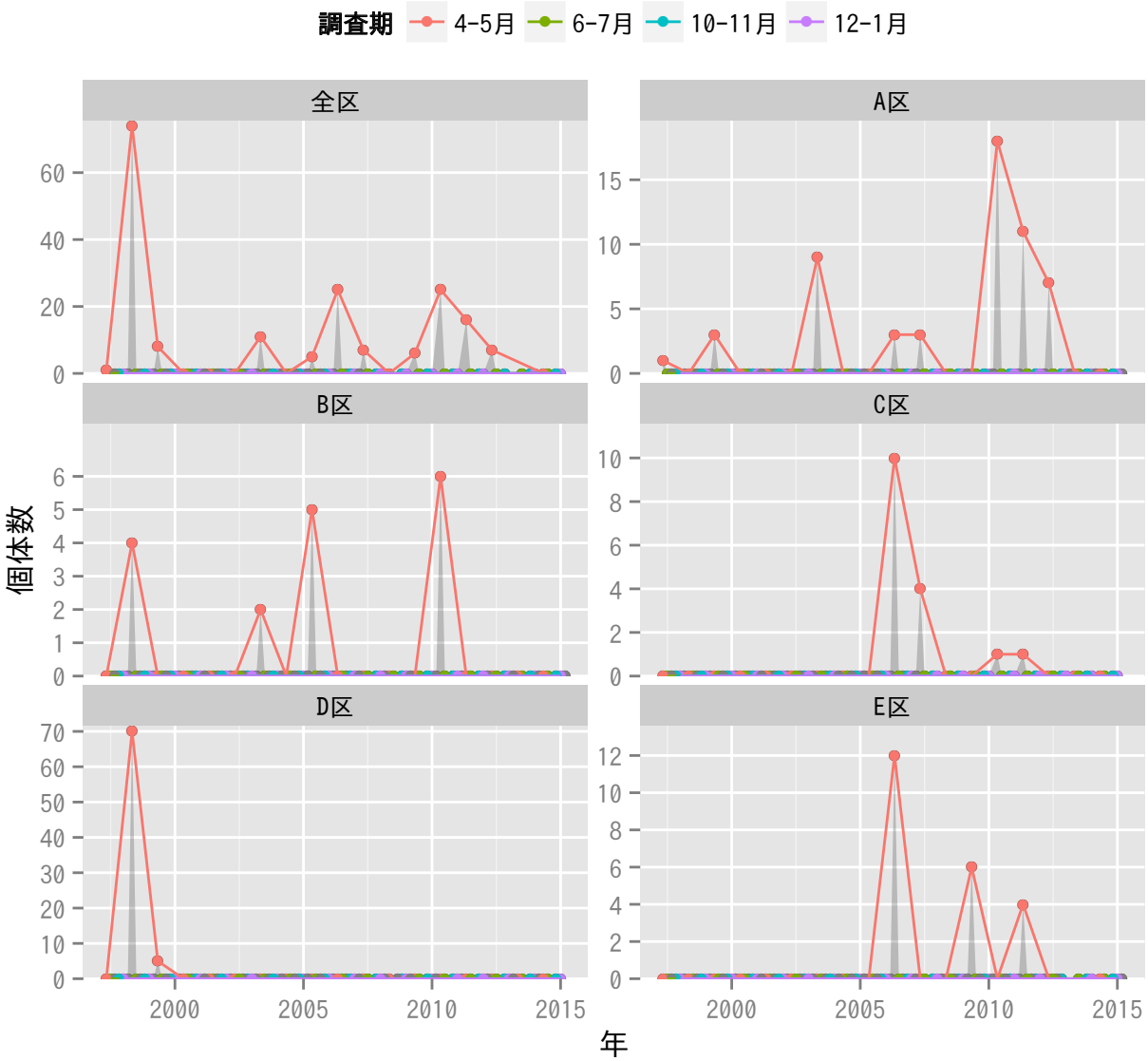

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

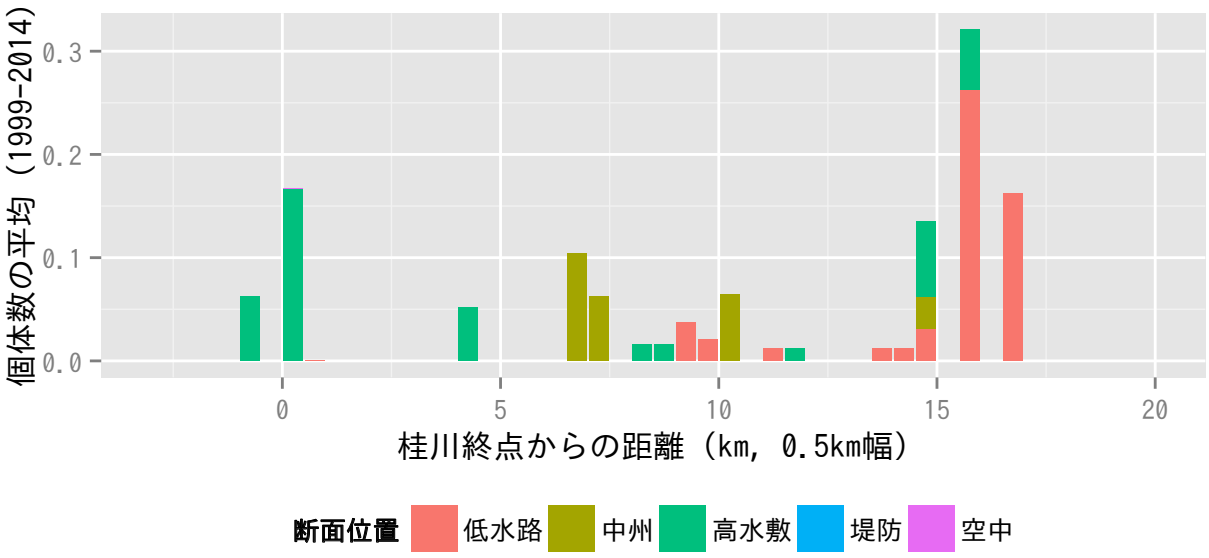
ムクドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

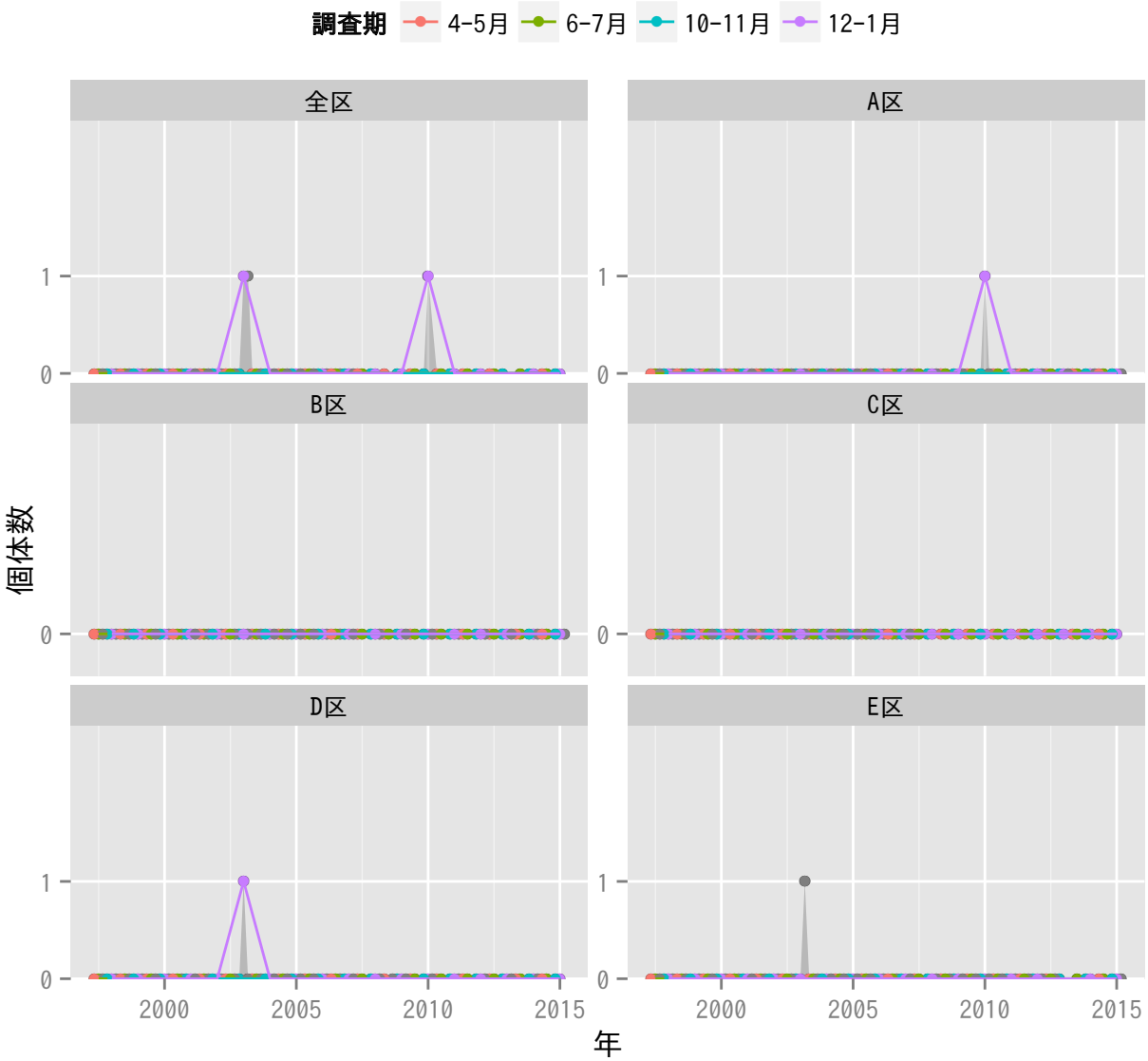

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

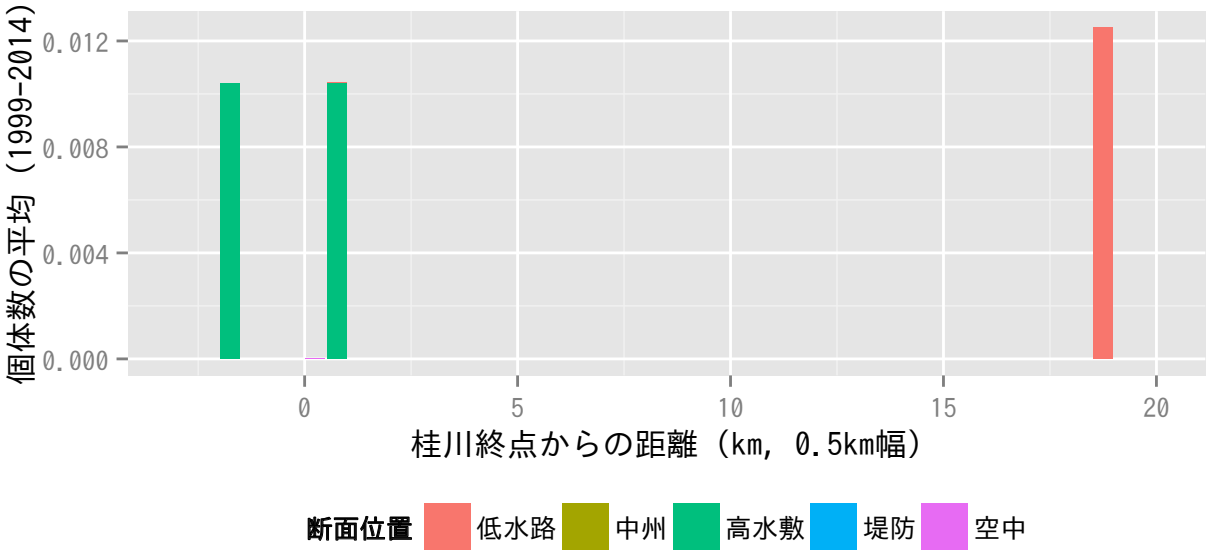
コムクドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

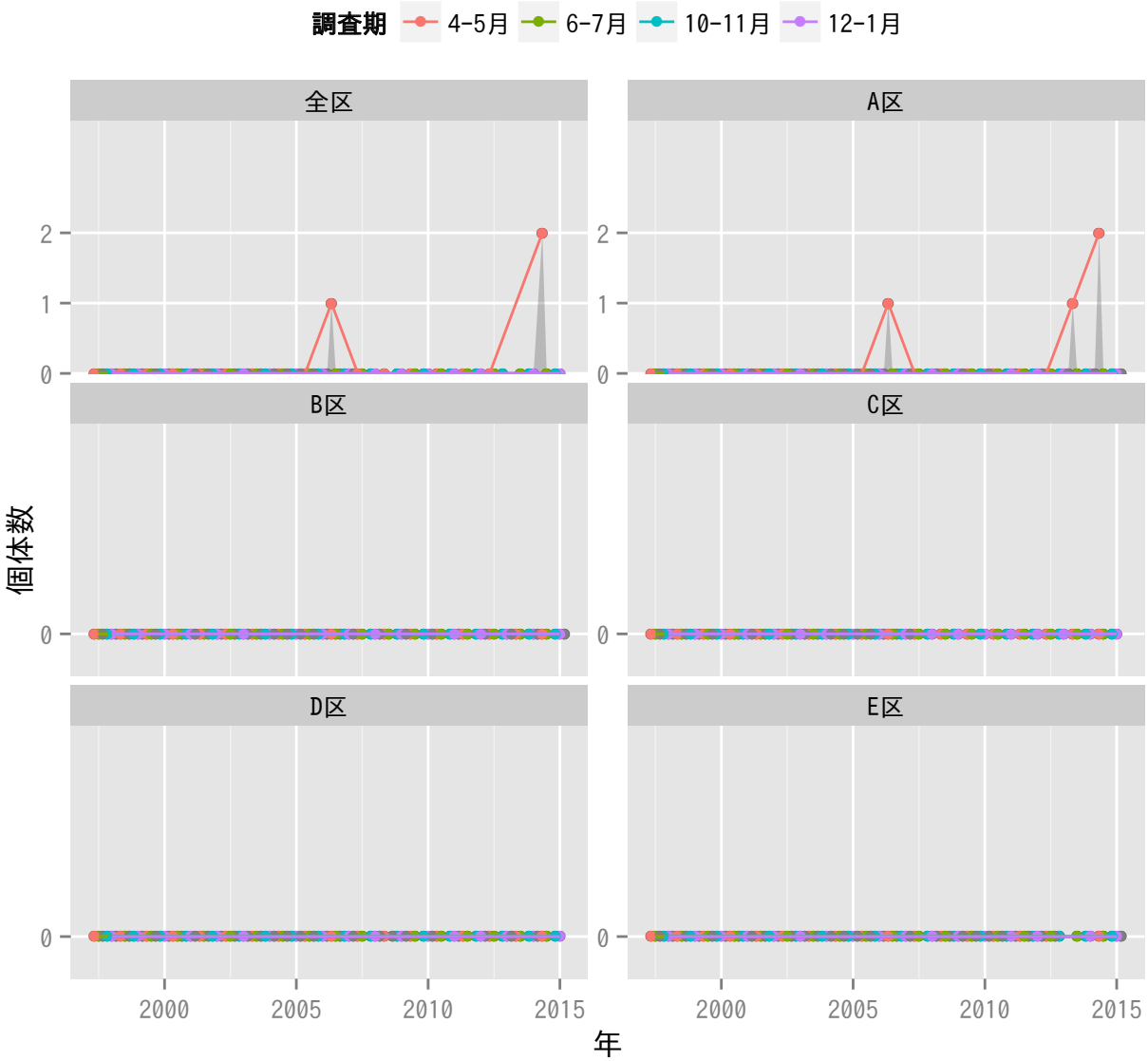

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

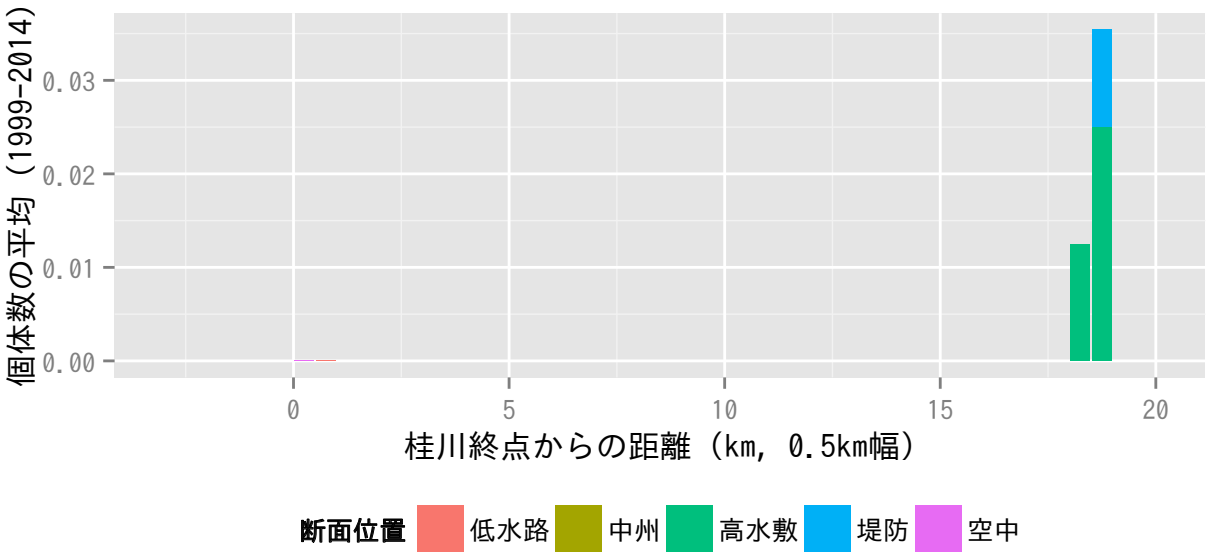
トラツグミ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2000
2005
2010
2015
年

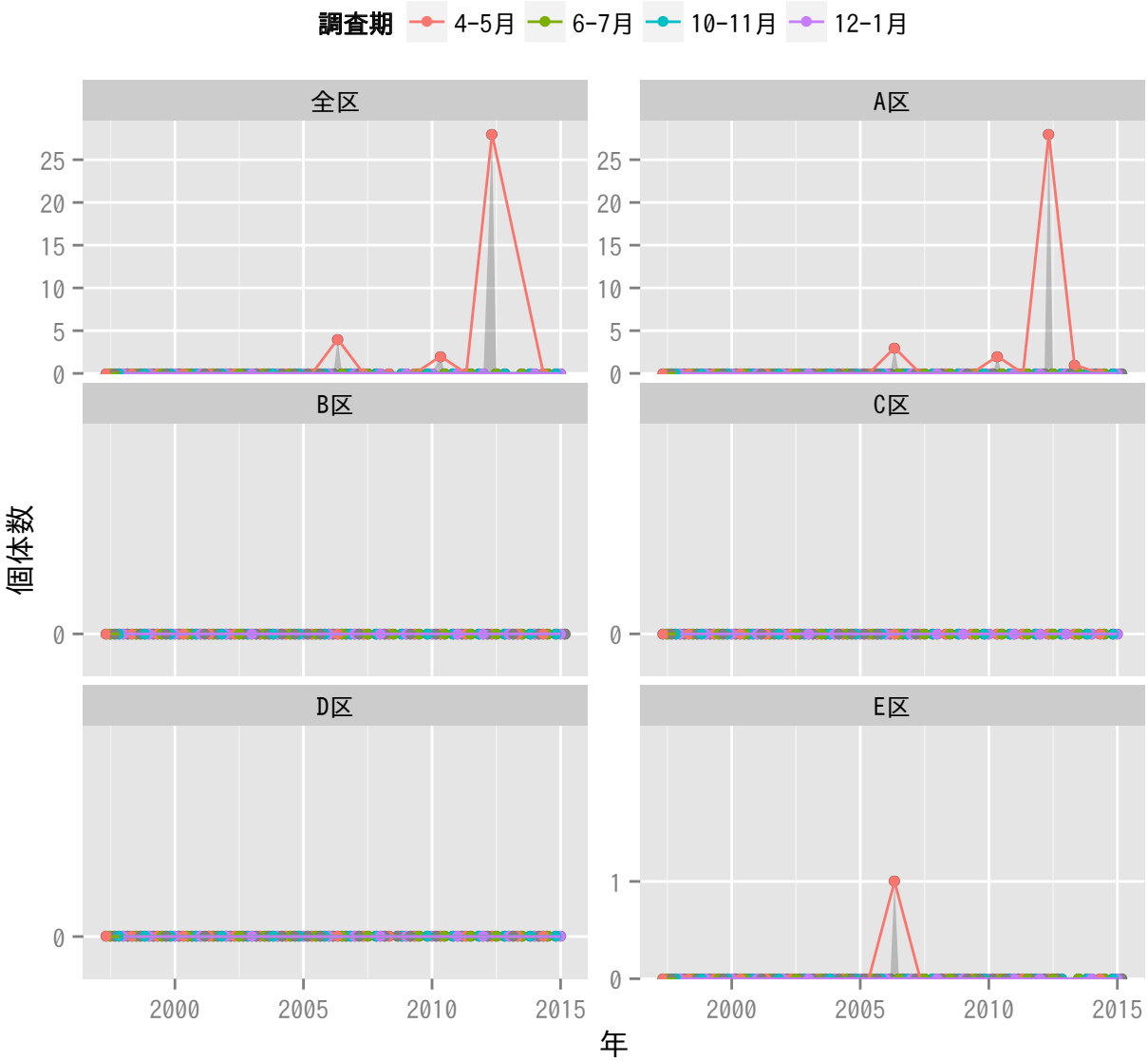

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

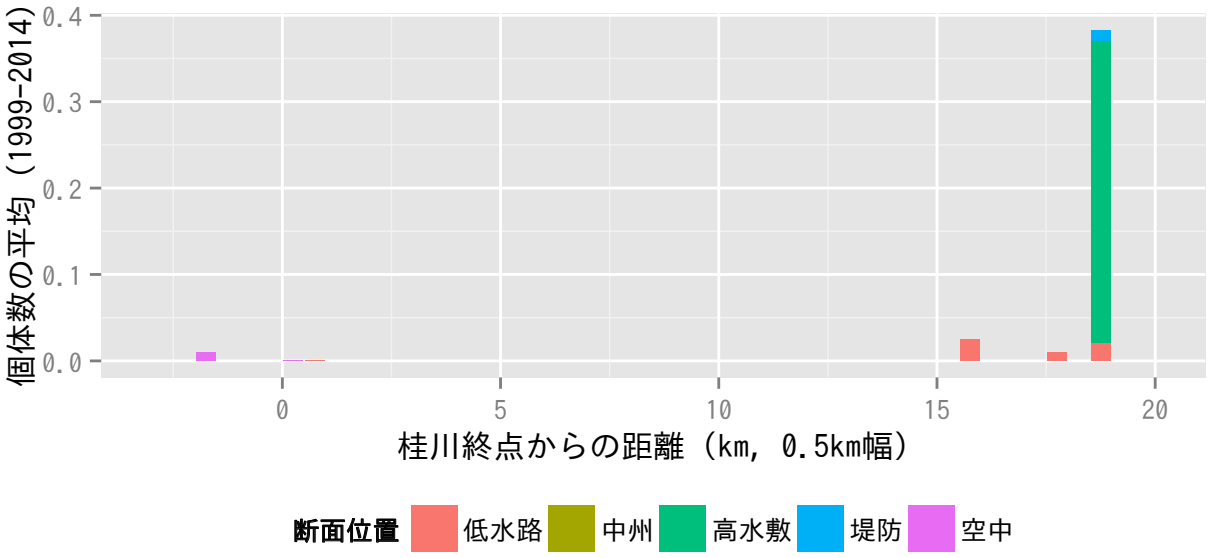
クロツグミ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

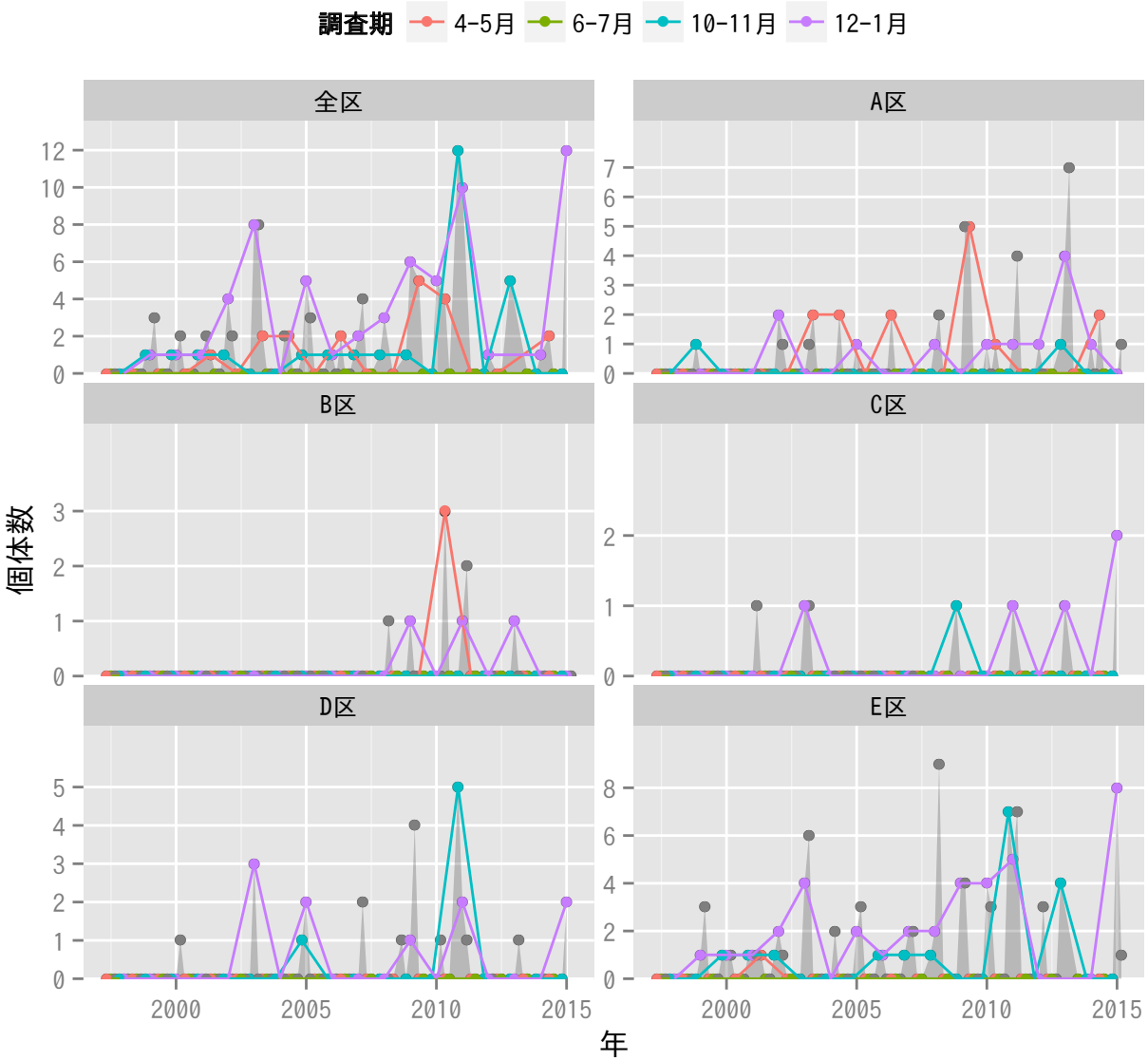

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0.03
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

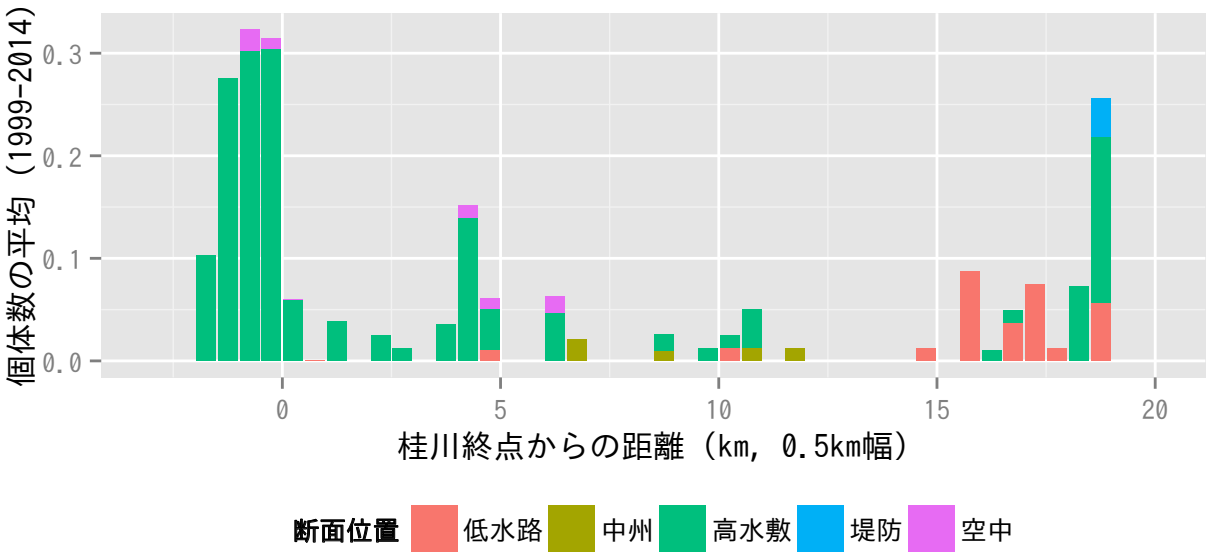
マミチャジナイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

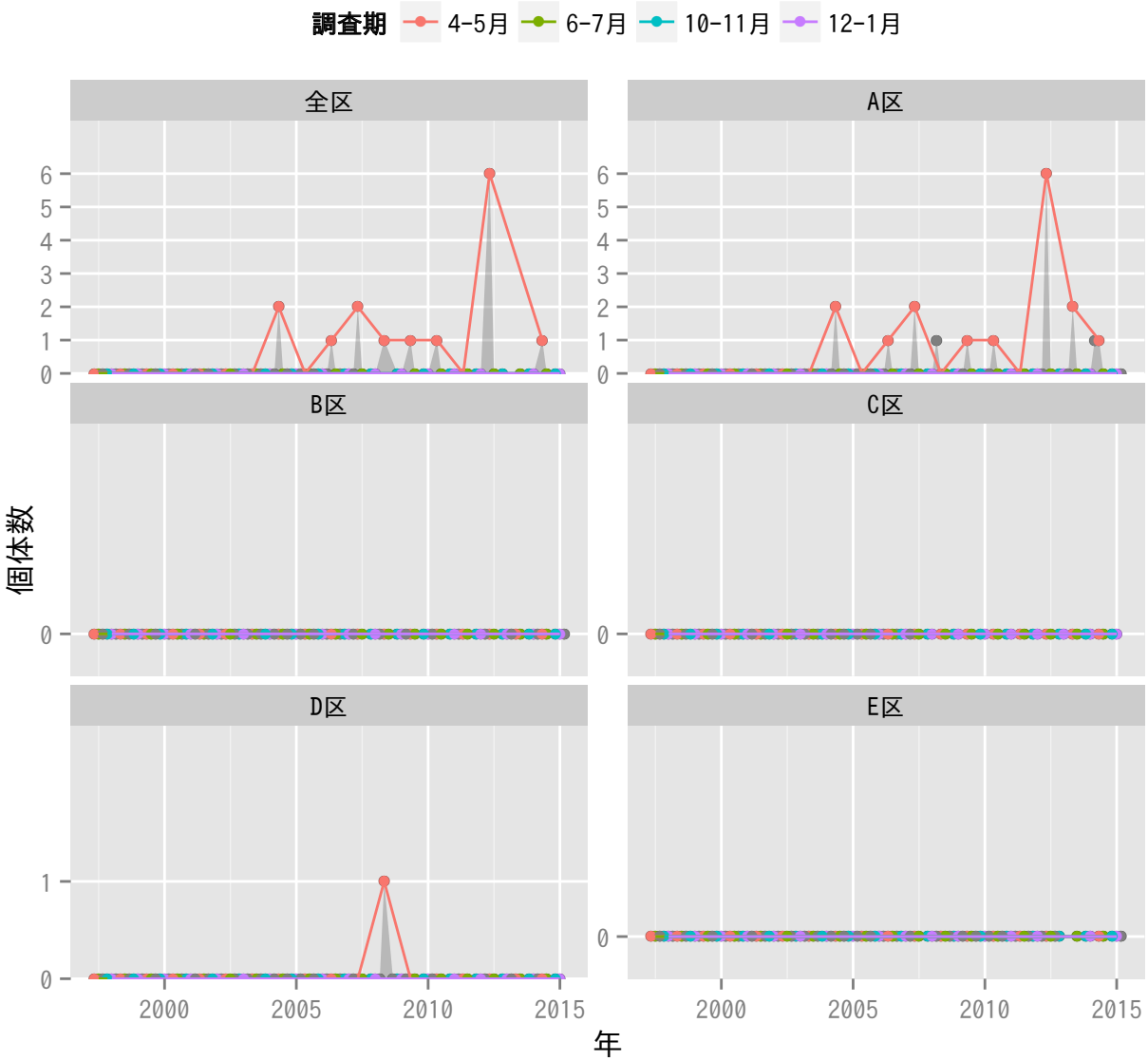

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

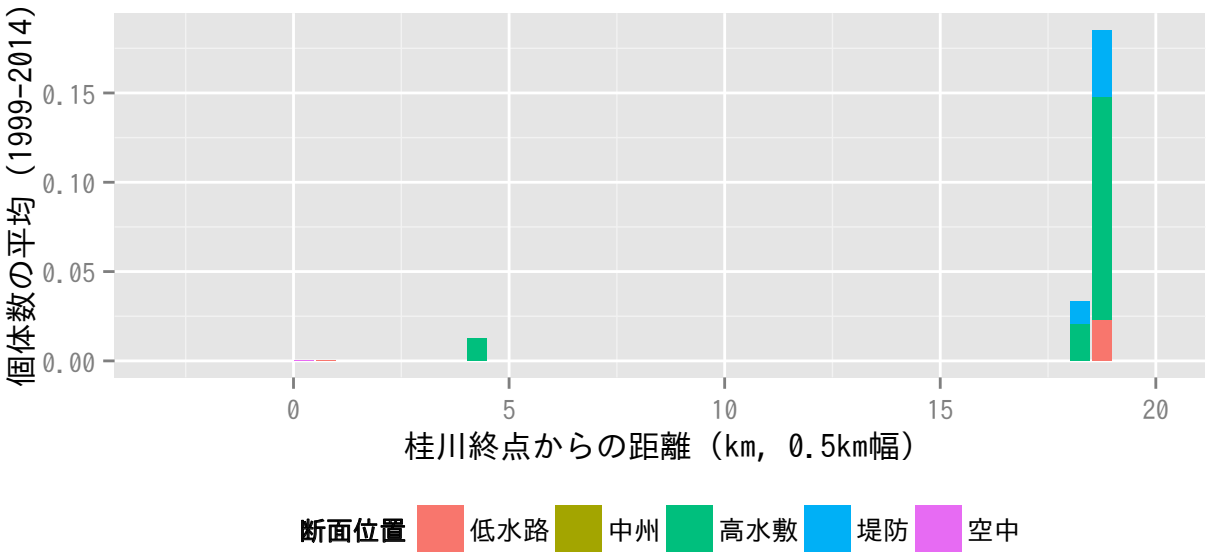
シロハラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

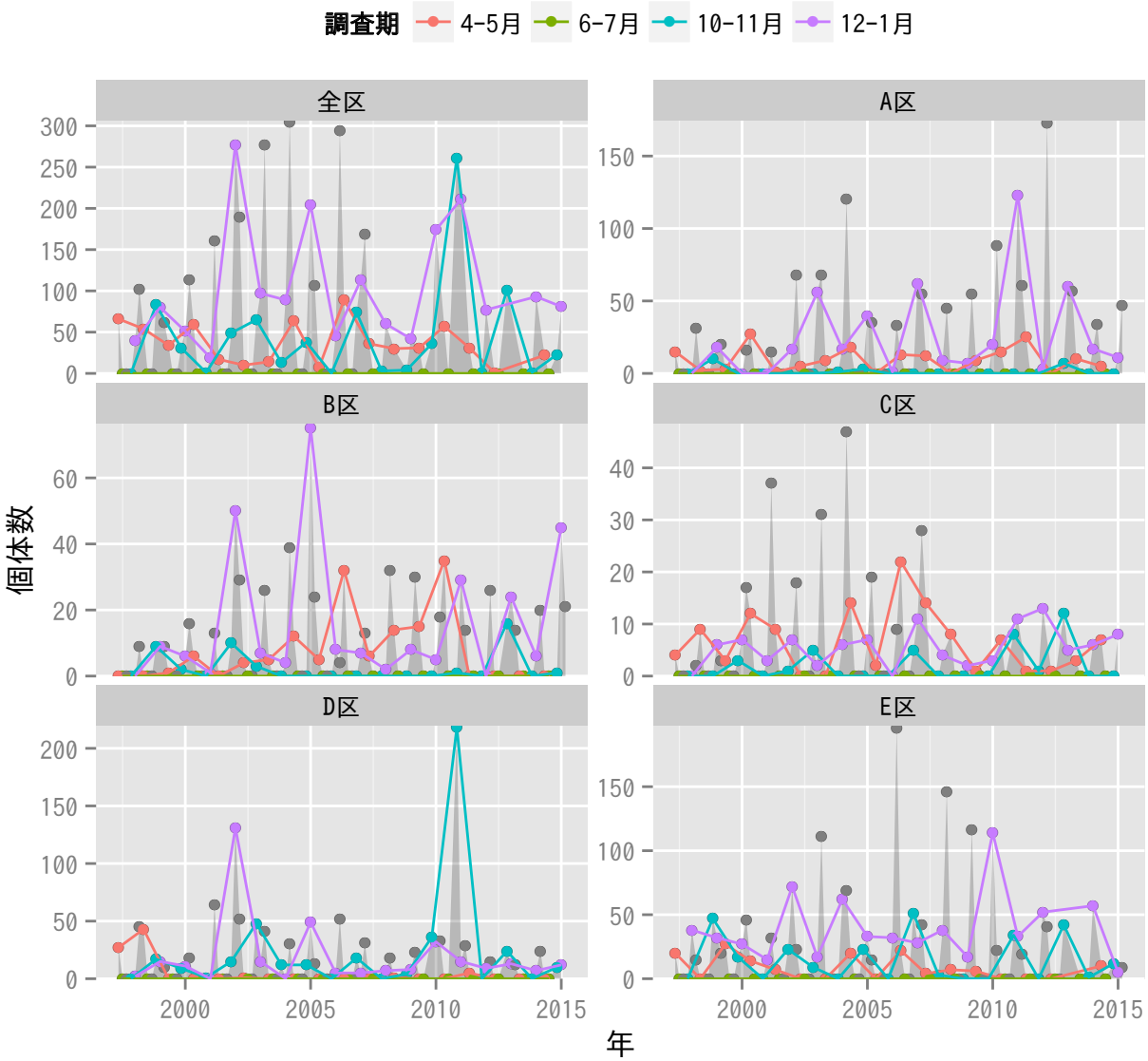

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

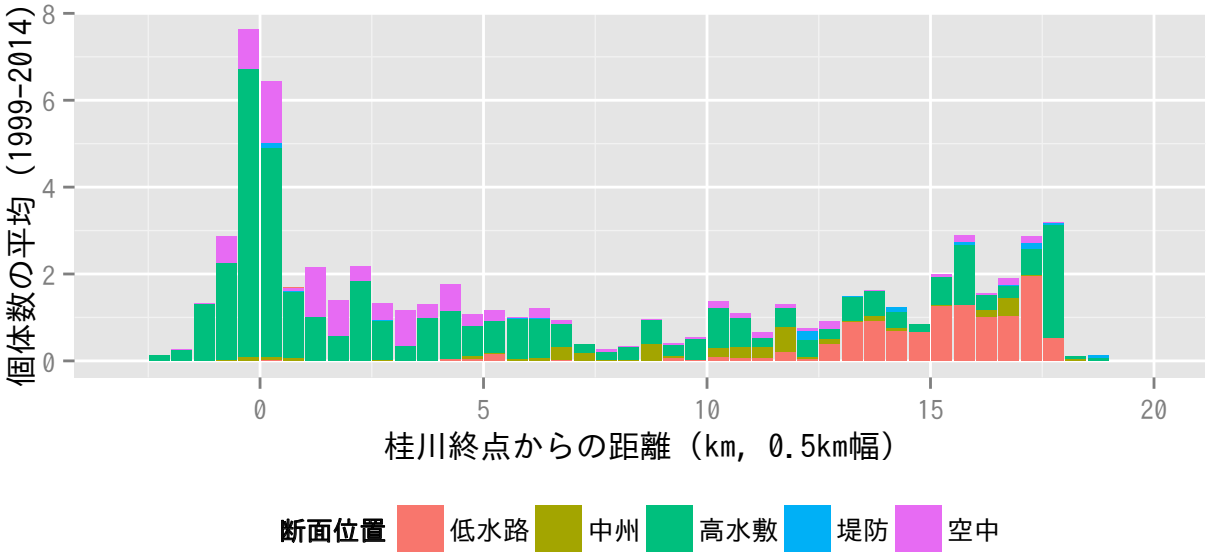
アカハラ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

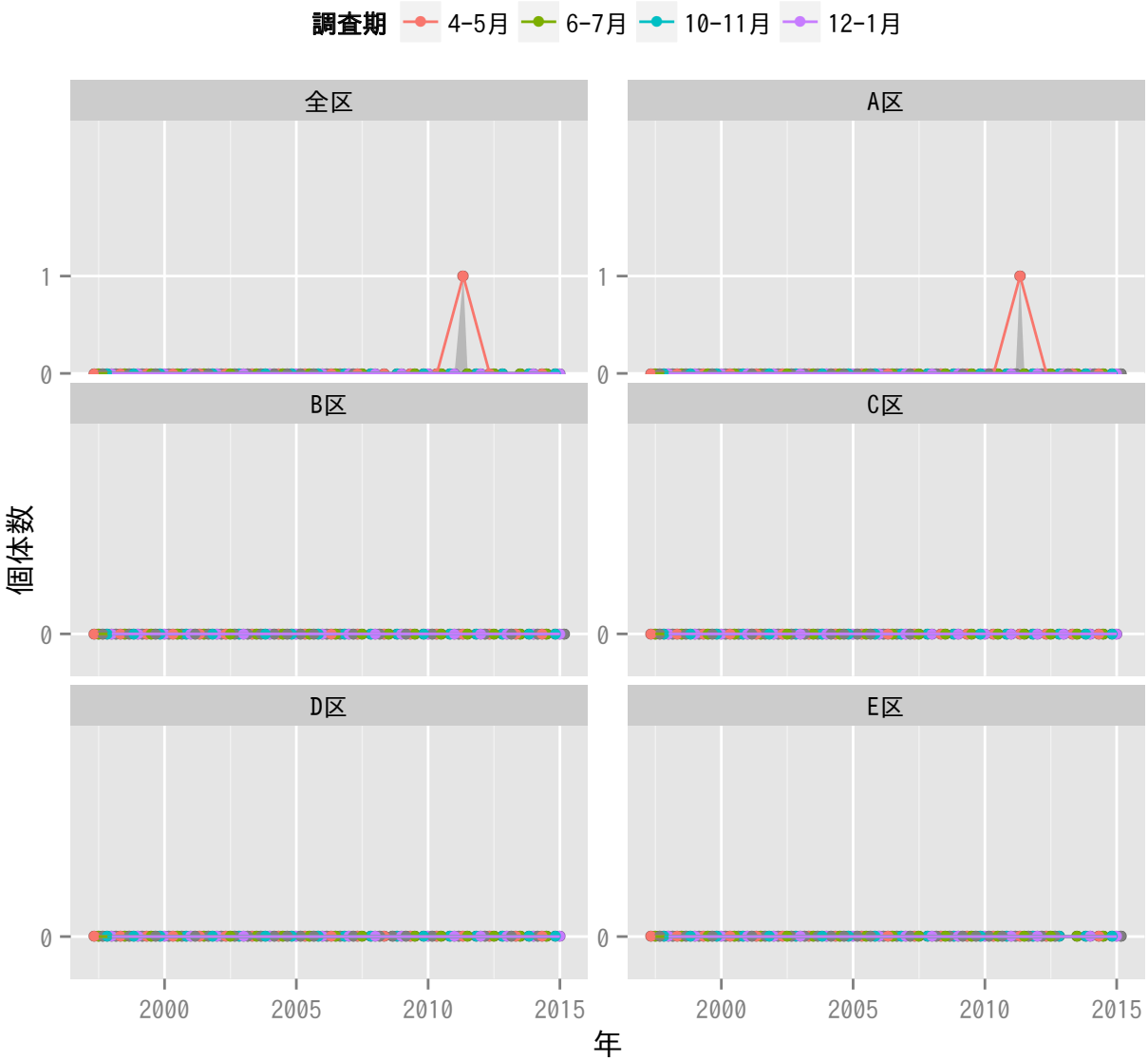

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

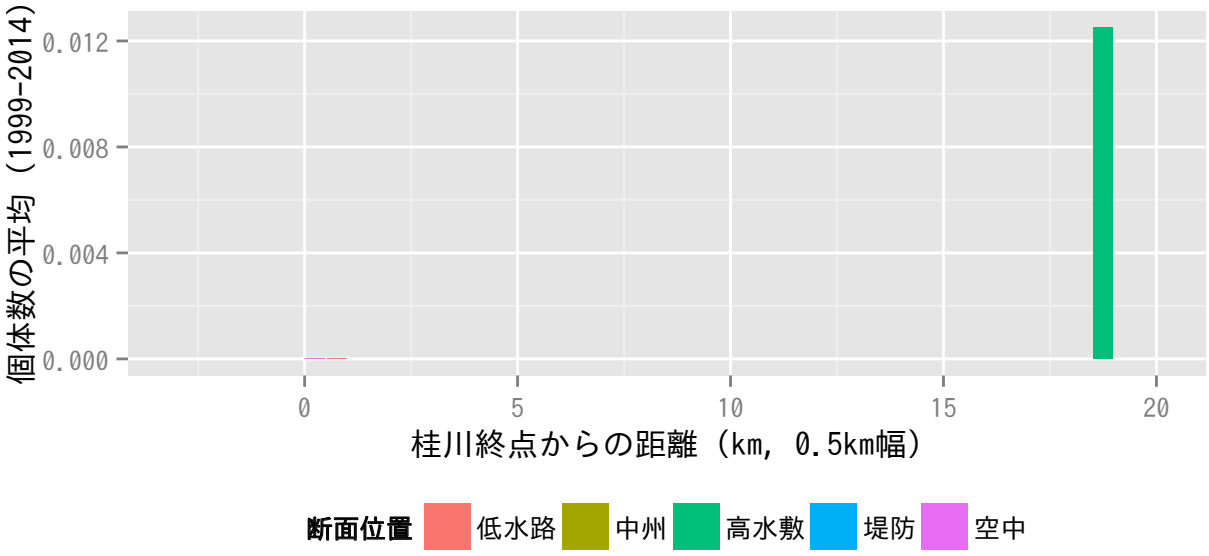
ツグミ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

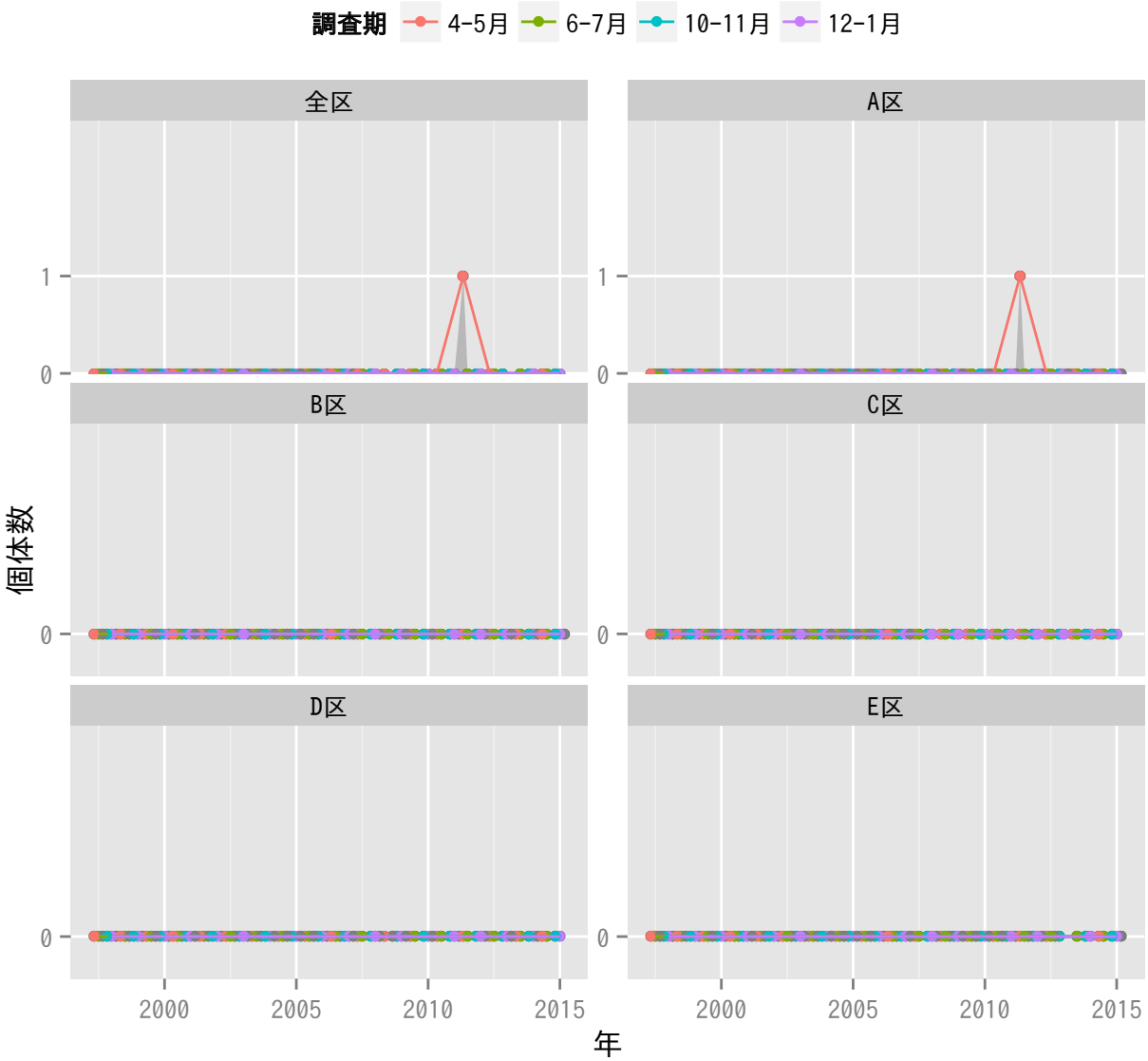

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

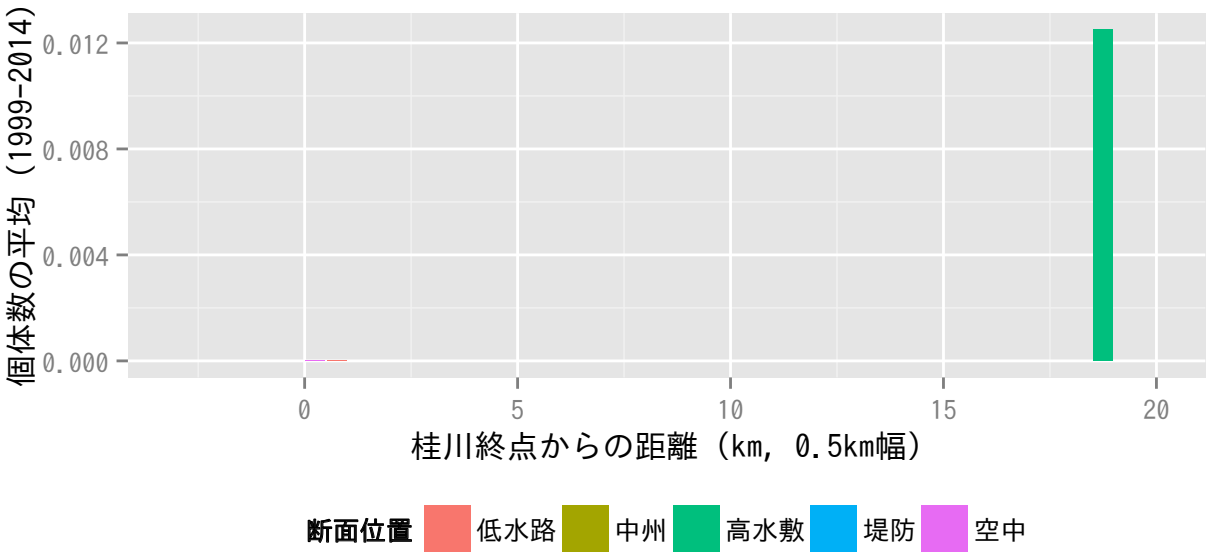
コマドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

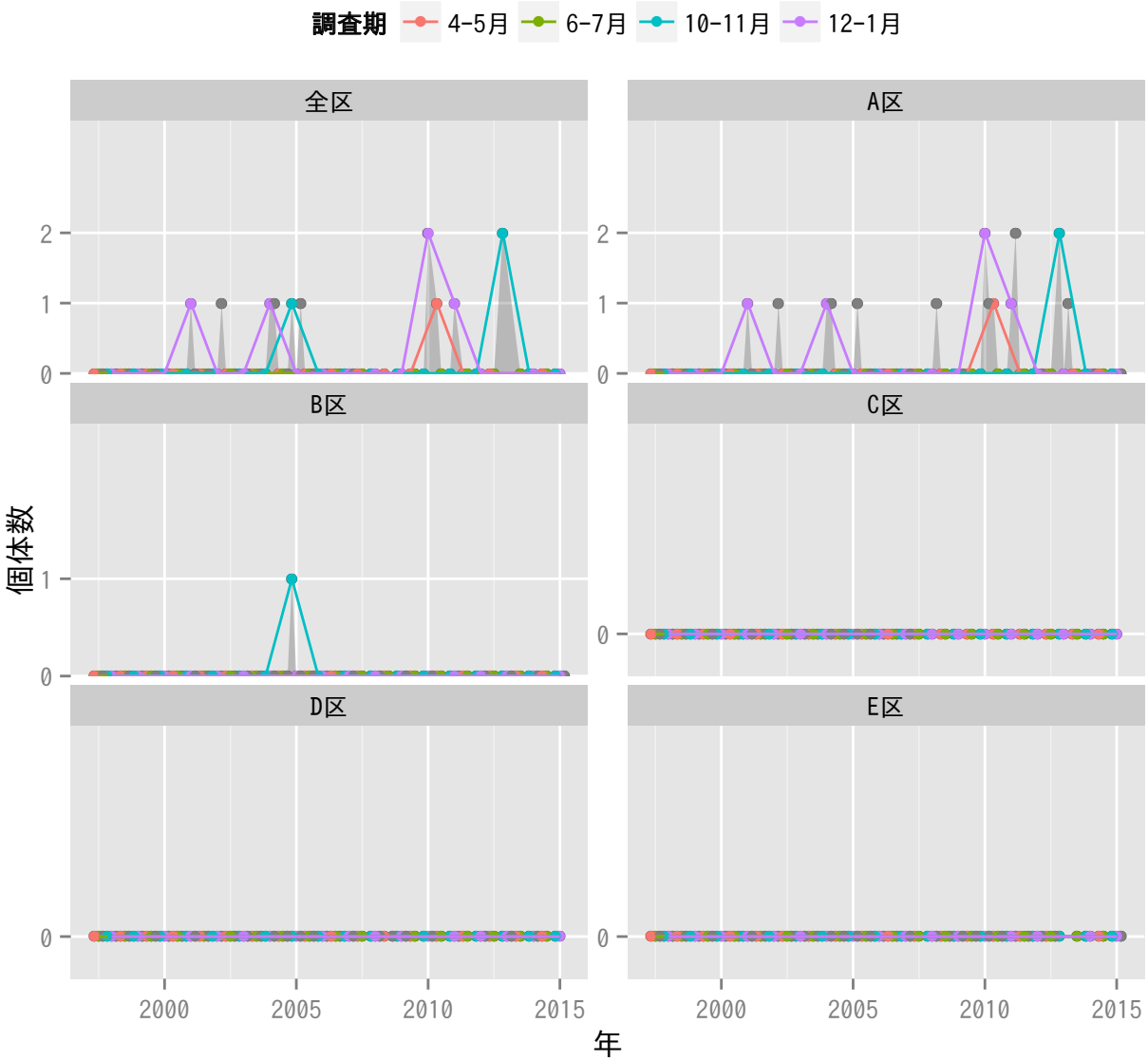

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

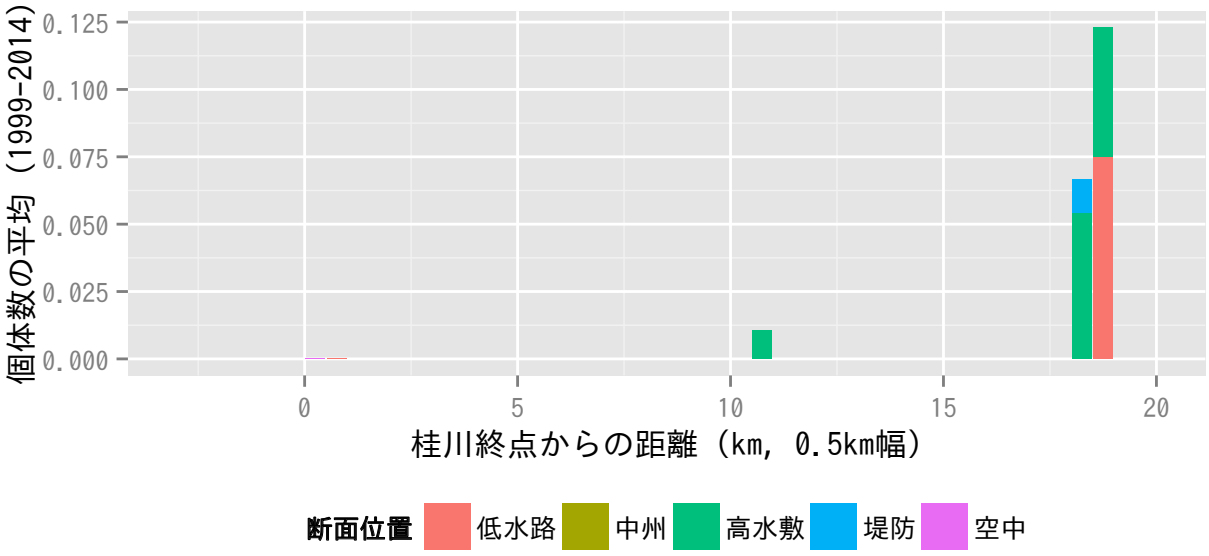
コルリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年


個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

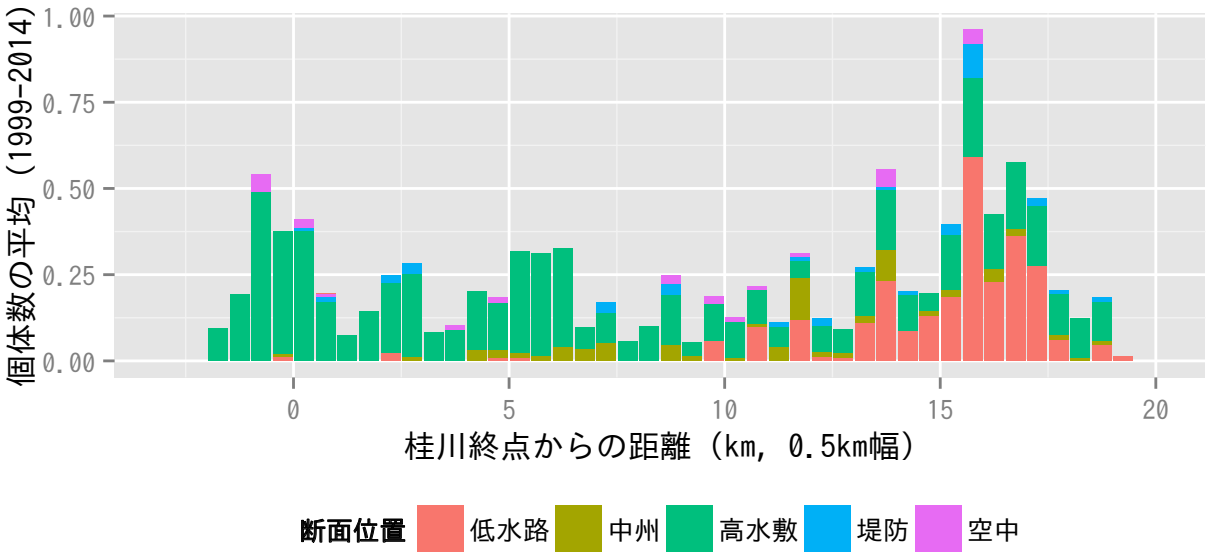
ルリビタキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

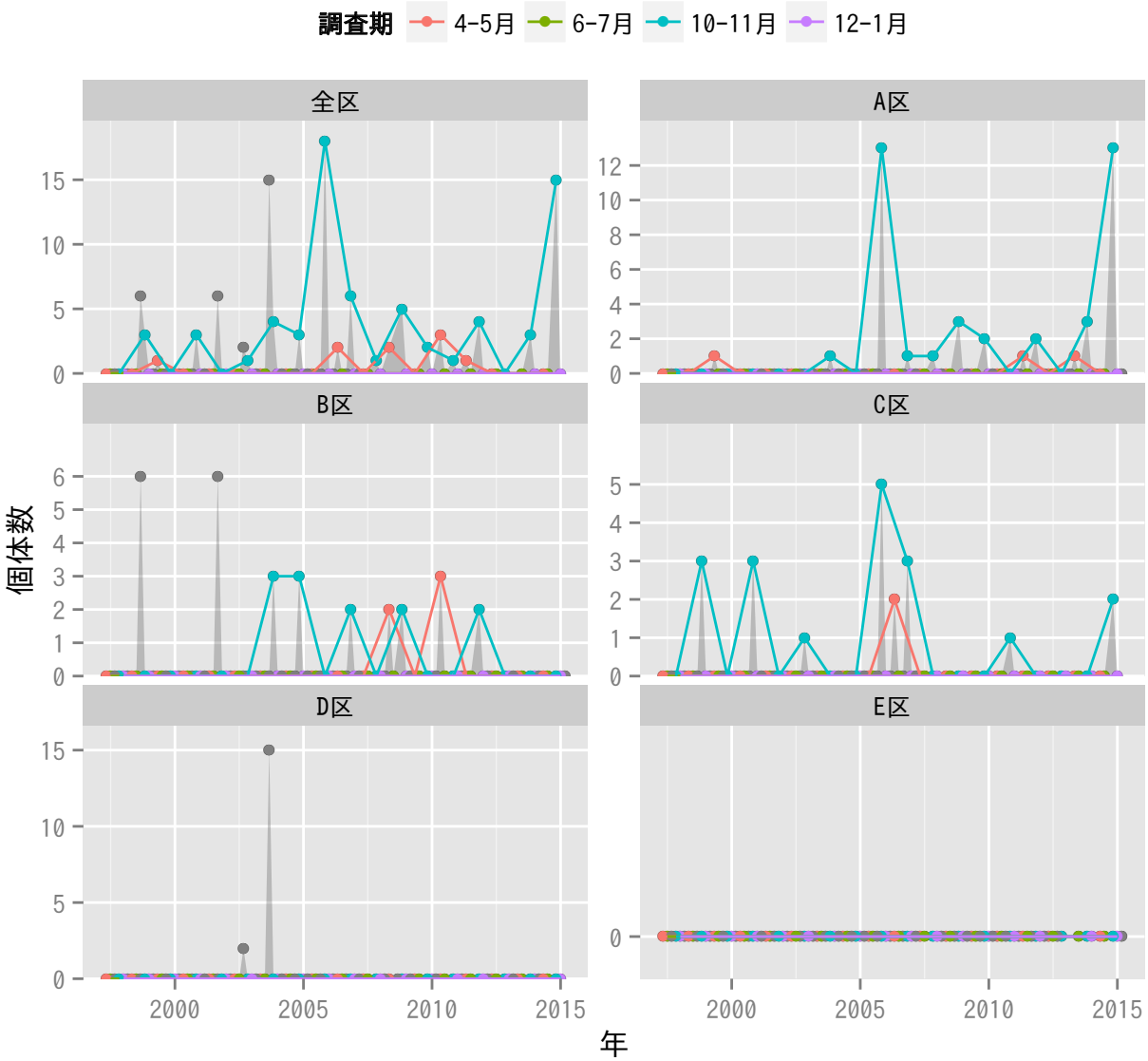

個体数の平均（1999-2014）
0.125
0.100
0.075
0.050
0.025
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

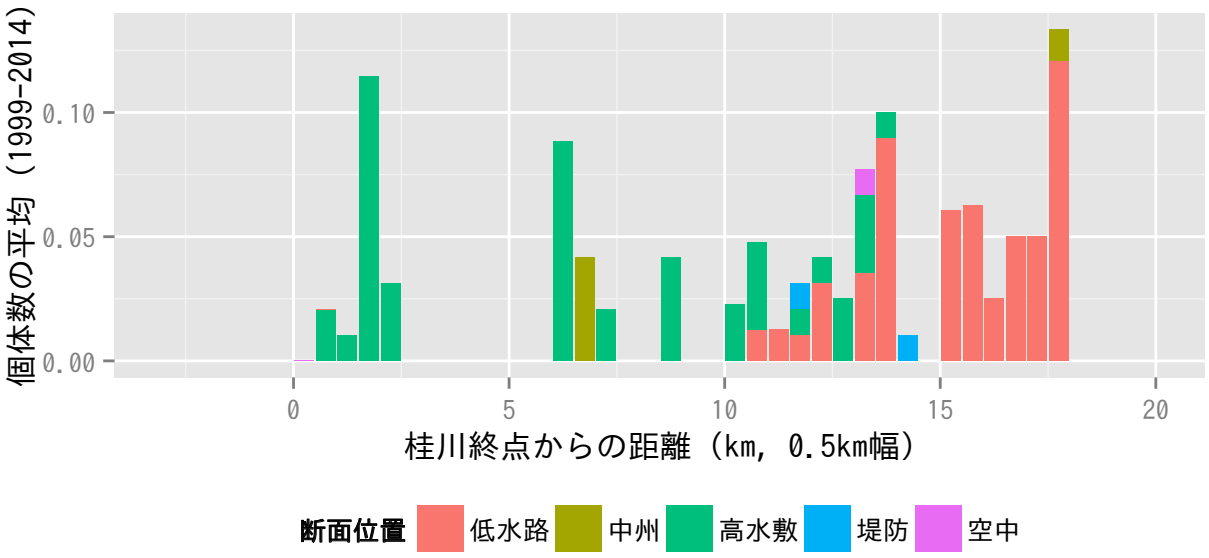
ジョウビタキ

調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

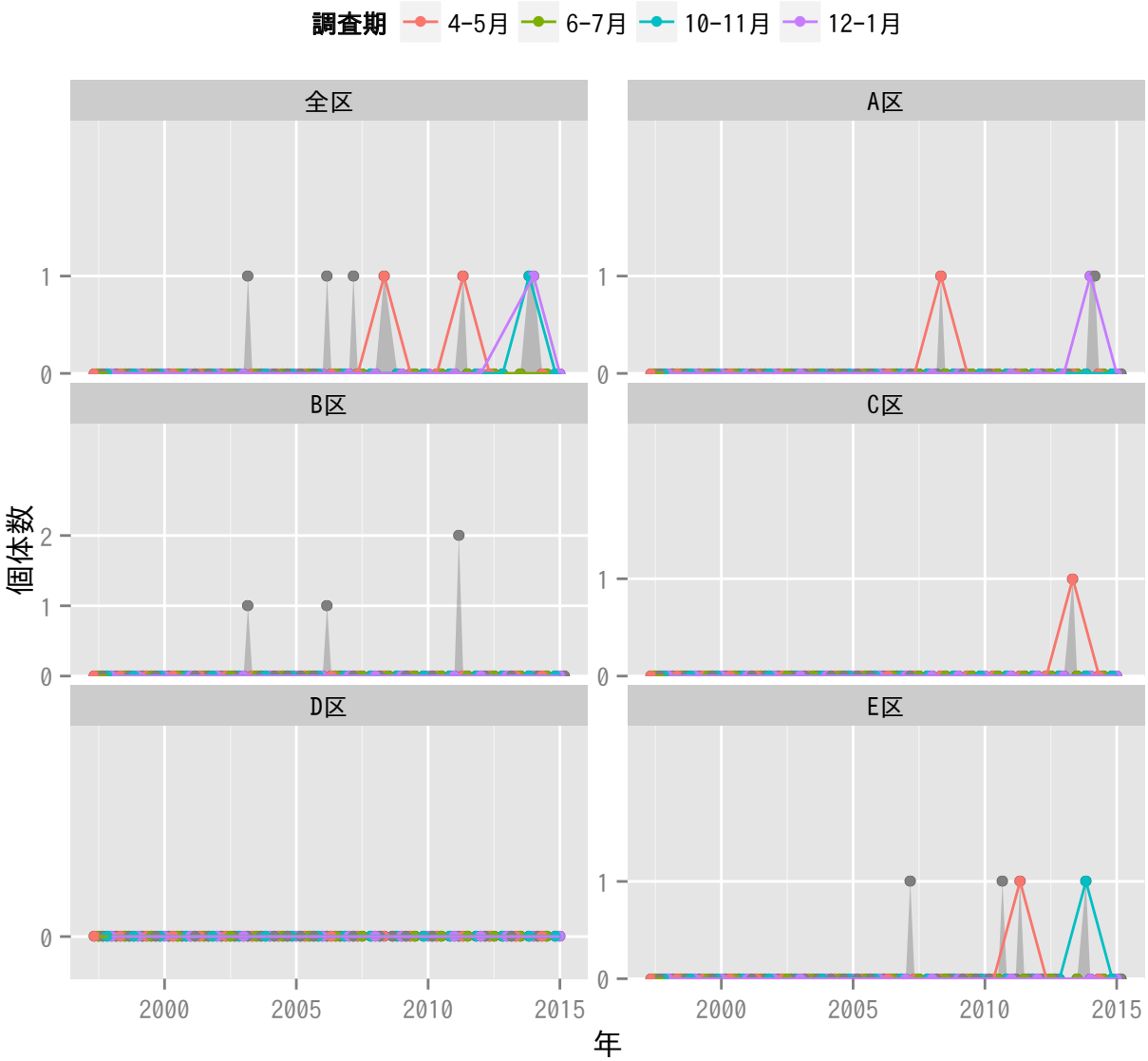

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

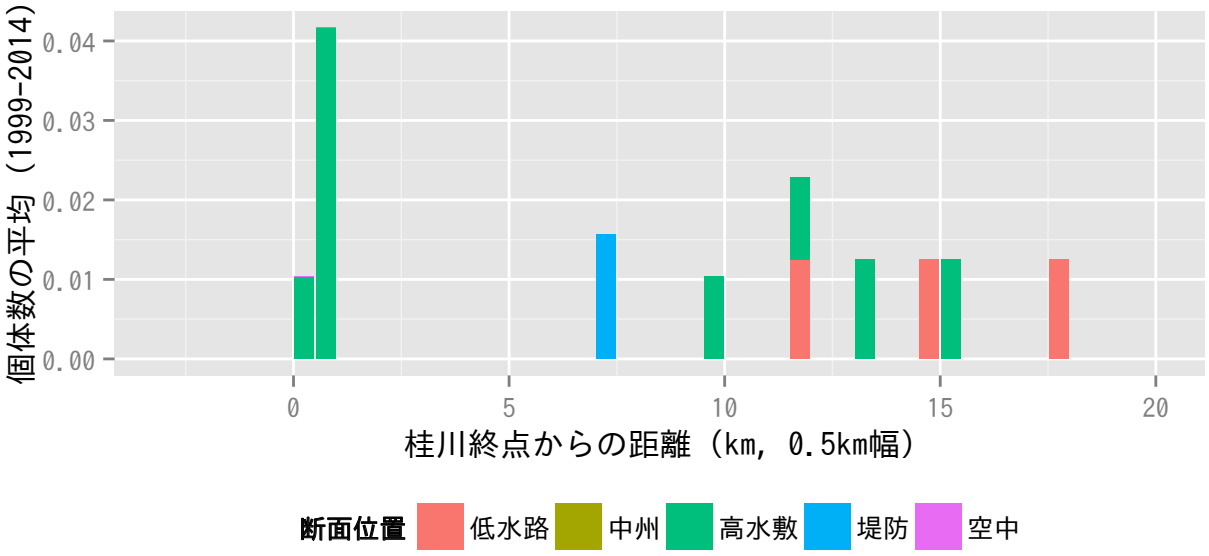
ノビタキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

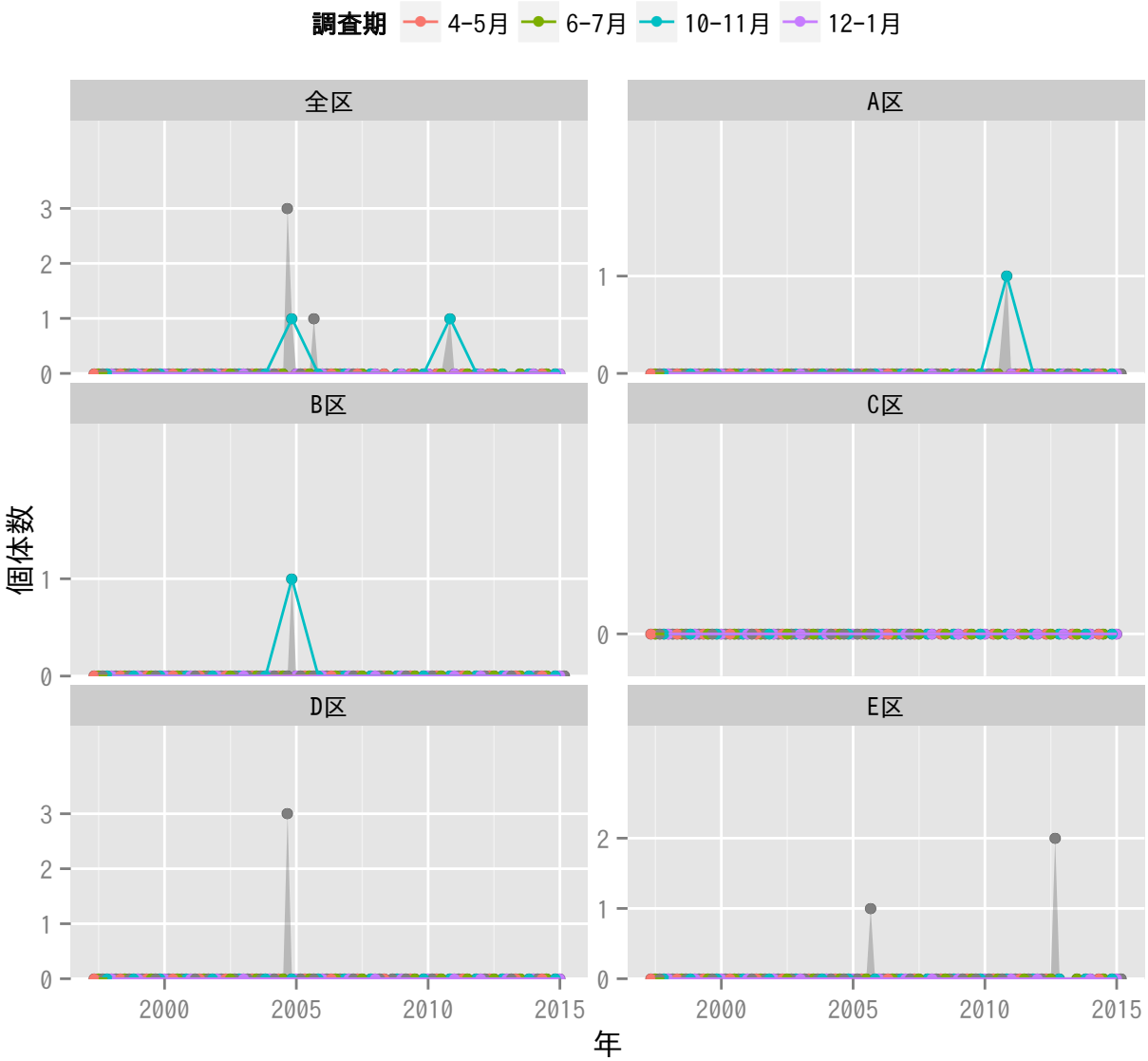

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

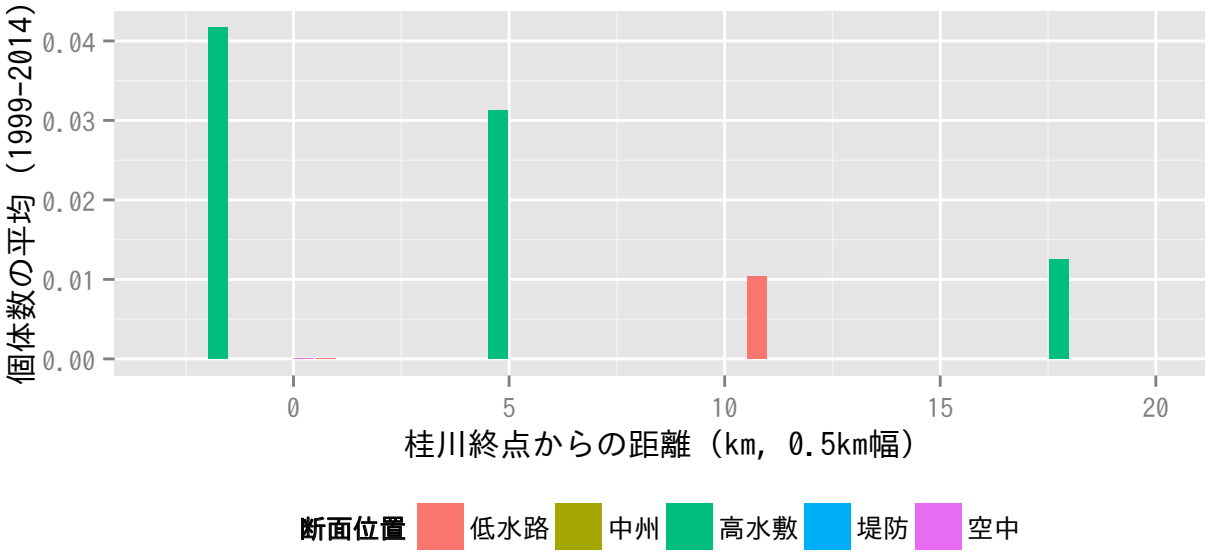
イソヒヨドリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

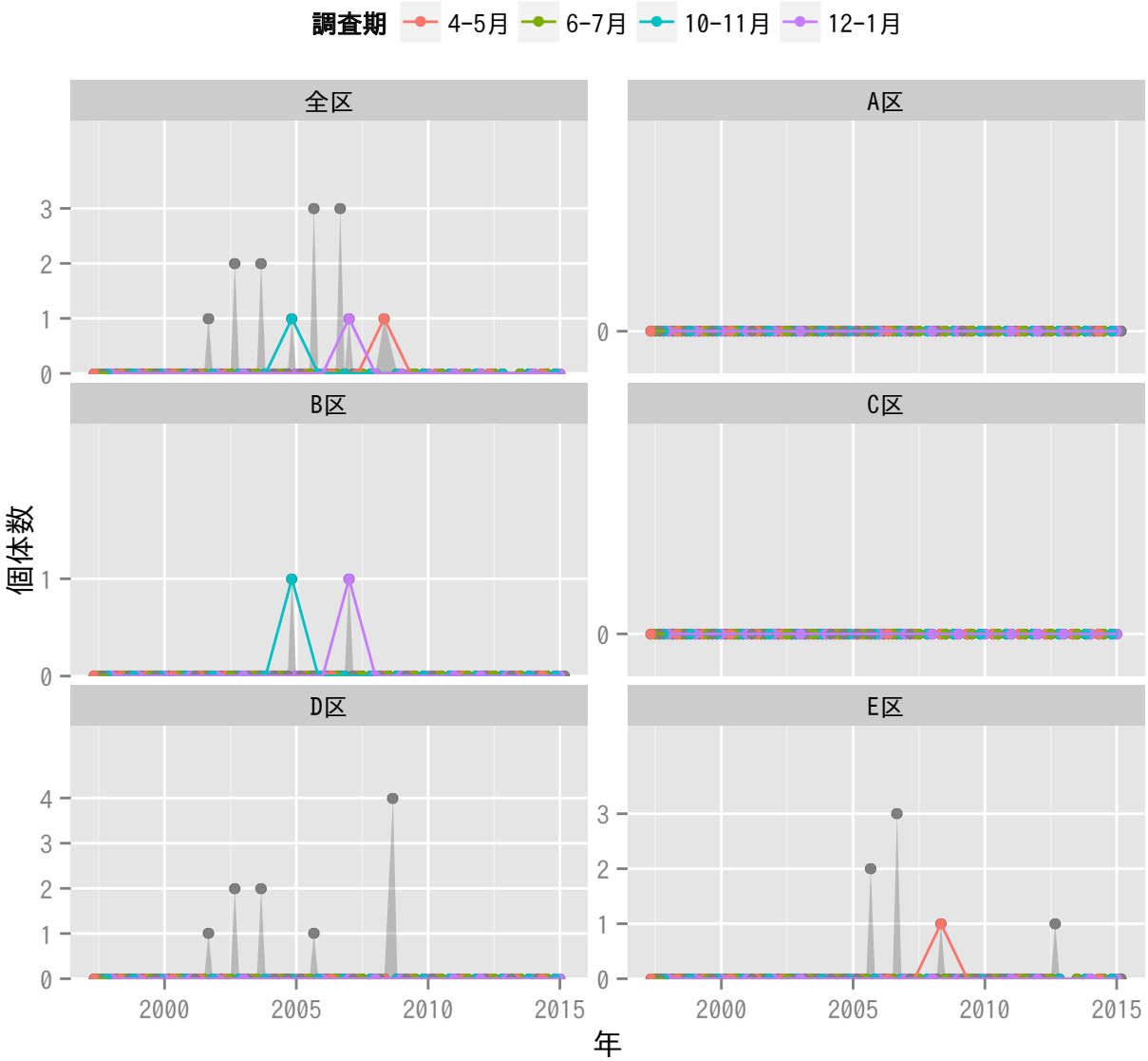

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

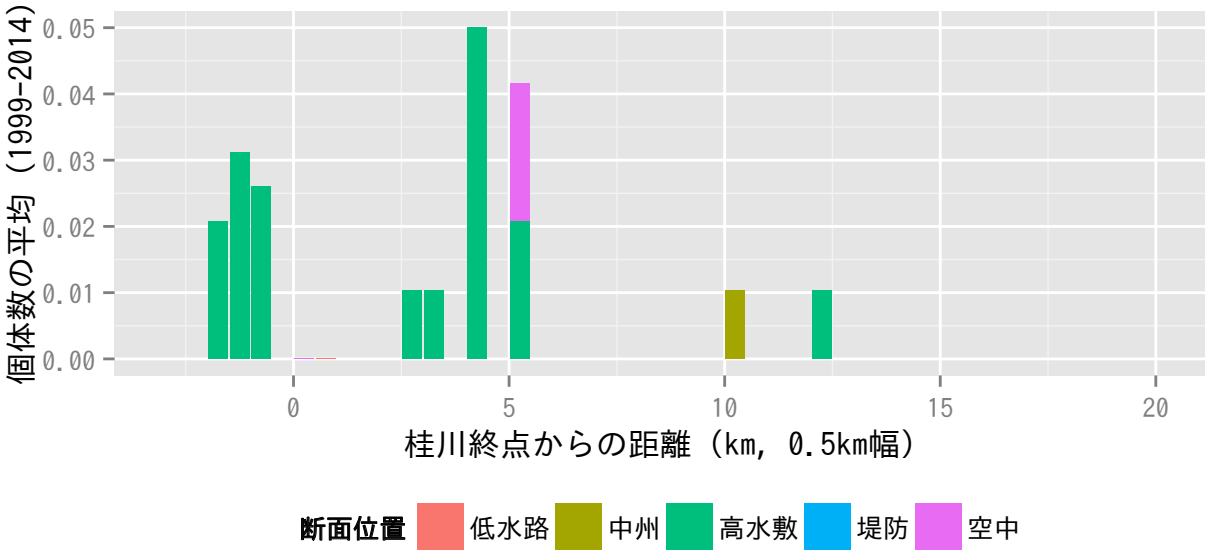
エゾビタキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

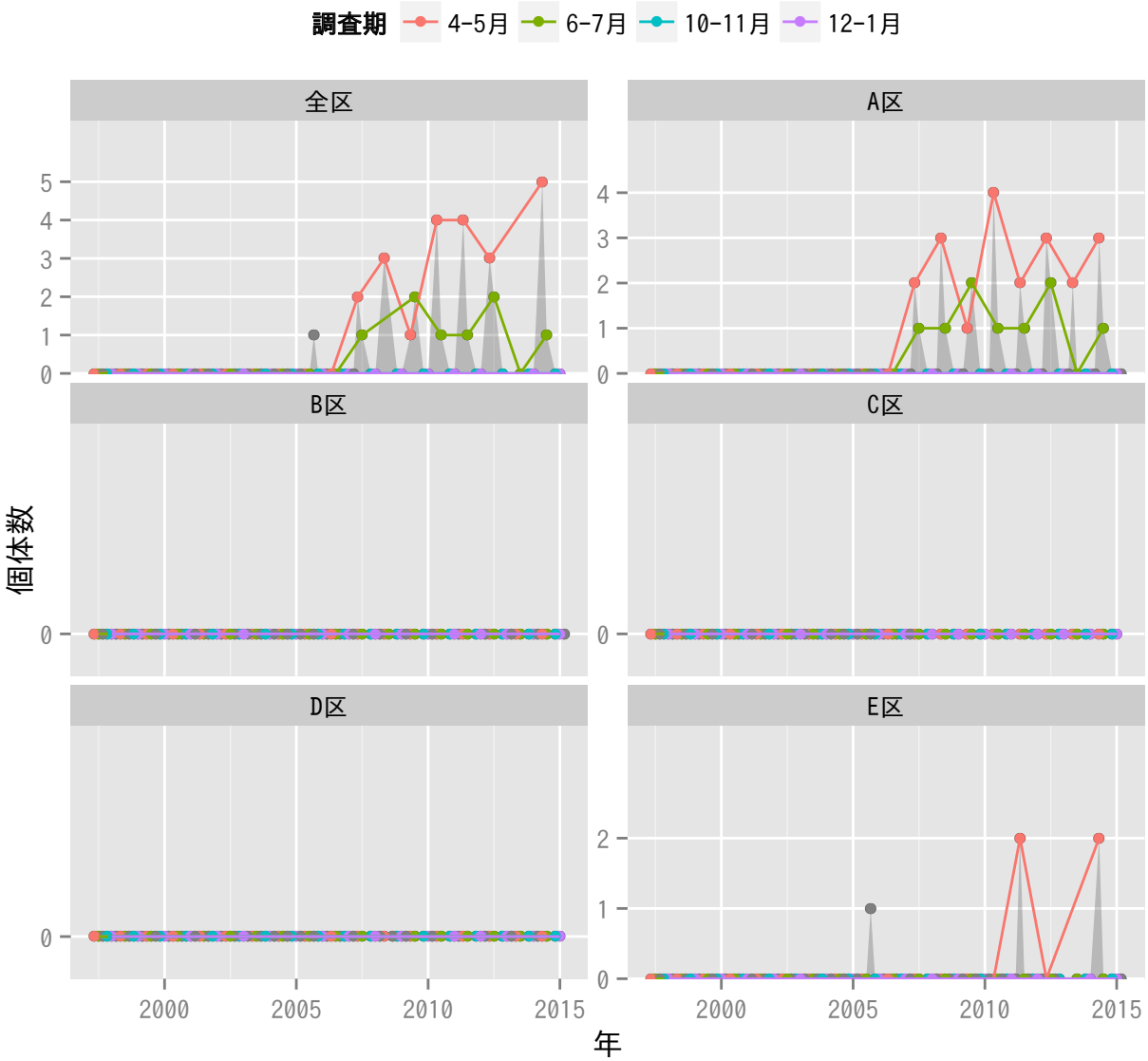

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

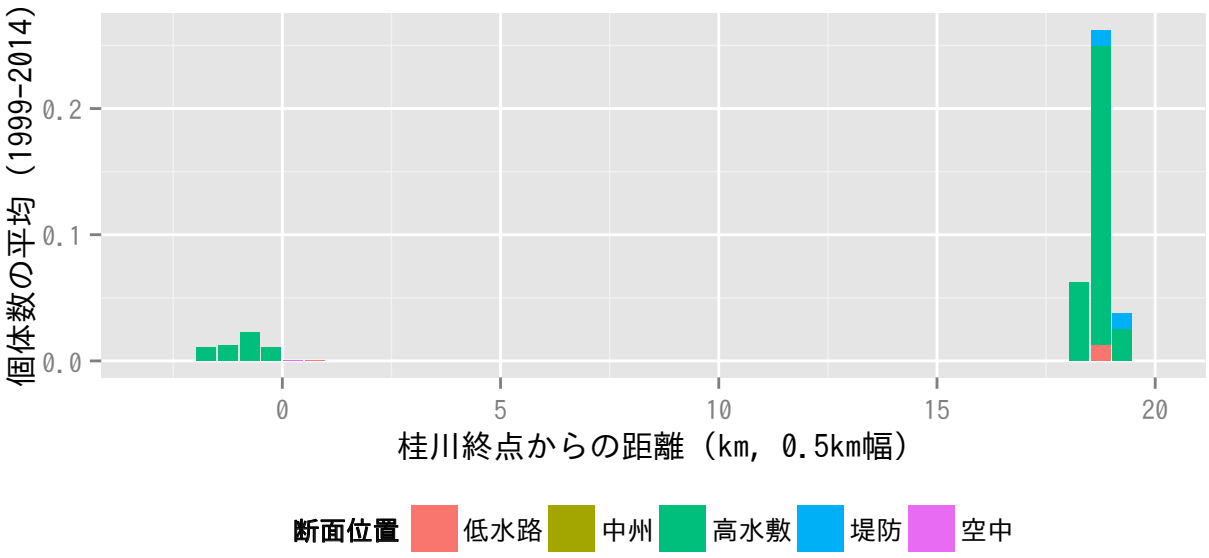
コサメビタキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

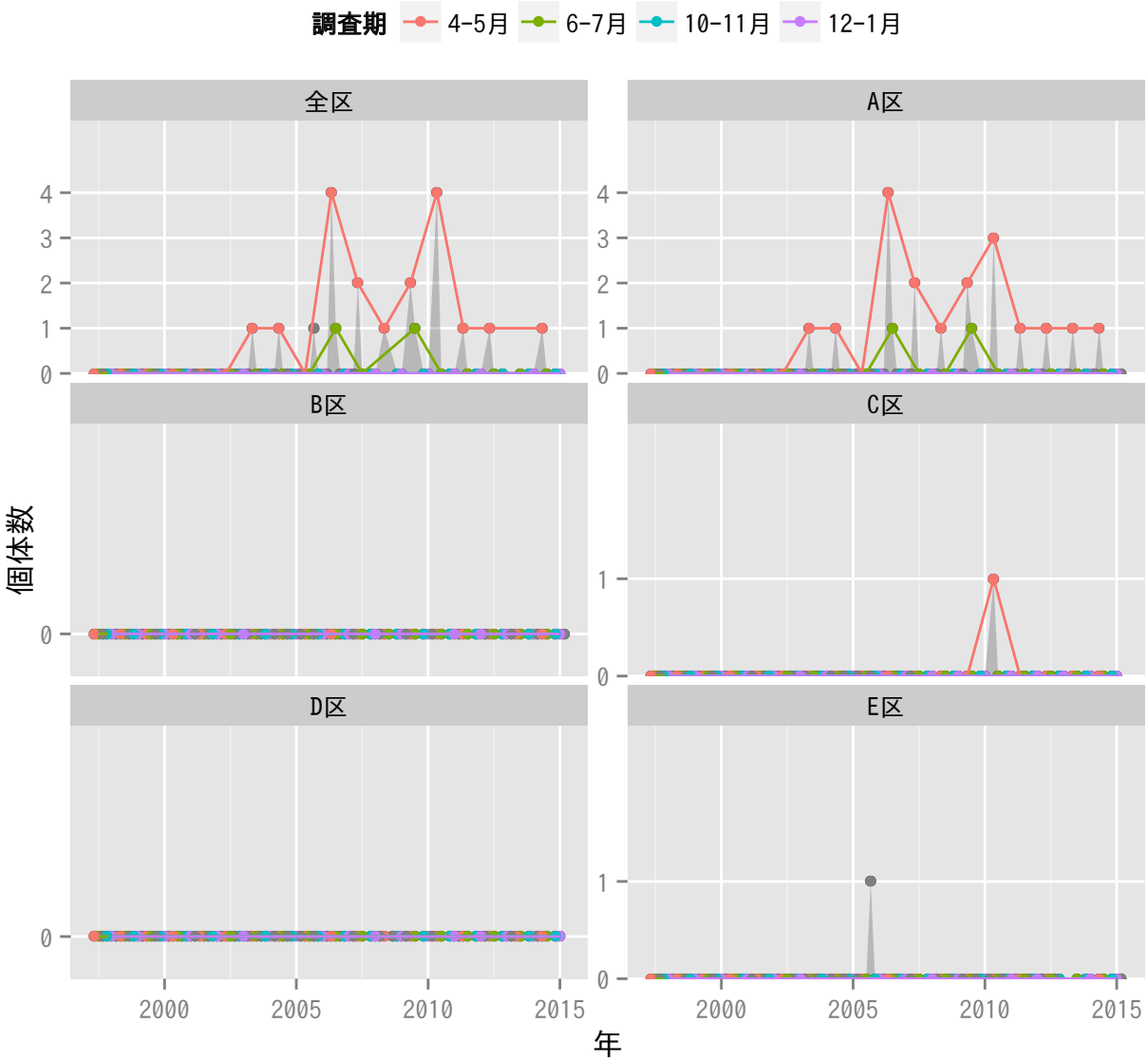

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

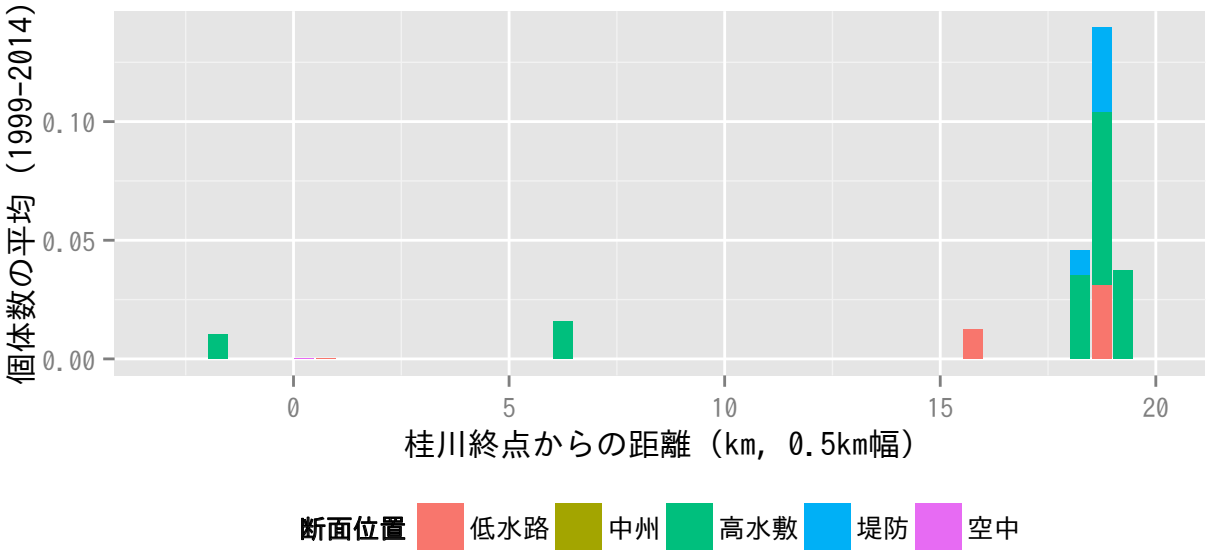
キビタキ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

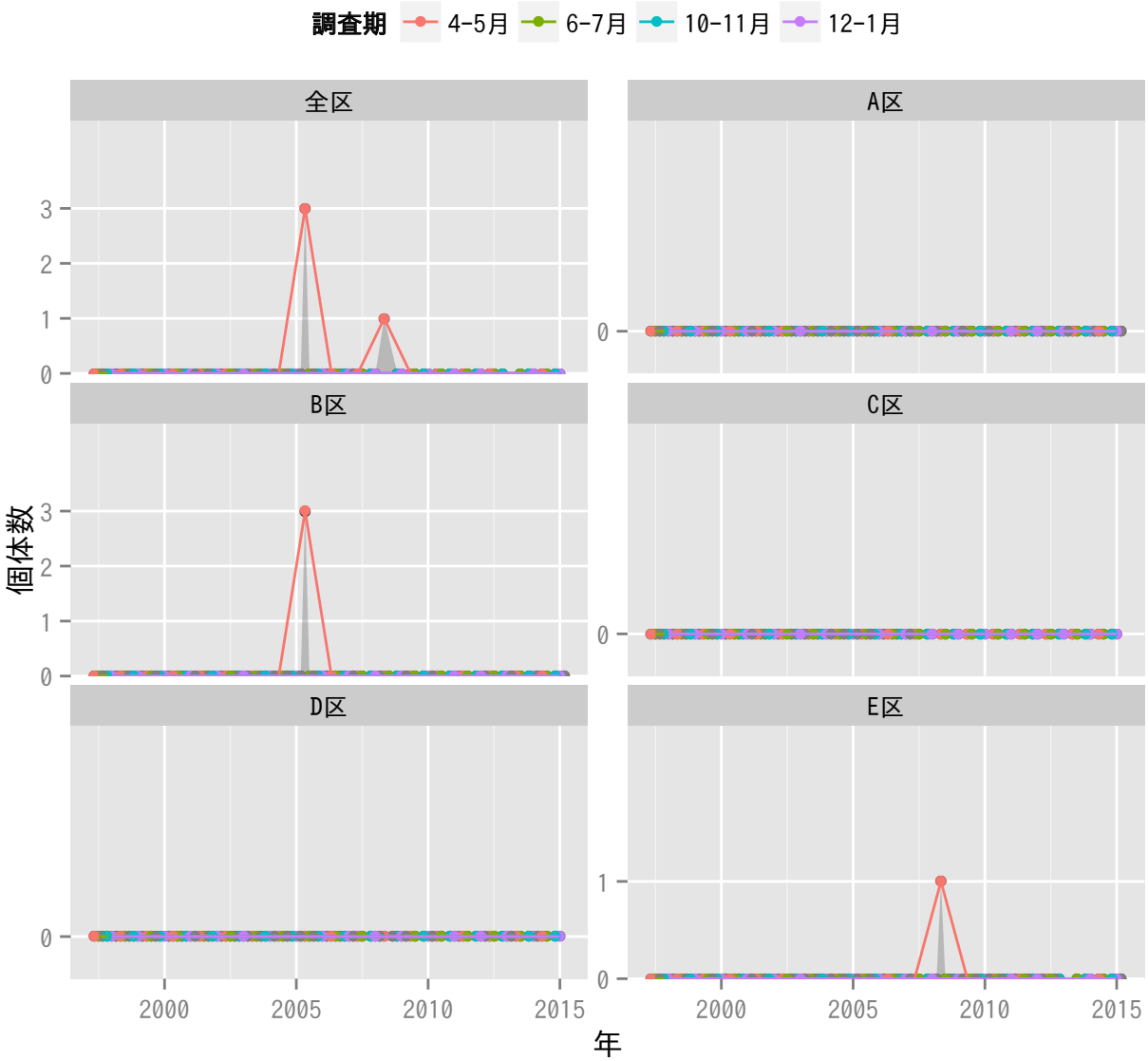

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

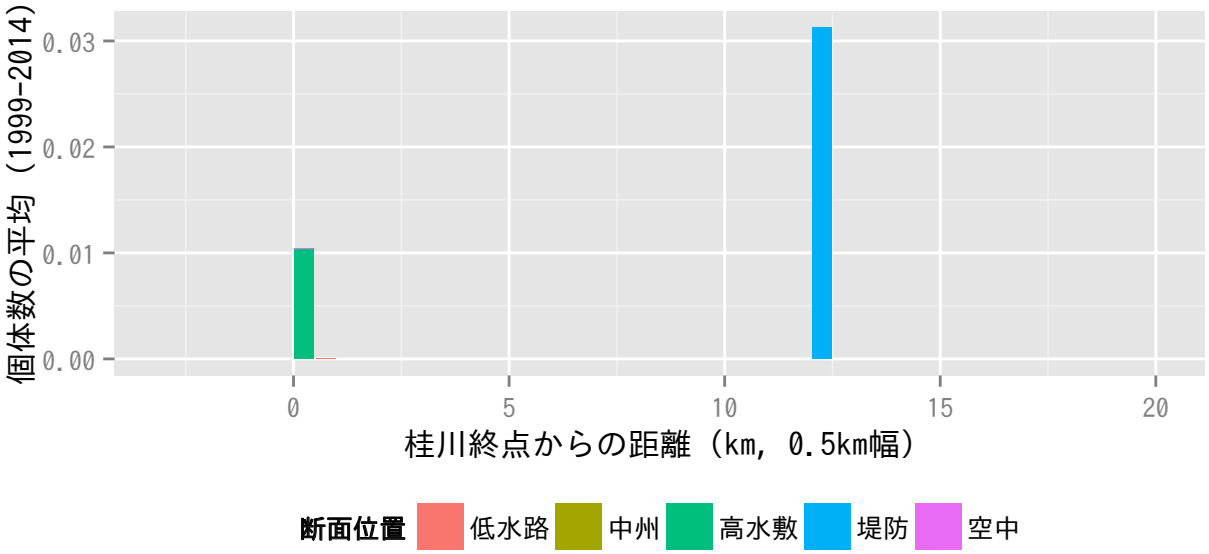
オオルリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

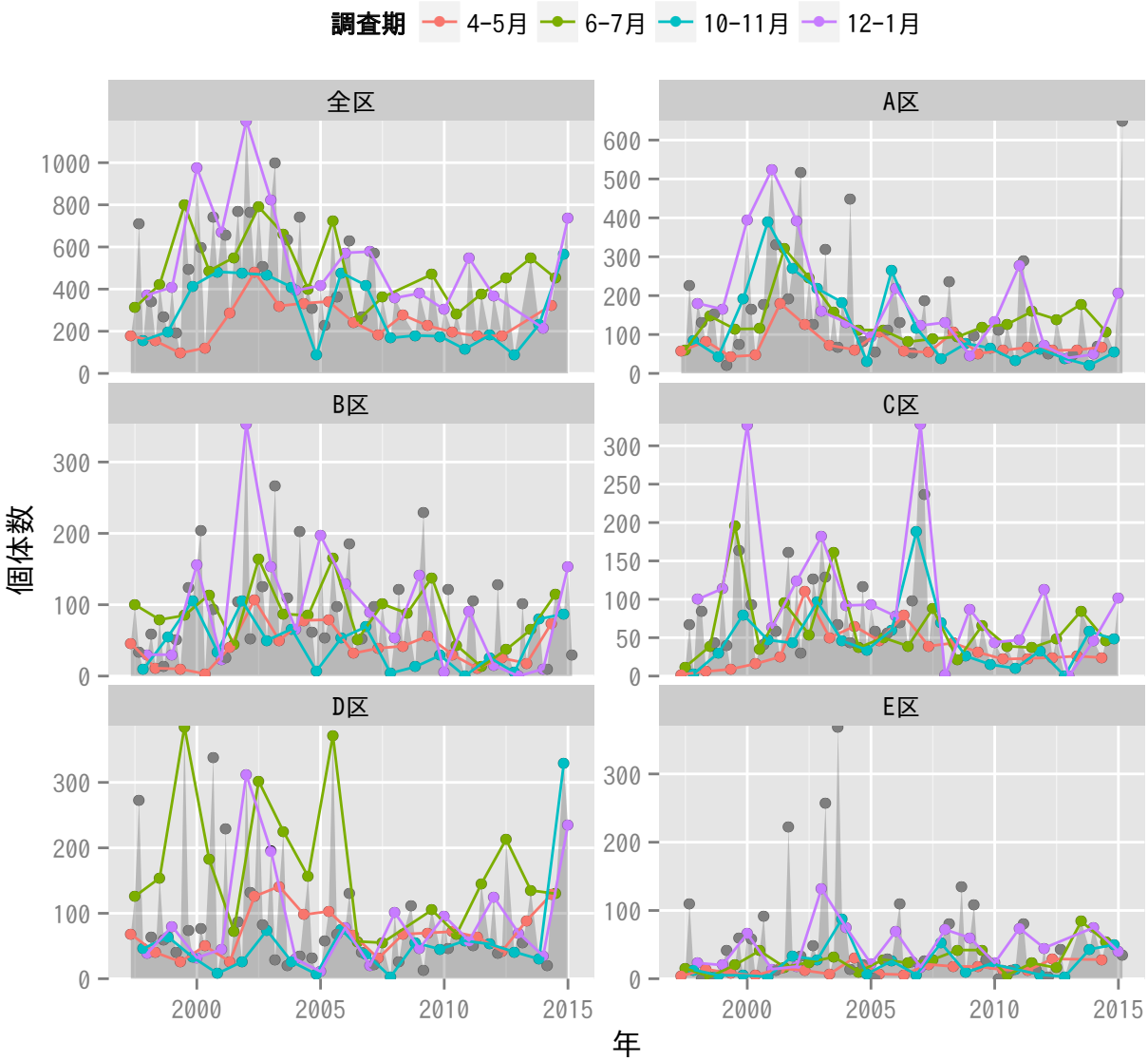

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

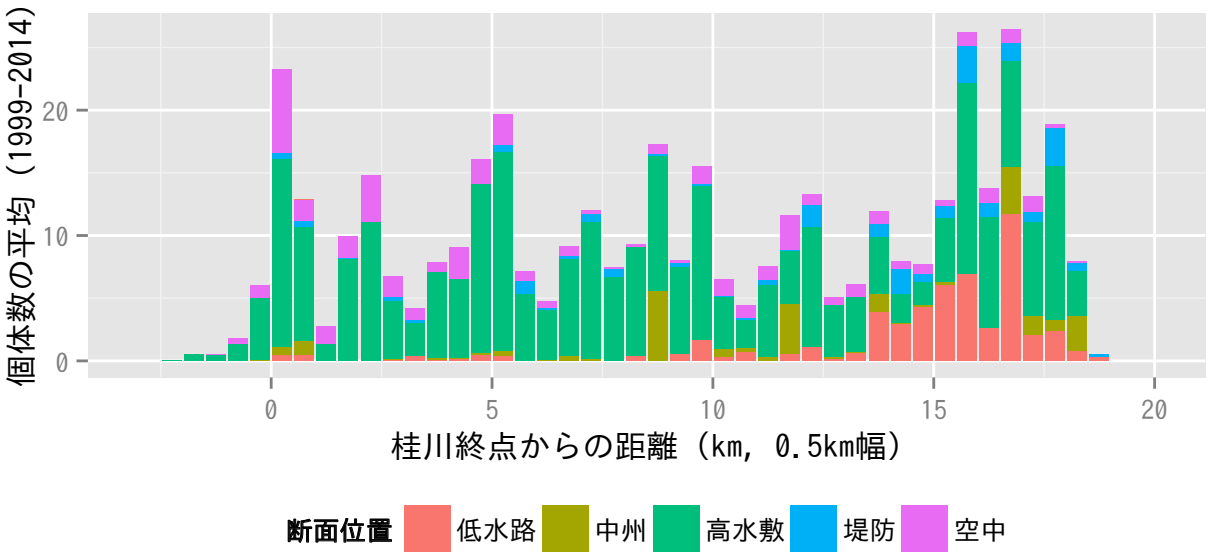
ニュウナイスズメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

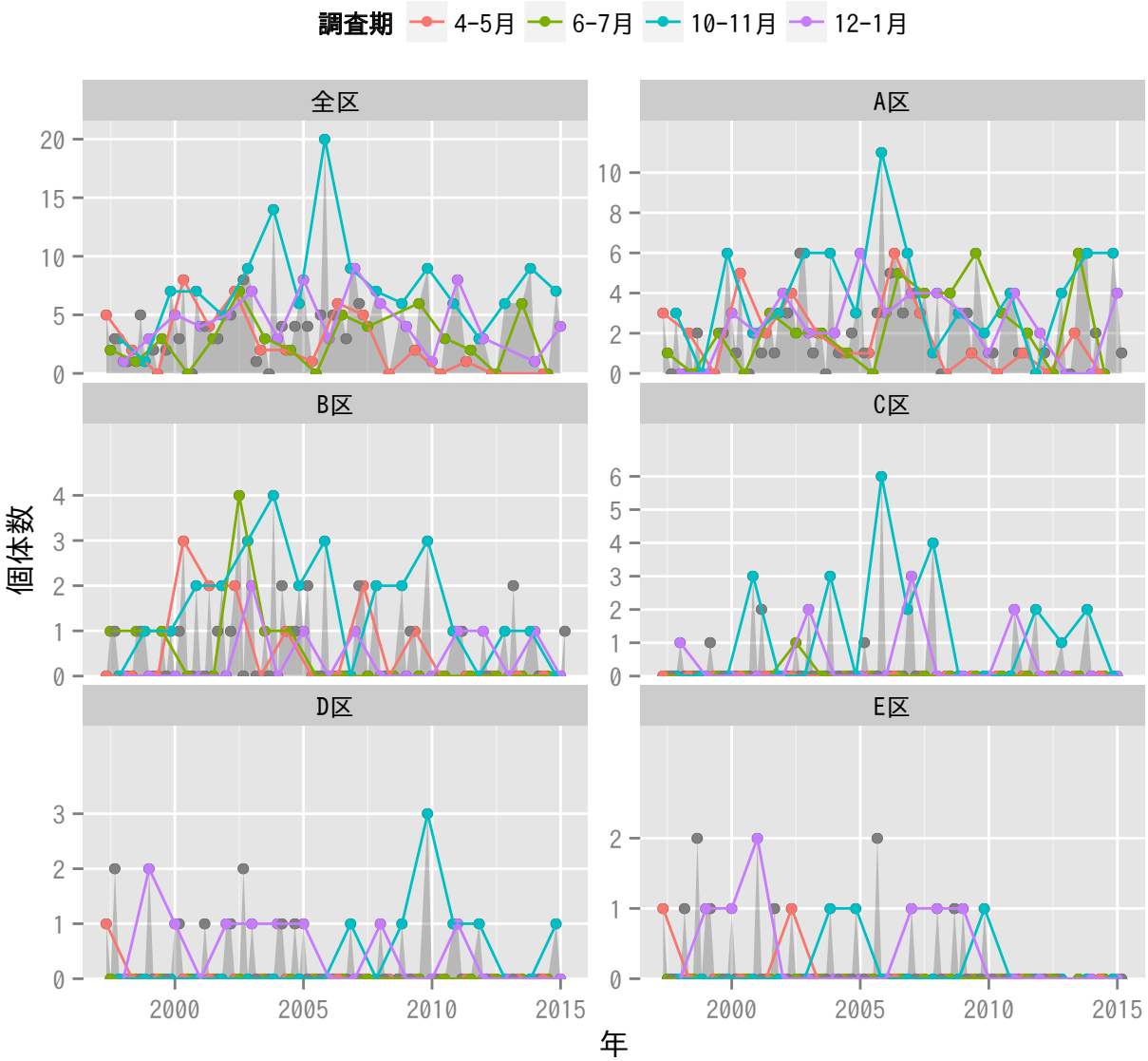

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

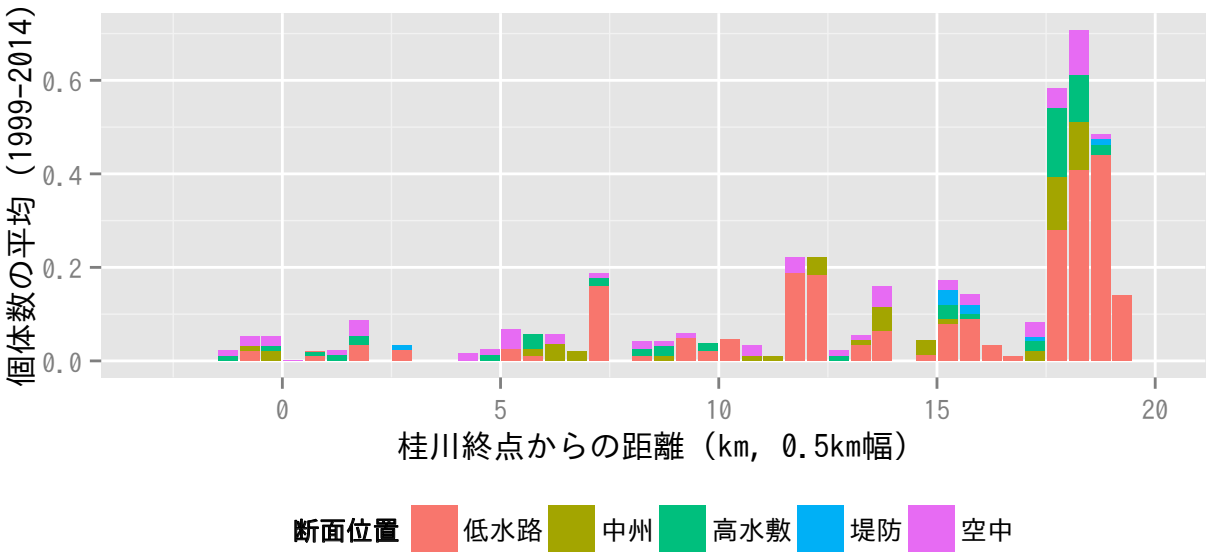
スズメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

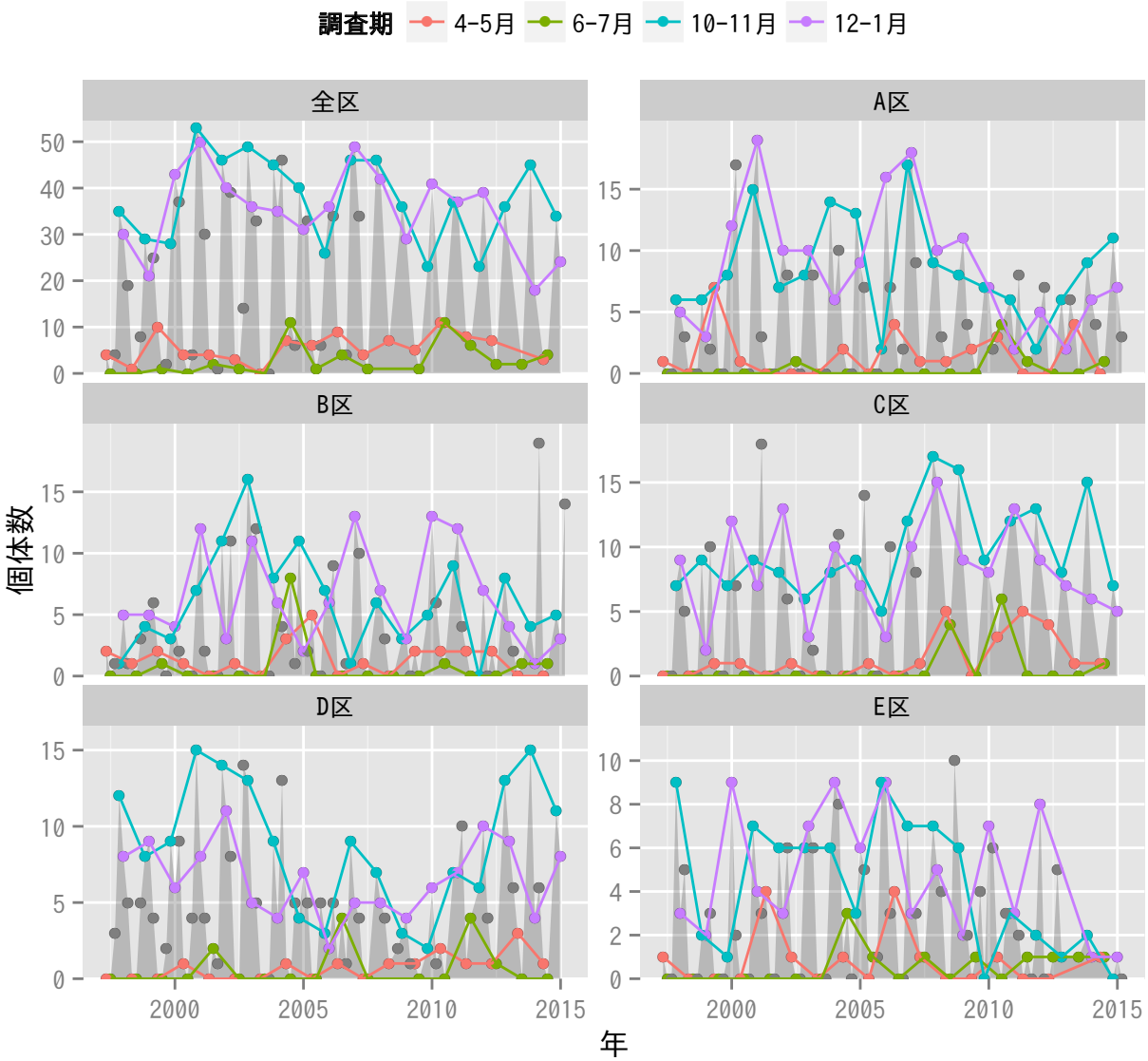

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

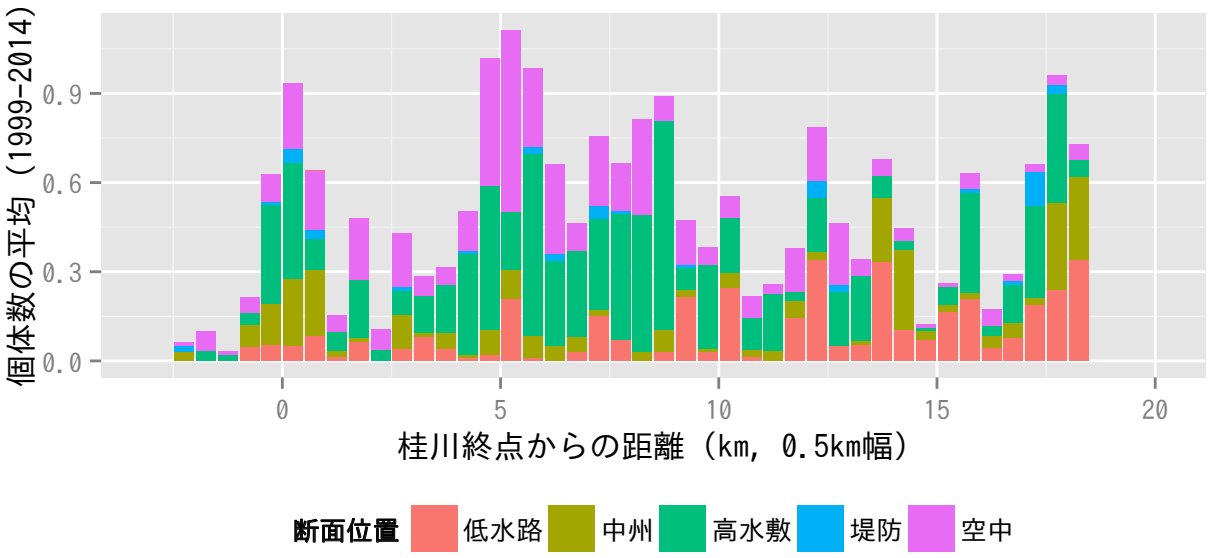
キセキレイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

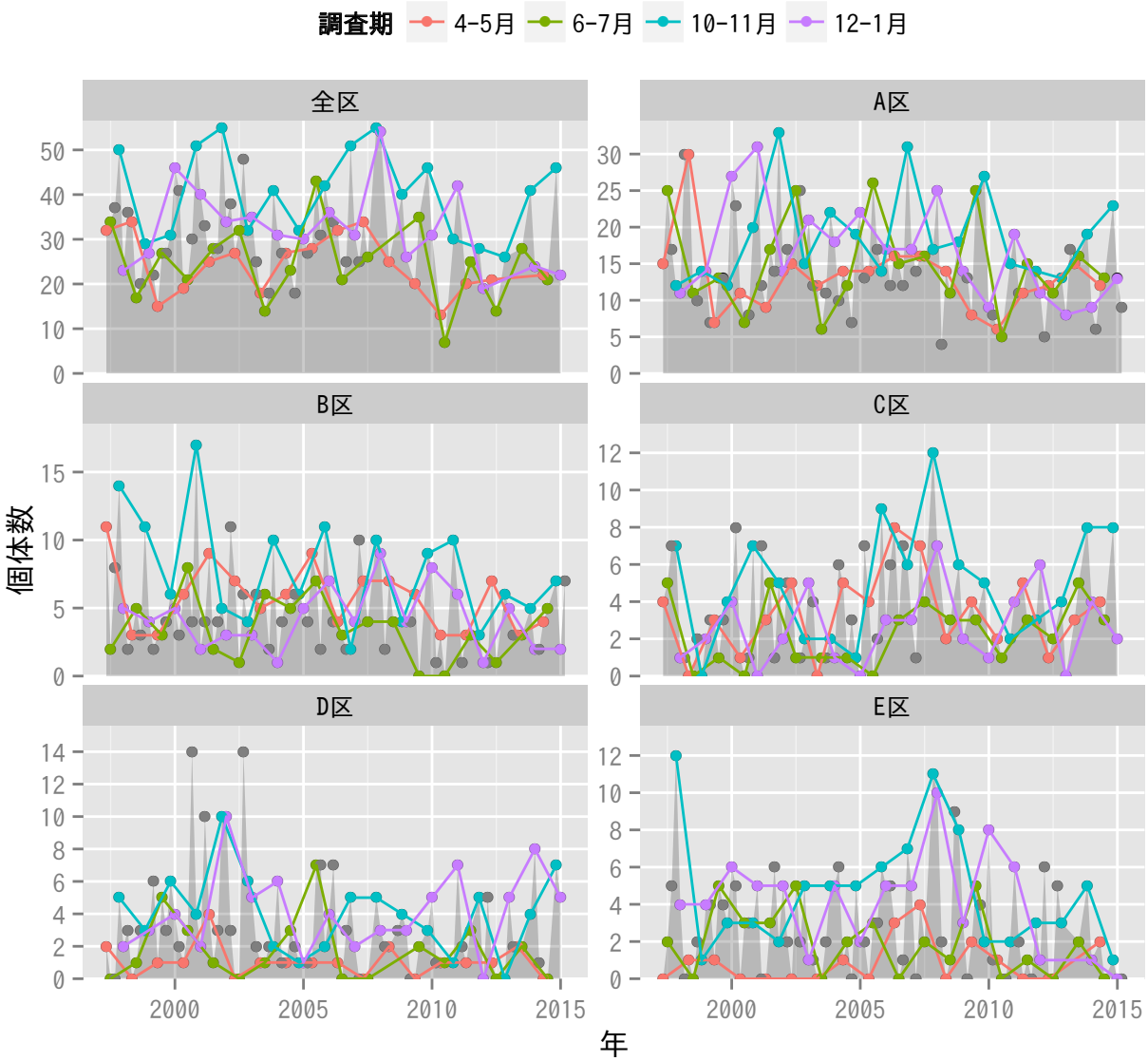

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

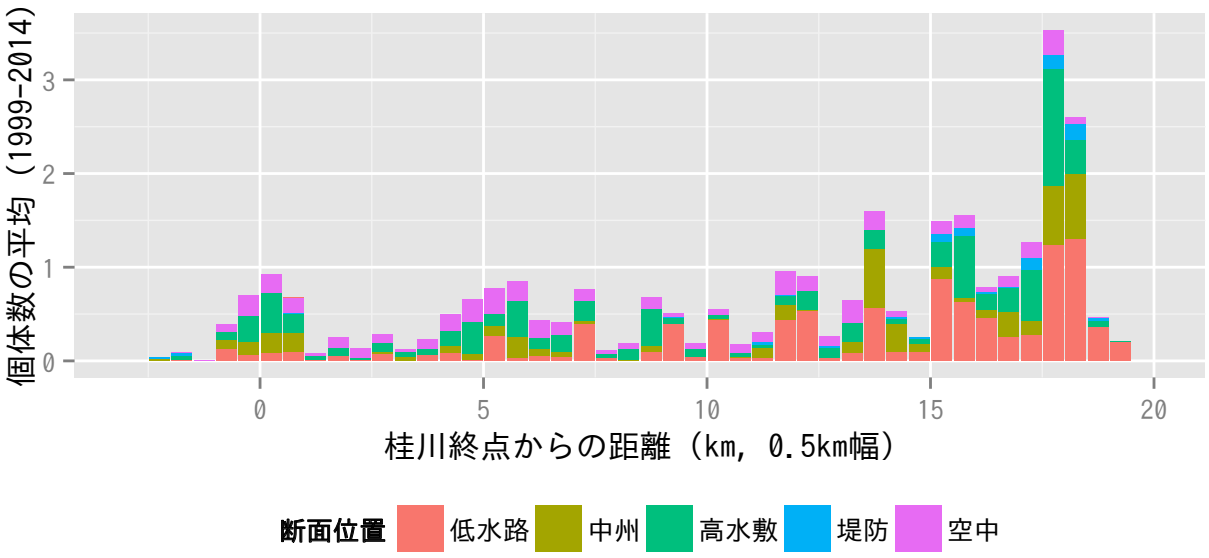
ハクセキレイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

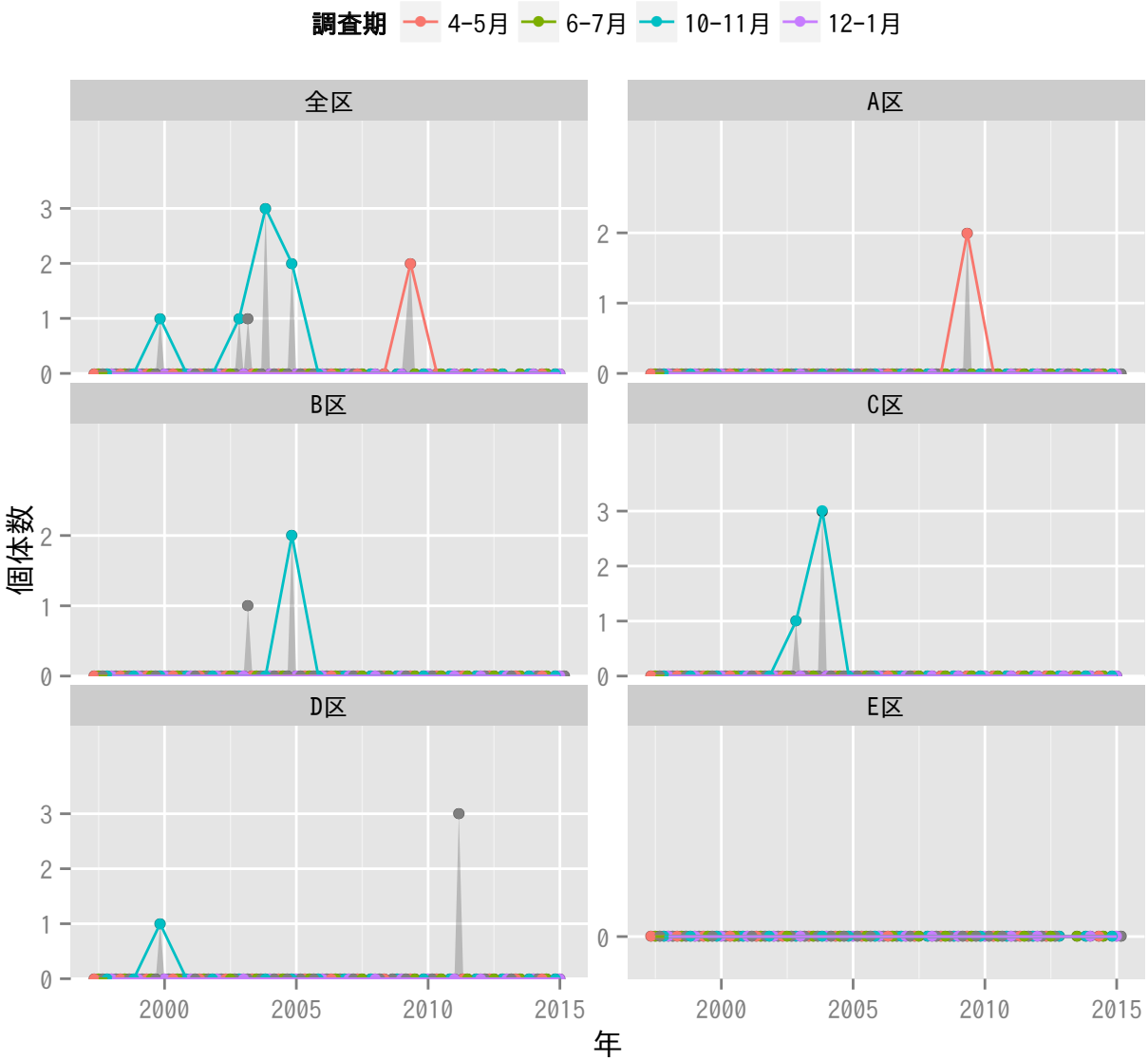

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

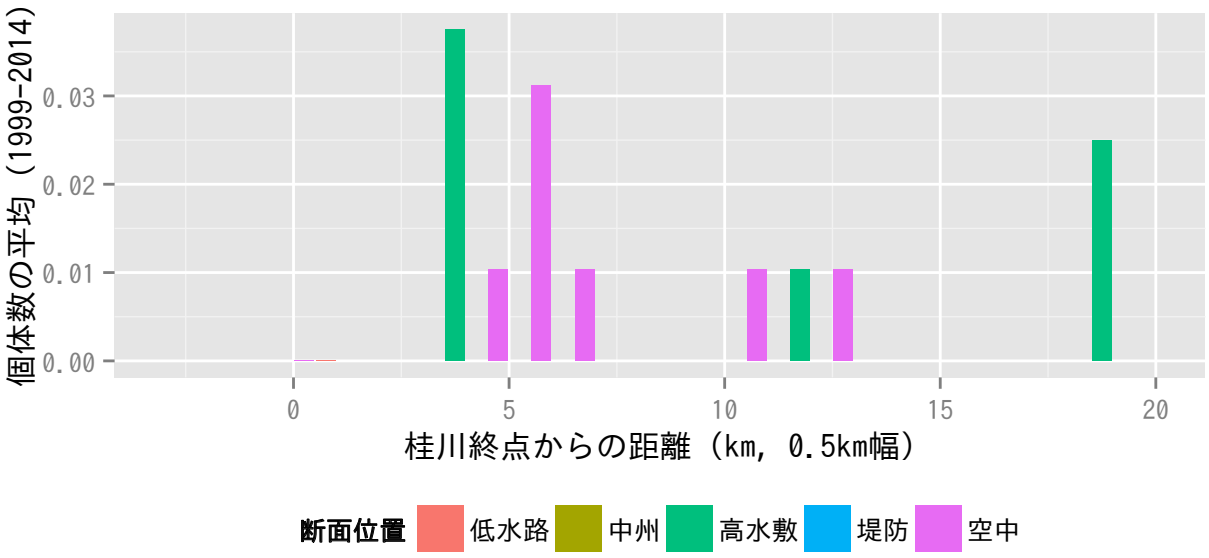
セグロセキレイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

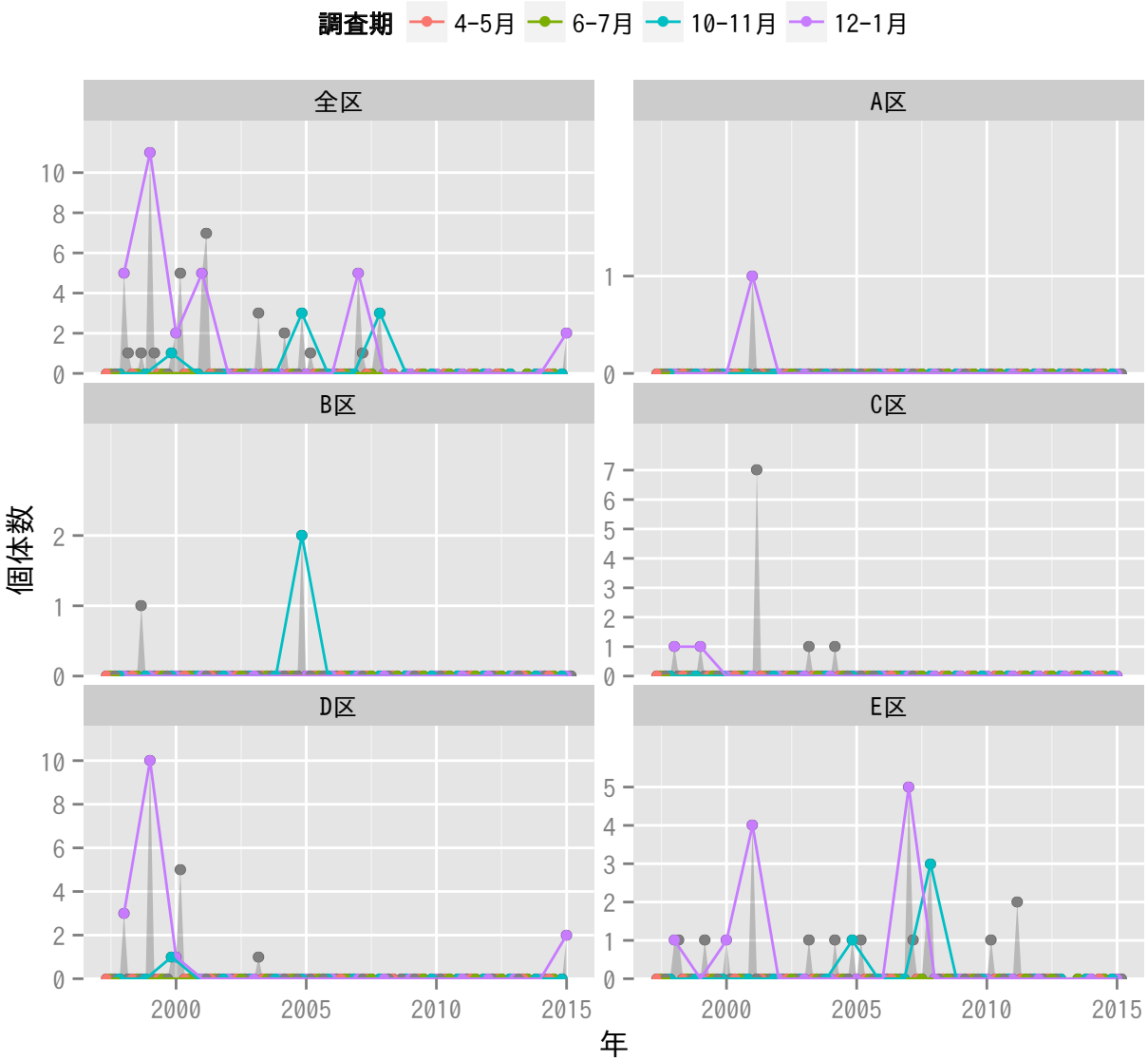

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

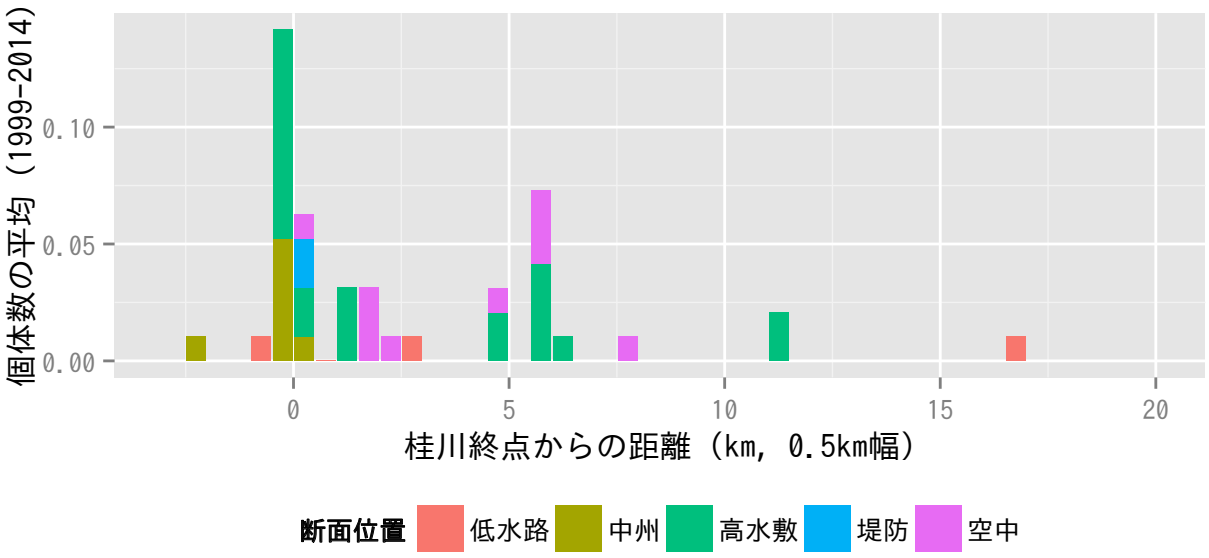
ビンズイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

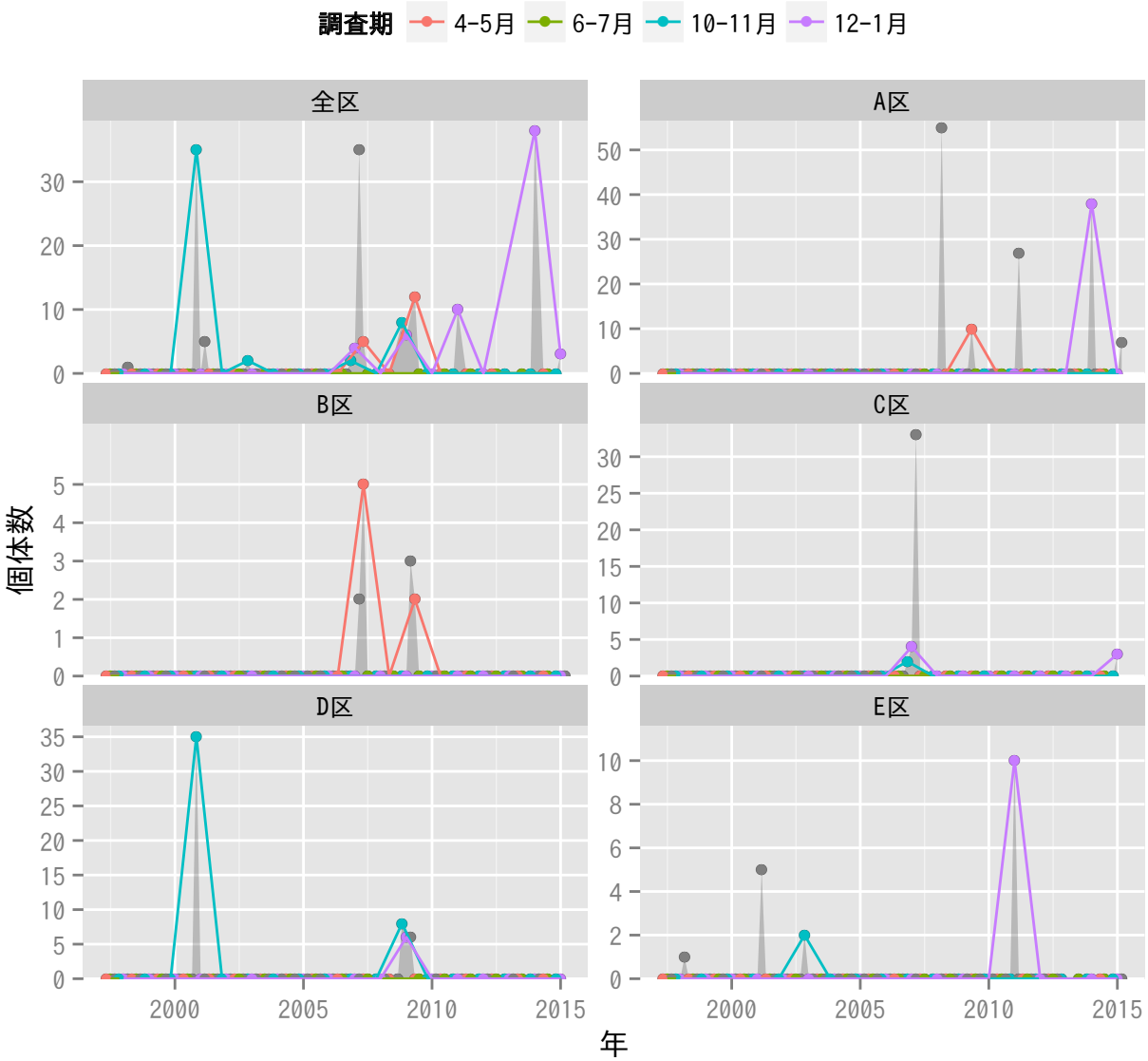

個体数の平均（1999-2014）
0.03
0.02
0.01
0.00
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

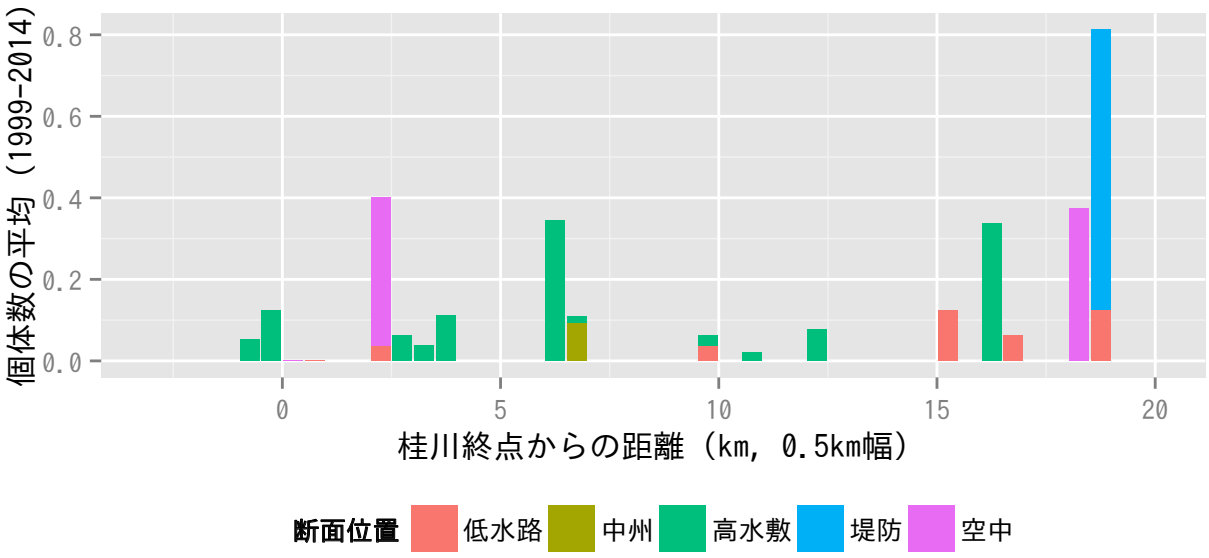
タヒバリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

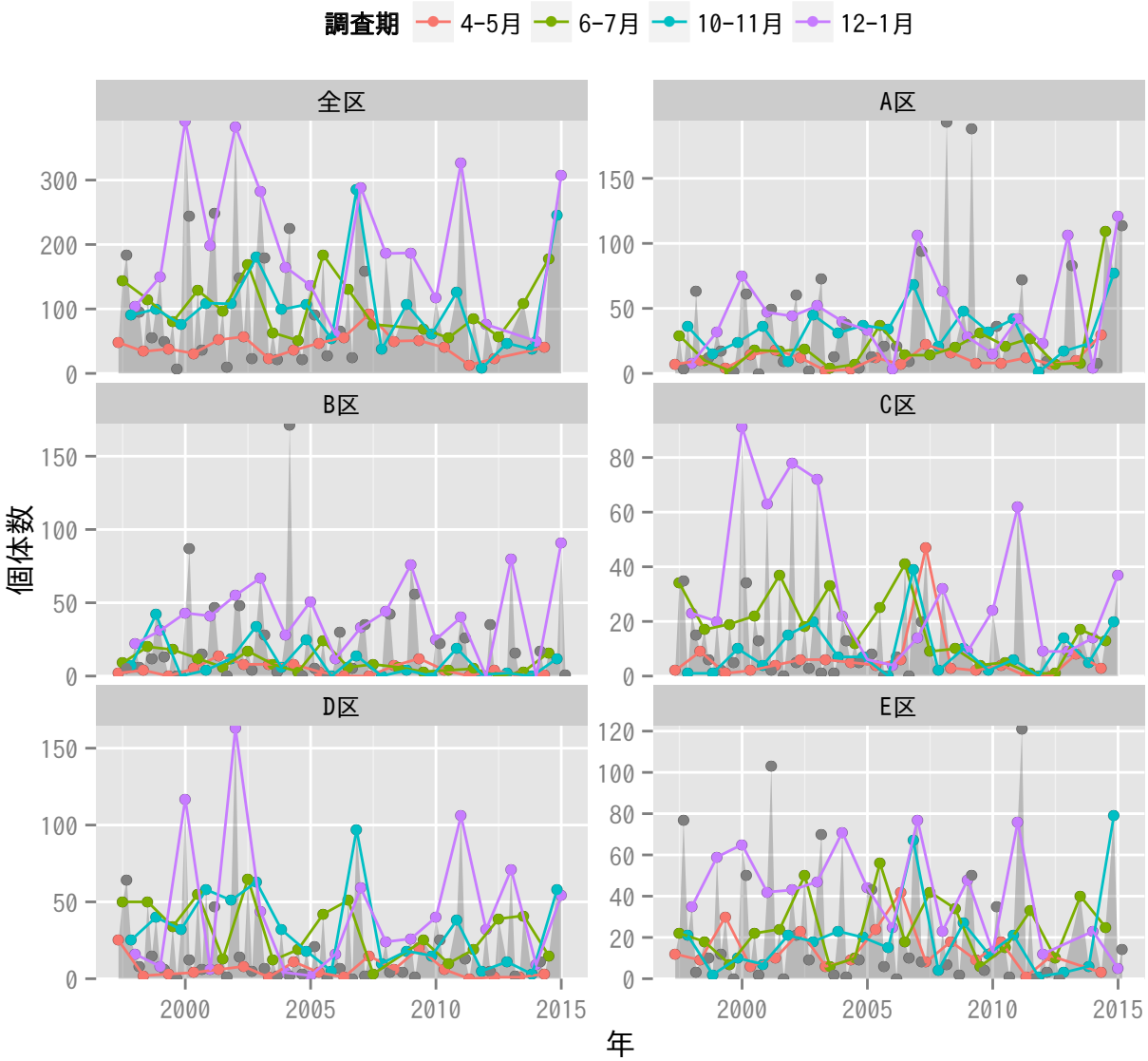

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

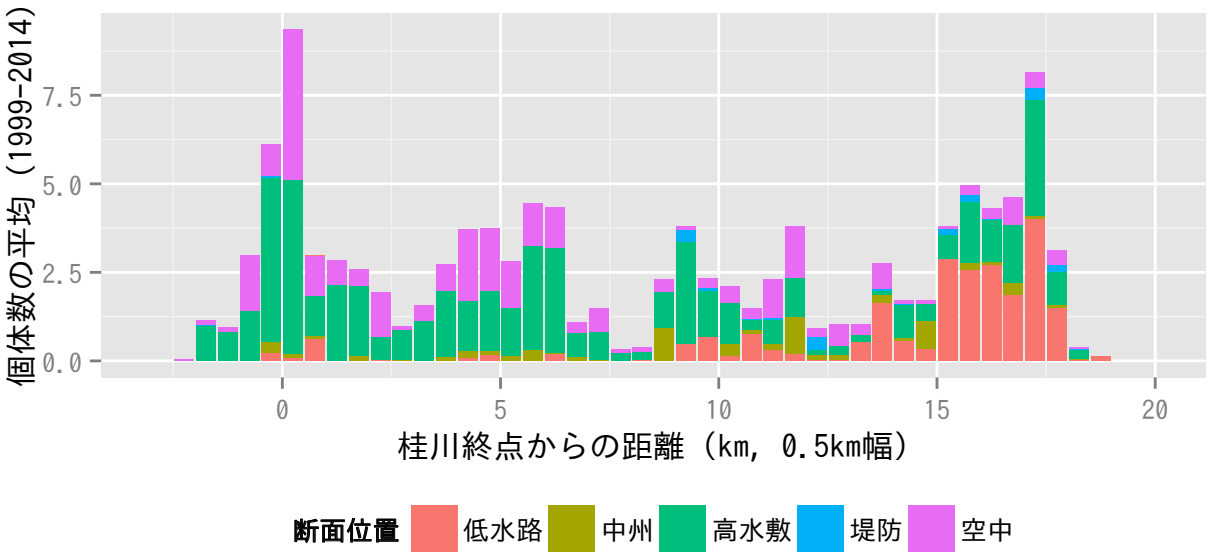
アトリ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

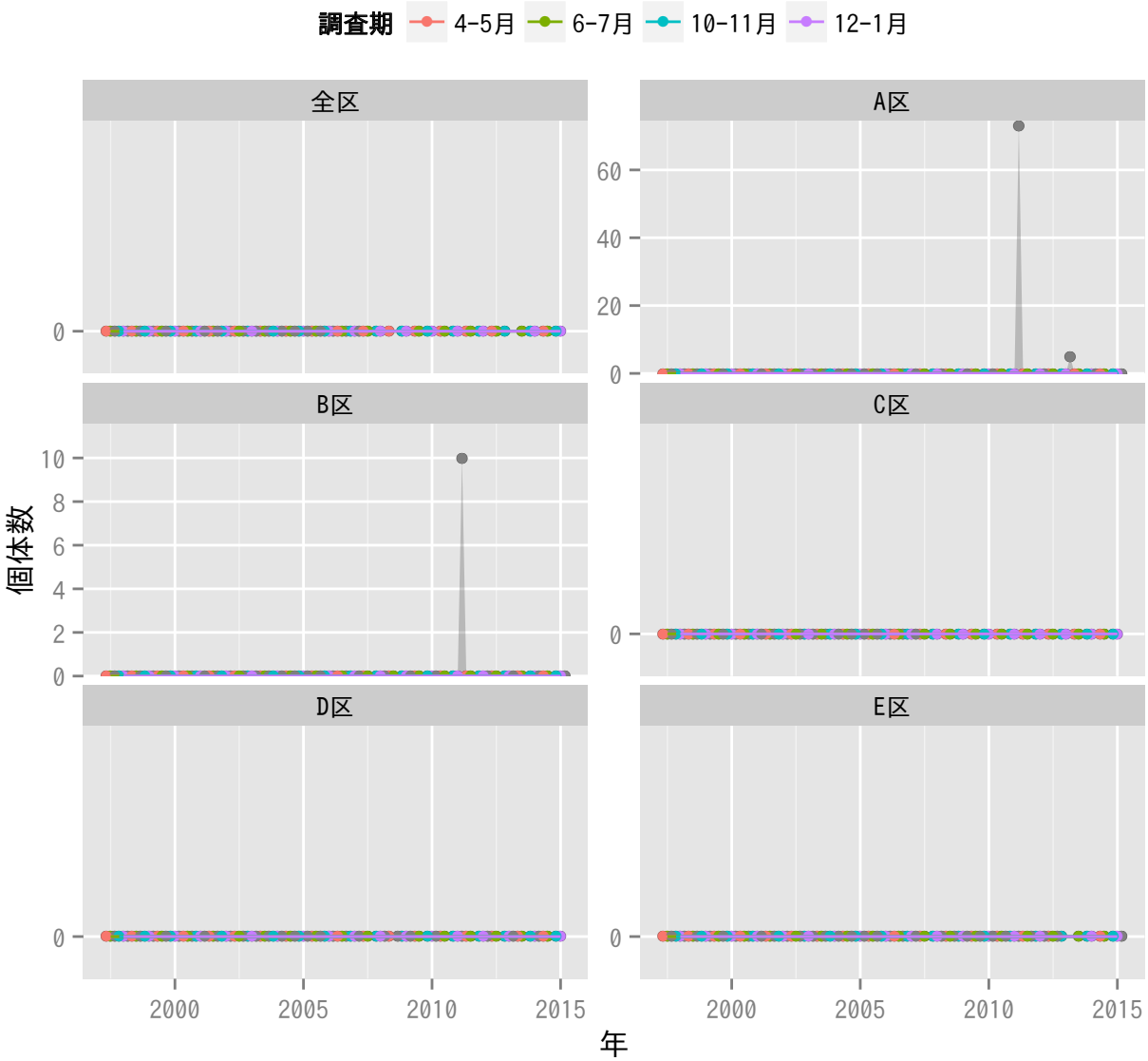

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

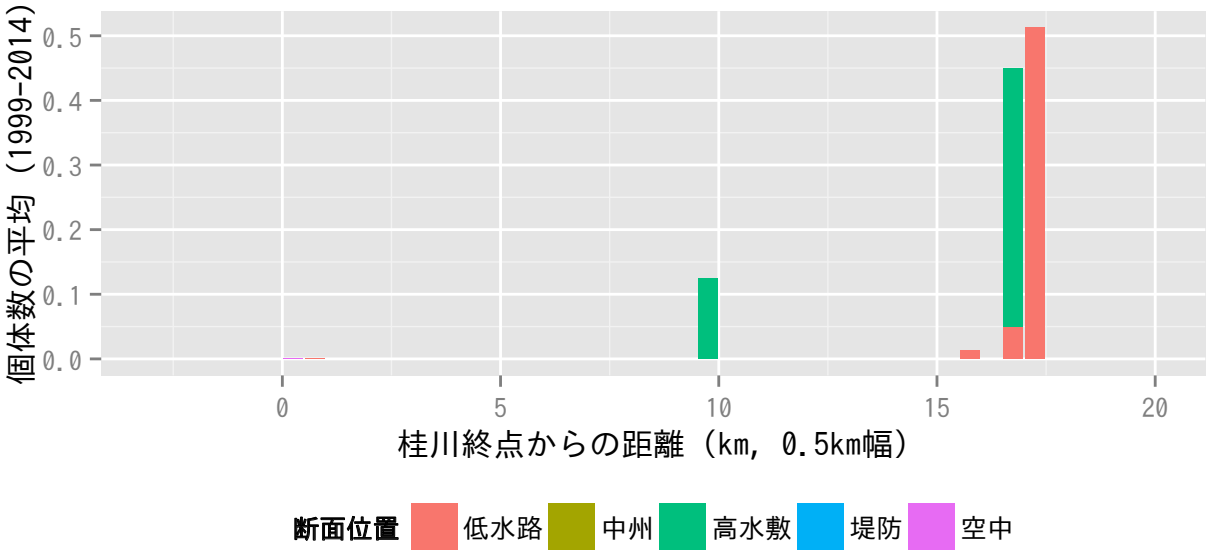
カワラヒワ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

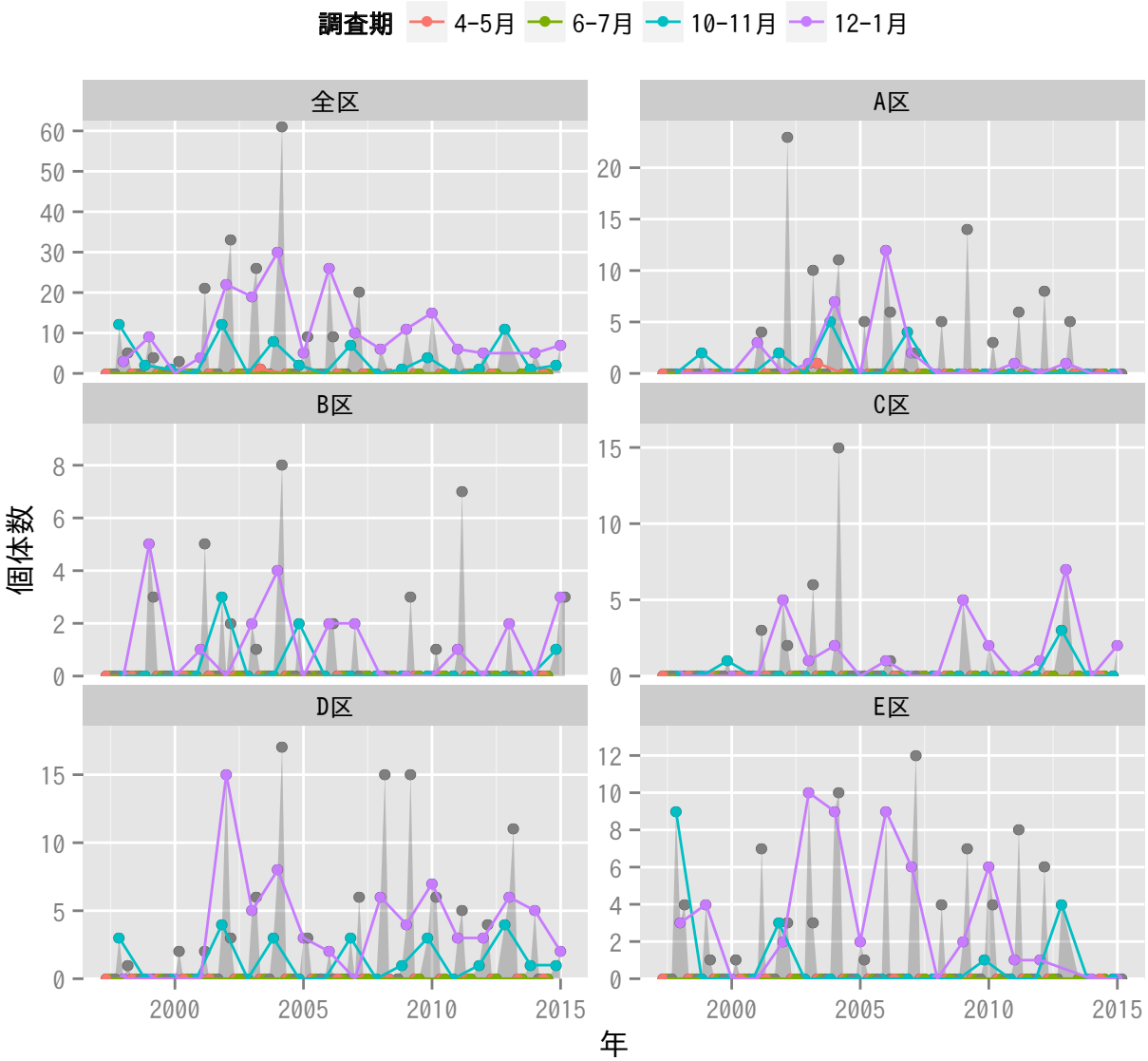

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

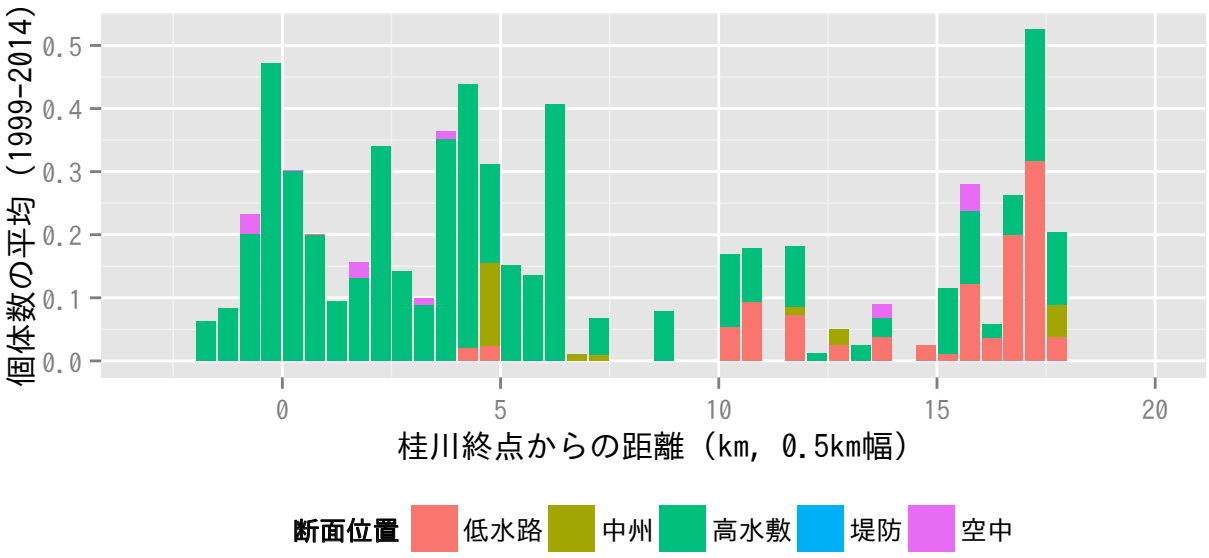
マヒワ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
20
40
60
2
4
6
8
10
2000
2005
2010
2015

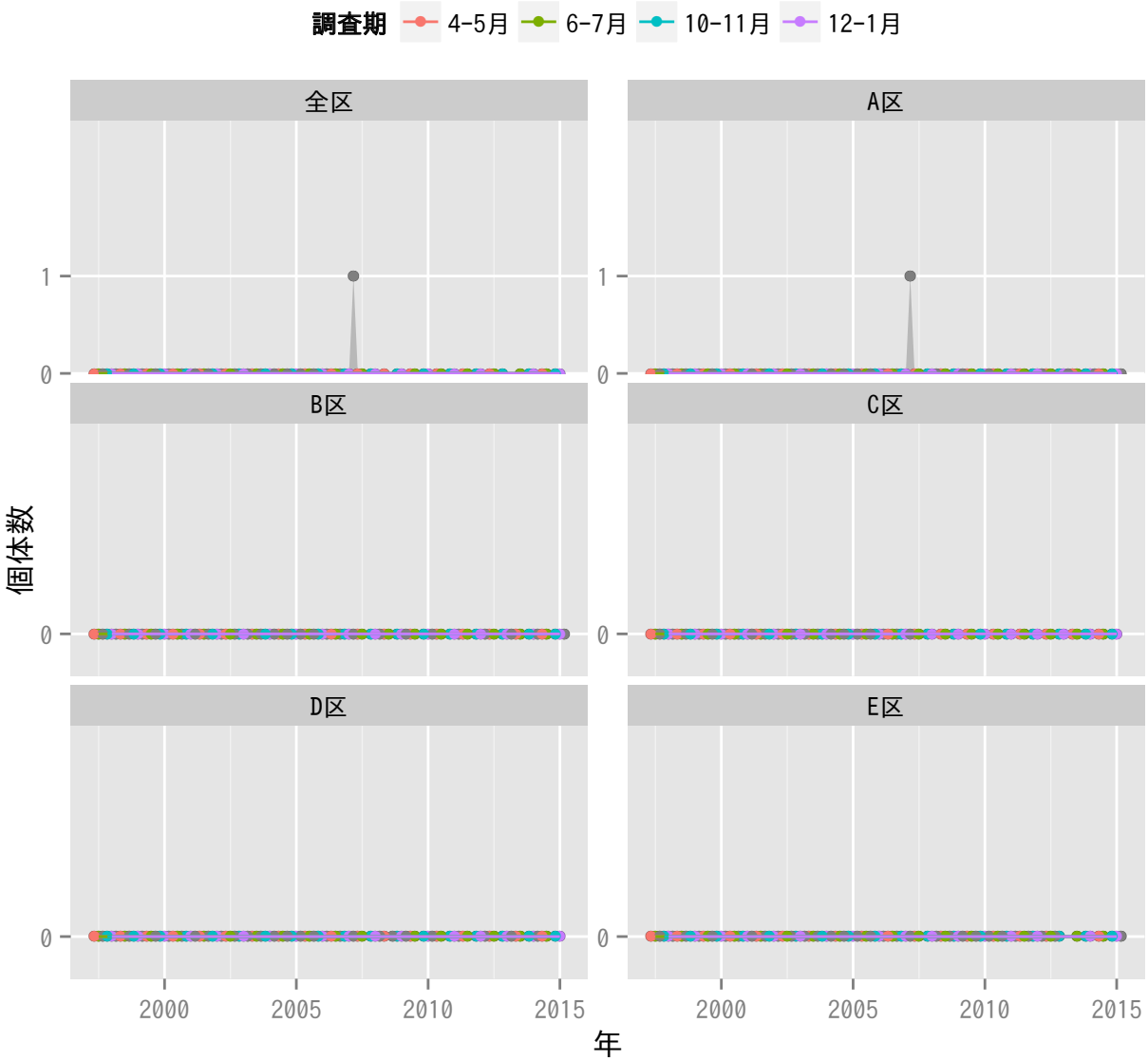

個体数の平均（1999-2014）
0.0
0.1
0.2
0.3
0.4
0.5
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

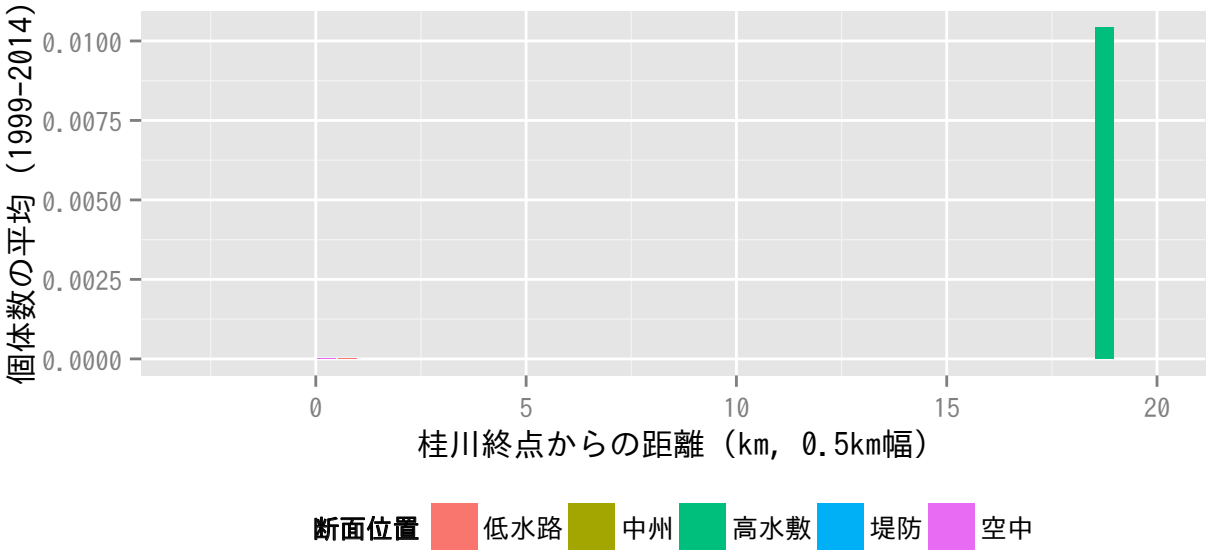
ベニマシコ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

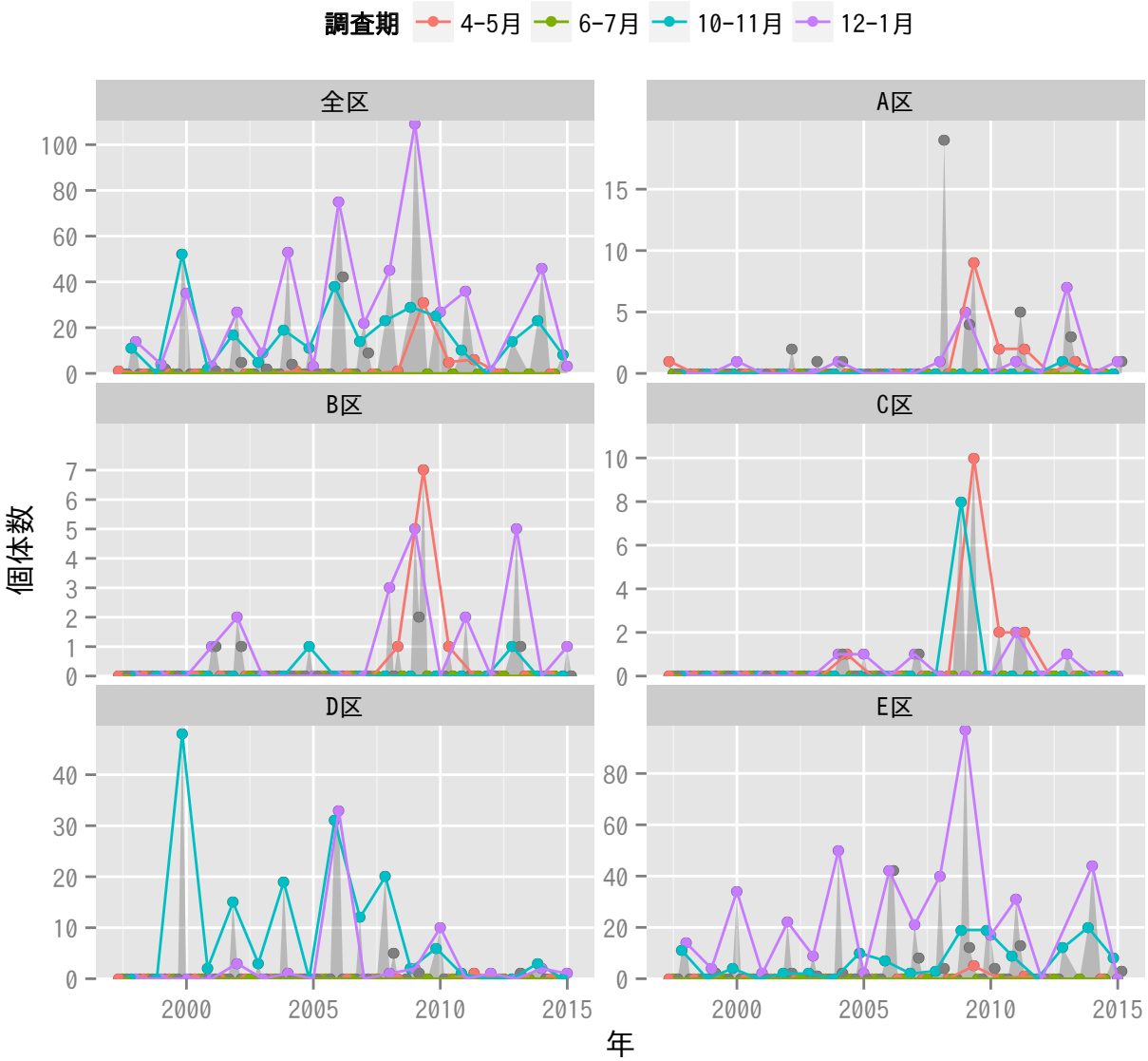

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

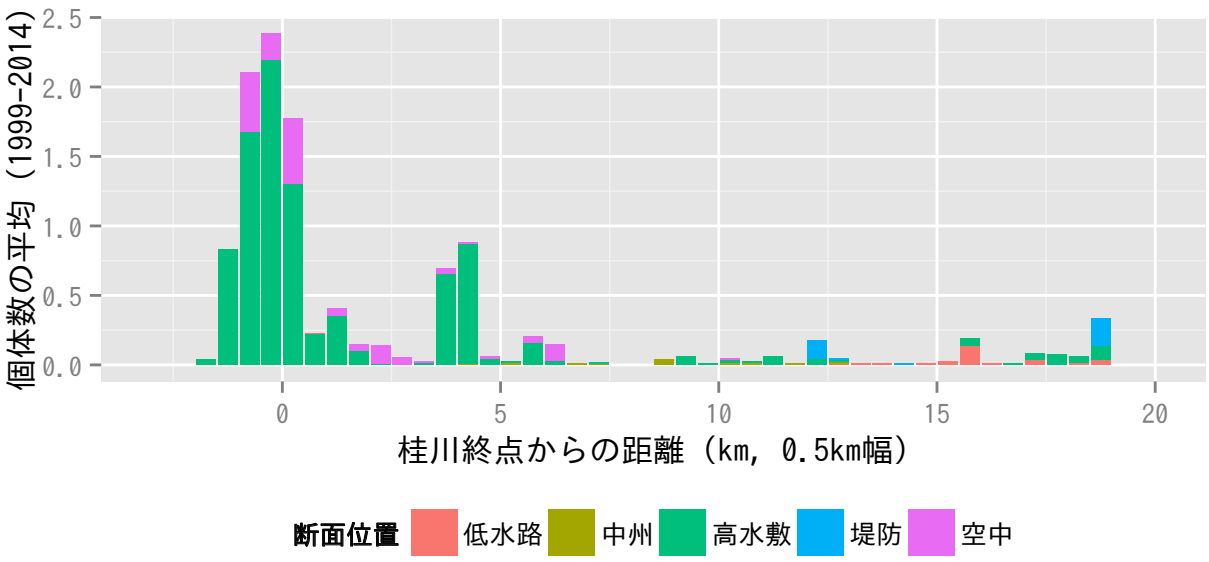
ウソ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

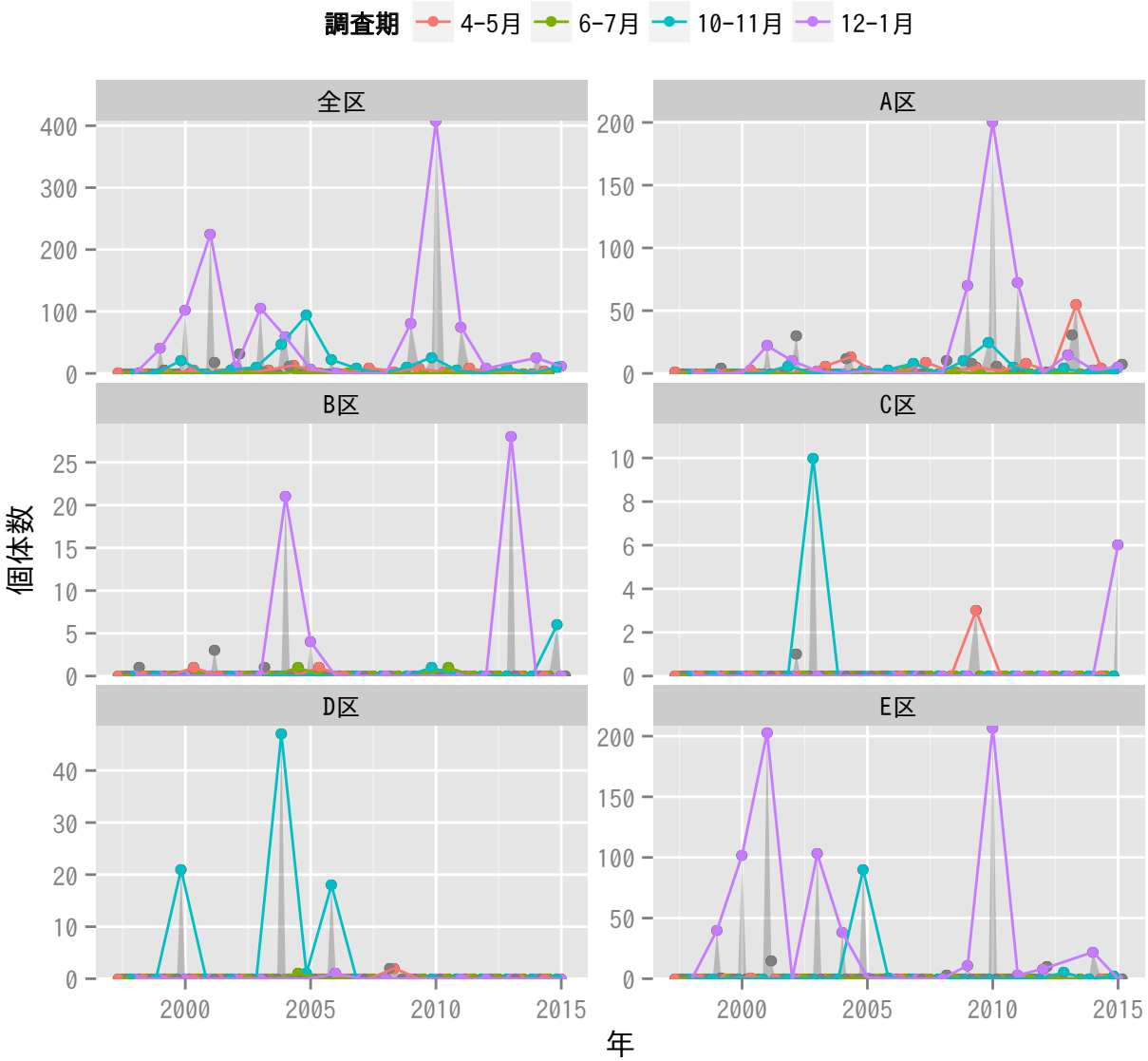

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

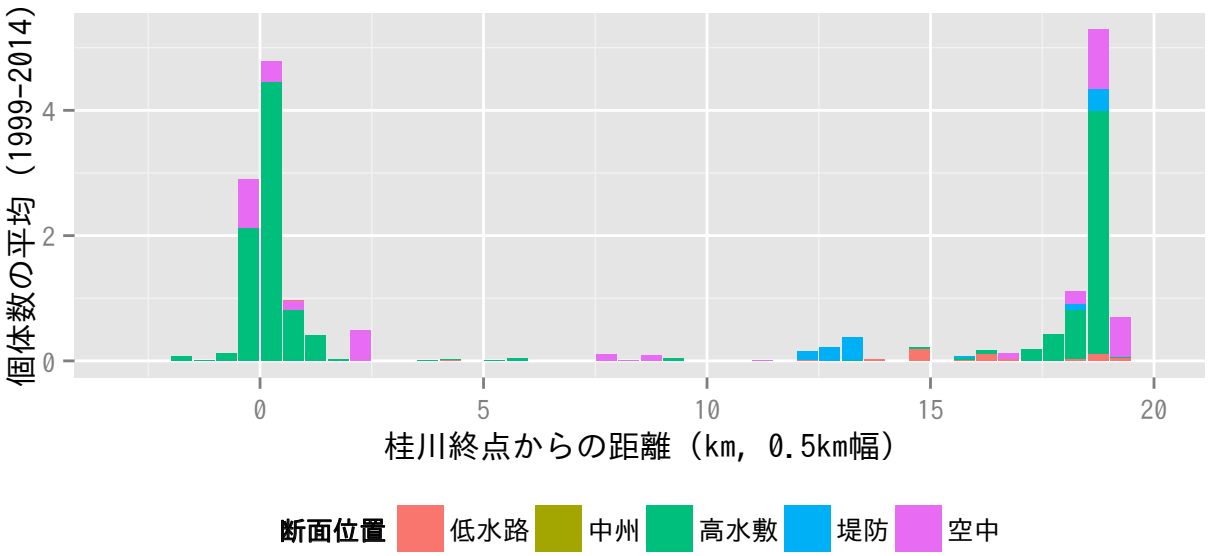
シメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

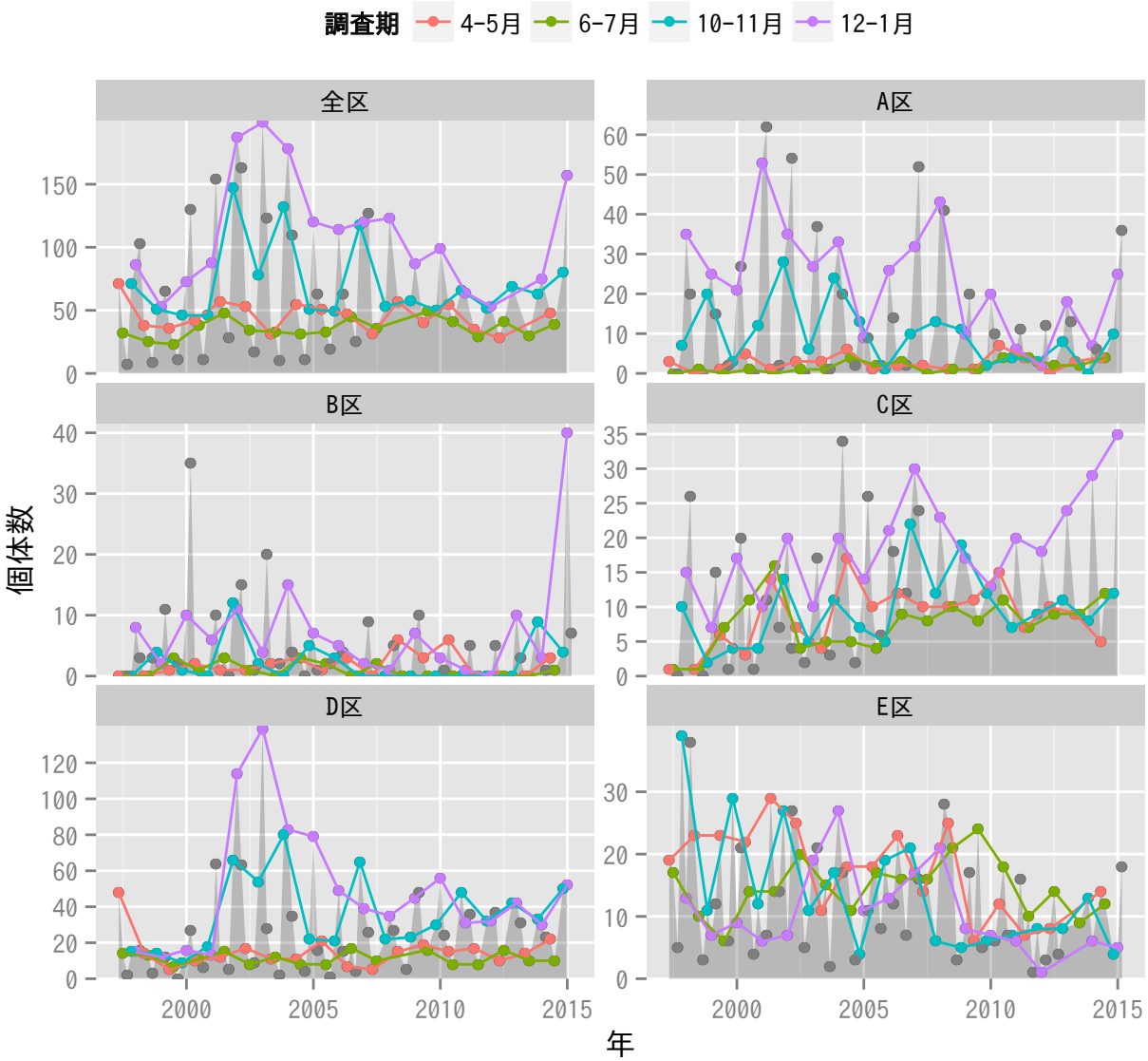

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

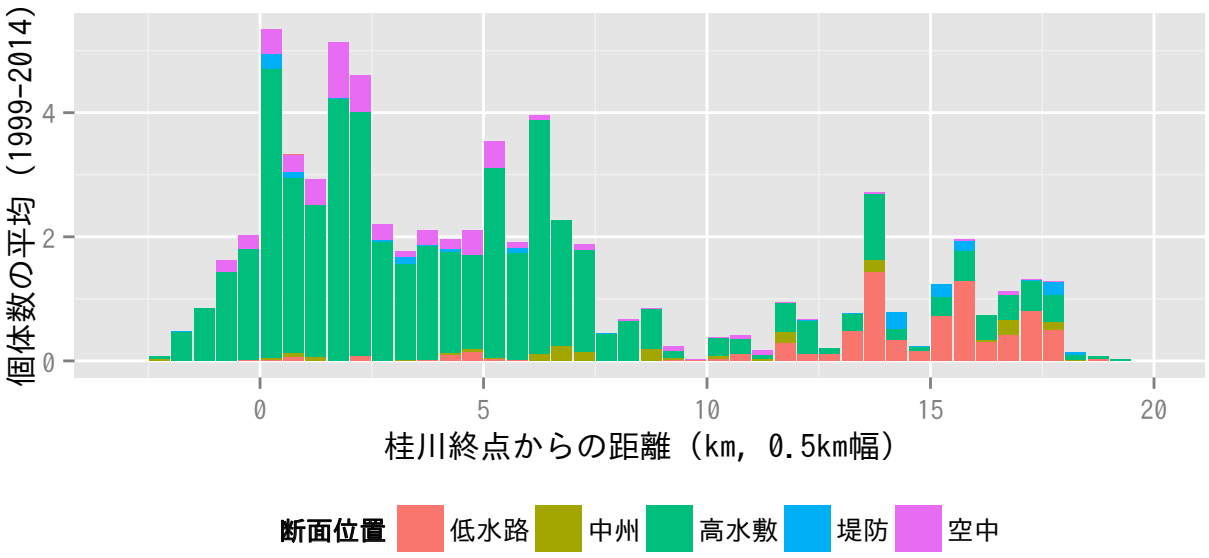
イカル


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

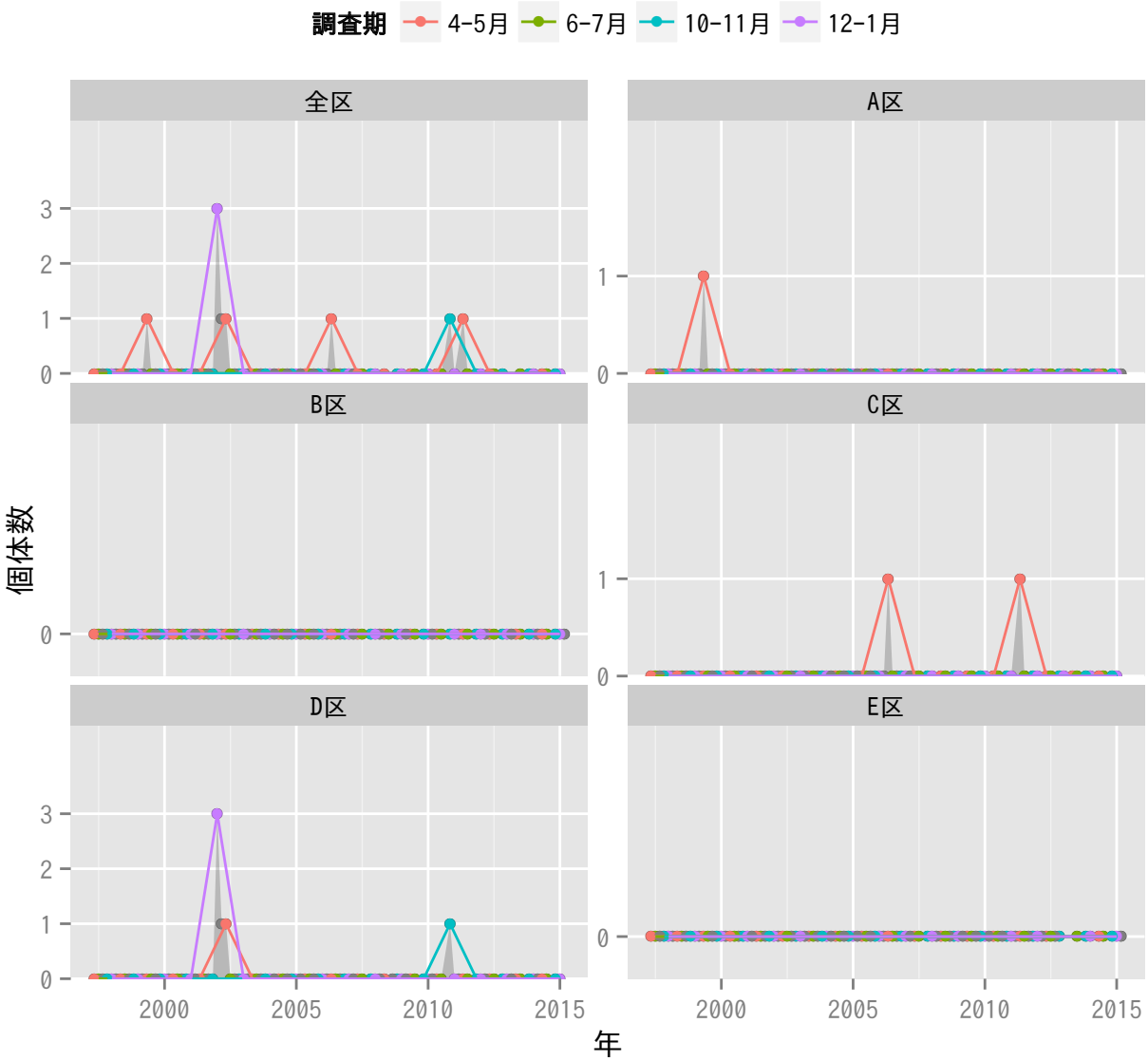

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

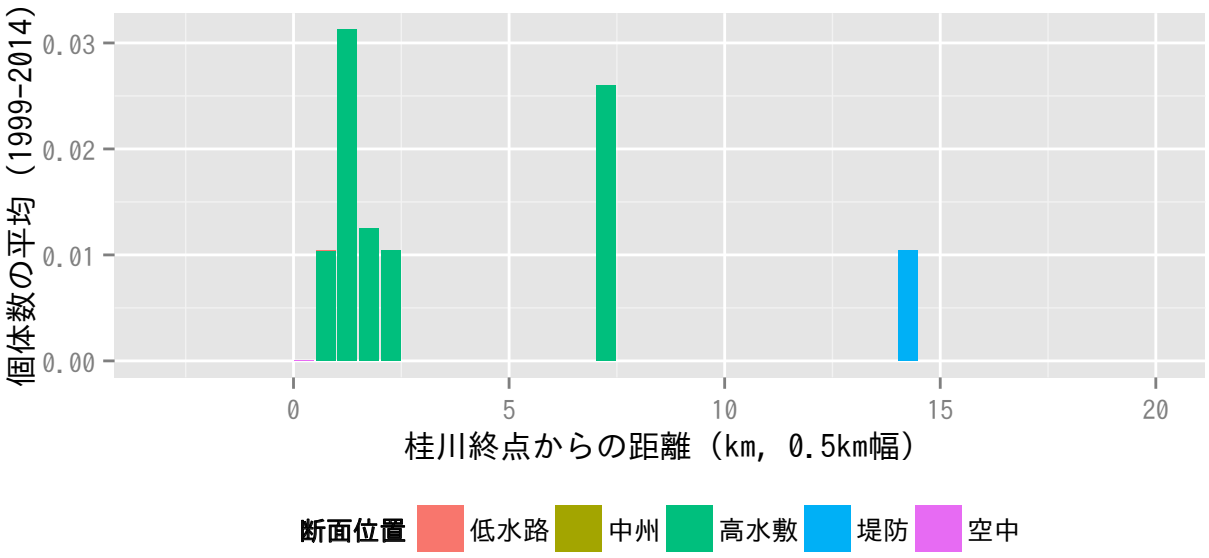
ホオジロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

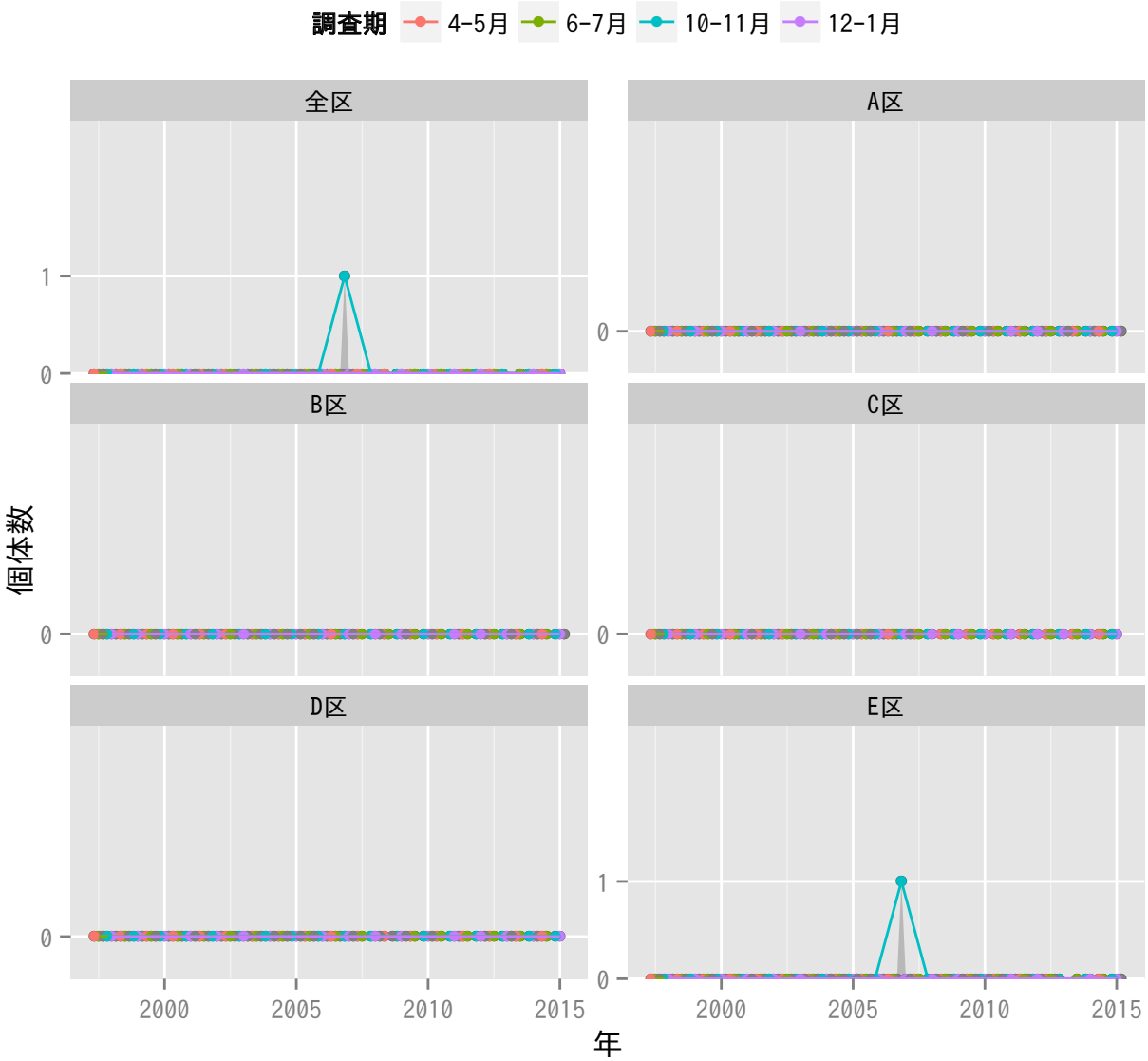

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

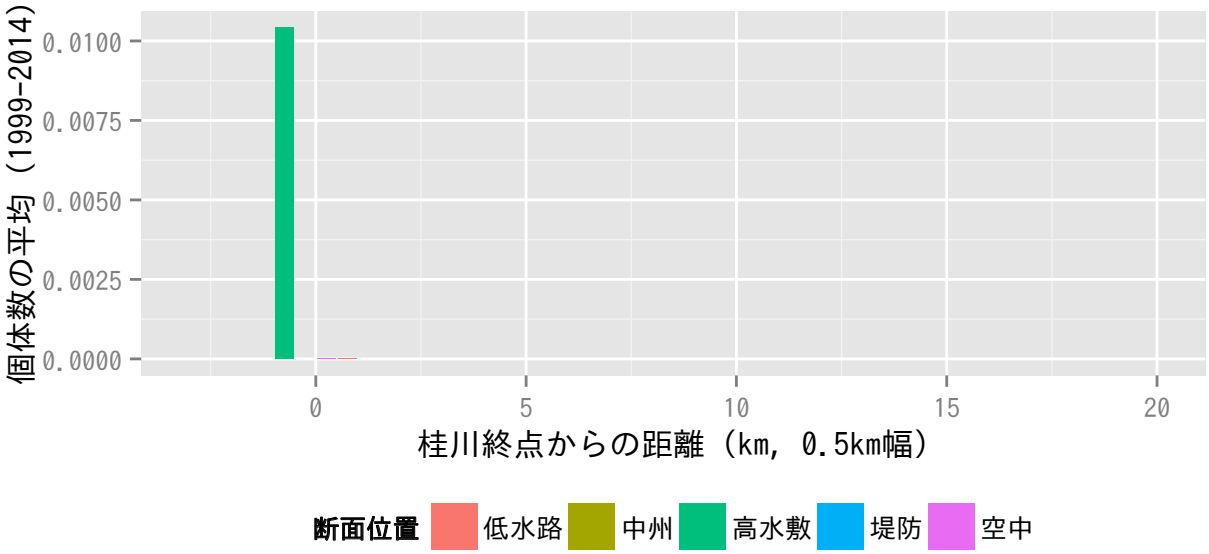
ホオアカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2
3
2000
2005
2010
2015

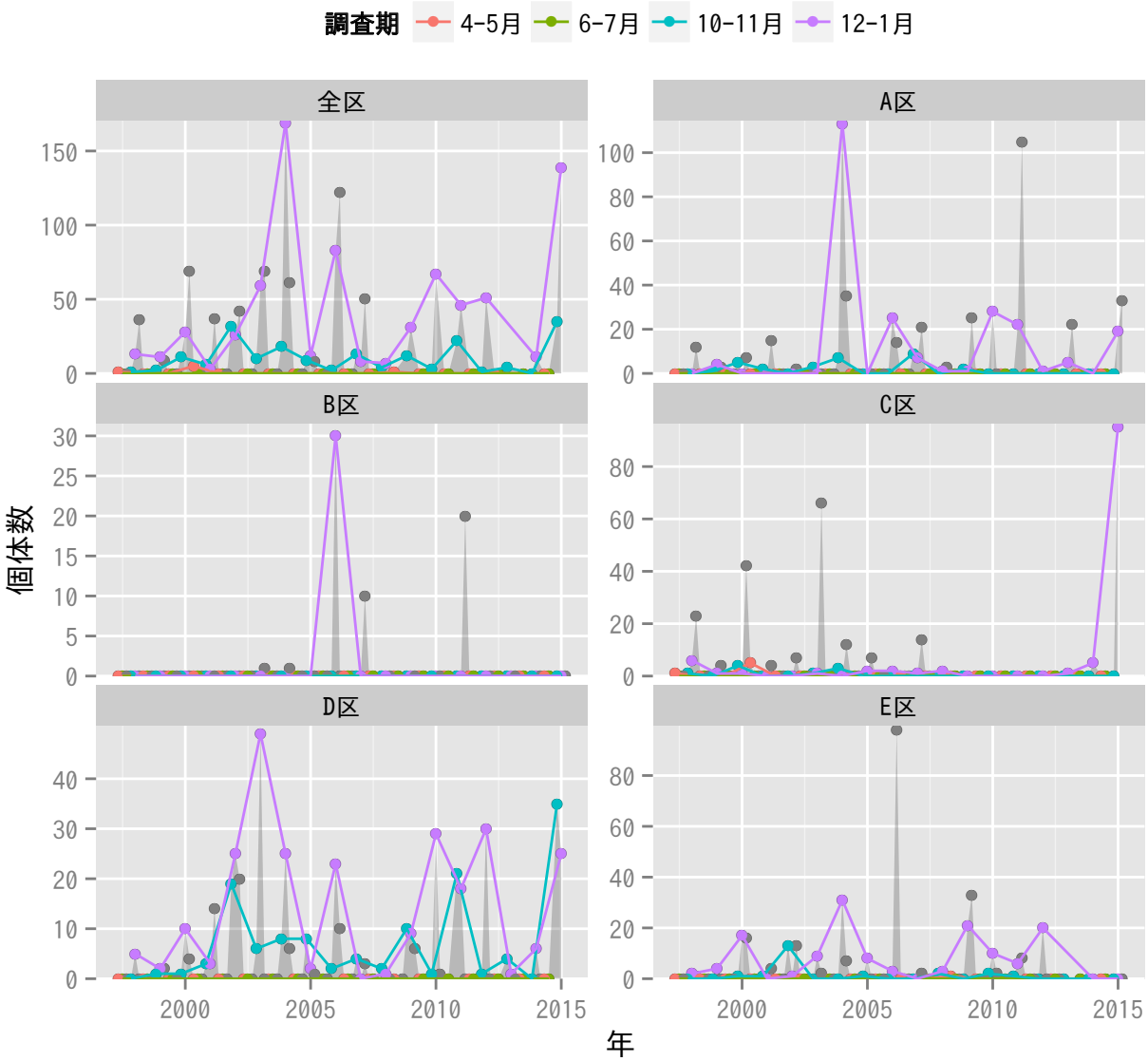

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.01
0.02
0.03
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

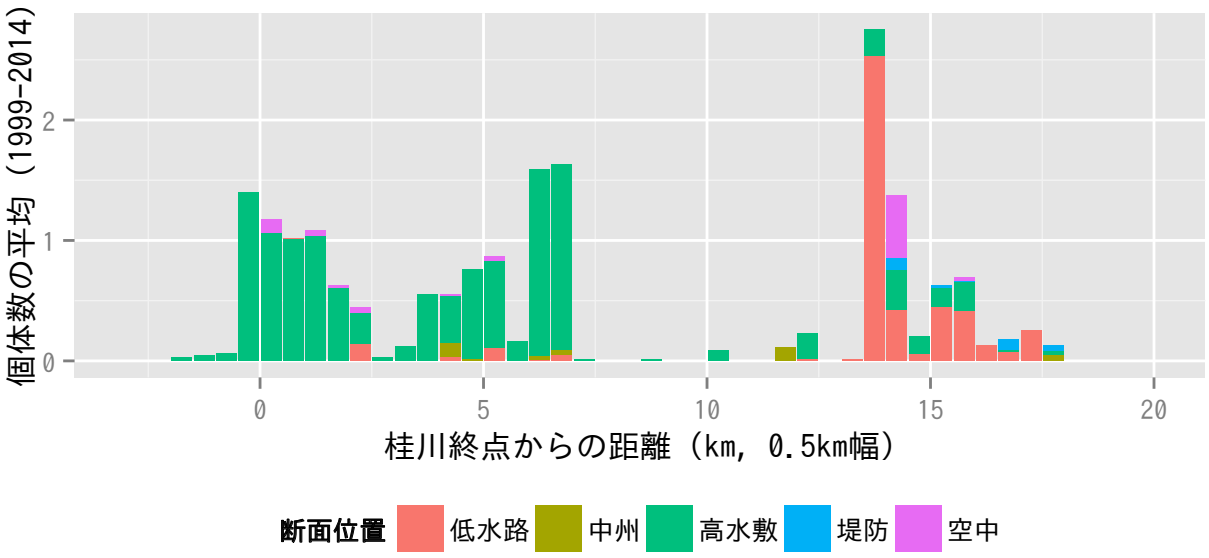
コホオアカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

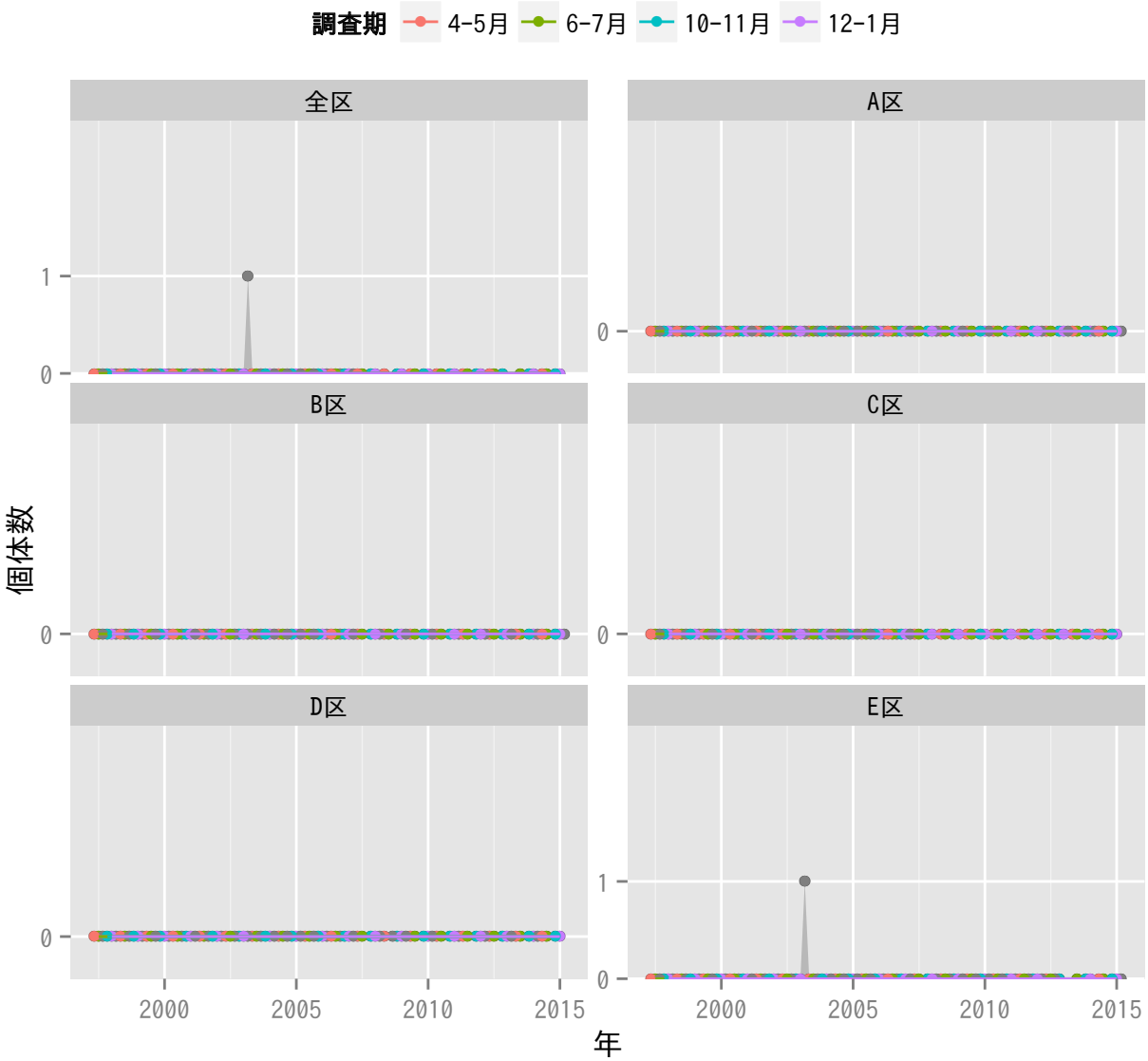

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

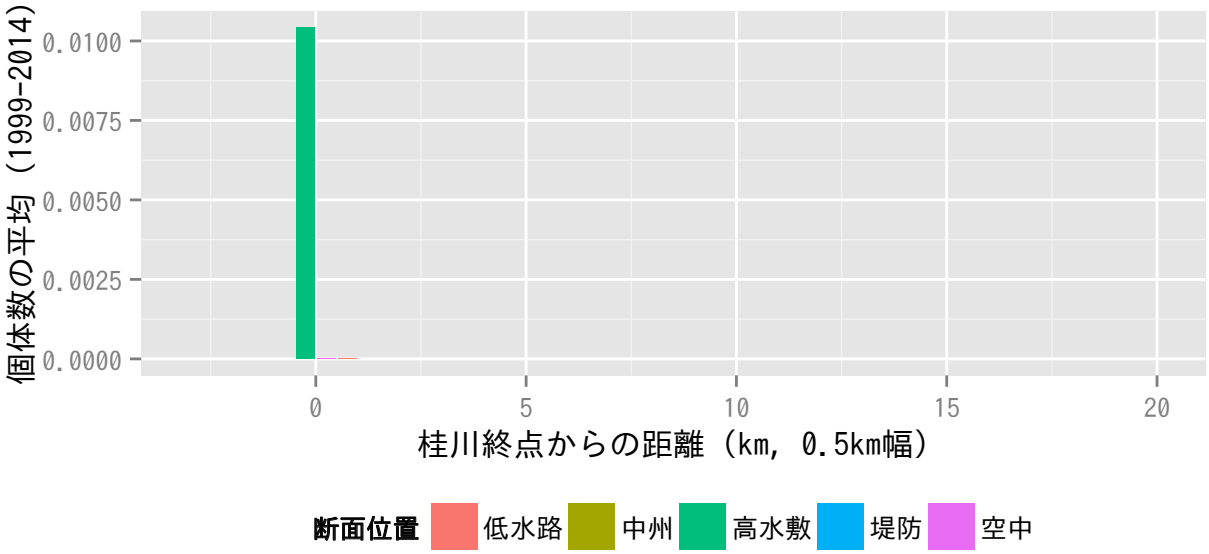
カシラダカ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

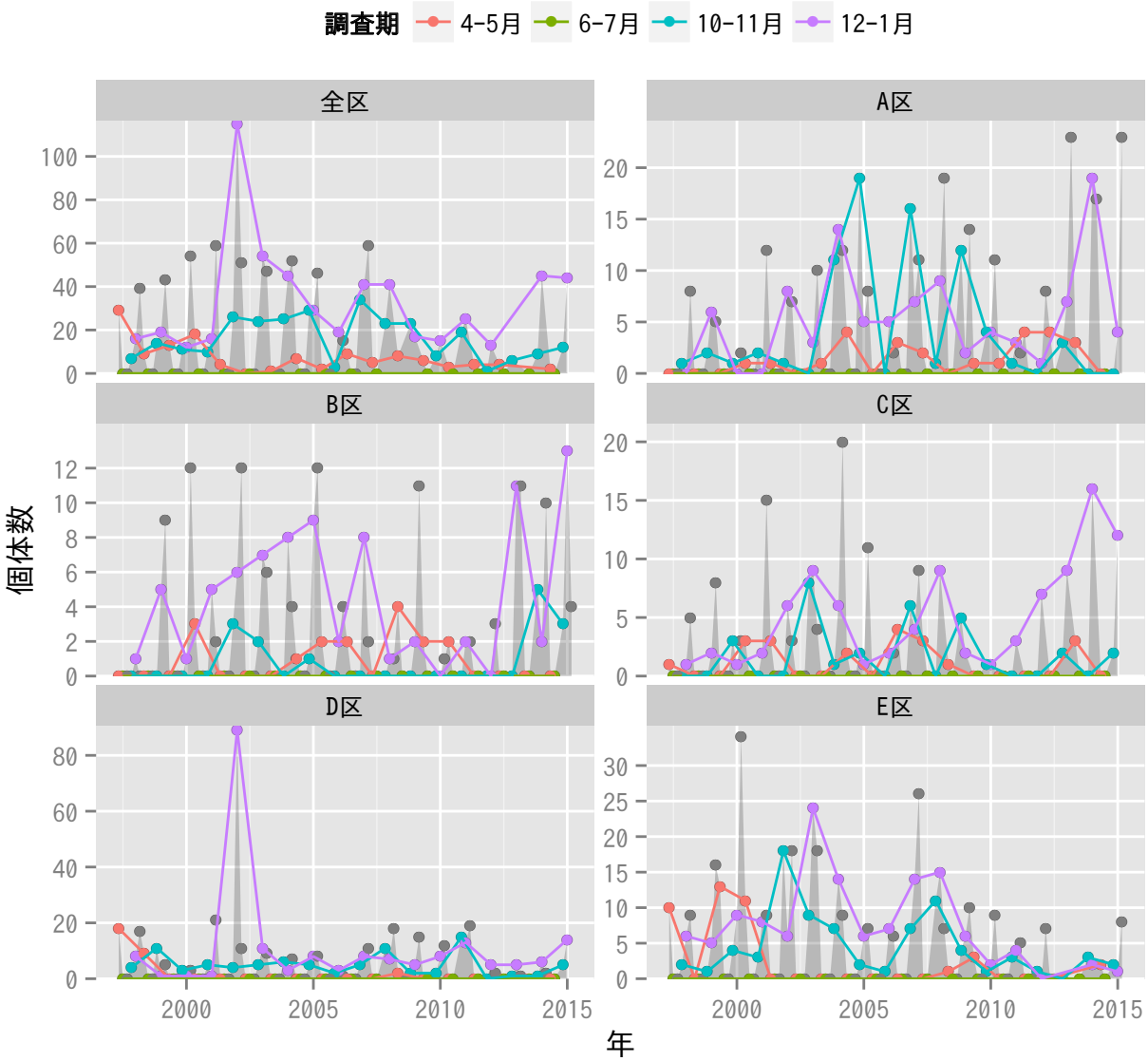

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

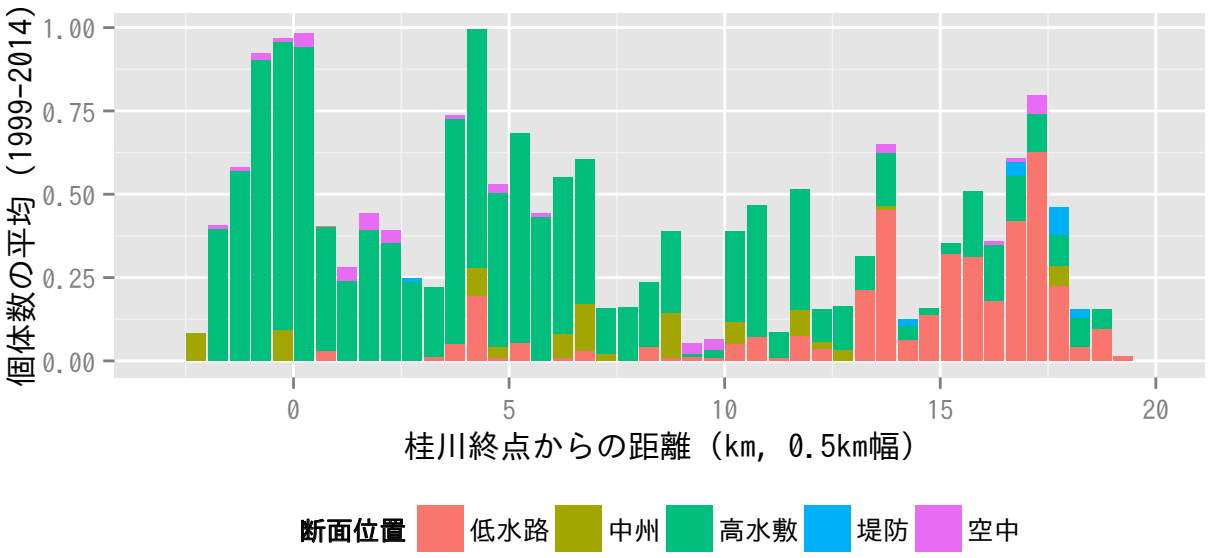
ミヤマホオジロ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
1
2000
2005
2010
2015

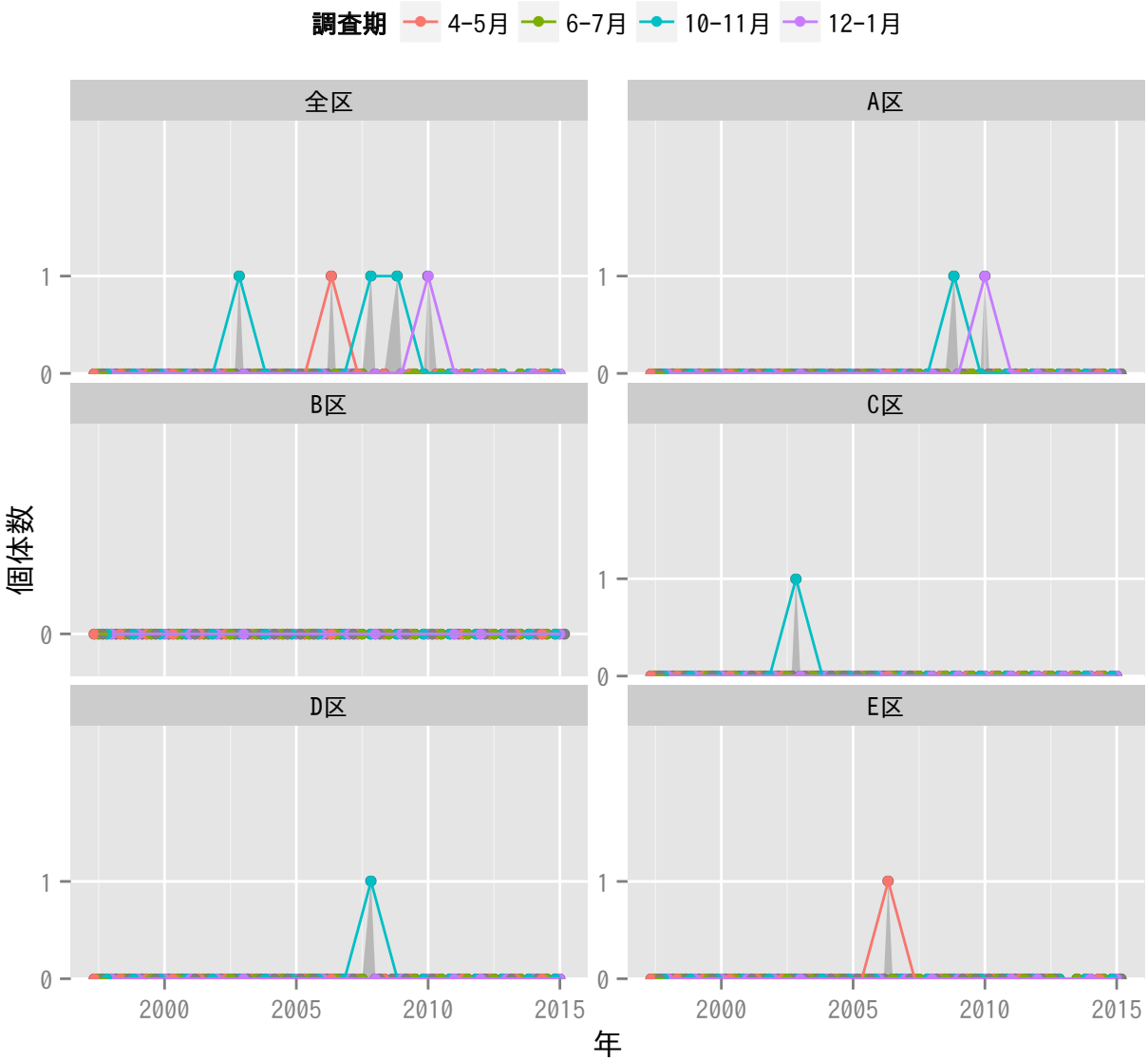

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

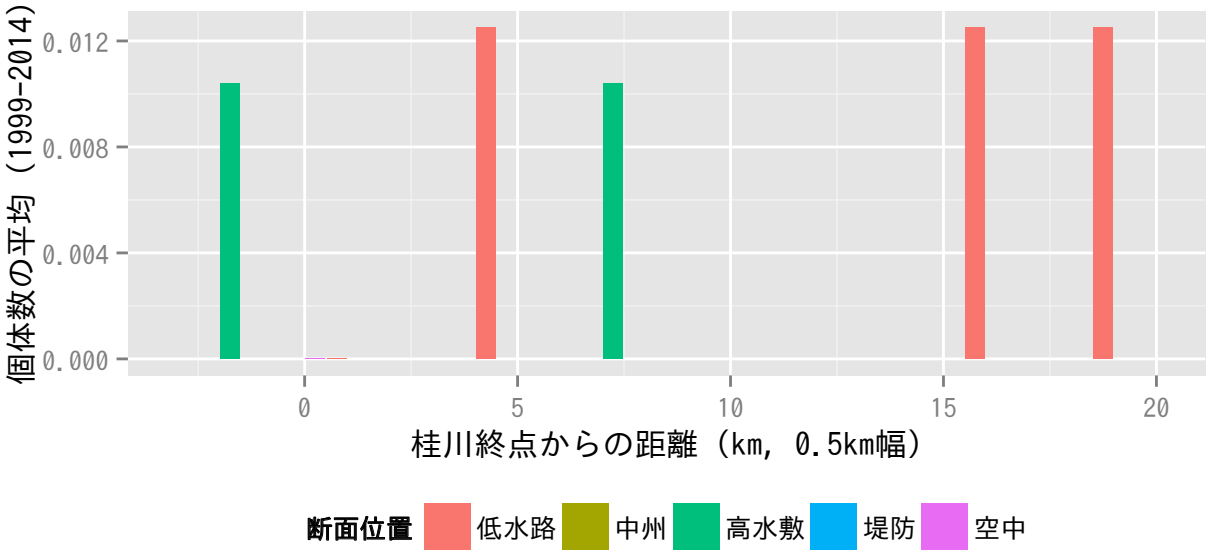
アオジ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

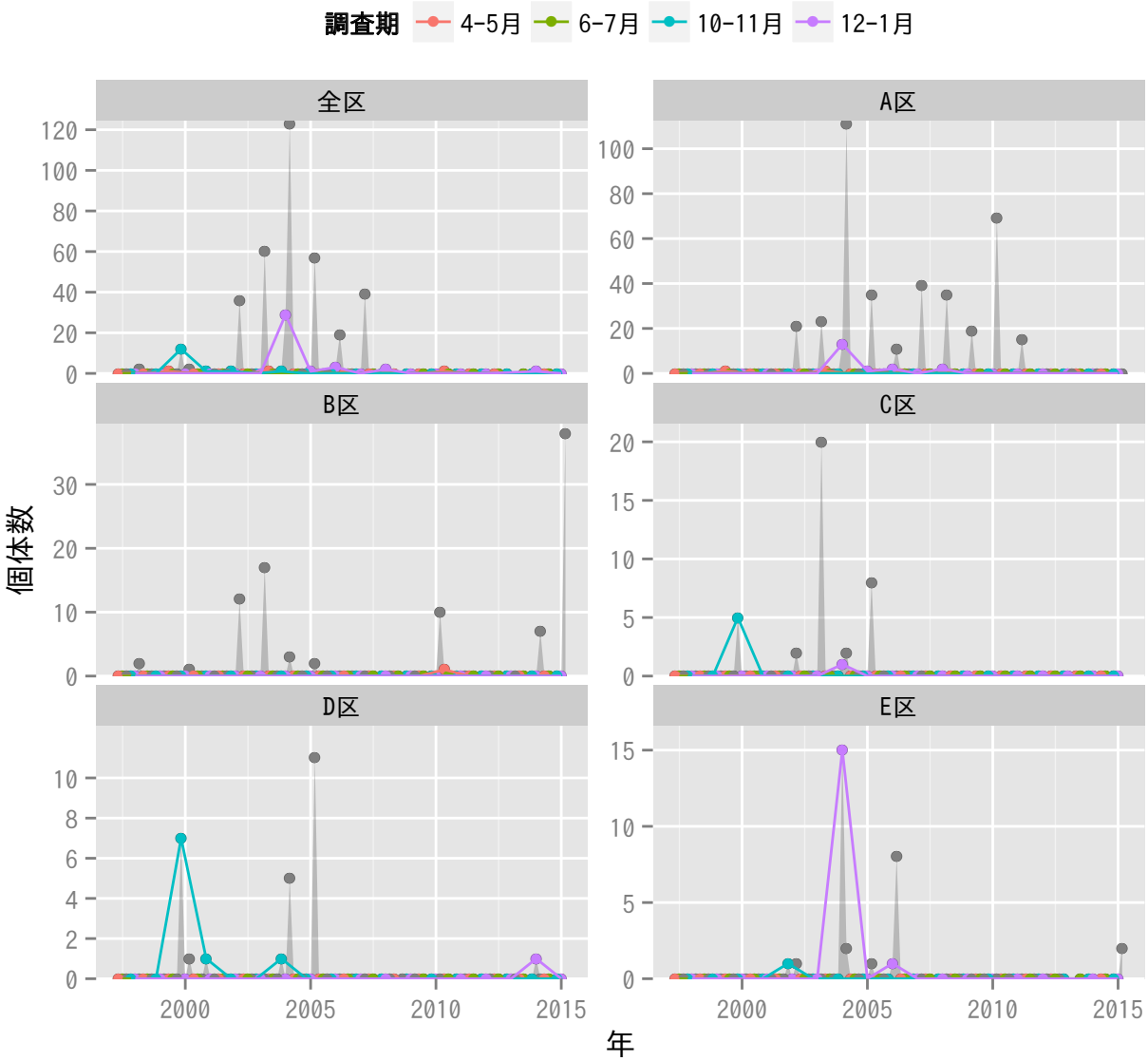

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

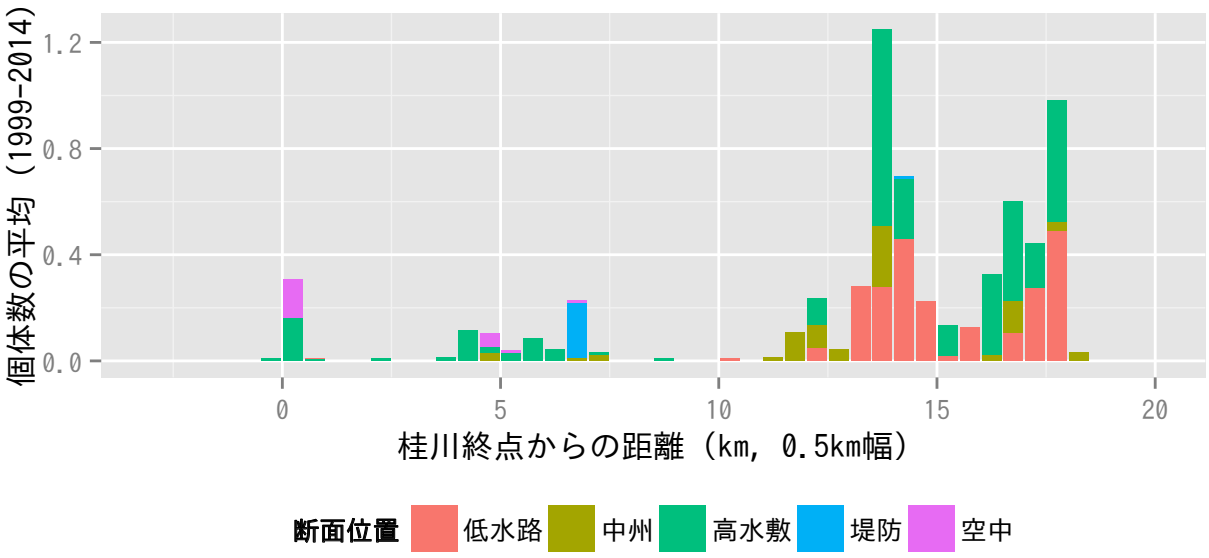
クロジ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2000
2005
2010
2015
年

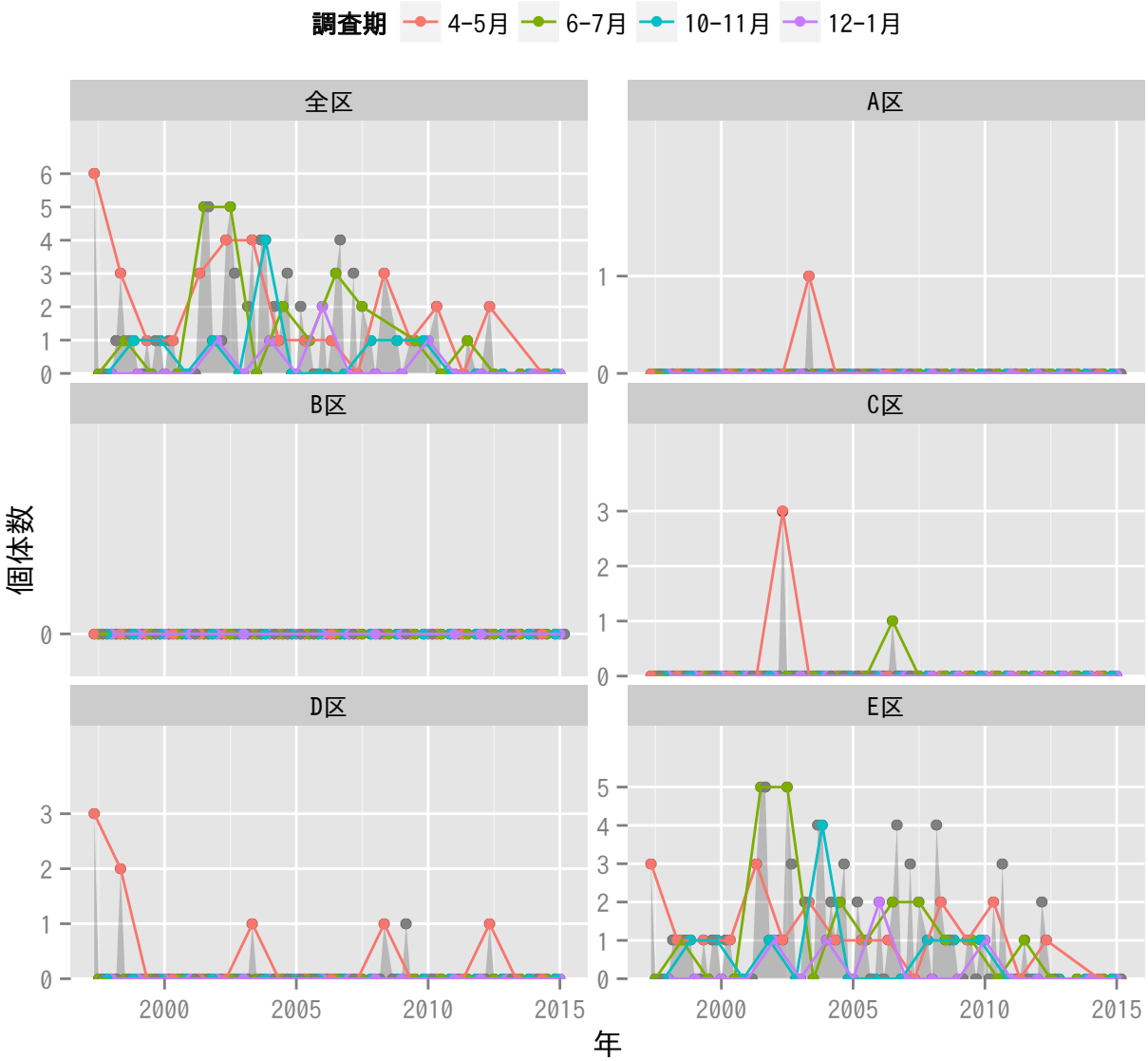

個体数の平均（1999-2014）
0.012
0.008
0.004
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

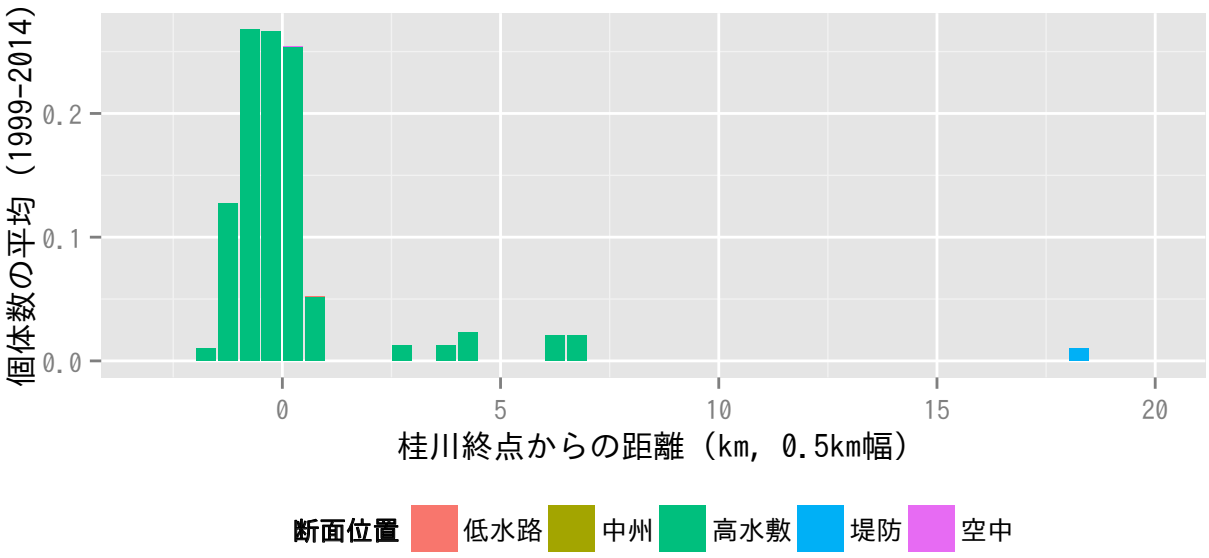
オオジュリン


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年

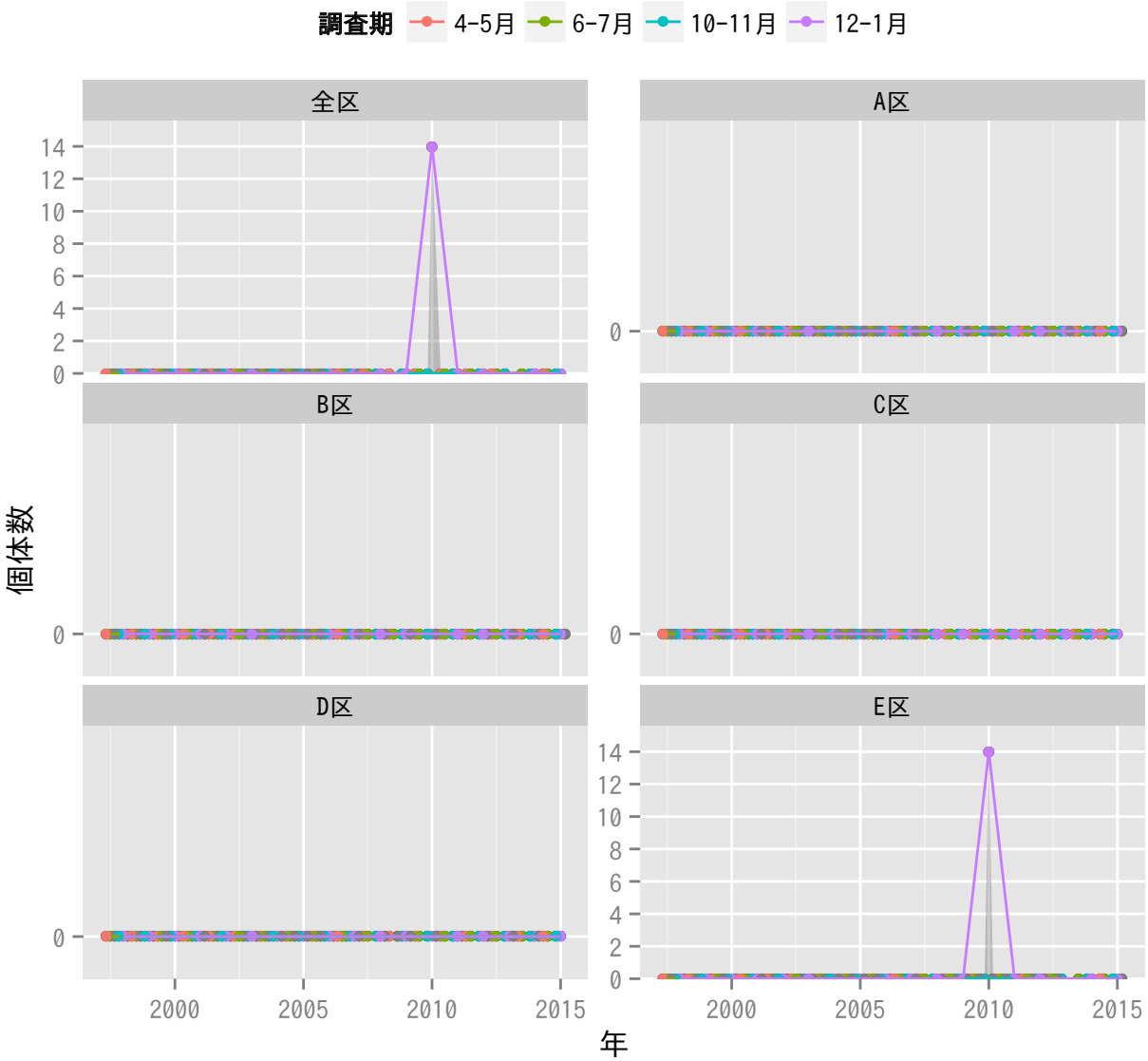

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

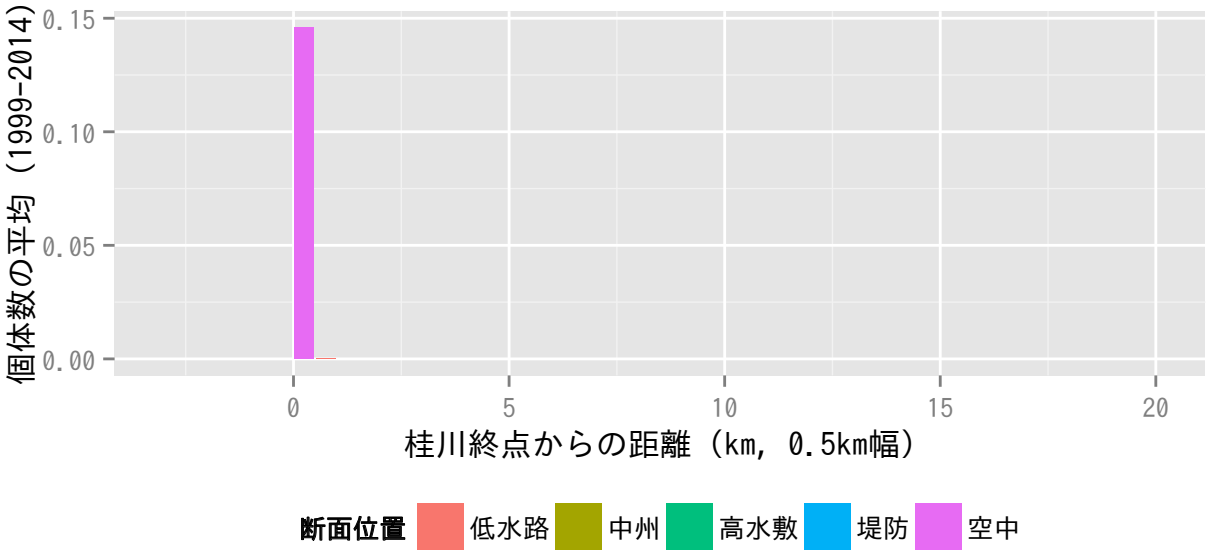
コジュケイ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015

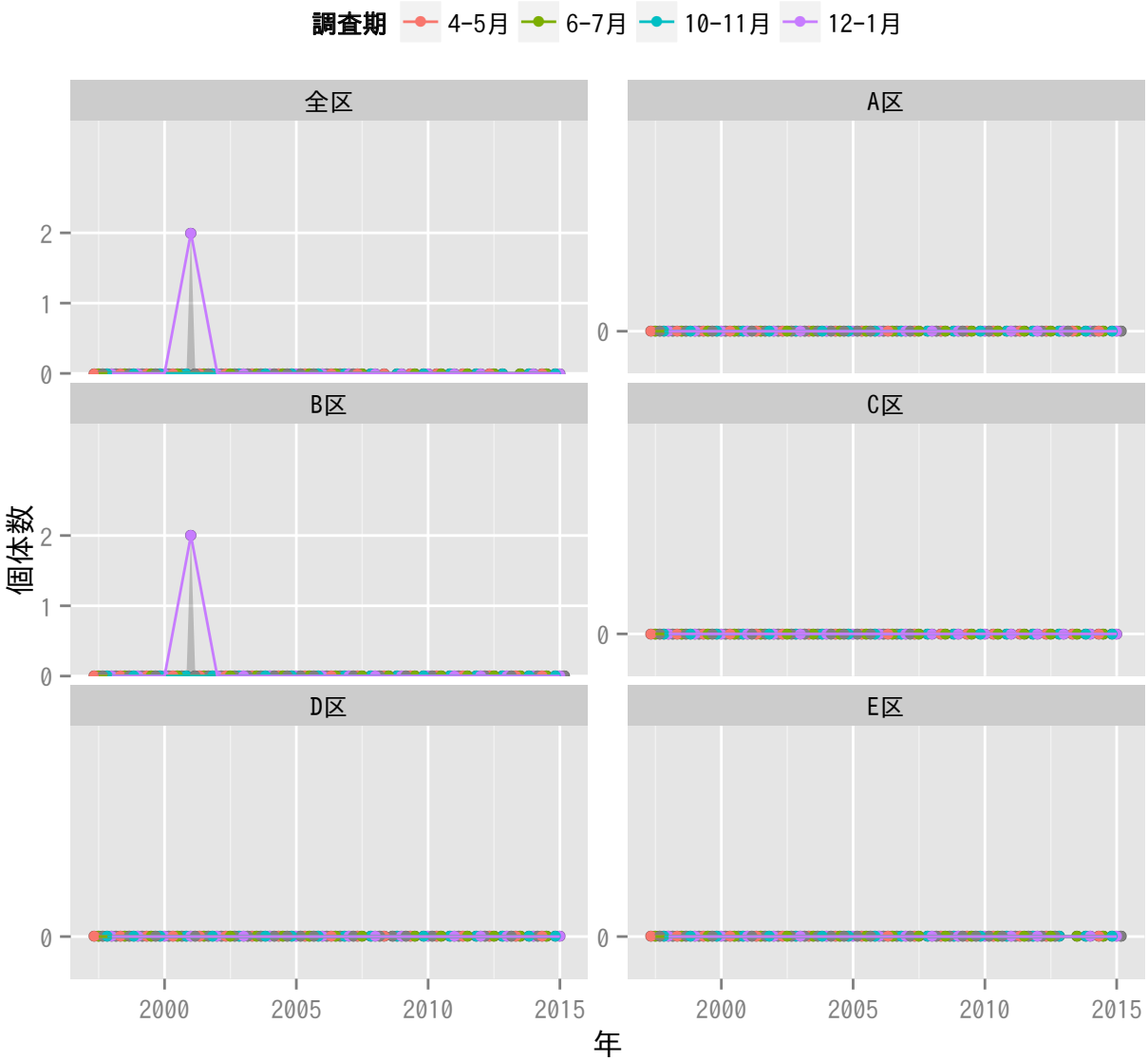

個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

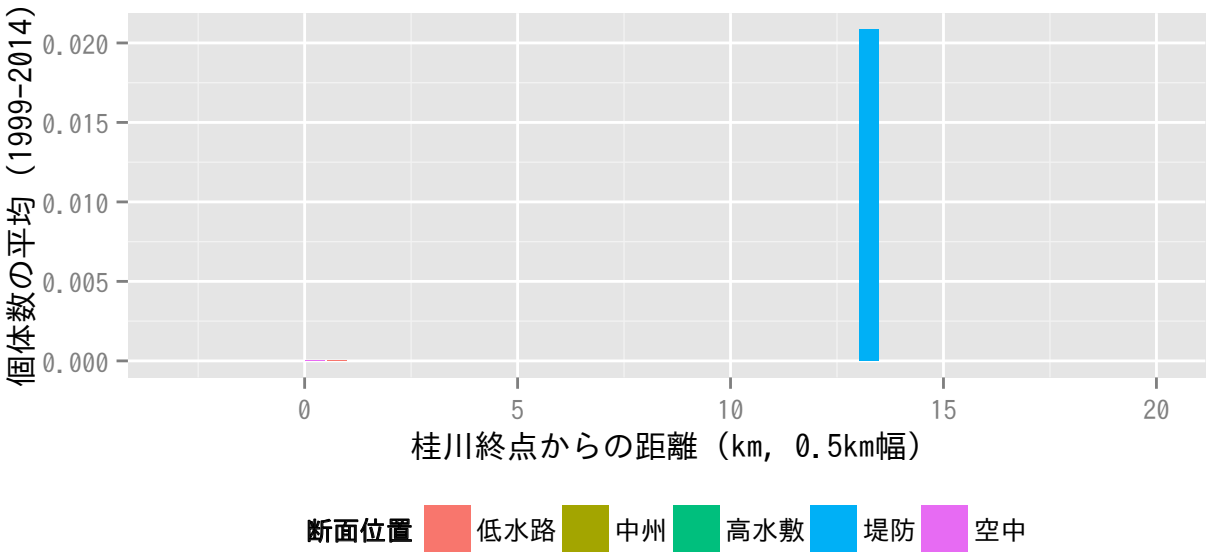
カワラバト


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
2
4
6
8
10
12
14
2000
2005
2010
2015

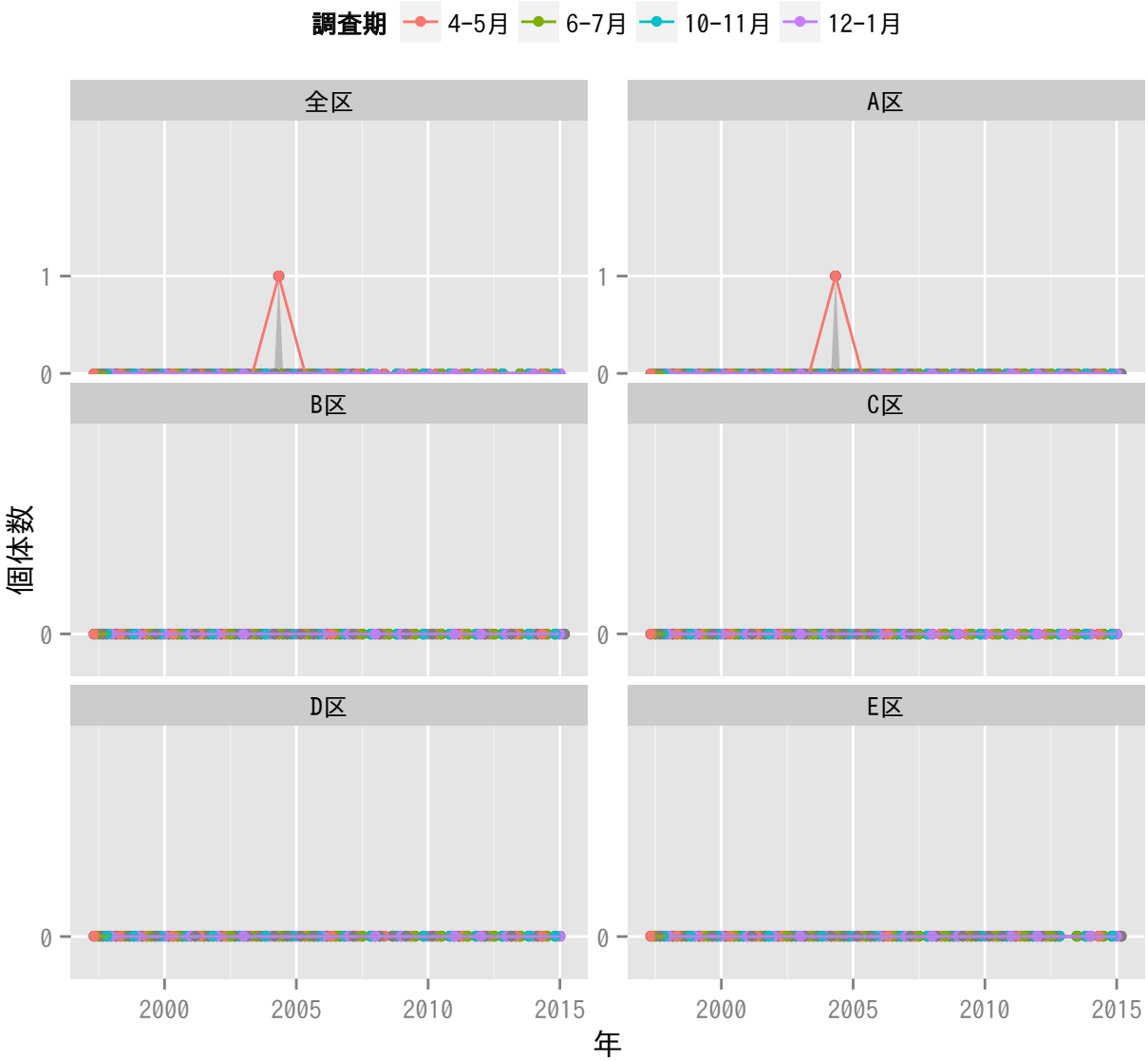

個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.05
0.10
0.15
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

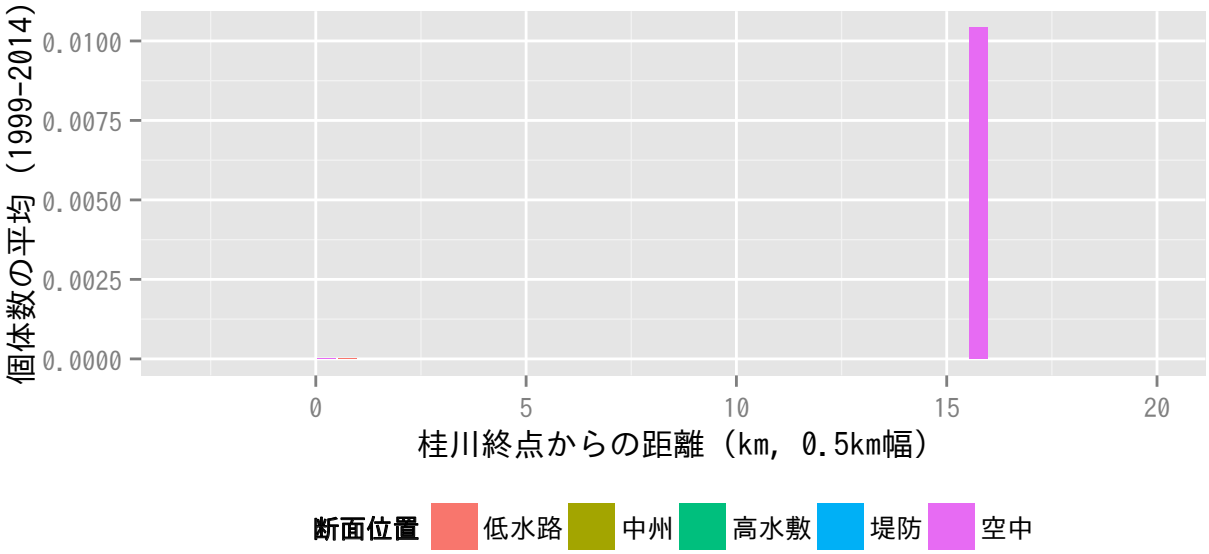
セキセイインコ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
2
1
0
2000
2005
2010
2015
年

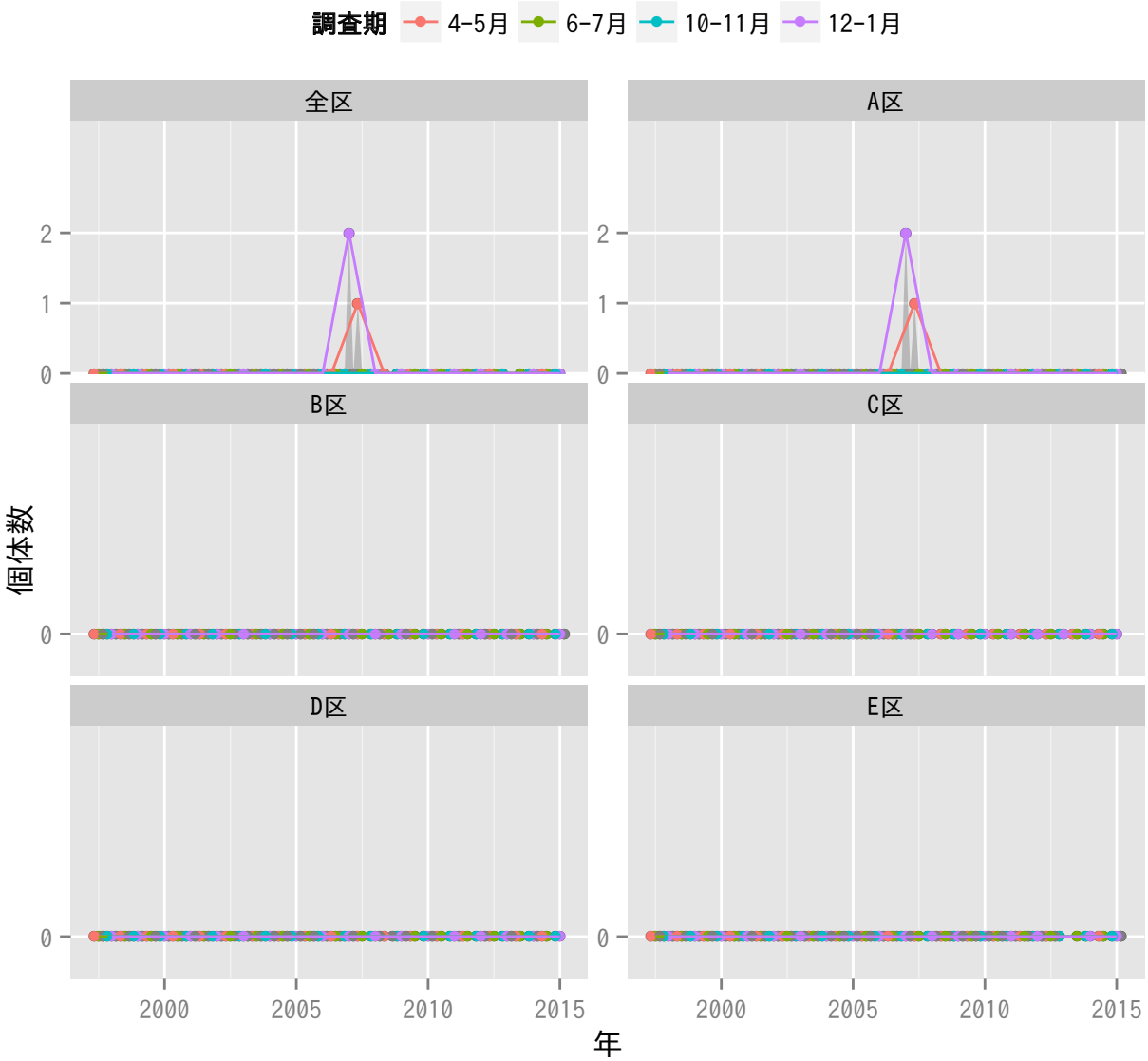

個体数の平均（1999-2014）
0.020
0.015
0.010
0.005
0.000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

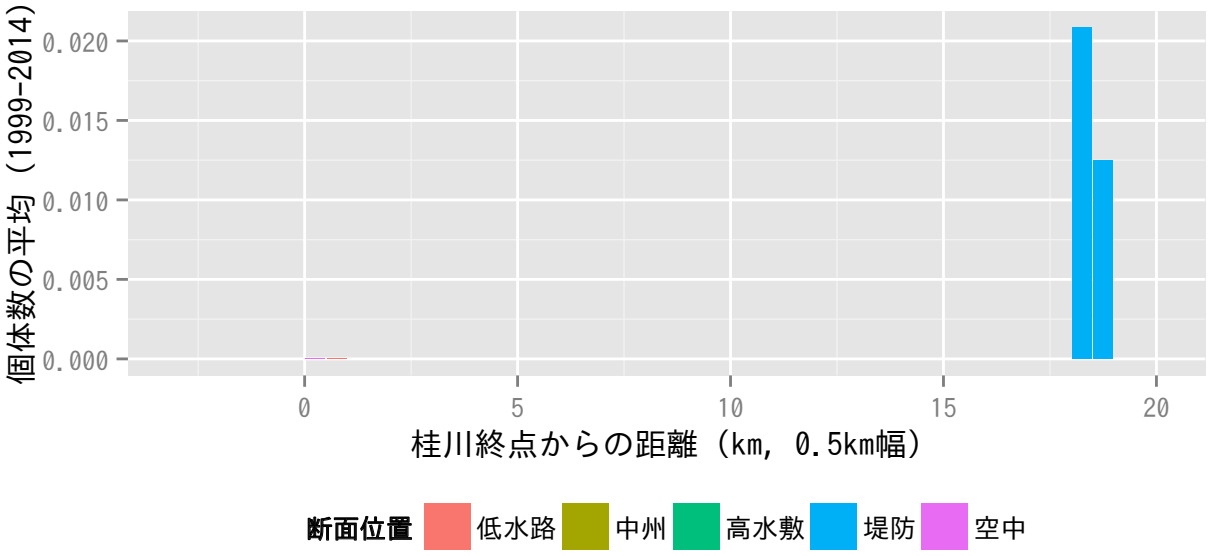
ワカケホンセイインコ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
1
0
2000
2005
2010
2015
年

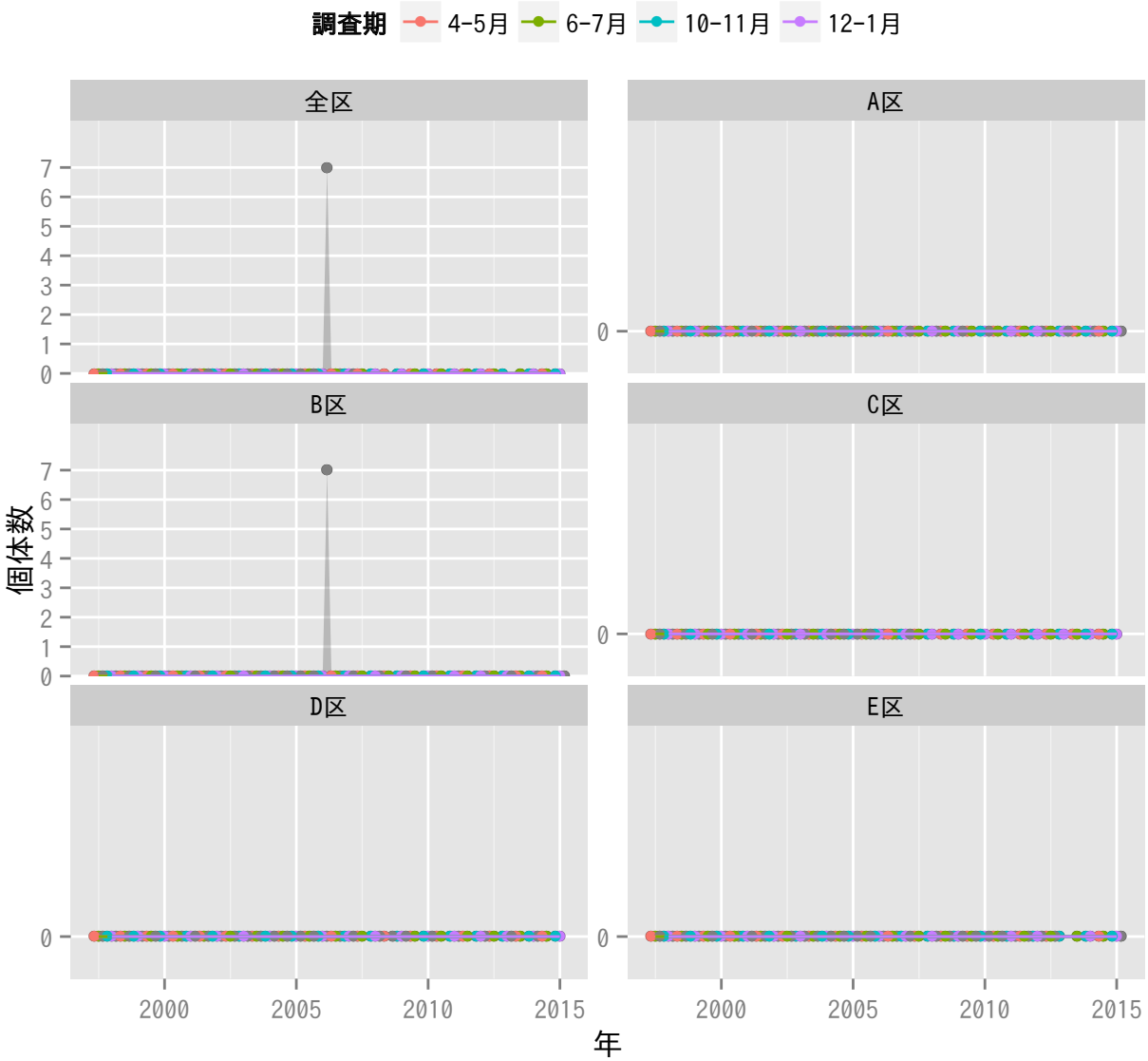

個体数の平均（1999-2014）
0.0100
0.0075
0.0050
0.0025
0.0000
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

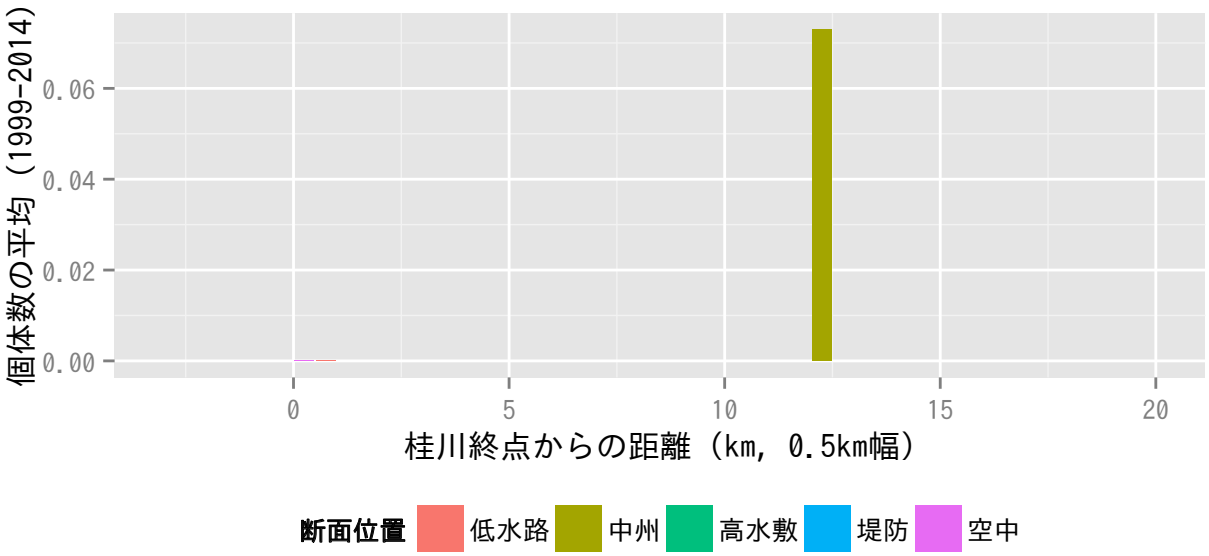
ソウシチョウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
0
1
2
2000
2005
2010
2015
年

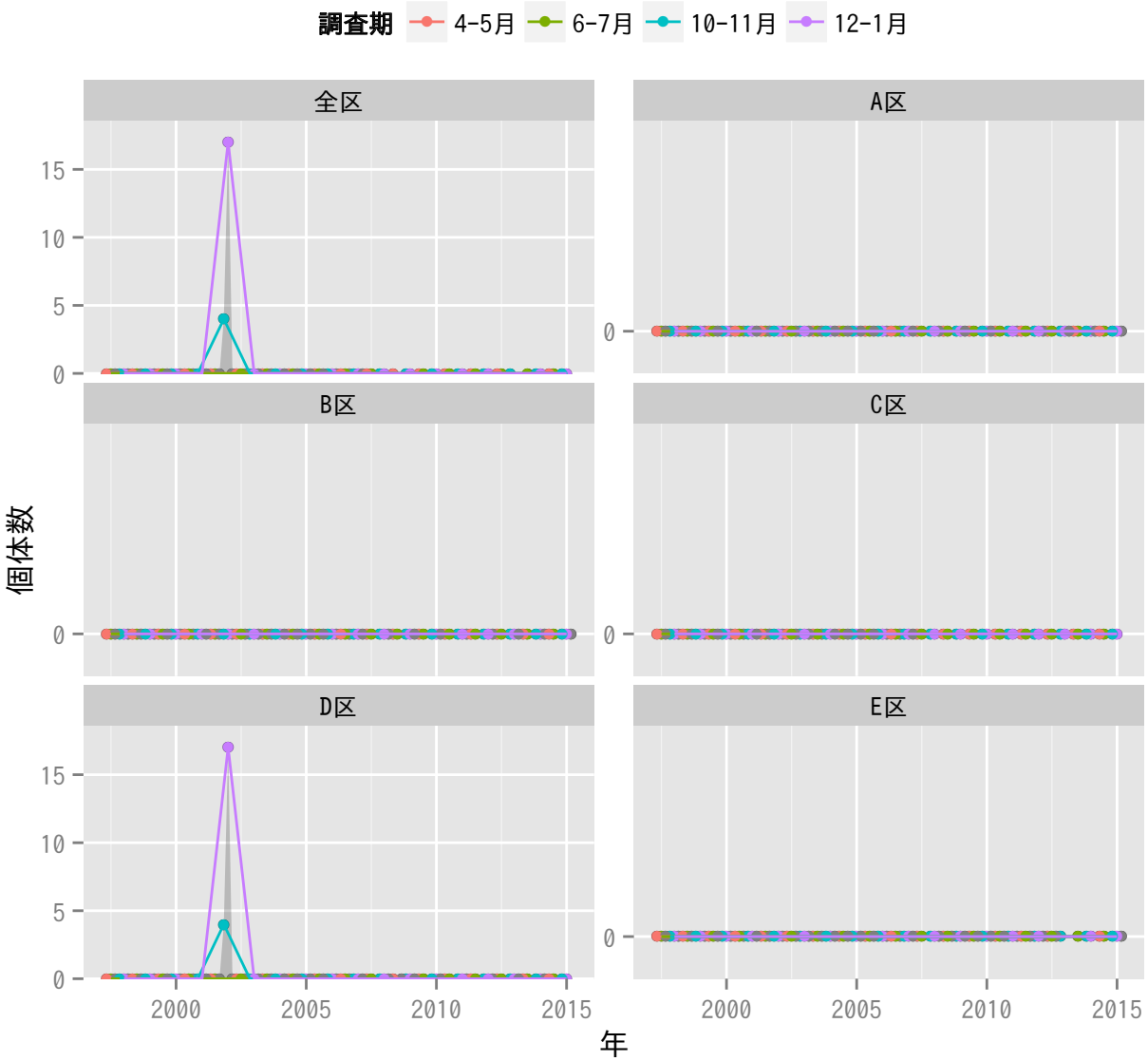

個体数の平均（1999-2014）
0.000
0.005
0.010
0.015
0.020
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

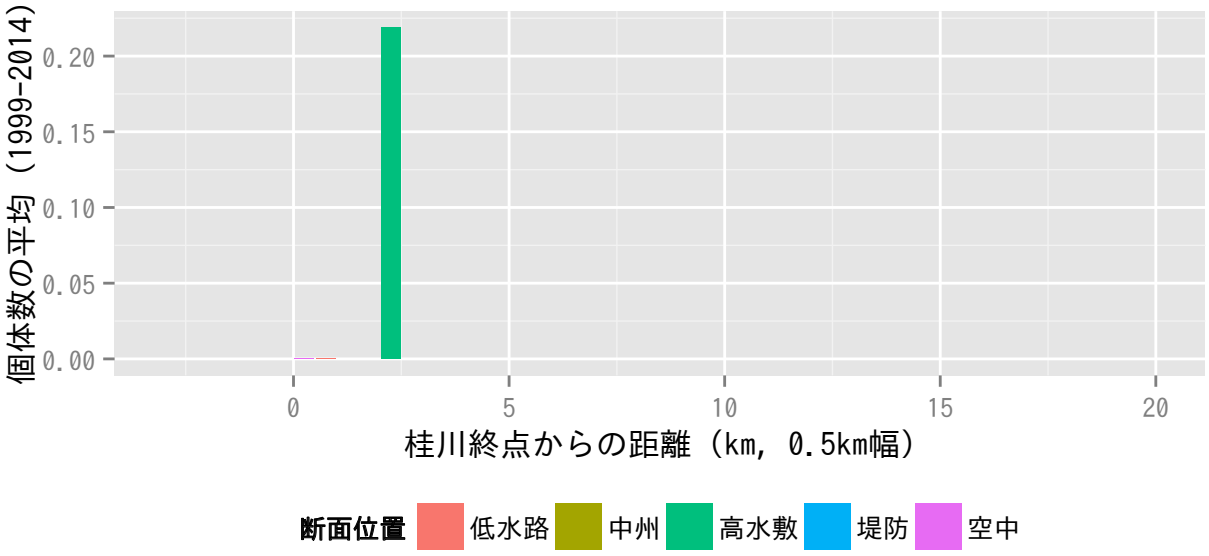
ハッカチョウ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
2000
2005
2010
2015


個体数の平均（1999-2014）
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中

ベニスズメ


調査期
4-5月
6-7月
10-11月
12-1月
全区
A区
B区
C区
D区
E区
個体数
年
0
5
10
15
2000
2005
2010
2015


個体数の平均（1999-2014）
0.00
0.05
0.10
0.15
0.20
0
5
10
15
20
桂川終点からの距離（km, 0.5km幅）
断面位置
低水路
中州
高水敷
堤防
空中